岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第627集

八反町・古城林遺跡発掘調査報告書

2014

岩手県県南広域振興局農政部農村整備室
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第627集

八反町（はったんちょう）・古城林（こじょうはやし）遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業古城２期地区関連遺跡発掘調査

２０１４

岩手県県南広域振興局農政部農村整備室
（公財）岩手県文化振興事業団

八反町・古城林遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業古城２期地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤事業古城２期地区に関連して、平成23年度と平成24年度の述べ二年間にわたり発掘調査が実施された奥州市前沢区古城に所在する八反町遺跡、古城林遺跡の調査成果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代から近世に亘る遺構、遺物が発見されました。特に古代から中世において、本地域史解明の一助となる貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力を賜りました県南広域振興局農政部農村整備室、奥州市教育委員会を始めとする関係各位に衷心よりの謝意を表します。

平成26年３月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長　　池　田　克　典

例　　言

1　本書は、岩手県奥州市前沢区古城字新山前150番地ほかに所在する八反町遺跡と、古城字林後126番地ほかに所在する古城林遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2　発掘調査は、「経営体育成基盤整備事業古城２期地区」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会生涯学習文化課と岩手県県南広域振興局農政部農村整備室との協議を経て、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

　なお、費用負担は岩手県教育委員会が、農家負担分を岩手県県南広域振興局農村整備室に補助している。

3　岩手県遺跡登録台帳番号と遺跡略号は以下のとおりである。

　八反町遺跡　遺跡番号・・・NE46－0365／遺跡略号・・・HTC−11・12

　古城林遺跡　遺跡番号・・・NE36－2379／遺跡略号・・・KJH－11・12

4　野外調査の期間、調査面積、担当者は以下の通りである。

＜八反町遺跡＞

　平成23年４月25日～平成23年12月２日　499㎡　星　雅之

　平成24年４月９日～平成24年５月18日　470㎡　星　雅之

＜古城林遺跡＞

　平成23年４月25日～平成23年12月２日　14,558㎡　星　雅之･杉沢昭太郎･丸山直美･丸山浩治･藤本玲子・髙橋麻依子・佐藤あゆみ

　平成24年４月９日～平成24年７月31日　5,293㎡　星　雅之･村木　敬･藤本玲子･佐藤奈津季

5　室内整理期間、担当者は以下の通りである。

＜八反町遺跡＞

　平成23年12月１日～平成23年12月28日　星　雅之

　平成24年12月１日～平成25年３月31日　星　雅之

＜古城林遺跡＞

　平成23年11月１日～平成24年３月31日　星　雅之・丸山直美・藤本玲子・髙橋麻依子

　平成24年12月１日～平成25年３月31日　星　雅之・村木　敬・藤本玲子

6　調査に付随する業務委託は以下の機関・個人に委託した。

　基準点設置：興国設計株式会社

　空中写真：㈱東邦航空

　石器・石製品の石材鑑定：花崗岩研究会

　炭化樹種同定：岩手県木炭協会

　金属製品の保存処理：岩手県立博物館

　火山灰分析：弘前大学大学院理工学研究科

　放射性炭素年代測定：㈱加速器分析研究所

　トイレ遺構分析：㈱古環境研究所

　黒曜石産地同定：明治大学文化財研究施設運営委員ほか

7　本報告書の執筆は星、杉沢、村木、髙橋、藤本が行い、星、藤本が編集した。

8　土層の色調は、『標準土色帳』（農林水産省農林技術会議局監修）に準拠した。

9　調査および室内整理に際しては次の方々に御指導・御協力を賜った（敬称略）。
及川真紀、佐藤良和、石崎高臣、千葉正彦、菅　常久、羽柴直人、藤原秀樹、永嶋　豊、
井上雅孝、丸山浩治、奥州市教育委員会

10　これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、発掘調査概報などで公表しているが、本書と記載事項が異なる場合はすべて本書が優先する。

11　発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡　　例

1　本書における遺構図の凡例は、以下のとおりである。

⑴	方　　位	遺構図・地形図の方位は国土座標に基づく座標北を示す。 方位記号のないものは、本書の天を北とする。
⑵	土　　層	基本土層はローマ数字、遺構内の堆積土は算用数字とアルファベット小文字を組み合わせて表記した。
⑶	標　　高	海抜標高を示す。
⑷	縮　　尺	各挿図中に縮小率を示した。できる限り三角スケールで計測できる定型縮尺とした。
⑸	破　　線	遺構平面図では、短破線「---」は推定線・抉り込み線を表している。それ以外の破線は、各挿図中に示した。
⑹	スクリーントーン	焼土や火山灰など、使用したスクリーントーンは各挿図中に示した。
⑺	そ の 他	重複する遺構の新旧関係については、原則的に挿図の主となる遺構よりも所属時期の新しい遺構の上端のみを表現した。ただし、重複関係が複雑な場合はこの限りではなく、適宜両者を表現して文章中で説明する。

2　本書における遺物実測図の用例は、以下のとおりである。

⑴	縮　　尺	縮小率は遺物の大きさと性格により適宜決定し、スケールの右に示した。
⑵	遺物番号	遺跡毎に通し番号を付した。
⑶	法　　量	遺物の法量については、観察表に表記した。推定値は（　）、残存値は＜　＞内に示した。
⑷	土師器の調整痕	土師器の調整痕について、記号的に図化・明示した。例としては、1・2の内面などがミガキ、12などがヨコナデ、50の外面などがケズリ・内面がナデ、54の内面がハケメである。

3　本書で使用した略号は、奈良国立文化財研究所などで採用している遺構略号を使用した。
竪穴住居跡→SI、掘立柱建物跡→SB、柱穴列→SA、堀・溝跡→SD、井戸跡→SE、土坑類→SK、陥し穴→S KT、性格不明遺構→SXである。ただし、円形や楕円形の陥し穴及び土取り穴は、当初SKとしたものが含まれ、さらにSXには竪穴建物跡、竪穴状遺構、墳墓、カマド状遺構、畝間状遺構、不明遺構などが含まれる（※現場で当初採用した遺構略称は変更していない）。ただ、本文への記載順は日本語の遺構表記のまとまりとした。

4　参考・引用文献は執筆者の敬称を省略し、各章末にまとめて収めた。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地・環境 …… 3

1　地理的環境 …… 3

(1) 遺跡の位置 …… 3
(2) 遺跡周辺の地形 …… 3

2　周辺の遺跡 …… 5

Ⅲ　野外調査・室内整理の方法 …… 16

1　野外調査 …… 16

(1) 調査区の呼称 …… 16
(2) 基本層序 …… 16
(3) 調査経過 …… 17
(4) 精査の方法と遺構の記録 …… 17

2　室内整理 …… 17

(1) 遺構図面 …… 17
(2) 遺物 …… 17
(3) 報告書について …… 17
(4) 観察表について …… 18

Ⅳ　検出遺構 …… 19

1　竪穴住居跡 …… 19
2　竪穴建物跡・竪穴状遺構 …… 22
3　掘立柱建物跡 …… 25
4　柱穴列 …… 46
5　柱穴状土坑 …… 47
6　墳墓 …… 47
7　堀跡 …… 48
8　溝跡 …… 49
9　陥し穴 …… 49
10　井戸跡 …… 50
11　土坑 …… 55

12 土 取 り 穴 …… 55
13 カマド状遺構 …… 57
14 畝 間 状 遺 構 …… 58
15 不 明 遺 構 …… 59
16 その他（旧河道） …… 65

Ⅴ 出 土 遺 物 …… 66

1 縄文時代の遺物 …… 66
(1) 縄 文 土 器 …… 66
(2) 縄 文 石 器 …… 66
2 古代～近世の遺物 …… 66
(1) 土 師 器 …… 66
(2) 須 恵 器 …… 67
(3) 灰 釉 陶 器 …… 67
(4) か わ ら け …… 67
(5) 陶 磁 器 類 …… 67
(6) 鉄 製 品 …… 68
(7) その他（土製品・石製品・動物遺存体） …… 68

Ⅵ 自然科学分析 …… 314

1 古城林遺跡出土火山灰について …… 315
2 古城林遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定） …… 318
3 古城林遺跡におけるトイレ遺構分析 …… 324
4 古城林遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定 …… 336
5 分析結果に対する調査担当者のコメント …… 352

Ⅶ 総 括 …… 354

1 時期毎の概要 …… 354
(1) 縄 文 時 代 …… 354
(2) 古 代 …… 356
(3) 12 世 紀 …… 356
(4) 中 世 …… 357
(5) 近 世 …… 357
(6) 時 期 不 明 …… 357
2 古城林遺跡調査⑩区の遺構変遷について …… 357
3 ま と め …… 359

報告書抄録 …… 508

図版目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　遺跡周辺の標高と水系 …… 4
第３図　周辺の遺跡 …… 6
第４図　調査区位置図 …… 129
第５図　遺構配置図 …… 130
第６図　①区遺構配置図 …… 131
第７図　②・⑰区遺構配置図 …… 132
第８図　③区遺構配置図 …… 133
第９図　⑤・⑥区遺構配置図 …… 134
第10図　⑦・㉔区遺構配置図 …… 135
第11図　⑦区遺構配置図 …… 136
第12図　㉔区遺構配置図北部 …… 137
第13図　㉔区遺構配置図南部 …… 138
第14図　⑧区遺構配置図 …… 139
第15図　⑨・㉑・㉒区遺構配置図 …… 140
第16図　⑨・㉑区遺構配置図西部 …… 141
第17図　⑨・㉑・㉒区遺構配置図東部 …… 142
第18図　⑩・㉑・㉓区遺構配置図 …… 143
第19図　⑩・㉑区遺構配置図北部 …… 144
第20図　⑩・㉓区遺構配置図南部 …… 145
第21図　⑪区遺構配置図 …… 146
第22図　⑫・⑯区遺構配置図 …… 147
第23図　⑭区遺構配置図 …… 148
第24図　⑭区遺構配置図(1) …… 149
第25図　⑭区遺構配置図(2) …… 150
第26図　⑱・⑲区遺構配置図 …… 151
第27図　⑳区遺構配置図 …… 152
第28図　SI01竪穴住居跡 …… 153
第29図　SI02・07竪穴住居跡 …… 154
第30図　SI04竪穴住居跡 …… 155
第31図　SI05・06竪穴住居跡 …… 156
第32図　SX01・02竪穴状遺構 …… 157
第33図　SX10竪穴建物跡・15竪穴状遺構 …… 158
第34図　SX16竪穴建物跡・24不明遺構 …… 159
第35図　SA01・02柱穴列跡 …… 160
第36図　SA03・04柱穴列跡 …… 161
第37図　SB01掘立柱建物跡 …… 162
第38図　SB03掘立柱建物跡 …… 163
第39図　SB04掘立柱建物跡 …… 164
第40図　SB05掘立柱建物跡 …… 165
第41図　SB06掘立柱建物跡 …… 166
第42図　SB07掘立柱建物跡 …… 167
第43図　SB08掘立柱建物跡 …… 168
第44図　SB09掘立柱建物跡 …… 169
第45図　SB10・16掘立柱建物跡 …… 170
第46図　SB11掘立柱建物跡 …… 171
第47図　SB12掘立柱建物跡 …… 172
第48図　SB13掘立柱建物跡 …… 173
第49図　SB14掘立柱建物跡 …… 174
第50図　SB15掘立柱建物跡 …… 175
第51図　SB17掘立柱建物跡 …… 176
第52図　SB18掘立柱建物跡 …… 177
第53図　SB19掘立柱建物跡 …… 178
第54図　SB20掘立柱建物跡 …… 179
第55図　SB21掘立柱建物跡 …… 180
第56図　SB22掘立柱建物跡 …… 181
第57図　SB24掘立柱建物跡 …… 182
第58図　SB26掘立柱建物跡 …… 183
第59図　SB27掘立柱建物跡 …… 184
第60図　SB28掘立柱建物跡 …… 185
第61図　SB29掘立柱建物跡 …… 186
第62図　SB30掘立柱建物跡 …… 187
第63図　SB33掘立柱建物跡 …… 188
第64図　SB34掘立柱建物跡 …… 189
第65図　SB35掘立柱建物跡 …… 190
第66図　SB36掘立柱建物跡 …… 191
第67図　SB37掘立柱建物跡 …… 192
第68図　SB38掘立柱建物跡 …… 193
第69図　SB40掘立柱建物跡 …… 194
第70図　SB41掘立柱建物跡 …… 195
第71図　SB42掘立柱建物跡 …… 196
第72図　SB45掘立柱建物跡 …… 197
第73図　SB46掘立柱建物跡 …… 198
第74図　SB47掘立柱建物跡 …… 199
第75図　SB48掘立柱建物跡 …… 200
第76図　SB49掘立柱建物跡 …… 201
第77図　SB50掘立柱建物跡 …… 202
第78図　SB51掘立柱建物跡 …… 203
第79図　SB52掘立柱建物跡 …… 204
第80図　SB53掘立柱建物跡 …… 205
第81図　SB54掘立柱建物跡 …… 206
第82図　SB55・61掘立柱建物跡 …… 207

第83図　SB56掘立柱建物跡 …… 208
第84図　SB57掘立柱建物跡 …… 209
第85図　SB58掘立柱建物跡 …… 210
第86図　SB59掘立柱建物跡 …… 211
第87図　SB60掘立柱建物跡 …… 212
第88図　SB62掘立柱建物跡 …… 213
第89図　SB63掘立柱建物跡 …… 214
第90図　SB64掘立柱建物跡 …… 215
第91図　SB65掘立柱建物跡 …… 216
第92図　SB66掘立柱建物跡 …… 217
第93図　SB67掘立柱建物跡 …… 218
第94図　SB68掘立柱建物跡 …… 219
第95図　SB69掘立柱建物跡 …… 220
第96図　SB70掘立柱建物跡 …… 221
第97図　SB71掘立柱建物跡 …… 222
第98図　SB72掘立柱建物跡 …… 223
第99図　SB73掘立柱建物跡 …… 224
第100図　SB74掘立柱建物跡 …… 225
第101図　SB75掘立柱建物跡 …… 226
第102図　SX06墳墓(1) …… 227
第103図　SX06墳墓(2) …… 228
第104図　SD26堀跡(1) …… 229
第105図　SD26堀跡(2) …… 230
第106図　SD01～03溝跡 …… 231
第107図　SD04～08・10・12溝跡 …… 232
第108図　SD09溝跡 …… 233
第109図　SD11・13～15溝跡 …… 234
第110図　SD16～18溝跡 …… 235
第111図　SD19・20・23～25溝跡 …… 236
第112図　SD27・29溝跡 …… 237
第113図　SD28・33溝跡 …… 238
第114図　SD30・31溝跡 …… 239
第115図　SD32・34・36・37溝跡 …… 240
第116図　SD35・38溝跡 …… 241
第117図　SD39～42溝跡 …… 242
第118図　SD43・44・47～49溝跡 …… 243
第119図　SD50・51溝跡 …… 244
第120図　SD52～55溝跡 …… 245
第121図　SD64堀跡・SD56～60・64・65・89溝跡 …… 246
第122図　SD61～63・66・67溝跡 …… 247
第123図　SD68～72溝跡 …… 248
第124図　SD81～84溝跡 …… 249
第125図　SD85～87溝跡 …… 250
第126図　SD88・90・91溝跡 …… 251
第127図　SD92・95溝跡 …… 252
第128図　SD93・94溝跡 …… 253
第129図　SD96・97・102～105溝跡 …… 254
第130図　SD98・100・101溝跡 …… 255
第131図　SD106・108・115溝跡 …… 256
第132図　SD109溝跡 …… 257
第133図　SD110・112溝跡 …… 258
第134図　SD114・119・120溝跡 …… 259
第135図　SD116・118溝跡 …… 260
第136図　SD121・122・131溝跡 …… 261
第137図　SD132～134・136溝跡 …… 262
第138図　SD135溝跡 …… 263
第139図　SD137～139溝跡 …… 264
第140図　SD140～142・144溝跡 …… 265
第141図　SD143・145溝跡 …… 266
第142図　SK35・36・39～45陥し穴 …… 267
第143図　SK46～48・61～63・66～69陥し穴・SK65土坑 …… 268
第144図　SK71・72・75・76・79・80陥し穴 …… 269
第145図　SK82～88陥し穴 …… 270
第146図　SK51・92・98・100陥し穴 …… 271
第147図　SKT01～04陥し穴 …… 272
第148図　SK90・91・101・SKT05陥し穴 …… 273
第149図　SE01・03～05井戸跡 …… 274
第150図　SE02・11井戸跡 …… 275
第151図　SE06～10井戸跡 …… 276
第152図　SK01～08土坑 …… 277
第153図　SK11～19土坑 …… 278
第154図　SK20～28土坑 …… 279
第155図　SK29～31・33・34・37・38・49・50土坑 …… 280
第156図　SK52～54・56～59・70・73土坑 …… 281
第157図　SK74・81・94・95土坑 …… 282
第158図　SK93・96・97・99土坑 …… 283
第159図　SK102～106・121～124土坑 …… 284
第160図　SK125・126・129～131・133・134土坑 …… 285
第161図　SK153・160～162・180土坑 …… 286
第162図　SK163～167・169～171土坑 …… 287
第163図　SK172～179・181土坑 …… 288
第164図　SK182～191土坑 …… 289
第165図　SK192・193・195・196・198・211土坑 …… 290
第166図　SX08・09・11・28土取り穴 …… 291
第167図　SK77土取り穴・SX03～05・07・12・13

不明遺構 …… 292
第168図　SX14・29 ～ 32不明遺構・SX17カマド状遺構 …… 293
第169図　SX18・22畝間状遺構 …… 294
第170図　SX19～21不明遺構 …… 295
第171図　SX25・27不明遺構 …… 296
第172～187図　遺物図版 …… 297～312
第188図　⑩区陥し穴分布図 …… 361
第189図　掘立柱建物跡模式図(1) …… 362
第190図　掘立柱建物跡模式図(2) …… 363
第191図　掘立柱建物跡模式図(3) …… 364
第192図　⑩区掘立柱建物跡全体図 …… 365
第193図　⑩区掘立柱建物跡変遷図 …… 366

写真図版目次

写真図版１　遺跡全景 …… 369
写真図版２　遺跡全景・基本層序 …… 370
写真図版３　調査前の現況 …… 371
写真図版４　SX01・02竪穴建物跡＜八反町＞ …… 372
写真図版５　SD01・03溝跡、SK01土坑＜八反町＞ …… 373
写真図版６　SI01竪穴住居跡（１） …… 374
写真図版７　SI01竪穴住居跡（２）、SI02竪穴住居跡（１） …… 375
写真図版８　SI02竪穴住居跡（２） …… 376
写真図版９　SX10竪穴建物跡 …… 377
写真図版10　SX15竪穴状遺構 …… 378
写真図版11　SX16竪穴建物跡 …… 379
写真図版12　SB01～03掘立柱建物跡（１） …… 380
写真図版13　SB01～03掘立柱建物跡（２） …… 381
写真図版14　SB04～08掘立柱建物跡 …… 382
写真図版15　SB09～13掘立柱建物跡 …… 383
写真図版16　SB14・15掘立柱建物跡 …… 384
写真図版17　SB17・18掘立柱建物跡 …… 385
写真図版18　SB16・19・20・33掘立柱建物跡 …… 386
写真図版19　SB21掘立柱建物跡 …… 387
写真図版20　SB21～24掘立柱建物跡 …… 388
写真図版21　SB25～29・31掘立柱建物跡 …… 389
写真図版22　SA01～04柱穴列 …… 390
写真図版23　SX06墳墓（１） …… 391
写真図版24　SX06墳墓（２） …… 392
写真図版25　SX06墳墓（３） …… 393
写真図版26　SX06墳墓（４） …… 394
写真図版27　SD26堀跡（１） …… 395
写真図版28　SD26堀跡（２） …… 396
写真図版29　SD26（３）・64堀跡 …… 397
写真図版30　SD02・04～06溝跡 …… 398
写真図版31　SD07～09溝跡 …… 399
写真図版32　SD10～13溝跡 …… 400
写真図版33　SD14～16溝跡 …… 401
写真図版34　SD17・18・25溝跡 …… 402
写真図版35　SD19・20・23・24溝跡 …… 403
写真図版36　SD27・28・33溝跡 …… 404
写真図版37　SD28・33溝跡 …… 405
写真図版38　SD29・30溝跡 …… 406
写真図版39　SD31・32・34・35溝跡 …… 407
写真図版40　SD36～39溝跡 …… 408
写真図版41　SD40～43溝跡 …… 409
写真図版42　SD44・47・48溝跡 …… 410
写真図版43　SD49～50溝跡 …… 411
写真図版44　SD51～54溝跡 …… 412
写真図版45　SD55～60・65・89溝跡 …… 413
写真図版46　SD61～63・66・67溝跡 …… 414
写真図版47　SD68～72溝跡 …… 415
写真図版48　SD81～84溝跡 …… 416
写真図版49　SD85～88・90溝跡 …… 417
写真図版50　SK35・36・39・40・42陥し穴 …… 418
写真図版51　SK43～47陥し穴 …… 419
写真図版52　SK48・51・61・62陥し穴 …… 420
写真図版53　SK63・66～68陥し穴 …… 421
写真図版54　SK69・71・72・75陥し穴 …… 422
写真図版55　SK76・79・82・83陥し穴 …… 423
写真図版56　SK84～88陥し穴 …… 424
写真図版57　SK90・91・98・100陥し穴 …… 425
写真図版58　SKT01～04陥し穴 …… 426
写真図版59　SE01～03井戸跡 …… 427
写真図版60　SE04～07井戸跡 …… 428
写真図版61　SK02～05土坑 …… 429
写真図版62　SK06～08・11土坑 …… 430
写真図版63　SK12～15土坑 …… 431
写真図版64　SK17・18・21～23土坑 …… 432
写真図版65　SK24～28土坑 …… 433
写真図版66　SK29～31・33・34土坑 …… 434
写真図版67　SK37・38・41・49土坑 …… 435
写真図版68　SK50・52～54土坑 …… 436

写真図版69　SK56～59土坑 …… 437
写真図版70　SK65・70・73・74土坑 …… 438
写真図版71　SK81・93～96土坑 …… 439
写真図版72　SK97・99・102～104土坑 …… 440
写真図版73　SK105・106・121・122土坑 …… 441
写真図版74　SK123～126・129土坑 …… 442
写真図版75　SK129～131・133・134土坑 …… 443
写真図版76　SK139・144・145・151・153土坑 … 444
写真図版77　SK154～156・160・161土坑 …… 445
写真図版78　SK77・SX08土取り穴 …… 446
写真図版79　SX09・11土取り穴 …… 447
写真図版80　SX17カマド状遺構、SX18・22畝間状遺構 …… 448
写真図版81　SX03～05・07不明遺構 …… 449
写真図版82　SX11～13不明遺構 …… 450
写真図版83　SX14・19・20・25不明遺構 …… 451
写真図版84　SX21不明遺構 …… 452
写真図版85　作業風景 …… 453
写真図版86　作業風景・普及事業 …… 454
写真図版87　平成24年度空撮 …… 455
写真図版88　SI04竪穴住居跡（１） …… 456
写真図版89　SI04竪穴住居跡（２） …… 457
写真図版90　SI05竪穴住居跡 …… 458
写真図版91　SI06竪穴住居跡 …… 459
写真図版92　SI07竪穴住居跡 …… 460
写真図版93　②・⑳区検出掘立柱建物跡 …… 461
写真図版94　⑳区調査区全景 …… 462
写真図版95　㉔区掘立柱建物跡群 …… 463
写真図版96　SD91～93溝跡 …… 464
写真図版97　SD93～95溝跡 …… 465
写真図版98　SD95～98・100・101溝跡 …… 466
写真図版99　SD100～103溝跡 …… 467
写真図版100　SD103～107溝跡 …… 468
写真図版101　SD108～112溝跡 …… 469
写真図版102　SD112～114溝跡 …… 470
写真図版103　SD114～116溝跡 …… 471
写真図版104　SD117～120溝跡 …… 472
写真図版105　SD121・122・131～134溝跡 …… 473
写真図版106　SD135～137溝跡 …… 474
写真図版107　SD138～142溝跡 …… 475
写真図版108　SD143～145溝跡・SKT05陥し穴 … 476
写真図版109　SE08～11井戸跡 …… 477
写真図版110　SK162～165土坑 …… 478
写真図版111　SK166・167・169・170土坑 …… 479
写真図版112　SK171～174土坑 …… 480
写真図版113　SK175～178土坑 …… 481
写真図版114　SK178～181土坑 …… 482
写真図版115　SK182～185土坑 …… 483
写真図版116　SK186～189土坑 …… 484
写真図版117　SK190～193土坑 …… 485
写真図版118　SK195・196・198・211土坑 …… 486
写真図版119　㉔区近世～近代墓（１） …… 487
写真図版120　㉔区近世～近代墓（２） …… 488
写真図版121　㉔区近世～近代墓（３） …… 489
写真図版122　㉔区近世～近代墓（４） …… 490
写真図版123　SX24・27不明遺構 …… 491
写真図版124　SX27不明遺構・SX28土取り穴 …… 492
写真図版125　SX29～32不明遺構 …… 493
写真図版126　旧河道 …… 494
写真図版127　作業風景 …… 495
写真図版128　現地説明会 …… 496
写真図版129　遺物（１） …… 497
写真図版130　遺物（２） …… 498
写真図版131　遺物（３） …… 499
写真図版132　遺物（４） …… 500
写真図版133　遺物（５） …… 501
写真図版134　遺物（６） …… 502
写真図版135　遺物（７） …… 503
写真図版136　遺物（８） …… 504
写真図版137　遺物（９） …… 505
写真図版138　遺物（10） …… 506
写真図版139　遺物（11） …… 507

表　目　次

第１表　周辺の遺跡 …… 9
第２表　遺構観察表（１）　竪穴住居 …… 68
第３表　遺構観察表（２）　竪穴建物・竪穴状 …… 68
第４表　遺構観察表（３）　掘立柱建物跡 …… 69
第５表　遺構観察表（４）　柱穴列 …… 71
第６表　遺構観察表（５）　墳墓 …… 71
第７表　遺構観察表（６）　堀跡 …… 71
第８表　遺構観察表（７）　溝跡 …… 72
第９表　遺構観察表（８）　陥し穴 …… 75
第10表　遺構観察表（９）　井戸跡 …… 76
第11表　遺構観察表（10）　土坑 …… 76
第12表　遺構観察表（11）　土取り穴 …… 79

第13表　遺構観察表（12）　カマド状遺構 …… 79
第14表　遺構観察表（13）　畝間状遺構 …… 79
第15表　遺構観察表（14）　不明遺構 …… 80
第16表　遺構観察表（15）　柱穴表 …… 81
第17表　出土遺物観察表（１）　土器 …… 121
第18表　出土遺物観察表（２）　陶磁器 …… 127
第19表　出土遺物観察表（３）　鉄製品・土製品
・獣骨 …… 127
第20表　出土遺物観察表（４）　石器 …… 128

Ⅰ　調査に至る経過

八反町遺跡・古城林遺跡は、「経営体育成基盤整備事業古城２期地区」のほ場整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本地区は奥州市前沢区中心部より北東部に位置し、現況は、小区画・不整形な水田で、かつ幅員狭小な農道となっていることから、作業効率が悪く、また用排水兼用の土側溝水路のため、用水不足や排水不良となっており、維持管理に支障を来しているところである。

このため、本事業地区においては、大区画ほ場整備を実施することで、農作業の効率化、生産コストの削減、生産性の向上等を図り、農地集積による安定した経営体および担い手農家の育成を目的として、事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、一部が平成22年度に発掘調査済となっているため、今回は残りの部分に係る調査である。

今回の調査範囲については、県南広域振興局農政部農村整備室から平成22年10月26日付け県南広農整第122-8号及び平成23年10月６日付け県南広農整第126-3号、平成24年１月５日付け県南広農整第126-7号、県南広農整第126-9号にてそれぞれ「経営体育成基盤整備事業古城２期地区における埋蔵文化財試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成22年11月８日から平成24年３月１日に渡って試掘調査を実施し、工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成22年12月21日付け教生第1149号及び平成23年12月26日付け教生第1112号、平成24年２月６日付け教生第1288号、平成24年３月28日付け教生第1557号でそれぞれ「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答を行った。

この回答を受けて当農村整備室は、平成23年１月25日付け県南広農整第122-17号、平成23年10月31日付け県南広農整第122-17号、同日付け県南広農整第122-18号、同日付け県南広農整第122-19号、平成24年２月15日付け県南広農整第126-8号でそれぞれ「埋蔵文化財試掘調査結果による工法協議について」により、盛土工法による保存箇所と、発掘調査による記録保存箇所について協議を行った。

その結果を踏まえ当農村整備室は、岩手県教育委員会の調整を受けて、平成23年４月１日から平成24年度までの２ヶ年をかけて公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（県南広域振興局農政部農村整備室）

141°
40°
39°
扒爪岳
雪谷川
稲庭岳
瀬月内川
西岳
七時雨山
八幡平
安比川
馬淵川
安家川
小本川
岩手山
姫神山
雫石川
閉伊川
早池峰山
北上川
豊沢川
和賀川
人首川
五葉山
焼石岳
伊手川
盛川
胆沢川
気仙川
栗駒山
磐井川
0
40km
古城林遺跡
八反町遺跡
高根
北町
栗生沢
高代寺
明後沢
川原
小林
横道
板子沢
丑沢
岩堰
谷地
姥屋敷
籠林
上野
高殿
合野
学堂
内屋敷
山岸場
大曲
小林
松葉
内城
吹張
五輪
橋本
本宿
鶴城
下柳
二渡
白石沢
裏新田
宮沢
外ケ沢
四屋

第１図　遺跡位置図

Ⅱ　遺跡の立地・環境

1　地 理 的 環 境

（1）遺 跡 の 位 置

八反町遺跡、古城林遺跡は岩手県奥州市前沢区古城に所在する。奥州市は、岩手県の南部に位置し、北に胆沢郡金ヶ崎町、北上市、花巻市、東に一関市、遠野市、気仙郡住田町、南に西磐井郡平泉町及び一関市、西は秋田県雄勝群東成瀬村に接する。平成18年２月20日に水沢市、江刺市、胆沢町、前沢町、衣川村による５市町村の合併によりできた市である。東西約57㎞、南北約37㎞、総面積993.35㎢、人口約13万人を有する。

八反町・古城林遺跡の位置は、 JR陸中折居駅から南東約1.3㎞にあり、胆沢扇状地内の水沢段丘高位面に立地する。標高は32～34ｍで、調査前の現況は水田、畑地、牧草地、農道である。

国土地理院発行の２万５千分の１地形図「前沢」ＮＪ-54－14－14－２の図幅に含まれ、八反町遺跡・古城林遺跡は北緯39度８分０秒、東経141度５分０秒付近に位置する。

本調査は、経営体育成基盤事業に伴い支線道路、小排水路、田区などを対象とし行われた。調査地の標高は、両遺跡とも32～35ｍである。調査前の現況は、水田を中心に、農道、水路、畑地であった。

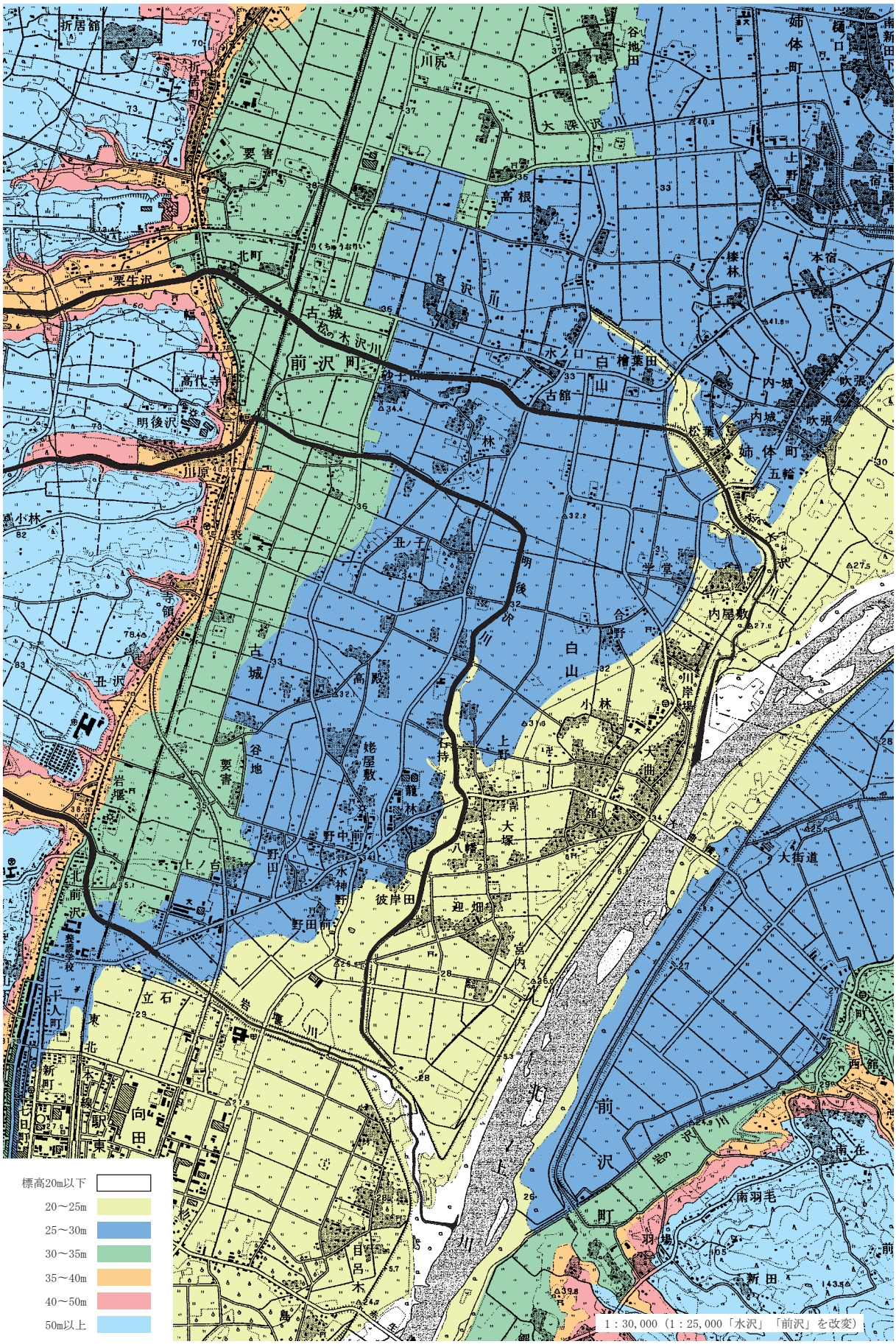
（2）遺跡周辺の地形

胆沢扇状地は、高位・中位・低位に段丘区分されているが、その中の低位段丘である水沢段丘は高位面と低位面の２つに細分される。今回調査を行った八反町遺跡と古城林遺跡は、水沢段丘高位面に立地する。水沢段丘高位面は、北上川、胆沢川、北股川の各河川に沿うように分布するが、特に扇状地の扇端部に広く分布している。これは北上川の氾濫により扇端部が徐々に削り取られたためである。補足として、東北地方建設局岩手工事事務所発行の『北上川代六輯』（東北地方建設局岩手工事事務所：1977）をみると、縄文時代より北上川の流路は東から西に変遷したと捉えられている。

さて、第２図には遺跡周辺における５ｍ単位の標高と水系を示したが、本遺跡及びその周辺は水田造成などによる人工改変が進み、さらに明後沢川や松の木沢川を始めこの付近の河道は、その流路を改変や埋められているものが顕著にみられる。それに伴い、元々の微地形は掴み難い状況にある。遺跡周辺の現在の標高は25～30ｍの範囲にあり、基本的には西から東へ緩く標高を減じる。所見的であるが、今回の調査からは洪水などに起因する堆積層が認められなかったことから、遺跡の載る地形は、少なくても古代以来洪水などの自然災害から影響を受けがたい場（微妙に回避される）にあると考えられる。

参考文献

東北地方建設局岩手工事事務所　1977　『北上川代六輯』
大上和良・吉田充　1984　「北上川中流域，胆沢扇状地における火山灰層序」『岩手大学工学部研究報告』第37巻
中川久夫・岩井淳一・大池昭三・小野寺信吾・森由紀子・木下尚・竹内貞子・石田琢二　1963　「北上川中流沿岸の第四系および地形」『地質雑誌』１巻69号



第２図　遺跡周辺の標高と水系

2　周 辺 の 遺 跡

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課で作成した「岩手の遺跡」（平成23年３月31日）によると、奥州市には1,109箇所の遺跡が登録されており、その内、前沢区（旧前沢町）には150箇所の遺跡が登録されている。

さて、第３図及び第１・２表は、両遺跡のある前沢区古城地区を中心に南北約12㎞、東西約８㎞に所在する286遺跡を収録し、その分布を示した。ここでは、前沢区に所在する遺跡について時代毎に概要を述べるが、調査歴のある遺跡を中心に取り上げることとする。

＜旧石器時代＞前沢区内にある旧石器時代の遺跡は、生母宿、長根、鵜ノ木、水尻、中畑城跡の５箇所ある。水尻遺跡の報告によれば、水尻遺跡や鵜ノ木遺跡出土の石器群は、特徴などからＡＴテフラ降下以前（※ＡＴテフラそのものは未発見）と推定されている（岩手埋文587集）。また、中畑城跡から出土している石器群についても、同様にＡＴテフラ降下以前の可能性がある（岩手埋文610集）。これら旧石器を出土している遺跡は、水沢段丘高位面に立地することから、水沢段丘高位面の形成された年代は少なくてもＡＴテフラ降下期よりも古いことが想定されよう。併せて、今後の調査如何ではＡＴテフラが検出される可能性も示唆される。

＜縄文時代＞縄文時代の遺跡は多く、今回作成した図幅中にも71箇所が所在する。代表的なものとしては、草創期と推定される有舌尖頭器が出土した六本松遺跡（前沢町教委分布報告書Ⅱ：1999）、大木６式期を中心とする田高Ⅱ遺跡、大木６式～大木10式期の小林繁長遺跡（※大木７ａ～８ｂ式と大木９～10式では主体占地が相違する）、後期初頭門前式土器が纏まって出土した西舘跡、後～晩期の川岸場Ⅰ・Ⅱ遺跡や白山上野遺跡が挙げられよう。傾向としては、前期や中期は竪穴住居跡などが検出され集落跡が存在したことを示す事例が認められる。対して、後期や晩期は集落跡が認め難く、多量の遺物を包含する遺物包含層の検出に留まる事例が多い。

＜弥生時代＞弥生時代の遺跡としては、高日向・古城方八丁・川岸場Ⅰ・Ⅱ・小林繁長・白鳥舘・荒谷・鵜ノ木遺跡などが挙げられる。前～中葉を中心に資料が得られ、川岸場Ⅰ・Ⅱ遺跡や小林繁長遺跡のように、縄文晩期からの継続として捉えられる遺跡が認められることから、遺跡の消長性などの観点からも興味深い地域と云える。鵜ノ木遺跡から、県内でも事例が希少な後期の竪穴住居跡が得られている。

＜古代＞図幅中には170箇所あり、広く分布している。そのほとんどが平安時代の遺跡で、奈良時代は少ない。その内前沢区の主な遺跡としては、明後沢・道上・四反田Ⅰ・Ⅱ・水尻・古城方八丁・彼岸田遺跡を挙げておきたい。胆沢扇状地全体的にみても、古代の遺跡が密に認められる。

＜奥州藤原氏時代＞奥州藤原氏と同時期である12世紀の遺構・遺物が発見される遺跡は、近年急増中である。筆者の知見では、白鳥館、水尻、明後沢、寺の上経塚、道上、大桜、八反町、中畑城跡、古城方八町、五輪経塚、田高Ⅱ、安久沢東、彼岸田、川前、白山上野などの遺跡が挙げられる。本地域が平泉との関係が深かったことが窺え、今後の平泉研究に寄与することが期待される。

＜中世＞中世城館は、六日入城、中畑城、前沢城、粟ヶ島、東舘、西舘、上木、川前などが挙げられる。松の木沢川を挟んで本遺跡の向かいには、六日入城跡が所在するが、詳細な年代などは定かではない。また、本遺跡から南に約500ｍの距離にある中畑城からは、県内でも事例が希少な障子堀が検出されている。

＜近世＞徳沢一里塚をはじめ、本遺跡から約２㎞内には安久沢東、高殿Ⅱ、合野、川岸場Ⅱ遺跡がある。川岸場Ⅱ遺跡は、近世伊達藩の御蔵場跡・通称「大室屋敷」と呼ばれる環濠屋敷跡であり、近世

第３図　周辺の遺跡

陶磁器が多く出土している。隣接する川岸場Ⅰ遺跡からも、「六日入御本石御蔵」跡から前沢方面へと向かう道路遺構が確認されている。安久沢東遺跡では、近世墓や古銭が出土している。

参考文献（※周辺の遺跡表に文献番号を記載した遺跡は、左側の文献番号と合致する）

文献１　岩手県奥州市　2010　『国指定史跡　白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第８次調査―』
文献２　岩手県教育委員会　1965　『明後沢古瓦出土遺跡』
文献３　岩手県教育委員会　1980　『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅴ－』岩手県文化財調査報告書第54集
文献４　岩手県教育委員会　1981　『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅵ－（一関地区　東裏遺跡）』岩手県文化財調査報告書第55集
文献５　岩手県教育委員会　1993　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成４年度）』岩手県文化財調査報告書第93集
文献６　岩手県教育委員会　1994　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成５年度）』岩手県文化財調査報告書第95集
文献７　岩手県教育委員会　1995　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成６年度）』岩手県文化財調査報告書第97集
文献８　岩手県教育委員会　1996　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成７年度）』岩手県文化財調査報告書第98集
文献９　岩手県教育委員会　1997　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成８年度）』岩手県文化財調査報告書第99集
文献10　岩手県教育委員会　1998　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成９年度）』岩手県文化財調査報告書第103集
文献11　岩手県教育委員会　1999　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成10年度）』岩手県文化財調査報告書第105集
文献12　岩手県教育委員会　2001　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成12年度）』岩手県文化財調査報告書第112集
文献13　岩手県教育委員会　2002　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成13年度）』岩手県文化財調査報告書第114集
文献14　岩手県教育委員会　2003　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成14年度）』岩手県文化財調査報告書第116集
文献15　岩手県教育委員会　2005　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成15年度）』岩手県文化財調査報告書第119集
文献16　岩手県教育委員会　2006　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成16年度）』岩手県文化財調査報告書第120集
文献17　岩手県教育委員会　2007　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成17年度）』岩手県文化財調査報告書第124集
文献18　岩手県教育委員会　2008　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成18年度）』岩手県文化財調査報告書第126集
文献19　岩手県教育委員会　2009　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成19年度）』岩手県文化財調査報告書第128集
文献20　岩手県教育委員会　2011　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成21年度）』岩手県文化財調査報告書第132集
文献44　岩手県立博物館　2003　『岩手県立博物館研究報告』第20号
文献45　岩手県立博物館　2006　『岩手県立博物館調査研究報告書第21冊『衣川流域における古代末期遺跡調査報告書－長者ヶ原廃寺跡第３次・第５次・第７次発掘調査報告書－』ほか
文献67　衣川村教育委員会　1974　『衣川渡船場跡－岩手県胆沢郡衣川村所在－』
文献46　奥州市教育委員会　2006　『川前遺跡第２次発掘調査報告書』奥州市文化財調査報告書
文献47　(財)奥州市文化振興財団奥州市埋蔵文化財調査センター　2009　『安久沢東遺跡』奥州市埋文財調査報告書第７集
文献51　(財)水沢市文化振興財団埋蔵文化財調査センター　2006　『林前Ⅱ遺跡・寺ノ西遺跡』水沢市埋文調査報告書第19集
文献74　財団法人奥州市文化振興団奥州市埋蔵文化財センター　2011　『合野遺跡・白山上野遺跡』岩手県奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集
文献52　高橋佐知子　1994　「岩手県胆沢郡前沢町六本松遺跡出土の局部磨製石斧と有舌尖頭器」『岩手考古学』第６号　岩手考古学会
文献53　日本考古学協会　1974　日本考古学年報25　上野団地遺跡
文献68　平泉町教育委員会　1994　『平泉遺跡群発掘調査報告書』平泉町文化財調査報告書第40集
文献69　平泉町教育委員会　1999　『平泉遺跡群発掘調査報告書』平泉町文化財調査報告書第73集
文献70　平泉町教育委員会　2005　『平泉遺跡群発掘調査報告書』平泉町文化財調査報告書第92集
文献54　法政大学文学部考古学研究室　1996　『法政大学所蔵伊藤鉄夫・陽夫考古学資料目録Ⅱ－伊藤鉄夫収集資料編－』
文献55　前沢町教育委員会　1998　『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』
文献56　前沢町教育委員会　1999　『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』
文献57　前沢町教育委員会　2000　『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』
文献58　前沢町教育委員会　1998　『町内遺跡発掘調査報告書』
文献59　前沢町教育委員会　1999　『町内遺跡発掘調査報告書』　前沢町文化財調査報告書第７集

文献60　前沢町教育委員会　1999　『西舘遺跡発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第９集
文献61　前沢町教育委員会　2000　『生母宿遺跡発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第12集
文献62　前沢町教育委員会　2002　『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書、大室鈴木家墓地調査報告書』前沢町文化財調査報告書第13集
文献63　前沢町教育委員会　2003　『東舘（赤生津城）遺跡発掘調査報告書・五合田遺跡発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第14集
文献64　前沢町教育委員会　2004　『田高Ⅱ遺跡第２次発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第15集
文献65　前沢町教育委員会　2005　『古城上野遺跡第１次発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第17集
文献66　前沢町教育委員会　2005　『明後沢遺跡群第７・10・15次発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第18集
文献43　前沢町教育委員会　2005　『白鳥舘遺跡発掘調査報告書―第２次・第３次調査―』前沢町文化財調査報告書第19集
文献48　水沢市教育委員会　1997　『水沢遺跡群範囲確認調査－平成８年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第31
文献49　水沢市教育委員会　1999　『水沢遺跡群範囲確認調査－平成10年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第33
文献50　水沢市教育委員会　2001　岩手県水沢市文化財報告書第35『水沢遺跡群範囲確認調査－平成12年度発掘調査概報－』

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発刊報告書　※岩手埋文と略称

文献21　岩手埋文　1991　『新山権現社遺跡発掘調査報告書』第188集
文献22　岩手埋文　1996　『龍ヶ馬場遺跡発掘調査報告書』第243集
文献23　岩手埋文　1997　『瀬原Ⅰ遺跡第２・３次発掘調査報告書』第257集
文献24　岩手埋文　1998　『北野Ⅳ遺跡発掘調査報告書』第272集
文献25　岩手埋文　1999　『北野Ⅳ遺跡発掘調査報告書』第298集
文献26　岩手埋文　2000　『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書』第317集
文献27　岩手埋文　2000　『西舘跡発掘調査報告書』第329集
文献28　岩手埋文　2000　『水ノ口遺跡発掘調査報告書』第330集
文献29　岩手埋文　2002　『漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡発掘調査報告書』第381集
文献30　岩手埋文　2002　『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度）』第397集
文献31　岩手埋文　2003　『明後沢遺跡群発掘調査報告書』第411集
文献32　岩手埋文　2004　『寺ノ上遺跡発掘調査報告書』第445集
文献33　岩手埋文　2005　『平成16年度発掘調査報告書』第469集
文献34　岩手埋文　2006　『平成17年度発掘調査報告書』第490集
文献35　岩手埋文　2008　『瀬原Ⅰ遺跡第５次・瀬原Ⅱ遺跡第９次発掘調査報告書』第507集
文献36　岩手埋文　2008　『平成19年度発掘調査報告書』第524集
文献37　岩手埋文　2009　『鵜ノ木遺跡発掘調査報告書』第527集
文献38　岩手埋文　2009　『道上遺跡第３次・合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書』第544集
文献39　岩手埋文　2010　『合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書』第570集
文献40　岩手埋文　2010　『平成21年度発掘調査報告書』第571集
文献41　岩手埋文　2011　『水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡発掘調査報告書』第587集
文献42　岩手埋文　2011　『平成22年度発掘調査報告書』第588集
文献71　岩手埋文　2013　『八反町遺跡・中畑城跡発掘調査報告書』第610集
文献72　岩手埋文　2013　『安久沢東遺跡発掘調査報告書』第611集
文献73　岩手埋文　2013　『彼岸田遺跡発掘調査報告書』第612集

第１表　周辺の遺跡

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
1	見分森	生産跡	平安	土師器、須恵器	水沢区字見分森		
2	龍ケ馬場	※集落跡	※縄文・古代	土師器、須恵器、※炭窯跡・縄文土器（晩期）	水沢区字龍ケ馬場	8,22	
3	須江	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
4	雷神Ⅰ	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
5	真城ガ丘団地	集落跡	平安	※竪穴住居跡、土師器、須恵器、砥石、炭化米、栗、クルミの実	水沢区真城	53	上野団地遺跡？
6	堤尻舘（堤尻沢舘）	城館跡	中世	平場	水沢区真城		
7	大壇	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
8	北野Ⅳ	集落跡	縄文※平安	※陥し穴、縄文土器、※石器、土師器、須恵器	水沢区真城	8,24,25	
9	高田	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
10	金田Ⅰ	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
11	北野Ⅲ	※散布地	※縄文・弥生・平安	※縄文土器、弥生土器、土師器	水沢区真城	50	
12	林前Ⅰ	集落跡	平安※中世	土師器、須恵器	水沢区真城	48	
13	林前舘	城館跡	中世	単郭	水沢区姉体町		
14	林前南舘	城館跡	縄文・平安	土師器、石器	水沢区姉体町		
15	林前Ⅱ	※集落跡	※縄文、平安※中近世	※陥し穴、倉庫群、石器、土師器、須恵器、瓦質土器・中国・国産陶磁器	水沢区姉体町	51	
16	向田	散布地	平安	土師器	水沢区真城		
17	水の口	散布地	平安	須恵器	水沢区姉体町		
18	北野Ⅰ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
19	大内田前	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
20	水ノ口前東	散布地	平安	土師器	水沢区姉体町		
21	北野Ⅱ	集落跡	平安	土師器、須恵器、陶器	水沢区真城		
22	寺西南	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区佐倉河		
23	姉体車堂Ⅱ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
24	姉体車堂Ⅲ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
25	元天神前Ⅰ	散布地	縄文	石鏃	水沢区姉体町		
26	上島	散布地	平安		水沢区姉体町		
27	元天神前Ⅱ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
28	北白山Ⅰ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
29	浜田	散布地	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器	水沢区真城		
30	馬籠舘	城館跡	中世	石の枕、仏壇用祭祀器	水沢区真城		
31	中林Ａ	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
32	中林下	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
33	中林Ｂ	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
34	堤ケ沢Ⅱ	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
35	中林Ⅲ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
36	堤尻下	散布地	中世	陶器	水沢区真城		
37	上林下	散布地	古代	土師器	水沢区真城		
38	真城落合	散布地	平安	土師器	水沢区真城		
39	土手北	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
40	堤ケ沢Ⅰ	集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
41	要害	城館跡	中・近世	濠、土塁、単郭	水沢区真城		
42	二ツ渕北	散布地	平安	須恵器	水沢区真城		
43	土手南	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
44	谷地舘	散布地	平安	土師器	水沢区真城		
45	二ツ渕	散布地	平安・中世	土師器、須恵器、陶器	水沢区真城		
46	二ツ渕南	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
47	谷地	散布地・城館跡	中・近世	濠、土塁、単郭、土師器	水沢区真城		

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
48	高根Ⅰ	散布地	古代	土師器、須恵器	水沢区真城		
49	栗林	経塚・屋敷跡	中・近世	一字一石経、環濠屋敷	水沢区真城		
50	舘（中野館）	集落跡	古代・平安・中世	土師器・須恵器・陶器・土塁・複郭・平場	水沢区真城		
51	畑田荒谷	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
52	東谷地	散布地	平安	土師器	水沢区真城		
53	中平	散布地	平安	土師器	水沢区真城		
54	中平東Ⅱ	散布地	縄文	石鏃	水沢区真城		
55	中平西	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
56	中平舘	環濠屋敷集落	中・近世・平安	濠、土塁、単郭、土師器、須恵器	水沢区真城		
57	中平東	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
58	寺ケ前Ⅱ	散布地	平安	土師器	水沢区真城	12	
59	寺ケ前Ⅲ	※集落跡	※平安・中近世？	土師器※須恵器	水沢区真城	12,29	
60	島田Ⅱ	※集落跡	平安	土師器、須恵器	水沢区真城	13,14	
61	島田Ⅲ	散布地	平安	土師器	水沢区真城		
62	寺ケ前Ⅰ	散布地	平安	土師器、※須恵器	水沢区真城	12	
63	島田Ⅰ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区真城		
64	根蕪	散布地・環濠	※縄文・平安	※陥し穴状遺構、土師器、※須恵器	水沢区姉体町	13,14	
65	北白山Ⅱ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
66	沖	散布地	平安	須恵器（平安時代）	水沢区姉体町		
67	北白山Ⅲ	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
68	島田Ⅳ	散布地	平安	土師器、※須恵器	水沢区真城	13,14	
69	樋ノ口	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		
70	小庄	散布地	平安	土師器	水沢区姉体町		
71	下植田	散布地	平安	須恵器、※竪穴住居跡（古代）	水沢区真城	11	
72	迎野Ⅰ	散布地	古代	土師器、須恵器	水沢区真城	10	
73	南下田	散布地	平安	須恵器	水沢区真城		
74	迎野Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器	水沢区真城		
75	高根Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器	水沢区真城		
76	原抜	散布地	平安	土師器	水沢区姉体町		
77	漆林Ⅰ	散布地	縄文？・古代	剥片・土師器	水沢区姉体町		
78	漆林Ⅱ	※狩猟場・集落跡	※縄文・古代	※陥穴状遺構、土師器	水沢区姉体町	29	
79	本宿迎畑	※狩猟場・集落跡	※縄文・平安	※陥し穴状遺構、円形周溝、土師器、須恵器	水沢区姉体町	29	
80	橋本	散布地	弥生	弥生土器	水沢区姉体町		
81	堂田Ⅰ	散布地	古代	土師器・須恵器	水沢区真城		
82	堂田Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器	水沢区真城		
83	迎畑	散布地・舘跡？	平安？	須恵器？（中世陶器？）	水沢区姉体町		
84	内城吹張	散布地	縄文～平安？	縄文土器？・土師器	水沢区姉体町		
85	吹張	散布地	平安	土師器	水沢区姉体町		
86	吹張鞘戸	散布地	平安	須恵器	水沢区姉体町		
87	庚申塚	散布地	平安	土師器	水沢区姉体町		
88	鞘戸	散布地	古代	土師器	水沢区姉体町		
89	五輪	散布地	縄文	縄文土器・フレーク	水沢区姉体町		
90	小谷下	散布地	古代	土師器	水沢区姉体町		
91	折居舘	城館跡	中世		水沢区真城		
92	宿	※集落跡	※平安・近世	※須恵器	水沢区姉体町	49	
93	寺ノ西	※集落跡・狩場	平安・縄文	※陥し穴、縄文土器、石器、土師器、須恵器	水沢区姉体町	51,54	
94	内城野中	散布地	縄文～平安	縄文土器、土師器	水沢区姉体町		
95	上姉体城（舘）	城館跡	中世	空堀、土器、複郭、平場	水沢区姉体町		S49 市史跡指定
96	小水ノ口	散布地	平安	土師器、須恵器	水沢区姉体町		

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
97	森下	散布地	縄文・古代	土師器	胆沢区南都田		
98	南蛸の手	散布地	縄文	縄文土器	胆沢区小山		
99	附野森	散布地	縄文・中世	縄文土器、陶磁器	胆沢区小山		
100	中島	散布地	※縄文中期・後期	縄文土器（前・中期）、石器、装飾具、土師器	胆沢区小山	64	
101	南笹森	散布地	縄文	縄文土器（前期）、石鏃、石匙	胆沢区小山		
102	峠	散布地	縄文	縄文土器	胆沢区小山		
103	小山方八丁館	城館跡	中世・近世	空濠、三郭	胆沢区小山		
104	大畑	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）、石器	胆沢区小山		
105	後大畑	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石器	胆沢区小山		
106	船戸	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石斧、石鏃、石匙	胆沢区小山		
107	油地	散布地	縄文・古代	縄文土器（中期）、石斧、土師器	胆沢区小山		
108	中谷地	散布地	平安	土師器	胆沢区小山		
109	四ツ屋	散布地	平安	土師器	胆沢区小山		
110	壇山	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器	胆沢区小山		末期古墳か（壊滅）
111	鞍骨	散布地	縄文	縄文土器	胆沢区小山		
112	田中	散布地	縄文・古代	縄文土器（前期）、石ベラ、土師器	胆沢区小山		
113	佐布	散布地	縄文	縄文土器	胆沢区小山		
114	大橋	散布地	※中世以降？	※竪穴状遺構、柱穴状ﾋﾟｯﾄ群	胆沢区小山	9	
115	中の森	城館跡	近世	土塁、空濠	胆沢区小山		
116	板子沢	※製鉄関連？	近世	※掘立柱建物跡､酸化鉄の塊､陶磁器片	胆沢区小山	9	
117	小山沢田	散布地	平安	土師器	胆沢区小山		
118	森Ⅱ	散布地	平安	土師器	胆沢区小山		
119	森Ⅰ	散布地	平安	土師器	胆沢区小山		
120	高日向北		縄文？	土坑３基、陥し穴状遺構１基	胆沢区小山	17	
121	北舘	環濠屋敷跡	中世	土師器	前沢区古城	55	
122	北舘東Ⅰ	散布地	古代	土師器	前沢区古城	55	
123	古城外ケ沢	散布地	古代・縄文前期	縄文土器（中期）、土師器、球状石器	前沢区古城	55	
124	鳥子沢	散布地・城館跡	※縄文、平安	※陥し穴､粘土採掘坑､須恵器窯？､瓦	前沢区古城	55,66	明後沢遺跡群
125	明後沢	散布地・城館跡？	平安	※竪穴住居跡、土坑、溝、柱列、土師器、須恵器、墨書土器、胆沢城同范瓦	前沢区古城	2,55,58,66	S38県指定史跡、明後沢遺跡群
126	熊野	集落跡	平安		前沢区古城	55,66	明後沢遺跡群
127	幅	※散布地・集落跡	縄文・平安	※陥し穴・粘土採掘土坑・土器焼成遺構･竪穴住居跡、縄文土器･石篦･掻器･かわらけ・土師器・須恵器・古瓦片	前沢区古城	31,55,58,66	明後沢遺跡群
128	八郎舘	城館跡、※集落跡	平安・中世	緑釉片	前沢区古城	55,66	明後沢遺跡群
129	宗角舘	※集落跡	中世・平安	※粘土採掘土坑、溝、掘立柱建物跡、塀跡、白磁碗、かわらけ	前沢区古城	55,58,66	明後沢遺跡群
130	前堀	散布地	縄文・古代	※陥し穴、溝	前沢区古城	57,58,66	明後沢遺跡群
131	砂子田	散布地	古代	土師器	前沢区古城	55	
132	舘合下	散布地	平安	土師器、須恵器	前沢区古城	55	
133	古城林	狩り場・集落跡	縄文・古代・中世・近世	土師器・須恵器	前沢区古城（一部白山）	55	林Ⅰ遺跡と林Ⅱ遺跡と統合し古城林遺跡に変更
134	水ノ口	集落跡	平安	土師器、須恵器	前沢区白山	28,55	
135	檜葉田	散布地	平安	土師器	前沢区白山	55	
136	六日入	城館跡	中世・古代	堀、濠、土塁	前沢区白山	55	
137	松葉	散布地	平安	土師器	前沢区白山	55	
138	養ヶ森Ｂ	散布地	縄文		前沢区字養ヶ森	56	
139	養ヶ森Ａ	散布地	縄文		前沢区字養ヶ森	56	
140	養ヶ森Ｃ	散布地	縄文		前沢区字養ヶ森	56	
141	養ケ森	集落跡	平安	土師器、須恵器	前沢区養ケ森	56	
142	簾森	散布地	縄文		前沢区字簾森	56	
143	高日向	散布地	弥生・平安		前沢区古城	17,55	

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
144	雷神Ⅱ	散布地	縄文中期	縄文土器（前期）、石器	前沢区古城	55	
145	長者舘	城館跡	中世		前沢区古城	55	
146	九郎舘	城館跡	中世	堀、郭、平場	前沢区古城	13,14,55	
147	寺ノ上	※狩り場・城館跡	※縄文・中世	※縄文土器（晩期）、瓦器、かわらけ、中国産陶器	前沢区古城	14,32,55	
148	寺ノ上経塚	経塚	※平安末	※法華経墨書かわらけ、渥美壺	前沢区古城	44,55	
149	寺領沖	散布地	古代	土師器	前沢区古城	55	
150	中畑城（樫山城）	城館跡	中世	※障子堀、土塁、郭、土塁	前沢区古城	20,42,55	
151	内ノ町	環濠屋敷跡	中世	土師器、須恵器、陶器、砥石	前沢区古城	55	
152	水尻	集落跡	旧石器・縄文・古代	※石器集中部・礫群・竪穴住居状遺構・掘立柱建物跡※台形石器・ナイフ形石器、縄文土器、土師器、須恵器、緑釉陶器	前沢区古城	40,41,55	
153	古城合ノ沢Ⅰ	集落跡？	縄文		前沢区古城	55	
154	古城合ノ沢Ⅱ	散布地	縄文		前沢区古城	55	
155	古城上野	散布地・※集落跡	縄文中期・古代	縄文土器(中期)、土師器、須恵器、石斧、石皿、球状石器	前沢区古城	55,65	
156	要害	散布地・環濠屋敷跡	古代・中世	土師器	前沢区古城	16,55	
157	亀田	環濠屋敷跡	中世	土師器、須恵器	前沢区古城	16,55	
158	古城方八丁	※集落跡	※縄文・弥生・古代	※縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石帯	前沢区古城	20,40,41,55	
159	田高Ⅱ	散布地・環濠跡	縄文前～中期・古代・中世	※縄文土器、石器、土師器、須恵器、かわらけ、陶磁器	前沢区白山	42,55,64	
160	田高Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（中期・晩期）	前沢区白山	55	
161	上ノ原	散布地	縄文	須恵器、土師器、石鏃、石匙	前沢区養ケ森	56	
162	専念寺山窯跡	窯跡	近世		前沢区字山下	56	
163	赤坂Ⅲ	散布地	縄文		前沢区字赤坂	56	
164	上ノ台	環濠屋敷跡	中世	土師器	前沢区古城	55	
165	八幡	散布地	※縄文・平安	※縄文土器（後期）、石器、土師器、須恵器	前沢区白山	20,40,55	
166	安倍舘	城館跡？	古代～中世		前沢区字阿部舘	56	
167	学堂	散布地	平安		前沢区白山	55	
168	合野	狩り場・集落跡	縄文・平安・近世	※陥し穴状遺構、※円形周溝、縄文土器、土師器・須恵器、※陶磁器、石器	前沢区白山	16,18,39,55	
169	内屋敷	散布地※集落跡	※縄文、古代、近世	※縄文土器（晩期）、土師器、須恵器	前沢区白山	15,33,55	
170	川岸場Ⅰ	散布地	縄文晩期・弥生・平安		前沢区白山	55	
171	白山上野	散布地	縄文後期		前沢区白山	17,18,19,55	
172	小林繁長	集落跡	縄文中期・弥生・平安	縄文土器（中期）、※弥生土器、石器、土偶	前沢区白山	17,19,38,39,55	
173	上麻生城（大麻生櫃）	城館跡	中世・古代	縄文土器（後期）、石鏃	前沢区白山	55	
174	大室経塚	一字一石経塚	中世末		前沢区白山	55,62	
175	川岸場Ⅱ	※集落跡・環濠屋敷跡・御蔵場	※縄文晩期・弥生・平安・近世	※縄文土器（晩期）、弥生土器、土師器、須恵器、近世陶磁器	前沢区白山	26,55,62	旧大室遺跡を含む
176	石田Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	前沢区字石田	56,59	
177	六本松	散布地	縄文草創期	石器（※有舌尖頭器、局部磨製石斧）	前沢区字六本松	52,56,59	
178	六本松長者屋敷	城館跡（屋敷跡）	中世・近世	陶磁器	前沢区字六本松	56,59	
179	駒水	散布地	縄文		前沢区字駒水	56	
180	長根	散布地	縄文・旧石器	石鏃	前沢区字長根	56	
181	六本松舘	城館跡	中世		前沢区字六本松	56	
182	合ノ沢Ｂ	散布地	縄文前期		前沢区字合ノ沢	56	
183	永沢東	散布地	縄文	石鏃、石器	前沢区字永沢	56	
184	永沢	散布地	縄文	縄文土器、石鏃、石斧、石篦、石槍	前沢区字永沢	56	
185	徳沢Ⅱ	散布地	縄文		前沢区字徳沢	56	

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
186	赤坂Ⅱ	散布地	平安		前沢区字赤坂	56	
187	陣場	散布地	縄文		前沢区字陣場	56	
188	赤坂Ⅰ	散布地	縄文		前沢区字赤坂	56	
189	粟ヶ島	散布地・環濠屋敷跡	中世・近世		前沢区字新町裏	56	
190	前沢城	城館跡	中世	空堀	前沢区字陣場	56	
191	三沢氏居館跡	城館跡	近世		前沢区字下小路	56	
192	竹沢	集落跡	平安	須恵器	前沢区字竹沢	56	
193	五合田	※近世墓	近世	※銭、木製品、煙管	前沢区字五合田	56,63	
194	谷地	散布地	縄文後期		前沢区字谷地	56	
195	合ノ沢A	散布地	縄文中期・平安・近世	縄文土器（中期）	前沢区字合ノ沢	56	
196	泊ケ崎	散布地	縄文・平安	縄文土器（中期・天王山）、土師器、須恵器	前沢区字泊ヶ崎	3,56	
197	塔ヶ崎	寺院跡？	近世？		前沢区字泊ケ崎ほか	56	
198	目呂木本杉	※集落跡	※平安	土師器	前沢区字本杉	5,6,56	
199	長壇高畑	散布地	平安		前沢区字長壇・高畑	56	
200	道場	散布地	縄文	縄文土器（後期）	前沢区字道場ほか	56	
201	新城Ⅰ	城館跡	縄文・平安・中世	縄文土器、土師器、須恵器	前沢区字新城	56	旧新城遺跡
202	新城Ⅱ	散布地	平安		前沢区字新城	3,56	
203	狐石	散布地	縄文		前沢区字狐石	56	
204	新城Ⅲ	その他の墓	近世		前沢区字新城	56	
205	大桜	集落跡	平安	土師器、須恵器、※かわらけ	前沢区字大桜ほか	6,7,56	
206	南陣場窯跡	窯跡	近代		前沢区字南陣場	56	
207	生母宿	散布地・屋敷跡	旧石器・近世	※ナイフ形石器、石刃、剥片、近世陶磁器	前沢区生母	57,61	
208	西舘	散布地・城館跡	縄文後期・中世	※堀跡、縄文土器（後期）、石器、かわらけ、陶磁器（中国産を含む）、漆器椀	前沢区生母	27,57,60	
209	南在	散布地	縄文	石鏃、縄文土器	前沢区生母	57	
210	羽場舘	城館跡	中世		前沢区生母	57	
211	古舘	城館跡	中世		前沢区生母	57	
212	赤間舘	城館跡？	中世？	石棒	前沢区生母	57	
213	東舘（赤生津城）	※散布地、中世城館､近世墓､屋敷跡	※縄文、中世、近世	縄文土器（後期）､陶磁器､銭､鉄製品､銅製品	前沢区生母	57,63	
214	舞鶴公園	散布地	縄文中期・古代	須恵器・石鏃	前沢区字徳沢	56	
215	徳沢Ⅰ	散布地	縄文		前沢区字徳沢	56	
216	徳沢一里塚	一里塚	近世	塚跡	前沢区字徳沢	3,56	
217	照井舘	城館跡・散布地	縄文前期・平安・中世		前沢区字照井舘	56	
218	南陣場	散布地	縄文早期・前期		前沢区字南陣場	56	
219	衣関	散布地	平安	土師器、須恵器、石鏃、刀剣	前沢区字衣関	56	
220	小沢口	散布地	縄文・平安	縄文土器	前沢区字小沢口ほか	56	
221	白鳥舘	城館跡、※集落跡	縄文･※弥生･平安･中世	※掘立柱建物跡、堀跡、虎口跡、土塁、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、かわらけ、国産陶磁器、中国産陶磁器	前沢区字白鳥舘ほか	1,56,66	H17.7.14 国指定史跡
222	柳沢	散布地	縄文		前沢区生母	57	
223	上水	散布地	縄文後期		前沢区生母	57	
224	箱根	散布地	縄文		前沢区生母	57	旧笹森
225	青木	散布地	縄文後・晩期		前沢区生母	57	
226	田谷	散布地	平安		前沢区生母	57	
227	生母長根Ⅰ	散布地・経塚？	縄文・平安末？		前沢区生母	57	
228	生母長根Ⅱ	経塚？	平安末？		前沢区生母	57	
229	気仙坊塚	その他の塚	近世		前沢区生母	57	

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
230	荒谷	散布地	弥生		前沢区生母	57	
231	二子Ⅰ	散布地	縄文中期		前沢区生母	57	
232	二子Ⅱ	散布地	中世・近世		前沢区生母	57	
233	硬水	散布地	縄文		前沢区生母	57	
234	新田	散布地	縄文		前沢区生母	57	
235	峠Ⅰ	散布地	縄文		前沢区生母	57	
236	蓑輪	散布地	縄文前期・中期		前沢区生母	57	
237	日向	散布地	縄文		前沢区生母	57	
238	竹ノ内	散布地	縄文		前沢区生母	57	
239	北舘東Ⅱ	散布地	縄文・古代		前沢区古城	55	
240	五輪経塚	経塚	平安末		前沢区白山	57	
241	彼岸田	※集落跡	※縄文・古代	※縄文土器、土師器、須恵器、かわらけ、中国産白磁	前沢区白山	57	
242	迎畑	散布地	奈良・平安		前沢区白山	57	
243	学堂Ⅱ	散布地	古代		前沢区白山	57	
244	道上	※集落跡・散布地	※縄文、平安、中世、近世	※竪穴住居跡・杭列（平安）、石器、土師器、須恵器、かわらけ、中国産陶磁器※木簡	前沢区白山	15,16,18,57	
245	川前	集落跡	※平安	※方形周溝、鍛冶炉状遺構、水田状遺構？（十和田ａ含む）、土師器、須恵器、羽口、北宋銭	前沢区白山	15,16,33,46,57	
246	要害Ⅱ	※集落跡？、環濠屋敷跡	古代・中世	土師器	前沢区古城	19	
247	下町	散布地	縄文・平安	縄文土器、石器、土師器、須恵器	前沢区古城	18	
248	鵜ノ木	※石器製作跡、集落跡、散布地	※後期旧石器、縄文、弥生、古代、近世	※ブロック、竪穴住居跡・集石遺構、※ナイフ形石器、台形石器、掻器、縄文土器、石鏃、磨石、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器	前沢区字鵜ノ木	18,37	
249	安久沢東	※集落跡・墓域	※縄文・古代・中世・近世	※縄文土器、古銭、かわらけ	前沢区古城	18,42,47	
250	境田	散布地	縄文・平安	柱穴、土杭、陥し穴、土師器	前沢区古城	19	
251	四反田Ⅰ	※集落跡	平安	※竪穴住居跡・掘立柱建物跡、土師器、須恵器、※炭化種子	前沢区古城	40,41	
252	四反田Ⅱ	※集落跡	奈良・平安	土師器	前沢区古城	40,41	
253	高殿Ⅰ	散布地		須恵器、土師器	前沢区古城		
254	高殿Ⅱ	※集落跡	平安・近世	※掘立柱建物跡、堀跡土師器、須恵器、焼成粘土塊	前沢区古城	20,42	
255	八反町	集落跡	古代・※中世	土師器、※須恵器、かわらけ	前沢区古城	20,42	
256	草井川	散布地	平安	土器	前沢区古城		
257	張山	陣場跡？			衣川区日向		
258	遠藤屋敷	屋敷跡	近世	堀、土塁	衣川区富田		
259	向館（迎館）	城館跡		※18C 陶磁器片	衣川区向館	8	
260	湯場	湯場跡	近世	土台石	衣川区富田前		
261	八日市場	市場跡			衣川区向館谷起		
262	上西谷坊屋敷	屋敷跡			衣川区東裏		
263	石倉・東裏	散布地	縄文	縄文土器（晩期）、土偶、石槍、石鏃、石斧、掻器、石錘、石匙	衣川区東裏	4	
264	渡船場	渡船場跡			衣川区向館谷起	67	
265	枡形森	鐘楼跡？	石祠		衣川区日向		
266	陣場山	城館跡	中世	平場	衣川区日向		
267	長者ケ原廃寺	寺院跡	古代？	土塁、礎石、土師器、築地	衣川区田中西	45	H17.7.14 国指定史跡
268	鉄砲場	鉄砲場跡		石祠、墓碑	衣川区日向		
269	木戸側（擬定地）	厩舎跡？			衣川区瀬原西裏		
270	東裏Ⅰ	散布地	縄文	石器（縄文）	衣川区東裏		
271	東裏Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器片	衣川区東裏		

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	所在地	文献・備考	備　考
272	西裏	散布地	古代	土師器	衣川区西裏		
273	表	散布地	縄文・古代・近世	石器・土師器	衣川区表		
274	杉林	散布地	縄文・古代	石器（縄文）	衣川区大面		
275	山際	散布地	縄文	石器片	衣川区堰下		
276	富田前	散布地	近世？	磁器片	衣川区富田前		
277	瀬原Ⅰ	散布地、※集落跡、※墓地	※縄文･弥生、平安、※中世・近世	※竪穴住居跡・集石遺構・堀跡・方形周溝、※石器・弥生土器、土師器、須恵器、※土錘・かわらけ・中国産陶磁器	平泉	23,35,64	
278	瀬原Ⅱ	※狩場、散布地、集落跡	※縄文･弥生･平安･中世・近世	※陥し穴状遺構・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・円形周溝、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・中国産陶器	平泉	35,36,64,68,69,70	
279	月館Ⅱ（築館）	城館跡	中・近世		長島	68	館主及川雅楽亮といわれている
280	月館Ⅰ	散布地	縄文・平安・中世	縄文土器、石器、※かわらけ	長島	64,68	
281	月館Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（中期）	長島		
282	東福寺Ⅰ	社寺跡	縄文・平安	礎石	長島		
283	新山権現社	散布地、※集落跡･捨て場	縄文、※弥生・平安	※竪穴住居跡・墓壙・配石遺構・捨て場､石敷遺構（近世）､縄文土器（後期）､ミニチュア土器、土偶、石器、土師器、かわらけ、中国産陶磁器	長島	21,68	
284	二反田Ⅰ（内館）	城館跡	中・近世	堀跡	長島		館主千葉長門といわれる（内館）
285	東福寺Ⅱ	社寺跡	平安		長島		
286	経塚山	経塚	中・近世		長島		

Ⅲ　野外調査・室内整理の方法

1　野　外　調　査

（1）　調査区の呼称

先に、今回調査した八反町遺跡は、前沢区古城地区の基盤整備事業に関わって、平成22年に新規登録された遺跡である。古城林遺跡は、同様に基盤整備事業に関わって、旧林Ⅰ遺跡と旧林Ⅱ遺跡を統合し、またその周辺部の試掘調査結果を踏まえ、埋蔵文化財包蔵地を全て含めて古城林遺跡と命名されている。

今回調査は、圃場整備事業に伴い農道・水路の新設部分の調査を実施した。現況は水田を中心に、畑地、牧草地、現道である。ほぼ500m四方に広がる遺跡範囲内において、飛び地的に24地点に分かれることから、メッシュグリッドなどは設定せず、両遺跡を合わせ①～㉔区と大区分を命名し調査を進めた（第５図参照）。八反町遺跡分が①・②・⑲区、その他は古城林遺跡分となる。なお、⑬区と命名した調査区は平成23年度に岩手県教育委員会生涯学習文化課により調査が実施された。基準点の座標値は以下の通りである。

＜基準点成果値＞

基１　X＝－101824.716　Y＝27400.316　H＝32.636m（世界測地系）
基２　X＝－101821.493　Y＝27477.126　H＝32.287m（世界測地系）
補１　X＝－101664.000　Y＝27428.000　H＝33.402m（世界測地系）
補２　X＝－101720.000　Y＝27572.000　H＝33.342m（世界測地系）
補３　X＝－101804.000　Y＝27572.000　H＝32.642m（世界測地系）
補４　X＝－101900.000　Y＝27572.000　H＝32.797m（世界測地系）
補５　X＝－101579.143　Y＝27392.770　H＝33.437m（世界測地系）
補６　X＝－101900.383　Y＝27524.462　H＝31.932m（世界測地系）

（2）基　本　層　序

今回の調査は、遺跡範囲の関係から八反町遺跡と古城林遺跡の２遺跡に分かれているが、同じ地形面に立地することから連続性があり、遺跡同士の境界が不明瞭にある。遺跡の基本層序も同様の様相であることから、統一した基本層序を設定し調査を行った。

概ね以下のような土層の堆積順を示す。

Ⅰ　層・・・表土・水田耕作土など　層厚20～150㎝　※平均的には30㎝前後の厚さでみられる。
Ⅱ　層・・・褐～暗褐色土　層厚０～10㎝　古代を中心とする遺物を包含する。局所的にTo-aテフラの混入が見られる。
Ⅲ　層・・・黒褐～黒色土　層厚０～10㎝　古代以前に形成された土層と考えられる。
Ⅳ　層・・・黄褐色粘土（地山）

今回の調査では、畑地直下の⑧区、牧草地であった⑩区、現道直下であった⑪区以外の調査区においては水田耕作土を除去した段階で直にⅣ層地山が露出する。このことは水田造成時に旧地形が削平

を受けており、従って調査区全体的にみられるのはⅠ層（耕作土など）とⅣ層（地山）である。補足として、⑧・⑨・⑩区で検出された陥し穴の埋土上位にみられる黒色シルトは、古代などの遺構埋土とは相違することから、Ⅲ層に起源すると考えられる。

（3） 調　査　経　過

平成23年度は、県南農村整備事務所や農業基盤委員会との事前の打ち合わせにおいて、作付けを行う水田・畑地・牧草地の調査区への着手は収穫後とする取り決めがあり、４月当初から作付けを行わない部分である①・③・④・⑤・⑦区の順に調査着手し、８月初旬より⑨・⑩・㉑・㉒・㉓区に着手した。収穫後の11月になり⑥・⑪・⑫・⑭・⑮・⑯区の調査に着手した。なお、当初調査予定であった⑬区は協議の結果、県教育委員会生涯学習文化課が発掘調査を実施した。

平成24年度は、４月当初②・⑰・⑱・⑲・⑳区の調査に着手し、途中から⑧・㉔区に着手した。

（4）精査の方法と遺構の記録

調査開始当初に、調査区内に試掘トレンチを設定し、人力で掘削して土層の堆積状況及び遺構検出面の確認に努めた。大部分ではⅠ層の直下でⅣ層地山が露出することから重機で最終面まで掘り下げた後、人力（スコップ、鋤簾、両刃鎌、移植ヘラを使用）で遺構検出を行った。

遺構の掘り下げは、規模に応じて４分法と２分法を使い分け、溝などについては数か所にベルトを設定して土層観察を行いながら進めた。

遺構の実測は、CUBIC社製遺構実測ソフト「遺構くん」を用いて光波トランシットによる測量を行った。現場の写真撮影については、キャノンEOS５D及び50D（デジタルカメラ）を中心に使用した。

２　室　内　整　理

（1）遺　構　図　面

遺構図は、電子平板のデータで作成した平面図と、現場で人力により作成した断面図をスキャナーで取り込み、全てデジタルデータとした後、トレース君を用いデジタルトレース・図版編集した。

（2）遺　　物

遺物は、先に水洗と出土地点毎の仕分け作業を行った後、遺物の種類毎に以下のように進めた。

土器・陶磁器類は、水洗後に袋単位で通し番号を付けて重量の計測と登録作業を行った。その際に袋に付けた通し番号は、注記番号として採用した。選択基準は、①残存率の良いもの、②遺構の時期推定になる層位的資料、③口縁部資料、などの順に優先して選択し、仮番号を付け登録した後、掲載遺物として更に選択した。土製品・石器・鉄製品は、水洗後、仮番号付け、掲載物の選択を行った後、掲載番号を付した。動物遺存体は、水洗後、仮番号を付け、パラロイドＢ72を11～13％に薄めたものを塗布し保存処理した。

（3）報告書について

＜原稿執筆・編集＞報告書の執筆について、Ⅳ遺構の事実記載については調査区が飛び地的に分かれていることから、各区の調査を主に担当した調査員を中心に分担執筆し、最終的には星が加筆・校正した。分担区は以下のようである。星①～⑫・⑭・⑮～⑱・㉑・㉒・㉓区、村木②・⑦・⑨・⑰・⑲・

㉔区、杉沢⑦・⑩区、藤本⑭・⑳・㉔区、高橋⑨区である。Ⅳ遺構以外については、Ⅴ遺物を村木、Ⅶの２を杉沢、Ⅱの２を高橋が行い、その他は星が行った。最終編集は、図版関係を藤本が行い、その他全般星が行った。

＜遺構の記載＞遺構の記載は、竪穴住居跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、柱穴列、柱穴状土坑、墳墓、堀跡、溝跡、陥し穴、井戸跡、土坑、土取り穴、カマド状遺構、畝間状遺構、不明遺構の順に編集している。なお、数の多い土坑、陥し穴、溝跡、柱穴状土坑の個々の内容については、紙面超過などにより、表記載のみとしたことをお断りしておきたい。

＜遺物の掲載＞遺物掲載番号は、遺物図版・遺物写真図版・観察表とも同一の番号となっている。

＜遺構図版＞遺構図版は、1/50を基本とするが、遺構の性格に応じて縮尺を変えている。遺構の編集トレースは、トレース君を用い、高橋・藤本が中心となり作成した。

＜遺物図版＞遺物図版は、土器を1/3を原則、土製品は1/2、陶磁器は1/2、鉄製品は1/2、石器は1/2及び1/3で掲載した。

＜遺構写真図版＞遺構写真図版の掲載順は、本文や遺構図版と同様である。星・高橋・佐藤がレイアウト・編集した。

＜遺物写真図版＞遺物写真図版は、遺物図版と同じ縮尺を基本とする。デジタルデータを編集し、図版を作成した。

（４）観察表について

＜遺構観察表＞遺構観察表作成は星、藤本が行った。遺構の規模について、他の遺構や攪乱で破壊を受けているものについては残存値に以上をつけて明示した。ただし、残存状況が特に悪いものについては不明や空欄とした。

＜遺物観察表＞遺物観察表作成は、平成23年度発掘分の土器の一部は丸山直美が行い、それ以外は星が行った。土器、土製品、石器、石製品などの法量値は、欠損する場合は残存部の数値を（　）で示した。ただし、土器類の破片などについては、割愛する。

Ⅳ 検 出 遺 構

八反町遺跡で検出された遺構は、竪穴状遺構２基（中近世）、掘立柱建物跡２棟（古代？）、溝跡５条（古代？３と近現代？２）、土坑１基（古代～中近世）である。

古城林遺跡で検出された遺構は、竪穴住居跡８棟（古代）、竪穴建物跡２棟（中世）、竪穴状遺構１基（中世）、掘立柱建物跡67棟（古代６、12世紀２、古代～中世31、中世21、中近世４、不明１）、柱穴列４基、柱穴状土坑3,568基、墳墓１基、堀跡２条、溝跡115条（古代48、12世紀５、古代～中世32、中世１、中近世８、近世６、近代４、近世～現代３、不明８）、陥し穴43基（縄文時代）、井戸跡11基（古代７、12世紀３、近代１）、土坑116基（古代74、12世紀１、古代～中世15、中世１、中近世５、近現代１、不明17）、近代墓29基、土取り穴５基（古代５）、カマド状遺構１基（中世）、畝間状遺構２箇所（近世？）、不明遺構17基（古代９、12世紀１、古代～中世４、中世１、近世以降１、不明１）である。調査⑩区から柱穴が多数検出されたが、面的に広い調査区であったことにも起因して復元した掘立柱建物跡や同時期と推定される遺構も多数存在する。それらの配置も考慮し、調査⑩区に限り中世を鎌倉Ⅰ～Ⅳ期と時期分類を推定・設定した。無論、出土遺物などが乏しいことから、中世以外に帰属するものが含まれた可能性も否定できない。詳しくは第Ⅶ章で考察を加え記載する。

１ 竪 穴 住 居 跡

６棟を検出した。補足として、当初SI03と命名したものは、精査途中で遺構登録を抹消したことから欠番となっている。

SI01竪穴住居跡（第28図、写真図版６・７）

＜位置・検出状況＞⑨区中央部やや北に位置する。検出状況は、表土直下において、にぶい黄褐色粘土質シルトによる方形気味のプランを検出した。南側はSD27溝跡に裁られる。また、現況は畑地であったが、昭和30年頃までは小規模な水田（※幅が非常に狭く、溝状に長い水田だったらしい）であったと地権者からの伝承があり、それを裏付けるように水田造成に伴い床面付近まで削平を受けている。

＜重複関係＞SB29掘立柱建物跡・SD27溝跡・P488・489・490・500・502・503・508・509・531・541・542・553に裁られる。また、北東側でSD29溝跡と近接するが、出土遺物などから本遺構が新しいと判断した。

＜平面形・規模＞隅丸方形で、辺の長さは3.0以上×4.25m、床面積は12㎡以上である。長軸方向はＮ－45°－Ｅである。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、１層と命名した貼り床土がほぼ全面に施され、全体的にはほぼ平坦である。貼り床土は、黄褐色粘土質シルトに明黄褐色シルトを混ぜたものが用いられている。硬化面とは捉えられないが、全体的にやや硬い。竪穴の掘り方は、床面から５～10㎝の深さで、掘り方底面はやや凹凸が看取される。

＜壁＞水田造成時に削平され壁は残存していない。第28図の平面図は竪穴の掘り方を図化･明示した。

＜埋土＞水田造成時に床面付近まで削平を受け埋土の残存はない。Ａ－Ａ’・Ｂ－Ｂ’断面で１層と命名した土層は、上述のとおり貼り床である。

＜カマド＞北壁の中央付近の屋外において溝状の掘り込みを検出し、カマド煙道部の残存と推定した。長さは約180㎝、底面の幅は20～45㎝である。掘り込み式であった可能性が窺えるが詳細は分からない。

煙道の方向はＮ－15°－Ｅである。
＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞南東壁際の床面で焼土を、北東隅の床下より土坑（※床下土坑と命名）を検出した。焼土は、貼り床面において、90×80㎝の範囲で不整形に広がる。現地性と判断した。床下土坑は、貼り床を除去中に土坑状の落ち込みの中に複数個体の土師器坏が埋置されている状況を確認し認知した。規模は、長さ78×70㎝、深さは床面から約12㎝の深度で掘り込まれている。
＜遺物＞（第172図１～８、写真図版129）出土遺物は土器類2,033.8ｇ、土製品（焼成粘土塊）178.2ｇである。１～８を掲載した。
＜時期＞出土土器から平安時代10世紀初頭～前葉と判断される。

SI02竪穴住居跡（第29図、写真図版７・８）
＜位置・検出状況＞⑨区東部東端に位置する。基本層序Ⅳ層中で、にぶい黄褐色シルトによる方形気味のプランとして認知した。調査区境付近は水田造成で削平を受けている地点であることから、遺構上部はかなりの深度で削平を受けている。また、実際の精査では東壁が判然としなかったことから、遺構プランは調査区外に続くと捉えたが、既に東壁が削平されている可能性もあり、本来の遺構プランは調査区内で完結する可能性もある。
＜重複関係＞重複遺構は無いが、SK124土坑と近接関係にあり、あるいは本遺構に伴う何らかの施設である可能性もある。
＜平面形・規模＞平面形は隅丸方形を基調とする。辺の長さは290以上×238㎝、深さ４～６㎝、床面積は6.9㎡以上である。長軸方向はＮ－45°－Ｗである。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、Ⅳ層粘土層中で貼り床は看取できない。ほぼ平坦である。
＜壁＞壁は僅かな立ち上がりを認知したに留まる。
＜埋土＞埋土はにぶい黄褐色シルトによる単層である。東側床面直上で To-a テフラブロックの混入を確認した。埋土の残存がわずかなことから、断定はできないが、自然堆積と考えたい。
＜カマド＞竪穴の屋外北東側でカマドに関係すると考えられる焼土ピット検出した。竪穴本体と近距離に位置することと、煙道が認知できなかったことから、特殊な形態とも見て取れる。
＜柱穴＞３個検出した。直径20～28㎝、深さ15㎝前後である。
＜付属施設＞北西壁よりやや中央に寄った地点の床面で、焼土を検出した。36×28㎝の楕円形に広がる。現地性で焼土の層厚は薄い（２㎝以下）。
＜遺物＞（第172･186図9～14、221･230写真図版120･138）出土遺物は土器類721ｇ、土製品14.6ｇ（土錘１点）、鉄製品１点（釘？ 56.7ｇ）、鉄滓２点（3.6ｇ）が出土した。９～14、221・230を掲載した。
＜時期＞出土土器は平安時代９世紀前半と推定される。また、To-a テフラ降下期より古い時期と判断されることから、出土土器と整合する。

SI04竪穴住居跡（第30図、写真図版88・89）
＜位置・検出状況＞⑧区中央部やや北に位置する。基本層序Ⅳ層中で、暗褐色シルトによる方形気味のプランとして認知した。本遺構の中央から西側は調査区外に延びる。
＜重複関係＞なし。SKT05陥し穴が東側で近接する。
＜平面形・規模＞検出部を見る限り平面形は隅丸方形と推定される。辺の長さは東壁約４ｍ、南壁3.3ｍ以上、深さ12～18㎝、床面積は10㎡以上である。長軸方向はＮ－5°－Ｅである。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、貼り床が施され、全般に硬くやや凹凸がある。
＜壁＞壁は僅かな立ち上がりを認知したに留まる。
＜埋土＞埋土は１層暗褐色シルトを主体とする。自然堆積と調査判断したが明確ではない。２～14層と命名した細分層は、貼り床や焼土層及び人為堆積土である。
＜カマド＞南壁で煙道部と袖部を検出した。掘り込み式と推定されるが明確ではない。燃焼部は未検出にある。
＜柱穴＞明確には未検出にある。
＜付属施設＞床面の各所で焼土範囲を検出した。その内、焼土単位として捉えた３地点について焼土１～３と命名し、明示した。それらは暗褐色シルトが不鮮明に焼土化した部分と明瞭に焼土化した部分に分けられる。何れも現地性の焼土と捉えられ、層厚は薄く（２～５㎝）、焼土下位には浅い掘り込みが認められる。
＜遺物＞（第184図86～103写真図版133）出土遺物は土器類4,507.4ｇが出土した。86～103を掲載した。
＜時期＞出土土器から平安時代９世紀後半と推定しておきたい。

SI05竪穴住居跡（第31図、写真図版90）
＜位置・検出状況＞⑧区北部に位置する。検出状況は、表土直下において、暗褐色シルトによるプランを検出した。南側は調査区外の畑地に延びる。
＜平面形・規模＞検出部を見る限り平面形は隅丸方形と推定される。辺の長さは北壁3.62m、その他の辺は推定不可能にある。深さは10㎝弱、床面積は2.24㎡以上である。長軸方向はＮ－110°－Ｅである。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はⅣ層地山と捉えた。やや凹凸がある。ただし、２層とした埋土が部分的に貼り床を施した土層なのか自然堆積による土層なのか明確には判断できず、あるいは床面と捉えた面が竪穴掘り方の可能性もある。
＜壁＞僅かな立ち上がりを確認したに留まる。
＜埋土＞１・２層暗褐色シルトによる。畑地の造成時にかなりの削平を受けていると推定される。３～21層はカマド及び古い段階の床下土坑に伴うと推定される埋土である。
＜カマド＞調査区境の土層断面作成地において、カマド煙道部及び煙出部と推定される土層が認められた。調査判断通りであれば掘り抜き式の東カマドである。ただし、平面的にはそのほとんどが調査区外に続くことと、土層の堆積様相は複雑で、明確にカマド煙道部なのか断定はできない（※可能性としては①住居を裁る風倒木である可能性と、②旧床下土坑と新カマドの裁り合い）。
＜柱穴＞１個検出した。
＜遺物＞（第180図104・105、写真図版134）出土遺物は土器類243.9ｇである。104・105を掲載した。
＜時期＞出土土器から平安時代９世紀後半～ 10世紀前半と判断される。

SI06竪穴住居跡（第31図、写真図版91）
＜位置・検出状況＞⑧区中央部やや南に位置する。基本層序Ⅳ層中で、暗褐色シルトによる方形気味のプランとして認知した。西側は調査区外の畑地に延びる。
＜重複関係＞ SD135溝跡に裁られる。
＜平面形･規模＞平面形は隅丸方形を基調とする。辺の長さは、3.28×2.12m以上、深さ32㎝前後である。長軸方向はＮ－110°－Ｅである。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、Ⅳ層粘土層中で貼り床は看取できない。ほぼ平坦である。

＜壁＞壁は外傾～直立気味に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は暗褐色シルトと黄褐色粘土を中心とする混合土で、人為堆積である。加えて、床面付近からは焼土ブロックと炭化材が検出されたことから、焼失家屋と推定される。
＜カマド＞未検出である。
＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞北～東際で壁溝と想定される短溝と小穴を検出した。
＜遺物＞出土遺物は土器類22.3ｇが出土した。小片で磨滅が著しく不掲載とした。
＜時期＞平安時代と推定されるが、明確ではない。

SI07竪穴住居跡（第29図、写真図版92）
＜位置・検出状況＞⑧区中央部やや南に位置する。基本層序Ⅳ層中で、暗褐色シルトによる方形気味のプランとして認知した。西側は調査区外の畑地に延びる。
＜重複関係＞ SD135溝跡に裁られる。
＜平面形･規模＞平面形は隅丸方形を基調とする。辺の長さは､3.00×1.42m以上､深さ22㎝前後である。長軸方向はＮ－140°－Ｅである。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、Ⅳ層粘土層中で貼り床は看取できない。ほぼ平坦である。
＜壁＞壁は外傾～直立気味に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は暗褐色シルトと黄褐色粘土を中心とする混合土で、人為堆積である。
＜カマド＞未検出である。
＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞なし。
＜遺物＞（第180・187図106・251、写真図版134・139）出土遺物は土器類133.4ｇ、礫１点である。106・251を掲載した。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。

２　竪穴建物跡・竪穴状遺構

竪穴状遺構３基、竪穴建物２基を検出した。中世若しくは近世と推定されるが、年代を推定する出土遺物が無い。

SX01竪穴状遺構（第32図、写真図版４）
＜位置・検出状況＞①区南部に位置する。検出面は礫混じりの褐色粘土層中で、褐灰色シルトによる方形気味のプランとして検出したが、明瞭な状況でなかった。現況は旧地形を削平し、盛土を施し畑として使用されていたが、遺構上部は畑地造成時に破壊されたと推定される。
＜重複関係＞ SD03溝跡・SX02竪穴状遺構を裁る。ただ、SX02竪穴状遺構とは平面形態や埋土などが類似することから、時期差の無い同種の遺構と考えられる（SX02竪穴状遺構から SX01竪穴状遺構に作り替えた可能性がある）。
＜平面形・規模＞平面形は隅丸方形を基調とする。辺の長さは6.40×5.40m、深さ20～36㎝、床面積は28.9㎡である。長軸方向はＮ－０°－Ｅで、ほぼ南北方向をとる。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は埋土２層とした貼り床が全面に施される。ほぼ平坦で、やや硬い。掘り方は小礫混じりの粘土層中（基本層序Ⅳ層）で、ほぼ平坦にある。

＜壁＞外傾気味に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は炭化物や明黄褐色シルトブロックが混入する褐灰色シルトによる単層である。人為堆積層と判断される。
＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞出土遺物は、土器類3.9ｇである（※径１～２㎝の小破片が数点）。全て土師器小片で磨滅が著しいことから不掲載とした。
＜時期＞出土土器は古代であるが、古代のSD03溝跡を裁っていることや埋土の様相から判断して古代より新しい。明確には時期不明にあるが、調査判断として中近世と推定しておきたい。

SX02竪穴状遺構（第32図、写真図版４）
＜位置・検出状況＞①区南部に位置する。検出面は礫混じりの褐色粘土層中で、黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土による方形気味のプランとして検出した。現況は旧地形を削平し、盛土を施し畑として使用されていたが、遺構上部は畑地造成時に破壊されたと推定される。
＜重複関係＞SX01竪穴状遺構に裁られる。ただ、SX01竪穴状遺構とは平面形態や埋土などが類似することから、時期差の無い同種の遺構と考えられる。
＜平面形・規模＞平面形は隅丸方形を基調とする。辺の長さは4.16以上×4.00ｍ、深さ20㎝、床面積は16㎡以上である。長軸方向はＮ－10°－Ｗで、ほぼ南北方向をとる。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はやや硬く、全体的に平坦であるが中央よりやや北側に楕円形気味の凹が看取される。貼り床は認知できない。
＜壁＞外傾気味に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は褐灰色シルトを中心に黒褐色シルトなどが見られる人為堆積層である。全体的に硬いことから、埋め戻した後に固めるなどの行為があったものと考えられる。
＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞無し。
＜時期＞明確には時期不明であるが、重複関係にあるSX01竪穴状遺構より古いは分かる。調査判断として中近世と推定しておきたい。

SX10竪穴建物跡（第33図、写真図版９）
＜位置・検出状況＞⑩区北東部東端に位置し、遺構プランは調査区外に続く。現況は牧草地で、検出面はⅣ層中であるが遺構上部は削平を受けている。
＜重複関係＞本遺構がSX06墳墓を裁る。また柱穴状土坑２基を裁る。
＜平面形・規模＞平面形は、プランの大部分が調査区外に所在することから明確には不明である。調査した南辺や西辺の連続性からは隅丸方形と推定される。辺の長さは2.20以上×3.58ｍ、深さ18㎝、床面積は不明である。主軸方向は不明にあるが、南辺の延びるＮ－62°－Ｗと推定しておきたい。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は黄褐色粘土層中で、若干の凹凸があり、やや硬い。貼り床は看取されない。
＜壁＞残存する西壁や南壁の一部は外傾気味に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は単層で、黒褐色シルトに明黄褐色粘土ブロックが混入する。人為堆積である。

＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の形態などから中世と推定されるが、出土遺物がなく明確ではない。SX06墳墓との新旧関係は明確ではないが、同時期存在の可能性が強いと調査判断しておきたい。SX06墳墓と同時期であれば、鎌倉時代Ⅲ期（14世紀初頭～前葉）の可能性も浮上しょうか。

SX15竪穴状遺構（第33図、写真図版10）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部やや北東に位置する。検出面はⅣ層中である。遺構の北東側は撹乱により破壊を受けている。
＜重複関係＞本遺構がSK100陥し穴、SK101土坑を裁る。
＜平面形･規模＞平面形は隅丸方形と推定される。辺の長さは4.80×3.24m､深さ34～56cm､床面積は6.4㎡である。長軸方向はＮ－65°－Ｗである。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はⅣ層黄褐色粘土層中でほぼ平坦である。貼り床は看取されない。
＜壁＞壁は外傾に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は、上位～下位まで黒褐色シルトを主体とする。明黄褐色粘土ブロックの混入割合で１～４層に細分を試みたが、下位ほど含有率が高い。自然堆積と判断した。
＜柱穴＞未検出である。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞（第185・186図191・233、写真図版136・138）陶磁１点と礫石器１点が出土した。191は常滑産と推定したが、明確には不明である。233は敲磨器である。
＜時期＞遺構の形態などから中世と推定される。⑩区の掘立柱建物跡を中心とする遺構配置などの検討から、鎌倉時代Ⅱ期（13世紀中葉～後葉）の可能性が示唆される。

SX16竪穴建物跡（第34図、写真図版11）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部やや東に位置する。検出面はⅣ層中である。遺構の東側は水路の建設など人工改変により床面付近まで削平を受けている。
＜重複関係＞本遺構がSB12掘立柱建物跡を構成するP1343に裁られる。
＜平面形・規模＞平面形は、竪穴の壁の残存が西側のみのため、明確には不明である。柱穴の配列などからは東西方向に長軸を持つ隅丸方形と推定される。辺の長さは、短軸と想定される南北方向で310cm、長軸と想定される東西方向では最も東端のPP６まで480cmを測る。深さは西壁付近で24cmである。床面積は不明であるが、長軸が480cm前後と想定すると、11㎡前後が推定される。長軸方向はＮ－55°－Ｗをとる。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は黄褐色粘土層中である。竪穴中央～東側が削平されており、状況が掴み難い。
＜壁＞壁は外傾に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は、単層で黒褐色シルトに黄褐色シルトブロックが混入する。人為堆積と判断される。
＜柱穴＞壁柱を含め８個を検出した。最も深いPP２で床面から約60cm､西壁の両隅に位置するPP１・PP７が約45cm、竪穴中央のPP３で20cmを測る。
＜付属施設＞無し。

＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の形態などから中世と推定される。鎌倉時代Ⅱ期（13世紀中葉～後葉）の可能性が示唆されるSB12掘立柱建物跡より古いことは分かるが、詳細は不明にある。

3　掘立柱建物跡

66棟を検出した。古代～中近世と推定されるものが多い。ほとんどが、室内整理において机上で建て復元したもの（推定したもの）である。その多くは、面的に広い調査区であった⑦・⑨・⑩・㉔区から検出されている。

特記事項としては、12世紀の可能性がある２棟（SB01・03）と、⑩区で鎌倉期と推定されるもの18棟が検出されている（※⑩区検出遺構に限り鎌倉Ⅰ～Ⅳ期の時期区分を採用した）。

SB01掘立柱建物跡（第37図、写真図版12・13）
＜位置・検出状況＞⑦区中央部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞30個の柱穴から構成される
＜埋土＞ほとんどの柱穴で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－28°－Ｅである。
＜平面形式＞桁行６間、梁行４間（身舎部分は６間×２間）の掘立柱建物である。規模は、桁行10.91m、梁行6.58mである。東西２面に廂を持つ構造である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は236cm（7.8尺）～252cm（8.5尺）であり、基準寸法は８尺と推定される。梁間の柱間寸法は205cm（6.8尺）～224cm（7.4尺）で、基準寸法は７尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞12世紀と推定される。

SB03掘立柱建物跡（第38図、写真図版12・13）
＜位置・検出状況＞⑦区中央部北東に位置する。
＜重複関係・建て替え＞SB74掘立柱建物跡と重複しているが、前後関係は不明である。
＜柱穴＞９個の柱穴を使用した。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。P43・44・47・48・52では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－30°－Ｅである。
＜平面形式＞桁行２間、梁行２間の総柱建物である。規模は、桁行3.93m、梁間3.78mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は181cm（６尺）～212cm（７尺）で、梁間の柱間寸法は181cm（６尺）～196cm（6.5尺）で、基準寸法は６尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞12世紀と推定される。

SB04掘立柱建物跡（第39図、写真図版14）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部やや南西に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞本遺構はSX08土取り穴・SX20不明遺構を裁る。SD44溝跡との新旧関係は不明。SB30掘立柱建物跡より古い可能性がある。
＜柱穴＞30個の柱穴から構成される。検出されなかったものの本来32個の柱穴から構成されるものと推察される。
＜埋土＞ P765・771・779・776・759・781・874・875・793・794・880では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－28°－Ｅである。
＜平面形式＞桁梁５×２間の規模は、桁行12.456m、梁間6.703m である。４面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約222㎝であり、基準寸法は８尺と推定される。梁間の柱間寸法は約232㎝で、基準寸法は７尺と推定される。廂もしくは下屋と推測する柱間寸法はそれぞれ桁・梁柱から約105㎝前後である。
＜遺物＞（第177図80・81写真図版132）P891から須恵器甕（80・81）が出土した。出土状況から、本遺構に伴うものではなく、埋め戻しの際に入り込んだものと想定される
＜時期＞中世と推定される。遺構配置から13c 初～前葉に位置付け、本遺跡の時期細分では鎌倉時代Ⅰ期に相当する。

SB05掘立柱建物跡（第40図、写真図版14）
＜位置・検出状況＞⑩区南西部に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SB11掘立柱建物跡、SKT01陥し穴より新しい。
＜柱穴＞12個の柱穴を使用した。
＜埋土＞ P746・747・751・752・764・769・772では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－16°－Ｅである。
＜平面形式＞３間×１間の掘立柱建物である。規模は、桁行約7.07m、梁間4.68mである。長軸方向西側1面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.30m、梁間の柱間寸法は約3.50mである。長軸方向西側１面に廂もしくは下屋を持つと推測され、柱間は約50㎝前後である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞長軸方向から、13c 後葉～14c 初頭と位置付ける。本遺跡での時期細分では鎌倉Ⅲａ～ｂ期にあたる。

SB06掘立柱建物跡（第41図、写真図版14）
＜位置・検出状況＞⑩区西部に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞８個の柱穴で構成される総柱建物跡である。
＜埋土＞ P656・657・658・660・673・675では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－27°－Ｅである。
＜平面形式＞２間×２間で、規模は桁行約3.40m、梁間約3.40m、正方形の形を呈する。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.30m前後、梁間の柱間寸法も約1.30m前後である。

＜遺物＞無し。
＜時期＞出土遺物もないため、時期の特定は難しいが、建物の配列から13c 初頭～前期に位置付ける。本遺跡では鎌倉Ⅰ期に相当する。

SB07掘立柱建物跡（第42図、写真図版14）
＜位置・検出状況＞⑩区西部に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SK26土坑より新しい。また P678は P679に裁られる。
＜柱穴＞ 9 個の柱穴で構成される総柱建物跡である。
＜埋土＞ 9 個すべての柱穴で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－26°－Ｅである。
＜平面形式＞ 2 間× 2 間で、規模は桁行約3.10m前後、梁間も約3.10m前後の正方形である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.00m前後、梁間の柱間寸法も約1.00m前後である。柱痕から使用された柱の直径は約20～26cm前後である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞建物の配置から13c 中～後葉の時期に位置付ける。本遺跡では鎌倉Ⅱ期に相当する。

SB08掘立柱建物跡（第43図、写真図版14）
＜位置・検出状況＞⑩区西部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係・建て替え＞ SB07・09掘立柱建物跡、SX08土取り穴より新しい。
＜柱穴＞10個の柱穴で構成される。本来は12個の柱穴からなる建物跡であると想定される。
＜埋土＞ P680では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－20°－Ｅである。
＜平面形式＞ 4 間× 1 間の掘立柱建物である。規模は、桁行約9.30m、梁間約4.80mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.00m前後、梁間の柱間寸法は約2.00m前後である。検出されなかった南側の梁間柱間は約4.10m前後と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞出土遺物などはないが、遺構の配置から14c 前～鎌倉時代終わりまでの時期に位置付ける。本遺跡の時代細分では鎌倉Ⅳ期に相当する。

SB09掘立柱建物跡（第44図、写真図版15）
＜位置・検出状況＞⑩区西部に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SB10・16掘立柱建物跡、SK77土取り穴、SX08土取り穴を裁り、SB07・08・12掘立柱建物跡に裁られる。
＜柱穴＞25個の柱穴から構成される。本来は26個の柱穴から構成される可能性が高い。
＜埋土＞ P681・683・685・671・686・811・814・823・1001・860では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－62°－Ｗである。
＜平面形式＞ 5 間× 4 間の掘立柱建物跡で、桁梁 3 間× 1 間、西側桁方向両側に 1 面廂か下屋がつく。規模は、桁行約9.60m前後、梁間約7.50m前後である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.95m、梁間の柱間寸法は約2.00～2.50m前後である。廂もしくは下屋を持つ構造と考えられ、これらの柱間は約1.00m前後である。

＜遺物＞無し。
＜時期＞建物の配置から13c 初頭～前期に位置付ける。本遺跡の時期細分では鎌倉Ⅰ期に相当する。

SB10掘立柱建物跡（第45図、写真図版15）
＜位置・検出状況＞⑩区西部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞ SB09・12掘立柱建物跡に裁られ、SX08土取り穴を裁る。
＜柱穴＞ 4 個の柱穴から構成される。
＜埋土＞ P739・817では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－1°－Ｅのほぼ真北を向く。
＜平面形式＞ 1 間× 1 間の掘立柱建物である。規模は、桁行約3.50m前後、梁間約4.00m前後で、ほぼ正方形である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.40m、梁間の柱間寸法は2.30～2.70mである。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構配置から、平安時代の遺構と想定される。

SB11掘立柱建物跡（第46図、写真図版15）
＜位置・検出状況＞⑩区西側で検出されたが、半分は調査区外にのび、全容を確認することはできなかった。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SB05掘立柱建物跡より古い。また P745は P744を裁り、P775と P774の新旧関係は不明。
＜柱穴＞ 4 個の柱穴から構成される。
＜埋土＞ P768で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－58°－Ｗである。
＜平面形式＞調査区内では 1 間× 1 間の掘立柱建物である。ただし、建物規模は、桁行が調査区外に延び全容を検出できなかったため不明であるが、梁行は約3.20m前後、P768の柱痕から柱は直径約20㎝前後と推定される。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.30～2.50m、梁間の柱間寸法は約2.30～2.70mである。やや桁方向がゆがむものの、ほぼ正方形を呈する。
＜遺物＞ P775から土師器坏が 1 点出土した。しかし、遺構に伴うものではなく、柱穴状土坑の埋め戻しの際の混入と思われる。
＜時期＞建物の配置から13c 中～後葉に位置付ける。本遺跡の時代細分では鎌倉Ⅱ期に相当する。

SB12掘立柱建物跡（第47図、写真図版15）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部やや北に位置する。検出された層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SB10・13・16掘立柱建物跡、SD49溝跡、SK34・41土坑、SK35・36・39・40・79陥し穴、SK77土取り穴、SX08土取り穴、SX16竪穴建物跡全ての重複する遺構を裁る。
＜柱穴＞45個の柱穴から構成される。
＜埋土＞ P650・665・666・704・800・803・806・807・818・822・824・826・842では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－70°－Ｗである。
＜平面形式＞ 7 間× 5 間？の掘立柱建物である。規模は、桁行約15.00m、梁間約10.10～10.20mである。

４面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。また、北・西側には柱穴の開口部が明らかに他の柱穴と異なるものがあり、これは床束が設置されていたと想定される。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.80～1.90m、梁間の柱間寸法は約1.60～1.90mである。廂、もしくは下屋と想定される南側柱間は約0.80m前後で、同じく東側柱間も約0.80mである。
＜遺物＞（第187図246、写真図版139）P822から掻器が１点出土した。縄文時代の産物と推定されることから、本遺構に伴うものではなく、埋め戻しの際に混入したと考えられる。
＜時期＞遺構の配置から14c 前～鎌倉時代終わりまでと想定され、本遺跡の時代細分では鎌倉Ⅳ期に相当する。

SB13掘立柱建物跡（第48図、写真図版15）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SB12掘立柱建物跡に裁られ、SK39陥し穴を裁る。
＜柱穴＞９個の柱穴で構成される。
＜埋土＞ P808・809・815・819・831では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－31°－Ｅである。
＜平面形式＞２間×２間？の掘立柱建物である。規模は、桁行2116cm（69.8尺）、梁間960cm（31.7尺）である。４面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は236cm（7.8尺）～252cm（8.5尺）であり、基準寸法は８尺と推定される。P138・280間は198cm（6.5尺）、P301・276間は124cm（4.1尺）である。梁間の柱間寸法は205cm（6.8尺）～224cm（7.4尺）で、基準寸法は７尺と推定される。P194・288間は189cm（6.2尺）、P166・138間は166cm（5.5尺）である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構配置から13c 中～後葉と想定される。これは本遺跡の鎌倉Ⅱ期に相当する。

SB14掘立柱建物跡（第49図、写真図版16）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部に位置する。検出面はⅣ層中である。
＜重複関係＞ SB16・33掘立柱建物跡を裁る。
＜柱穴＞38個の柱穴から構成される。
＜埋土＞ P843・906・918・936・1033・1170・1329では柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－57°－Ｗである。
＜平面形式＞６間×４間の掘立柱建物である。規模は、桁行約13.20m前後、梁間約7.60～7.75mである。廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.60m、梁間の柱間寸法は約1.50～1.85mである。
＜遺物＞（第178図82、写真図版132）P926から土師器甕（82）が１点出土した。本遺構に伴うものではなく、埋め戻しの際に入り込んだものと想定される。
＜時期＞遺構配置から13c 中～後葉と位置付ける。本遺構の時期細分では鎌倉Ⅱ期に相当する。東側に隣接する SB20掘立柱建物跡とは平行して使用された建物跡であると想定され、その間には P1064・1074、P1057・1081をそれぞれ結んだ廊下が設置されていたと推察される。

SB15掘立柱建物跡（第50図、写真図版16）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部やや南に位置する。検出層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞SB14・33掘立柱建物跡、SD47溝跡、SK45・61・65・66・71・72・81・82陥し穴、SKT04陥し穴、SX09土取り穴と重複し、これらより新しい。SB19掘立柱建物跡に裁られる。
＜柱穴＞38個の柱穴から構成される。
＜埋土＞P992・993・1044・1057・1168・1188で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－76°－Ｗである。
＜平面形式＞７間×４間の掘立柱建物である。規模は、桁行約14.40m前後、梁間約7.7m前後である。総柱で東側を除く３面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.00m前後、梁間の柱間寸法は約1.85～2.00m前後である。梁間西側の廂もしくは下屋と思われる柱間は西側方向に約0.70m前後、北側に位置する同じく廂・下間と思われる柱間は設置されたと推測される北側方向に約0.70～0.75m前後である。反対の南に設置が想定される廂・下間は南方向に約1.40～1.47m前後である。
＜遺物＞（第178・185図83・202、写真図版132・137）P993から瀬戸産の中世陶器１点（202）と、P1076からは須陶器大甕（83）が１点出土した。
＜時期＞遺構の配置から13c後～14c初頭の時期があてはまり、本遺跡では鎌倉Ⅲａ～ｂ期に相当する。

SB16掘立柱建物跡（第45図、写真図版18）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部に位置する。検出層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞縄文時代のSK79陥し穴を裁り、SB09・12・14掘立柱建物跡に裁られる。
＜柱穴＞９個の柱穴から構成される。
＜埋土＞P825・843・855・858で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－２°－Ｅのほぼ真北を向く。
＜平面形式＞２間×２間の掘立柱建物跡で、規模は桁行約3.75m前後、梁間約3.80mである。ほぼ正方形を呈する総柱建物跡である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.40m前後、梁間の柱間寸法は約1.50m前後である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の配置からSB10掘立柱建物跡と同時期の平安時代と想定される。

SB17掘立柱建物跡（第51図、写真図版17）
＜位置・検出状況＞⑩区南東部に位置する。検出層位はⅣ層である。
＜重複関係・建て替え＞重複するSB18掘立柱建物跡は本遺構の建て替えと推察される。また、SB20掘立柱建物跡を裁り、SB19掘立柱建物跡に裁られる。
＜柱穴＞13個の柱穴から構成される。
＜埋土＞P1214・1416で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－16°－Ｅである。
＜平面形式＞５間×１間？の掘立柱建物跡で、規模は桁行約13.45m前後、梁間約4.20m前後である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.10 ～ 2.50m前後で、梁間の柱間寸法は約3.90mである。P1123・1126間は1.92m、1126・1138間は1.48mである。
＜遺物＞P1214から凹石？（※不掲載）が１点出土した。この柱穴はSB18・20掘立柱建物跡にも使

用されている柱穴であり、礎石として入れた可能性もある。
＜時期＞遺構の配置から13c 後～末葉の時期が推定され、本遺構の建て替えと想定される SB18掘立柱建物跡と前身にあたる建物跡であると推察される。このため、時期区分を鎌倉Ⅲａ期とした。

SB18掘立柱建物跡（第52図、写真図版17）
＜位置・検出状況＞⑩区南東部に位置する。検出層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞重複する SB17掘立柱建物跡が前身で、本遺構はその建て替えと推察される。また、SB20掘立柱建物跡を裁る。
＜柱穴＞17個の柱穴から構成される。
＜埋土＞ P1089・1110・1214・1414・1424で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－16°－Ｅである。
＜平面形式＞７間×１間？の掘立柱建物跡で、規模は桁行約17.50m前後、梁間約4.60m前後である。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.00 ～ 2.60m前後、南側の桁行のみ若干広くとってあり、P1401・1668間、1414･1668間ともに約3.00mである。梁間の柱間寸法は約1.60m前後で、南側梁行は１間で3.83mである。
＜遺物＞ P1214から凹石？（※不掲載）が１点出土した。この柱穴は SB17掘立柱建物跡にも使用されている柱穴であり、礎石として入れた可能性もある。
＜時期＞遺構の配置から14c 初頭～鎌倉期終末の時期が推定され、本遺構は SB17掘立柱建物跡の建て替えと想定されると推察される。このため、時期区分を鎌倉Ⅲｂ期とした。

SB19掘立柱建物跡（第53図、写真図版18）
＜位置・検出状況＞⑩区南東部に位置する。検出層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SB15・17・18・20掘立柱建物跡、また、SK66・72・81・82陥し穴を裁る。重複する遺構らの中で本遺構が最も新しい。
＜柱穴＞31個の柱穴から構成される。
＜埋土＞全ての柱穴状土坑で柱痕跡を確認することはできなかった。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－72°－Ｗである。
＜平面形式＞６間×４間の掘立柱建物跡で、規模は桁行約12.40m前後、梁間約7.20m前後である。３面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.65～1.95m、梁間の柱間寸法は約1.80～2.26mである。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の配置から14c 前～鎌倉時代終わりまでの時期に位置付ける。これは本遺跡の鎌倉Ⅳ期に相当する。

SB20掘立柱建物跡（第54図、写真図版18）
＜位置・検出状況＞⑩区東部に位置する。検出層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞ SK43・61・62・66・72陥し穴を裁り、SB17・18・19掘立建物跡に裁られる。SK65土坑との明確な新旧関係は不明である。
＜柱穴＞14個の柱穴から構成される。
＜埋土＞ P1098では柱痕跡を確認した。

＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－33°－Ｅである。
＜平面形式＞６間×１間の掘立柱建物跡で、規模は桁行約11.70m前後、梁間約4.10m前後である。南側梁方向に廂、もしくは下屋があったと想定される。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約1.70m～1.90m、梁間の柱間寸法は約1.70m～1.85m前後である。廂もしくは下屋と想定される柱間寸法は約1.00m前後である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の配置から13c 中～後葉に位置付ける。これは本遺跡の鎌倉Ⅱ期に相当する。西側に隣接する SB14掘立柱建物跡とは平行して使用された建物跡であると想定され、その間には P1064・1074・1057・1081をそれぞれ結んだ廊下が設置されていたと推察される。

SB21掘立柱建物跡（第55図、写真図版19・20）
＜位置・検出状況＞⑨区東部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞11個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－26°－Ｗである。
＜平面形式＞３間×２間と想定した。梁桁３×２間の規模は、桁行6.81m、梁間4.81mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は2.12m～2.42mであり、基準寸法は７尺である。
＜遺物＞ P2008埋土から須恵器片（坏）が１点出土した（小片のため不掲載）。
＜時期＞出土遺物より古代と推定しておきたい。

SB22掘立柱建物跡（第56図、写真図版20）
＜位置・検出状況＞⑨区北東部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞ SK57・58・59土坑と重複するが、新旧関係は不明である。
＜柱穴＞４個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－12°－Ｗである。
＜平面形式＞梁桁１×１間の規模は、桁行3.78m、梁間2.72mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は2.72m～3.78mであり、基準寸法は９尺と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞明確には不明であるが、埋土や周囲の遺構分布状況などから、古代と推定しておきたい。

SB24掘立柱建物跡（第57図、写真図版20）
＜位置・検出状況＞⑨区南部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞ SE05井戸跡と重複する。本遺構が新しいと推定される。
＜柱穴＞６個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－19°－Ｗである。
＜平面形式＞梁桁２×２間の規模は、桁行4.24m、梁間3.33mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.66m～2,12mであり、基準寸法は７尺と推定される。

＜遺物＞無し。
＜時期＞明確ではないが、古代と推定される。

SB26掘立柱建物跡（第58図、写真図版21）
＜位置・検出状況＞⑨区北部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞SB29・38掘立柱建物跡と重複するが、新旧不明。
＜柱穴＞５個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－42°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁１×２間の規模は、桁行2.72m、梁間1.81mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.9m～2.72mであり、基準寸法は９尺と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞中近世と推定される。

SB27掘立柱建物跡（第59図、写真図版21）
＜位置・検出状況＞⑨区北西部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞SK54土坑と重複するが、本遺構が新しい。
＜柱穴＞７個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－45°－Ｗである。
＜平面形式＞３間×１間の掘立柱建物跡で、規模は桁行7.87m、梁間4.09mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は236㎝（7.8尺）～252㎝（8.5尺）であり、基準寸法は８尺と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞中近世と推定される。

SB28掘立柱建物跡（第60図、写真図版21）
＜位置・検出状況＞⑨区中央部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞６個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－36°－Ｅである。
＜平面形式＞桁梁２×１間の規模は、桁行4.84m、梁間3.03mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は242㎝（８尺）であり、基準寸法は８尺と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞中近世と推定される。

SB29掘立柱建物跡（第61図、写真図版21）
＜位置・検出状況＞⑨区北部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞本遺構は重複するSD27溝跡より古く、SI01竪穴住居跡より新しい。また、SB26・38掘立柱建物跡とも重複するが、新旧関係は不明である。

＜柱穴＞12個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルト若しくは暗褐色シルトによる単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－43°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×２間の規模は、桁行7.72m、梁間4.54mである。北面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞柱間寸法は242㎝（８尺）～272㎝（９尺）であり、基準寸法は８尺と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞中近世と推定される。

SB30掘立柱建物跡（第62図）
＜位置・検出状況＞⑩区南部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係・建て替え＞SB04掘立柱建物跡より新しい可能性がある。
＜柱穴＞８個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルト若しくは暗褐色シルトによる単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－33°－Ｅである。
＜平面形式＞桁梁２間×２間の掘立柱建物である。規模は、桁行約5.10m、梁間約5.10mのほぼ正方形である。
＜柱間寸法＞桁行南北で若干の差があり、北側は約1.70～1.80m前後、南側は約2.80m前後である。廂があると推定した場合、柱間は約0.60m前後である。梁行の柱間寸法は約2.20～1.35m前後である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の配置から13c 中～後葉の時期に位置付ける。これは本遺跡の鎌倉Ⅱ期に相当する。

SB33掘立柱建物跡（第63図、写真図版18）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部やや南東に位置する。検出層位はⅣ層中である。
＜重複関係・建て替え＞SK44・45・48陥し穴を裁り、SB14・15掘立柱建物跡に裁られる。SD47溝跡との新旧関係不明である。
＜柱穴＞10個の柱穴から構成される。
＜埋土＞P1171・1328で柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－21°－Ｅである。
＜平面形式＞３間×２間の掘立柱建物である。規模は、桁行約7.00m前後、梁間約4.90m前後である。南側１面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.00m前後である。梁間の柱間寸法は約1.75m～1.95mである。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構配置から13c 初～前葉に位置付ける。これは本遺跡の鎌倉Ⅰ期に相当し、同時期の遺構としてSB04・06・09・34掘立柱建物跡、SX06墳墓、SX15竪穴状遺構などがある。

SB34掘立柱建物跡（第64図）
＜位置・検出状況＞⑩区南東部に位置する。検出面はⅣ層中である。桁行方向南西側が調査区外に伸び、その全容は検出できなかった。
＜重複関係・建て替え＞SD50溝跡、SK94・95土坑より新しい。

＜柱穴＞17個の柱穴から構成される。
＜埋土＞全ての柱穴状土坑で柱痕跡を確認することはできなかった。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－24°－Ｅである。
＜平面形式＞南西部が調査区外に延びるため、全容は明らかではないが、現状での検出では３間以上×４間である。規模は、桁行9.20～10.00m、梁間約7.60m前後である。桁行方向２面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は約2.00m前後である。梁間の柱間寸法は約3.50m前後である。廂もしくは下屋と想定される東側の柱間は約1.50m前後で、反対西側の柱間は約2.00m前後と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構配置から13c 初～前葉に位置付ける。これは本遺跡の鎌倉Ⅰ期に相当する。

SB35掘立柱建物跡（第65図）
＜位置・検出状況＞⑨区北東部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞ SK56土坑と重複するが、新旧関係は不明である。
＜柱穴＞４個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－３°－Ｗである。
＜平面形式＞梁桁１×１間の規模は、桁行4.09m、梁間3.63mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は3.63m～4.09mであり、基準寸法は不明である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞古代と推定される。

SB36掘立柱建物跡（第66図）
＜位置・検出状況＞⑨区東部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞４個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、黒褐色シルトを主体とする単層のものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－58°－Ｅである。
＜平面形式＞梁１×１間の規模は、桁行2.72m、梁間1.51m～1.96mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は1.51m～2.72mであり、基準寸法は不明である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞時期は不明である。

SB37掘立柱建物跡（第67図）
＜位置・検出状況＞⑨区東部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞10個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、暗色シルトを主体とし、黄褐色粘土ブロックが混入するものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－59°－Ｗである。
＜平面形式＞梁桁３×２間の規模は、桁行5.15m、梁間3.18mである。

＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は1.51m～1.81mであり、基準寸法は６尺と推定される。
＜遺物＞無し。
＜時期＞時期は不明にあるが、中世の可能性もある。

SB38掘立柱建物跡（第68図）
＜位置・検出状況＞⑨区北部に位置する。
＜重複関係･建て替え＞重複するSD27･28溝跡より本遺構の方が古い。また、SB26･29掘立柱建物跡･SI01竪穴住居跡との新旧関係は不明である。
＜柱穴＞10個の柱穴から構成される。
＜埋土＞柱穴の埋土は、暗色シルトを主体とし、黄褐色粘土ブロックが混入するものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－42°－Ｗである。
＜平面形式＞梁桁４×２間の規模は、桁行12.57m、梁間5.75mである。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は2.87m～3.33mであり、基準寸法は不明である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞時期は不明にあるが、中世の可能性もある。

SB40掘立柱建物跡（第69図）
＜位置・検出状況＞⑨区北部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞SD32・36溝跡より古い。
＜柱穴＞10個の柱穴から構成される
＜埋土＞柱穴の埋土は、暗色シルトを主体とし、黄褐色粘土ブロックが混入するものが多い。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－51°－Ｗである。
＜平面形式＞梁桁５×１間の規模は、桁行6.96m、梁間2.57m～2.87mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.9m～2.87mであり、基準寸法は不明である。
＜遺物＞無し。
＜時期＞時期は不明にあるが、中世の可能性もある。

SB41掘立柱建物跡（第70図、写真図版93）
＜位置・検出状況＞②区に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞暗褐色･褐灰色シルト質粘土を主体としており、５個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－70°－Ｗである。
＜平面形式＞桁行２間の規模は、桁行7.27mである。梁間については母屋が調査区外に延びていくため判然としない。ただし、本建物は南面に下屋を持つ構造である。
＜柱間寸法＞柱間寸法は3.33m～3.93mである。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB42掘立柱建物跡（第71図、写真図版93）
＜位置・検出状況＞②区に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞５個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、１個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－65°－Ｗである。
＜平面形式＞桁行４間の規模は、桁行8.18ｍである。梁間については母屋が調査区外に延びていくため判然としない。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.66ｍ～2.42ｍであるが、基準寸法は不明である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB45掘立柱建物跡（第72図）
＜位置・検出状況＞㉔区北西部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB46・47掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞９個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、５個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－25°－Ｅである。
＜平面形式＞桁梁４×１間の規模は、桁行9.24ｍ、梁間4.99ｍである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は2.27ｍ～4.09ｍであり、基準寸法は８尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB46掘立柱建物跡（第73図）
＜位置・検出状況＞㉔区北西部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB45・47掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞９個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、７個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－65°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行5.90ｍ、梁間4.09ｍである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.51ｍ～2.42ｍであり、基準寸法は6.5尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB47掘立柱建物跡（第74図）
＜位置・検出状況＞㉔区北西部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB45・46掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞９個から構成される。
＜埋土＞黒褐色シルト質粘土を主体としており、５個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－62°－Ｗである。

＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行7.87m、梁間3.93mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は2.27m～2.87mであり、基準寸法は８尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB48掘立柱建物跡（第75図）
＜位置・検出状況＞㉔区北部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞なし。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、５個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－65°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×２間の規模は、桁行5.54m、梁間3.93mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.51m～2.57mであり、基準寸法は6.5尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB49掘立柱建物跡（第76図）
＜位置・検出状況＞㉔区北部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB50掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、８個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－59°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行7.27m、梁間4.24mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は2.42m であり、基準寸法は８尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB50掘立柱建物跡（第77図）
＜位置・検出状況＞㉔区北東部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB49掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞７個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、６個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－63°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行6.21m、梁間3.33～3.63mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.96m～2.12mであり、基準寸法は７尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB51掘立柱建物跡（第78図）
＜位置・検出状況＞㉔区北東部に位置する。検出面はⅣ層である。

＜重複関係＞なし。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、６個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－62°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行6.06m、梁間4.09mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.81m～2.17mであり、基準寸法は７尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB52掘立柱建物跡（第79図、写真図版00）
＜位置・検出状況＞㉔区北部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞なし。
＜柱穴＞６個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色土を主体としており、４個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－32°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行6.51m、梁間3.33mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.66m～2.42mであるが、基準寸法は８尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB53掘立柱建物跡（第80図）
＜位置・検出状況＞㉔区北東部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB54掘立柱建物跡、SD108・109溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。
＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒褐色シルト質粘土を主体としており、８個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－61°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×２間の規模は、桁行9.84m、梁間6.51mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.5 1m～3.78mであり、基準寸法は８尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB54掘立柱建物跡（第81図）
＜位置・検出状況＞㉔区北東部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB53掘立柱建物跡、SD108･109溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である（SD108より古く、SB53掘立柱建物跡より新しい可能性がある。
＜柱穴＞12個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、11個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－64°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×２間の規模は、桁行8.33m、梁間5.45mである。北面に廂もしくは下屋を持つ構造と考えられる。

＜柱間寸法＞柱間寸法は2.57m～3.03mであり、基準寸法は９尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB55掘立柱建物跡（第82図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞なし。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、４個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－31°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行4.39m、梁間2.42mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.75m～2.42m であり、基準寸法は８尺である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB56掘立柱建物跡（第83図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞なし。
＜柱穴＞７個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、７個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－35°－Ｅである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行7.12m、梁間4.09mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.51m～3.03mであり、基準寸法は不明である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB57掘立柱建物跡（第84図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB58・59掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞９個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、７個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－61°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行6.66m、梁間2.87mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.81～2.87mであり、基準寸法は７尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB58掘立柱建物跡（第85図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB57・59・61掘立柱建物跡との新旧関係は不明。SK172～174・176・178～181・191土

坑より新しい。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒褐色シルト質粘土を主体としており、８個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－58°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行7.12m、梁間3.33mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.97m～2.72mであり、基準寸法は７尺か８尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB59掘立柱建物跡（第86図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB57・58・61掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係不明である。SD119溝跡、SK172・176・181土坑より古い。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、７個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－59°－Ｅである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行7.12m、梁間3.18mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.51～3.63mであり、基準寸法は７尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB60掘立柱建物跡（第87図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB62～64掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞11個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、４個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－65°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁５×１間の規模は、桁行7.57m、梁間3.78mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.9m～2.72mであり、基準寸法は９尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB61掘立柱建物跡（第82図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB59・63掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としている。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－50°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×１間の規模は、桁行3.18m、梁間1.96mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.9～1.96mである。

＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB62掘立柱建物跡（第88図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB60・63～65掘立柱建物跡、SD116溝跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、３個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－59°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁５×１間の規模は、桁行11.3m、梁間３mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は桁行き1.48～2.32mで、梁間3.00mである。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB63掘立柱建物跡（第89図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB60～62・64・65掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞12個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、６個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－63°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×２間の規模は、桁行８m、梁間3.3mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は桁行き0.64～2.4mで、梁間0.86～1.72mである。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB64掘立柱建物跡（第90図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB60・62・63・65掘立柱建物跡とSD114・116溝跡と重複している。建物跡同士及びSD116溝跡との新旧関係は不明であるが、SD114溝跡よりは新しい。
＜柱穴＞16個から構成される。
＜埋土＞黒・黒褐色シルト質粘土を主体としており、12個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－60°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×３間の規模は、桁行7.87m、梁間3.93mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.90m～2.57mであり、基準寸法は７尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB65掘立柱建物跡（第91図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB62～64掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。

＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、４個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－63°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×１間の規模は、桁行5.75m、梁間2.72mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.6m～1.81mであり、基準寸法は９尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB66掘立柱建物跡（第92図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部南に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB67・68掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、６個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－63°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×１間の規模は、桁行6.06m、梁間2.72mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.75m～1.81mであり、基準寸法は６尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB67掘立柱建物跡（第93図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部南に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB66・68・69掘立柱建物跡と重複している。建物跡同士の新旧関係は不明である。
＜柱穴＞11個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、７個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－58°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×２間の規模は、桁行4.84m、梁間3.48mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は0.75m～1.66mであるが、基準寸法は不明である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB68掘立柱建物跡（第94図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部南に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB66・67・69掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、８個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－60°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×２間の規模は、桁行5.75m、梁間2.72mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.36m～2.57mであるが、基準寸法は不明である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB69掘立柱建物跡（第95図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部南に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB67・68・70・72・73掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、７個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－75°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×２間の規模は、桁行5.15m、梁間2.42mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.21～2.42mであり、基準寸法は８尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB70掘立柱建物跡（第96図）
＜位置・検出状況＞㉔区中央部南に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB69・71・73・74掘立柱建物跡、SD120溝跡と重複している。建物跡同士の新旧関係は不明であるが、SD120溝跡より古い。
＜柱穴＞10個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、３個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－64°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁３×２間の規模は、桁行6.96m、梁間4.39mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.81～2.57mであり、基準寸法は８尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB71掘立柱建物跡（第97図）
＜位置・検出状況＞㉔区南部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB70・73掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞６個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、４個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－60°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁２×１間の規模は、桁行4.99m、梁間3.33mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は2.27m～2.72mであり、基準寸法は８尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB72掘立柱建物跡（第98図）
＜位置・検出状況＞㉔区南部に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ SB69・73・74掘立柱建物跡、SD120溝跡と重複している。建物跡同士の新旧関係は不明であるが、SD120よりは古い。
＜柱穴＞11個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、３個の柱穴において柱痕跡を確認している。

＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－60°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁４×２間の規模は、桁行3.6m、梁間3.0mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は様々である。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB73掘立柱建物跡（第99図）
＜位置・検出状況＞㉔区に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB70～72・74掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞15個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、５個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－38°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁２×２間の規模は、桁行7.80m、梁間5.00mである。東西に庇を持つ。
＜柱間寸法＞柱間寸法は3.00m～4.00mと幅がある。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB74掘立柱建物跡（第100図）
＜位置・検出状況＞㉔区と⑦区に跨がって位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞SB70～73・75掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明。
＜柱穴＞８個から構成される。
＜埋土＞黒色シルト質粘土を主体としており、３個の柱穴において柱痕跡を確認している。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－62°－Ｗである。
＜平面形式＞桁梁２×４間の規模は、桁行7.00m、梁間3.20mである。
＜柱間寸法＞柱間寸法は1.65m～2.00mと幅がある。ただし、南側は未検出にある。
＜遺物＞なし。
＜時期＞古代から中世に属すると想定されるが詳細は不明である。

SB75掘立柱建物跡（第101図）
＜位置・検出状況＞⑦区中央部北に～㉔区南部に位置する。
＜重複関係・建て替え＞なし。
＜柱穴＞26個の柱穴が確認された。
＜埋土＞確認された柱穴のうち、半数に柱痕跡を確認した。
＜建物方位＞桁行の軸方位はＮ－28°－Ｅである。
＜平面形式＞桁行４間、梁行４間以上の掘立柱建物である。規模は、桁行2116cm（69.8尺）、梁間960cm（31.7尺）である。東西・南３面に廂がつく。
＜柱間寸法＞桁行の柱間寸法は236cm（7.8尺）～252cm（8.5尺）であり、基準寸法は８尺と推定される。梁間の柱間寸法は205cm（6.8尺）～224cm（7.4尺）で、基準寸法は７尺と推定される。
＜遺物＞なし。
＜時期＞12世紀と推定される。

4　柱　穴　列

⑤区から１基、⑭区から３基、総数で４基検出した。⑤区から検出した１棟は、掘立柱建物跡として展開しないことを確認しているが、⑭区で検出したものは調査区の形状（主に幅）に依存して続き部分を検出できなかったものと推定される。

SA01柱穴列（第35図、写真図版22）
＜位置・検出状況＞調査⑤区の東端に位置する。現況は水田跡である。
＜平面形・規模＞ほぼ南－北方向に直線的に並び、軸方向はＮ－２°－Ｗである。全長は11.5ｍで、６個の柱穴で構成される。柱間寸法は、2.20ｍ前後でほぼ一定である。柱穴の規模は、直径0.3～0.6ｍで、深さは0.3～0.5ｍまでみられる。
＜埋土＞黒褐色シルト質砂質土を主体とする。柱痕跡は看取されないことから、柱は抜き取られている可能性が高い。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺構の時期を推定する遺物は出土しておらず、時期は不明である。土層の様相からは、古代～現代の何れかと推定される。埋土にゴミなどの混入は認められなかったことから、積極的に現代と判断することに躊躇があり、柱穴列として遺構登録した経緯がある。

SA02柱穴列（第35図、写真図版22）
＜位置・検出状況＞⑭区Ｄ東部端に位置する。検出層位は⑭区基本土層Ⅲ層である。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞軸方向はＮ－68°－Ｗである。全長3.87ｍで、３個の柱穴から構成される（P2503・2504・2505）。柱間寸法は約1.60ｍ前後である。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とする。
＜遺物＞無し。
＜関連遺構＞本遺構の南側約0.50～1.00ｍの位置にSK126土坑、SX25不明遺構が直角に存在する。今回SA02柱穴列との直接的な関係は明らかにはならなかったが、配置の状況を考えると、一連のものである可能性がある。＜時期＞周辺からも遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

SA03柱穴列（第36図、写真図版22）
＜位置・検出状況＞⑭区Ｄ中央部北側に位置する。検出層位は⑭区基本土層Ⅲ層中である。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞軸方向はＮ－68°－Ｗである。全長6.40ｍで、５個の柱穴から構成される（P2513・2514・2515・2523・2516）。柱間寸法はP2513・2514・2515間が約1.80～1.90ｍ前後である。
＜埋土＞ P2514・2515・2523で柱痕跡が確認された。
＜遺物＞無し。
＜時期＞不明である。

SA04柱穴列（第36図、写真図版22）
＜位置・検出状況＞⑭区Ｄ中央部北側、SA03柱穴列の南側に位置する。検出層位は⑭区基本土層Ⅲ層中である。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞軸方向はＮ－68°－Ｗである。全長7.10ｍで、４個の柱穴から構成される（P2508・2509・2510・2511）。柱間寸法は順に2.55ｍ、2.17ｍ、1.32ｍである。
＜埋土＞ P2508で柱痕が確認された。
＜遺物＞無し。
＜時期＞不明である。

５　柱穴状土坑

3,563個の柱穴状土坑を検出した。検出数の多かった調査区としては、⑦･⑨･⑩･㉔区が挙げられる。それらは、現場段階から掘立柱建物跡を想定・復元できたものと、室内整理において机上で建て復元したもの（推定したもの）、掘立柱建物跡に復元できなかったもの、の３者がある。ここでは、掘立柱建物跡に復元できなかった柱穴状土坑について、調査区毎に概要を記述する。

⑦・㉔区は、全般に小形で覆土も黒色土以外が多く認められる。そして、旧地形の削平を受けていることもあり、全般に深度が浅い。推定の域は出ないが、古代より新しいものが多いと考えられ、凡そ12世紀奥州藤原氏と同時期のものや、中近世に帰属するものが多い様子で捉えられる。

⑨区は、同区検出遺構の時期から推定して古代と中近世に帰属するものの、両者が存在すると考えられる。推定の域を出ない内容になるが、古代と推定されるものの埋土は黒色土が多く、柱穴規模は小形が多い。対して、中近世は、暗褐～褐色土を主体とし、柱穴の平面規模は古代と遜色ないが柱穴深度が深いものが多い。

⑩区は、埋土は黒色土を中心とするが、柱穴規模にばらつきが看取され、時期の推定が難しい。掘立柱建物跡に復元されたものの建物形態からは、古代より新しいと捉えられるものが多い。

６　墳　　墓

SX06墳墓（第102・103図、写真図版23～26）
＜位置・検出状況＞⑩区北部に位置する。検出面は⑩区基本土層Ⅳ層中である。積土は認められないが、遺構の形態などから墳墓と調査判断した。
＜重複関係＞ SD41溝跡、SK29・31・33土坑・SK90陥し穴を切る。
＜平面形・規模＞平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向はＮ－28°－Ｅである。溝は堆積状況から、１～３次にわたって増幅されており、辺の長さは第１開口部外径が8.59×9.24ｍ、内径6.85×7.31ｍ、溝上端0.54～1.01ｍ、深さ0.69ｍである。第２開口部の外径は7.15×7.97ｍ、内径5.57×6.08ｍ、溝上端0.62～1.00ｍ、深さ0.49ｍである。第３開口部は外径8.59×16.95ｍ、内径6.85×15.14ｍ、溝上端0.62×1.14ｍ、深さ0.49ｍである。南東側に張り出し部があり、第１・３開口部からＳ－121°－Ｅに向かった後、Ｓ－42°－Ｗ方向に走行する。走行距離は順に0.90ｍと2.63ｍで、深さは0.23ｍである。南東側にはＳ－58°－Ｅ方向に溝が続いており、そのまま東側調査区外へ延びる。溝上端最大径は1.74ｍで深さは0.14ｍである。

＜床面・掘り方＞一部湾曲するものの、底面に凹凸はなく平坦である。
＜壁＞外傾して立ち上がるものがほとんどだが、一部外反する。
＜埋土＞土層断面Ｅ・Ｇ・Ｊ・Ｋベルトの１層に堆積した暗褐色シルト質土には地山塊が混入しており、これは古代の土坑墓に多く見られるマウンドが本来本遺構にも存在し、崩落して周溝内部に堆積したものと推察される。
＜付属施設＞東側に張り出し部が設置されている。
＜遺物＞（第172図15、写真図版129）土器類421.9ｇ出土した。全て古代の土師器・須恵器である。15の須恵器を掲載した。
＜時期＞出土遺物は出土状況から遺構の帰属時期に伴う遺物ではなく、埋め戻しの際に混入したものと推察される。従って、遺構の主軸方向、他遺構の遺構配置から本遺構は13c 初～前葉、13c 中～後葉に継続して存在した中世墓と推察される。これは本遺跡の鎌倉Ⅰ・Ⅱ期に相当する。

7　堀　　跡

⑨区1条、⑪区１条の合わせて２条検出した。この２条は調査区の形状に依存して明確には分からなかったが、同一の堀跡と推定される。現況は水田・畑地・農道であったが、現在の地形から溝跡の進路を推定することはできない。

SD26堀跡（第104・105図、写真図版27～29）
＜位置・検出状況＞⑨区中央部に位置する。検出面はⅣ層中で、南北方向に延びる大規模な溝状プランとして認知した。
＜重複関係＞SD27溝跡に裁られ、SE04・06井戸跡・SX13不明遺構を裁り、SD30・62溝跡とは新旧不明（同時期か?）。また、⑪区で検出されたSD64堀跡は本遺構が直角気味に西へ延びると仮定した場合、続き部分である可能性もある。
＜平面形・規模＞平面形はＮ－45°－Ｅに直線的に延びた後、北でＮ－40°－Ｗ及びＮ－100°－ＥへＴ字状に分かれる。総全長47ｍ前後、溝の上幅5 ～ 6.5ｍ、下幅3.5 ～ 4.5ｍである。深さは、検出面から50 ～ 60㎝である。
＜埋土＞埋土は１～７層に分層した。傾向としては、シルト系が１層、泥質土系が２層･３層･３ａ層･４ａ層・６層、地山粘土系が４層・５層・５ａ層・７層となる。全般的にな堆積土層としては、埋土上位に１層暗褐色シルト、埋土中位に３層オリーブ黒色泥質土、埋土下位に５層明黄褐色粘土質砂質土、壁際の中位～下位に５ａ層が観られ、２層・４層・６層・７層は局所的に観察される。全て自然堆積と捉えられる。泥質土系のあり方から考察すると、埋没当初は壁の崩壊などに伴う地山粘土系の土層が堆積し、その後やや水を含む環境化にあった時分の堆積層が泥質土系と考えられる。遺物は、１層を中心に各層比較的満遍なく出土したが、埋土中位以下は少量にある。
＜底・壁＞底面の標高値は、第105図 A-A’ 断面作成地で32.55ｍ、B-B’ 断面作成地で32.61ｍ、C-C’ 断面作成地で32.68ｍ、D-D’ 断面作成地で32.65ｍ、E-E’ 断面作成地で32.55ｍである。この状況からは、平坦を基調とし、北東側から南西側に向かってわずかに底面標高が減じる様子にある。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第172・173・185・186図、写真図版129・137・138）土器類2,622.8ｇ、石器類7,031.3ｇ、陶磁器類156.5ｇ、鉄製品４点、鉄滓118.1ｇが出土した。その内、16～21、193・194、222～225、

234・235を掲載した。
＜時期＞出土遺物の内、年代推定資料になり得そうな陶器類を見ると、193は18世紀代の肥前産、194は12世紀代の常滑産で、時期幅が大きい。重複遺構との新旧関係からは、古代よりは新しく、近世以降より古い。堀の断面形からの推察として、底面がやや広い特徴からは防御性より区画を意識している見方も生じようか。状況から中世（12世紀代を含め）若しくは近世と推定しておきたいが、明確には分からない。なお、本遺構の北側には、城館遺跡である松の木沢川を挟んで六日入城が立地することから、それと関連する時代・性格の遺構である可能性も考えられる。

SD64堀跡（第121図、写真図版29）
＜位置・検出状況＞⑪区南部に位置する。現況は西半分が水田部分で東半分が農道直下になる。水田部分・農道直下部ともに検出面はⅣ層中である。水田部分では本来の地形が80㎝以上の深度で削平を受けていると推定される。農道直下部分では、東側調査区境で作成した土層断面をみる限り、堀上部が削平された上に盛土が施されているが、水田部分と比較して削平の度合いが少なかったと推定できる。
＜重複関係＞SD58溝跡に裁られ、SD65溝跡を裁る。また、走行方向などからの推定として、⑨区で検出したSD26堀跡の続き部分である可能性が極めて高い。
＜平面形・規模＞検出部での総全長は6.4m前後で、平面形はＮ－50°－Ｗに直線的に延びる。溝の上幅４ｍ前後、下幅2.8m前後である。深さは、検出面から50～60㎝である。
＜断面形・底・壁＞底面はほぼ平坦である。水田部分では（平面的には）壁がわずかに残存するだけでほとんど立たない。農道部分との調査区境で作成した断面図からは外傾に立ち上がる。
＜埋土＞埋土は第121図 A-A’ 断面図の61～63層になる。自然堆積である。63層とした黄灰色粘土質泥質土は、⑨区で検出したSD26堀跡埋土５層と類似する。
＜遺物＞（第173図22～25、写真図版129）土器類646.6ｇ出土した。22～25を掲載した。
＜時期＞出土遺物や重複遺構との新旧関係からは特定できない。遺構の性格から中世若しくは近世と推定しておきたい。

８　溝　　跡

124条検出された。時期毎の数は、古代～中世が90条、中～近世が14条、近世若しくはそれ以降が21条（時期不明や概ね近代や現代と推定されるもの）である（推定含む）。特記事項としては、⑦・㉔区で12世紀代と推定される溝跡を５条検出している。なお、個々の事実記載は省略したので、第８表の遺構観察表を参照いただきたい。

９　陥　し　穴

先に、本稿では狩猟用と捉えた土坑類を「陥し穴」と呼ぶこととする。加えて、遺構との新旧関係や堆積土の様相から確実に古代以前に構築・埋没されていることから、全て縄文時代に帰属すると調査判断される。総数で43基検出した。それらの形態をみると、２タイプに大別される。ここでは、Ａ類とＢ類に分け記述する。
Ａ類は平面形が円形若しくは小判状を呈する。34基検出した（認知した）。底面に逆茂木痕と推定

される小穴を伴うものが12基認められる。規模は開口部径110㎝前後、深さ56㎝くらいが平均的な規模である。埋土は、全て自然堆積で、全体的な傾向としては埋土上位～下位に黒～黒褐色シルト、埋土下位～底面付近に地山土の再堆積層で構成されるものが多い。埋土の主体を占める黒～黒褐色シルトは、締りの良い（やや硬い）土質で、後述する溝状の陥し穴の埋土や古代の竪穴住居跡などに堆積する黒土とは相違する（溝状の埋土は全般に軟らかい）。検出区は全て⑩区で、それらの分布・配置については検討の余地を残す。時期は、今回の調査からは出土遺物やテフラが認められなかった（To－Cu などが想定されようか）ことで、詳細な時期推定ができない（縄文時代としか推定できない）。ただ、上記のとおりＢ類とした溝状の陥し穴とは埋土の様相が相違することから、より古期に帰属する遺構と考えられる。また、過去の調査事例を見る限り縄文時代早期～前期前半の可能性も考えられようか。

Ｂ類は通常多く見られる溝状を呈する陥し穴である。９基検出した。開口部径は、長軸径169～408㎝、短軸径25～69㎝、深さ20～81㎝である（深さは遺構上部が破壊を受けていると捉えられ参考値の評価に留まる）。埋土は、全て自然堆積で、全体的な傾向としては埋土上位に黒褐色シルト（締りが弱い土質）、埋土中位～下位が地山土の再堆積層で構成されるものが多い。⑧区で１基、⑨区で１基、⑩区で４基検出した。時期は今回の調査からは推定できない。過去の調査事例を見る限り、縄文時代中期末～後期前半の可能性も考えられようか。

なお、個々の事実記載は省略したので、第９表の遺構観察表を参照いただきたい。

10　井　戸　跡

11基を検出した。古代が７基、12世紀と推定されるもの３基、近代（若しくはそれ以降）が１基である。

SE01井戸跡（第149図、写真図版59）

＜位置・検出状況＞⑦区西部に位置する。検出面はⅣ層中で、暗褐色粘土質シルトによる円形プランとして認知した。

＜重複関係＞無し。

＜平面形･規模＞円形で、開口部径2.34×2.21ｍ、底部径0.77×0.74ｍ、検出面からの深さ約1.31ｍである。やや浅いか。

＜埋土＞埋土は１～10層に分層した。埋土上位の１層は暗褐色シルト質粘土で硬く締まる。人為堆積で、他の土層と比較して土質や締まり具合が違うことから、埋め戻しの際に踏み固められていると捉えられる。埋土中位～底部及び壁際に堆積する２層～10層は判別できなかったが、人為堆積の可能性が高い。特徴的なのが２層黒色泥質土で、層厚６～10㎝でレンズ状に堆積する。同じような堆積層が本遺構から北東約3.5ｍに位置する SE02井戸跡にも見られる（※同井戸跡の５層）。炭化物が土壌化した様にも見てとれる。あるいは井戸の廃棄に際して、火を燃やすなどの祭祀的な行為に関係する土層の可能性も考えられようか。４・６層は壁際の堆積土層で地山系の土層で壁の崩壊土である。埋土中位～底面まで主体を占める３・５・７～10層は、グライ化した泥質土である。遺物は１層を主体に３・５・９層から出土している。

＜底面・壁＞底面は湧水が激しく、確実な観察記録を残せなかった。壁は底部から直立気味に立ち上がり、胴部中位でやや抉れ、胴部上半から開口部に向かって大きく外反して立ち上がる。

＜遺物＞（第174図39、写真図版130）出土遺物は、土器類335.1ｇ、石器367.2ｇ（１点）が出土した。39の須恵器片を掲載した。口頸部に波状文が施文される。
＜時期＞１層出土の須恵器片は９世紀代と推定される。ただ、当該期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が未発見にある状況から、井戸使用期に伴う建物跡としては、本遺構の東側の空間に所在する12世紀代と推定される SB01・03・75掘立柱建物跡が有力である。年代決定の根拠は弱いが、ここでは12世紀代の可能性で推定しておきたい。

SE02井戸跡（第150図、写真図版59）
＜位置・検出状況＞⑦区北西部の北端に位置する。検出面はⅣ層中で、暗褐色シルトによる円形プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形･規模＞円形で、開口部径398～402㎝、底部径126～134㎝、検出面からの深さ約211㎝である。
＜埋土＞埋土は１～13層に分層した。埋土上位の１～３層は人為堆積で、それらより下位の土層と比較して土質や締まり具合が違うことから、埋め戻しの際に踏み固められていると捉えられる。埋土中位に堆積する４～12ｂ層及び底部に堆積する13層は判別が難しいが、状況からは人為堆積の可能性が高い。
＜底面・壁＞底面は湧水が激しく、確実な観察記録を残せなかったがほぼ平坦と捉えられる。壁は底部から直立気味に立ち上がり、胴部中位から開口部に向かって大きく外反して立ち上がる。
＜遺物＞（第174・185図40～43・201、写真図版130・137）出土遺物は、土器987ｇ、石器1216.9ｇ（３点）が出土した。40～43の土師器・須恵器及び201の常滑の甕片を掲載した。
＜時期＞出土遺物は古代の土器類と12世紀の陶器である。井戸の廃絶時期は後者の12世紀と推定される。井戸使用期の可能性がある建物跡としては、本遺構の東側の空間に所在する12世紀代と推定される SB01～03掘立柱建物跡が有力である。

SE03井戸跡（第149図、写真図版59）
＜位置・検出状況＞⑦区南東部に位置する。検出面はⅣ層中で、暗褐色シルトによる円形プランとして認知した。
＜重複関係＞ SD14溝跡に裁られる。
＜平面形・規模＞円形で、開口部径218×168㎝である。深さは184㎝である。
＜埋土＞埋土は10分層に細分した。埋土上位の１層暗褐色シルトは、人為堆積で土器片が混入する。１層より下位の土層と比較して、土質や締まり具合が違うことから、埋め戻す際に踏み固められていると捉えられる。２層灰黄褐色泥質土も人為堆積である。To-a テフラが微量認められるが、埋め戻し土層自体にテフラが混入したと捉えられる（※テフラの降下時期を反映していない）。３層以下（２～10層）は、黒褐色やオリーブ黒色を呈する泥質土（５～９層）を主体に地山壁の崩壊土（４層・10層）が混じる。堆積様相的には判断が難しいが、木質が土壌化したと推定される３層や、５～６層より獣骨（馬骨）が出土するなどの状況から、人為が介在した土層であることは確かで、人為による埋め戻し土と推定される。
＜底面・壁＞底面は湧水が激しく、確実な観察記録を残せなかったが、ほぼ平坦と捉えられる。壁は底部から直立気味に立ち上がり、胴部中位から頸部に向かいやや窄み、頸部～開口部に向かって大きく外反して立ち上がる。

＜遺物＞（第186図、写真図版138）出土遺物は、土器19.2ｇ、石器4,816.1ｇ（２点）、獣骨約341.7ｇが出土した。土器類は磨滅した土師器小片で、不掲載とした。石器は、現場時に磨りや敲きの使用痕ありと判断した礫２点を敲磨器として仮登録したが、整理の再観察で自然礫の可能性が高まったことから、不掲載とした。232とした獣骨片は、獣骨に詳しい佐々木務氏により馬の下顎骨であることが分かった。佐々木氏によれば、かなり小さい馬ではないかと推測される。出土状況を写真図版59に掲載したので、参照いただきたい。
＜時期＞出土遺物や重複遺構との新旧関係からは、本遺構の時期を推定するのが困難にある（※平安以降近世以前）。井戸の使用に伴う建物跡としては、本遺構の東側の空間に所在する12世紀代と推定されるSB01・03・75掘立柱建物跡が有力である。根拠は弱いが、ここでは12世紀代の可能性で推定しておきたい。馬骨については、下顎のみでその他の部位は出土していない。出土状況からは、廃絶された井戸が埋まりきる。

SE04井戸跡（第149図、写真図版60）
＜位置・検出状況＞⑨区中央部に位置する。検出状況はSD26堀跡の精査用土層断面ベルトで、堀跡の下位に土坑状の深い遺構プランを検出し、井戸跡と推定された。その後の再検出作業で、本遺構の東側半分くらいはⅣ層中で認知された。
＜重複関係＞SD26堀跡に裁られる。
＜平面形・規模＞平面形はほぼ円形で、開口部径218×168㎝である。深さは、湧水のため底面の把握が困難な状況であったが、底面と捉えた砂礫層面までは180㎝前後にある。
＜埋土＞埋土は全て人為堆積で３つに大別・分層した。埋土上～中位の１層は黒褐色シルトを主体に黄褐色粘土ブロックが15％ほど混入する。その下位の２層は､明黄褐色粘土を中心とする土層である。埋土中～底面に堆積する３層は、オリーブ黒色泥質土で、非常に脆い（軟質な）土質にある。１・２層は、３層と土質や締まり具合が違うことから、埋め戻す際に踏み固められていると捉えられる。
＜底面・壁＞底面は、前述のとおり砂礫層と捉えた。ほぼ平坦である。壁は底部から胴部上位まで直立に近いやや外傾して立ち上がり、胴部上位付近から開口部にかけて外反して立ち上がる。
＜遺物＞土器類11.7ｇが出土した。磨滅した土師器小片である。不掲載とした。
＜時期＞出土遺物は平安時代の土師器である。重複遺構との新旧関係からは、中世～近世と推定したSD26堀跡より確実に新しい。状況から古代と推定しておきたい。

SE05井戸跡（第149図、写真図版60）
＜位置・検出状況＞⑨区中央部に位置する。検出面はⅣ層中で、肉眼観察では周囲の地山よりやや暗い色調に観える明黄褐色シルトによる円形気味のプランとして認知した。
＜重複関係＞重複関係の遺構は無いが、平面的にはSB24掘立柱建物跡と重複する。周囲の状況から、本遺構が古いと推定しておきたい。
＜平面形・規模＞平面形はほぼ円形で、開口部径180×173㎝、深さは203㎝である。
＜埋土＞埋土は全て人為堆積で４つに大別・分層した。埋土上～中位の１層はにぶい黄褐色シルトを主体に黄褐色粘土ブロックが３％ほど混入する。埋土中位の２・３層は、オリーブ黒色泥質土で、非常に脆い（軟質な）土質にある。埋土下位～底面の４層は灰色泥質土で、２・３層とは比較して色調的には黒味が弱くと粘性が非常に強い差異がある。１層と２～４層とでは土質や締まり具合が違うことから、１層にみ埋め戻す際に踏み固められていると捉えられる。

＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は底部から胴部上位まで直立に立ち上がり、胴部上位付近から開口部にかけて外反して立ち上がる。
＜遺物＞（第186・187図、写真図版138）出土遺物は、石器539.4ｇ（１点）、鉄製品8.5ｇ（１点）が出土した。226・240を掲載した。
＜時期＞土師器などの出土遺物が無く、時期は不明である。重複遺構との新旧関係からは、古代に廃絶された可能性が極めて高い。

SE06井戸跡（第151図、写真図版60）
＜位置・検出状況＞⑨区北部に位置する。検出状況は、SD26堀跡の精査時に暗褐色シルトによる半円形プランとして認知した。状況から開口部プランの半分ほどは調査区外北に延びる状況であったが、底部はほぼ全周完掘できた（調査区内で完結した）。ところが、実測作業途中に壁の崩落などが発生したため、底部の北東半分は図化できなかった。
＜重複関係＞ SD26堀跡に裁られ、SD28溝跡を裁る。
＜平面形･規模＞平面形は円形と推定される。規模は、開口部径は最大長276㎝、深さは164㎝である。
＜埋土＞埋土は５つに大別・分層した。埋土上位の１層暗褐色シルトで、同層の下位付近に２層として区分したTo-aテフラのレンズ状の堆積がみられる。テフラは自然堆積的様相であることから、それを含む１層についても自然堆積と判断した。３・４層は壁の地山崩壊土である。５層はオリーブ黒色泥質土で、粘性が強く締まりがやや弱い。５層は人為堆積の可能性が極めて高いが、明確には判断できず、自然堆積の可能性も残る。
＜底面・壁＞底面は礫層中で、ほぼ平坦である。壁は底部から直立気味に立ち上がり、胴部中位から開口部に向かって大きく外反して立ち上がる。
＜遺物＞（第175･187図、写真図版130･138）出土遺物は、土器類1420.9ｇ、石器1156.0ｇ、土製品（焼成粘土塊）41ｇ出土した。その内、44・45・46、240（凹石）を掲載した。
＜時期＞出土遺物は平安時代９世紀後半と推定される土師器である。重複遺構との新旧関係及びTo-aテフラの在り方から、10世紀前半より古い。従って、出土遺物の時期である９世紀後半と考えられる。

SE07井戸跡（第151図、写真図版60）
＜位置・検出状況＞⑭区で検出した。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる円形プランとして認知した。現況は水田で旧地形は大幅に削平を受けている。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞円形で、開口部径232×198㎝、深さは120㎝である。
＜埋土＞埋土は黒色泥質粘土による単層である。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がった後、胴部下部付近から外傾する。
＜遺物＞（第175･187図、写真図版130･138･139）出土遺物は、土器類28.5ｇ、石器396.9ｇ出土した。その内、47・242・243を掲載した。47は底面直上から、242・243は検出面付近で検出した。
＜時期＞出土遺物は平安時代の土師器である。９世紀後半～10世紀前半と推定して置きたい。
＜時期＞土師器などの出土が無く、時期は不明である。ただし、埋土の様相からは古代と推定される。焼土ブロックや炭化材の在り方から、何らかの焼成行為の後に、それらが廃棄された土坑と捉えられ

る。
＜その他＞床面直上付近から出土した炭化材２点について、炭化材樹種同定を業務委託した。その結果、２点ともにコナラ属コナラ節と同定された。加えてコナラ節は、平安時代の竪穴住居構築材として一般的に利用されていた傾向が窺える旨考察されている。

SE08井戸跡（第151図、写真図版109）
＜位置・検出状況＞⑳区で検出した。検出面はⅣ層中で、にぶい黄褐色砂質粘土による円形プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞円形で、開口部径148㎝、深さは176㎝である。
＜埋土＞埋土は６つの層に大別される。地山崩壊土の６層を除く１～５層は人為堆積層と判断される。本遺跡で見つかっている他の井戸の埋土と比較して、かなり異質な埋土である（限りなく新しい時期と推定される）
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がった後、胴部上部付近から外傾する。
＜遺物＞（第185図208、写真図版135）出土遺物は、土器類231.4ｇ、陶器１点が出土した。
＜時期＞出土した陶器は17世紀前半代の可能性がある。ただ、埋土の様子などからは近世若しくはそれより新しい時代に帰属する可能性もある。

SE09井戸跡（第151図、写真図版109）
＜位置・検出状況＞㉔区に北東部に位置する。検出面はⅣ層で、黒褐色粘土質シルトによる円形プランを確認している。
＜重複関係＞なし。
＜平面形・規模＞円形で、開口部は110×106㎝である。深さは113㎝である。
＜埋土＞埋土は３層に細分した。堆積過程が人為か自然かについては判然としない。
＜底面・壁＞底面は概ね平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がり、中位から外反して立ち上がる。
＜遺物＞出土遺物は、土器13.7ｇが出土した。
＜時期＞出土遺物から平安時代と思われる。

SE10井戸跡（第151図、写真図版109）
＜位置・検出状況＞㉔区に北東部に位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色粘土質シルトによる円形プランを確認している。
＜重複関係＞なし。
＜平面形・規模＞楕円形で、開口部は96×84㎝である。深さは115㎝である。
＜埋土＞埋土は９層に細分した。５～８層までは植物多く混入する自然堆積層であり、４層まで堆積した段階で一度水が着いたために褐鉄鉱の層が形成されている。それ以降もおそらく自然堆積である。
＜底面・壁＞底面は平坦である。壁は底面からほぼ直立して立ち上がる。
＜遺物＞（第185図209、写真図版137）出土遺物は、土器37.6ｇ、灰釉陶器１点（209）が出土した。
＜時期＞出土遺物から平安時代９世紀代と推定される。

SE11井戸跡（第150図、写真図版109）
＜位置・検出状況＞⑧区に北東部に位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色粘土質シルトによる円形プランを確認している。
＜重複関係＞なし。
＜平面形・規模＞ほぼ円形で、開口部は116×100cmである。深さは130cmである。
＜埋土＞埋土は人為堆積で、埋め戻されている。
＜底面・壁＞底面は平坦である。壁は底面からほぼ直立して立ち上がる。
＜遺物＞なし。
＜時期＞明確には時期不明である。埋土の様相や周囲で検出された遺構との関係から平安時代に帰属する可能性が高い。

11　土　　坑

土坑は116基検出した（※ SK として登録した遺構総数は200基以上あるが、その内精査途中で自然現象、現代攪乱、陥し穴、土取り穴と調査判断したものを除き、土坑として認知する）。時期を大別すると、古代と推定したものが圧倒的に多い。今回の調査で検出した土坑の全体的な傾向としては、古代と捉えたものの中にあっても、平面形状や規模には規格性が弱く、用途などを推定できる状況にはない。なお、個々の事実記載は省略したので、第11表の遺構観察表を参照いただきたい。

補足として、平成24年度に調査を実施した㉔区の西端より近世～近代と考えられる墓壙を多数検出した。平成23年度に㉔区と隣接する⑦区を調査した際には、墓石が移設されず残っている状況であったが、当年冬に移設され、平成24年４月の調査着手段階では墓石が残っていなかった。ただ、遺構検出作業時において、墓石の下部に相当する面から、移設時に掘り残されたと判断されるプランが激しく重複する状況で約60基見つかった。また、土葬人骨も出土した。当初は土坑として遺構登録を行ったが、実測は上端のみとして写真撮影は通常どおり行った。遺構とは認定せず状況写真（現況写真）として、写真図版119～122に掲載し、報告の全てとする。なお、人骨と副葬品については、無縁仏として地元檀家のお寺に無縁仏として供養していただいた。

12　土　取　り　穴

土取り穴の認知に際して、平面形が不整（小土坑の集合体の様相を呈するもの）で底面が平坦ではない土坑について定義した（認知する）。ただ、不明遺構として扱った SX27や SX30（壁を構成する地山が良質の粘土層と捉えられなかったことから、この２基は不明とした）についても、土取り穴であった可能性も残ることを付記しておく。総数で５基検出した。全て古代である。今回の調査で検出した遺構の種類の中では、比較的土器の出土量が多い特徴が看取される。

SK77土取り穴（第167図、写真図版78）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部に位置する。検出面はⅣ層中で黒褐色シルトによる楕円形プランとして認知した。
＜重複関係＞ SB12掘立柱建物跡より古い。また、柱穴状土坑 P806･1313･1314･1315･1316に裁られる。
＜平面形・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部径260×227cm、底部径180×100cm、深さは

32～42㎝である。
＜埋土＞１～３層に分層した。埋土上位～中位に堆積する１・２層は黒褐色シルトを主体に地山土ブロックが多量に混入する。２層系はさらに２ａ層と２ｂ層に細分したが、遺物はこの２ａ・２ｂ層から出土した。埋土下位中心に堆積する３層は褐灰色シルトで地山ブロックを多量に含む。全て人為堆積である。
＜底面・壁＞底面は凹凸が激しく、壁形も企画性が看取できずランダムな様相にある。
＜遺物＞（第176図59～66、写真図版131）土器類1593.7ｇ、石器32.7ｇ（１点）、土製品23.6ｇ出土した。その内、59～66を掲載した。
＜時期＞出土遺物から平安時代９世紀中頃若しくはそれ以前に掘削された土取り穴と推定される。

SX08土取り穴（第166図、写真図版78）
＜位置・検出状況＞⑩区中央部に位置する。検出面はⅣ層中で黒褐色シルトによる不整形プランとして認知した。
＜重複関係＞SB04・08・09・10・12掘立柱建物跡を構成する柱穴に裁られる。
＜平面形・規模＞平面形は、全体的には上面観「くの字」状を呈するが、細かく観察すると、土坑の集合体的にランダムな構造に見てとれる。規模は、全長約280㎝、幅は両端の溝状部分で80㎝、中央の土坑状部分で280㎝を測る。深さは、12～18㎝である。
＜埋土＞１～７層に分層したが、全体的には黒褐色シルトに黄褐色粘土（地山）ブロックが10～30％混入する人為堆積である。
＜底面・壁＞底面は凹凸が激しくランダムな様相にある。壁も立ちあがりは様々であるが、直立気味を基調とする。
＜遺物＞（第177図67、写真図版132）土器類705.7ｇ、石器類20.4ｇ（２点）、土製品類（焼成粘土塊）47.5ｇが出土した。その内、67の須恵器坏１点を掲載した。
＜時期＞出土遺物から平安時代９世紀後半～10世紀前半頃に廃絶された遺構と推定される。

SX09土取り穴（第166図、写真図版79）
＜位置・検出状況＞⑩区南部に位置する。検出面はⅣ層中で黒褐色シルトによる楕円形プランとして認知した。
＜重複関係＞SB15掘立柱建物跡を構成するP1297に裁られ、SK84陥し穴を裁る。
＜平面形･規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部径496×303㎝、底部径365×274㎝、深さは、最深で38㎝である。
＜埋土＞１～７層に分層した。埋土最上には、１層黄褐色粘土が０～６㎝で水平気味に堆積する。埋土の主体を占める６層は、黒褐色シルトに黄褐色粘土（地山）ブロックや暗褐色シルトブロックが多量に混入する混合土である。埋土下位～床面にかけては、７層褐灰色シルトに黄褐色粘土（地山）ブロックや暗褐色シルトブロックが多量に混入する混合土が堆積する。全て人為堆積である。土師器や須恵器などの遺物は６層から主体的に出土している。
＜底面・壁＞底面は凹凸が激しくランダムな様相にある。壁の立ちあがりは外傾気味を基調とする。
＜遺物＞（第177図68～73、写真132）土器類1,863.1ｇ出土した。その内、68～73を掲載した。
＜時期＞出土遺物から平安時代９世紀前半頃に掘削された土取り穴と推定される。

SX11土取り穴（第166図、写真図版79）
＜位置・検出状況＞⑨区南東部に位置する。検出面はⅣ層中で暗褐色粘土質シルトによる楕円形プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部径285×230cm、底部径240×157cm、深さは26～36cmである。
＜埋土＞暗褐色粘土質シルトを主体とする。人為堆積と推定したが、明確ではない。
＜底面・壁＞底面は凹凸がある。壁の立ちあがりは外傾気味を基調とする。
＜遺物＞土器類7.9ｇ、石器14.3ｇ（１点）出土したが、不掲載とした。
＜時期＞出土遺物から平安時代に廃絶された遺構と推定される。

SX28土取り穴（第166図、写真図版124）
＜位置・検出状況＞⑧区北部に位置する。検出状況は、表土直下において、黒褐色シルトによる不正形プランを検出した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は不整形である。規模は、開口部径260×240cm、底部径206×140cm、深さは40cmである。
＜埋土＞堆積土の色調や土質で１～13層に細分したが、全て人為堆積層である。
＜底面・壁＞底面は凹凸がある。壁形は様々である。
＜遺物＞（第185図215､写真図版137）土器類1441.3ｇ､陶器１点出土した。215は器種特定できないが、近江若しくは猿投産の灰　陶器である。
＜時期＞出土遺物から平安時代９世紀前期に廃絶された遺構と推定される。

13　カマド状遺構

⑩区から１基検出した。調査判断として中世と推定される。

SX17カマド状遺構（第168図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞⑩区南東部に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる長楕円形プランとして認知した。精査結果から、長楕円形の浅い土坑状の底面付近から焼土範囲を検出した。状況から推定して、焼土範囲が焚口で煙道が南側に延びるカマド状遺構と判断し認知することとした。
＜重複関係＞無し。ただし、SB34掘立柱建物跡の建物配置の検討から、本遺構と重複する位置に同建物跡に伴う柱穴が存在した可能性が示唆される。
＜平面形・規模＞焚口と想定される焼土層は、現地性で長楕円形の掘り込みの北端底面付近に発達する。焼土範囲は約40cm四方に広がる。長楕円形の掘り込みは、煙道部の下部～底部付近の痕跡と想定長軸が180cm、短軸が30～60cm、深さは14cmである。長軸方向はＮ－30°－Ｅをとる。
＜埋土＞埋土は５つに細分した。１・３層は黒褐色シルト、２・４層は褐灰色シルト、５層は燃焼に伴う現地性の焼土層である。３層は人為堆積層と判断されるが、１・２・４層は判然としない。自然堆積の可能性もある。
＜底面・壁＞底面は礫層である。北側が深く、南側に向かって標高が徐々に低くなる。従って、焚口

がやや深く、煙出しに向かって勾配をやや上げる構造と考えられよう。
＜遺物＞無し。
＜時期＞遺物の出土が無く、時期は不明である。14世紀中～後半と推定したSB34掘立柱建物跡とは、遺構の平面空間が重複するが、直接の裁り合い関係は把握されていない。状況からSB34掘立柱建物跡と大差ない時期と推定し、中世と調査判断しておきたい。

14　畝 間 状 遺 構

⑩区から２箇所検出した。To-aテフラなどが認められない状況から、比較的新しい時期の畝間痕跡と判断される。

SX18畝間状遺構（第169図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞⑩区南西部に位置する。検出面はⅣ層黄褐色粘土層中で、黒褐色シルトと明黄褐色粘土の混合土による３条の溝状プランとして認知した。表土直下でⅣ層黄褐色粘土（地山）が露出することから、旧地形は削平を受け遺構上部は破壊されていることも、合せて把握される。また、東に約15m離れたSX22畝間状遺構とは溝幅や溝の延びる方向（長軸方向）が類似することから、元々は一連の遺構であった可能性が高い（※本遺構とSX22畝間状遺構の間の空間にも、類する遺構が所在したと想定されるが、消失したと捉えられる）。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞3.17×2.02m、面積約６㎡の範囲に畝３条を確認した。畝幅は27～39㎝、深さ４～11㎝である。長軸方向はＮ－30°－Ｅをとる。
＜埋土＞黒褐色シルトと明黄褐色粘土の混合土による単層である。
＜底面・壁＞畝の底面は検出面と同様Ⅳ層黄褐色粘土で、一定間隔で柱穴状に転々と凹凸が看取される（※部分によってはキャタピラ状）。
＜遺物＞土器類83.1gが出土した。全て磨滅した土師器小片で不掲載とした。
＜時期＞時期は不明である。ただし、埋土の様相からは近世若しくは近世以降と推定される。

SX22畝間状遺構（第169図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞⑩区南部に位置する。検出面はⅣ層黄褐色粘土層中で、黒褐色シルトと明黄褐色粘土の混合土による９条の溝状プランとして認知した。SX18畝間状遺構で上述したとおり、西に約15m離れたSX18畝間状遺構とは溝幅や溝の延びる方向（長軸方向）が類似することから、元々は一連の遺構であった可能性が高い（※本遺構とSX18畝間状遺構の間の空間にも、類する遺構が所在したと想定されるが、削平を受け消失したと捉えられる）。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞9.32×5.7m、面積約53㎡の範囲に畝９条を確認した。畝幅は20～70㎝、深さ５～12㎝である。長軸方向はＮ－30°－Ｅをとる。
＜埋土＞黒褐色シルトと明黄褐色粘土の混合土による単層である。
＜底面・壁＞畝の底面は検出面と同様Ⅳ層黄褐色粘土で、一定間隔で柱穴状に転々と凹凸が看取される（※部分によってはキャタピラ状）。
＜遺物＞無し。

＜時期＞時期は不明である。ただし、埋土の様相からは近世若しくは近世以降と推定される。

15　不　明　遺　構

遺構の形状などから、土坑とは区分して捉えたものである。17基検出した。古代～中世の時間幅で推定したものが多い。

SX03不明遺構（第167図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞⑦区北東部北端に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる不整形プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は不整形で、開口部径258×146cm、深さは５～10cmである。長軸方向はＮ－20°－Ｅをとる。
＜埋土＞埋土は２つに分層した。埋土上位の１層は黒褐色シルトで全体に薄い。２層暗褐色シルトは、地山土ブロックを20％程含む。推定の域は出ないが、人為堆積と推定しておきたい。
＜底面・壁＞底面は凹凸が顕著にある。壁は緩く外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞土器類10.5ｇ出土した。土師器小片である。
＜時期＞出土土器は、磨滅の著しい小破片であることから、時期の推定資料としては弱い。周囲（⑦区）からは12世紀と推定される遺構が多く見つかっていることから、古代～中世の期幅で推定しておきたい。

SX04不明遺構（第167図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞⑦区中央部やや東に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる不整形プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は不整形で、開口部径204×126cm、深さは最深で18cmである。長軸方向はＮ－15°－Ｅをとる。
＜埋土＞埋土は黒褐色シルトを主体とし地山土ブロックが混入する。人為堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面は凹凸が顕著にある。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞無し。
＜時期＞土器などの出土が無く、時期は不明である。埋土の様相からは、古代若しくは12世紀の可能性が示唆される。SX03不明遺構と同類の遺構と判断し、古代～中世と推定しておく。

SX05不明遺構（第167図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞⑦区西部に位置する。検出面はⅣ層中で、褐灰色シルトによる不整形プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。＜平面形･規模＞平面形は不整形で、開口部径176×62cm、深さは最深で14cmである。長軸方向はＮ－75°－Ｅをとる。
＜埋土＞埋土は褐灰色シルトを主体とし地山土ブロックがランダムに混入する。地山ブロックの混入の様子から人為堆積と推定される。

＜底面・壁＞底面は凹凸が顕著にある。壁は緩く外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞無し。
＜時期＞土器などの出土が無く、時期は不明である。埋土の様相からは、古代若しくは12世紀の可能性が示唆される。SX03不明遺構と同類の遺構と判断し、古代～中世と推定しておく。

SX07不明遺構（第167図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞⑩区西部に位置する。検出面はⅣ層中で黒褐色シルトによる溝状プランとして認知した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は、全体的には細長い溝状を呈し、東端がやや膨らみを持つ。開口部径586×127㎝、深さは最深で18～48㎝である。長軸方向はＮ－55°－Ｗをとる。
＜埋土＞埋土は単層で、黒褐色シルトに黄褐色粘土が10～30％混入する。人為堆積と判断した。
＜底面・壁＞底面は凹凸があり平坦ではない。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞土器10.5g が出土した。全て磨滅した土師器小片で不掲載とした。
＜時期＞出土遺物は平安時代の土師器であるが、埋土の様相からはそれより新しい可能性が示唆される。ここでは古代～中世と時期幅を広げて推定しておきたい。

SX12不明遺構（第167図、写真図版82）
＜位置・検出状況＞⑨区東部に位置する。にぶい黄褐色粘土質シルトによる溝状に細長いプランとして認知した。途中100度ほど曲り長軸方向が変わる。平面プランからは、溝跡が想定されたが、溝跡と認知するには底面の凹凸が激し過ぎることから、別種の遺構と推定し、不明遺構とした。
＜重複関係＞無し。SI02竪穴住居跡やSB21掘立柱建物跡と近接した関係にある。
＜平面形・規模＞平面形は上面観「Ｌ字状」で、Ｎ－155°－Ｅへ直線的に延びた後、Ｎ－55°－Ｅへ方向を変え調査区外へ延びる。全長8.5m以上、幅40～60㎝、深さは最深で20㎝である。
＜埋土＞にぶい黄橙色～暗褐色粘土質シルトで、全て人為堆積である。
＜底面・壁＞底面は凹凸が激しく、ランダムに掘られている様子にある。壁は外傾を基調とする。
＜遺物＞（第177図74、写真図版132）土器類197.0ｇ出土した。その内、74の須恵器片を掲載したが、11世紀代の可能性もある。
＜時期＞出土遺物から平安時代と推定される。

SX13不明遺構（第167図、写真図版82）
＜位置・検出状況＞⑨区北部に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる土坑状プランの両端ににぶい黄褐色シルトによる溝状プランが付属する様子で検出された。
＜重複関係＞ SD26堀跡に切られる。
＜平面形･規模＞平面形は楕円形気味の土坑状の両端に溝が付随する。土坑状の部分は、140×124㎝、深さ約16㎝である。溝状部分は、幅約30㎝、深さで８～18㎝、両端合わせ総全長440㎝以上である。
＜埋土＞埋め戻された人為堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦で、土坑状の部分がやや深く（標高がやや低く）、両端の溝状の部分がやや浅い。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞土器類10.6ｇ（磨滅した土師器小破片）と石器１ｇ（チップ?）が出土した。全て不掲載とした。

＜時期＞出土土器は磨滅した小破片であるが平安時代である。また、重複遺構との新旧関係からは古代の可能性が高い。

SX14不明遺構（第168図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞⑨区北西部に位置する。検出面はⅣ層中で、にぶい黄褐色シルト主体に黄褐色粘土ブロックが混入する不整形プランとして認知した。
＜重複関係＞ SD27溝跡及び P332に切られる。
＜平面形・規模＞平面形は隅丸方形の土坑に溝状の細い長い掘り込みが伴う不整形にある。規模は、土坑状の部分が開口部径270×258cm、深さは17～24cmである。溝状の部分は、開口部径220cm×90cm、深さは約30cmである。土坑状の部分に比べ、溝状の部分がやや深い特徴が看取される。
＜埋土＞埋土は３つに分層した。埋土上位の１層はにぶい黄褐色シルトに黄褐色粘土ブロックが混入する。埋土中～下位は明黄褐色粘土に褐色シルトが混入する。全て人為堆積である。
＜底面・壁＞土坑状の部分は、底面はランダムな様子で凹凸があり、壁は直立気味に立ち上がる。溝状の部分は、底面はほぼ平坦で、壁は外形気味に立ち上がる。
＜遺物＞土器4.9ｇが出土した。磨滅した土師器小破片である。
＜時期＞出土土器は磨滅した小破片であるが平安時代である。重複遺構との新旧関係からは中近世よりも古いことが分かる。埋土の様相などから古代と推定しておきたい。

SX19不明遺構（第170図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞⑩区南東部に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる土坑と３つの柱穴状の小土坑プランを検出した。土坑は少し掘り下げた段階で、複数個体の土師器が埋まっている様子が窺え、また小土坑についても周辺から多く見つかる柱穴状土坑とは深さや埋土が異質で平面形態も企画性に乏しい（不整形気味）ことなどから、これらがセット関係にある遺構と判断し、不明遺構として認知することとした。
＜重複関係＞ SB17・18掘立柱建物跡を構成する柱穴に切られる。
＜平面形･規模＞土器が埋められている大きめの土坑部分は、開口部径116×105cm、深さ31cmである。その他の小土坑は、開口部径30～40cm、深さ８～12cmである。
＜埋土＞埋土は黒褐色シルトに黄褐色粘土ブロックが混入する人為堆積である。また、土器が埋められていた土坑にのみ２cm前後の焼土ブロックの混入が認められる。
＜底面・壁＞大きめの土坑部分は、底面はほぼ平坦で壁は外傾気味に立ち上がる。小土坑は、底面はほぼ平坦で、掘り込みが全体に浅く、壁はわずかに立ち上がる様相である。
＜遺物＞（第177図75～77、写真図版132）土器が984.8ｇ出土した。その内、75～77の３点を掲載したがこれらは一括資料である。75・76の土師器坏は、全体の形状などから10世紀後半～11世紀前半の時期幅で可能性がある。77の甕は、外面はロクロ成形の後、ケズリが施されるものである。
＜時期＞出土土器の時期から10世紀末葉～11世紀前葉に帰属する可能性が高い。ただ、用途や性格については不明にあり、要検討としたい。

SX20不明遺構（第170図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞⑩区南部に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルト黄褐色粘土と明赤褐色シルトによる楕円形の土坑と推定されるプランと、それに隣接する焼土範囲として認知した。

＜重複関係＞ SB04掘立柱建物跡を構成する P892に裁られる（より古い）。
＜平面形･規模＞土坑は平面形が楕円形で、開口部径102×72㎝、深さは16～20㎝である。焼土範囲は、平面形が不整形（方形気味）で、104×100㎝の範囲に深さ６㎝で焼土の発達が認められる。
＜埋土＞土坑の埋土は､黒褐色シルト主体ににぶい黄褐色粘土を多量に含有する混合土による単層で、焼土ブロックと炭化物が少量混入する。全て人為堆積である。焼土範囲にみられる焼土はにぶい赤褐色を呈し現地性である。
＜底面・壁＞土坑底面は浅皿状で、壁は緩く外傾気味に立ち上がる。焼土の下位には掘り込みは見られない。
＜遺物＞（第177図78、写真図版132）土器129.1ｇが出土した。その内、78の坏１点を掲載した。
＜時期＞出土遺物は詳細な時期特定が難しいが、概ね９世紀後半～10世紀前半と推定される。重複遺構との新旧関係からは中世より古い。平安時代と推定しておきたい。

SX21不明遺構（第170図、写真図版84）
＜位置・検出状況＞⑩区東部に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる方形に巡る溝状プランとして検出した。当初は方形周溝とも推定されたが、溝の平面掘り方がランダムであり、何らかの建物跡を巡っていた可能性が高いと判断された。
＜重複関係＞ SK71陥し穴を裁る。また、P1150・1151・1283・1284・1285・1579・1580に切られる。
＜平面形・規模＞平面形は方形を基調とする。一辺の長さは4.85m弱、溝で囲まれた内部は一辺４ｍ前後である。溝幅は60～76㎝、深さ10～16㎝である。建物跡と仮定した場合、主軸方向はＮ－15°－Ｅである。
＜溝で囲まれた内部＞溝で囲まれた内部はほぼ平坦で、柱穴などは未検出にある。北側でわずかに焼土の広がりが見られる。
＜埋土＞埋土は黒褐色シルトを主体に黄褐色粘土や灰黄褐色砂質シルトによる混合土である。１～４層全て人為堆積である。B-B’断面作成地付近にみられる１層にのみ炭化物や焼土粒が少量混入するが、あるいは１層と２～４層では堆積時期が異なる可能性もある。
＜遺物＞土器110.3ｇが出土した。全て磨滅した土師器小片であり、本遺構とは異時期と推定されたことから、不掲載とした。
＜時期＞明確には時期を特定できないが、掘立柱建物跡との関係から時期・用途推定すると、鎌倉時代Ⅲａ～Ⅳ期（13ｃ後半以降）の持仏堂跡と考えておきたい。

SX24不明遺構（第34図、写真図版123）
＜位置・検出状況＞㉔区に中央北側に位置する。検出面はⅣ層中で、暗褐色シルトによる隅丸方形プランを確認している。
＜重複関係＞ SD109溝跡と SB53・54掘立柱建物跡と重複しており、SD109より新しい。SB53・54との関係は不明である。
＜平面形・規模＞隅丸方形で、東西187×南北148㎝、深さは10㎝の竪穴状を呈する。
＜埋土＞埋土は３層に細分した。基本的に自然堆積層と思われる。
＜底面・壁＞底面は若干の凹凸がみとめられるが、概ね平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。
＜遺物＞（第182･187図､写真図版135･139）出土遺物は土器204.2ｇと不明礫１点（52ｇ）が出土した。153～155・257を掲載した。その内、155は手づくねかわらけで、遺構の底面から出土している。

＜時期＞出土遺物や重複関係から見ていくと、両者の時期は乖離している。本区全体で見ていくと、中世の溝より古いが､それと同時期である中世の可能性も残る。何れ､手づくねかわらけの出土を持って12世紀と強く言及できる状況にない。

SX25不明遺構（第171図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞⑭区東部に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる楕円形プランとして認知した。大部分は調査地外南側に延びる。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は不整形で、開口部径90以上×107㎝である。深さは10㎝である。
＜埋土＞埋土は黒褐色シルトに礫が多量に混入する。堆積様相からは人為堆積なのか自然堆積なのか判断できなかった。
＜底面・壁＞底面は礫層中でやや凹凸がある。壁は緩く外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞無し。
＜時期＞時期は不明である。埋土の様相からも判断出来かねた。

SX27不明遺構（第171図、写真図版123・124）
＜位置・検出状況＞⑧区北東部に位置する。検出状況は、表土直下において、暗褐色シルトによる不正形プランとそれを取り囲むように配置されている小土坑プランを検出した。これらは同じ様相の埋土なことから、同一の遺構と判断し、全て合わせてSX27として報告する。
＜重複関係＞無し。
＜規模＞約８ｍの範囲に広がる。
＜埋土＞暗褐色シルトを主体に黒褐色シルトや黄褐色粘土が層状若しくは大ブロック層で認められる。全て人為堆積層と推定した。５・７・８層には焼土ブロックが少量混入する。
＜底面・壁＞底面は凹凸がある。壁形は様々である。
＜遺物＞（第182図156～171、写真図版136）土器類1937.7ｇ出土した。
＜時期＞出土遺物から平安時代９世紀前葉に廃絶された遺構と推定される。用途は不明にある。中央部付近に位置する比較的規模が大きく平面形が不整形で底面の凹凸の激しい土坑部分については、土取り穴の可能性も示唆される。ただ、それを取り囲むように配置？される小土坑の存在を加味して不明遺構とする。

SX29不明遺構（第168図、写真図版125）
＜位置・検出状況＞⑧区北部に位置する。検出面はⅣ層中で黄褐色粘土による不正形プランとして認知した。掘削途中で埋置（埋設）された坏が出土した。
＜重複関係＞無し。
＜平面形・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部径72×65㎝、底部径52×44㎝、深さは10～20㎝である。
＜埋土＞黄褐色粘土を主体とする。人為堆積である。なお、土器が埋設されている部分は、土器の規模と大差ない小土坑（規模約15㎝、深さ約10㎝）が掘られている。
＜底面・壁＞底面はやや凹凸がある。壁の立ち上がりは不規格にある。
＜遺物＞（第184図180・181、写真図版136）土器類448.2ｇが出土した。

＜時期＞出土遺物から平安時代に廃絶された遺構と推定される。

SX30不明遺構（第168図、写真図版125）
＜位置・検出状況＞⑧区南部に位置する。検出面はⅣ層中で黄褐色粘土による不正形プランとして認知した。
＜重複関係＞ SD135溝跡を裁る。
＜平面形・規模＞平面形は不整形である。規模は、300×200cmほどの範囲に集合体的に幾つかの土坑状が広がる。深さは38～80cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体に粘土ブロックが多量に混入する。人為堆積である。
＜底面・壁＞底面は凹凸がある。壁の立ち上がりは外傾気味を基調とする。
＜遺物＞土器類49.2ｇが出土した。
＜時期＞出土遺物は平安時代であるが、SD135溝跡との重複関係からは中近世より新しく、出土土器は異時期の産物と捉えられる。埋土の様相からは判断が難しいが、近世以降と推定される（現代ゴミなどは出土していないが、限りなく新しい時期の可能性もある）。

SX31不明遺構（第168図、写真図版125）
＜位置・検出状況＞⑧区中央部やや南寄りに位置する。検出面はⅣ層中で暗褐色粘土質シルトによる長楕円形プランとして認知した。
＜重複関係＞ SD135溝跡に裁られる。
＜平面形・規模＞平面形は長楕円形である。規模は、開口部径224以上×122cm、底部径150以上×40～80cm、深さは22cm前後である。
＜埋土＞暗褐色シルトを主体とする。人為堆積と推定した。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは外傾気味にある。
＜遺物＞無し。
＜時期＞重複遺構との関係から中近世より古い。平安時代と推定される。加えて、配置などからSX32とセットの関係にある遺構と推定される。

SX32不明遺構（第168図、写真図版125）
＜位置・検出状況＞⑧区中央部やや南寄りに位置する。検出面はⅣ層中で暗褐色粘土質シルトによる長楕円形プランとして認知した。東側は調査区外に延びる。
＜重複関係＞ SD135溝跡に裁られる。
＜平面形・規模＞平面形は長楕円形である。規模は、開口部径224以上×105cm、底部径208以上×60～90cm、深さは24cm前後である。
＜埋土＞暗褐色シルトを主体とする。人為堆積と推定した。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは外傾気味を基調とする。
＜遺物＞無し。
＜時期＞重複遺構との関係から中近世より古い。平安時代と推定される。

16　その他（旧河道）

⑱・⑲・㉒区で旧河道を検出した。⑱区で検出された旧河道は、埋土上位中心に中位までに十和田ａテフラブロックが比較的多く含まれる。この状況から、テフラ降下期以前に水流が止まったか若しくは弱まり、合せて埋没が開始されていていたと捉えられる。この状況から所見を述べれば、水流が供給されなくなったことが想定されるが、その原因としては検出地よりも上流付近で流路が変わった可能性も考えられる。この旧河道からは、№190の須恵器片１片（第184図、写真図版137）がテフラ層より上位で出土した。第26図の遺構配置図や写真図版126を参照いただきたい。

⑲区で検出した旧河道は、現代遺物が出土することから、現代に埋戻したと考えられる。地元に住む年配の方にお話を聞いたところ､その方が小学校くらいまでは②区の北側に川が流れていたらしく、それを裏付ける部分である⑰区で検出された。GHQ による航空写真からも川が認められる。昭和20年代頃の時期に上流で流路を変え、埋められたと思われる。また、旧流路の位置から水流の方向などを推定した場合、⑱区で検出された To-a テフラを検出した旧河道の延長についても、この付近に到達していた可能性が高い。

㉒区では旧河道の肩部と想定される落ち込みの一部を検出したに留まる。調査区の幅が狭いことにも起因して、詳細は分からない。現在の松の木沢川に近い調査区であることから、あるいはそれの氾濫などによる痕跡の可能性もある。現在の松の木沢川は､後世において流路を大幅に変更されており、昭和以降の変更に伴うと考えられるので、今回の調査で確認した痕跡についても現代の可能性も考えられる。

Ⅴ 出 土 遺 物

２カ年の調査により各遺構及び表土や検出面からは、縄文土器３点、古代の土器（土師器･須恵器）中コンテナ12箱（50,920.5g）、かわらけ１点、陶磁器小コンテナ１箱、石器類中コンテナ３箱、鉄製品14点、獣骨１点、焼成粘土塊数点、鉄滓数点などが出土している。ここでは種別ごとに分類をして概説するが、各遺物の詳細は観察表に記載しているのでそれらを参照されたい。なお、当センターで使用しているコンテナの規模は、大コンテナ42×32×30cm、中コンテナ42×32×20cm、小コンテナ42×32×10cmである。

１　縄文時代の遺物

（１）縄　文　土　器

縄文土器が３点出土し、その内２点を掲載した。晩期の深鉢（85・178）である。85は晩期末葉、178は詳細な時期特定は難しいが地文の様相から晩期末葉と推定される。

（２）縄　文　石　器

総数で36点出土した。内訳は石鏃４点、尖頭器１点、石匙２点、石篦２点、打製石斧２点、掻器３点、削器３点、削掻１点、楔形石器１点、スクレイパー ２点、Ｒフレーク７点、磨製石斧１点、敲磨器５点、磨石１点、凹石１点、礫器１点である。それ以外にフレーク・チップや、製品と自然礫との区分ができない礫、砥石・台石（砥石と台石は古代若しくはそれ以降の可能性が高い）がある。それら縄文時代と推定される石器は、古代や中近世など異時期の遺構埋土や、表土（耕作土など）などから出土している。

石鏃（237･239ほか）や石匙（253･254）、スクレイパー（242ほか）、石斧の未製品（234･235ほか）、礫石器（233・240ほか）などを掲載した。石器材料は頁岩が主体である。これらの時期は不明だが、土器と同じ時期の可能性がある。

２　古代～近世の遺物

総量で中コンテナ12箱が出土した。これら全般的な傾向としては、遺構内出土が多いものの、個々の遺構から纏まった土器量が得られている遺構は少ない。加えて、調査区毎にみる出土量の差が認め難いものの、強いて述べれば⑨・⑩・⑪区など北側に位置する調査区から多い傾向にはある。

（１）土　師　器

器種は、土師器坏、高台付坏、甕などの器種が確認されている。

坏は内面黒色処理（１・２ほか）と非黒色処理（３・４ほか）があり、前者が主体である。どちらの器形においても底部から内湾しながら立ち上がるもの（１ほか）が大半で、直線的に立ち上がるもの（75・76）は少ない。底部は基本的に回転糸切りであり、ヘラケズリ（60）などが僅かに認められている。ただし、このなかの底部から直線的に立ち上がる75・76は、器高が低く、底径と口径の比率が小さいという器形に特徴を有するものである。また、墨書土器が２点認められており、非黒色処理

と内面黒色処理されたものに対して「日」(80) や「大」(81) が記されている。

高台付坏は、坏と同様に内面黒色処理と非黒色処理があり、大小異なる規模のものが確認されている。しかし、いずれも欠損しているため、全体形状を把握できるものは認められない。

甕は内面黒色処理と非黒色処理があり、後者が主体である。器形は口縁が胴部より広がる器形で占められている。このなかで77や18などは稀な存在であり、前者は胴部が丸み帯、口縁部より幅を有するもの、後者は口縁部が開き鉢状を呈し、内面が黒色処理されているものがある。

土師器の所属時期をみていくと、8世紀後半～11世紀までの時期幅で捉えられるが、主体をなしている坏は9世紀後半から10世紀にかけての特徴を有するものである。主体となる時期より古く位置づけられるものとしてSK77土取り穴出土の60・61、SX27不明遺構出土の161・162などを、主体時期よりも後出する10世紀中頃～11世紀と捉えられるものとしてSX19不明遺構出土の75・76などを、挙げておきたい。

（2）須　恵　器

須恵器坏、高台付坏、甕などの器種が確認されている。

坏は底部から内湾しながら立ち上がる器形と、直線的に立ち上がる器形がある。確認できた底部は回転糸切りのみである。これは土師器と同様の在り方であるが、点数が少ないため不明な点が多い。

高台付坏は1点のみの確認である。欠損しているため、全体形状は不明である。甕は破片資料が多いため、器形を把握できるものは少ない。器形を把握できる資料には43や65などの甕のほかに、鉢状を呈する53は稀な存在である。また、特筆すべき点としては、頸部に波状沈線を有するもの（21・46・190）や、内外面がにぶい橙色を呈するもの（35・36）が確認されている。これらについては産地や時期を特定するうえで、今後検討が必要となろう。

須恵器の所属時期は、上述した土師器坏と同様、9世紀後半から10世紀にかけての時期と捉えておきたい。

（3）灰　釉　陶　器

坏（209）と高台付坏（215）と合わせて2点ある。209はSE01井戸跡から、215はSX28土取り穴から出土しており、215は9世紀中頃と推定される土師器と共伴気味に出土している。2点ともに9世紀に属する猿投窯と考えられるが、215は近江産の可能性もある。

（4）か　わ　ら　け

手づくねかわらけ（167）が㉔区で検出されたSX24不明遺構から1点出土している。共伴土器は平安時代の須恵器片であるが、かわらけ自体は12世紀の産物と推定される。内外面の色調が赤褐色を呈し、平泉から出土しているかわらけとは色調が大きく異なるものである。この特徴的な色調は、焼成など製作方法から生じていると考えられることから、平泉的要素よりも在地的要素が強いものと思われ、今後検討が必要となろう。

（5）陶　磁　器　類

国産陶器は、常滑産甕（194・197ほか）や瀬戸産皿（202）が確認されている。前者は12世紀代、後者は14～15世紀代に属するものである。また、これらの他には時期不明の常滑産甕（200・201）、渥美産甕（191）などがある。

中国産磁器は、白磁壺（214）と青磁碗（211・217）が合わせて３点確認されている。前者は12世紀代、後者は16世紀代に属するものである。

近世陶磁器は、肥前産碗・皿、在地産鉢などが確認されている。これらのなかで18世紀代の肥前産が主体をなしている。

（６）鉄　製　品

釘（221・222ほか）、鍋（224、225）、煙管（228）、棒状鉄製品（223・226）などがある。出土地は、221～225がSD26堀跡から、226がSE05井戸跡、227がP847、228が④区トレンチ、229がSD91溝跡出土である。遺構の帰属時期から226と229は古代と推定される。SD26堀跡は、遺構の時期は中世と推定されるが出土遺物は古代の土器や縄文時代の石器などが出土しており、221～225の帰属時期は不明である。228は近世～現代の時代幅で可能性がある。

（７）その他（土製品・石製品・動物遺存体）

・土製品：土錘（230・231）がある。その他に焼成粘土塊が少量出土している。
・石製品：砥石（236・243）がある。
・動物遺存体：獣骨（232）がSE03井戸跡から出土している。馬の上顎部分と推定される。

第２表　遺構観察表（1）　竪穴住居

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	長軸方向	平面形	開口部（cm）	深さ（cm）	カマド	付属施設	掲載遺物	時期	備考
SI01竪穴住居跡	28	6・7	⑨区中央部やや北	N－45°－E	隅丸方形	300以上×425	0～10cm	掘り込み式？	焼土、床下土坑	1～8	平安	9世紀後半～10世紀前半
SI02竪穴住居跡	29	7・8	⑨区東部	N－45°－W	隅丸方形	290以上×238	4～6	焼土ビット	柱穴3個，焼土	9～14・221・230	平安	9世紀前半、埋土にTo-a入る
SI04竪穴住居跡	30	88・89	⑧区中央部やや北	N－5°－E	隅丸方形	400×330以上	12～18	掘り込み式？	焼土3	86～103	平安	9世紀後半～10世紀前半
SI05竪穴住居跡	31	90	⑧区北部	N－110°－E	隅丸方形	362×？	10	掘り抜き式？	柱穴1	104・105	平安	9世紀後半～10世紀前半
SI06竪穴住居跡	31	91	⑧区中央部やや南	N－110°－E	隅丸方形	328×212以上	32	未検出	壁溝？		平安	焼失家屋
SI07竪穴住居跡	29	92	⑧区中央部やや南	N－140°－E	隅丸方形	300×142以上	22	未検出	なし	106・251	平安	

第３表　遺構観察表（2）　竪穴建物・竪穴状

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	長軸方向	平面形	開口部（cm）	深さ（cm）	埋土	付属施設	掲載遺物	時期	備考
SX01竪穴状遺構	32	4	①区南部	N-0°-E	隅丸方形	640×540	20～36	人為堆積？	なし	なし	中近世？	
SX02竪穴状遺構	32	4	①区南部	N-10°-W	隅丸方形	416以上×400	20	人為堆積？	なし	なし	中近世？	
SX10竪穴建物跡	33	9	⑩区北東部東端	N-62°-W	隅丸方形？	220以上×358以上	18	人為堆積	なし	なし	中世	鎌倉時代Ⅲ期（14ｃ初～前）若しくはⅣ期
SX15竪穴状遺構	33	10	⑩区中央部やや北東	N-65°-W	隅丸方形	480×324	34～56	自然堆積？	なし	191・233	中世	鎌倉時代Ⅱ期(13ｃ中～後)
SX16竪穴建物跡	34	11	⑩区中央部やや東	N-55°-W	隅丸方形？	<480>×310	0～24	人為堆積	柱穴8個	なし	中世	P1029・1295・1344・1638・1639・1643・1644・1649は本遺構の構成柱穴につき改名（PP1～PP8）

第４表　遺構観察表（3）　掘立柱建物跡

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	平面規模	付属施設	掲載遺物	時期	備考
SB01掘立柱建物跡	37	12・13	⑦区中央部	N-28°-E	6間×4間	東西2面にそれぞれ廂がつく		12世紀	根太・床束・大引を有する建物跡か？
SB03掘立柱建物跡	39	12・13	⑦区中央部北東	N-30°-E	2間×2間			12世紀	
SB04掘立柱建物跡	39	14	⑩区中央部やや南西	N-28°-E	5間×2間	4面に廂もしくは下屋	80・81	中世	鎌倉時代Ⅰ期13c初～前）、軸方向・形状などから中世の時間幅の中でも、やや古いか？
SB05掘立柱建物跡	40	14	⑩区南西部	N-16°-E	3間×1間	西に廂もしくは下屋		中世	鎌倉時代Ⅲa～Ⅲb（13c後～14c初頭）
SB06掘立柱建物跡	41	14	⑩区西部	N-27°-E	2間×2間			中世	鎌倉時代Ⅰ期（13c初～前）、
SB07掘立柱建物跡	42	14	⑩区西部	N-26°-E	2間×2間			中世	鎌倉時代Ⅱ期（13c中～後）
SB08掘立柱建物跡	43	14	⑩区西部	N-20°-E	4間×1間			中世	鎌倉時代Ⅳ期（14c前～）
SB09掘立柱建物跡	44	15	⑩区西部	N-62°-W	5間×4間	一面に廂もしくは下屋		中世	鎌倉時代Ⅰ期（13c初～前）、
SB10掘立柱建物跡	45	15	⑩区西部	N-1°-E	1間×1間			平安	
SB11掘立柱建物跡	46	15	⑩区西部	N-58°-W	1間？×1間		79	中世	鎌倉時代Ⅱ期（13c中～後中）
SB12掘立柱建物跡	47	15	⑩区中央部やや北	N-70°-W	7間×5間？	4面に廂もしくは下屋	246	中世	鎌倉時代Ⅳ期（14c前～）
SB13掘立柱建物跡	48	15	⑩区中央部	N-31°-E	2間×2間？	4面に廂もしくは下屋		中世	鎌倉時代Ⅱ期（13c中～後中）
SB14掘立柱建物跡	49	16	⑩区中央部	N-57°-W	6間×4間	廂もしくは下屋	82	中世	鎌倉時代Ⅱ期（13c中～後）、P1081と1074はSB20にも使用されている。
SB15掘立柱建物跡	50	16	⑩区中央部やや南	N-76°-W	7間×4間	3面に廂もしくは下屋	83,202	中世	鎌倉時代Ⅲa～Ⅲb（13c後～14c初頭）
SB16掘立柱建物跡	45	18	⑩区中央部	N-2°-E	2間×2間			平安	
SB17掘立柱建物跡	51	17	⑩区南東部	N-16°-E	5間×1間？			中世	鎌倉時代Ⅲa期（13c後～末）
SB18掘立柱建物跡	52	17	⑩区南東部	N-16°-E	7間×1間？			中世	鎌倉時代Ⅲb期（14c初）
SB19掘立柱建物跡	53	18	⑩区南東部	N-72°-W	6間×4間	3面に廂もしくは下屋		中世	鎌倉時代Ⅳ期（14c前～）
SB20掘立柱建物跡	54	18	⑩区東部	N-33°-E	6間×1間	1面に廂もしくは下屋		中世	鎌倉時代Ⅱ期（13c中～後）、P1081と1074はSB14にも使用されている。
SB21掘立柱建物跡	55	19・20	⑨区東部	N-26°-W	3間×2間	南東に廂がつく		古代	
SB22掘立柱建物跡	56	20	⑨区北東部	N-12°-W	1間×1間			古代？	
SB24掘立柱建物跡	57	20	⑨区南部	N-73°-E	2間×2間、ほぼ正方形に近い、総柱建物か			古代？	⑨区　SE05周辺
SB26掘立柱建物跡	58	21	⑨区北部	N-42°-W	1間×2間			中近世	南東側の桁行は柱筋の通りが悪い
SB27掘立柱建物跡	59	21	⑨区北西部	N-45°-W	3間×1間、1個欠損			中近世	
SB28掘立柱建物跡	60	21	⑨区中央部	N-36°-E	2間×1間			中近世	
SB29掘立柱建物跡	61	21	⑨区北部	N-43°-W	3間×2間	北東に廂		中近世	
SB30掘立柱建物跡	62		⑩区南部	N-33°-E	2間×2間			中世	鎌倉時代Ⅱ期（13c中～後中）
SB33掘立柱建物跡	63	18	⑩区中央部やや南東	N-21°-E	3間×2間			中世	鎌倉時代Ⅰ期（13c初～前）、
SB34掘立柱建物跡	64		⑩区南東部	N-24°-E	3間以上×4間			中世	鎌倉時代Ⅰ期（14c初～前）、
SB35掘立柱建物跡	65		⑨区北東部	N-3°-W	1間×1間			古代？	
SB36掘立柱建物跡	66		⑨区東部	N-58°-E	1間×1間			不明	
SB37掘立柱建物跡	67		⑨区東部	N-59°-W	3間×2間	西に廂		中世？	西に廂がつく
SB38掘立柱建物跡	68		⑨区北部	N-42°-W	4間×2間、長方形			中世？	桁行方向の柱筋の通りが悪い
SB40掘立柱建物跡	69		⑨区北部	N-51°-W	5間×1間			中世？	
SB41掘立柱建物跡	70	93	②区	N-70°-W	2間×1間			古代？	

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	平面規模	付属施設	掲載遺物	時期	備考
SB42掘立柱建物跡	71	93	②区	N-65°-W	4間×？			古代？	
SB45掘立柱建物跡	72		㉔区北西部	N-25°-E	4間×1間			古代～中世	
SB46掘立柱建物跡	73		㉔区北西部	N-65°-W	3間×1間			古代～中世	
SB47掘立柱建物跡	74		㉔区北西部	N-62°-W	3間×1間			古代～中世	
SB48掘立柱建物跡	75		㉔区北部	N-65°-W	3間×2間			古代～中世	
SB49掘立柱建物跡	76		㉔区北部	N-59°-W	3間×1間			古代～中世	
SB50掘立柱建物跡	77		㉔区北東部	N-63°-W	3間×1間			古代～中世	
SB51掘立柱建物跡	78		㉔区北東部	N-62°-W	3間×1間			古代～中世	
SB52掘立柱建物跡	79		㉔区北部	N-32°-W	3間×1間			古代～中世	
SB53掘立柱建物跡	80		㉔区北東部	N-61°-W	4間×2間			古代～中世	
SB54掘立柱建物跡	81		㉔区北東部	N-64°-W	3間×2間			古代～中世	
SB55掘立柱建物跡	82		㉔区中央部	N-31°-W	3間×1間			古代～中世	
SB56掘立柱建物跡	83		㉔区中央部	N-35°-E	3間×1間			古代～中世	
SB57掘立柱建物跡	84		㉔区中央部	N-61°-W	3間×1間			古代～中世	
SB58掘立柱建物跡	85		㉔区中央部	N-58°-W	3間×1間			古代～中世	
SB59掘立柱建物跡	86		㉔区中央部	N-59°-E	4間×1間			古代～中世	
SB60掘立柱建物跡	87		㉔区中央部	N-65°-W	5間×1間			古代～中世	
SB61掘立柱建物跡	82		㉔区中央部	N-50°-W	3間×1間			古代～中世	
SB62掘立柱建物跡	88		㉔区中央部	N-59°-W	5間×1間			古代～中世	
SB63掘立柱建物跡	89		㉔区中央部	N-63°-W	4間×2間			古代～中世	
SB64掘立柱建物跡	90		㉔区中央部	N-60°-W	4間×3間			古代～中世	
SB65掘立柱建物跡	91		㉔区中央部	N-63°-W	4間×1間			古代～中世	
SB66掘立柱建物跡	92		㉔区中央部南側	N-63°-W	4間×1間			古代～中世	
SB67掘立柱建物跡	93		㉔区中央部南側	N-58°-W	4間×2間			古代～中世	
SB68掘立柱建物跡	94		㉔区中央部南側	N-60°-W	3間×2間			古代～中世	
SB69掘立柱建物跡	95		㉔区中央部南側	N-75°-W	3間×2間			古代～中世	
SB70掘立柱建物跡	96		㉔区中央部南側	N-64°-W	4間×2間			古代～中世	
SB71掘立柱建物跡	97		㉔区南部	N-60°-W	2間×1間			古代～中世	
SB72掘立柱建物跡	98		㉔区南部	N-60°-W	4間×2間			古代～中世	
SB73掘立柱建物跡	99		㉔区・⑦区	N-60°-W	5間×5間			古代～中世	SB02と合体
SB74掘立柱建物跡	100		㉔区・⑦区	N-60°-W	2間×4間			古代～中世	SB02と合体
SB75掘立柱建物跡	101		㉔区・⑦区	N-28°-W	4間×4間			古代～中世	SB02と合体

第 5 表　遺構観察表（4）　柱穴列

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	主軸方向	時期	備考
SA01柱穴列	35	22	⑤区	N−２°−W	不明	
SA02柱穴列	35	22	⑭区	N−68°−W	不明	
SA03柱穴列	36	22	⑭区	N−68°−W	不明	調査当初 SB32→ SA03
SA04柱穴列	36	22	⑭区	N−68°−W	不明	調査当初 SB31→ SA04

第 6 表　遺構観察表（5）　墳墓

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	平面形	平面規模	埋土	時期	備考
SX06墳墓	102・103	23〜26	⑩区北部	N−28°−E	円形（８の字）	8.59×9.24m	自然堆積（一部人為）	中世	鎌倉時代Ⅰ〜Ⅱ（13ｃ初〜後）

第 7 表　遺構観察表（6）　堀跡

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	開口部	深さ（cm）	埋土	時期	備考
SD26堀跡	104・105	27〜29	⑨区中央部	N−45°−E から N−40°−W・N−100°−E へ分かれる	長さ47m 前後、幅５〜6.5m	50〜60	自然堆積	中近世	SE06より新しい
SD64堀跡	121	29	⑪区南部	N−50°−W	幅400cm前後	50	自然堆積	中近世	SD26と同一遺構？

第８表　遺構観察表（7）　溝跡

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	開口部	深さ（㎝）	埋土	時期	備考
SD01溝跡	106	5	①区	N-100°-E	長さ330㎝以上、幅28㎝以上	5～18	自然堆積	近世～現代	
SD02溝跡	106	30	③区北～南部	N-165°-E	長さ102m 以上、幅44～52m	140～160	自然堆積	近世～現代	
SD03溝跡	106	5	①区	N-106°-E	長さ10m 以上、幅70cm	10	自然堆積	古代	
SD04溝跡	107	30	⑥区西部	N-15°-W	長さ４m20cm 以上、幅２m	10	自然堆積	古代	
SD05溝跡	107	30	⑥区中央部	N-10°-W	長さ430以上、幅50㎝	14	自然堆積	古代	
SD06溝跡	107	30	⑥区中央部	N-10°-W	長さ440以上、幅87㎝	13	自然堆積	古代	
SD07溝跡	107	31	⑥区中央部	N-30°-W	長さ470以上、幅70㎝	8	自然堆積	古代	
SD08溝跡	107	31	⑥区中央部	N-30°-W	長さ490以上、幅41㎝	12	自然堆積	古代	
SD09溝跡	108	31	⑤区北西～南部	N-0°-W から N-14°-W	長さ60.5㎝以上、幅100～160cm	20～30	自然堆積	古代	土錘１点出土
SD10溝跡	107	32	⑥区中央部	N-5°-W	長さ4.4m 以上、幅90cm	10	自然堆積	古代	
SD11溝跡	109	32	⑤区南部	N-92°-E から N-180°-E	長さ129.2㎝以上、幅２m	40	自然堆積	古代	
SD12溝跡	107	32	⑤区中央部	N-95°-E	長さ15.2m 以上、幅80cm	10	自然堆積	近世～現代	
SD13溝跡	109	32	⑤区中央部やや東	N-90°-E	長さ80㎝以上、幅580cm	80	自然堆積	古代	
SD14溝跡	109	33	⑦区東部	N-65°-E から N-25°-E	長さ84㎝以上、幅36cm 前後	80	自然堆積	近世～現代	
SD15溝跡	109	33	⑦区東部	N-25°-E	長さ42.8㎝以上、幅24cm	10	自然堆積	古代	
SD16溝跡	110	33	⑦区東部	N-15°-E	長さ74㎝以上、幅３～5.6m	40	自然堆積	古代	
SD17溝跡	110	34	⑦区中央部やや西	N-22°-E	長さ13.7m 以上、幅100～190cm	30～15	自然堆積	12世紀	
SD18溝跡	110	34	⑦区南部	N-128°-E	長さ15.3m 以上、幅110～180cm	10～15	自然堆積	12世紀？	
SD19溝跡	111	35	⑦区南東部	N-115°-E	長さ6.3m 以上、幅25cm	4	自然堆積	古代？	
SD20溝跡	111	35	⑦区中央部	N-28°-E	長さ8.66m、幅450cm	60	自然堆積	古代～中世	
SD23溝跡	111	35	⑦区東部	N-104°-E	長さ1.9m 以上、幅36cm	10	自然堆積	古代	
SD24溝跡	111	35	⑦区中央部やや西	N-0°-W から N-65°-W	長さ2.9m 以上、幅36～54cm	4	自然堆積	12世紀	
SD25溝跡	111	34	⑦区南部	N-68°-W	長さ4.75m 以上、幅33～70	12	自然堆積	12世紀？	
SD27溝跡	112	36	⑨区西～中央部	N-135°-E に延びる	長さ146㎝以上、幅8.8～11.6m	40	自然堆積	近世？	
SD28溝跡	113	36・37	⑨区西～北部	N-90°-E から N-55°-E へ延びる	長さ142m 以上、幅20～48㎝	80～240	自然堆積	古代	SD28との関係から、相対的にTo-a より古い
SD29溝跡	112	38	⑨区中央部やや北	N-85°-E	長さ3.6m、幅40㎝前後	12	自然堆積	古代？	
SD30溝跡	114	38	⑨区西～中央部	N-138°-E に延びる	長さ144m 以上、幅12.8～10.8m	160～200	溝本来は自然堆積	中近世	
SD31溝跡	114	39	⑨区北西部	N-40°-W	長さ6.2m、幅30～40cm	10	自然堆積	古代	
SD32溝跡	115	39	⑨区西部	N-165°-E から N-190°-E へ弧状時気味に延びる	長さ20.3m 以上、幅50～60cm	12～33	自然堆積	古代	
SD33溝跡	113	36・37	⑨区北西部	N-25°-E	長さ4.3m、幅50cm	30	自然堆積	古代	
SD34溝跡	115	39	⑨区西部	N-50°-W	長さ16.5m 以上、幅30～40cm	10前後	自然堆積	古代	
SD35溝跡	116	39	⑨区西部	N-40°-W	長さ21.8m 以上、幅60～70cm	20	自然堆積	古代	
SD36溝跡	115	40	⑨区中央部やや西	N-100°-E	長さ2.54m、幅44cm 前後	19	自然堆積	古代	※陥し穴ではない
SD37溝跡	115	40	⑪区中央部	N-50°-E	長さ10m 以上、幅80cm 前後	20前後	自然堆積	古代	
SD38溝跡	116	40	⑨区南部	N-125°-E	長さ19m 以上、幅120～170cm	30	自然堆積	中近世	※ SD26に近接し東へ向かう
SD39溝跡	117	40	⑨区東部	N-30°-E	長さ16.2m 以上、幅90～95cm	15～20	自然堆積	古代	
SD40溝跡	117	41	⑩区北部	N-120°-E から N-30°-E	長さ8.5m 以上、幅80～110cm	20	自然堆積	古代～中世	
SD41溝跡	117	41	⑩区北部	N-105°-W	長さ7.1m 以上、幅40～60cm	5～10	自然堆積	古代？	
SD42溝跡	117	41	⑩区南西部	N-0°-E	長さ1.6m 以上、幅60cm	10	人為堆積	近世？	
SD43溝跡	118	41	⑩区中央部	N-25°-W	長さ4.5m 以上、幅20～40cm	6～12	人為堆積	古代～中世	

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	開口部	深さ（cm）	埋土	時期	備考
SD44溝跡	118	42	⑩区南西部	N-25°-W	長さ4.63m、幅50cm	40	自然堆積	古代～中世	
SD47溝跡	118	42	⑩区中央部やや南東	N-60°-W	長さ2.5m 以上、幅20cm	4	自然堆積	古代～中世	
SD48溝跡	118	42	⑩区南東部	N-55°-W	長さ3.1m、幅30～40cm	8～12	人為堆積	古代～中世	
SD49溝跡	118	43	⑩区中央部	N-0°-E	長さ5.4m、幅44～70cm	4～10	人為堆積？	古代	
SD50溝跡	119	43	⑩区南東部	N-45°-E	長さ80m、幅100～160cm	20～40	人為堆積？	古代～中世	
SD51溝跡	119	44	⑩区南西部	N-0°-E	長さ8.3m 以上、幅26～65cm	18	人為堆積？	古代～中世	
SD52溝跡	120	44	⑪区北部	N-45°-E	長さ4.7m 以上、幅100～120cm	40	自然堆積	古代～中世	
SD53溝跡	120	44	⑪区北部	N-50°-E	長さ8.8m 以上、幅120～160cm	60	自然堆積	古代	
SD54溝跡	120	44	⑪区中央部	N-55°-W	長さ3.4m 以上、幅30～50cm	80	自然堆積	古代～中世	
SD55溝跡	120	45	⑪区中央部	N-45°-W	長さ3.4m 以上、幅140～160cm	20～30	自然堆積？	古代～中世	断面形 W 字状
SD56溝跡	121	45	⑪区南部	N-35°-W	幅60cm	6 以上	自然堆積？	古代～中世	
SD57溝跡	121	45	⑪区南部	N-45°-W	幅180cm	7 以上	自然堆積？	古代～中世	
SD58溝跡	121	45	⑪区南部	N-40°-W	幅140cm	15以上	自然堆積？	中近世	
SD59溝跡	121	45	⑪区南部	N-55°-W	幅40cm	5 以上	自然堆積	古代～中世	
SD60溝跡	121	45	⑪区南部	N-65°-W	幅32cm	2 以上	自然堆積	古代～中世	
SD61溝跡	122	46	⑨区南部	N-90°-E	長さ5.7m 以上、幅19cm 前後	30	自然堆積	中近世	
SD62溝跡	122	46	⑨区南部	N-35°-E	長さ4.2m 以上、幅50～80cm	10～15	自然堆積	古代～中世	
SD63溝跡	122	46	⑨区南部	N-60°-E	長さ44cm 以上、幅40cm	20	自然堆積	古代～中世	
SD65溝跡	121	45	⑪区南部	N-40°-W	幅160cm 前後	11以上	自然堆積	中近世	
SD66溝跡	122	46	⑨区北部	N-95°-E	長さ3.1m 以上、幅20～50cm	10	人為堆積	古代～中世	⑨区北西端
SD67溝跡	122	46	⑨区北部	N-50°-W	長さ6.7m、幅14～30cm	6	自然堆積	古代	⑨区北西端
SD68溝跡	123	47	⑮区南部	N-45°-W	長さ1.5m 以上、幅30～54cm	30	自然堆積	古代～中世	
SD69溝跡	123	47	⑮区南部	N-110°-E	長さ1.4m 以上、幅90cm	14	自然堆積	古代～中世	
SD70溝跡	123	47	⑭区南部西端	不明	長さ8.9m 以上、幅1.1～2.3m	15	自然堆積	古代	
SD71溝跡	123	47	⑭区東部北端	N-20°-E	長さ12cm 前後、幅2.15m 前後	10cm 前後	自然堆積	不明	
SD72溝跡	123	47	⑭区東部北端	N-160°-W	長さ0.6m 以上、幅1.4m	15	自然堆積	不明	
SD81溝跡	124	48	⑥区北西部	N-10°-W	長さ4.7m 以上、幅20cm 前後	50	自然堆積	古代～中世	
SD82溝跡	124	48	⑥区北西部	N-72°-E	長さ3.3m 以上、幅87～110cm	20	自然堆積	古代～中世	
SD83溝跡	124	48	⑥区南部	N-85°-E	長さ 6 m 以上、幅70～105cm	10	自然堆積	古代～中世	
SD84溝跡	124	48	⑥区南部	N-30°-E	長さ4.1m、幅40～65cm	10	自然堆積	古代～中世	
SD85溝跡	125	49	⑯区北東部	N-75°-W	長さ5.5m 以上、幅36cm	15	自然堆積	古代～中世	
SD86溝跡	125	49	⑯区中央部	N-15°-E	長さ6.5m 以上、幅100～130cm	35	自然堆積	古代～中世	
SD87溝跡	125	49	⑯区北東部	N-90°-E	長さ2.4m 以上、幅36～80cm	20	自然堆積	古代～中世	
SD88溝跡	126	49	⑯区北東部	N-100°-E	長さ5.5m 以上、幅95cm	20	自然堆積	古代～中世	
SD89溝跡	121	45	⑪区南部	N-45°-W	幅58cm 前後	6 以上	自然堆積	古代～中世	
SD90溝跡	126	49	⑫区中央部	N-50°-E	長さ2.1m 以上、幅65cm 前後	15	自然堆積	不明	
SD91溝跡	126	96	②区	N-15° E	長さ8.2m 以上、幅80～120cm	42以上	自然堆積	近世以降	
SD92溝跡	127	96	②区	N-13°-E	長さ8.8m 以上、幅20cm前後	20前後	自然堆積	古代？	
SD93溝跡	128	96・97	②区	N-95°-W	長さ42m 以上、幅80cm前後	15～26	自然堆積	古代	
SD94溝跡	128	97	②区	N-80°-W	長さ42.5m 以上、幅100～120cm	52～90以上	不明（人為堆積か）	古代	
SD95溝跡	127	97・98	②区	N-14°-E	長さ7.7m 以上、幅140～160cm	20～40	人為堆積？	近世以降	
SD96溝跡	129	98	⑳区	N-7°-W	長さ5.1m 以上、幅83～110cm	7	自然堆積	中近世	
SD97溝跡	129	98	⑳区	N-7°-W	長さ6.2m 以上、幅48～153cm	13	自然堆積	中近世	
SD98溝跡	130	98	⑳区	N-5°-W	長さ 9 m 以上、幅48～94cm	10	自然堆積	中近世	

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	開口部	深さ（cm）	埋土	時期	備考
SD100溝跡	130	98・99	⑳区	N-68°-W	長さ7.4m 以上、幅29～35cm	4	自然堆積	古代	
SD101溝跡	130	98・99	⑳区	N-79°-W	長さ4.0m 以上、幅23～54cm	10	自然堆積	古代	
SD102溝跡	129	99	⑳区	N-16°-W	長さ4.3m 以上、幅38～54cm	12	人為堆積？	古代	
SD103溝跡	129	99・100	⑳区	N-82°-W	長さ3.1m 以上、幅28～50cm	21	人為堆積？	不明	
SD104溝跡	129	100	⑳区	N-17°-W	長さ1.8m 以上、幅29～44cm	8	自然堆積	古代	
SD105溝跡	129	100	⑳区	N-80°-E	長さ 1 .2m 以上、幅20～35cm	5	人為堆積？	不明	
SD106溝跡	131	100	⑳区	N-68°-W	長さ6.1m 以上、幅20～41cm	14	不明	不明	
SD107溝跡		100	㉔区	西 N-67°-W　東 N-71°-W	—	—	人為堆積？	近代	
SD108溝跡	131	101	㉔区	N-27°-E	長さ5.1m 以上、幅42cm	8	人為堆積？	古代	
SD109溝跡	132	101	㉔区	西 N-63°-W　東 N-61°-W	長さ15cm、幅10	8	人為堆積？	12世紀	
SD110溝跡	133	101	㉔区	N-62°-W	長さ4.0m、幅42cm	2 ～ 8	自然堆積	近代？	
SD111溝跡		101	㉔区		—	—	不明	近代・現代	
SD112溝跡	133	101・102	㉔区	北N22°-E　南 N23°-W	長さ16m、幅36cm	6	不明	古代	
SD113溝跡		102	㉔区	北N72°-E　中央 N-21°-E 南 N23°-W	長さ18.8m、幅 8 ～18cm	4 ～12	人為堆積？	近代	※石器は剥片
SD114溝跡	134	102・103	㉔区	N-58°-W	長さ22m、幅38cm	5	人為堆積？	古代？	
SD115溝跡	131	103	㉔区	N-20°-E	長さ18.6m、幅10～18cm	3 ～12	人為堆積？	古代	
SD116溝跡	135	103	㉔区	N-65°-W	—	—	自然堆積	近世	
SD117溝跡	110	104	㉔区	7 区SDと同一	—	—	不明	近世	
SD118溝跡	135	104	㉔区	N-24°-E	—	—	人為堆積？	近世	
SD119溝跡	134	104	㉔区	N-24°-E	長さ10.9m、幅90cm	5	自然堆積？	近世	
SD120溝跡	134	104	㉔区	N-70°-W	長さ4.6m、幅32cm	8	人為堆積？	古代？	
SD121溝跡	136	105	㉔区	N-17°-E	長さ9.8m、幅20～56cm	2 ～ 6	人為堆積？	古代	
SD122溝跡	136	105	㉔区	北N25°-E　南 N76°-W	長さ5.3m、幅14～22cm	5 ～10	人為堆積？	古代	
SD131溝跡	136	105	⑧区	N-53°-W			自然堆積	古代	
SD132溝跡	137	105	⑧区	N-54°-W			自然堆積	古代	
SD133溝跡	137	105	⑧区	N-52°-W	長さ4.6m 以上、幅33～57cm	10以上	自然堆積	古代～中世	
SD134溝跡	137	105	⑧区	N-32°-W	長さ2.5m 以上、幅76～84cm	10以上	自然堆積	古代	
SD135溝跡	138	106	⑧区	N-38°-E	長さ92m 以上、幅150cm	12	人為堆積	中世？	
SD136溝跡	137	106	⑧区	N-54°-E	長さ4.1m 以上、幅84～119cm	14	自然堆積	古代～中世	
SD137溝跡	139	106	⑧区	N-57°-E	長さ 3 m 以上、幅39～60cm	13以上	自然堆積	古代	
SD138溝跡	139	107	⑧区	N-55°-E	長さ3.9m 以上、幅33～62cm	55	自然堆積	古代～中世	
SD139溝跡	139	107	⑧区	N-61°-W	長さ4.6m 以上、幅64～88cm	116	人為堆積？	古代？	
SD140溝跡	140	107	⑧区	N-53°-W	長さ1.9m 以上、幅103～120cm	44.5以上	人為堆積？	古代？	
SD141溝跡	140	107	⑧区	N-21°-E	長さ 2 m 以上、幅42～65cm	16	人為堆積？	古代？	
SD142溝跡	140	107	⑧区	N-63°-W	長さ1.6m 以上、幅75～108cm	43	人為堆積？	不明	
SD143溝跡	141	108	⑧区	N-25°-E	長さ8.1m 以上、幅50cm	12	人為堆積	不明	
SD144溝跡	140	108	⑧区	N-81°-E	長さ2.5m 以上、幅116～132cm	52	人為堆積？	古代	
SD145溝跡	141	108	⑧区	N-49°-E	長さ3.4m 以上、幅43～51cm	46	人為堆積？	古代	

第９表　遺構観察表（8）　陥し穴

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	平面形	断面形	開口部（cm）	底部（cm）	深さ（cm）	埋土	付属施設	時期
SK35陥し穴	142	50	⑩区中央部	円形	深鉢形	128×76	83×56	76	自然		縄文
SK36陥し穴	142	50	⑩区中央部	円形	深鉢形	112×94	74×58	82	自然		縄文
SK39陥し穴	142	50	⑩区中央部	楕円形	鉢形	146×108	125×90	96	自然	副穴1	縄文
SK40陥し穴	142	50	⑩区中央部	楕円形	深鉢形	144×122	110×80	90	自然	副穴1	縄文
SK42陥し穴	142	50	⑩区東部	楕円形	鉢形	223×120	170×60	72	自然	副穴1	縄文
SK43陥し穴	142	51	⑩区東部	楕円形	鉢形	135×86	118×77	34	自然		縄文
SK44陥し穴	142	51	⑩区東部	隅丸方形	鉢形	87×63	74×47	50	自然	副穴1	縄文
SK45陥し穴	142	51	⑩区東部	楕円形	鉢形	104×42	77×23	47	自然		縄文
SK46陥し穴	143	51	⑩区東部	円形	鉢形	98×98	68×66	58	自然	副穴1	縄文
SK47陥し穴	143	51	⑩区東部	長方形	深鉢形	116×68	84×35	52	自然		縄文
SK48陥し穴	143	52	⑩区東部	円形	鉢形	94×92	82×75	60	自然	副穴1	縄文
SK51陥し穴	146	52	⑨区北東部	溝状	深鉢形	377×70	313×8	70	自然		縄文中～後期
SK61陥し穴	143	52	⑩区東部	隅丸方形	鉢形	112×90	90×60	52	自然	副穴1	縄文
SK62陥し穴	143	52	⑩区	隅丸方形	鉢形	122×104	90×72	48	自然		縄文
SK63陥し穴	143	53	⑩区南部	円形	深鉢	100×98	20×22	50	自然	副穴1	縄文
SK66陥し穴	143	53	⑩区東部	隅丸方形	鉢形	130×80	98×44	32	自然		縄文
SK67陥し穴	143	53	⑩区南部	略円形	深鉢形	117×117	58×46	76	自然		縄文
SK68陥し穴	143	53	⑩区南部	円形	深鉢形	114×96	74×59	92	自然堆積	副穴1	縄文
SK69陥し穴	143	54	⑩区南部	楕円形	鉢形	128×84	84×26	45	自然堆積		縄文
SK71陥し穴	144	54	⑩区東部	隅丸方形	バケツ形	121×70	114×49	86	自然堆積	副穴1	縄文
SK72陥し穴	144	54	⑩区東部	楕円形	深鉢形	134×83	104×36	54	自然堆積		縄文
SK75陥し穴	144	54	⑩区南部	円形	浅鉢	112×106	66×62	35	自然堆積	副穴１	縄文
SK76陥し穴	144	55	⑩区南部	楕円形	鉢形	84×60	55×30	26	自然堆積		縄文
SK79陥し穴	144	55	⑩区中央部	長楕円形	深鉢形	177×104	147×56	83	自然堆積		縄文
SK80陥し穴	144		⑩区中央部やや北	楕円形	深鉢形	164×98	112×36	108	自然堆積		縄文
SK82陥し穴	145	55	⑩区東部	楕円形	深鉢形	190×102～142	153×61～75	72	自然堆積		縄文
SK83陥し穴	145	55	⑩区南部	楕円形	逆台形	136×86	72×13～20	44	自然堆積		縄文？
SK84陥し穴	145	56	⑩区南部	不整楕円形	鉢形	124×80	90×42	63	自然堆積		縄文
SK85陥し穴	145	56	⑩区	楕円形	鉢形	128×72	94×60	35	自然堆積		縄文
SK86陥し穴	145	56	⑩区南部	長方形	逆台形	140×85～101	99 ？×46	68	自然堆積		縄文？
SK87陥し穴	145	56	⑩区東部	長方形	鉢形	112×70	108×53	59	自然堆積	副穴１	縄文
SK88陥し穴	145	56	⑩区東部	長方形	鉢形	136×74	106×44	53	自然堆積		縄文
SK90陥し穴	148	57	⑩区北部	楕円形	碗形	131×91	55×32	41	自然堆積		縄文？
SK91陥し穴	148	57	⑩区東部	楕円形	鉢形	132×70	94×28～45	27	自然堆積		縄文？
SK92陥し穴	146		⑩区南東部	溝状		273×35	261×17	20	自然堆積		縄文
SK98陥し穴	146	57	⑩区南西部	溝状	逆三角形	178以上×69	168以上×7	50	自然堆積		縄文
SK100陥し穴	146	57	⑩区中央部やや北東	溝状	袋状	378×45	318×30	64	自然堆積		縄文
SK101陥し穴	148		⑩区中央部やや北東	楕円形？	鉢形	108以上×100	90以上×82	43	自然堆積		縄文？
SKT01陥し穴	147	58	⑩区西部	溝状	袋状	216×34	236× 8 ～11	53	自然堆積		縄文中～後期
SKT02陥し穴	147	58	⑩区中央部	溝状	袋状	408×28～50	416×10～32	62	自然堆積		縄文中～後期
SKT03陥し穴	147	58	⑩区中央部やや北	溝状	袋状	316×30	316× 5 ～12	81	自然堆積		縄文中～後期
SKT04陥し穴	147	58	⑩区中央部	溝状	袋状	230以上×25	225× 8	54	自然堆積		縄文中～後期
SKT05陥し穴	148	108	⑧区中央	溝状	袋状	230以上×55	190以上×10	72	自然堆積		縄文中～後期

第10表　遺構観察表（9）　井戸跡

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	平面形	開口部（cm）	底部（cm）	深さ（cm）	埋土	掲載遺物	時期
SE01井戸跡	149	59	⑦区西部	円形	234×221	77×74	131	1層人為堆積，2～10層人為堆積？	39	12世紀
SE02井戸跡	150	59	⑦区北西部北端	円形	398～402	126～134	211	1～3層人為堆積、4～13層人為堆積？	40～43、201	12世紀
SE03井戸跡	149	59	⑦区南東部	円形	218×168以上	120×112	184	人為堆積	232	12世紀？
SE04井戸跡	149	60	⑨区中央部	円形	226×210	70	180前後	人為堆積		古代
SE05井戸跡	149	60	⑨区中央部	円形	180×173	70×68	203	人為堆積	226・240	古代
SE06井戸跡	151	60	⑨区北部	隅丸方形？	276	159×76以上	164	上部自然堆積（To-a 含む）、下部人為堆積？	44～46、241	古代
SE07井戸跡	151	60	⑭区	円形	232×198	94×96	120	人為堆積	47、242・243	古代
SE08井戸跡	151	109	⑳区	円形	158×156	88×74	192	人為堆積	208	近世？
SE09井戸跡	151	109	㉔区	円形	110×106	40×40	101	不明		古代
SE10井戸跡	151	109	㉔区	円形	95×84	56×56	104	自然堆積？		古代
SE11井戸跡	150	109	⑧区	楕円形	116×100	58×54	130	人為堆積		古代

第11表　遺構観察表（10）　土坑

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	平面形	断面形	開口部（cm）	底部（cm）	深さ（cm）	埋土	掲載遺物	時期	備考
SK01土坑	152	5	①区	不整形	皿形	298×165	230×118	25			古代～中近世	
SK02土坑	152	61	⑤区	円形	深鉢形	112×104	50×50	42	人為堆積？,礫含む	48	古代	
SK03土坑	152	61	⑤区	円形	鉢形	96×88	52×50	20	人為堆積		古代	
SK04土坑	152	61	⑤区	楕円形	鉢形	100×80	70×44	18	自然堆積、To-a 入る		古代	To-a 有り
SK05土坑	152	61	⑤区	楕円形	鉢形	176×134	106×78	54	人為堆積？,礫含む		古代	
SK06土坑	152	62	⑤区	楕円形	鉢形	125×100	88×70	12～16	自然堆積？		近現代	
SK07土坑	152	62	⑤区	楕円形	鉢形＋小穴	86×62	24×20	22	人為堆積？		古代？	
SK08土坑	152	62	⑦区	円形	皿形	128×120	112×108	5	自然堆積？		古代～中世	
SK11土坑	153	62	⑦区	長楕円形	鉢形	250×64	210×28	12	不明		古代？	12世紀より古い
SK12土坑	153	63	⑦区	略円形	皿形	145×142	108×100	18	人為堆積	49～51	古代	
SK13土坑	153	63	⑦区	楕円形	皿形	214×174	184×142	14	人為堆積	52	古代	
SK14土坑	153	63	⑦区	楕円形	皿形	90×30	48×22	6	不明		古代	
SK15土坑	153	63	⑦区	溝形	鉢形	210以上×92	170以上×72	24	人為堆積		古代	
SK16土坑	153		⑦区	楕円形	鉢形	126×66	80×46	18	不明		中世？	
SK17土坑	153	64	⑦区	楕円形	鉢形	150×96	96×54	14	人為堆積		古代？	
SK18土坑	153	64	⑦区	楕円形	なし	128×52	100×32	54 ？	不明		12世紀？	SD18と同時期
SK21土坑	154	64	⑦区	不整形	皿形	128×72	84×48～58	18	人為堆積		古代～中世	
SK22土坑	154	64	⑦区	楕円形	溝状	98×52	22×22	20	不明		古代？	
SK23土坑	154	64	⑩区西部	不整形	皿形	108×58	60×38	14	不明		古代	
SK24土坑	154	65	⑩区西部	隅丸方形	皿形	104×92	86×72	12	不明（人為堆積？）		古代～中世	焼土坑
SK25土坑	154	65	⑩区西部	円形	皿形	80×74	46×45	26	人為堆積		古代～中世	
SK26土坑	154	65	⑩区西部	不整形	溝状	197×89～122	142×64	23	不明（自然堆積？）		古代	
SK27土坑	154	65	⑩区西部	楕円形	皿形	107×47	78×36	20	人為堆積		古代～中世	
SK28土坑	154	65	⑩区西部	不整形	皿形	112×50～78	92～44	20	人為堆積		古代～中世	
SK29土坑	155	66	⑩区北部	円形	深鉢形	98×104	32×39	65	不明		古代	
SK30土坑	155	66	⑩区南西部	円形	皿形	101×101	84×72	14	人為堆積？		平安	

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	平面形	断面形	開口部（cm）	底部（cm）	深さ（cm）	埋土	掲載遺物	時期	備考
SK31土坑	155	66	⑩区北部	円形	鉢形	78×73	55×54	22	自然堆積	244	古代？	
SK33土坑	155	66	⑩区北部	円形	皿形	94×60以上	64×52	12	人為堆積		不明	
SK34土坑	155	66	⑩区中央部	円形	鉢形	94×78	72×70	21	不明（人為堆積？）	245	古代	
SK37土坑	155	67	⑩区南西部	楕円形	皿形	112×82	92×62	32	人為堆積		平安	
SK38土坑	155	67	⑩区西部	円形	鉢形	70×54	65×50	27	不明（人為堆積？）		中近世	焼土坑
SK41土坑	142	67	⑩区中央部	円形	皿形	116×114	92×90	12	人為堆積		古代	
SK49土坑	155	67	⑩区東部	楕円形	皿形	72×48	55×33	18	不明		中近世	
SK50土坑	155	68	⑩区東部	楕円形	皿形	100×76	70×39	11	不明		中近世	
SK52土坑	156	68	⑨区北部	不整形	不整形	113×64	66×24	14	不明		古代	
SK53土坑	156	68	⑨区北西部	楕円形	鉢形	101×71	72×52	33	人為堆積		古代	
SK54土坑	156	68	⑨区北部	長楕円形	鉢形	123×46	79×29	33	人為堆積		古代	※西側の底面掘り過ぎ
SK56土坑	156	69	⑨区中央部やや北	楕円形	皿形	116×74	102×59	17	人為堆積	53	古代	
SK57土坑	156	69	⑨区北東部	円形	皿形	67×58	49×29	15	人為堆積		古代	土師器
SK58土坑	156	69	⑨区北東部	楕円形	不整形	126×65	78×12	25	人為堆積		古代	
SK59土坑	156	69	⑨区北東部	楕円形	溝状	85×62	46×20	26	人為堆積	54	古代	
SK65土坑	143	70	⑩区東部	楕円形	皿形	100×82	70×68	6	不明		古代～中世	
SK70土坑	156	70	⑩区北東部	不整形	略鉢形	96×80	54×34	17	人為堆積		古代	
SK73土坑	156	70	⑩区北東部	不整形	皿形	82×71	65×40	20	人為堆積		古代	
SK74土坑	157	70	⑩区北東部	不整楕円形	皿形	83×65	68×44	22	人為堆積		古代	
SK81土坑	157	71	⑩区東部	隅丸方形	皿形	132×110	116×78	25	自然堆積		古代？	
SK93土坑	158	71	⑩区東部	円形	皿形	186×156	140×98	20	人為堆積？		古代	
SK94土坑	157	71	⑩区南東部	不整形	鉢形	124×45～75	35×43	34	不明		古代～中世	
SK95土坑	157	71	⑩区南東部	不整楕円形	皿形	275×98	60以上×55	20	不明		古代？	
SK96土坑	158	71	⑩区南西部	楕円形	碗形	148×100	72×35	35	不明		中近世	
SK97土坑	158	72	⑩区南西部	円形	皿形	111×99	78×58	12	不明		中近世	
SK99土坑	158	72	⑩区東部端	円形	皿形	65×46以上	54×41以上	8	人為堆積	55・56	古代	調査区境に位置する
SK102土坑	159	72	⑥区	楕円形	皿形	150×58	125×44	16	自然堆積		古代～中世	
SK103土坑	159	72	⑥区	楕円形	不整形	121×83	89×68	18	自然堆積		古代～中世	注記なし
SK104土坑	159	72	⑮区	円形	鉢形	53×49	28×28	13	自然堆積		古代～中世	
SK105土坑	159	73	⑫区	不整形	不整形	165×62	138×35	22～28	自然堆積		古代～中世	
SK106土坑	159	73	⑮区	楕円形？	不整形	96以上×59	54以上×25	58	自然堆積		古代～中世	
SK121土坑	159	73	⑨区西部	不整形	皿形	210～400×21～176	186～377×34～108	16	自然堆積		古代～中世	
SK122土坑	159	73	⑨区北部	円形	不整形	84×74	6×6	62	自然堆積		古代？	
SK123土坑	159	74	⑨区北部	不整形	不整形	95×65	52×23	26	自然堆積？		古代？	
SK124土坑	159	74	⑨区東部	楕円形	鉢形	97×58	76×42	26	人為堆積？		古代？	
SK125土坑	160	74	⑨区北西部	円形	鉢形	33以上×56	46×38	49	人為堆積	57	古代？	
SK126土坑	160	74	⑭区	不整形	皿形	117×48以上	33	18	自然堆積		古代？	
SK129土坑	160	75	⑭区	不整形	鉢形	104×40	68×14	10	自然堆積？		古代～中世	
SK130土坑	160	75	⑭区	不整形	皿形	58×42	12×14	12	自然堆積		不明	
SK131土坑	160	75	⑭区	楕円形	長皿形	204×66	183×67	14	自然堆積		不明	
SK133土坑	160	75	⑭区	不整楕円形	不整形	91×58	24×15、16×15	25	自然堆積		不明	

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	平面形	断面形	開口部（cm）	底部（cm）	深さ（cm）	埋土	掲載遺物	時期	備考
SK134土坑	160	75	⑭区	不整形	不整形	168～230×90～136	85～111×48	40	1層人為？、2～4層自然堆積		不明	SK133と同一か
SK139土坑		76	⑭区	長方形	鉢形？	177以上×60	164以上×47	14	自然堆積		不明	
SK140土坑			⑭区	不整形	不整形	—	—	—	不明		不明	
SK141土坑			⑭区	不整形	不整形	—	—	—	人為堆積		不明	
SK142土坑			⑭区	不整形	不整形	—	—	—	自然堆積？		不明	
SK143土坑			⑭区	不整形	不整形	—	—	—	自然堆積？		不明	
SK144土坑		76	⑭区	長楕円形	不整形	280以上×87	274以上×20～40	17～24	自然堆積		不明	
SK145土坑		76	⑭区	長楕円形	鉢形	435以上×67	316×42	19	自然堆積？		不明	
SK151土坑		76	⑭区	不整形	鉢形？	163×40～50	158×24～39	15～22	自然堆積		不明	
SK153土坑	161	76	⑭区	不整形	皿形	220×92以上	120×70以上	28	自然堆積、To-a入る		古代	To-a有り
SK154土坑		77	⑭区	不整形	不整形	155×53	128×15	20	自然堆積		不明	
SK155土坑		77	⑭区	不整形	不整形				自然堆積	58	不明	
SK156土坑		77	⑭区	三角形？	皿形	115以上×50以上	70×38以上	20	自然堆積		古代？	
SK160土坑	161	77	⑭区	楕円形	不整形	90×60	70×34	15	自然堆積		不明	
SK161土坑	161	77	⑭区	楕円形？	不整形	198×77	140以上×26	71	自然堆積		不明	
SK162土坑	161	110	⑳区	楕円形	皿形	85以上×80以上	48以上×58以上	4	人為堆積？		古代	
SK163土坑	162	110	⑳区	不整形	皿形	304×122以上	136×106以上	6～12	人為堆積？		古代	
SK164土坑	162	110	②区	楕円形	皿形	129×80	122×58	6	自然堆積？		古代	
SK165土坑	162	110	㉔区	隅丸方形	皿形	98×73	70×48	18	人為堆積？		古代	
SK166土坑	162	111	㉔区	円形	鉢形	139×123	72×70	39	人為堆積		古代	
SK167土坑	162	111	㉔区	円形	鉢形	94×91	61×58	24	人為堆積	120・121	古代	トイレ状土坑か
SK169土坑	162	111	㉔区	不整形	不整形	125×86	86×40	26	人為堆積	122・123	古代	
SK170土坑	162	111	㉔区	不整楕円形	皿形	121×77	66×26	27	人為堆積		古代	
SK171土坑	162	112	㉔区	円形	皿形	141×161	85×46以上	28	人為堆積		古代	
SK172土坑	163	112	㉔区	楕円形	皿形	124×116	102×88	11	人為堆積		古代	
SK173土坑	163	112	㉔区	不整楕円形	皿形	97×91	94×70	21	人為堆積	124・125	古代	
SK174土坑	163	112	㉔区	不整楕円形	不整形	104×91	48×46	11	人為堆積		古代	
SK175土坑	163	113	㉔区	円形	鉢形	138×130	46×46	26	人為堆積		古代	
SK176土坑	163	113	㉔区	不整楕円形	鉢形	120×103	30×25	52	人為堆積	126	古代	
SK177土坑	163	113	㉔区	円形	不整形	74×70	65×56	11	人為堆積	127	古代	
SK178土坑	163	113・114	㉔区	円形	鉢形	96×76	60×52	16	人為堆積	128	古代	
SK179土坑	163	114	㉔区	不整形	不整形	86×42	60×25	7	人為堆積		古代	
SK180土坑	161	114	㉔区	円形	皿形	84×57	50×24	12	人為堆積		古代	
SK181土坑	163	114	㉔区	不整形	皿形	86×66	42×36	14	人為堆積	129～131	古代	
SK182土坑	164	115	㉔区	楕円形	皿形	112×90	86×58	22	人為堆積	132～138	古代	
SK183土坑	164	115	㉔区	楕円形	皿形	82×66	50×42	14	人為堆積？		古代	
SK184土坑	164	115	㉔区	不整形	皿形	90以上×88	78以上×52	16	人為堆積	139	古代	SK182に切られる
SK185土坑	164	115	㉔区	円形	皿形	106×100	86×78	10	人為堆積	140・141	古代	
SK186土坑	164	116	㉔区	円形	皿形	70×60	66×54	10	人為堆積		古代	

遺構名	図版	写真図版	位置・検出	平面形	断面形	開口部（cm）	底部（cm）	深さ（cm）	埋土	掲載遺物	時期	備考
SK187土坑	164	116	㉔区	不整形	皿形	88×46	60×30	6	人為堆積？		古代	
SK188土坑	164	116	㉔区	円形	皿形	68×62	56×44	14	人為堆積		古代	
SK189土坑	164	116	㉔区	方形？	不整形	68以上×68	54以上×62	10	人為堆積		古代	
SK190土坑	164	117	㉔区	楕円形	皿形	96×88	46×50	8	人為堆積		古代	
SK191土坑	164	117	⑧区	不整形	鉢形	（84）×（57）	115×106	21	人為堆積		古代	
SK192土坑	165	117	⑧区	方形	皿形	102×69	50×48	14	人為堆積	142	古代	
SK193土坑	165	117	⑧区	楕円形	鉢形	133×84	78×40	22	人為堆積	143	古代	
SK195土坑	165	118	⑧区	不整楕円形	不整形	100以上×112	80以上×86	16	人為堆積	144	古代	
SK196土坑	165	118	⑧区	楕円形	鉢形	104×66	80×58	32	人為堆積		古代	
SK198土坑	165	118	⑧区	楕円形？	鉢形	149×60以上	106×38	44	人為堆積		古代	
SK211土坑	165	118	㉔区	円形	鉢形	85×60	58×54	20	人為堆積		古代	

第12表　遺構観察表（11）　土取り穴

遺構名	遺構の種類	図版	写真図版	位置・検出	平面形	断面形	開口部(cm)	底部(cm)	深さ	埋土	掲載遺物	時期
SK77土取り穴	土取り穴	167	78	⑩区中央部	楕円形	不整形	260×227	180×100	32～42	人為堆積	59～65	9世紀中～後半
SX08土取り穴	土取り穴	166	78	⑩区中央部	不整形（「くの字」状）	不整形	1100×125	1000×105	18～48	人為堆積	67	平安9世紀後半～10世紀前半
SX09土取り穴	土取り穴	166	79	⑩区南部	楕円形	不整形	496×303	365×274	38	人為堆積	68～73	9世紀前半
SX11土取り穴	土取り穴	166	79	⑨区南東部	楕円形	不整形	285×230	240×157	26～30	人為堆積		古代
SX28土取り穴	土取り穴	166	124	⑧区	不整形（土坑の集合体状）	不整形	260×240	206×140	46	人為堆積	172～179	9世紀前半

第13表　遺構観察表（12）　カマド状遺構

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	長軸方向	平面形	開口部（cm）	深さ（cm）	埋土	壁・床面	炉	時期
SX17カマド状遺構	168	80	⑩区南東部	N-30°-E	長楕円形	180×36～60	14	人為堆積？	北から南に下る	30cm四方の焼土範囲	中世

第14表　遺構観察表（13）　畝間状遺構

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	主軸方向	範囲	面積	開口部	深さ（cm）	埋土	時期	備考
SX18畝間状遺構	169	80	⑩区南西部	N-30°-E	317×202	約6㎡	317以上×39、262以上×28、60×27	11、4、4	黒色土と黄色土の混合土	近世？	SX18西側
SX22畝間状遺構	169	80	⑩区南部	N-30°-E	932×570	約53㎡	932×570m	5～12	黒色土と黄色土の混合土	近世？	

第15表　遺構観察表（14）　不明遺構

遺構名	図版番号	写真図版	位置・検出	平面形	開口部（cm）	底部径（cm）	深さ（cm）	埋土	掲載遺物	時期	備考
SX03不明遺構	167	81	⑦区北東部北端	不整形	258×146	214×130	5～10	人為堆積？		古代～中世	
SX04不明遺構	167	81	⑦区中央部やや東	不整形	204×126	173×104	18	人為堆積？		古代～中世	
SX05不明遺構	167	81	⑦区西部	不整形	176×62	160×50	14	人為堆積？		古代～中世	
SX07不明遺構	167	81	⑩区西部	長方形（溝状）	586×127	565×104	12～18	人為堆積？		古代～中世	
SX12不明遺構	167	82	⑨区東部	L字状（溝状）	850以上×40～60		20	人為堆積	74	古代	溝状、須恵器・土師器出土
SX13不明遺構	167	82	⑨区北部	楕円形＋溝	140×124＋442以上×30～36	132×88＋490以上×14～16	8～18	人為堆積		古代	⑨区　両端に小溝が付く
SX14不明遺構	168	83	⑨区北西部	不整形	①286×258、 ②220×90	①262×240、 ②210×65	17～30	人為堆積？		古代	
SX19不明遺構	170	83	⑩区南東部		①60×32～36 ②30×40 ③52×32 ④116×105	①50×14 ②14×14 ③31×26 ④90×28～34	①～③ 8～12 ④31	3、4層人為堆積	75～77	古代	土器は10世紀中頃や10世紀後半～11世紀を含む（To-a）
SX20不明遺構	170	83	⑩区南部	①楕円形土坑 ②不整形焼土	①102×72 ②104×100	①92×32	①16～20 ②6	人為堆積	78	古代	
SX21不明遺構	170	84	⑩区東部	溝状（方形）	①480前後、 ②溝：60～76		10～16	人為堆積		中世	持仏堂跡?、鎌倉時代 Ⅲa～Ⅳ（13c後半以降）か
SX24不明遺構	34	123	㉔区	隅丸方形	400×300cm	340×225	16	人為堆積	153～155	12世紀	かわらけ出土
SX25不明遺構	171	83	⑭区東部	楕円形？	415×170以上	—	28	不明		不明	
SX27不明遺構	171	123・124	⑧区	不整形 （土坑の集合体状）				人為堆積	156～171	古代	
SX29不明遺構	168	125	⑧区	不整形 （埋設土器あり）	72×65	52×44	10～18	人為堆積	180・181	古代	
SX30不明遺構	168	125	⑧区	不整形	300×200		38～80	人為堆積	182	近世以降？	
SX31不明遺構	168	125	⑧区	長楕円形	224以上×122	150以上×40～80	22	人為堆積		古代	
SX32不明遺構	168	125	⑧区	長楕円形	224以上×105	208×60～90	24	人為堆積		古代	

第16表　遺構観察表（15）　柱穴表

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1	①区	36				
2	①区	20				
3	①区	13				
4	①区	24				
5	⑤区	26				
6	⑤区	42				
7	⑤区	19				
8	⑤区	40				
9	⑤区	35				
10	⑤区	26				
11	⑤区	31				
12	⑤区	13				
13	⑤区	9				
14	⑤区	14				
15	⑤区	13				
16	⑤区	19				
17	⑤区	60				
18	⑤区	8				
19	⑤区	16				
20	⑤区	13				
21	⑦区	20				
22	⑦区	16				
23	⑦区	9				
24	⑦区	21				
25	⑦区	16				
26	⑦区	29				
27	⑦区	22				
28	⑦区	21				
29	⑦区	18				
30	⑦区	22				
31	⑦区	33	有		古代～中世	SD15より新しい
32	⑦区	36	有			
33	⑦区	20	有			
34	⑦区	34	有			
35	⑦区	41	有			
36	⑦区	43				
37	⑦区	35	有			
38	⑦区	32				
39	⑦区	20				
40	⑦区	41	有			
41	⑦区	22	有			
42	⑦区	46	有			
43	⑦区	41	有	SB03	12世紀	
44	⑦区	37	有	SB03	12世紀	
45	⑦区	36	有			
46	⑦区	40				
47	⑦区	47	有	SB03	12世紀	
48	⑦区	42	有	SB03	12世紀	
49	⑦区	21	有			
50	⑦区	26	有		古代～中世	SD15より新しい
51	⑦区	19	有			
52	⑦区	35	有	SB03	12世紀	
53	⑦区	48	有	SB74	古代～中世	
54	⑦区	44	有			
55	⑦区	28	有			

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
56	⑦区	37	有			
57	⑦区	55		SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
58	⑦区	20				
59	⑦区	45	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
60	⑦区	43	有			
61	⑦区	51	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
62	⑦区	43	有			
63	⑦区	17	有			
64	⑦区	21	有	SB01	12世紀	
65	⑦区	24	有	SB01	12世紀	
66	⑦区	42	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
67	⑦区	52	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
68	⑦区	64	有			
69	⑦区	26	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
70	⑦区	53	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
71	⑦区	38	有	SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
72	⑦区	29	有	SB01	12世紀	
73	⑦区	48	有	SB01	12世紀	
74	⑦区	34	有			
75	⑦区	47	有	SB01	12世紀	
76	⑦区	23	有			
77	⑦区	44	有	SB01	12世紀	
78	⑦区	43	有			
79	⑦区	45	有	SB01	12世紀	
80	⑦区	11	有	SB01	12世紀	
81	⑦区	46	有	SB01	12世紀	
82	⑦区	22	有	SB01床束	12世紀	
83	⑦区	39	有	SB01	12世紀	
84	⑦区	49	有	SB01	12世紀	
85	⑦区	45	有			
86	⑦区	35				
87	⑦区	46	有	SB01	12世紀	
88	⑦区	30	有	SB01	12世紀	P89に切られる
89	⑦区	49	有			P88を切る
90	⑦区	25	有			
91	⑦区	－				
92	⑦区	35				
93	⑦区	34				
94	⑦区	34				
95	⑦区	21			古代～中世	SD16より新しい
96	⑦区	28			古代～中世	SD16より新しい
97	⑦区	9				
98	⑦区	－				
99	⑦区	36			古代～中世	SD15より新しい
100	⑦区	36				
101	⑦区	28	有	SB01	12世紀	
102	⑦区	39	有	SB01	12世紀	
103	⑦区	40	有	SB01	12世紀	
104	⑦区	46	有	SB01	12世紀	
105	⑦区	45	有	SB01	12世紀	
106	⑦区	34	有	SB01	12世紀	
107	⑦区	34	有	SB01	12世紀	
108	⑦区	34	有	SB01	12世紀	
109	⑦区	30	有	SB01	12世紀	
110	⑦区	37	有	SB01	12世紀	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
111	⑦区	38	有	SB01	12世紀	
112	⑦区	42	有	SB01	12世紀	
113	⑦区	14	有			
114	⑦区	18	有			
115	⑦区	15	有			
116	⑦区	21	有			P126に切られる
117	⑦区	32	有			
118	⑦区	14	有			
119	⑦区	13	有	SB01床束	12世紀	
120	⑦区	7	有	SB01床束	12世紀	
121	⑦区	28	有			
122	⑦区	17				
123	⑦区	23				
124	⑦区	27		SB75	古代～中世	旧SB02から変更
125	⑦区	9				
126	⑦区	21		SB75	古代～中世	P116を切る※旧SB02から変更
127	⑦区	10				
128	⑦区	34				
129	⑦区	30		SB01	12世紀	
130	⑦区	44		SB01	12世紀	
131	⑦区	28			古代～中世	SD15より新しい
132	⑦区	15			古代～中世	SD15より新しい
133	⑦区	10			古代～中世	SD15より新しい
134	⑦区	24			古代～中世	SD15より新しい
135	⑦区	13			古代～中世	SD15より新しい
136	⑦区	18			古代～中世	SD15より新しい
137	⑦区	24			古代～中世	SD15より新しい
138	⑦区	16				
139	⑦区	25				
140	⑦区	27			古代～中世	SD23を切る
141	⑦区	28				
142	⑦区	16				
143	⑦区	27				
144	⑦区	30				
145	⑦区	24				
146	⑦区	35				
147	⑦区	9			古代～中世	SD16より新しい
148	⑦区	24			古代～中世	SD16より新しい
149	⑦区	12			古代～中世	SD16より新しい
150	⑦区	29			古代～中世	SD16より新しい
151	⑦区	17			古代～中世	SD16より新しい
152	⑦区	22			近代以前	SD14より旧い
153	⑦区	11				
154	⑦区	33				
155	⑦区	15				
156	⑦区	13				
157	⑦区	9			古代～中世	SX03より旧い
158	⑦区	27			古代～中世	SX03より旧い
159	⑦区	34			古代～中世	SX03より旧い
160	⑦区	11				
161	⑦区	39				
162	⑦区	37				SK11を切る
163	⑦区	32		SB03	12世紀	SK11を切る
164	⑦区	20				
165	⑦区	29				
166	⑦区	30				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
167	⑦区	11				
168	⑦区	13				
169	⑦区	35				
170	⑦区	6				
171	⑦区	3				
172	⑦区	19				
173	⑦区	29				
174	⑦区	32				
175	⑦区	21				
176	⑦区	19				
177	⑦区	18				
178	⑦区	8				
179	⑦区	7				
180	⑦区	13				
181	⑦区	3				
182	⑦区	17				SD20との新旧は不明
183	⑦区	20				SD20との新旧は不明
184	⑦区	21				SD20との新旧は不明
185	⑦区	8				
186	⑦区	8				
187	⑦区	12				
188	⑦区	26				
189	⑦区	28				
190	⑦区	37		SB03	12世紀	
191	⑦区	42				
192	⑦区	30				
193	⑦区	33				
194	⑦区	13		SB75	古代～中世	
195	⑦区	10				
196	⑦区	39				
197	⑦区	10				
198	⑦区	35		SB75	古代～中世	旧SB02から変更
199	⑦区	4				
200	⑦区	17				
201	⑦区	25				
202	⑦区	10				
203	⑦区	37				
204	⑦区	10				
205	⑦区	13		SB01床束	12世紀	
206	⑦区	41		SB01	12世紀	
207	⑦区	4				
208	⑦区	10		SB01床束	12世紀	
209	⑦区	12		SB01床束	12世紀	
210	⑦区	7				
211	⑦区	7				
212	⑦区	21				
213	⑦区	21				
214	⑦区	42		SB01	12世紀	
215	⑦区	15				
216	⑦区	21				
217	⑦区	34				
218	⑦区	5				
219	⑦区	9		SB01床束	12世紀	
220	⑦区	6				
221	⑦区	10		SB01床束	12世紀	
222	⑦区	5		SB01床束	12世紀	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
223	⑦区	9				
224	⑦区	8		SB01床束	12世紀	
225	⑦区	7		SB01床束	12世紀	
226	⑦区	13		SB01床束	12世紀	
227	⑦区	4				
228	⑦区	5				
229	⑦区	3		SB01床束	12世紀	
230	⑦区	13		SB01床束	12世紀	
231	⑦区	18		SB01床束	12世紀	
232	⑦区	3				
233	⑦区	5		SB01床束	12世紀	
234	⑦区	13		SB01床束	12世紀	
235	⑦区	8		SB01床束	12世紀	
236	⑦区	6				
237	⑦区	6		SB01床束	12世紀	
238	⑦区	16		SB01床束	12世紀	
239	⑦区	17		SB01床束	12世紀	P240を切る
240	⑦区	42				P239に切られる
241	⑦区	14				
242	⑦区	4		SB01床束	12世紀	
243	⑦区	5		SB01床束	12世紀	
244	⑦区	6				
245	⑦区	3				
246	⑦区	10				
247	⑦区	9				
248	⑦区	17				
249	⑦区	7				
250	⑦区	9				
251	⑦区	11		SB01床束	12世紀	
252	⑦区	9				
253	⑦区	8				
254	⑦区	12				
255	⑦区	4		SB01床束	12世紀	
256	⑦区	6				
257	⑦区	8		SB01床束	12世紀	
258	⑦区	5		SB01床束	12世紀	
259	⑦区	6		SB01床束	12世紀	
260	⑦区	16		SB01床束	12世紀	
261	⑦区	3				
262	⑦区	11				
263	⑦区	12		SB01床束	12世紀	
264	⑦区	3		SB01床束	12世紀	
265	⑦区	3		SB01床束	12世紀	
266	⑦区	16				
267	⑦区	50		SB01	12世紀	
268	⑦区	13		SB01床束	12世紀	
269	⑦区	3				
270	⑦区	10				
271	⑦区	8				
272	⑦区	10		SB01床束	12世紀	
273	⑦区	8		SB01床束	12世紀	
274	⑦区	17				
275	⑦区	8				
276	⑦区	12				
277	⑦区	4				
278	⑦区	7				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
279	⑦区	15				
280	⑦区	3				
281	⑦区	9				
282	⑦区	29				
283	⑦区	3				
284	⑦区	38				
285	⑦区	20				
286	⑦区	10				
287	⑦区	4				
288	⑦区	12		SB01床束	12世紀	
289	⑦区	11		SB01床束	12世紀	
290	⑦区	8				
291	⑦区	10		SB01床束	12世紀	
292	⑦区	7		SB01床束	12世紀	
293	⑦区	3				
294	⑦区	4				
295	⑦区	4		SB01床束	12世紀	
296	⑦区	16				
297	⑦区	28				
298	⑦区	8				
299	⑦区	10				
301	⑨区	23	有	SB27	中近世	
302	⑨区	33	有	SB27	中近世	
303	⑨区	20		SB27	中近世	
304	⑨区	32		SB27	中近世	
305	⑨区	32	有			
306	⑨区	33		SB27	中近世	
307	⑨区	44				
309	⑨区	19		SB27	中近世	
310	⑨区	43				
311	⑨区	14				
312	⑨区	−				
313	⑨区	19		SB27	中近世	
314	⑨区	−				SK125を切る
315	⑨区	−				SK125を切る
316	⑨区	−				
320	⑨区	50	有			
321	⑨区	30				P322に切られる
322	⑨区	54	有			P321を切る
323	⑨区	33	有			
324	⑨区	−				
325	⑨区	−				
329	⑨区	52	有			
332	⑨区	−			古代以降	SX14を切る
335	⑨区	16	有			
336	⑨区	60	有	SB38	中世？	P490を切る
338	⑨区	61		SB29	中近世	
339	⑨区	43				
340	⑨区	29		SB26	中近世	
341	⑨区	23		SB26・29	中近世	
342	⑨区	63		SB26・29	中近世	
343	⑨区	41				
344	⑨区	16				
345	⑨区	43	有	SB29	中近世	
346	⑨区	53		SB38	中世？	
347	⑨区	31				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
348	⑨区	6				
349	⑨区	13				
350	⑨区	25				
351	⑨区	72		SB29	中近世	
352	⑨区	42				
353	⑨区	27	有			
354	⑨区	25				
355	⑨区	12				
356	⑨区	25				
357	⑨区	28				
358	⑨区	29				
359	⑨区	30				
360	⑨区	32				
361	⑨区	25				
362	⑨区	69		SB38	中世？	
363	⑨区	45				
364	⑨区	38				
365	⑨区	22				
366	⑨区	69				
367	⑨区	32				
368	⑨区	32				
369	⑨区	26	有			
370	⑨区	45				
371	⑨区	53				
372	⑨区	27				
373	⑨区	28				
374	⑨区	58		SB28	中近世	
375	⑨区	29				
376	⑨区	66				
377	⑨区	29				
378	⑨区	16				
379	⑨区	37				
380	⑨区	8				
381	⑨区	37	有			
382	⑨区	11				
383	⑨区	20				
384	⑨区	15			近世以前	SD27より旧い
385	⑨区	41				
388	⑨区	81	有			P483を切る
391	⑨区	−				
393	⑨区	46				
394	⑨区	19				
395	⑨区	54	有			
398	⑨区	25				
399	⑨区	32				
400	⑨区	25				
402	⑨区	23				
403	⑨区	14				
404	⑨区	30				
405	⑨区	18				
406	⑨区	45				
407	⑨区	30				
408	⑨区	17		SB28	中近世	
409	⑨区	5				
410	⑨区	51				
411	⑨区	22				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
412	⑨区	36				
413	⑨区	54		SB28	中近世	
414	⑨区	26				
415	⑨区	22				
416	⑨区	66	有	SB40	中世？	
417	⑨区	−		SB40	中世？	
419	⑨区	46				
420	⑨区	19				
422	⑨区	25		SB38	中世？	SD28に切られる
424	⑨区	46			古代以降	SD36を切る
425	⑨区	32		SB24	古代？	
428	⑨区	14				
429	⑨区	16				
431	⑨区	30	有	SB24	古代？	
432	⑨区	35	有	SB24	古代？	
433	⑨区	54				
434	⑨区	34	有	SB40	中世？	
436	⑨区	39		SB40	中世？	
438	⑨区	44	有			
439	⑨区	−			古代	SD36より旧い
440	⑨区	−		SB40	中世？	SD36より旧い （※時期矛盾）
441	⑨区	9		SB38	中世？	
442	⑨区	−				
443	⑨区	64	有	SB40	中世？	
444	⑨区	40				
445	⑨区	49		SB40	中世？	
446	⑨区	32				
447	⑨区	−				
449	⑨区	42				
450	⑨区	32				
451	⑨区	55		SB29	中近世	
452	⑨区	25		SB26・38	中近世	
453	⑨区	44		SB26・29	中近世	
454	⑨区	36			近世以前	SD27より旧い
455	⑨区	28			近世以前	SD27より旧い
457	⑨区	−			古代以降	SK52を切る
458	⑨区	31				
459	⑨区	20		SB38	中世？	
462	⑨区	13	有			
463	⑨区	10				
464	⑨区	25				
465	⑨区	27				
466	⑨区	43	有			
468	⑨区	5				
469	⑨区	54	有			
471	⑨区	19				
473	⑨区	12				P474を切る
474	⑨区	8				P473に切られる
478	⑨区	12				
479	⑨区	42				
480	⑨区	15				
481	⑨区	10				
482	⑨区	23				
483	⑨区	13				P388に切られる
484	⑨区	34				
485	⑨区	49		SB29	中近世	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
486	⑨区	81		SB29	中近世	
487	⑨区	56				SD29を切る
488	⑨区	−			古代以降	SI01を切る
489	⑨区	19	有		古代以降	SI01を切る
490	⑨区	20				P336に切られる・SI01を切る
491	⑨区	17				SI01
492	⑨区	14				SI01
493	⑨区	33	有		近世以前	SD27より旧い
494	⑨区	16			近世以前	SD27より旧い
495	⑨区	35	有		近世以前	SD27より旧い
496	⑨区	28			近世以前	SD27より旧い
497	⑨区	23			近世以前	SD27より旧い
498	⑨区	28			近世以前	SD27より旧い
499	⑨区	30	有		近世以前	SD27より旧い
500	⑨区	12			古代以降	SI01を切る
501	⑨区	30	有			
502	⑨区	28	有		中世？	SD27より旧い、SI01を切る
503	⑨区	12			古代以降	SI01を切る
504	⑨区	30			中世？	SD27より旧い、SI01を切る
505	⑨区	3				SI01
506	⑨区	4				SI01
507	⑨区	6				SI01
508	⑨区	−			古代以降	SI01を切る
509	⑨区	69		SB29	中近世	P508を切る・SI01を切る
510	⑨区	28	有		近世以前	SD27より旧い
511	⑨区	54			近世以前	SD27より旧い
512	⑨区	31				
513	⑨区	47				
514	⑨区	24				
516	⑨区	37	有			
517	⑨区	23		SB28	中近世	P2021を切る
519	⑨区	25		SB28	中近世	
521	⑨区	17				
522	⑨区	28	有			
525	⑨区	41	有			
526	⑨区	24				
529	⑨区	15				
531	⑨区	27			古代以降	SI01を切る
532	⑨区	42		SB29	中近世	
533	⑨区	12			近世以前	SD27より旧い
534	⑨区	18			古代以降	SX12を切る
536	⑨区	16				
541	⑨区	66	有	SB38	中世？	SI01・P542との新旧不明
542	⑨区	21		SB38	中世？	SI01・P541との新旧不明
543	⑨区	58		SB29	中近世	
544	⑨区	33				
545	⑨区	39				
546	⑨区	24	有			
547	⑨区	39				
549	⑨区	54	有	SB38	中世？	
550	⑨区	10				
553	⑨区	21			古代以降	SI01を切る

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
554	⑨区	32	有			
555	⑨区	31				
556	⑨区	15				
557	⑨区	12				
558	⑨区	9				
559	⑨区	32	有			
560	⑨区	30	有			
561	⑨区	9				
562	⑨区	65	有			
563	⑨区	52	有			P564に切られる
564	⑨区	47	有			P563を切る
565	⑨区	28				
566	⑨区	6				
567	⑨区	44	有			
569	⑨区	55	有			
570	⑨区	22	有			
571	⑨区	32				
572	⑨区	12				
573	⑨区	18	有			
574	⑨区	17				
575	⑨区	15				
576	⑨区	15			古代	SD28より旧い
577	⑨区	20				
578	⑨区	22			古代以降	SD28に切られる
579	⑨区	18				
581	⑨区	23				
582	⑨区	31	有			
583	⑨区	18				
584	⑨区	12				
585	⑨区	12	有			
586	⑨区	10				
589	⑨区	26				P590との新旧不明
590	⑨区	22				P589との新旧不明
591	⑨区	13			近世以前	SD27より旧い
592	⑨区	26			近世以前	SD27より旧い
593	⑨区	24	有			
594	⑨区	39			近世以前	SD27より旧い
595	⑨区	10				
596	⑨区	35				
597	⑨区	19				SD29を切る
598	⑨区	34				
599	⑨区	20	有			
600	⑨区	45				
601	⑩区	14				
602	⑩区	13				
603	⑩区	11				
604	⑩区	38				
605	⑩区	30				
606	⑩区	6				
607	⑩区	12				
608	⑩区	14				
609	⑩区	38				
610	⑩区	24				
611	⑩区	20				
612	⑩区	10				
613	⑩区	15				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
614	⑩区	14				
615	⑩区	18	有			
616	⑩区	8				
617	⑩区	19	有			
618	⑩区	13				
619	⑩区	19				
620	⑩区	15				
621	⑩区	22	有			
622	⑩区	17				
623	⑩区	13				
624	⑩区	10				
625	⑩区	11				
626	⑩区	23	有			
627	⑩区	14				
628	⑩区	14				
629	⑩区	11				
630	⑩区	11				
631	⑩区	20	有			
632	⑩区	8				
633	⑩区	13				
634	⑩区	17	有			
635	⑩区	14				
636	⑩区	27				
637	⑩区	12				
638	⑩区	10				
639	⑩区	22				
640	⑩区	18				
641	⑩区	18				
642	⑩区	20	有			
643	⑩区	20				
644	⑩区	14				
645	⑩区	42				
646	⑩区	10				
647	⑩区	12				
648	⑩区	12				
649	⑩区	19	有			
650	⑩区	34	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
651	⑩区	27				
652	⑩区	16				
653	⑩区	25				
654	⑩区	36				
655	⑩区	8				SD41を切る
656	⑩区	24	有	SB06	鎌倉Ⅰ期	
657	⑩区	21	有	SB06	鎌倉Ⅰ期	
658	⑩区	19	有	SB06	鎌倉Ⅰ期	
659	⑩区	28	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
660	⑩区	24	有	SB06	鎌倉Ⅰ期	
661	⑩区	9		SB12	鎌倉Ⅳ期	
662	⑩区	6				
663	⑩区	7		SB09	鎌倉Ⅰ期	
664	⑩区	26	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
665	⑩区	42	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
666	⑩区	48	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
667	⑩区	6		SB08	鎌倉Ⅳ期	
668	⑩区	5				SB07・08と新旧不明
669	⑩区	7				SB07・08と新旧不明

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
670	⑩区	6				SB07・08と新旧不明
671	⑩区	56	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
672	⑩区	28	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
673	⑩区	20	有	SB06	鎌倉Ⅰ期	
674	⑩区	6		SB06	鎌倉Ⅰ期	
675	⑩区	23	有	SB06	鎌倉Ⅰ期	
676	⑩区	12	有			
677	⑩区	29	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
678	⑩区	29	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	P679に切られる
679	⑩区	26	有			SB07・P678と新旧不明
680	⑩区	40	有	SB08	鎌倉Ⅳ期	
681	⑩区	41	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
682	⑩区	30	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	SK26に切られる？
683	⑩区	58	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
684	⑩区	4				SB09を構成するP683に切られる
685	⑩区	47	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
686	⑩区	66	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
687	⑩区	31	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
688	⑩区	22	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
689	⑩区	55	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
690	⑩区	7		SB09	鎌倉Ⅰ期	
691	⑩区	26	有			SB07・08・09と新旧不明
692	⑩区	21	有			SB08新旧不明
693	⑩区	20	有	SB07	鎌倉Ⅱ期	
694	⑩区	17	有			SB08新旧不明
695	⑩区	5				SB07・08と新旧不明
696	⑩区	80		SB12	鎌倉Ⅳ期	
697	⑩区	7				SB07と新旧不明
698	⑩区	22				SB08・09新旧不明
699	⑩区	9				SB09新旧不明
700	⑩区	22				SB09新旧不明
701	⑩区	15				SB07・08と新旧不明
702	⑩区	30		SB12	鎌倉Ⅳ期	
703	⑩区	20		SB12	鎌倉Ⅳ期	P702を切る
704	⑩区	38		SB12	鎌倉Ⅳ期	
705	⑩区	39				SB08・09新旧不明
706	⑩区	55		SB09	鎌倉Ⅰ期	
707	⑩区	20		SB08	鎌倉Ⅳ期	
708	⑩区	36				SB08・09新旧不明
709	⑩区	35		SB08	鎌倉Ⅳ期	
710	⑩区	37				SB07・08と新旧不明
711	⑩区	65		SB09	鎌倉Ⅰ期	
712	⑩区	44		SB09	鎌倉Ⅰ期	
713	⑩区	17				
714	⑩区	47		SB08	鎌倉Ⅳ期	
715	⑩区	15				SB09新旧不明
716	⑩区	12				SB09新旧不明
717	⑩区	49		SB09	鎌倉Ⅰ期	
718	⑩区	28		SB08	鎌倉Ⅳ期	
719	⑩区	25				
720	⑩区	50		SB09	鎌倉Ⅰ期	
721	⑩区	46				SB08・09新旧不明
722	⑩区	77				SB08新旧不明
723	⑩区	15				
724	⑩区	18				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
725	⑩区	37		SB08	鎌倉Ⅳ期	
726	⑩区	27		SB09	鎌倉Ⅰ期	
727	⑩区	43		SB08	鎌倉Ⅳ期	
728	⑩区	27				SB08新旧不明
729	⑩区	16				
730	⑩区	26				SB08新旧不明
731	⑩区	21				
732	⑩区	48				
733	⑩区	22				
734	⑩区	59		SB09	鎌倉Ⅰ期	
735	⑩区	13				SB08新旧不明
736	⑩区	33		SB08	鎌倉Ⅳ期	
737	⑩区	24				
738	⑩区	32				
739	⑩区	60	有	SB10	平安	
740	⑩区	43		SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
741	⑩区	16		SB11	鎌倉Ⅱ期	
742	⑩区	17				
743	⑩区	29				
744	⑩区	20				SB11を構成する P745に切られる
745	⑩区	22		SB11	鎌倉Ⅱ期	P744を切る
746	⑩区	32	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
747	⑩区	39	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
748	⑩区	32				SB11と新旧不明
749	⑩区	15	有			SB05と重複不明
750	⑩区	15				SB05重複新旧不明
751	⑩区	46	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
752	⑩区	26	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
753	⑩区	10				SB05と新旧不明
754	⑩区	12				SB05と新旧不明
755	⑩区	14				SB05と新旧不明
756	⑩区	32		SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
757	⑩区	14		SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
758	⑩区	37				
759	⑩区	42	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
760	⑩区	48				SB04重複新旧不明
761	⑩区	13				SB05と重複不明
762	⑩区	12				SB05と重複不明
763	⑩区	18				SB05重複新旧不明
764	⑩区	19	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
765	⑩区	29	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
766	⑩区	41	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
767	⑩区	19	有			SB05と重複不明
768	⑩区	11	有	SB11	鎌倉Ⅱ期	
769	⑩区	18	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
770	⑩区	23		SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
771	⑩区	17	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
772	⑩区	33	有	SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
773	⑩区	22				SB05重複新旧不明
774	⑩区	16				P775（SB11）、SB05重複新旧不明
775	⑩区	15		SB11	鎌倉Ⅱ期	9c後半の土師器坏出土
776	⑩区	11		SB05	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
777	⑩区	69				
778	⑩区	14				
779	⑩区	26	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	P780を切る

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
780	⑩区	45				P779（SB04）に切られる
781	⑩区	46	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
782	⑩区	48				SB04重複新旧不明
783	⑩区	50	有			SB04重複新旧不明
784	⑩区	17	有			SB04重複新旧不明
785	⑩区	26	有			SB04重複新旧不明
786	⑩区	22				SB04重複新旧不明
787	⑩区	54		SB04	鎌倉Ⅰ期	
788	⑩区	26				SB04重複新旧不明
789	⑩区	17				SB04重複新旧不明
790	⑩区	12		SB04	鎌倉Ⅰ期	
791	⑩区	16	有			SB04重複新旧不明
792	⑩区	50		SB04	鎌倉Ⅰ期	
793	⑩区	49	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
794	⑩区	33	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
795	⑩区	60		SB30	鎌倉Ⅱ期	
796	⑩区	28				SB04重複新旧不明
797	⑩区	51		SB04	鎌倉Ⅰ期	
798	⑩区	40		SB04	鎌倉Ⅰ期	
799	⑩区	25		SB04	鎌倉Ⅰ期	
800	⑩区	66	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
801	⑩区	35		SB12	鎌倉Ⅳ期	
802	⑩区	46		SB12	鎌倉Ⅳ期	
803	⑩区	14		SB12	鎌倉Ⅳ期	
804	⑩区	41		SB12	鎌倉Ⅳ期	
805	⑩区	37		SB12	鎌倉Ⅳ期	
806	⑩区	44	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
807	⑩区	39	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
808	⑩区	29	有	SB13	鎌倉Ⅱ期	
809	⑩区	31	有	SB13	鎌倉Ⅱ期	
810	⑩区	22		SB12	鎌倉Ⅳ期	SX08を切り、SB10と新旧不明
811	⑩区	58	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
812	⑩区	50		SB12	鎌倉Ⅳ期	
813	⑩区	10				SB09・12と新旧不明
814	⑩区	46	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
815	⑩区	33	有	SB13	鎌倉Ⅱ期	
816	⑩区	17				SB12・13と新旧不明
817	⑩区	66	有	SB10	平安	
818	⑩区	52	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
819	⑩区	13	有	SB13	鎌倉Ⅱ期	
820	⑩区	49		SB12	鎌倉Ⅳ期	
821	⑩区	20		SB16	平安	
822	⑩区	49	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	石器（石匙）出土
823	⑩区	43	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	SB12・16と新旧不明
824	⑩区	40		SB12	鎌倉Ⅳ期	SK79を切り、SB16と新旧不明
825	⑩区	17	有	SB16	平安	
826	⑩区	33	有	SB12	鎌倉Ⅳ期	
827	⑩区	31		SB12	鎌倉Ⅳ期	
828	⑩区	20		SB13	鎌倉Ⅱ期	
829	⑩区	45		SB12・16	鎌倉Ⅳ期／平安	
830	⑩区	12				SB16新旧不明
831	⑩区	30	有	SB13	鎌倉Ⅱ期	
832	⑩区	35		SB12	鎌倉Ⅳ期	
833	⑩区	23				SB12と新旧不明

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
834	⑩区	29		SB13	鎌倉Ⅱ期	SB12と新旧不明
835	⑩区	12		SB13	鎌倉Ⅱ期	SB12と新旧不明
836	⑩区	41		SB12	鎌倉Ⅳ期	
837	⑩区	13				SB12と新旧不明
838	⑩区	13				SB09・12と新旧不明
839	⑩区	29				SB14を構成する P840と新旧不明
840	⑩区	25		SB14	鎌倉Ⅱ期	
841	⑩区	54		SB16	平安	
842	⑩区	46		SB14	鎌倉Ⅱ期	SB12の P843・SB16の841と新旧不明
843	⑩区	31		SB12	鎌倉Ⅳ期	
844	⑩区	25				SB14・SB16新旧不明
845	⑩区	23				SB14と新旧不明
846	⑩区	13		SB14・16	鎌倉Ⅱ期／平安	
847	⑩区	12				P848・1344と新旧不明 SB14を切る
848	⑩区	49				SB16・P847・P1344と新旧不明、SB14を構成する P849を切る
849	⑩区	11		SB14	鎌倉Ⅱ期	
850	⑩区	9				SB14と新旧不明
851	⑩区	28				SB14と新旧不明
852	⑩区	18		SB16	平安	
853	⑩区	26				SB16新旧不明
854	⑩区	27	有			SB16新旧不明
855	⑩区	17	有	SB16	平安	
856	⑩区	－				SB16新旧不明
857	⑩区	24				SB16新旧不明
858	⑩区	17	有	SB16	平安	
859	⑩区	34				SB09と新旧不明 P1656を切る
860	⑩区	42	有	SB09	鎌倉Ⅰ期	
861	⑩区	17				SB14と新旧不明
862	⑩区	45		SB14	鎌倉Ⅱ期	
863	⑩区	44	有			SB14と新旧不明
864	⑩区	30		SB14	鎌倉Ⅱ期	
865	⑩区	14				
866	⑩区	10				
867	⑩区	47	有			SD43を切る
868	⑩区	15		SB16	平安	
869	⑩区	14	有			SB09と新旧不明
870	⑩区	15		SB09	鎌倉Ⅰ期	
871	⑩区	24		SB10	平安	
872	⑩区	40		SB09	鎌倉Ⅰ期	
873	⑩区	33				SB09を構成する P1654を切り、P1653を切る
874	⑩区	8	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
875	⑩区	27	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
876	⑩区	13		SB04	鎌倉Ⅰ期	
877	⑩区	12				SB04重複新旧不明
878	⑩区	20				SB04重複新旧不明
879	⑩区	27		SB14	鎌倉Ⅱ期	
880	⑩区	51	有	SB04	鎌倉Ⅰ期	
881	⑩区	46		SB04	鎌倉Ⅰ期	
882	⑩区	39	有	SB30	鎌倉Ⅱ期	
883	⑩区	50		SB04	鎌倉Ⅰ期	P882を切る？
884	⑩区	44		SB04	鎌倉Ⅰ期	
885	⑩区	49				SB04重複新旧不明

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
886	⑩区	16				SX20と新旧不明
887	⑩区	20	有			SB04重複新旧不明
888	⑩区	23				P889を切り、SB04と新旧不明
889	⑩区	23				SB04重複新旧不明
890	⑩区	27				SB04重複新旧不明
891	⑩区	41		SB04	鎌倉Ⅰ期	SX20を切る？
892	⑩区	39		SB04	鎌倉Ⅰ期	
893	⑩区	11		SB12	鎌倉Ⅳ期	
894	⑩区	14				SB12と新旧不明
895	⑩区	37				SB12と新旧不明
896	⑩区	45		SB12	鎌倉Ⅳ期	
897	⑩区	11				SB12と新旧不明
898	⑩区	30		SB12	鎌倉Ⅳ期	
899	⑩区	13		SB12	鎌倉Ⅳ期	
900	⑩区	19				
901	⑩区	26				旧 P902-2,SD43を切る（旧 SD43を切る P707）
902	⑩区	40		SB12	鎌倉Ⅳ期	旧 P902-1
903	⑩区	51		SB14	鎌倉Ⅱ期	
904	⑩区	15				SB14と新旧不明
905	⑩区	16				SB14新旧不明
906	⑩区	41	有	SB14	鎌倉Ⅱ期	
907	⑩区	15				SB14と新旧不明
908	⑩区	32	有			SB14と新旧不明
909	⑩区	52	有			SB14と新旧不明
910	⑩区	13				SB14と新旧不明
911	⑩区	39				SB14と新旧不明
912	⑩区	23				SB14と新旧不明
913	⑩区	19				SB14と新旧不明
914	⑩区	29				SB14と新旧不明
915	⑩区	10				SB14と新旧不明
916	⑩区	19				SB14と新旧不明
917	⑩区	29				SB14と新旧不明
918	⑩区	43	有	SB14	鎌倉Ⅱ期	
919	⑩区	18				SB14と新旧不明
920	⑩区	17				SB14と新旧不明
921	⑩区	15				SB14と新旧不明
922	⑩区	30				SB15を構成する P933に切られる
923	⑩区	44		SB14	鎌倉Ⅱ期	
924	⑩区	35				SB14と新旧不明
925	⑩区	37	有			SB14と新旧不明
926	⑩区	57		SB14	鎌倉Ⅱ期	土師器甕出土
927	⑩区	28	有			SB14と新旧不明
928	⑩区	47		SB14	鎌倉Ⅱ期	
929	⑩区	32				SB14と新旧不明
930	⑩区	22				SB14と新旧不明
931	⑩区	60		SB14	鎌倉Ⅱ期	
932	⑩区	18				SB14と新旧不明
933	⑩区	20				SB14と新旧不明
934	⑩区	4				SB14と新旧不明
935	⑩区	15				SB14と新旧不明
936	⑩区	49	有	SB14	鎌倉Ⅱ期	
937	⑩区	12	有			SB14と新旧不明
938	⑩区	9				SB14と新旧不明
939	⑩区	14				SB14と新旧不明

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
940	⑩区	44		SB14	鎌倉Ⅱ期	
941	⑩区	30		SB14	鎌倉Ⅱ期	
942	⑩区	17				SB14を構成するP941と新旧不明
943	⑩区	49	有			SB14と新旧不明
944	⑩区	29		SB14	鎌倉Ⅱ期	
945	⑩区	15				
946	⑩区	27		SB14	鎌倉Ⅱ期	
947	⑩区	28	有			SB14と新旧不明
948	⑩区	31				
949	⑩区	47	有			石器出土
950	⑩区	26	有			
951	⑩区	29	有			
952	⑩区	8	有			
953	⑩区	41	有	SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
954	⑩区	47				SKT04を切る
955	⑩区	49		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
956	⑩区	10		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
957	⑩区	13				SB14と新旧不明
958	⑩区	41		SB14	鎌倉Ⅱ期	
959	⑩区	8				SB15と新旧不明
960	⑩区	35		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
961	⑩区	39				SB15・P961と新旧不明
962	⑩区	39				P963を切る SB15・P961と新旧不明
963	⑩区	21				P962に切られる　SB15と新旧不明
964	⑩区	25				SB15と新旧不明
965	⑩区	49		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
966	⑩区	15				SB15と新旧不明
967	⑩区	13				SB15と新旧不明
968	⑩区	16				SB15と新旧不明
969	⑩区	13				SB15と新旧不明
970	⑩区	5				
971	⑩区	17	有			
972	⑩区	14				
973	⑩区	22				
974	⑩区	56	有			
975	⑩区	54				
976	⑩区	17				
977	⑩区	9				
978	⑩区	62				SB30重複新旧不明
979	⑩区	8				
980	⑩区	36		SB09	鎌倉Ⅰ期	
981	⑩区	20				SB04重複新旧不明
982	⑩区	39	有			SB04重複新旧不明
983	⑩区	12				
984	⑩区	36		SB30	鎌倉Ⅱ期	
985	⑩区	20				SB30重新旧不明
986	⑩区	21				SB30重新旧不明
987	⑩区	19				
988	⑩区	13				
989	⑩区	23				
990	⑩区	28				SB30と新旧不明
991	⑩区	24				SB15と新旧不明
992	⑩区	30				SB15を構成するP993に切られる

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
993	⑩区	74	有	SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	陶器出土
994	⑩区	13				
995	⑩区	17				
996	⑩区	15				
997	⑩区	23				SB15と新旧不明
998	⑩区	12				SB15と新旧不明
999	⑩区	25				SB15と新旧不明
1000	⑩区	60		SB10	平安	
1001	⑩区	33	有	SB09	鎌倉Ⅱ期	
1002	⑩区	21			古代以降	SX08を切り、 SB09・10と新旧不明
1003	⑩区	55		SB04	鎌倉Ⅰ期	P1004に切られる
1004	⑩区	58			古代以降	P1008・SX08を切る
1005	⑩区	9				SB15と新旧不明
1006	⑩区	32	有	SB30	鎌倉Ⅱ期	
1007	⑩区	24	有			SB30と新旧不明
1008	⑩区	43	有			SB30を切る
1009	⑩区	24				SB30と新旧不明
1010	⑩区	35		SB30	鎌倉Ⅱ期	
1011	⑩区	32				SB15と新旧不明
1012	⑩区	10				SB15と新旧不明
1013	⑩区	34	有			SB15と新旧不明
1014	⑩区	31				SB15を構成するP1015と新旧不明
1015	⑩区	33		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1016	⑩区	35				SB15・30と新旧不明
1017	⑩区	70		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1018	⑩区	9		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1019	⑩区	18			中世以降？	SK80・SB30を切る
1020	⑩区	25			中世以降？	SK86・SB30を切る
1021	⑩区	26				
1022	⑩区	30				SB12と新旧不明
1023	⑩区	16		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1024	⑩区	9		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1025	⑩区	21		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1026	⑩区	28		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1027	⑩区	24		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1028	⑩区	13				
1029	⑩区	37		SB19	鎌倉Ⅳ期	旧SK64
1030	⑩区	21		SB13	鎌倉Ⅱ期	
1031	⑩区	23		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1032	⑩区	23		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1033	⑩区	34	有	SB14	鎌倉Ⅱ期	
1034	⑩区	14				SB14と新旧不明
1035	⑩区	27		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1036	⑩区	6				SB14と新旧不明
1037	⑩区	17				
1038	⑩区	25		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1039	⑩区	16				
1040	⑩区	42		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1041	⑩区	9		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1042	⑩区	11				SB33と新旧不明
1043	⑩区	11				SB14と新旧不明
1044	⑩区	25	有	SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1045	⑩区	43				SB33を構成するP1050に切られ、SB14・15・20と新旧不明

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1046	⑩区	9				SB14と新旧不明
1047	⑩区	35		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1048	⑩区	27				SB14と新旧不明
1049	⑩区	31		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1050	⑩区	20		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1051	⑩区	36	有	SB14・15	鎌倉Ⅱ／Ⅲａ～ｂ期	
1052	⑩区	37	有			SB14・15・33と新旧不明
1053	⑩区	13				SB14・15・33と新旧不明
1054	⑩区	22				SB14・15・33と新旧不明
1055	⑩区	19				SB14・15・33と新旧不明
1056	⑩区	38		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1057	⑩区	29		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1058	⑩区	36		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1059	⑩区	12				SB14・15・20・33と新旧不明
1060	⑩区	－				SK45を切り、SB14・15・33と新旧不明
1061	⑩区	27		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1062	⑩区	19				SB15・33と新旧不明
1063	⑩区	17				SB14・15・20・33と新旧不明
1064	⑩区	39		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1065	⑩区	13				SB14・15・33と新旧不明
1066	⑩区	12				SB14・15・33と新旧不明
1067	⑩区	33		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1068	⑩区	28				
1069	⑩区	33				
1070	⑩区	44		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1071	⑩区	20				SB20新旧不明
1072	⑩区	25		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1073	⑩区	22		SB33	鎌倉Ⅰ期	SB15と新旧不明
1074	⑩区	57		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1075	⑩区	20				SB14・20・30・P1074と新旧不明
1076	⑩区	61		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	須恵器甕出土（報告書掲載）
1077	⑩区	25		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1078	⑩区	22				
1079	⑩区	21				旧P1079-1 SB20新旧不明
1080	⑩区	28		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1081	⑩区	19		SB20・15	鎌倉Ⅱ／Ⅲａ～ｂ期	
1082	⑩区	23		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1083	⑩区	35				SB15・19・20と新旧不明
1084	⑩区	16				SB20新旧不明
1085	⑩区	29				SB19・20と新旧不明
1086	⑩区	15				SB19・20と新旧不明
1087	⑩区	11				SB09と新旧不明（旧P655）
1088	⑩区	40	有	SB17	鎌倉Ⅲａ期	旧1088-1 SB18を構成するP1089に切られ、P1090と新旧不明
1089	⑩区	52	有	SB20・18	鎌倉Ⅱ／Ⅲｂ期	
1090	⑩区	37	有			旧1088-2 P1088・SB18・19と新旧不明
1091	⑩区	－		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1092	⑩区	－				SB20新旧不明
1093	⑩区	19	有			SB20新旧不明
1094	⑩区	16				SB20新旧不明
1095	⑩区	21				SB20新旧不明
1096	⑩区	30				SB20新旧不明
1097	⑩区	33				SB15・19・20・P1098と新旧不明
1098	⑩区	29				SB15・19・20・P1097と新旧不明
1099	⑩区	27				SB17・18・19と新旧不明
1100	⑩区	26				SB17・18・19と新旧不明
1101	⑩区	21				SB17・18・19と新旧不明
1102	⑩区	12				SB17・18・19と新旧不明
1103	⑩区	40				SB17・18・19と新旧不明
1104	⑩区	32				SB17・18・19と新旧不明
1105	⑩区	26				
1106	⑩区	27		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1107	⑩区	21	有			SB20新旧不明
1108	⑩区	42				SB20新旧不明
1109	⑩区	17				SB20新旧不明
1110	⑩区	27	有	SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1111	⑩区	20		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1112	⑩区	33		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1113	⑩区	56				SB19・20と新旧不明
1114	⑩区	27				SB19・20・P1116と新旧不明
1115	⑩区	36				SB19・20と新旧不明
1116	⑩区	39				SB19・20・P1114と新旧不明
1117	⑩区	19				SB19・20と新旧不明
1118	⑩区	30				SB20新旧不明
1119	⑩区	31				SB20新旧不明・SK62を切る
1120	⑩区	27				SB20新旧不明
1121	⑩区	30		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1122	⑩区	38				SB17・18・19と新旧不明
1123	⑩区	25		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1124	⑩区	24				SB17・18・19と新旧不明
1125	⑩区	22				SB17・18・19と新旧不明
1126	⑩区	16		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1127	⑩区	12				SB17・18・19・P1128と新旧不明
1128	⑩区	15				SB17・18・19・P1127と新旧不明
1129	⑩区	12				SB17・18・19と新旧不明
1130	⑩区	34		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1131	⑩区	34		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1132	⑩区	31		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1133	⑩区	18				SB19新旧不明

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1134	⑩区	14				SB19と新旧不明
1135	⑩区	10				SB19新旧不明
1136	⑩区	23		SB19	鎌倉Ⅳ期	P1137を 切 り、SB17・18と新旧不明
1137	⑩区	19				SB19の P1136に切られる SB17・18と 新 旧 不明
1138	⑩区	23		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1139	⑩区	21		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1140	⑩区	23				SB18・19と新旧不明
1141	⑩区	27		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1142	⑩区	26				
1143	⑩区	25				
1144	⑩区	21		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1145	⑩区	18		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1146	⑩区	37		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1147	⑩区	21		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1148	⑩区	23				SB19新旧関係不明
1149	⑩区	15				
1150	⑩区	12				
1151	⑩区	13			中世以降？	SX21（持仏堂）を切る
1152	⑩区	21		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1153	⑩区	38				SB20を構成する P1152と新旧不明、土師器甕出土
1154	⑩区	10	有			
1155	⑩区	19				SK83を切る
1156	⑩区	15				
1157	⑩区	17				
1158	⑩区	35				P1159と新旧不明
1159	⑩区	33				P1160と新旧不明
1160	⑩区	22				
1161	⑩区	39				
1162	⑩区	34				
1163	⑩区	26	有			
1164	⑩区	21				
1165	⑩区	12	有			
1166	⑩区	24				
1167	⑩区	13				
1168	⑩区	20	有	SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1169	⑩区	14		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1170	⑩区	23	有	SB14	鎌倉Ⅱ期	
1171	⑩区	24	有			SB14・15・33と新旧不明
1172	⑩区	39		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1173	⑩区	13	有			SD47を 切 り、SB15・33と新旧不明
1174	⑩区	26	有			SB15・33と新旧不明
1175	⑩区	－		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1176	⑩区	32				SB15と新旧不明
1177	⑩区	27				SB15・33と新旧不明
1178	⑩区	28				SB15・33と新旧不明
1179	⑩区	36		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1180	⑩区	19		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1181	⑩区	21				SB15と新旧不明
1182	⑩区	16				SB15・33と新旧不明
1183	⑩区	28				SB15・33と新旧不明
1184	⑩区	21				SB15と新旧不明
1185	⑩区	36		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1186	⑩区	20				SB15と新旧不明
1187	⑩区	21				SB15と新旧不明
1188	⑩区	57	有	SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1189	⑩区	－				SB15・33と新旧不明
1190	⑩区	24		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1191	⑩区	15				SB15・33と新旧不明
1192	⑩区	14				SD47を 切 り、SB15・33と新旧不明
1193	⑩区	14		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1194	⑩区	19				SB15と新旧不明
1195	⑩区	15				SB15と新旧不明
1196	⑩区	56				
1197	⑩区	38				
1198	⑩区	33				
1199	⑩区	18				
1200	⑩区	12				
1201	⑩区	64		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1202	⑩区	16				
1203	⑩区	36				SB30を構成する P1204を切る
1204	⑩区	17				P1203に切られる
1205	⑩区	34				
1206	⑩区	22				
1207	⑩区	24				
1208	⑩区	13				
1209	⑩区	20				
1210	⑩区	47				
1211	⑩区	47				SD48に切られる
1212	⑩区	47				
1213	⑩区	15				
1214	⑩区	57	有	SB17・18	鎌倉Ⅲａ/Ⅲｂ期	
1215	⑩区	39				
1216	⑩区	21				SB17・18と新旧不明
1217	⑩区	29				SB17・18と新旧不明
1218	⑩区	34				SB17・18・19と新旧不明
1219	⑩区	44		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1220	⑩区	13				
1221	⑩区	15				SK75を切る
1222	⑩区	50		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1223	⑩区	22				SB15と新旧不明
1224	⑩区	37				SB15と新旧不明
1225	⑩区	20				
1226	⑩区	17				
1227	⑩区	53				SB15・20と新旧不明
1228	⑩区	8				SB15と新旧不明
1229	⑩区	26		SB04	鎌倉Ⅰ期	
1230	⑩区	13				
1231	⑩区	－				
1232	⑩区	37		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1233	⑩区	32		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1234	⑩区	9				SB15と新旧不明
1235	⑩区	18				SB15と新旧不明
1236	⑩区	18				SB15と新旧不明
1237	⑩区	56		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1238	⑩区	22				
1239	⑩区	12				SB15と新旧不明

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1240	⑩区	19				SB15と新旧不明
1241	⑩区	49		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1242	⑩区	36		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1243	⑩区	20		SB33	鎌倉Ⅰ期	
1244	⑩区	19				SB15・20と新旧不明
1245	⑩区	54		SB20・15	鎌倉Ⅱ/Ⅲａ～ｂ期	
1246	⑩区	10				SB15・33と新旧不明
1247	⑩区	21				
1248	⑩区	11				
1249	⑩区	7				
1250	⑩区	11		SB30	鎌倉Ⅱ期	
1251	⑩区	13				SB30と新旧不明
1252	⑩区	14				
1253	⑩区	19				
1254	⑩区	24		SB30	鎌倉Ⅱ期	
1255	⑩区	10				SB30と新旧不明
1256	⑩区	13				
1257	⑩区	17				
1258	⑩区	－				SX18と新旧不明
1259	⑩区	22				SB30重複新旧不明
1260	⑩区	21				SB17・18・19と新旧不明
1261	⑩区	16				SB30重複新旧不明
1262	⑩区	28		SB30	鎌倉Ⅱ期	
1263	⑩区	－				SB30と新旧不明
1264	⑩区	15				SB30と新旧不明
1265	⑩区	41		SB30	鎌倉Ⅱ期	
1266	⑩区	47				SB15とSB19を構成するP1267と新旧不明 SK82・P1334を切る。
1267	⑩区	37		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1268	⑩区	28		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1269	⑩区	25				P1334を切り、SB15・19と重複不明
1270	⑩区	50		SB17・18	鎌倉Ⅲa/Ⅲｂ期	
1271	⑩区	26		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1272	⑩区	38				SB15・19・20と新旧不明
1273	⑩区	25				SK81・SB15・19・20と新旧不明
1274	⑩区	16				SK81・SB15・19・20と新旧不明
1275	⑩区	40		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1276	⑩区	18				SB15・19・20と新旧不明
1277	⑩区	28		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1278	⑩区	18				SB19と新旧不明
1279	⑩区	55		SB15・19	鎌倉Ⅲａ～ｂ/Ⅳ期	
1280	⑩区	42		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1281	⑩区	28				
1282	⑩区	51		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1283	⑩区	24			中世以降？	SX21（持仏堂）を切る
1284	⑩区	27			中世以降？	SX21（持仏堂）を切る
1285	⑩区	11			中世以降？	SX21（持仏堂）を切る
1286	⑩区	10				
1287	⑩区	42				SB14・P902・P1295と新旧不明
1288	⑩区	18				
1289	⑩区	－				SX06と新旧不明
1290	⑩区	19				SK81・SB15・19・20と新旧不明
1291	⑩区	13				SK81・SB15・19・20と新旧不明
1292	⑩区	60				SB12と新旧不明
1293	⑩区	8		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1294	⑩区	37				
1295	⑩区	44				P902・SB14と新旧不明
1296	⑩区	13				SB15と新旧不明
1297	⑩区	23		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	SX09を切る
1298	⑩区	15		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1299	⑩区	36			古代以降	SX09を切る
1300	⑩区	23				
1301	⑩区	53				
1302	⑩区	44		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1303	⑩区	25				SX09と新旧不明
1304	⑩区	31		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1305	⑩区	39				
1306	⑩区	47		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1307	⑩区	39				
1308	⑩区	41				
1309	⑩区	34				SD48を切る
1310	⑩区	4				
1311	⑩区	18				P1311に切られ、SB15・19・20と新旧不明
1312	⑩区	13				P1311を切り、SB15・19・20と新旧不明
1313	⑩区	13		SB09	鎌倉Ⅰ期	
1314	⑩区	8			古代以降	SK77を切る
1315	⑩区	53			古代以降	SK77・P1313を切る
1316	⑩区	45		SB09	鎌倉Ⅰ期	
1317	⑩区	25	有			SB15と新旧不明
1318	⑩区	14		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1319	⑩区	23				SB15と新旧不明
1320	⑩区	43		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1321	⑩区	10		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1322	⑩区	41		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1323	⑩区	29				SB14・15と新旧不明
1324	⑩区	21				SB14・15と新旧不明
1325	⑩区	43		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1326	⑩区	11				SB14・15と新旧不明
1327	⑩区	8				SB14・15と新旧不明
1328	⑩区	15	有	SB33	鎌倉Ⅰ期	
1329	⑩区	32	有	SB14	鎌倉Ⅱ期	
1330	⑩区	26		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1331	⑩区	13		SB14	鎌倉Ⅱ期	
1332	⑩区	46		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1333	⑩区	60				
1334	⑩区	21				SK82を切り、P1266・1267・1269に切られ、SB15・19と新旧不明
1338	⑩区	20				SK82・SB15・19・20に切られる
1340	⑩区	20				SB19・20と新旧不明
1341	⑩区	19				SB15と新旧不明
1343	⑩区	51		SB12	鎌倉Ⅳ期	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1344	⑩区	50				SB14を切り、SB16と新旧不明、P848・847と新旧不明
1345	⑩区	56			中世以降？	SX15を切る
1347	⑩区	76	有			
1348	⑩区	34				
1349	⑩区	39				
1350	⑩区	21				
1351	⑩区	35		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1352	⑩区	33				SB34と新旧不明
1353	⑩区	16				SB34と新旧不明
1354	⑩区	10				SB34と新旧不明
1355	⑩区	28		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1356	⑩区	17				SB34と新旧不明
1357	⑩区	30				SB34と新旧不明
1358	⑩区	35		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1359	⑩区	29				SB34と新旧不明
1360	⑩区	16				SB34と新旧不明
1361	⑩区	24				SB34と新旧不明
1362	⑩区	25				SB34と新旧不明
1363	⑩区	22		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1364	⑩区	16				SB34と新旧不明
1365	⑩区	15				
1366	⑩区	14				SB34と新旧不明、陶器出土
1367	⑩区	11				SB34と新旧不明
1368	⑩区	46		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1369	⑩区	25		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1370	⑩区	15				SB34と新旧不明
1371	⑩区	13				SB34と新旧不明
1372	⑩区	30				SB34と新旧不明
1373	⑩区	18				SB34と新旧不明
1374	⑩区	55				SB34・P1375と新旧不明
1375	⑩区	53	有			SB34・P1374と新旧不明
1376	⑩区	33		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1377	⑩区	19				SB34と新旧不明
1379	⑩区	19				SB34と新旧不明
1380	⑩区	44				SB34と新旧不明
1381	⑩区	32		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1382	⑩区	13				SB34と新旧不明
1383	⑩区	14				SB34と新旧不明
1384	⑩区	13				SB34と新旧不明
1385	⑩区	18				SB34と新旧不明
1386	⑩区	37				SB34と新旧不明
1388	⑩区	15				SB34と新旧不明
1390	⑩区	22				SB34と新旧不明
1391	⑩区	15				SB34と新旧不明
1392	⑩区	25				
1393	⑩区	34				
1394	⑩区	26	有			
1395	⑩区	23				SB18新旧不明
1396	⑩区	18				SB18新旧不明
1398	⑩区	14				SB18と新旧不明
1399	⑩区	39				
1400	⑩区	35	有			
1401	⑩区	19		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1402	⑩区	19				
1403	⑩区	11	有			
1404	⑩区	12				
1405	⑩区	9				SB18と新旧不明
1406	⑩区	25				SB18と新旧不明
1407	⑩区	25				SB18と新旧不明
1408	⑩区	28				SB18と新旧不明
1409	⑩区	10		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1410	⑩区	27				P1411を切り、SB34と新旧不明
1411	⑩区	18				P1410に切られ、SB34と新旧不明
1412	⑩区	28				
1413	⑩区	31				SB17、SB18を構成するP1414と新旧不明
1414	⑩区	35	有	SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1415	⑩区	33				SB17・18と新旧不明
1416	⑩区	35	有	SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1417	⑩区	25				SB17・18と新旧不明
1418	⑩区	12				SB17・18と新旧不明
1419	⑩区	35				SB17・18と新旧不明
1420	⑩区	29				P1421に切られ、SB17・18と新旧不明
1421	⑩区	29				P1420を切り、SB17・18と新旧不明
1422	⑩区	27				SB18新旧不明
1423	⑩区	33				
1424	⑩区	51	有	SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1425	⑩区	26				SB17・18を切る
1426	⑩区	22	有			SB17・SB18を構成するP1424と新旧不明
1427	⑩区	21				SB17・18と新旧不明
1428	⑩区	37				SB17・18と新旧不明
1429	⑩区	－				SB17・18と新旧不明
1430	⑩区	47		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1431	⑩区	33		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1432	⑩区	59				SB17・18と新旧不明
1433	⑩区	41	有			SB17・18と新旧不明
1434	⑩区	51				P1435に切られ、SB17・18と新旧不明
1435	⑩区	39				P1434を切り、SB17・18と新旧不明
1436	⑩区	58				SB17・18と新旧不明
1437	⑩区	55				SB17・18・P1436と新旧不明
1438	⑩区	64				SB17・18と新旧不明
1439	⑩区	20				SD50を切る
1440	⑩区	38				P1439を切る
1441	⑩区	13				SB15と新旧不明
1442	⑩区	65				SB17・18と新旧不明
1443	⑩区	65				
1444	⑩区	59		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1445	⑩区	55				
1446	⑩区	52				SB34と新旧不明
1447	⑩区	56				SB34と新旧不明
1448	⑩区	56				SB34と新旧不明
1449	⑩区	55		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1450	⑩区	15				SD50を切り、SB34と新旧不明

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1451	⑩区	24				SK94を 切 り、SB34と新旧不明
1452	⑩区	64				SD50を切る
1453	⑩区	25				SB34と新旧不明
1454	⑩区	24				
1455	⑩区	13				SB34と新旧不明
1456	⑩区	18				SB34と新旧不明
1457	⑩区	43		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1458	⑩区	24				SB34と新旧不明
1459	⑩区	17				SB34と新旧不明
1460	⑩区	－				SB34と新旧不明
1461	⑩区	36				SB34と新旧不明
1462	⑩区	19				
1463	⑩区	21		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1464	⑩区	52				
1465	⑩区	14				
1466	⑩区	13		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1467	⑩区	34				SB34と新旧不明
1468	⑩区	18				
1469	⑩区	23				
1470	⑩区	17				
1471	⑩区	26		SB06	鎌倉Ⅰ期	
1472	⑩区	35				
1473	⑩区	29				
1474	⑩区	8				
1475	⑩区	32				
1476	⑩区	9				
1477	⑩区	11				
1478	⑩区	33				
1479	⑩区	14				
1480	⑩区	17				SB34と新旧不明
1481	⑩区	－				
1482	⑩区	9				
1483	⑩区	7				
1484	⑩区	14				
1485	⑩区	15				
1486	⑩区	25				SD50を切る
1487	⑩区	9				SD50を切る
1488	⑩区	56				
1489	⑩区	65				
1490	⑩区	47				
1491	⑩区	38				
1492	⑩区	51				
1493	⑩区	45				
1494	⑩区	30	有			SB17・18と新旧不明
1495	⑩区	32		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1496	⑩区	50		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1497	⑩区	63				
1498	⑩区	45				
1499	⑩区	54				SB17・18と新旧不明
1500	⑩区	60				SB17・18と新旧不明
1501	⑩区	56				SB17・18と新旧不明
1502	⑩区	44				SB17・18と新旧不明
1503	⑩区	50	有			SB17・18と新旧不明
1504	⑩区	31				SB17・18と新旧不明
1505	⑩区	23				SB17・18と新旧不明
1506	⑩区	56				SB17・18と新旧不明

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1507	⑩区	54				SB17・18と新旧不明
1508	⑩区	59	有			SB17・18と新旧不明
1509	⑩区	20				SB17・18と新旧不明
1510	⑩区	43				SB17・18と新旧不明
1511	⑩区	54				SB17・18と新旧不明
1512	⑩区	49	有			SB17・18と新旧不明
1513	⑩区	60				SB17・18と新旧不明
1514	⑩区	30		SB17・18	鎌倉Ⅲａ/Ⅲｂ期	
1515	⑩区	－				
1516	⑩区	－				
1517	⑩区	54				
1518	⑩区	47				
1519	⑩区	31	有			
1520	⑩区	46	有			
1521	⑩区	－				SB34と新旧不明
1522	⑩区	17	有			P1521を 切 り、SB34と新旧不明
1523	⑩区	32				
1524	⑩区	18				
1525	⑩区	21				
1526	⑩区	10				
1527	⑩区	16				
1528	⑩区	18				
1529	⑩区	17				
1530	⑩区	12				
1531	⑩区	31				SB18と P1532と新旧不明
1532	⑩区	24				SB18と P1531と新旧不明
1533	⑩区	33				P1534と新旧不明
1534	⑩区	18				P1533と新旧不明
1535	⑩区	25				P1536と新旧不明
1536	⑩区	36				P1535と新旧不明
1537	⑩区	46		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1538	⑩区	14		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1539	⑩区	30		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1540	⑩区	14				
1541	⑩区	31		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1542	⑩区	24				
1543	⑩区	28				
1544	⑩区	15				
1545	⑩区	14		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1546	⑩区	34		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1547	⑩区	7				SB19新旧不明
1548	⑩区	45		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1549	⑩区	26		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1550	⑩区	7				SB19新旧不明
1551	⑩区	28				SB17の P1537を 切 り、SB18・19と新旧不明
1552	⑩区	48		SB18	鎌倉Ⅲｂ期	
1553	⑩区	13				SB19新旧不明
1554	⑩区	8				SB17・18・19と新旧不明
1555	⑩区	40		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1556	⑩区	14				SB17・18・19と新旧不明
1557	⑩区	12				SB17・18・19と新旧不明
1558	⑩区	45		SB19	鎌倉Ⅳ期	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1559	⑩区	27		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1560	⑩区	22				SB19を構成する P1561に切られ、SB17・18と新旧不明
1561	⑩区	49		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1562	⑩区	30		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1563	⑩区	13				SB17・18・19と新旧不明
1564	⑩区	29				SB17・18・19と新旧不明
1565	⑩区	9				SB17・18・19と新旧不明
1566	⑩区	13				SB17・18・19と新旧不明
1567	⑩区	18				SB17・18・19と新旧不明
1568	⑩区	15				SB19と新旧不明
1570	⑩区	13				SB19と新旧不明
1571	⑩区	16				SB19と新旧不明
1572	⑩区	18				SB19と新旧不明
1573	⑩区	16		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1574	⑩区	15				SB19と新旧不明
1575	⑩区	28		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1576	⑩区	20				SB19と新旧不明
1577	⑩区	20				SB19と新旧不明
1578	⑩区	11		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1579	⑩区	42				P1580に切られる
1580	⑩区	43			中世以降？	SX21（地仏堂）を切る
1581	⑩区	13				SX21（地仏堂）と重複不明
1582	⑩区	44				SX21（地仏堂）と重複不明
1583	⑩区	14				
1584	⑩区	24				
1585	⑩区	24				SX18と新旧不明
1586	⑩区	19				
1587	⑩区	11				
1588	⑩区	21				
1589	⑩区	11				
1590	⑩区	14				
1593	⑩区	12				
1594	⑩区	7				
1595	⑩区	－				
1596	⑩区	16				
1598	⑩区	15				
1599	⑩区	17		SB04	鎌倉Ⅰ期	
1600	⑩区	14				
1601	⑩区	10				
1602	⑩区	7				
1603	⑩区	12				
1604	⑩区	11				
1605	⑩区	11				
1606	⑩区	6				
1607	⑩区	14				SX18と新旧不明
1608	⑩区	12				
1609	⑩区	34				
1610	⑩区	9				
1611	⑩区	18				
1612	⑩区	19				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1613	⑩区	22		SB20	鎌倉Ⅱ期	
1614	⑩区	36				SB20P1613新旧不明
1615	⑩区	14				SB34と新旧不明
1616	☒区	28				
1617	☒区	12				
1620	⑩区	34				
1622	⑩区	18				
1623	⑩区	31				SX18と新旧不明
1624	⑩区	48		SB17	鎌倉Ⅲａ期	SX18と新旧不明
1625	⑩区	38				SB04重複新旧不明
1626	⑩区	27				
1627	⑩区	14				SB17と新旧不明
1628	⑩区	14				SB18新旧不明
1629	⑩区	23				P1630・SB34と新旧不明
1630	⑩区	24				P1629・SB34と新旧不明
1631	⑩区	11				SB17・18・19と新旧不明
1632	⑩区	21				
1633	⑩区	12		SB34	鎌倉Ⅰ期	
1634	⑩区	12				SB34と新旧不明
1635	⑩区	29		SB17	鎌倉Ⅲａ期	
1638	⑩区	22				旧 P1079-2 SB20新旧関係不明
1639	⑩区	19				旧 P1398-2 SB18と新旧関係不明
1641	⑩区	17				SB17・18・19・20と新旧不明
1642	⑩区	10				
1645	⑩区	25			中世以降？	SX21（持仏堂）を切る
1646	⑩区	34				SK94を切り、SB34と新旧不明
1647	⑩区	24				
1648	⑩区	22				
1649	⑩区	45		SB04	鎌倉Ⅰ期	
1650	⑩区	48		SB04	鎌倉Ⅰ期	P1651を切る
1651	⑩区	25		SB04	鎌倉Ⅰ期	P1650に切られる
1652	⑩区	30		SB04	鎌倉Ⅰ期	
1653	⑩区	69				SB09と P873に切られる。
1655	⑩区	11				SB09と新旧不明
1656	⑩区	17				SB09と新旧不明　P859を切る
1657	⑩区	22				SB16新旧不明
1658	⑩区	21				SB16を構成する P868と新旧不明
1659	⑩区	18				SB12・16新旧不明
1660	⑩区	12		SB19	鎌倉Ⅳ期	
1661	⑩区	28		SB04	鎌倉Ⅰ期	
1662	⑩区	25				SB09と新旧不明
1663	⑩区	25		SB15	鎌倉Ⅲａ～ｂ期	
1664	⑩区	53		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1665	⑩区	51		SB12	鎌倉Ⅳ期	
1666	⑩区	10				SX09と新旧不明
1667	⑩区	5				SB07と新旧不明
1668	⑩区	18		SB18	鎌倉Ⅲａ期	
1670	②区	10				
1671	②区	14				
1672	②区	39				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1673	②区	10				
1674	②区	11				
1675	②区	9				
1676	②区	12				
1677	②区	13				
1678	②区	42				
1679	②区	15				
1680	②区	11				
1681	②区	12				
1682	②区	9				
1683	②区	44		SB42	古代？	
1684	②区	6		SB42	古代？	
1685	②区	49				
1686	②区	14				
1687	②区	43				
1688	②区	31				
1689	②区	40		SB42	古代？	
1690	②区	18		SB42	古代？	
1691	②区	16				
1692	②区	14				
1693	②区	9				
1694	②区	36				
1695	②区	28		SB42	古代？	
1696	②区	20				
1697	②区	22				
1698	②区	23				
1699	②区	44		SB42	古代？	
1700	②区	20				
1701	②区	16				
1702	②区	24	有			
1703	②区	24				
1704	②区	17				
1705	②区	26				
1706	②区	18				
1707	②区	36				
1708	②区	35				
1709	②区	36	有	SB41	古代？	
1710	②区	39				
1711	②区	14		SB41	古代？	
1712	②区	53				
1713	②区	36				
1714	②区	13				
1715	②区	36				
1716	②区	58	有	SB41	古代？	
1717	②区	46		SB41	古代？	
1718	②区	40	有	SB41	古代？	
1719	②区	24	有	SB41	古代？	
1720	②区	34	有			
1721	②区	12				
1722	②区	7				
1723	②区	14				
1724	②区	9				
1725	②区	13				
1726	②区	29	有	SB41	古代？	
1727	②区	32	有	SB41	古代？	
1728	②区	12	有	SB41	古代？	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
1729	②区	6				
1730	②区	5				
1731	②区	3				
1732	②区	28				
1733	②区	20	有	SB41	古代？	
1734	②区	20				
1735	②区	32	有			
1736	②区	18	有			
1737	②区	52				
1738	②区	35				
1739	②区	5				
1740	②区	54	有	SB42	古代？	
1741	②区	19				
1742	②区	45				
1743	②区	41				
1744	②区	24		SB73	古代～中世	
1755	⑦区	15		SB75	古代～中世	
1756	⑦区	20	有	SB75	古代～中世	
1757	⑦区	19		SB74	古代～中世	
1758	⑦区	8		SB75	古代～中世	
1762	⑦区	19		SB73	古代～中世	
1765	⑦区	43		SB73	古代～中世	
1766	⑦区	5		SB73	古代～中世	
1768	⑦区	15		SB73	古代～中世	
1773	⑦区	37		SB73	古代～中世	
1901	⑧区	11				SD135と新旧不明
1902	⑧区	6				SD135と新旧不明　旧2501 ～ 2506
1904	⑧区	26				
1905	⑧区	24				
1906	⑧区	28				
1907	⑧区	23				
1908	⑧区	16				
1909	⑧区	27				
1910	⑧区	8				
1911	⑧区	18				
1912	⑧区	25				
1913	⑧区	17				SD135と新旧不明
1914	⑧区	11				
1915	⑧区	18				
1916	⑧区	24				
1917	⑧区	15				SD135と新旧不明
1918	⑧区	16				SD135と新旧不明
1919	⑧区	22				
1920	⑧区	14				
1921	⑧区	18				SX32と新旧不明
1922	⑧区	21				
1923	⑧区	34				SI04との新旧不明
1924	⑧区	21				SI04との新旧不明
2001	⑨区	19	有	SB21	古代	
2002	⑨区	9		SB21	古代	
2003	⑨区	16		SB21	古代	
2004	⑨区	16	有			
2005	⑨区	33	有	SB21	古代	
2006	⑨区	21	有			
2007	⑨区	25	有			
2008	⑨区	29	有	SB21	古代	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2009	⑨区	16				
2010	⑨区	29	有	SB21	古代	
2011	⑨区	38	有	SB21	古代	
2012	⑨区	35	有	SB21	古代	
2013	⑨区	26	有	SB21	古代	
2014	⑨区	14		SB21	古代	
2015	⑨区	30	有	SB21	古代	
2016	⑨区	28				
2017	⑨区	39				
2019	⑨区	17				P2050に切られる
2021	⑨区	45	有			P517に切られる
2022	⑨区	4				
2023	⑨区	6				
2024	⑨区	11				
2025	⑨区	25		SB28	中近世	
2026	⑨区	19	有			
2027	⑨区	22				
2028	⑨区	17		SB40	中世？	
2029	⑨区	32	有	SB40	中世？	
2030	⑨区	11				
2031	⑨区	8				P2032に切られる
2032	⑨区	30				P2031を切る
2033	⑨区	18				
2034	⑨区	18				
2035	⑨区	20				
2036	⑨区	21				
2037	⑨区	27				
2038	⑨区	29				
2039	⑨区	29	有			
2040	⑨区	9				
2042	⑨区	38				
2043	⑨区	23				
2044	⑨区	27			古代	SD32より旧い
2045	⑨区	32				
2046	⑨区	27				
2047	⑨区	52	有			
2048	⑨区	30	有			
2050	⑨区	20				P2019を切る
2052	⑨区	8				
2053	⑨区	10				
2054	⑨区	18	有			
2055	⑨区	29	有			
2056	⑨区	25		SB24	古代？	
2057	⑨区	8				
2059	⑨区	23		SB24	古代？	
2060	⑨区	24		SB24	古代？	
2061	⑨区	15	有			
2063	⑨区	10			古代	SD32より旧い
2064	⑨区	26				
2065	⑨区	14			古代	SD32より旧い
2066	⑨区	18			古代	SD32より旧い
2067	⑨区	21				
2068	⑨区	33	有	SB40	中世？	SD32より旧い（※時期矛盾）
2069	⑨区	48	有	SB40	中世？	
2070	⑨区	30	有			
2072	⑨区	25			古代	SD32に切られる

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2073	⑨区	21				P2074を切る
2074	⑨区	22	有			P2073に切られる
2075	⑨区	24	有			
2076	⑨区	15				
2077	⑨区	40				
2078	⑨区	23				
2079	⑨区	12				
2080	⑨区	34				
2081	⑨区	42				
2082	⑨区	20	有			
2083	⑨区	23	有			
2084	⑨区	27				
2085	⑨区	20				
2086	⑨区	40				
2087	⑨区	17				
2088	⑨区	48				
2089	⑨区	28	有			
2090	⑨区	10				
2091	⑨区	30				
2092	⑨区	22				
2093	⑨区	29	有			
2094	⑨区	36	有			
2095	⑨区	40	有		古代	SD32より旧い
2096	⑨区	15				
2097	⑨区	34	有			
2099	⑨区	40	有			
2100	⑨区	26				
2101	⑨区	29	有			
2102	⑨区	32				
2103	⑨区	21				
2105	⑨区	36				
2106	⑨区	31				
2107	⑨区	45				
2108	⑨区	11			古代	SD34より旧い
2109	⑨区	20			古代	SD34より旧い
2110	⑨区	14	有	SB37	中世？	
2111	⑨区	12				
2112	⑨区	20				
2113	⑨区	11	有	SB37	中世？	
2114	⑨区	25				P2115を切る
2115	⑨区	54	有	SB37	中世？	P2114に切られる
2116	⑨区	22		SB37	中世？	
2117	⑨区	23				
2118	⑨区	24		SB37	中世？	
2119	⑨区	34	有			
2120	⑨区	22				
2121	⑨区	17		SB36	不明	
2122	⑨区	16		SB36	不明	
2123	⑨区	11	有			
2124	⑨区	9	有	SB37	中世？	
2125	⑨区	18	有			
2126	⑨区	24	有	SB37	中世？	
2127	⑨区	24		SB37	中世？	
2128	⑨区	10	有			
2129	⑨区	32				
2130	⑨区	5	有	SB37	中世？	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2131	⑨区	6	有			
2132	⑨区	44	有			
2133	⑨区	20		SB37	中世？	
2134	⑨区	17				
2135	⑨区	40	有			
2136	⑨区	9	有			
2137	⑨区	37				
2138	⑨区	25				
2139	⑨区	49	有			
2141	⑨区	37				
2142	⑨区	8				
2143	⑨区	11				
2144	⑨区	29				
2145	⑨区	13				
2146	⑨区	42	有			
2147	⑨区	12				
2148	⑨区	18				
2149	⑨区	15				
2150	⑨区	19				
2151	⑨区	33				
2152	⑨区	16				
2153	⑨区	15				
2154	⑨区	9	有			
2155	⑨区	42				
2156	⑨区	14				
2157	⑨区	8				
2158	⑨区	13				
2159	⑨区	8				
2160	⑨区	22	有	SB36	不明	
2161	⑨区	15				
2162	⑨区	18	有			
2163	⑨区	23				
2164	⑨区	22	有			
2165	⑨区	16				
2166	⑨区	22	有	SB36	不明	
2167	⑨区	51	有			
2168	⑨区	9				P2169に切られる
2169	⑨区	17				P2168を切る
2170	⑨区	12	有			
2171	⑨区	15	有			
2172	⑨区	25	有			
2173	⑨区	33				
2174	⑨区	16				
2175	⑨区	8				P2176に切られる
2176	⑨区	13		SB35	古代？	P2175を切る
2177	⑨区	13		SB35	古代？	P2178に切られる
2178	⑨区	32				P2177を切る
2179	⑨区	14				
2180	⑨区	11				
2181	⑨区	11				
2182	⑨区	23	有	SB35	古代？	
2183	⑨区	31				
2184	⑨区	22	有			
2185	⑨区	23				
2186	⑨区	34		SB22	古代？	P2187より新しい
2187	⑨区	54				P2186より旧い

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2188	⑨区	42	有			
2189	⑨区	14				
2190	⑨区	47	有	SB35	古代？	
2191	⑨区	48		SB22	古代？	
2192	⑨区	16				
2193	⑨区	40				
2194	⑨区	54				
2195	⑨区	22				
2196	⑨区	20				
2197	⑨区	35				
2198	⑨区	9	有			
2199	⑨区	27				
2200	⑨区	17				
2201	⑨区	34	有			
2202	⑨区	22				
2203	⑨区	18				
2204	⑨区	61		SB22	古代？	SK60→P2204
2205	⑨区	52		SB26	中近世	
2206	⑳区	－				
2207	⑳区	5				
2208	⑳区	20				
2209	⑳区	26				
2210	⑳区	43				
2211	⑳区	19				
2212	⑳区	28				P2235に切られる
2213	⑳区	24				
2214	⑳区	33				
2215	⑳区	50				
2216	⑳区	44	有			
2217	⑳区	26				
2218	⑳区	36				
2219	⑳区	47				P2268を切る
2220	⑳区	17				
2221	⑳区	21				
2222	⑳区	30				
2223	⑳区	31				
2224	⑳区	33				
2225	⑳区	32	有			
2226	⑳区	26				
2227	⑳区	22				
2228	⑳区	42				
2229	⑳区	26	有			
2230	⑳区	50				
2231	⑳区	23				
2232	⑳区	34				
2233	⑳区	36				
2234	⑳区	34	有			
2235	⑳区	32				
2236	⑳区	28				
2237	⑳区	32	有			
2238	⑳区	29				
2239	⑳区	52				
2240	⑳区	22				
2241	⑳区	18				
2242	⑳区	42				P2244を切る
2243	⑳区	34				P2244を切る

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2244	⑳区	43				P2242･2243に切られる
2245	⑳区	21				SD100を切る
2246	⑳区	28				
2247	⑳区	40				
2248	⑳区	22				SD100を切る
2249	⑳区	34				
2250	⑳区	31				P2363を切る
2251	⑳区	24				
2252	⑳区	20	有			
2253	⑳区	14				
2254	⑳区	15				
2255	⑳区	21	有			
2256	⑳区	－				
2257	⑳区	19	有			
2258	⑳区	28				
2259	⑳区	10	有			
2260	⑳区	12	有			
2261	⑳区	37				
2262	⑳区	19				
2263	⑳区	60				
2264	⑳区	12				
2265	⑳区	－				
2266	⑳区	18				
2267	⑳区	28	有			
2268	⑳区	41				P2219に切られる
2269	⑳区	29				SD96と新旧不明
2270	⑳区	19				
2271	⑳区	12				
2272	⑳区	45	有			
2273	⑳区	35				
2274	⑳区	－				
2275	⑳区	－				
2276	⑳区	26				
2277	⑳区	30				
2278	⑳区	27				
2279	⑳区	24	有			
2280	⑳区	28				
2281	⑳区	－				
2282	⑳区	33	有			SD103と新旧不明
2283	⑳区	17				SD103と新旧不明
2284	⑳区	16				
2285	⑳区	30				
2286	⑳区	40				
2287	⑳区	20				SD104と新旧不明
2288	⑳区	22				SD96と新旧不明
2289	⑳区	19				
2290	⑳区	9				SD104を切る
2291	⑳区	6				SD100を切る
2292	⑳区	15				
2293	⑳区	－				
2294	⑳区	13				SD96と新旧不明
2295	⑳区	22				SD97と新旧不明
2296	⑳区	11				
2297	⑳区	36				
2298	⑳区	18				
2299	⑳区	－				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2300	⑦区	5				
2301	⑦区	7				
2302	⑦区	6				
2303	⑦区	9				
2304	⑦区	15				
2305	⑦区	4				
2306	⑦区	25				
2307	⑦区	21				
2308	⑦区	25				
2309	⑦区	6				
2310	⑦区	18				
2311	⑦区	4				
2312	⑦区	4				
2313	⑦区	4				
2314	⑦区	27				
2315	⑦区	11				
2316	⑦区	14			古代	SD18より旧い
2317	⑦区	24			古代	SD17より旧い
2318	⑦区	22			古代	SD17より旧い
2319	⑦区	11			古代	SD17より旧い
2320	⑦区	10			古代	SD18より旧い
2321	⑦区	12			古代	SD18より旧い
2322	⑦区	7				SK21より旧い
2323	⑦区	21				SX04より旧い
2324	⑦区	43		SB03	12世紀	
2325	⑦区	36		SB75	古代～中世	旧 SB02から変更
2326	⑦区	22		SB03	12世紀	
2327	⑦区	7				
2328	⑦区	25				P1→ P2328
2329	⑦区	42				P2→ P2329
2330	⑦区	14				P3→ P2330
2331	⑦区	21				P4→ P2331
2332	⑦区	16				P5→ P2332
2333	⑦区	12				P6→ P2333
2334	⑦区	15				P7→ P2334
2335	⑦区	37				P8→ P2335
2336	⑦区	15				P9→ P2336
2337	⑦区	51				P10→ P2337
2338	⑦区	29				P11→ P2338
2339	⑦区	13				P12→ P2339
2340	⑦区	22				P13→ P2340
2341	⑦区	19				P14→ P2341
2342	⑦区	20				P15→ P2342
2343	⑦区	20				P16→ P2343
2344	⑦区	19				P17→ P2344
2345	⑦区	10				P18→ P2345
2346	⑦区	33				P19→ P2346
2347	⑦区	31				P20→ P2347
2401	⑪区	14				
2402	⑪区	33				
2403	⑥区	23	有			
2404	⑥区	34				
2405	⑥区	23				
2406	⑥区	14				
2407	⑮区	24				
2408	⑮区	26				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2409	⑮区	31				
2410	⑧区	17				
2411	⑧区	21				
2412	⑧区	39				
2413	⑧区	16				
2414	⑧区	18				
2415	⑧区	14				
2416	⑧区	18				
2417	⑧区	43				
2418	⑧区	9				
2419	⑧区	4				
2420	⑧区	6				
2421	⑧区	4				
2422	⑧区	18			古代以降	SD137を切る
2423	⑧区	23				
2424	⑧区	18				
2425	⑧区	20				
2426	⑧区	11				SD135と新旧不明
2427	⑧区	18				P2428を切る
2428	⑧区	17				P2427に切られる
2429	⑧区	21				
2430	⑧区	27				
2431	⑧区	20				
2432	⑧区	14				
2433	⑧区	32				
2434	⑧区	24				P2435を切る
2435	⑧区	23				P2434に切られる
2436	⑧区	24				
2437	⑧区	20				
2438	⑧区	51				
2439	⑧区	33				SD135と新旧不明
2440	⑧区	66				SD135と新旧不明
2441	⑧区	10				SD135と新旧不明
2442	⑧区	23				SD135と新旧不明
2443	⑧区	44				SD135と新旧不明
2444	⑧区	35				SD135と新旧不明
2445	⑧区	16				SD135と新旧不明
2446	⑧区	22				SD135と新旧不明
2447	⑧区	25				
2448	⑧区	22				
2449	⑧区	13				
2450	⑧区	8				
2451	⑧区	20				
2452	⑧区	17				
2453	⑧区	12				
2454	⑧区	13				
2455	⑧区	23				
2456	⑧区	9				
2457	⑧区	13				
2458	⑧区	14				
2459	⑧区	3				
2460	⑧区	17				
2461	⑧区	11				
2462	⑧区	13				
2463	⑧区	22				
2464	⑧区	29				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2465	⑧区	31				
2466	⑧区	36				
2467	⑧区	10				
2468	⑧区	44				
2469	⑧区	20				
2470	⑧区	15				
2471	⑧区	9				SD135と新旧不明
2472	⑧区	8				SD135と新旧不明
2473	⑧区	31				
2474	⑧区	16				
2475	⑧区	12				
2476	⑧区	30				
2477	⑧区	44				
2478	⑧区	36				
2479	⑧区	14				
2480	⑧区	20				SI07と新旧不明
2481	⑧区	29				SD135と新旧不明
2482	⑧区	28				
2483	⑧区	30				
2485	⑧区	18				
2486	⑧区	17				
2487	⑧区	20				SX32と新旧不明
2489	⑧区	13				SD135と新旧不明
2490	⑧区	29				
2491	⑧区	19				
2492	⑧区	36				
2493	⑧区	14				
2494	⑧区	19				
2495	⑧区	21				
2496	⑧区	36				
2497	⑧区	17				
2498	⑧区	23				
2499	⑧区	22				
2500	⑧区	9				SD135と新旧不明
2501	⑭区	25		ＳＡ０３柱穴列	不明	
2502	⑭区	13		ＳＡ０３柱穴列	不明	
2503	⑭区	31				
2504	⑭区	18				
2505	⑭区	27				
2506	⑭区	12	有			
2507	⑭区	29				
2508	⑭区	18	有			
2509	⑭区	12				
2510	⑭区	23				
2511	⑭区	23				
2512	⑭区	6	有	ＳＡ０３柱穴列	不明	
2513	⑭区	16				
2514	⑭区	3				
2515	⑭区	16	有？			
2516	⑭区	32				
2517	⑭区	21				
2518	⑭区	27				
2519	⑭区	20				
2520	⑭区	31				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2521	⑭区	18				
2522	⑭区	28				
2523	⑭区	15	有			
2524	⑭区	39				
2525	⑭区	23				
2526	⑭区	33				
2527	⑭区	24				
2528	⑭区	24				
2529	⑭区	26		ＳＡ03柱穴列	不明	
2530	⑭区	20				
2531	⑭区	20				P2508→ P2531
2532	⑭区	12				P2527→ P2532
2533	㉔区	16		SB46	古代～中世	
2534	㉔区	14		SB46	古代～中世	
2535	㉔区	16	有	SB47	古代～中世	
2536	㉔区	14		SB46	古代～中世	
2537	㉔区	5～20				
2538	㉔区	22		SB45・47	古代～中世	
2539	㉔区	18		SB47	古代～中世	
2540	㉔区	5～20				
2541	㉔区	5～20				
2542	㉔区	5～20				
2543	㉔区	5～20				
2544	㉔区	16		SB45	古代～中世	
2545	㉔区	5～20				
2546	㉔区	16	有	SB45	古代～中世	
2547	㉔区	20	有	SB47	古代～中世	
2548	㉔区	5～20				
2549	㉔区	19	有	SB46	古代～中世	
2550	㉔区	16	有	SB46	古代～中世	
2551	㉔区	5～20				
2552	㉔区	16	有	SB47	古代～中世	
2553	㉔区	5～20				
2554	㉔区	18		SB45	古代～中世	
2555	㉔区	6		SB45	古代～中世	
2556	㉔区	24		SB46	古代～中世	
2557	㉔区	5～20				
2558	㉔区	5～20				
2559	㉔区	14	有	SB47	古代～中世	
2560	㉔区	5～20				
2561	㉔区	5～20				
2562	㉔区	20	有	SB46	古代～中世	
2563	㉔区	12	有	SB47	古代～中世	
2564	㉔区	16		SB45	古代～中世	
2565	㉔区	20		SB46	古代～中世	
2566	㉔区	24	有	SB45	古代～中世	
2567	㉔区	32	有	SB47	古代～中世	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2568	㉔区	8	有	SB48	古代～中世	
2569	㉔区	5～20				
2570	㉔区	16	有	SB47	古代～中世	
2571	㉔区	5～20				
2572	㉔区	5～20				
2573	㉔区	5～20				
2574	㉔区	12	有	SB46	古代～中世	
2575	㉔区	12	有	SB45	古代～中世	
2576	㉔区	5～20				
2577	㉔区	8		SB45	古代～中世	
2578	㉔区	5～20				
2579	㉔区	5～20				
2580	㉔区	5～20				
2581	㉔区	5～20				
2582	㉔区	22	有	SB48	古代～中世	
2583	㉔区	14	有	SB48	古代～中世	
2584	㉔区	20	有	SB48	古代～中世	
2585	㉔区	5～20				
2586	㉔区	20	有	SB49	古代～中世	
2587	㉔区	5～20				
2588	㉔区	16		SB52	古代～中世	
2589	㉔区	10		SB52	古代～中世	
2590	㉔区	5～20				
2591	㉔区	24	有	SB48	古代～中世	
2592	㉔区	5～20				
2593	㉔区	5～20				
2594	㉔区	10	有	SB48	古代～中世	
2595	㉔区	5～20				
2596	㉔区	5～20				
2597	㉔区	5～20				
2598	㉔区	5～20				
2599	㉔区	6	有	SB52	古代～中世	
2600	㉔区	5～20				
2601	㉔区	5～20				
2602	㉔区	5～20				
2603	㉔区	5～20				
2604	㉔区	5～20				
2605	㉔区	5～20				
2606	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2607	㉔区	5～20				
2608	㉔区	5～20				
2609	㉔区	26	有	SB49	古代～中世	
2610	㉔区	20	有	SB50	古代～中世	
2611	㉔区	5～20				
2612	㉔区	5～20				
2613	㉔区	20	有	SB49	古代～中世	
2614	㉔区	5～20				
2615	㉔区	5～20				
2616	㉔区	5～20				
2617	㉔区	18	有	SB50	古代～中世	
2618	㉔区	14	有	SB49	古代～中世	
2619	㉔区	5～20				
2620	㉔区	26	有	SB51	古代～中世	
2621	㉔区	5～20				
2622	㉔区	5～20				
2623	㉔区	22	有	SB49	古代～中世	
2624	㉔区	28	有	SB51	古代～中世	
2625	㉔区	5～20				
2626	㉔区	5～20				
2627	㉔区	5～20				
2628	㉔区	5～20				
2629	㉔区	8	有	SB50	古代～中世	
2630	㉔区	5～20				
2631	㉔区	5～20				
2632	㉔区	5～20				
2633	㉔区	5～20				
2634	㉔区	5～20				
2635	㉔区	5～20				
2636	㉔区	5～20				
2637	㉔区	5～20				
2638	㉔区	5～20				
2639	㉔区	16	有	SB50	古代～中世	
2640	㉔区	5～20				
2641	㉔区	5～20				
2642	㉔区	5～20				
2643	㉔区	18	有	SB51	古代～中世	
2644	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2645	㉔区	5～20				
2646	㉔区	5～20				
2647	㉔区	5～20				
2648	㉔区	5～20				
2649	㉔区	5～20				
2650	㉔区	5～20				
2651	㉔区	5～20				
2652	㉔区	5～20				
2653	㉔区	5～20				
2654	㉔区	10	有	SB49	古代～中世	
2655	㉔区	5～20				
2656	㉔区	14	有	SB50	古代～中世	
2657	㉔区	5～20				
2658	㉔区	5～20				
2659	㉔区	22		SB51	古代～中世	
2660	㉔区	22	有	SB49	古代～中世	
2661	㉔区	12	有	SB48	古代～中世	
2662	㉔区	5～20				
2663	㉔区	16	有	SB52	古代～中世	
2664	㉔区	5～20				
2665	㉔区	20		SB50	古代～中世	
2666	㉔区	22	有	SB50	古代～中世	
2667	㉔区	5～20				
2668	㉔区	5～20				
2669	㉔区	5～20				
2670	㉔区	5～20				
2671	㉔区	34	有	SB49	古代～中世	
2672	㉔区	18	有	SB51	古代～中世	
2673	㉔区	5～20				
2674	㉔区	5～20				
2675	㉔区	5～20				
2676	㉔区	18	有	SB52	古代～中世	
2677	㉔区	5～20				
2678	㉔区	5～20				
2679	㉔区	5～20				
2680	㉔区	5～20				
2681	㉔区	22	有	SB51	古代～中世	
2682	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2683	㉔区	5～20				
2684	㉔区	5～20				
2685	㉔区	16	有	SB51	古代～中世	
2686	㉔区	5～20				
2687	㉔区	8	有	SB55	古代～中世	
2688	㉔区	5～20				
2689	㉔区	5～20				
2690	㉔区	5～20				
2691	㉔区	16	有	SB52	古代～中世	
2692	㉔区	5～20				
2693	㉔区	8	有	SB55	古代～中世	
2694	㉔区	5～20				
2695	㉔区	40	有	SB51	古代～中世	
2696	㉔区	5～20				
2697	㉔区	5～20				
2698	㉔区	5～20				
2699	㉔区	5～20				
2700	㉔区	5～20				
2701	㉔区	30		SB54	古代～中世	
2702	㉔区	5～20				
2703	㉔区	5～20				
2704	㉔区	5～20				
2705	㉔区	36	有	SB53	古代～中世	
2706	㉔区	5～20				
2707	㉔区	5～20				
2708	㉔区	5～20				
2709	㉔区	26	有	SB60	古代～中世	
2710	㉔区	5～20				
2711	㉔区	44	有	SB54	古代～中世	
2712	㉔区	38	有	SB60	古代～中世	
2713	㉔区	5～20				
2714	㉔区	5～20				
2715	㉔区	36	有	SB54	古代～中世	
2716	㉔区	30	有	SB60	古代～中世	
2717	㉔区	5～20				
2718	㉔区	5～20				
2719	㉔区	5～20				
2720	㉔区	6	有	SB60	古代～中世	
2721	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2722	㉔区	44	有	SB54	古代～中世	
2723	㉔区	12	有	SB53	古代～中世	
2724	㉔区	8	有	SB53	古代～中世	
2725	㉔区	8	有	SB54	古代～中世	
2726	㉔区	5～20				
2727	㉔区	5～20				
2728	㉔区	5～20				
2729	㉔区	5～20				
2730	㉔区	5～20				
2731	㉔区	20	有	SB53	古代～中世	
2732	㉔区	5～20				
2733	㉔区	5～20				
2734	㉔区	5～20				
2735	㉔区	50	有	SB54	古代～中世	
2736	㉔区	5～20				
2737	㉔区	22	有	SB54	古代～中世	
2738	㉔区	5～20				
2739	㉔区	5～20				
2740	㉔区	5～20				
2741	㉔区	5～20				
2742	㉔区	5～20				
2743	㉔区	16	有	SB53	古代～中世	
2744	㉔区	5～20				
2745	㉔区	5～20				
2746	㉔区	5～20				
2747	㉔区	5～20				
2748	㉔区	5～20				
2749	㉔区	5～20				
2750	㉔区	5～20				
2751	㉔区	5～20				
2752	㉔区	5～20				
2753	㉔区	5～20				
2754	㉔区	5～20				
2755	㉔区	40	有	SB65	古代～中世	
2756	㉔区	5～20				
2757	㉔区	5～20				
2758	㉔区	26	有	SB54	古代～中世	
2759	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2760	㉔区	5～20				
2761	㉔区	5～20				
2762	㉔区	5～20				
2763	㉔区	5～20				
2764	㉔区	5～20				
2765	㉔区	5～20				
2766	㉔区	5～20				
2767	㉔区	5～20				
2768	㉔区	32	有	SB54	古代～中世	
2769	㉔区	30	有	SB60	古代～中世	
2770	㉔区	5～20				
2771	㉔区	5～20				
2772	㉔区	5～20				
2773	㉔区	5～20				
2774	㉔区	5～20				
2775	㉔区	5～20				
2776	㉔区	22	有	SB60	古代～中世	
2777	㉔区	5～20				
2778	㉔区	44	有	SB65	古代～中世	
2779	㉔区	12	有	SB65	古代～中世	
2780	㉔区	5～20				
2781	㉔区	5～20				
2782	㉔区	5～20				
2783	㉔区	5～20				
2784	㉔区	5～20				
2785	㉔区	5～20				
2786	㉔区	5～20				
2787	㉔区	5～20				
2788	㉔区	5～20				
2789	㉔区	5～20				
2790	㉔区	5～20				
2791	㉔区	5～20				
2792	㉔区	24	有	SB65	古代～中世	
2793	㉔区	5～20				
2794	㉔区	5～20				
2795	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2796	㉔区	5～20				
2797	㉔区	5～20				
2798	㉔区	5～20				
2799	㉔区	5～20				
2800	㉔区	5～20				
2801	㉔区	5～20				
2802	㉔区	5～20				
2803	㉔区	5～20				
2804	㉔区	5～20				
2805	㉔区	5～20				
2806	㉔区	5～20				
2807	㉔区	5～20				
2808	㉔区	5～20				
2809	㉔区	5～20				
2810	㉔区	5～20				
2811	㉔区	5～20				
2812	㉔区	5～20				
2813	㉔区	5～20				
2814	㉔区	5～20				
2815	㉔区	5～20				
2816	㉔区	5～20				
2817	㉔区	5～20				
2818	㉔区	5～20				
2819	㉔区	16	有	SB68	古代～中世	
2820	㉔区	40	有	SB68	古代～中世	
2821	㉔区	5～20				
2822	㉔区	5～20				
2823	㉔区	5～20				
2824	㉔区	5～20				
2825	㉔区	5～20				
2826	㉔区	5～20				
2827	㉔区	28		SB60	古代～中世	
2828	㉔区	5～20				
2829	㉔区	58	有	SB64	古代～中世	
2830	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2831	㉔区	5～20				
2832	㉔区	5～20				
2833	㉔区	5～20				
2834	㉔区	5～20				
2835	㉔区	5～20				
2836	㉔区	5～20				
2837	㉔区	5～20				
2838	㉔区	5～20				
2839	㉔区	5～20				
2840	㉔区	5～20				
2841	㉔区	5～20				
2842	㉔区	5～20				
2843	㉔区	40	有	SB68	古代～中世	
2844	㉔区	16	有	SB68	古代～中世	
2845	㉔区	18	有	SB68	古代～中世	
2846	㉔区	5～20				
2847	㉔区	5～20				
2848	㉔区	5～20				
2849	㉔区	5～20				
2850	㉔区	5～20				
2851	㉔区	28		SB68	古代～中世	
2852	㉔区	5～20				
2853	㉔区	5～20				
2854	㉔区	5～20				
2855	㉔区	5～20				
2856	㉔区	5～20				
2857	㉔区	5～20				
2858	㉔区	5～20				
2859	㉔区	5～20				
2860	㉔区	5～20				
2861	㉔区	5～20				
2862	㉔区	5～20				
2863	㉔区	5～20				
2864	㉔区	5～20				
2865	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2866	㉔区	5～20				
2867	㉔区	5～20				
2868	㉔区	5～20				
2869	㉔区	5～20				
2870	㉔区	5～20				
2871	㉔区	5～20				
2872	㉔区	5～20				
2873	㉔区	5～20				
2874	㉔区	5～20				
2875	㉔区	5～20				
2876	㉔区	5～20				
2877	㉔区	5～20				
2878	㉔区	5～20				
2879	㉔区	5～20				
2880	㉔区	5～20				
2881	㉔区	5～20				
2882	㉔区	5～20				
2883	㉔区	5～20				
2884	㉔区	5～20				
2885	㉔区	5～20				
2886	㉔区	5～20				
2887	㉔区	5～20				
2888	㉔区	5～20				
2889	㉔区	5～20				
2890	㉔区	5～20				
2891	㉔区	5～20				
2892	㉔区	5～20				
2893	㉔区	5～20				
2894	㉔区	10		SB71	古代～中世	
2895	㉔区	5～20				
2896	㉔区	5～20				
2897	㉔区	5～20				
2898	㉔区	5～20				
2899	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2900	㉔区	5～20				
2901	㉔区	5～20				
2902	㉔区	5～20				
2903	㉔区	5～20				
2904	㉔区	5～20				
2905	㉔区	5～20				
2906	㉔区	5～20				
2907	㉔区	5～20				
2908	㉔区	5～20				
2909	㉔区	5～20				
2910	㉔区	5～20				
2911	㉔区	5～20				
2912	㉔区	5～20				
2913	㉔区	5～20				
2914	㉔区	5～20				
2915	㉔区	5～20				
2916	㉔区	5～20				
2917	㉔区	5～20				
2918	㉔区	5～20				
2919	㉔区	5～20				
2920	㉔区	5～20				
2921	㉔区	5～20				
2922	㉔区	5～20				
2923	㉔区	5～20				
2924	㉔区	5～20				
2925	㉔区	5～20				
2926	㉔区	5～20				
2927	㉔区	22	有	SB55	古代～中世	
2928	㉔区	5～20				
2929	㉔区	5～20				
2930	㉔区	12		SB55	古代～中世	
2931	㉔区	5～20				
2932	㉔区	5～20				
2933	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2934	㉔区	5～20				
2935	㉔区	28		SB55	古代～中世	
2936	㉔区	20		SB55	古代～中世	
2937	㉔区	5～20				
2938	㉔区	5～20				
2939	㉔区	5～20				
2940	㉔区	5～20				
2941	㉔区	5～20				
2942	㉔区	5～20				
2943	㉔区	26	有	SB57	古代～中世	
2944	㉔区	5～20				
2945	㉔区	5～20				
2946	㉔区	32	有	SB58	古代～中世	
2947	㉔区	5～20				
2948	㉔区	5～20				
2949	㉔区	18	有	SB57	古代～中世	
2950	㉔区	5～20				
2951	㉔区	5～20				
2952	㉔区	5～20				
2953	㉔区	5～20				
2954	㉔区	18		SB58	古代～中世	
2955	㉔区	5～20				
2956	㉔区	5～20				
2957	㉔区	5～20				
2958	㉔区	5～20				
2959	㉔区	5～20				
2960	㉔区	5～20				
2961	㉔区	5～20				
2962	㉔区	5～20				
2963	㉔区	5～20				
2964	㉔区	5～20				
2965	㉔区	26	有	SB60	古代～中世	
2966	㉔区	5～20				
2967	㉔区	5～20				
2968	㉔区	5～20				
2969	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
2970	㉔区	5～20				
2971	㉔区	5～20				
2972	㉔区	5～20				
2973	㉔区	5～20				
2974	㉔区	5～20				
2975	㉔区	36	有	SB63	古代～中世	
2976	㉔区	5～20				
2977	㉔区	5～20				
2978	㉔区	16		SB58	古代～中世	
2979	㉔区	5～20				
2980	㉔区	10	有	SB63	古代～中世	
2981	㉔区	5～20				
2982	㉔区	5～20				
2983	㉔区	5～20				
2984	㉔区	14	有	SB63	古代～中世	
2985	㉔区	52	有	SB62	古代～中世	
2986	㉔区	24	有	SB62	古代～中世	
2987	㉔区	5～20				
2988	㉔区	24	有	SB62	古代～中世	
2989	㉔区	5～20				
2990	㉔区	5～20				
2991	㉔区	28	有	SB62	古代～中世	
2992	㉔区	30	有	SB64	古代～中世	
2993	㉔区	5～20				
2994	㉔区	18		SB60	古代～中世	
2995	㉔区	14	有	SB60	古代～中世	
2996	㉔区	5～20				
2997	㉔区	5～20				
2998	㉔区	5～20				
2999	㉔区	28	有	SB63	古代～中世	
3000	㉔区	5～20				
3001	㉔区	5～20				
3002	㉔区	10		SB60	古代～中世	
3003	㉔区	5～20				
3004	㉔区	5～20				
3005	㉔区	5～20				
3006	㉔区	34	有	SB57	古代～中世	
3007	㉔区	5～20				
3008	㉔区	12		SB62・65	古代～中世	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3009	㉔区	5～20				
3010	㉔区	16	有	SB64	古代～中世	
3011	㉔区	5～20				
3012	㉔区	5～20				
3013	㉔区	5～20				
3014	㉔区	26		SB55	古代～中世	
3015	㉔区	5～20				
3016	㉔区	22	有	SB60・64	古代～中世	
3017	㉔区	5～20				
3018	㉔区	30	有	SB63	古代～中世	
3019	㉔区	5～20				
3020	㉔区	5～20				
3021	㉔区	38	有			
3022	㉔区	18	有	SB58	古代～中世	
3023	㉔区	5～20				
3024	㉔区	5～20				
3025	㉔区	5～20				
3026	㉔区	40	有	SB59	古代～中世	
3027	㉔区	28		SB59	古代～中世	
3028	㉔区	5～20				
3029	㉔区	5～20				
3030	㉔区	5～20				
3031	㉔区	5～20				
3032	㉔区	5～20				
3033	㉔区	5～20				
3034	㉔区	5～20				
3035	㉔区	5～20				
3036	㉔区	5～20				
3037	㉔区	5～20				
3038	㉔区	8		SB58・59	古代～中世	
3039	㉔区	5～20				
3040	㉔区	5～20				
3041	㉔区	5～20				
3042	㉔区	22	有	SB57	古代～中世	
3043	㉔区	18	有	SB58	古代～中世	
3044	㉔区	5～20				
3045	㉔区	22	有	SB61	古代～中世	
3046	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3047	㉔区	5～20				
3048	㉔区	6	有	SB61	古代～中世	
3049	㉔区	24	有	SB62	古代～中世	
3050	㉔区	28	有	SB62	古代～中世	
3051	㉔区	5～20				
3052	㉔区	5～20				
3053	㉔区	5～20				
3054	㉔区	18	有	SB64	古代～中世	
3055	㉔区	36		SB64	古代～中世	
3056	㉔区	40	有	SB64	古代～中世	
3057	㉔区	5～20				
3058	㉔区	5～20				
3059	㉔区	5～20				
3060	㉔区	5～20				
3061	㉔区	8		SB64	古代～中世	
3062	㉔区	48	有	SB63	古代～中世	
3063	㉔区	5～20				
3064	㉔区	54	有	SB64	古代～中世	
3065	㉔区	22	有	SB64	古代～中世	
3066	㉔区	10		SB61	古代～中世	
3067	㉔区	5～20				
3068	㉔区	5～20				
3069	㉔区	5～20				
3070	㉔区	5～20				
3071	㉔区	5～20				
3072	㉔区	5～20				
3073	㉔区	5～20				
3074	㉔区	5～20				
3075	㉔区	38	有	SB61	古代～中世	
3076	㉔区	5～20				
3077	㉔区	5～20				
3078	㉔区	5～20				
3079	㉔区	5～20				
3080	㉔区	5～20				
3081	㉔区	5～20				
3082	㉔区	5～20				
3083	㉔区	5～20				
3084	㉔区	32	有	SB71	古代～中世	

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3085	㉔区	5～20				
3086	㉔区	5～20				
3087	㉔区	14	有	SB70	古代～中世	
3088	㉔区	5～20				
3089	㉔区	5～20				
3090	㉔区	5～20				
3091	㉔区	5～20				
3092	㉔区	5～20				
3093	㉔区	5～20				
3094	㉔区	10	有	SB64	古代～中世	
3095	㉔区	5～20				
3096	㉔区	36	有	SB63	古代～中世	
3097	㉔区	5～20				
3098	㉔区	5～20				
3099	㉔区	24	有	SB64	古代～中世	
3100	㉔区	5～20				
3101	㉔区	22	有	SB64	古代～中世	
3102	㉔区	26	有	SB64	古代～中世	
3103	㉔区	5～20				
3104	㉔区	5～20				
3105	㉔区	5～20				
3106	㉔区	48	有	SB62	古代～中世	
3107	㉔区	26		SB64	古代～中世	
3108	㉔区	36	有	SB58	古代～中世	
3109	㉔区	5～20				
3110	㉔区	5～20				
3111	㉔区	12	有	SB65	古代～中世	
3112	㉔区	5～20				
3113	㉔区	5～20				
3114	㉔区	5～20				
3115	㉔区	12		SB66・67	古代～中世	
3116	㉔区	5～20				
3117	㉔区	5～20				
3118	㉔区	5～20				
3119	㉔区	28	有	SB59	古代～中世	
3120	㉔区	5～20				
3121	㉔区	16	有	SB57・58	古代～中世	
3122	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3123	㉔区	5～20				
3124	㉔区	12	有	SB58	古代～中世	
3125	㉔区	5～20				
3126	㉔区	5～20				
3127	㉔区	5～20				
3128	㉔区	32	有	SB57	古代～中世	
3129	㉔区	5～20				
3130	㉔区	26	有	SB61	古代～中世	
3131	㉔区	5～20				
3132	㉔区	16		SB57	古代～中世	
3133	㉔区	5～20				
3134	㉔区	16	有	SB61	古代～中世	
3135	㉔区	5～20				
3136	㉔区	5～20				
3137	㉔区	5～20				
3138	㉔区	32	有	SB68	古代～中世	
3139	㉔区	5～20				
3140	㉔区	5～20				
3141	㉔区	5～20				
3142	㉔区	10		SB66・67	古代～中世	
3143	㉔区	5～20				
3144	㉔区	38	有	SB66	古代～中世	
3145	㉔区	5～20				
3146	㉔区	5～20				
3147	㉔区	58	有	SB66	古代～中世	
3148	㉔区	5～20				
3149	㉔区	5～20				
3150	㉔区	5～20				
3151	㉔区	5～20				
3152	㉔区	34	有	SB69	古代～中世	
3153	㉔区	36	有	SB68	古代～中世	
3154	㉔区	32	有	SB67	古代～中世	
3155	㉔区	40		SB66	古代～中世	
3156	㉔区	5～20				
3157	㉔区	5～20				
3158	㉔区	5～20				
3159	㉔区	5～20				
3160	㉔区	5～20				
3161	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3162	㉔区	24	有	SB56	古代～中世	
3163	㉔区	5～20				
3164	㉔区	5～20				
3165	㉔区	5～20				
3166	㉔区	5～20				
3167	㉔区	5～20				
3168	㉔区	5～20				
3169	㉔区	36	有	SB68	古代～中世	
3170	㉔区	5～20				
3171	㉔区	5～20				
3172	㉔区	58	有	SB63・65	古代～中世	
3173	㉔区	32		SB63・65	古代～中世	
3174	㉔区	5～20				
3175	㉔区	5～20				
3176	㉔区	5～20				
3177	㉔区	5～20				
3178	㉔区	5～20				
3179	㉔区	5～20				
3180	㉔区	58	有	SB70	古代～中世	
3181	㉔区	5～20				
3182	㉔区	16		SB69	古代～中世	
3183	㉔区	52		SB69	古代～中世	
3184	㉔区	5～20				
3185	㉔区	6	有	SB70	古代～中世	
3186	㉔区	5～20				
3187	㉔区	50		SB66	古代～中世	
3188	㉔区	5～20				
3189	㉔区	5～20				
3190	㉔区	5～20				
3191	㉔区	5～20				
3192	㉔区	5～20				
3193	㉔区	5～20				
3194	㉔区	5～20				
3195	㉔区	13		SB72	古代～中世	
3196	㉔区	5～20				
3197	㉔区	50		SB69	古代～中世	
3198	㉔区	5～20				
3199	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3200	㉔区	5～20				
3201	㉔区	5～20				
3202	㉔区	5～20				
3203	㉔区	14		SB75	古代～中世	
3204	㉔区	16	有	SB69	古代～中世	
3205	㉔区	50	有	SB66	古代～中世	
3206	㉔区	38	有	SB68	古代～中世	
3207	㉔区	5～20				
3208	㉔区	5～20				
3209	㉔区	5～20				
3210	㉔区	5～20				P3217に切られる
3211	㉔区	56	有	SB67	古代～中世	
3212	㉔区	46		SB75	古代～中世	
3213	㉔区	5～20				
3214	㉔区	60		SB73	古代～中世	
3215	㉔区	5～20				
3216	㉔区	5～20				
3217	㉔区	10		SB73	古代～中世	P3410を切る
3218	㉔区	5～20				P3219に切られる
3219	㉔区	55		SB73	古代～中世	P3218を切る
3220	㉔区	5～20				
3221	㉔区	5～20				
3222	㉔区	16		SB70	古代～中世	
3223	㉔区	5～20				
3224	㉔区	5～20				
3225	㉔区	5～20				
3226	㉔区	5～20				
3227	㉔区	36		SB70	古代～中世	
3228	㉔区	5～20				
3229	㉔区	5～20				
3230	㉔区	5～20				
3231	㉔区	5～20				
3232	㉔区	5～20				
3233	㉔区	5～20				
3234	㉔区	18	有	SB61	古代～中世	
3235	㉔区	5～20				
3236	㉔区	5～20				
3237	㉔区	47		SB74	古代～中世	
3238	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3239	㉔区	5～20				
3240	㉔区	5～20				
3241	㉔区	5～20				
3242	㉔区	5～20				
3243	㉔区	24	有	SB67	古代～中世	
3244	㉔区	5～20				
3245	㉔区	42	有	SB66	古代～中世	
3246	㉔区	5～20				
3247	㉔区	5～20				
3248	㉔区	5～20				
3249	㉔区	5～20				
3250	㉔区	5～20				
3251	㉔区	5～20				
3252	㉔区	5～20				
3253	㉔区	5～20				
3254	㉔区	5～20				
3255	㉔区	5～20				
3256	㉔区	46		SB74	古代～中世	
3257	㉔区	5～20				
3258	㉔区	40	有	SB71	古代～中世	
3259	㉔区	5～20				
3260	㉔区	5～20				
3261	㉔区	5～20				
3262	㉔区	5～20				
3263	㉔区	5～20				
3264	㉔区	5～20				
3265	㉔区	5～20				
3266	㉔区	57		SB73	古代～中世	
3267	㉔区	5～20				
3268	㉔区	5～20				
3269	㉔区	5～20				
3270	㉔区	5～20				
3271	㉔区	24		SB70	古代～中世	
3272	㉔区	5～20				
3273	㉔区	5～20				
3274	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3275	㉔区	5～20				
3276	㉔区	5～20				
3277	㉔区	5～20				
3278	㉔区	5～20				
3279	㉔区	5～20				
3280	㉔区	25		SB75	古代～中世	
3281	㉔区	49		SB74	古代～中世	P3740・4040を切る
3282	㉔区	15		SB72	古代～中世	
3283	㉔区	5～20				
3284	㉔区	5～20				
3285	㉔区	20				
3286	㉔区	32	有	SB69・73	古代～中世	
3287	㉔区	49		SB75	古代～中世	
3288	㉔区	5～20				
3289	㉔区	5～20				
3290	㉔区	5～20				
3291	㉔区	5～20				
3292	㉔区	5～20				
3293	㉔区	5～20				
3294	㉔区	5～20				
3295	㉔区	5～20				
3296	㉔区	12	有	SB69	古代～中世	
3297	㉔区	5～20				
3298	㉔区	5～20				
3299	㉔区	5～20				
3300	㉔区	24		SB75	古代～中世	
3301	㉔区	5～20				
3302	㉔区	5～20				
3303	㉔区	5～20				
3304	㉔区	48	有	SB69・75	古代～中世	
3305	㉔区	5～20				
3306	㉔区	5～20				
3307	㉔区	5～20				
3308	㉔区	5～20				
3309	㉔区	21		SB74	古代～中世	
3310	㉔区	5～20				
3311	㉔区	5～20				
3312	㉔区	30	有	SB70	古代～中世	

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3313	㉔区	12		SB69	古代～中世	
3314	㉔区	5～20				
3315	㉔区	5～20				
3316	㉔区	5～20				
3317	㉔区	14		SB74	古代～中世	
3318	㉔区	14		SB65	古代～中世	
3319	㉔区	5～20				
3320	㉔区	20	有	SB71	古代～中世	
3321	㉔区	5～20				
3322	㉔区	5～20				
3323	㉔区	5～20				
3324	㉔区	5～20				
3325	㉔区	50	有	SB67	古代～中世	
3326	㉔区	20		SB72	古代～中世	SD120と新旧不明
3327	㉔区	5～20				
3328	㉔区	5～20				
3329	㉔区	5～20				
3330	㉔区	38	有	SB66	古代～中世	
3331	㉔区	14		SB72	古代～中世	
3332	㉔区	31		SB75	古代～中世	
3333	㉔区	5～20				
3334	㉔区	5～20				
3335	㉔区	5～20				
3336	㉔区	5～20				
3337	㉔区	5～20				
3338	㉔区	5～20				
3339	㉔区	56	有	SB66	古代～中世	
3340	㉔区	5～20				
3341	㉔区	5～20				
3342	㉔区	5～20				
3343	㉔区	5～20				
3344	㉔区	5～20				
3345	㉔区	14	有	SB57	古代～中世	
3346	㉔区	5～20				
3347	㉔区	22	有	SB59	古代～中世	
3348	㉔区	5～20				
3349	㉔区	5～20				
3350	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3351	㉔区	5～20				
3352	㉔区	5～20				
3353	㉔区	5～20				
3354	㉔区	5～20				
3355	㉔区	28		SB67	古代～中世	
3356	㉔区	20		SB67	古代～中世	
3357	㉔区	5～20				
3358	㉔区	24		SB72	古代～中世	
3359	㉔区	5～20				
3360	㉔区	48	有	SB62	古代～中世	
3361	㉔区	5～20				
3362	㉔区	5～20				
3363	㉔区	30		SB65	古代～中世	
3364	㉔区	14	有	SB67	古代～中世	
3365	㉔区	5～20				
3366	㉔区	5～20				
3367	㉔区	5～20				
3368	㉔区	5～20				
3369	㉔区	5～20				
3370	㉔区	5～20				
3371	㉔区	5～20				
3372	㉔区	5～20				
3373	㉔区	5～20				
3374	㉔区	5～20				
3375	㉔区	5～20				
3376	㉔区	5～20				
3377	㉔区	5～20				
3378	㉔区	5～20				
3379	㉔区	5～20				
3380	㉔区	5～20				
3381	㉔区	18		SB66	古代～中世	
3382	㉔区	5～20				
3383	㉔区	5～20				
3384	㉔区	5～20				
3385	㉔区	5～20				
3386	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3387	㉔区	5～20				
3388	㉔区	5～20				
3389	㉔区	5～20				
3390	㉔区	5～20				
3391	㉔区	5～20				
3392	㉔区	16		SB67	古代～中世	
3393	㉔区	5～20				
3394	㉔区	40	有	SB71	古代～中世	
3395	㉔区	5～20				
3396	㉔区	5～20				
3397	㉔区	5～20				
3398	㉔区	5～20				
3399	㉔区	5～20				
3400	㉔区	20		SB75	古代～中世	
3401	㉔区	12		SB71	古代～中世	
3402	㉔区	10	有	SB71	古代～中世	
3403	㉔区	5～20				
3404	㉔区	25		SB74	古代～中世	P3405を切る
3405	㉔区	5～20				P3404に切られる
3406	㉔区	5～20				
3407	㉔区	5～20				
3408	㉔区	5～20				
3409	㉔区	5～20				
3410	㉔区	5～20		SB73	古代～中世	
3411	㉔区	5～20				
3412	㉔区	18		SB72	古代～中世	
3413	㉔区	5～20				
3414	㉔区	5～20				
3415	㉔区	5～20				
3416	㉔区	5～20				
3417	㉔区	5～20				
3418	㉔区	5～20				
3419	㉔区	5～20				
3420	㉔区	5～20				
3421	㉔区	5～20				
3422	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3423	㉔区	5～20				
3424	㉔区	36	有	SB69	古代～中世	
3425	㉔区	5～20				
3426	㉔区	14	有	SB69	古代～中世	
3427	㉔区	5～20				
3428	㉔区	5～20				
3429	㉔区	5～20				
3430	㉔区	5～20				
3431	㉔区	5～20				
3432	㉔区	5～20				
3433	㉔区	5～20				
3434	㉔区	5～20				
3435	㉔区	5～20				
3436	㉔区	5～20				
3437	㉔区	5～20				
3438	㉔区	5～20				
3439	㉔区	5～20				
3440	㉔区	5～20				
3441	㉔区	5～20				
3442	㉔区	5～20				
3443	㉔区	5～20				
3444	㉔区	5～20				
3445	㉔区	24		SB72	古代～中世	P3446を切る
3446	㉔区	63		SB72	古代～中世	P3445に切られる
3447	㉔区	5～20				
3448	㉔区	5～20				
3449	㉔区	5～20				
3450	㉔区	5～20				
3451	㉔区	22		SB75	古代～中世	P3452に切られる
3452	㉔区	23		SB73	古代～中世	P3451を切る
3453	㉔区	5～20				
3454	㉔区	5～20				
3455	㉔区	5～20				
3456	㉔区	16		SB72	古代～中世	
3457	㉔区	14				
3458	㉔区	24	有	SB70	古代～中世	
3459	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さcm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3460	㉔区	26		SB73	古代～中世	
3461	㉔区	5～20				
3462	㉔区	5～20				
3463	㉔区	5～20				
3464	㉔区	37		SB73	古代～中世	
3465	㉔区	5～20				
3466	㉔区	5～20				
3467	㉔区	5～20				
3468	㉔区	5～20				
3469	㉔区	18		SB67	古代～中世	
3470	㉔区	5～20				
3471	㉔区	5～20				
3472	㉔区	5～20				
3473	㉔区	10		SB48	古代～中世	
3474	㉔区	5～20				
3475	㉔区	5～20				
3476	㉔区	24	有	SB48	古代～中世	
3477	㉔区	5～20				
3478	㉔区	5～20				
3479	㉔区	36	有	SB45	古代～中世	
3480	㉔区	18		SB45	古代～中世	
3481	㉔区	24	有	SB45	古代～中世	
3482	㉔区	5～20				
3483	㉔区	5～20				
3484	㉔区	5～20				
3485	㉔区	5～20				
3486	㉔区	24	有	SB56	古代～中世	
3487	㉔区	5～20				
3488	㉔区	5～20				
3489	㉔区	5～20				
3490	㉔区	5～20				
3491	㉔区	5～20				
3492	㉔区	5～20				
3493	㉔区	5～20				
3494	㉔区	5～20				
3495	㉔区	5～20				
3496	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3497	㉔区	5～20				
3498	㉔区	5～20				
3499	㉔区	12	有	SB56	古代～中世	
3500	㉔区	5～20				
3501	㉔区	5～20				
3502	㉔区	5～20				
3503	㉔区	5～20				
3504	㉔区	14	有	SB56	古代～中世	
3505	㉔区	5～20				
3506	㉔区	5～20				
3507	㉔区	5～20				
3508	㉔区	5～20				
3509	㉔区	5～20				
3510	㉔区	5～20				
3511	㉔区	18	有	SB59	古代～中世	
3512	㉔区	26	有	SB56	古代～中世	
3513	㉔区	5～20				
3514	㉔区	26	有	SB56	古代～中世	
3515	㉔区	5～20				
3516	㉔区	34	有	SB59	古代～中世	
3517	㉔区	5～20				
3518	㉔区	5～20				10c 前半の土師器坏
3519	㉔区	5～20				
3520	㉔区	5～20				
3521	㉔区	5～20				
3522	㉔区	5～20				
3523	㉔区	38	有	SB67	古代～中世	
3524	㉔区	38		SB67	古代～中世	
3525	㉔区	5～20				
3526	㉔区	10	有	SB68	古代～中世	
3527	㉔区	5～20				
3528	㉔区	5～20				
3529	㉔区	5～20				
3530	㉔区	5～20				
3531	㉔区	5～20				
3532	㉔区	5～20				
3533	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3534	㉔区	5～20				
3535	㉔区	5～20				
3536	㉔区	5～20				
3537	㉔区	5～20				
3538	㉔区	5～20				
3539	㉔区	5～20				
3540	㉔区	5～20				
3541	㉔区	16		SB72	古代～中世	
3542	㉔区	5～20				
3543	㉔区	32		SB72	古代～中世	
3544	㉔区	5～20				
3545	㉔区	5～20				
3546	㉔区	5～20				
3547	㉔区	5～20				
3548	㉔区	36	有	SB70	古代～中世	
3549	㉔区	5～20				
3550	㉔区	5～20				
3551	㉔区	4		SB70	古代～中世	
3552	㉔区	5～20				
3553	㉔区	5～20				
3554	㉔区	5～20				
3555	㉔区	5～20				
3556	㉔区	5～20				
3557	㉔区	5～20				
3558	㉔区	5～20				
3559	㉔区	5～20				
3560	㉔区	5～20				
3561	㉔区	5～20				
3562	㉔区	5～20				
3563	㉔区	5～20				
3564	㉔区	5～20				
3565	㉔区	5～20				
3566	㉔区	14	有	SB56	古代～中世	
3567	㉔区	5～20				
3568	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3569	㉔区	5～20				
3570	㉔区	12	有	SB48	古代～中世	
3571	㉔区	16	有	SB45	古代～中世	
3572	㉔区	20		SB45	古代～中世	
3573	㉔区	5～20				
3574	㉔区	5～20				
3575	㉔区	5～20				
3576	㉔区	5～20				
3577	㉔区	5～20				
3578	㉔区	22	有	SB45	古代～中世	
3579	㉔区	5～20				
3580	㉔区	5～20				
3581	㉔区	5～20				
3582	㉔区	5～20				
3583	㉔区	5～20				
3584	㉔区	5～20				
3585	㉔区	5～20				
3586	㉔区	5～20				
3587	㉔区	5～20				
3588	㉔区	5～20				
3589	㉔区	5～20				
3590	㉔区	5～20				
3591	㉔区	5～20				
3592	㉔区	5～20				
3593	㉔区	5～20				
3594	㉔区	5～20				
3595	㉔区	5～20				
3596	㉔区	5～20				
3597	㉔区	5～20				
3598	㉔区	5～20				
3599	㉔区	5～20				
3600	㉔区	5～20				
3601	㉔区	5～20				
3602	㉔区	5～20				
3603	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3604	㉔区	5～20				
3605	㉔区	5～20				
3606	㉔区	5～20				
3607	㉔区	5～20				
3608	㉔区	5～20				
3609	㉔区	5～20				
3610	㉔区	5～20				
3611	㉔区	5～20				
3612	㉔区	5～20				
3613	㉔区	5～20				
3614	㉔区	5～20				
3615	㉔区	5～20				
3616	㉔区	5～20				
3617	㉔区	5～20				
3618	㉔区	5～20				
3619	㉔区	5～20				
3620	㉔区	5～20				
3621	㉔区	5～20				
3622	㉔区	5～20				
3623	㉔区	5～20				
3624	㉔区	5～20				
3625	㉔区	5～20				
3626	㉔区	5～20				
3627	㉔区	5～20				
3628	㉔区	5～20				
3629	㉔区	5～20				
3630	㉔区	5～20				
3631	㉔区	5～20				
3632	㉔区	5～20				
3633	㉔区	5～20				
3634	㉔区	5～20				
3635	㉔区	5～20				
3636	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3637	㉔区	5～20				
3638	㉔区	5～20				
3639	㉔区	5～20				
3640	㉔区	5～20				
3641	㉔区	5～20				
3642	㉔区	5～20				
3643	㉔区	5～20				
3644	㉔区	5～20				
3645	㉔区	5～20				
3646	㉔区	5～20				
3647	㉔区	5～20				
3648	㉔区	5～20				
3649	㉔区	5～20				
3650	㉔区	5～20				
3651	㉔区	5～20				
3652	㉔区	5～20				
3653	㉔区	5～20				
3654	㉔区	5～20				
3655	㉔区	5～20				
3656	㉔区	5～20				
3657	㉔区	5～20				
3658	㉔区	5～20				
3659	㉔区	5～20				
3660	㉔区	14		SB75	古代～中世	
3661	㉔区	5～20				
3662	㉔区	5～20				
3663	㉔区	5～20				
3664	㉔区	5～20				
3665	㉔区	5～20				
3666	㉔区	5～20				
3667	㉔区	5～20				
3668	㉔区	5～20				
3669	㉔区	5～20				
3670	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3671	㉔区	5～20				
3672	㉔区	5～20				
3673	㉔区	5～20				
3674	㉔区	5～20				
3675	㉔区	5～20				
3676	㉔区	5～20				
3677	㉔区	5～20				
3678	㉔区	5～20				
3679	㉔区	5～20				
3680	㉔区	5～20				
3681	㉔区	5～20				
3682	㉔区	5～20				
3683	㉔区	5～20				
3684	㉔区	5～20				
3685	㉔区	5～20				
3686	㉔区	5～20				
3687	㉔区	5～20				
3688	㉔区	5～20				
3689	㉔区	5～20				
3690	㉔区	5～20				
3691	㉔区	55		SB72	古代～中世	
3692	㉔区	5～20				
3693	㉔区	5～20				
3694	㉔区	5～20				
3695	㉔区	5～20				
3696	㉔区	5～20				
3697	㉔区	5～20				
3698	㉔区	5～20				
3699	㉔区	5～20				
3700	㉔区	5～20				
3701	㉔区	5～20				
3702	㉔区	5～20				
3703	㉔区	10	有	SB58	古代～中世	
3704	㉔区	10	有	SB58	古代～中世	
3705	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3706	㉔区	5～20				
3707	㉔区	5～20				
3708	㉔区	5～20				
3709	㉔区	5～20				
3710	㉔区	5～20				
3711	㉔区	5～20				
3712	㉔区	5～20				
3713	㉔区	5～20				
3714	㉔区	5～20				
3715	㉔区	5～20				
3716	㉔区	5～20				
3717	㉔区	30	有	SB54	古代～中世	
3718	㉔区	5～20				
3719	㉔区	5～20				
3720	㉔区	5～20				
3721	㉔区	5～20				
3722	㉔区	5～20				
3723	㉔区	5～20				
3724	㉔区	5～20				
3725	㉔区	5～20				
3726	㉔区	26	有	SB64	古代～中世	
3727	㉔区	5～20				
3728	㉔区	5～20				
3729	㉔区	5～20				
3730	㉔区	5～20				
3731	㉔区	5～20				
3732	㉔区	5～20				
3733	㉔区	5～20				
3734	㉔区	5～20				
3735	㉔区	5～20				
3736	㉔区	5～20				
3737	㉔区	5～20				
3738	㉔区	35		SB75	古代～中世	
3739	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3740	㉔区	5～20				P3281に切られる
3741	㉔区	5～20				
3742	㉔区	5～20				
3743	㉔区	5～20				
3744	㉔区	5～20				
3745	㉔区	5～20				
3746	㉔区	5～20				
3747	㉔区	5～20				
3748	㉔区	5～20				
3749	㉔区	5～20				
3750	㉔区	5～20				
3751	㉔区	5～20				
3752	㉔区	16	有	SB67	古代～中世	
3753	㉔区	5～20				
3754	㉔区	5～20				
3755	㉔区	5～20				
3756	㉔区	5～20				
3757	㉔区	5～20				
3758	㉔区	5～20				
3759	㉔区	5～20				
3760	㉔区	5～20				
3761	㉔区	5～20				
3762	㉔区	5～20				
3763	㉔区	5～20				
3764	㉔区	5～20				
3765	㉔区	5～20				
3766	㉔区	5～20				
3767	㉔区	5～20				
3768	㉔区	5～20				
3769	㉔区	10	有	SB59	古代～中世	
3770	㉔区	5～20				
3771	㉔区	5～20				
3772	㉔区	5～20				
3773	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3774	㉔区	5～20				
3775	㉔区	5～20				
3776	㉔区	5～20				
3777	㉔区	5～20				
3778	㉔区	5～20				
3779	㉔区	5～20				
3780	㉔区	5～20				
3781	㉔区	5～20				
3782	㉔区	5～20				
3783	㉔区	5～20				
3784	㉔区	5～20				
3785	㉔区	5～20				
3786	㉔区	5～20				
3787	㉔区	5～20				
3788	㉔区	5～20				
3789	㉔区	5～20				
3790	㉔区	5～20				
3791	㉔区	5～20				
3792	㉔区	5～20				
3793	㉔区	5～20				
3794	㉔区	5～20				
3795	㉔区	5～20				
3796	㉔区	30	有	SB63	古代～中世	
3797	㉔区	16		SB63	古代～中世	
3798	㉔区	6		SB61	古代～中世	
3799	㉔区	5～20				
3800	㉔区	5～20				
3801	㉔区	5～20				
3802	㉔区	5～20				
3803	㉔区	5～20				
3804	㉔区	14		SB61	古代～中世	
3805	㉔区	8	有	SB61	古代～中世	
3806	㉔区	5～20				
3807	㉔区	5～20				
3808	㉔区	18		SB58	古代～中世	
3809	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3810	㉔区	5～20				
3811	㉔区	5～20				
3812	㉔区	5～20				
3813	㉔区	5～20				
3814	㉔区	5～20				
3815	㉔区	5～20				
3816	㉔区	5～20				
3817	㉔区	5～20				
3818	㉔区	30	有	SB63	古代～中世	
3819	㉔区	5～20				
3820	㉔区	5～20				
3821	㉔区	5～20				
3822	㉔区	5～20				
3823	㉔区	5～20				
3824	㉔区	5～20				
3825	㉔区	8		SB65	古代～中世	
3826	㉔区	42		SB65	古代～中世	
3827	㉔区	5～20				
3828	㉔区	5～20				
3829	㉔区	5～20				
3830	㉔区	5～20				
3831	㉔区	5～20				
3832	㉔区	5～20				
3833	㉔区	5～20				
3834	㉔区	5～20				
3835	㉔区	5～20				
3836	㉔区	5～20				
3837	㉔区	5～20				
3838	㉔区	12	有	SB62	古代～中世	
3839	㉔区	5～20				
3840	㉔区	5～20				
3841	㉔区	5～20				
3842	㉔区	5～20				
3843	㉔区	10	有	SB60	古代～中世	
3844	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3845	㉔区	5～20				
3846	㉔区	5～20				
3847	㉔区	5～20				
3848	㉔区	5～20				
3849	㉔区	5～20				
3850	㉔区	5～20				
3851	㉔区	5～20				
3852	㉔区	16		SB57	古代～中世	
3853	㉔区	5～20				
3854	㉔区	5～20				
3855	㉔区	5～20				
3856	㉔区	5～20				
3857	㉔区	5～20				
3858	㉔区	5～20				
3859	㉔区	5～20				
3860	㉔区	22		SB55	古代～中世	
3861	㉔区	5～20				
3862	㉔区	5～20				
3863	㉔区	5～20				
3864	㉔区	5～20				
3865	㉔区	5～20				
3866	㉔区	5～20				
3867	㉔区	5～20				
3868	㉔区	5～20				
3869	㉔区	5～20				
3870	㉔区	5～20				
3871	㉔区	5～20				
3872	㉔区	5～20				
3873	㉔区	5～20				
3874	㉔区	5～20				
3875	㉔区	36	有	SB54	古代～中世	
3876	㉔区	5～20				
3877	㉔区	5～20				
3878	㉔区	8		SB58	古代～中世	
3879	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3880	㉔区	5～20				
3881	㉔区	5～20				
3882	㉔区	22	有	SB60	古代～中世	
3883	㉔区	5～20				
3884	㉔区	4		SB54	古代～中世	
3885	㉔区	5～20				
3886	㉔区	36	有	SB54	古代～中世	
3887	㉔区	5～20				
3888	㉔区	5～20				
3889	㉔区	5～20				
3890	㉔区	5～20				
3891	㉔区	20	有	SB53	古代～中世	
3892	㉔区	20		SB53	古代～中世	
3893	㉔区	24		SB53	古代～中世	
3894	㉔区	5～20				
3895	㉔区	5～20				
3896	㉔区	5～20				
3897	㉔区	5～20				
3898	㉔区	5～20				
3899	㉔区	5～20				
3900	㉔区	5～20				
3901	㉔区	5～20				
3902	㉔区	5～20				
3903	㉔区	5～20				
3904	㉔区	5～20				
3905	㉔区	5～20				
3906	㉔区	5～20				
3907	㉔区	5～20				
3908	㉔区	5～20				
3909	㉔区	5～20				
3910	㉔区	5～20				
3911	㉔区	5～20				
3912	㉔区	5～20				
3913	㉔区	5～20				
3914	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3915	㉔区	5～20				
3916	㉔区	24	有	SB53	古代～中世	
3917	㉔区	5～20				
3918	㉔区	5～20				
3919	㉔区	12	有	SB53	古代～中世	
3920	㉔区	5～20				
3921	㉔区	5～20				
3922	㉔区	5～20				
3923	㉔区	5～20				
3924	㉔区	5～20				
3925	㉔区	5～20				
3926	㉔区	5～20				
3927	㉔区	5～20				
3928	㉔区	5～20				
3929	㉔区	5～20				
3930	㉔区	5～20				
3931	㉔区	5～20				
3932	㉔区	5～20				
3933	㉔区	5～20				

柱名	検出区	深さ cm	柱痕跡の有無	掘立柱建物名	時期	備考（重複関係など）
3934	㉔区	5～20				
3935	㉔区	5～20				
3936	㉔区	5～20				
3937	㉔区	5～20				
3938	㉔区	5～20				
3939	㉔区	5～20				
3940	㉔区	5～20				
3941	㉔区	5～20				
3942	㉔区	5～20				
3943	㉔区	5～20				
3944	㉔区	5～20				
3945	㉔区	5～20				
3946	㉔区	5～20				
3947	㉔区	5～20				
3948	㉔区	5～20				
3949	㉔区	5～20				
3950	㉔区	5～20				
4040	㉔区	45		SB75	古代～中世	P3281に切られる

第17表　出土遺物観察表（1）　土器

掲載	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	外面調整	内面調整	底部調整	時期	備考
1	SI01竪穴住居跡	床下土坑　P1	土師器	坏	14.4	4.4	5.7	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
2	SI01竪穴住居跡	床下土坑　P2	土師器	坏	（13.2）	5.0	4.2	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
3	SI01竪穴住居跡	床下土坑　P4	土師器	坏	（13.4）	3.4	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	摩耗不明	10世紀初頭～前葉	
4	SI01竪穴住居跡	床下土坑 埋土中	土師器	坏	（13.0）	（2.2）	－	ロクロナデ	ロクロナデ	－		
5	SI01竪穴住居跡	床下土坑 埋土中	須恵器	坏				ロクロナデ	ミガキ	－		内面黒色処理
6	SI01竪穴住居跡	床下土坑 埋土中	土師器	坏	（10.8）	（2.5）	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		
7	SI01竪穴住居跡	床下土坑 埋土中	土師器	坏	13.8	5.4	3.9	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り（摩耗）		内面黒色処理
8	SI01竪穴住居跡	床下土坑 埋土中	土師器	甕壺類	（22.0）	－	（6.4）	ロクロナデ	ロクロナデ	－		
9	SI02竪穴住居跡 Q3	床面直上	土師器	坏	（13.4）	－	（4.4）	ロクロナデ	ミガキ	－		内面黒色処理
10	SI02竪穴住居跡 Q4	床面直上	土師器	坏	（6.7以上）	－	（3.1）	ロクロナデ	ミガキ	－		内面黒色処理
11	SI02竪穴住居跡 Q2	床面直上	土師器	坏	（12.0）	－	（3.5）	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	－		内面黒色処理
12	SI02竪穴住居跡	床面（※ P1）	土師器	甕	（12.0）	－	（7.1）	ヨコナデ	ヨコナデ	－	8世紀末～9世紀前半	
13	SI02竪穴住居跡	床面（※ P3）	須恵器	甕	（25.0）	－	（6.0）	ロクロナデ	ロクロナデ	－		
14	SI02竪穴住居跡	埋土中	須恵器	甕	（22.4）	－	（10.0）	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	－	9世紀前半	
15	SX06墳墓 I-I’ ベルト	埋土中	須恵器	大甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
16	SD26堀跡 C-C’ ベルト	1層	須恵器	甕壺類				ロクロナデ	ロクロナデ	－		
17	SD26堀跡	埋土中位	須恵器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ	－		
18	SD26堀跡	3層	須恵器	大甕				平行文タタキ	ナデ	－		
19	SD26堀跡	埋土上位（2層）	須恵器	大甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
20	SD26堀跡 A-A’ ベルト	5層	須恵器	甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
21	SD26溝跡	埋土中～下位	須恵器	甕							9世紀代	
22	SD64堀跡・SD63溝跡	埋土中	土師器	坏	（14.4）	6.6	（5.5）	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り・縁辺ヘラケズリ再		内面黒色処理
23	SD64堀跡	埋土中	土師器	坏	（14.4）	5.5	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り・縁辺ヘラケズリ再	9世紀後半～10世紀前半	
24	SD64堀跡	埋土中	土師器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ	－		
25	SD64堀跡	埋土中	土師器	甕				ケズリ	ナデ	－		
26	SD09溝跡	中央部埋土下位	須恵器	甕				タタキ・ナデ	ナデ	－		
27	SD09溝跡	南側埋土下位	須恵器	甕				平行文タタキ	円形無紋アテグ	－		
28	SD09溝跡	埋土中	須恵器	大甕				平行文タタキ	アテグ痕不明瞭	－		
29	SD11溝跡	底面	須恵器	甕				平行文タタキ	円形無紋アテグ	－		
30	SD14溝跡	埋土中	須恵器	甕				平行文タタキ	ハケメ状ケズリ	－		
31	SD17溝跡	埋土上層	須恵器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ	－		外面降灰釉
32	SD28溝跡	埋土中	土師器	坏	（13.4）	5.4	4.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
33	SD28溝跡	埋土中	須恵器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ	－		
34	SD28溝跡 B-B’ ベルト	埋土中	須恵器	甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
35	SD38溝跡	埋土中	須恵器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ	－	9世紀前半？	

掲載	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	外面調整	内面調整	底部調整	時期	備考
36	SD49溝跡	埋土中	土師器	坏	14.4	5.4	5.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	10世紀初頭～前葉	内面黒色処理
37	SD54溝跡	埋土中	須恵器	甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
38	SD57溝跡	埋土一括	須恵器	甕	（20.0）	－	（3.0）		ロクロナデ			写真未撮影
39	SE01井戸跡	埋土中～下位（9層）	須恵器	甕				ヨコナデ・平行文タタキ	ヨコナデ・平行文アテグ	－		
40	SE02井戸跡 Q2	埋土上～中位（1～3層）	土師器	坏	（14.6）	5.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り、縁辺ヘラケズリ再	9世紀後半？	
41	SE02井戸跡	埋土中位	土師器	高台付坏	（10.4）	（2.1）	（5.4）	ロクロナデ	ミガキ	－		内面黒色処理
42	SE02井戸跡	埋土中	須恵器	甕				平行文タタキ	同心円文アテグ	－		
43	SE02井戸跡	埋土中位	須恵器	広口壺	（13.4）	－	（24.2）	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ			
44	SE06井戸跡	埋土中（1層）	土師器	坏	（14.6）	6.5	4.6	ロクロナデ	ミガキ	摩耗不明	9世紀後半？	内面黒色処理
45	SE06井戸跡	埋土中	須恵器	甕				ロクロナデ	アテグ痕	－		
46	SE06井戸跡	2層	須恵器	大甕								
47	SE07井戸跡	底面直上	土師器	坏	（13.0）	－	（3.1）	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	－		内面黒色処理
48	SK02土坑	底面直上（5cm上）	須恵器	大甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
49	SK12土坑	埋土	土師器	坏	（13.6）	5.8	4.2	ロクロナデ・ミガキ	ミガキ	摩耗不明	9世紀後半？	内外面黒色処理
50	SK12土坑	埋土	土師器	甕	（20.0）	－	（8.1）	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	－		
51	SK12土坑	埋土	須恵器	甕	－	－	（10.9）	ロクロナデ	ロクロナデ	－		
52	SK13土坑	埋土	土師器	小形甕	（13.4）	－	（4.7）	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	－		
53	SK56土坑	底面	須恵器	甕	（20.0）	－	（9.9）	ロクロナデ	ロクロナデ	－		
54	SK59土坑	埋土中	土師器	甕	（27.0）	－	（10.4）	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	－		
55	SK99土坑	埋土	土師器	坏	13.1	6.0	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	10世紀初頭～前葉	
56	SK99土坑	埋土	土師器	坏	12.8	6.0	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	10世紀初頭～前葉	
57	SK125土坑	埋土中	須恵器	甕	－	（7.2）	－	ロクロナデ	ロクロナデ	－	9世紀後半？	
58	SK155土坑	埋土中	須恵器	甕				タタキ目	アテグ痕			写真未撮影
59	SK77土取り穴	埋土中	須恵器	坏	15.4	7.7	5.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	9世紀中頃	
60	SK77土取り穴	埋土中⑤	土師器	坏	12.2	5.6	5.3	ロクロナデ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整	9世紀中頃	内面黒色処理
61	SK77土取り穴	埋土中	土師器	坏	（15.6）	（6.1）	－	ロクロナデ	ミガキ	－	9世紀中頃	内面黒色処理
62	SK77土取り穴	埋土中③	須恵器	坏	（13.4）	5.25	（5.2）	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	9世紀中頃	
63	SK77土取り穴	埋土中－⑦	土師器	甕	（21.0）	－	（13.4）	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	－	9世紀中頃	
64	SK77土取り穴	埋土中－⑦	土師器	甕	（21.2）	－	（24.2）	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	－	9世紀中頃	
65	SK77土取り穴	埋土中⑥	須恵器	甕	（12.0）	－	（16.9）	ロクロナデ	ロクロナデ	－		
66	SK77土取り穴	埋土中①	須恵器	大甕				平行文タタキ	同心円文アテグ	－		
67	SX08土取り穴	埋土中	須恵器	坏	（14.6）	3.6	5.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		
68	SX09土取り穴	埋土中	須恵器	坏	（13.0）	4.0	（7.0）	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	9世紀前半	
69	SX09土取り穴	埋土中	土師器	坏	（12.0）	－	（4.0）	ロクロナデ	ミガキ	－	9世紀前半	内面黒色処理
70	SX09土取り穴	埋土中	土師器	甕	（21.8）	－	（8.7）	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	－	9世紀前半	
71	SX09土取り穴	埋土中	土師器	甕				ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	－	9世紀前半	

掲載	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	外面調整	内面調整	底部調整	時期	備考
72	SX09土取り穴	埋土中	土師器	甕				ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	－	9世紀前半	
73	SX09土取り穴	埋土中	須恵器	大甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
74	SX12不明遺構	埋土中	須恵器	甕	－	(8.0)	(12.8)	ケズリ	ロクロナデ	－	11世紀前半	
75	SX19不明遺構	埋土中（土器1）	土師器	坏	11.2	5.0	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	10世紀末～11世紀前半	
76	SX19不明遺構	埋土中（土器2）	土師器	坏	(12.4)	6.0	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	10世紀末～11世紀前半	
77	SX19不明遺構	埋土中（土器3ほか）	土師器	甕	(12.2)	8.0	13.8	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ・ナデ	－		
78	SX20不明遺構	埋土中（土器1）	土師器	坏	(11.6)	6.0	(3.5)	ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切（摩耗）		内面黒色処理
79	SB11掘立柱建物跡P775	埋土中	土師器	坏	14.1	5.8	5.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
80	SB04掘立柱建物跡P891	埋土中	須恵器	壺？				ケズリ	ナデ	－		
81	SB04掘立柱建物跡P891	埋土中	須恵器	甕				平行文タタキ	ナデ	－		
82	SB14掘立柱建物跡P926	埋土中	土師器	甕				ケズリ	ハケメ	－		
83	SB15掘立柱建物跡P1076	埋土中	須恵器	大甕				平行文タタキ	平行文アテグ	－		
84	P1153	埋土中	土師器	甕				ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	－		
85	⑩区遺構外（SK77土取り穴周辺）	Ⅰ層	縄文土器	深鉢				RL縦位	ミガキ		晩期末葉	
86	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	坏				ロクロナデ	ミガキ		9世紀後半？	内面黒色処理
87	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	坏	(12.4)	—	<3.5>	ロクロナデ	ロクロナデ		9世紀後半？	
88	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	甕	(16.0)		<4.5>	ロクロナデ				
89	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	壺？				ケズリ	ナデ			赤彩土器
90	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	甕				ケズリ	ナデ			
91	SI04竪穴住居跡	床面	土師器	甕				ケズリ	ナデ			
92	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	甕				ロクロ→ケズリ→ナデ	ロクロナデ			
93	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	甕				ナデ	ナデ			
94	SI04竪穴住居跡	貼床内	土師器	甕				口：ヨコナデ胴：ケズリ	ロクロナデ			
95	SI04竪穴住居跡	貼床内	土師器	甕				ロクロナデ→ナデ				
96	SI04竪穴住居跡	貼床内	土師器	坏	(14.0)	—	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ			
97	SI04竪穴住居跡内土坑	埋土中	土師器	甕	(24.8)	—	<11.2>	ケズリ	ハケメ			
98	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	甕				ロクロナデ				
99	SI04竪穴住居跡	床面	土師器	甕	(24.0)		<6.8>	ケズリ	ナデ			
100	SI04竪穴住居跡	焼土	土師器	甕	(20.6)		<5.1>	ロクロナデ				
101	SI04竪穴住居跡付近	検出時	土師器	甕	(25.2)		<7.2>	ヨコナデ	ナデ			
102	SI04竪穴住居跡付近	検出時	土師器	甕				ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ			
103	SI04竪穴住居跡	埋土中	土師器	鉢	19.3	9.1	9.5	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
104	SI05竪穴住居跡	埋土中	土師器	坏	13.2	5.9	5.7	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	9世紀後半～10世紀前半	内面黒色処理
105	SI05竪穴住居跡	埋土中	土師器	坏	(14.0)		<3.4>	ロクロナデ			9世紀後半～10世紀前半	

掲載	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	外面調整	内面調整	底部調整	時期	備考
106	SI07竪穴住居跡	埋土上位	須恵器	壺								
107	SD93溝跡	埋土中位	土師器	坏	(14.0)		<3.3>	ロクロナデ	ミガキ			
108	SD93溝跡	埋土	土師器	土師鉢				ケズリ	ナデ			
109	SD93溝跡	埋土上位	須恵器	高台付坏		(5.6)	<2.2>					
110	SD94溝跡	埋土上位	土師器	坏	14.2	5.4	5.0	ロクロナデ	ミガキ		9世紀後半～10世紀前半	内面黒色処理
111	SD94溝跡	埋土上位	須恵器	壺			<4.0>					
112	SD102溝跡	1層	須恵器	甕								
113	SD107溝跡東側	埋土中	須恵器	甕	(12.0)		<2.2>					
114	SD107溝跡西側	埋土中	須恵器	甕								
115	SD109溝跡東側	底面	須恵器	甕								
116	SD109溝跡	埋土中	須恵器	甕								
117	SD109溝跡	埋土中	須恵器	甕								
118	SD112溝跡	埋土中	須恵器	甕								
119	SD136溝跡	埋土中	須恵器	壺			<4.9>					
120	SK167土坑	上層	須恵器	甕？								
121	SK167土坑	上層	須恵器	甕？								
122	SK169土坑	埋土中	須恵器	坏		(6.0)	<2.1>	ロクロナデ		回転糸切り		
123	SK169土坑	埋土中	須恵器	甕								
124	SK173土坑	埋土一括	須恵器	甕？								
125	SK173土坑	埋土一括	須恵器	甕								
126	SK176 土坑 P1	埋土中	土師器	坏	(13.4)		<4.0>	ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
127	SK177土坑	埋土上位	土師器	甕				口：ヨコナデ 胴：ナデ	ナデ			
128	SK178土坑	1～3層埋土上位	土師器	小鉢	(9.7)	5.7	6.4	ロクロナデ				
129	SK181土坑	埋土中	土師器	坏	(13.6)	(5.4)	5.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	10世紀初頭～前葉	内面黒色処理
130	SK181土坑	埋土中	土師器	坏	(15.5)	6.0	4.9	ロクロナデ		回転糸切り	10世紀初頭～前葉	内面黒色処理
131	SK181土坑 No2	3層	土師器	高台付坏	13.5		<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ			
132	SK182土坑	埋土上～中	土師器	坏	13.5	5.7	4.1	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	9世紀中葉	内面黒色処理
133	SK182土坑	埋土上～中	土師器	坏	(12.0)	(5.0)	3.7	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	9世紀中葉	内面黒色処理
134	SK182土坑	埋土上～中	土師器	坏	(13.9)	5.6	4.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	9世紀中葉	内面黒色処理
135	SK182土坑	埋土上～中	土師器	坏	(16.2)	(5.2)	6.3	ロクロナデ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整	9世紀中葉	内面黒色処理
136	SK182土坑	埋土上～中	土師器	高台		(16.0)	<4.8>	ロクロナデ				
137	SK182土坑	埋土中	土師器	坏		4.2	<1.9>	ロクロナデ		回転糸切り		
138	SK182土坑	埋土中	土師器	坏				ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
139	SK184土坑	床直	土師器	坏	(18.4)		<4.2>	ロクロナデ	ミガキ		9世紀後半？	内面黒色処理
140	SK185土坑	埋土上～中	土師器	坏	14.2	5.8	5.3	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	9世紀後半？	内面黒色処理
141	SK185土坑	埋土上～中	須恵器	甕	(35.7)		<8.2>					
142	SK192土坑	倒立埋設土器	土師器	坏	14.6	6.2	4.6	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
143	SK193土坑	埋土中	土師器	坏	(16.0)		<4.7>	ロクロナデ	ミガキ			
144	SK195土坑	埋土中	土師器	坏	(13.7)	(5.0)	4.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理
145	㉔区遺構外	埋土中～下	土師器	坏	(14.6)	(5.0)	4.9	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		内面黒色処理

掲載	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	外面調整	内面調整	底部調整	時期	備考
146	㉔区遺構外	堀り方	土師器	坏	（16.0）	（6.4）	6.0	ロクロナデ		回転糸切り		
147	㉔区遺構外	堀り方	土師器	坏	（14.1）		<3.5>	ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
148	㉔区遺構外	堀り方	土師器	坏	（14.0）		<4.1>	ロクロナデ				
149	㉔区遺構外	堀り方	土師器	坏	（13.4）		<5.2>	ロクロナデ	ミガキ			
150	㉔区遺構外	埋土中～下	土師器	甕		10.4	<16.3>	ケズリ	ナデ			
151	㉔区遺構外	焼土より上の埋土	土師器	坏	（13.4）		<3.6>	ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
152	㉔区遺構外	埋土中	須恵器	坏								
153	SX24不明遺構	埋土一括	須恵器	坏	（14.0）		<3.1>	ロクロナデ	ロクロナデ			
154	SX24不明遺構	埋土一括	須恵器	甕								
155	SX24不明遺構	埋土中	かわらけ	手づくねかわらけ	（14.0）	（8.4）	2.9				12世紀	
156	SX27土取り穴	7層	須恵器	坏	（16.0）		<5.8>					
157	SX27土取り穴	7層	土師器	鉢	（15.2）	（8.0）	11.1	口：ヨコナデ 胴：ケズリ	ナデ			
158	SX27土取り穴	9層	須恵器	坏		（6.3）	<1.7>			回転糸切り		
159	SX27土取り穴	9層	土師器	坏	（14.6）		<4.0>	ロクロナデ	ミガキ		9世紀前葉	内面黒色処理
160	SX27土取り穴	9層	土師器	坏	（14.0）		<4.2>	ロクロナデ	ミガキ		9世紀前葉	内面黒色処理
161	SX27土取り穴	9層	土師器	坏		（7.8）	<3.5>	ロクロ→ケズリ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整	9世紀前葉	内面黒色処理
162	SX27土取り穴	9層	土師器	坏		（6.7）	<3.0>	ロクロナデ→ケズリ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整	9世紀前葉	内面黒色処理
163	SX27土取り穴	9層	土師器	鉢				ケズリ	ナデ			
164	SX27土取り穴	9層	土師器	甕				ナデ	ナデ			
165	SX27土取り穴	9層	須恵器	甕	（23.0）		<1.6>					
166	SX27土取り穴	9層	土師器	坏	（14.2）	（5.8）	4.5	ロクロナデ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整		墨書「日」、内面黒色処理
167	SX27土取り穴 -P7	埋土中	土師器	坏	（15.0）	5.6	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		底面に墨書［大］
168	SX27土取り穴	埋土中	土師器	坏				ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
169	SX27土取り穴	埋土中	土師器	坏				ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
170	SX27土取り穴	埋土中	土師器	坏	15.4	5.8	5.2	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り		
171	SX27土取り穴	埋土中	須恵器	坏	（14.6）		<4.8>					
172	SX28 土取り穴	底面直上	土師器	坏	13.1	5.4	4.5	ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラケズリ	9世紀前葉	底面に刻書「田」、内面黒色処理
173	SX28 土取り穴	埋土中	土師器	坏	（14.2）	6.2	3.8	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	9世紀前葉	内面黒色処理
174	SX28 土取り穴	埋土中	土師器	坏		（7.4）	<1.5>	ロクロナデ		回転糸切り	9世紀前葉	
175	SX28 土取り穴	埋土中	土師器	鉢	（15.7）		<6.9>	口：ヨコナデ 胴ケズリ	ナデ			
176	SX28 土取り穴	底面直上	土師器	坏	（13.0）		<3.4>	ロクロナデ	ミガキ		9世紀中頃～後半	
177	SX28 土取り穴	底面直上	土師器	鉢	（12.0）		<7.8>	ロクロナデ→ケズリ	ナデ			
178	SX28 土取り穴	埋土中	縄文土器	鉢				LRL 横位			晩期	
179	SX28 土取り穴	埋土中	須恵器	甕								
180	SX29土取り穴	埋土中	土師器	坏	（13.2）		<3.3>	ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
181	SX29土取り穴	埋設土器	土師器	坏	（14.6）	6.1	5.5	ロクロナデ	ミガキ			内面黒色処理
182	SX30土取り穴	埋土中	須恵器	甕								

掲載	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	外面調整	内面調整	底部調整	時期	備考
183	P1675	埋土上位	土師器	土師坏	（14.1）	6.0	5.1	ロクロナデ	ミガキ	磨滅により不明		
184	P1675	埋土上位	須恵器	須恵坏	（13.6）		<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ			
185	P1691	埋土	須恵器	須恵甕								
186	2683	埋土中	土師器	坏	13.7	6.0	4.1	ロクロナデ				磨滅著しい※SK169の堀残し部分出土か？
187	P3361	埋土中	須恵器	甕								
188	P3518	埋土中	土師器	坏	12.4	4.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	10世紀前半	
189	P3592	埋土中	土師器	高台付坏		（10.0）	<2.7>	ロクロナデ				
190	旧河道（⑱区）	検出時	須恵器	甕	（54.0）		<6.9>					To-aテフラブロック層の上で出土

第18表　出土遺物観察表（2）　陶磁器

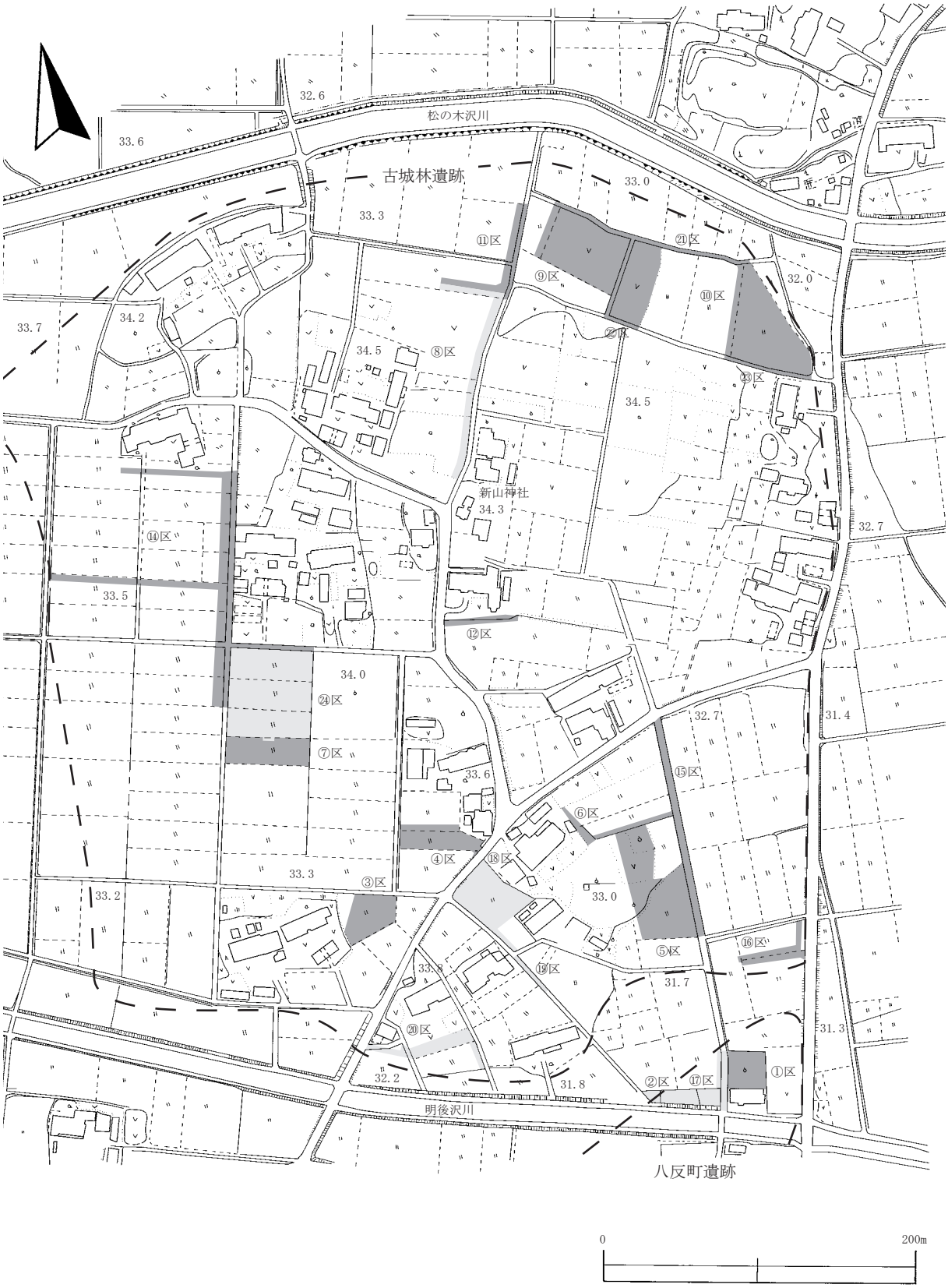
掲載No.	遺構名	地点	種別	器種	特徴	産地	時期	備考
191	SX15竪穴建物跡	埋土下半	陶器？	甕		渥美？	不明	
192	SX06墳墓	埋土中	陶器	鉢類		不明	不明	
193	SD26堀跡	埋土中	磁器	皿	染付	肥前	18C	
194	SD26堀跡	埋土下位	陶器	甕		常滑	12C	
195	SD02溝跡	埋土中	陶器	鉢類	外面：鉄釉、内面：藁灰釉	東北在地産	18後 -19C	
196	SD14溝跡	埋土中	磁器	皿	染付（格子目文）	肥前	18C 中葉 - 末	
197	SD14溝跡	埋土中	陶器	壺	内面降灰釉	常滑	12C	
198	SD17溝跡	埋土中	陶器	甕	内外面降灰釉	常滑	12C	
199	SD27溝跡	埋土中	磁器	碗	染付	肥前	18C	
200	SD38溝跡	埋土中	陶器	甕		常滑	12C	
201	SE02井戸跡	埋土中	陶器	甕		常滑	12C	
202	SB15掘立柱建物跡 P993	埋土中	陶器	皿か		瀬戸	14-15C 頃	
203	P1366	埋土中	陶器	甕		不明	不明	
204	⑨区遺構外	検出面	陶器	甕		渥美	12C	
205	⑩区遺構外	撹乱	陶器	中鉢		瀬戸・美濃	18-19C	SX15と SX16の間の撹乱層出土
206	⑭区遺構外	撹乱	陶器	擂鉢		瀬戸	近世	
207	⑭区遺構外	撹乱	陶磁	皿	内外面降灰釉	瀬戸・美濃	16後～17C	
208	SE08井戸跡	埋土中位	陶器	擂り鉢		不明	17c 前半	17世紀代の可能性も有り
209	SE10井戸跡	埋土上位	灰　陶器	磁器皿		猿投	9 c	灰　陶器
210	SD95溝跡	埋土	陶磁器	椀		不明	不明	
211	SD107溝跡	埋土中	陶磁器	青磁椀		中国	16c 頃	
212	SD116溝跡	埋土中	陶器	不明		不明	不明	
213	24区	検出面	陶磁器	磁器椀		肥前	18～19c	
214	㉔区	検出面	陶磁器	白磁壺？		中国	12c 前後	
215	SX28土取り穴	埋土中	灰　陶器	不明		近江か猿投	9 c 若しくは10c	灰　陶器
216	⑳区 P2223	埋土中	陶磁器	磁器皿？		肥前？	18～19c	
217	㉔区区 P2734	埋土中	陶磁器	青磁椀		中国	16c?	
218	⑳区	地山直上	陶磁器	磁器椀		肥前	18c	
219	㉔区2T	Ⅰ～Ⅱ層	陶磁器	磁器皿		肥前	18c 後半	
220	⑰区	盛土	陶器	不明		不明	不明	

第19表　出土遺物観察表（3）　鉄製品・土製品・獣骨

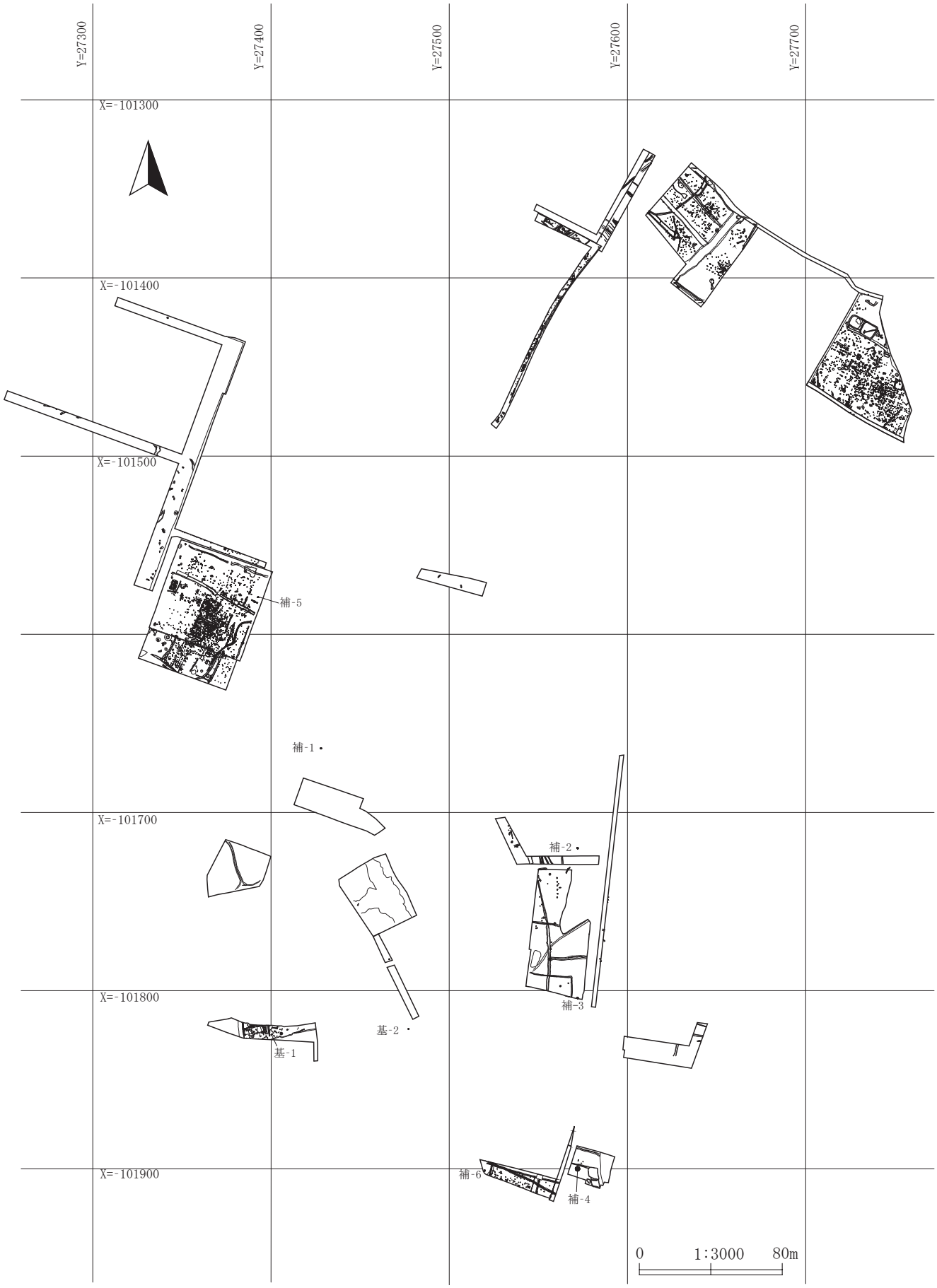
掲載No.	遺構名	地点	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
221	SI02竪穴住居跡 Q 4	床面直上	釘？	(12.2)	1.9	1.7	56.7	
222	SD26堀跡	埋土下位	棒状鉄製品	6.8	0.9	0.9	8.0	
223	SD26堀跡	埋土中	棒状鉄製品	16.5	1.0	1.0	46.7	鍛冶作業などで挟む道具か
224	SD26堀跡	２層	鍋片？	6.1	4.9	0.4	62.4	
225	SD26堀跡	埋土中	鍋片？	(3.7)	(5.8)	(0.5)	28.6	
226	SE05井戸跡	埋土中	棒状鉄製品	10.0	0.8	0.7	8.5	
227	P847	埋土中	棒状鉄製品	(5.2)	(1.3)	(1.1)	10.5	
228	④区第１トレンチ	表土Ⅰ層	キセル	(10.9)	1.1	1.1	9.4	
229	SD91溝跡	埋土	棒状鉄製品				68.2	
230	SI02竪穴住居跡 Q 3	床面直上	土錘	(3.4)	1.9	1.6	11.3	
231	SD09溝跡	埋土中	土錘	3.7	1.5	1.5	8.8	
232	SE03井戸跡	埋土下位	獣骨				341.7	馬上顎骨

第20表　出土遺物観察表（4）　石器

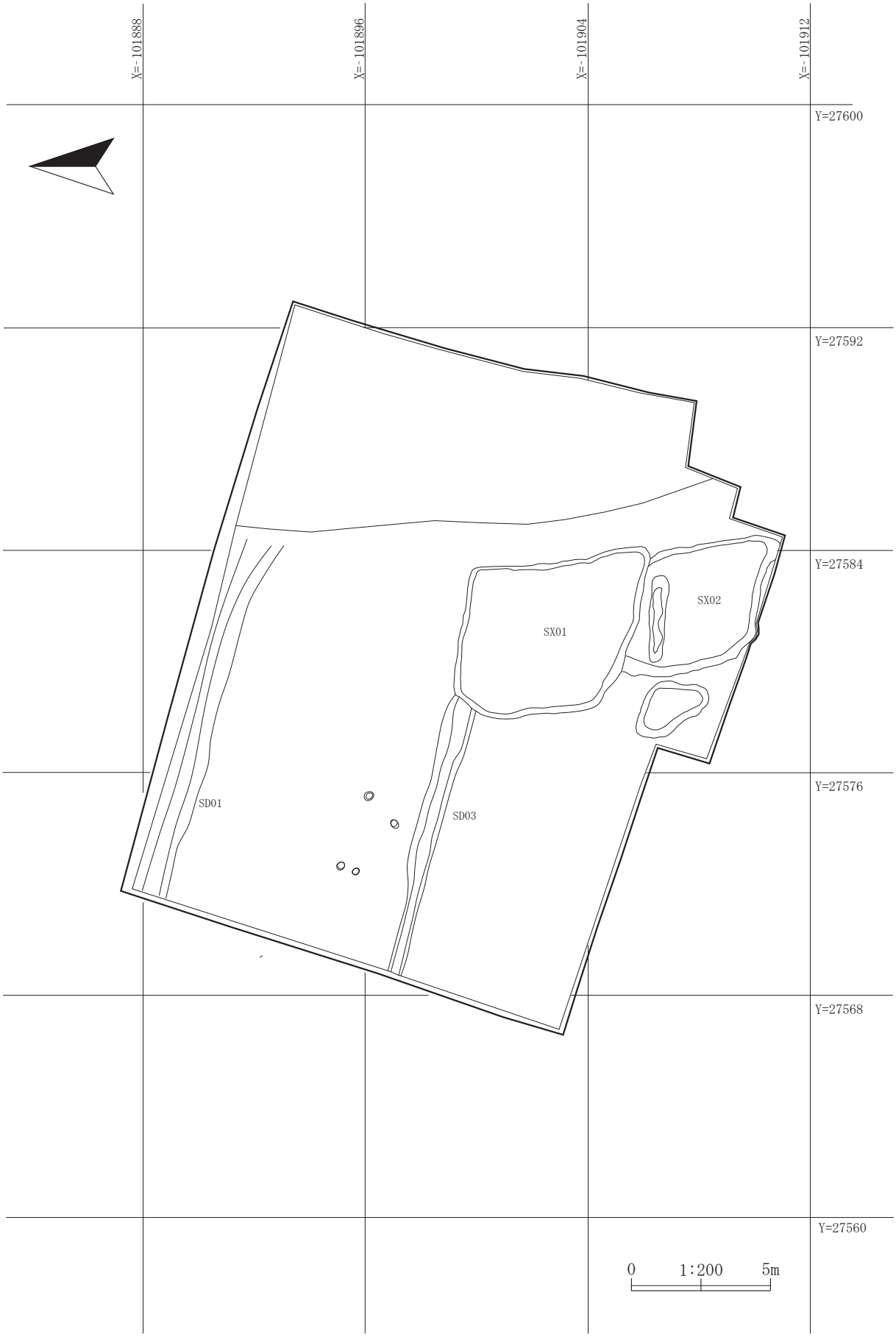
掲載	出土地点	層位	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石材	産地	時代	備考
233	SX15竪穴建物跡	南西壁際埋中	敲磨器	（9.9）	（6.1）	（4.3）	338.2	細粒閃緑岩	北上山地	中生代白亜紀	欠損
234	SD26堀跡	埋土中	石篦	9.5	5.6	1.5	108.7	ホルンフエルス	北上山地	古～中生代（中生代白亜紀に変成）	２側縁に急斜度の片面調整
235	SD26堀跡	埋土上位	打製石斧	12.5	6.5	2.9	230.7	頁岩	北上山地	古～中生代	両面剥離調整により成形される
236	SD02溝跡	埋土中	砥石	（9.0）	（3.6）	（2.5）	110.2	凝灰岩	北上山地	中～新生代	３面使用
237	SD09溝跡	埋土中	石鏃	3.0	1.5	0.3	1.2	黒曜石	北上山系Ａ		凹基無茎、産地推定分析実施
238	SD14溝跡	埋土中	砥石	（9.4）	（16.3）	（3.4）	651.0	凝灰岩	北上山地	中～新生代	１面使用
239	SD36溝跡	埋土中	石鏃	3.1	1.6	0.5	2.7	頁岩	北上山地	古～中生代	円基
240	SE05井戸跡	埋土中	敲磨・凹石	12.1	9.8	2.6	539.4	ホルンフエルス	北上山地	古～中生代（中生代白亜紀に変成）	６面使用
241	SE06井戸跡	埋土中	凹石	（11.3）	（12.8）	（8.0）	1.089.1	安山岩	奥羽山脈	新生代新第３紀	
242	SE07井戸跡	検出面（耕作土）	スクレイパー	（5.9）	3.7	1.1	25.9	頁岩	北上山地	古～中生代	２側縁に緩斜度の片面調整
243	SE07井戸跡	検出面（耕作土）	砥石	13.8	7.5	2.5	371.0	凝灰岩	北上山地	中～新生代	６面使用
244	SK31土坑	埋土中	スクレイパー	7.9	4.7	1.6	41.7	頁岩	奥羽山脈	新生代新第３紀	１側縁に緩斜度の両面調整
245	SK34土坑	埋土中	スクレイパー	5.5	4.0	1.1	27.5	頁岩	奥羽山脈	新生代新第３紀	３側縁に緩斜度の両面調整
246	SB12掘立柱建物跡 P822	埋土中	掻器	5.0	3.0	1.9	25.7	頁岩	奥羽山脈	新生代新第３紀	３側縁に急斜度の片面調整
247	P949	埋土中	打製石斧（未製品）	9.8	4.0	2.5	100.9	ホルンフエルス	北上山地	古～中生代（中生代白亜紀に変成）	
248	⑩区遺構外	表土	石鏃	（1.6）	1.6	0.4	0.9	頁岩	奥羽山脈	新生代新第３紀	平基無茎、先端部欠損
249	⑩区遺構外（SX15とSX16の間）	現代撹乱	スクレイパー	（2.7）	（3.5）	（1.3）	11.0	頁岩	奥羽山脈	新生代新第３紀	１側縁に緩斜度の片面調整。欠損。
250	SI04付近		礫	11.2	5.7	2.8	253.6	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
251	SI07竪穴住居跡C1内	埋土上位	礫	20.6	12.5	11.0	3375.6	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
252	SD94溝跡		尖頭器	2.7	0.8	0.4	0.9	頁岩	奥羽山脈？	新生代新第三紀？	
253	SD94溝跡		石匙	6.4	2.3	0.5	8.1	頁岩	奥羽山脈？	新生代新第三紀？	
254	SD94溝跡	埋土	石匙	[5.4]	1.7	0.6	6.2	頁岩	奥羽山脈？	新生代新第三紀？	
255	SD109溝跡	埋土	石鏃	[2.7]	[1.6]	0.3	1.3	頁岩	奥羽山脈？	新生代新第三紀？	
256	SD113溝跡	埋土	剥片	2.3	1.5	0.5	1.0	黒曜石	奥羽山脈？	新生代新第三紀？	
257	SX24不明遺構	埋土一括	礫	6.1	3.8	2.1	52.0	ホルンフェルス	奥羽山脈基盤	古生代（変成は中生代白亜紀）	
258	旧河道（18区）	埋土上部	礫器	10.0	4.7	1.8	105.1	頁岩	北上山地	古生代	


松の木沢川
古城林遺跡
新山神社
明後沢川
八反町遺跡
①区
②区
③区
④区
⑤区
⑥区
⑦区
⑧区
⑨区
⑩区
⑪区
⑫区
⑭区
⑮区
⑯区
⑰区
⑱区
⑲区
⑳区
㉑区
㉒区
㉓区
㉔区
32.6
33.6
33.3
33.0
32.0
33.7
34.2
34.5
34.3
32.7
33.5
34.0
31.4
33.6
33.3
33.2
33.8
31.7
31.3
32.2
31.8
0
200m

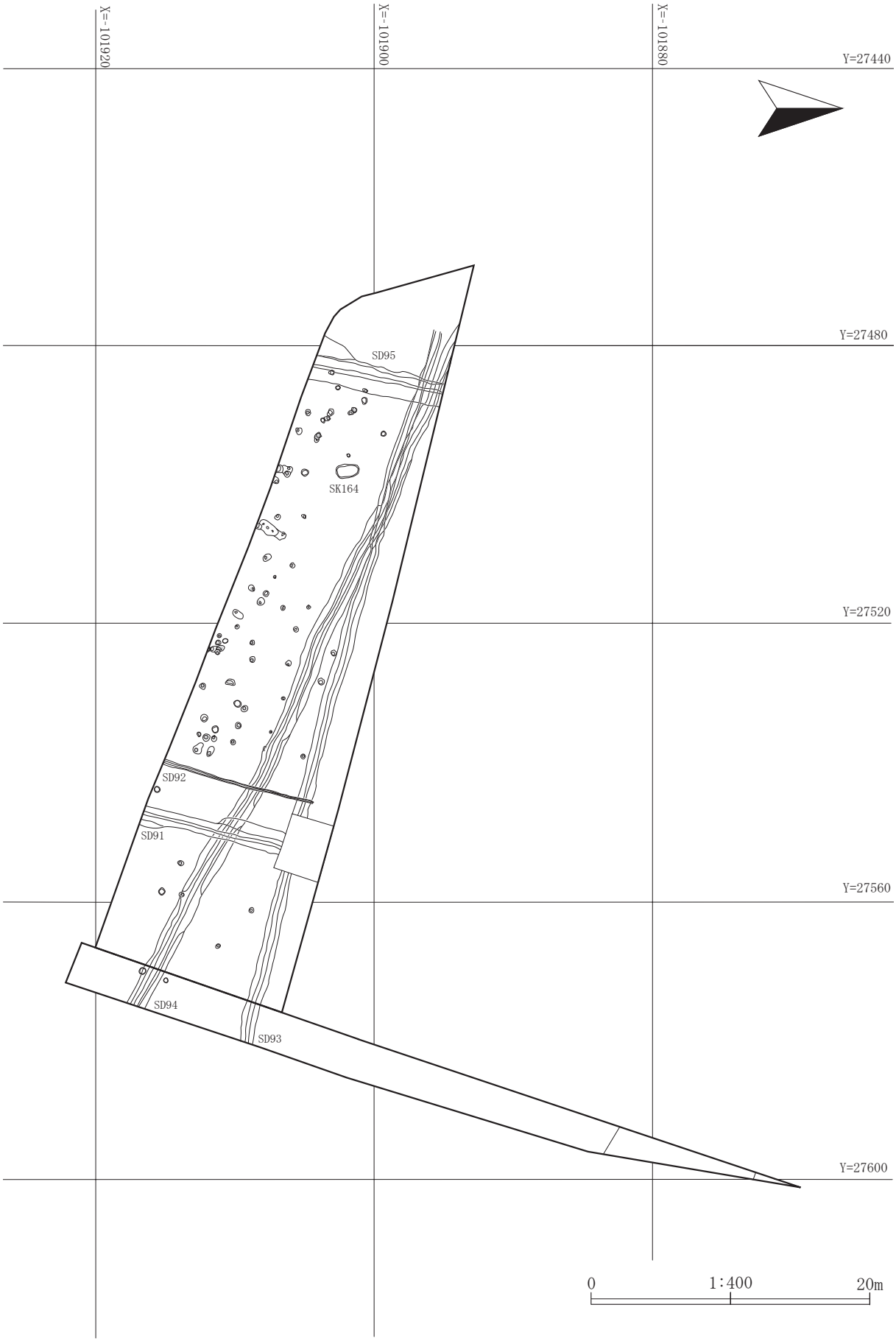
第 4 図　調査区位置図


Y=27300
Y=27400
Y=27500
Y=27600
Y=27700
X=-101300
X=-101400
X=-101500
X=-101700
X=-101800
X=-101900
補-1
補-2
補-3
補-4
補-5
補-6
基-1
基-2
0
1:3000
80m

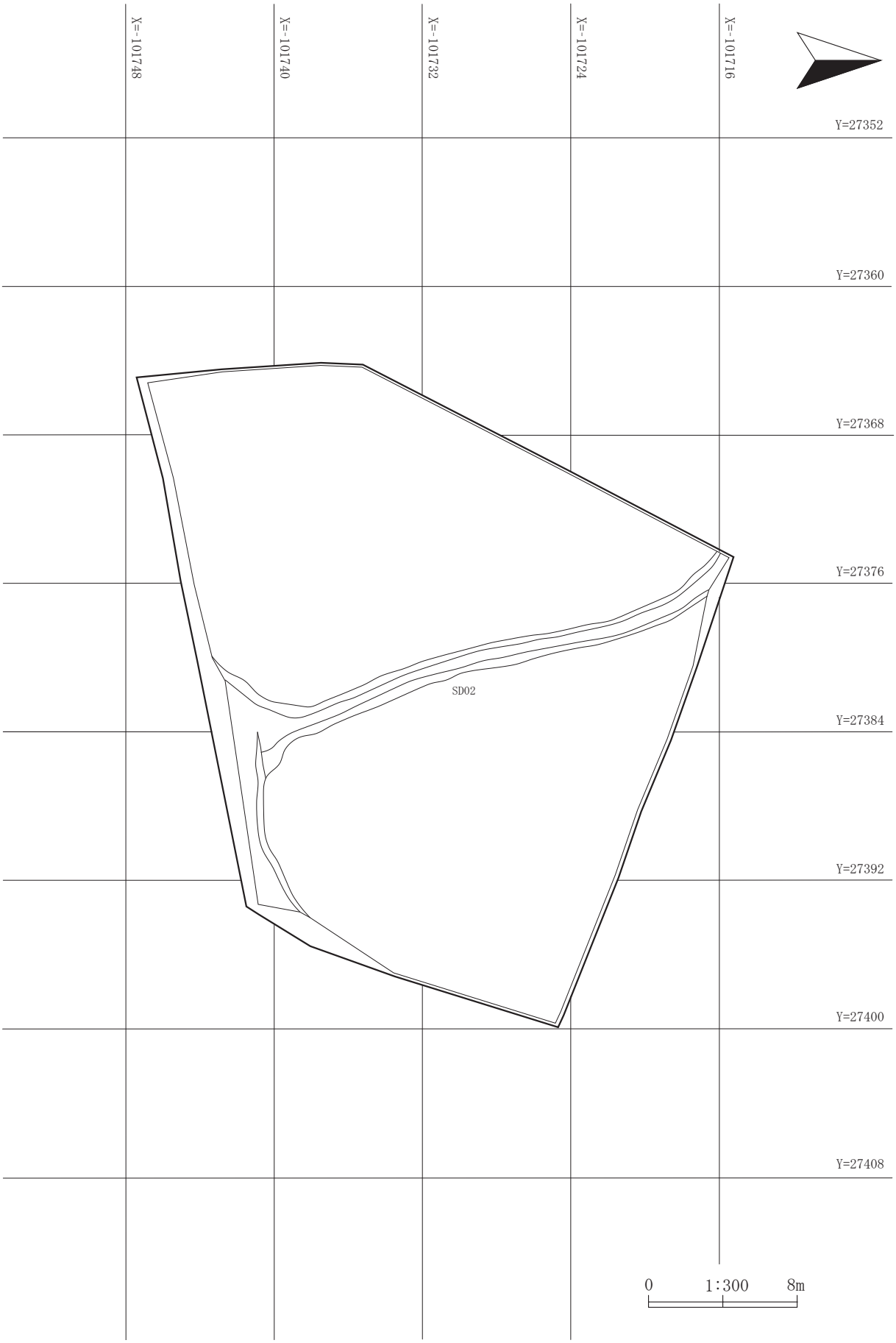
第5図　遺構配置図


X=-101888
X=-101896
X=-101904
X=-101912
Y=27600
Y=27592
Y=27584
Y=27576
Y=27568
Y=27560
SX01
SX02
SD01
SD03
0
1:200
5m

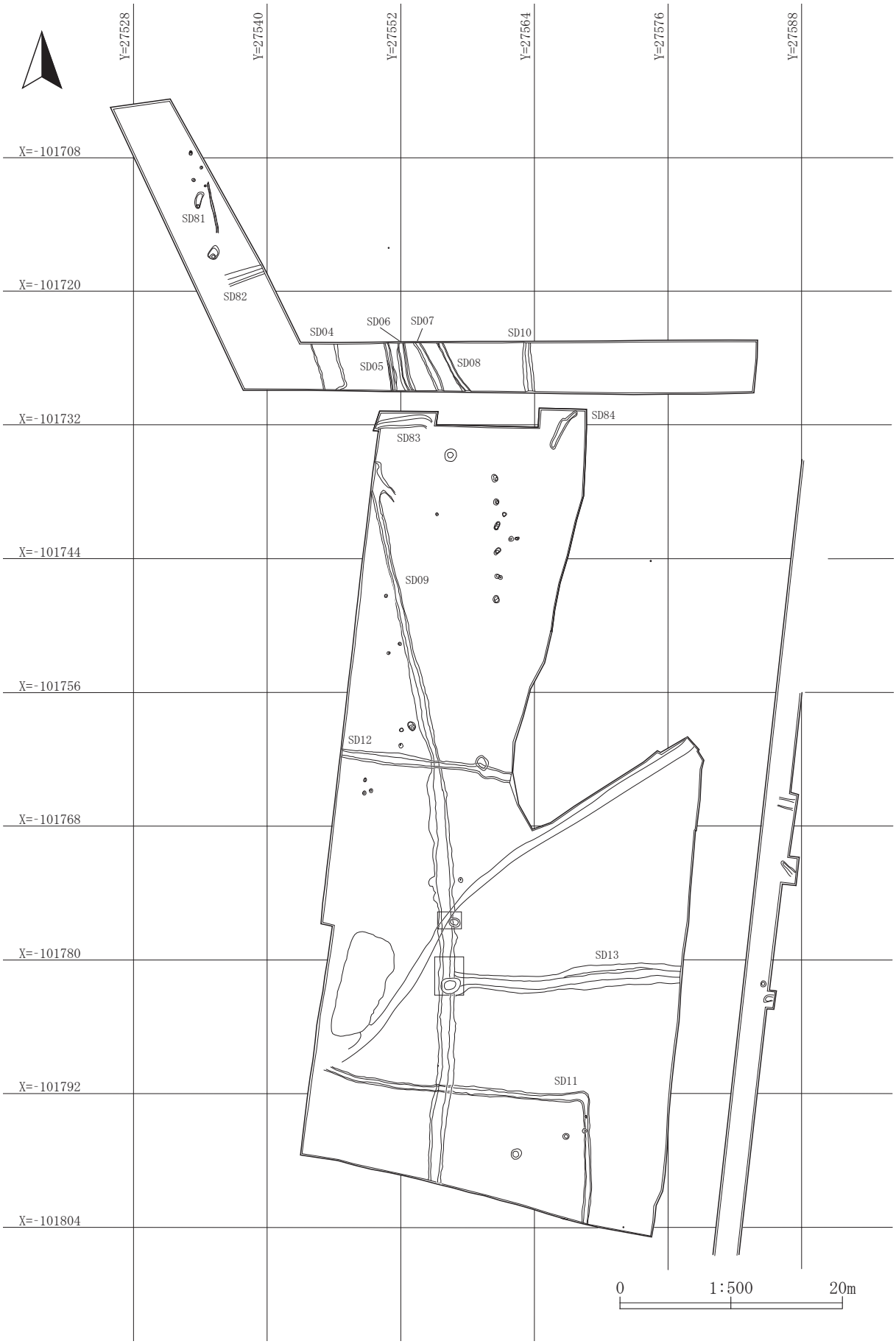
第6図　①区遺構配置図



第７図　②・⑰区遺構配置図

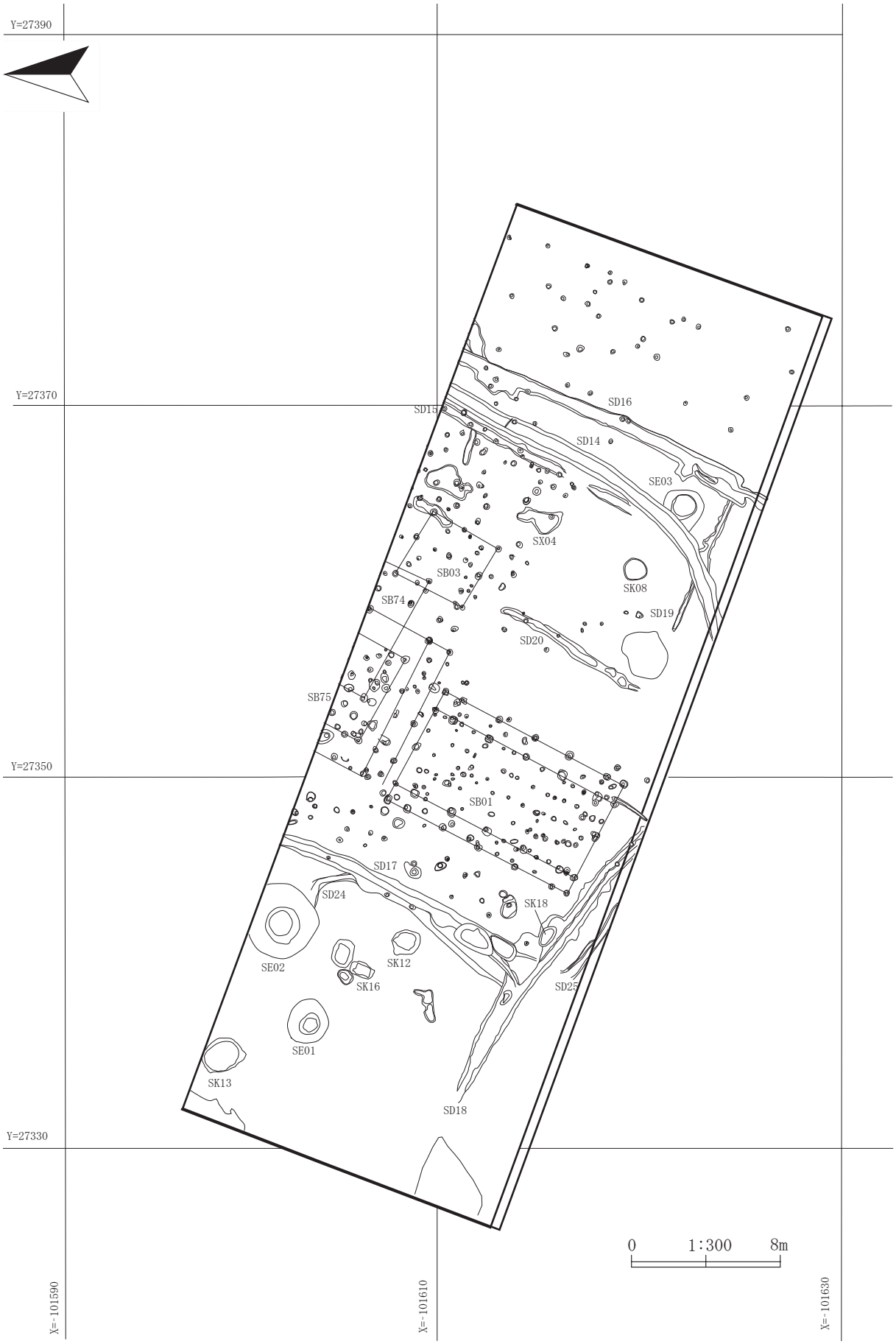

X=-101748
X=-101740
X=-101732
X=-101724
X=-101716
Y=27352
Y=27360
Y=27368
Y=27376
Y=27384
Y=27392
Y=27400
Y=27408
SD02
0
1:300
8m

第 8 図　③区遺構配置図



第9図　⑤・⑥区遺構配置図

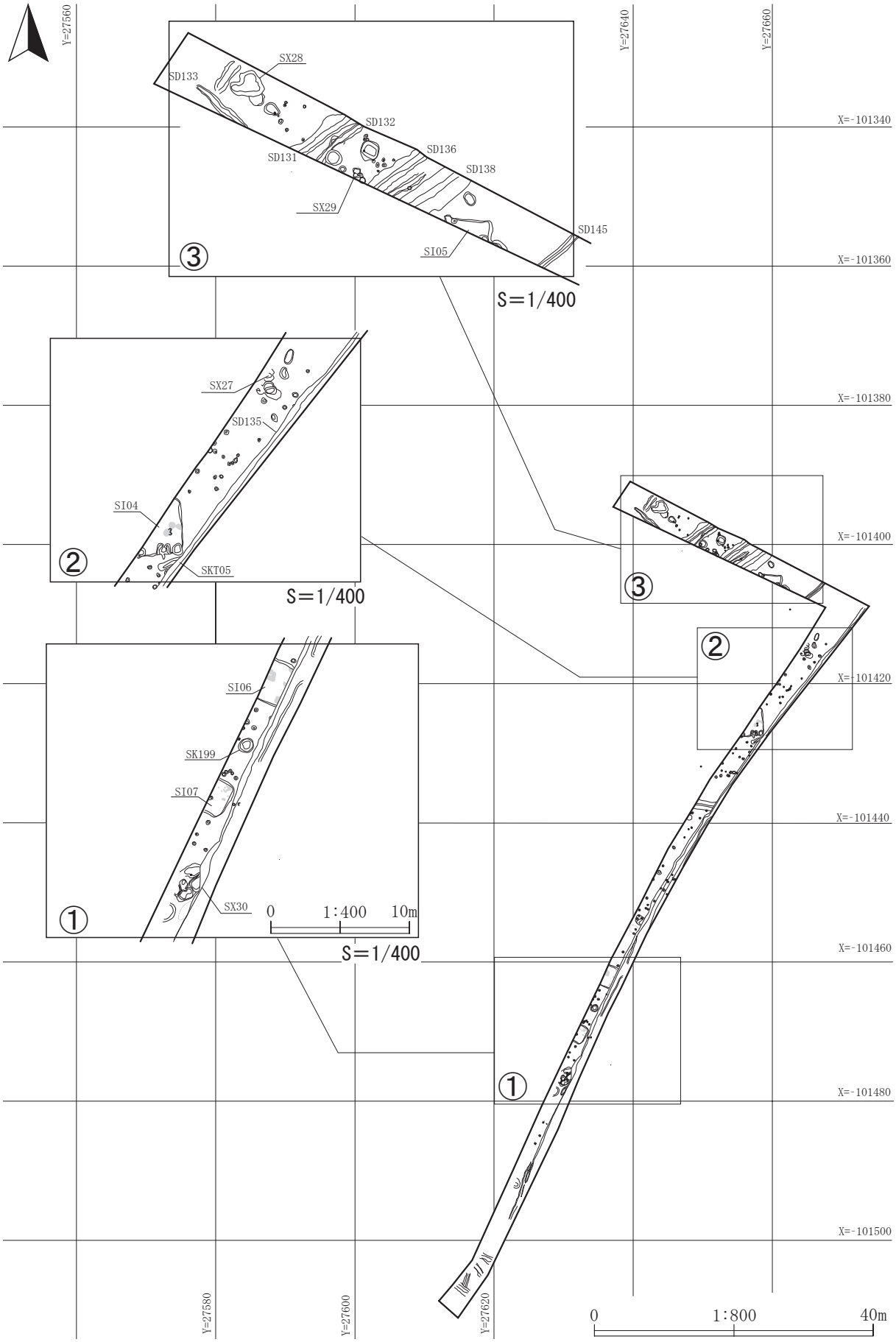
第10図　⑦・㉔区遺構配置図



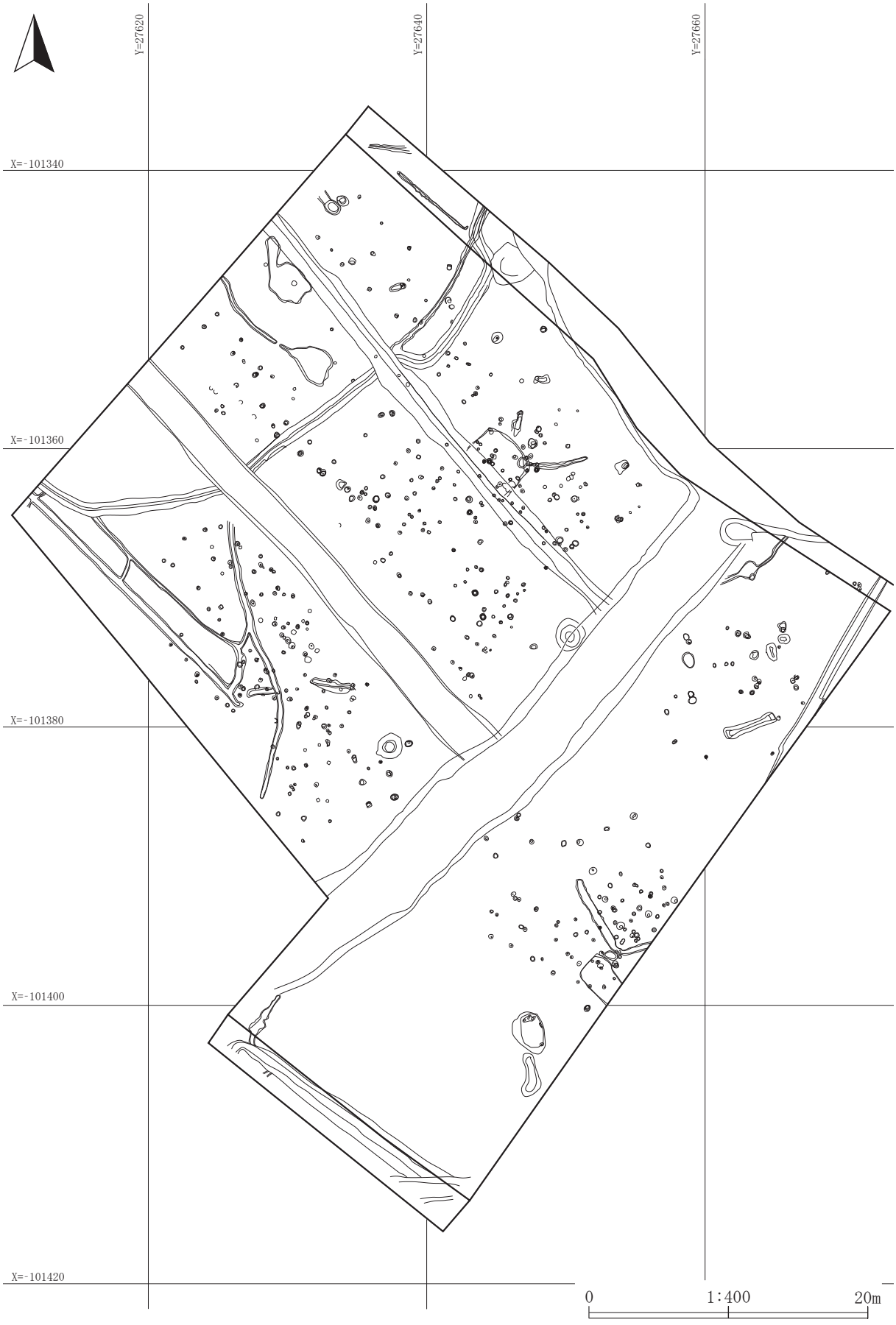
第11図　⑦区遺構配置図

第12図　㉔区遺構配置図北部

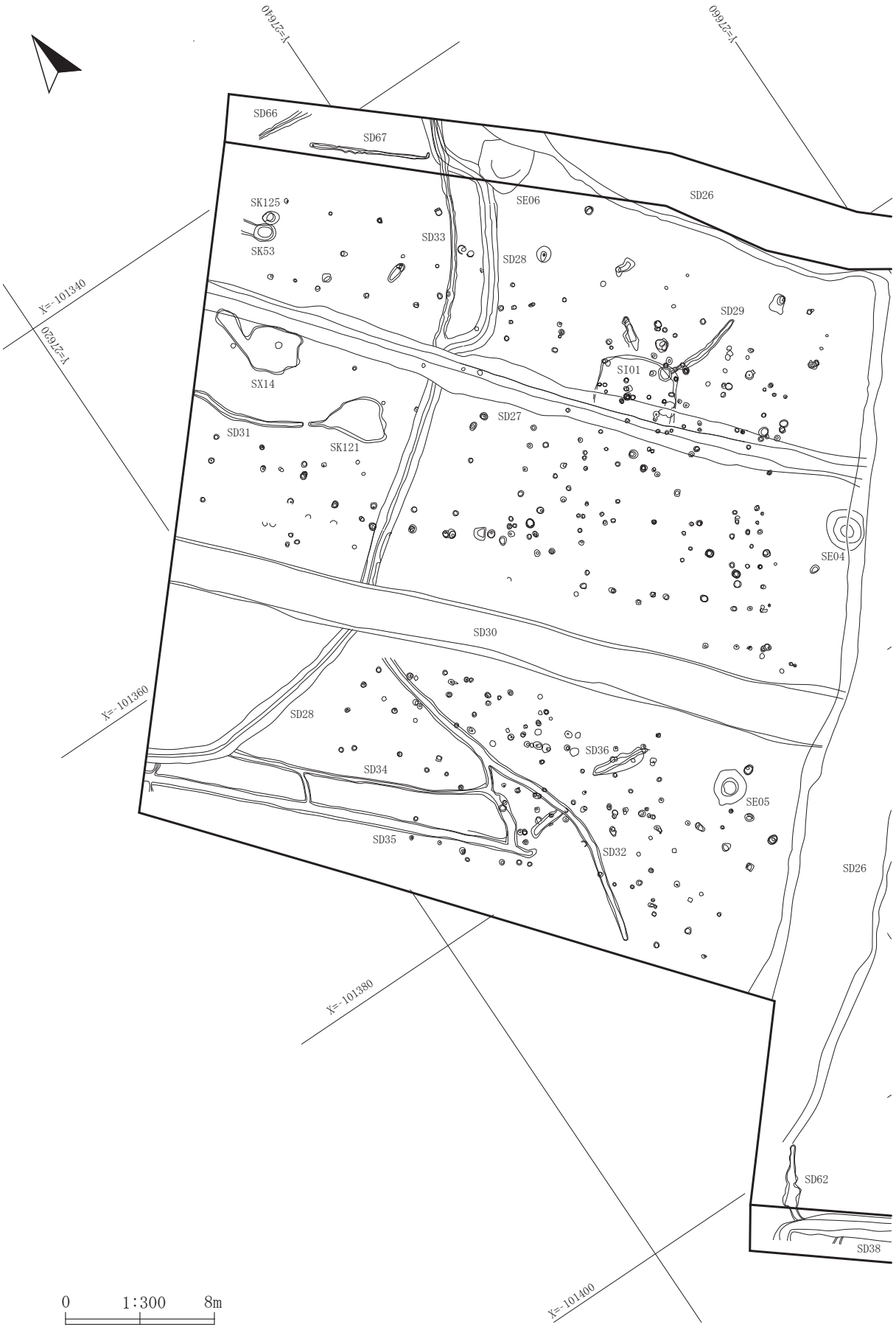
第13図　㉔区遺構配置図南部



第14図　⑧区遺構配置図



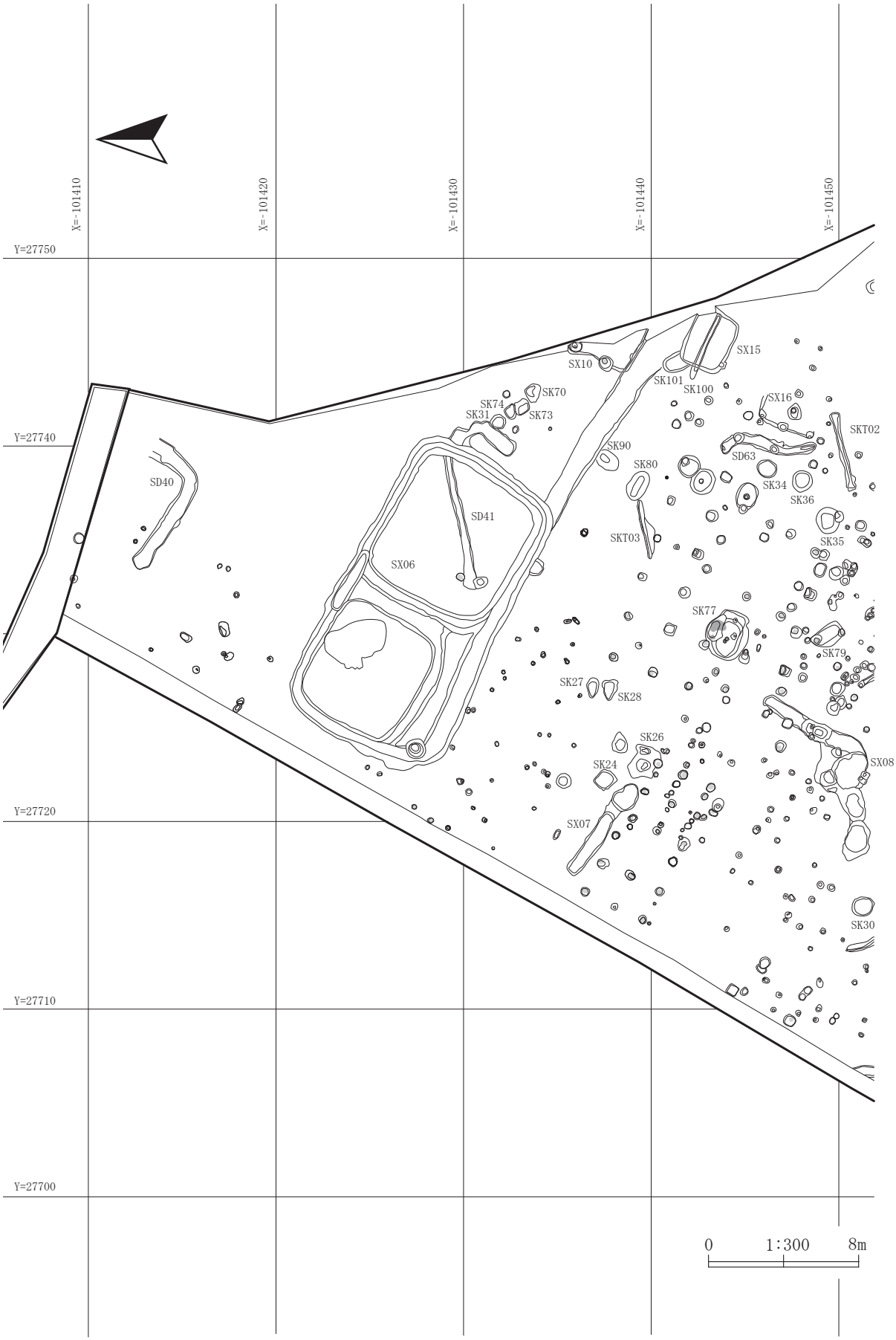
第15図　⑨・㉑・㉒区遺構配置図



第16図　⑨・㉑区遺構配置図西部

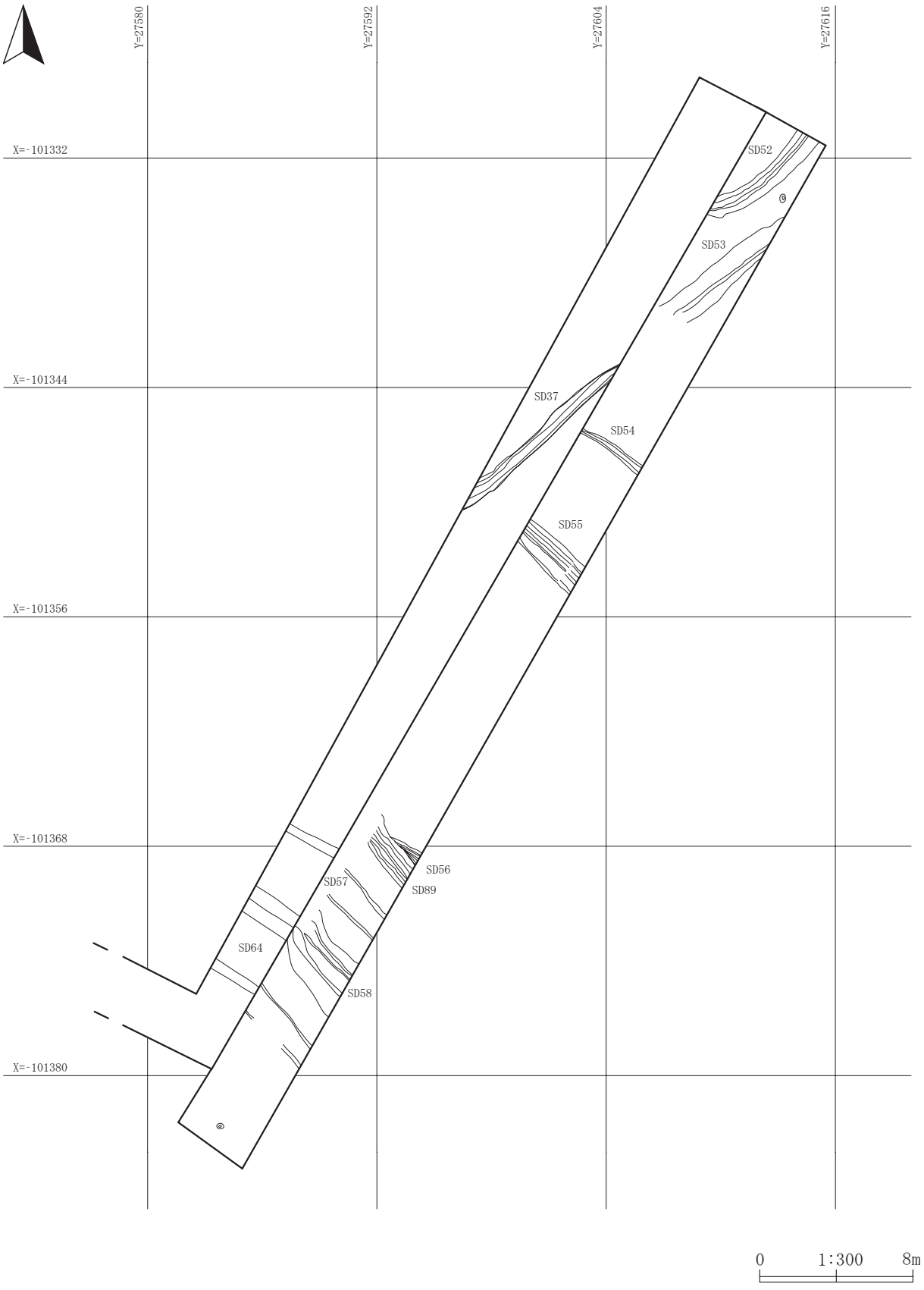
第17図　⑨・㉑・㉒区遺構配置図東部

第18図　⑩・㉑・㉓区遺構配置図

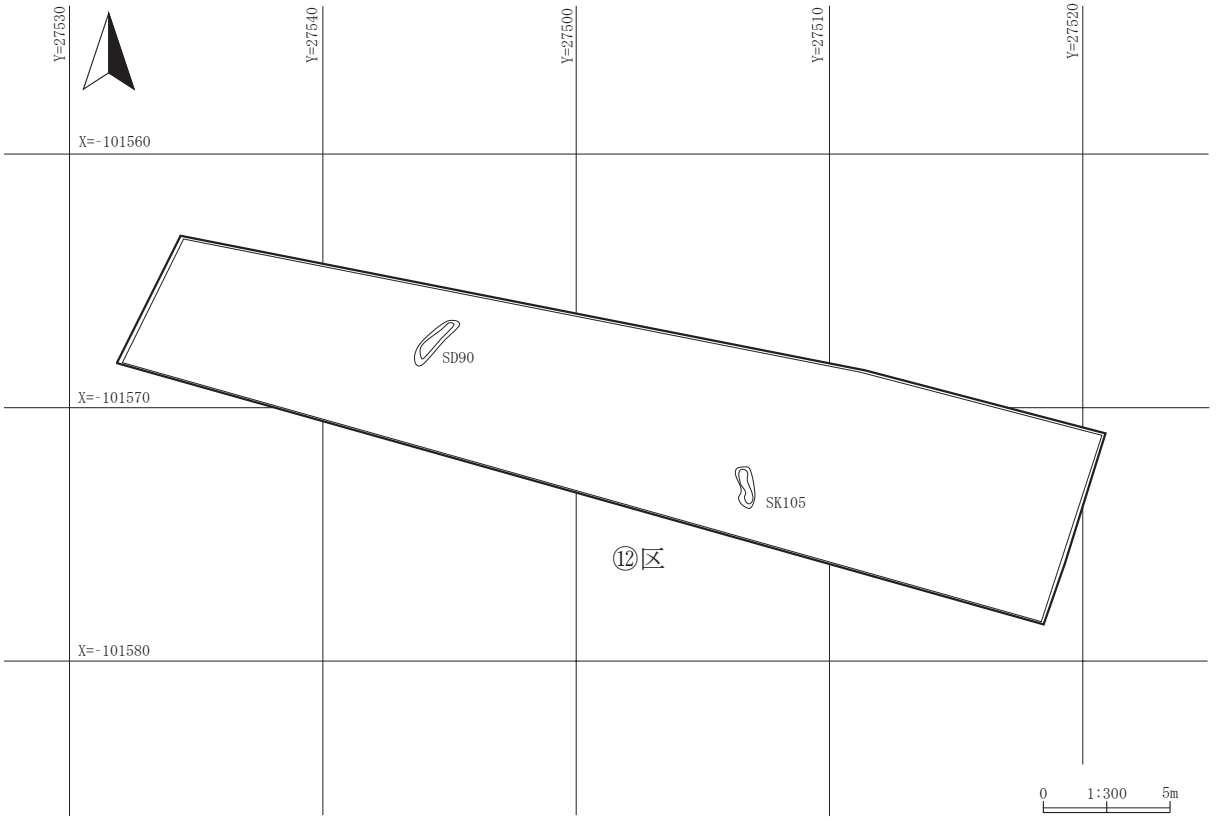


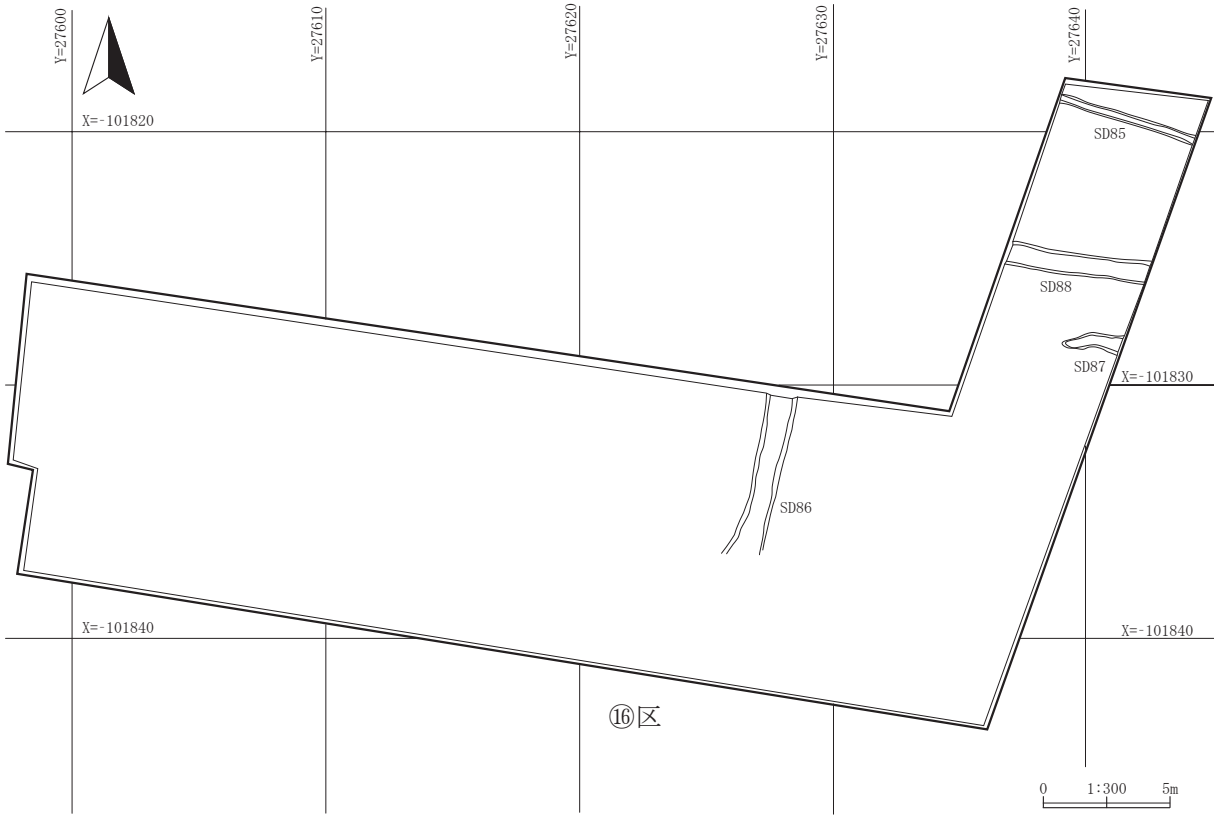
第19図　⑩・㉑区遺構配置図北部

第20図　⑩・㉓区遺構配置図南部

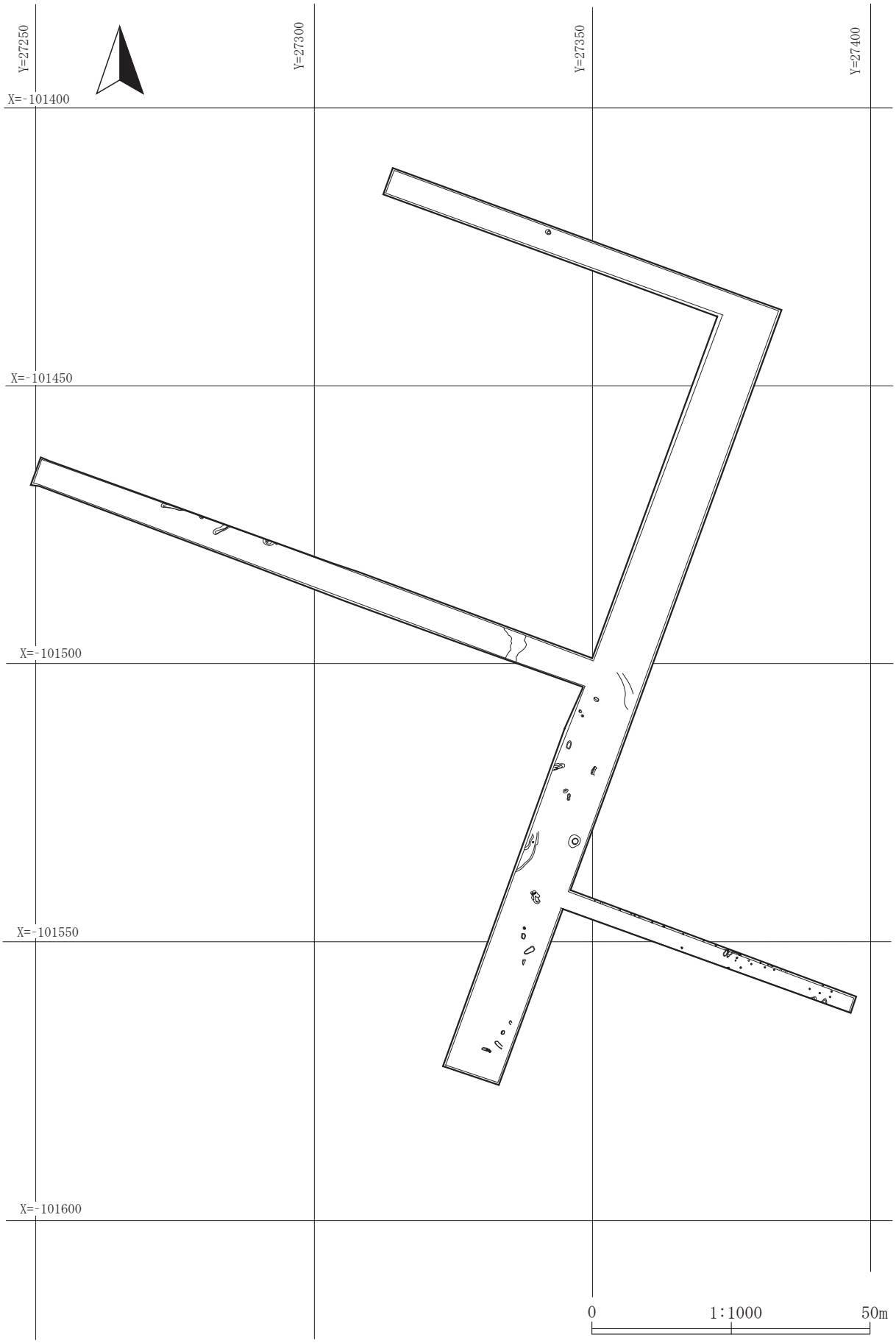


第21図　⑪区遺構配置図

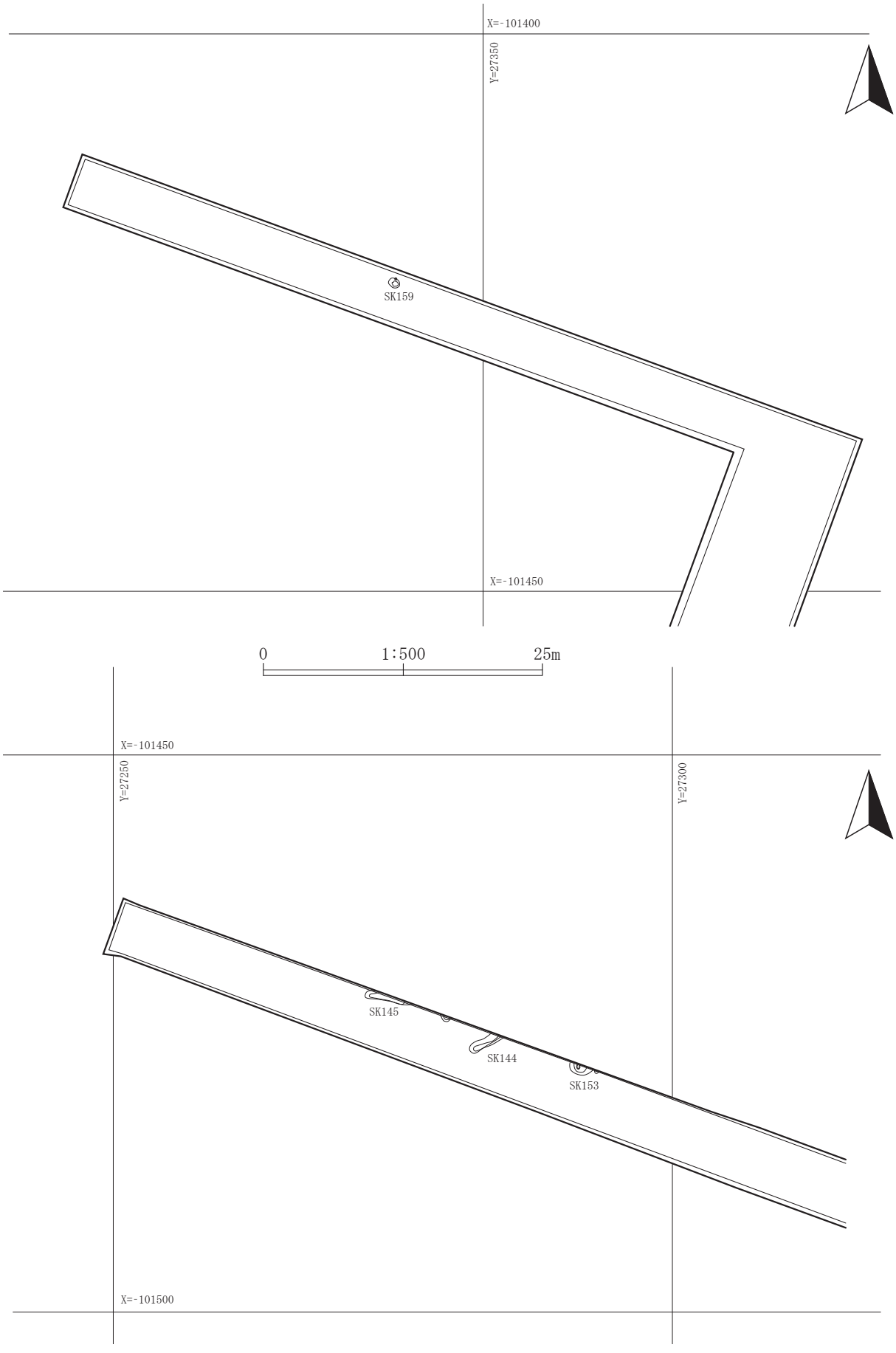




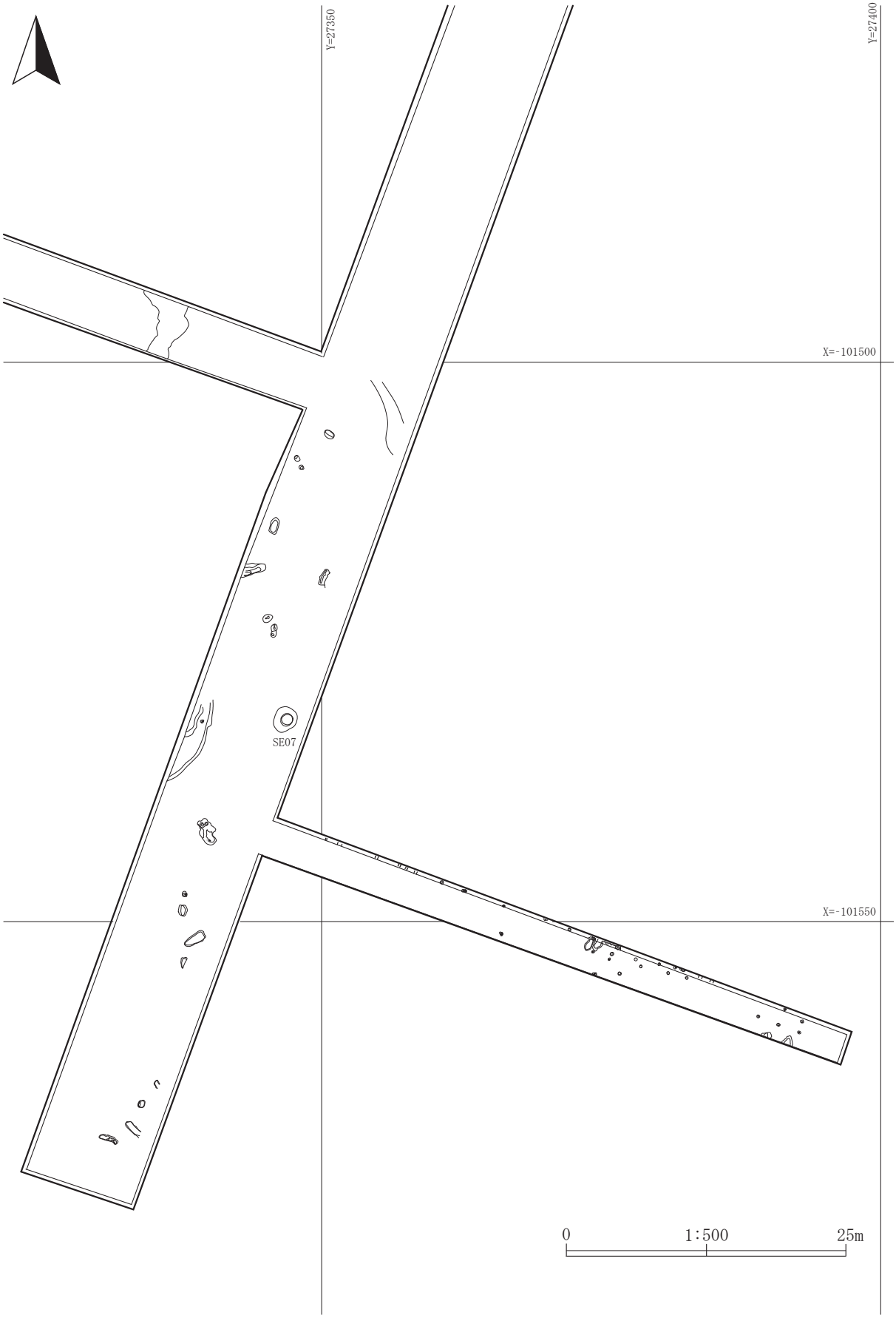
第22図　⑫・⑯区遺構配置図



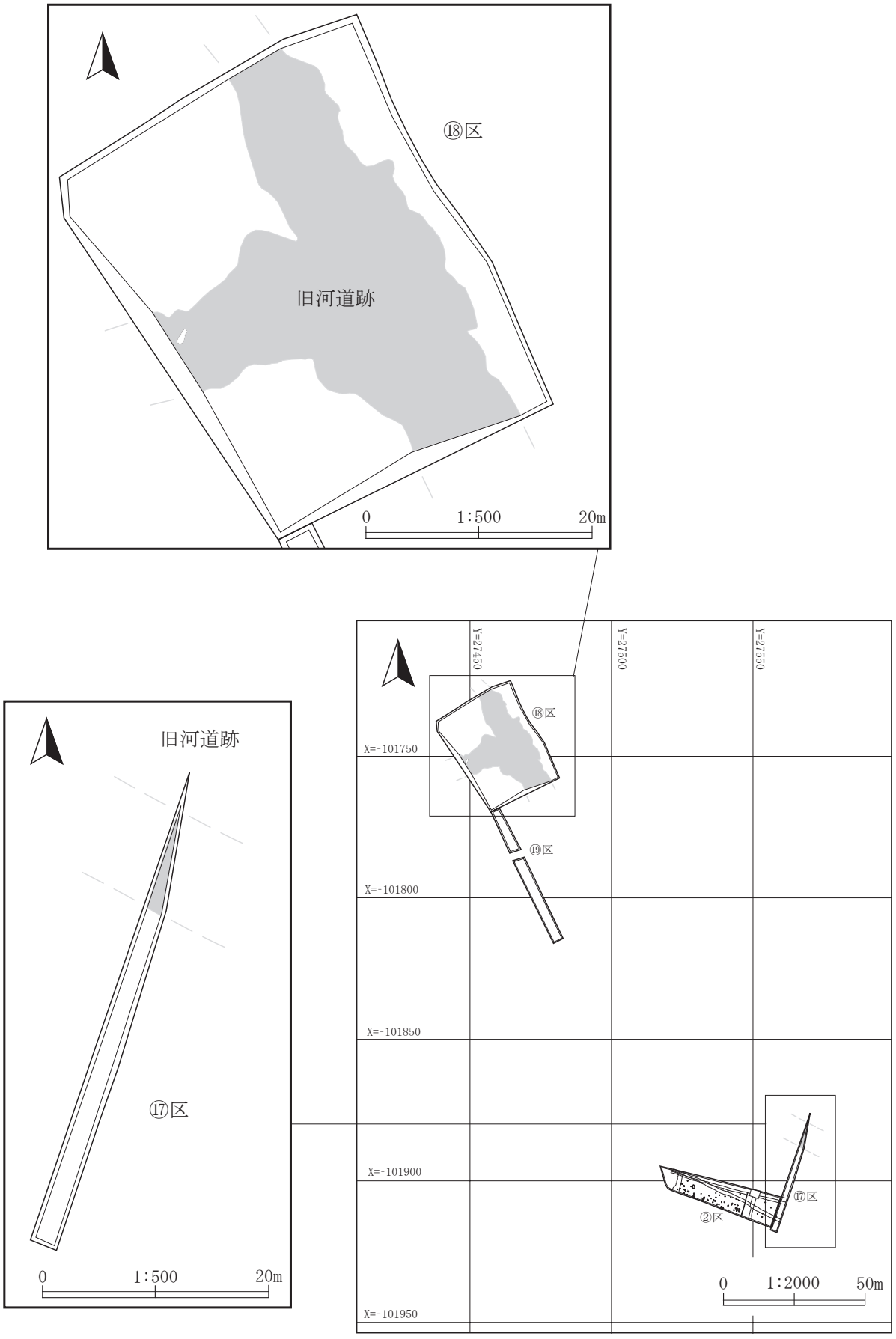
第23図　⑭区遺構配置図



第24図　⑭区遺構配置図 (1)

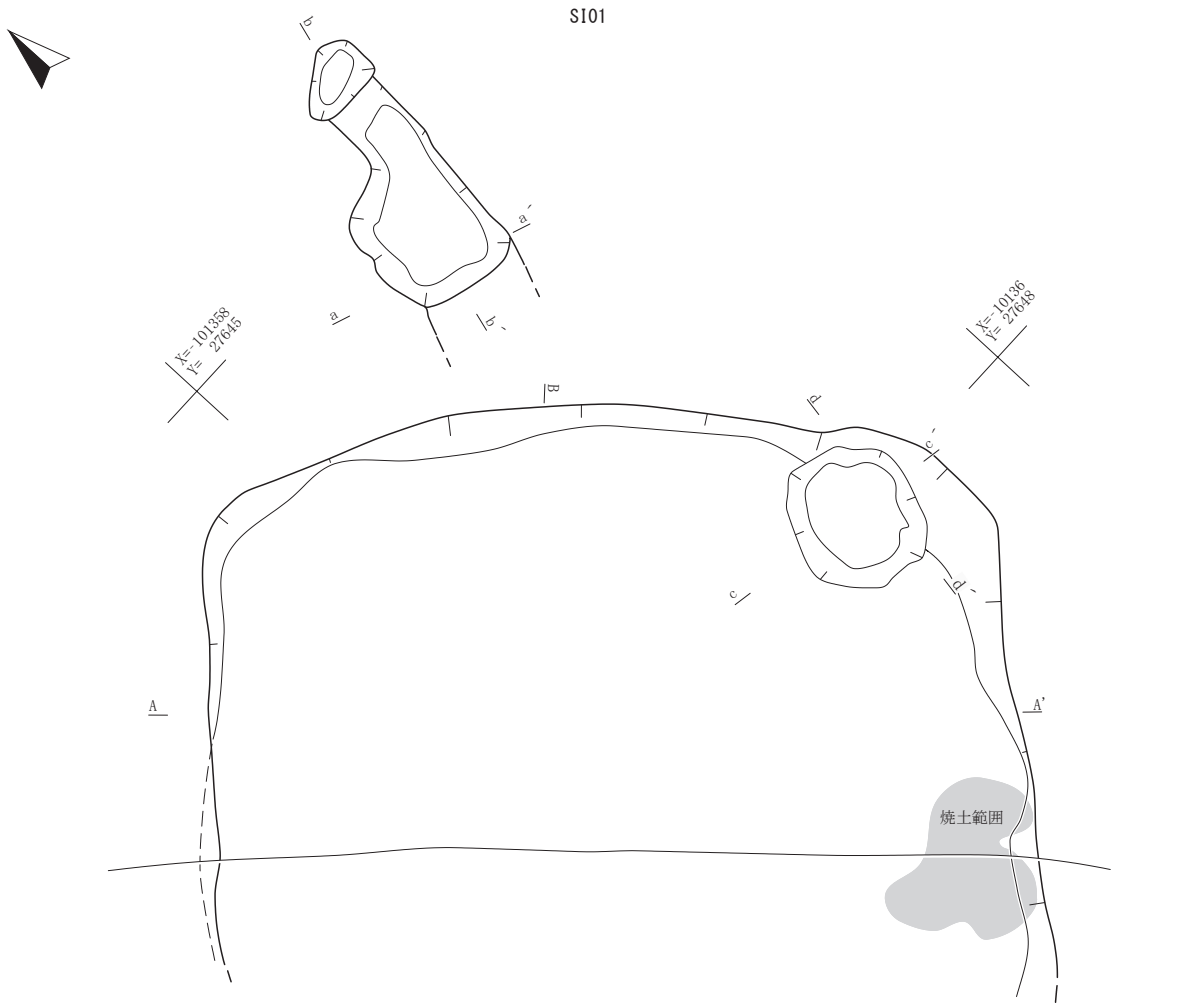


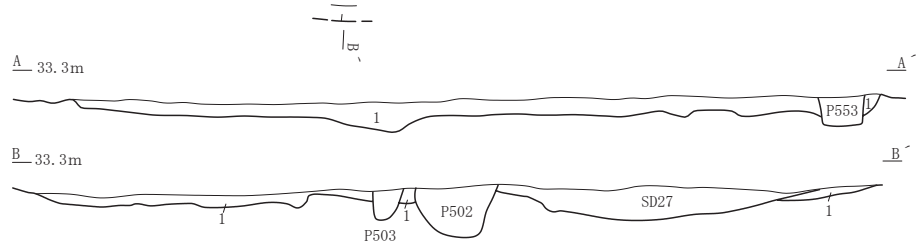
第25図　⑭区遺構配置図 (2)



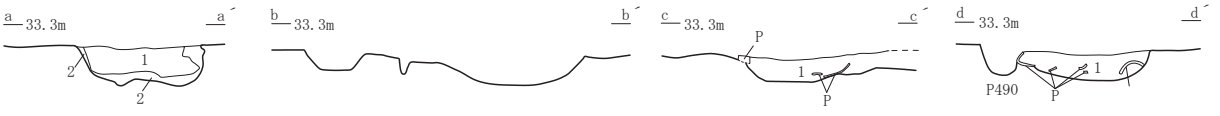
第26図　⑱・⑲区遺構配置図

第27図　⑳区遺構配置図





SI01A-A´・B-B´
1 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密　明黄褐色シルトブロック5～7%混入(貼り床土)

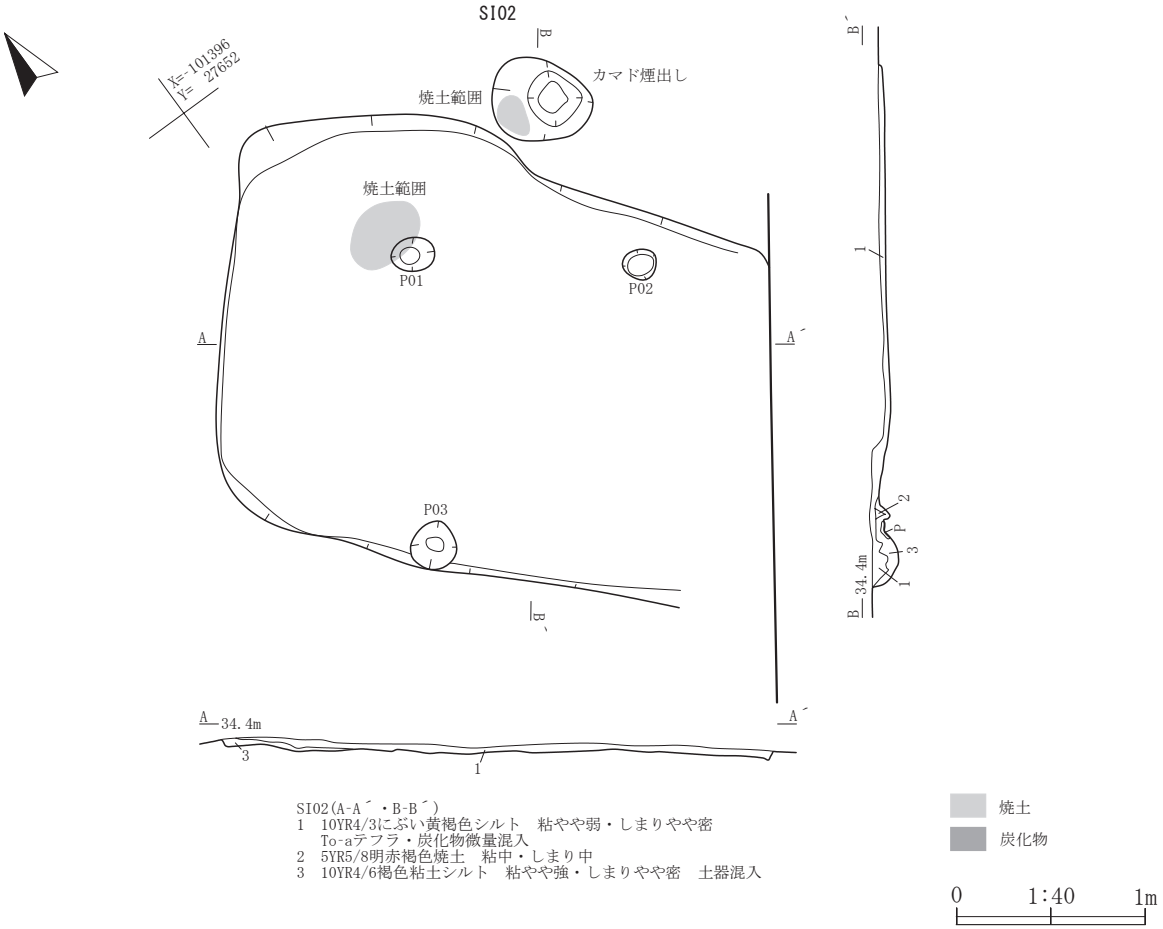


SI01煙道(a-a´)
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密　2を3%を含む
2 10YR5/6黄褐色シルト　粘中・しまりやや密　2を3%含む(地山？)

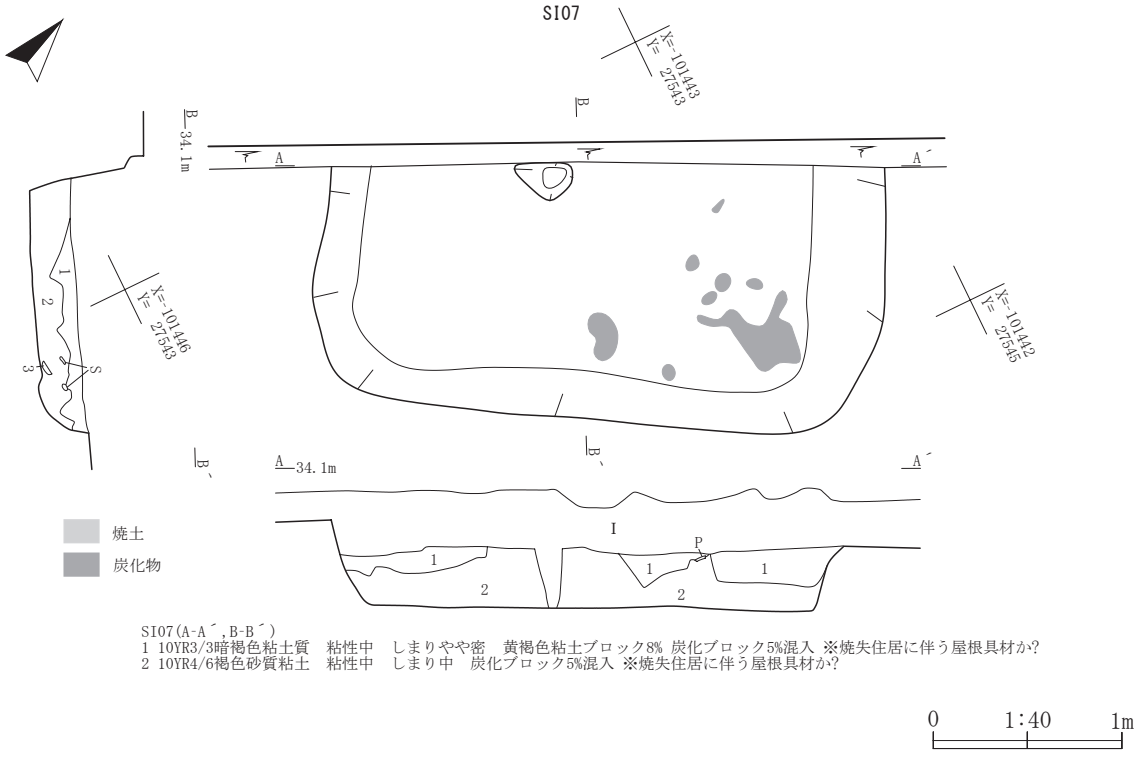
SI01床下土抗(c-c´・d-d´)
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘やや強・しまり密
黄褐色粘土ブロック5%混入(人為層)

0　1:40　1m

第28図　SI01竪穴住居跡

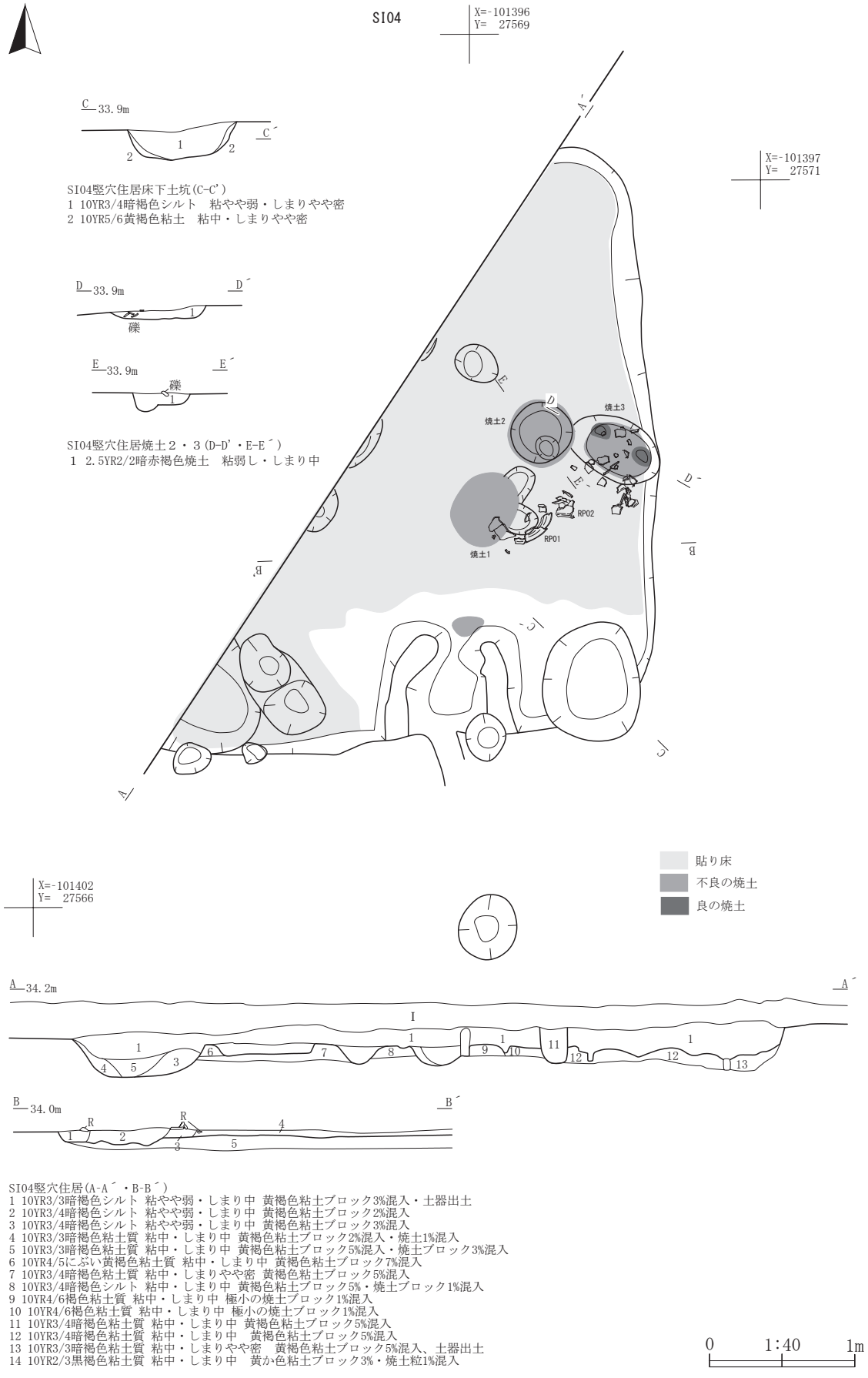


SI02(A-A´・B-B´)
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
　To-aテフラ・炭化物微量混入
2　5YR5/8明赤褐色焼土　粘中・しまり中
3　10YR4/6褐色粘土シルト　粘やや強・しまりやや密　土器混入

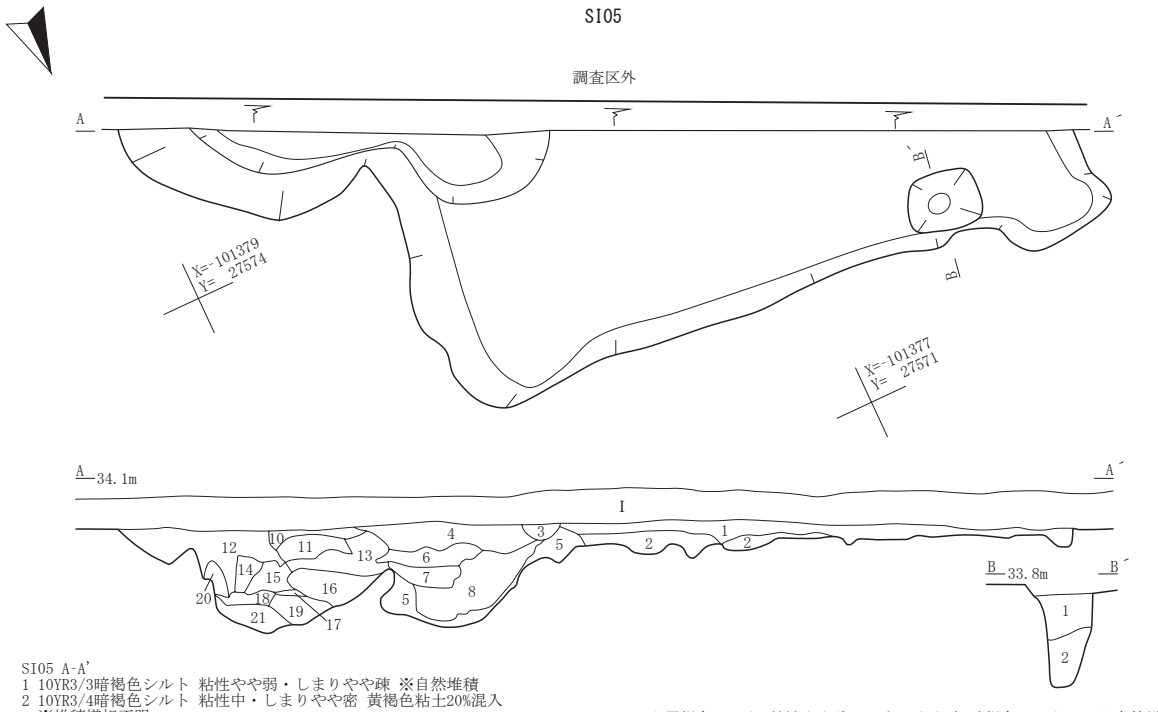


SI07(A-A´,B-B´)
1 10YR3/3暗褐色粘土質　粘性中　しまりやや密　黄褐色粘土ブロック8% 炭化ブロック5%混入 ※焼失住居に伴う屋根具材か?
2 10YR4/6褐色砂質粘土　粘性中　しまり中　炭化ブロック5%混入 ※焼失住居に伴う屋根具材か?

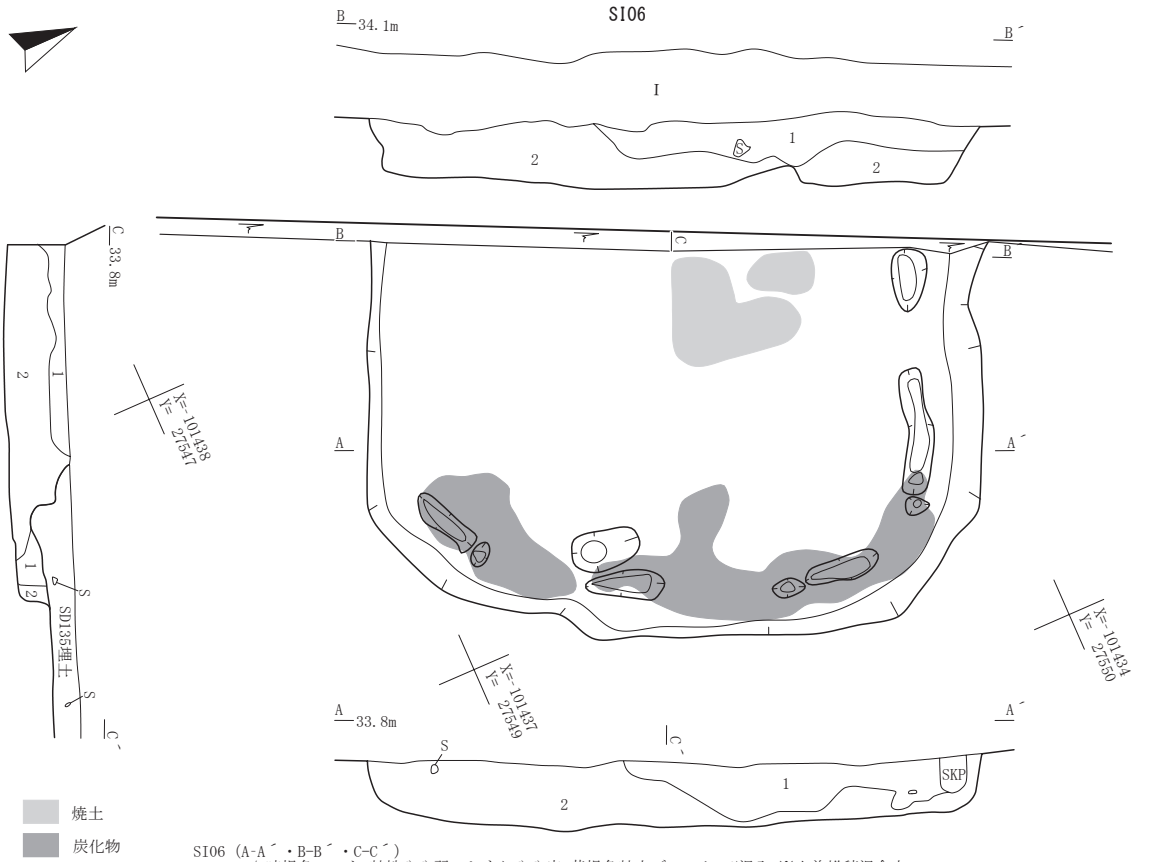
第29図　SI02・07竪穴住居跡



第30図　SI04竪穴住居跡



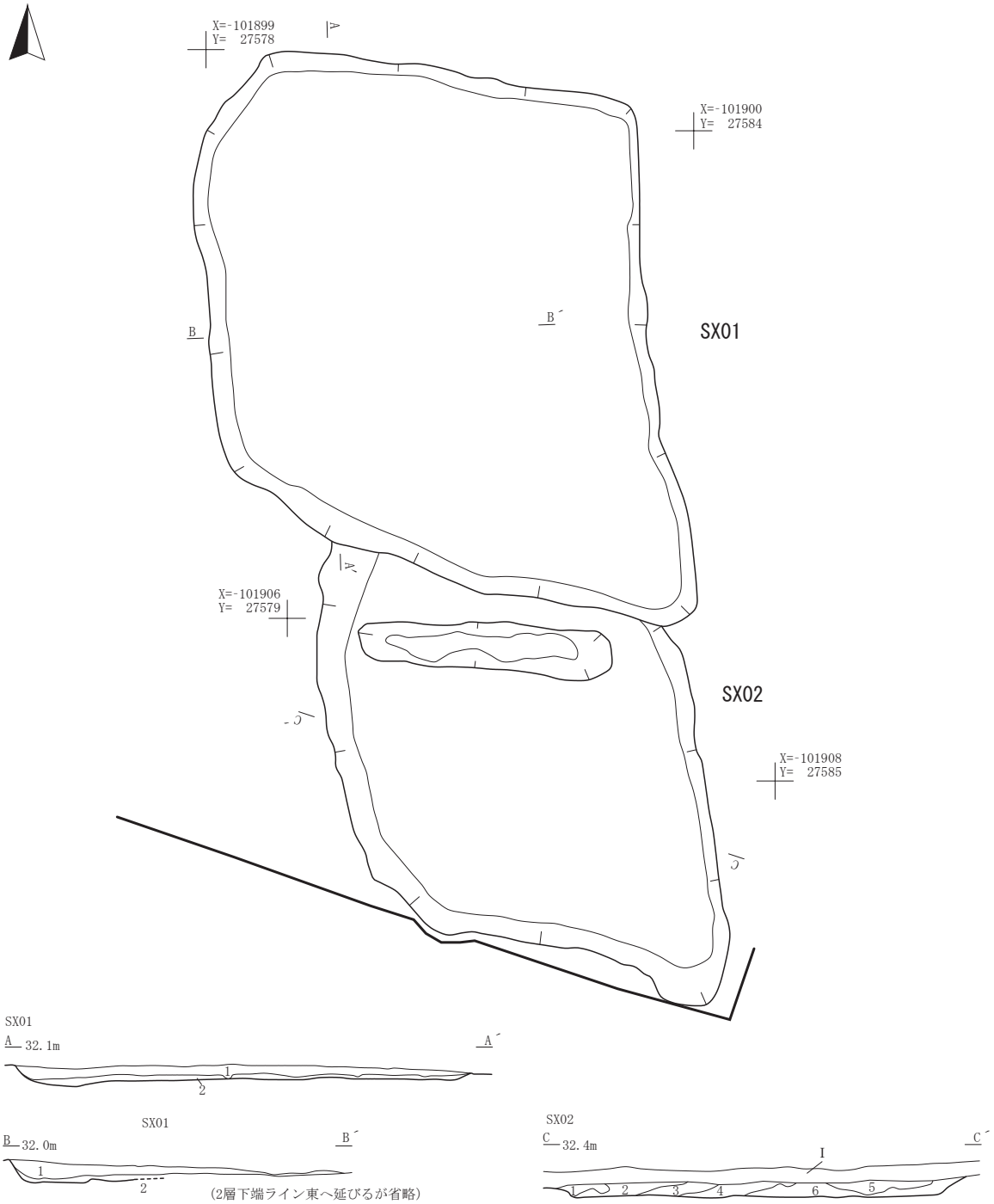
SI05 A-A'
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱・しまりやや疎 ※自然堆積
2 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中・しまりやや密 黄褐色粘土20%混入
※堆積様相不明
3 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土3%混入
4 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまり中 黄褐色土粘土3%
焼土粒1%未満混入
5 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 黄褐色粘土7%混入
6 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 炭化物1%
黄褐色粘土ブロック5%混入
7 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎
8 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱・しまりやや疎 黄褐色粘土30%混入
9 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや強・しまり中 黄褐色粘土ブロック3%混入
10 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 ※自然堆積層
11 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 暗褐色シルト10% ※自然堆積層?
12 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土7%混入
13 10YR1/2黒色シルト 粘性やや強・しまりやや疎
14 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中・しまりやや疎
15 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 黄褐色粘土5%混入
16 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 黄褐色粘土15%混入
17 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや強・しまり中
18 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎
19 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 ※18層同質土
20 10YR4/4褐色シルト質粘土 粘性やや強・しまり中
21 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや疎 黄褐色粘土5%混入



SI06 (A-A´・B-B´・C-C´)
1 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱・しまりやや密 黄褐色粘土ブロック10%混入 ※人為堆積混合土
2 10YR5/8黄褐色粘土 粘性中・しまりやや密 暗褐色シルト30% ※人為堆積混合土

0 1:40 1m

第31図 SI05・06竪穴住居跡

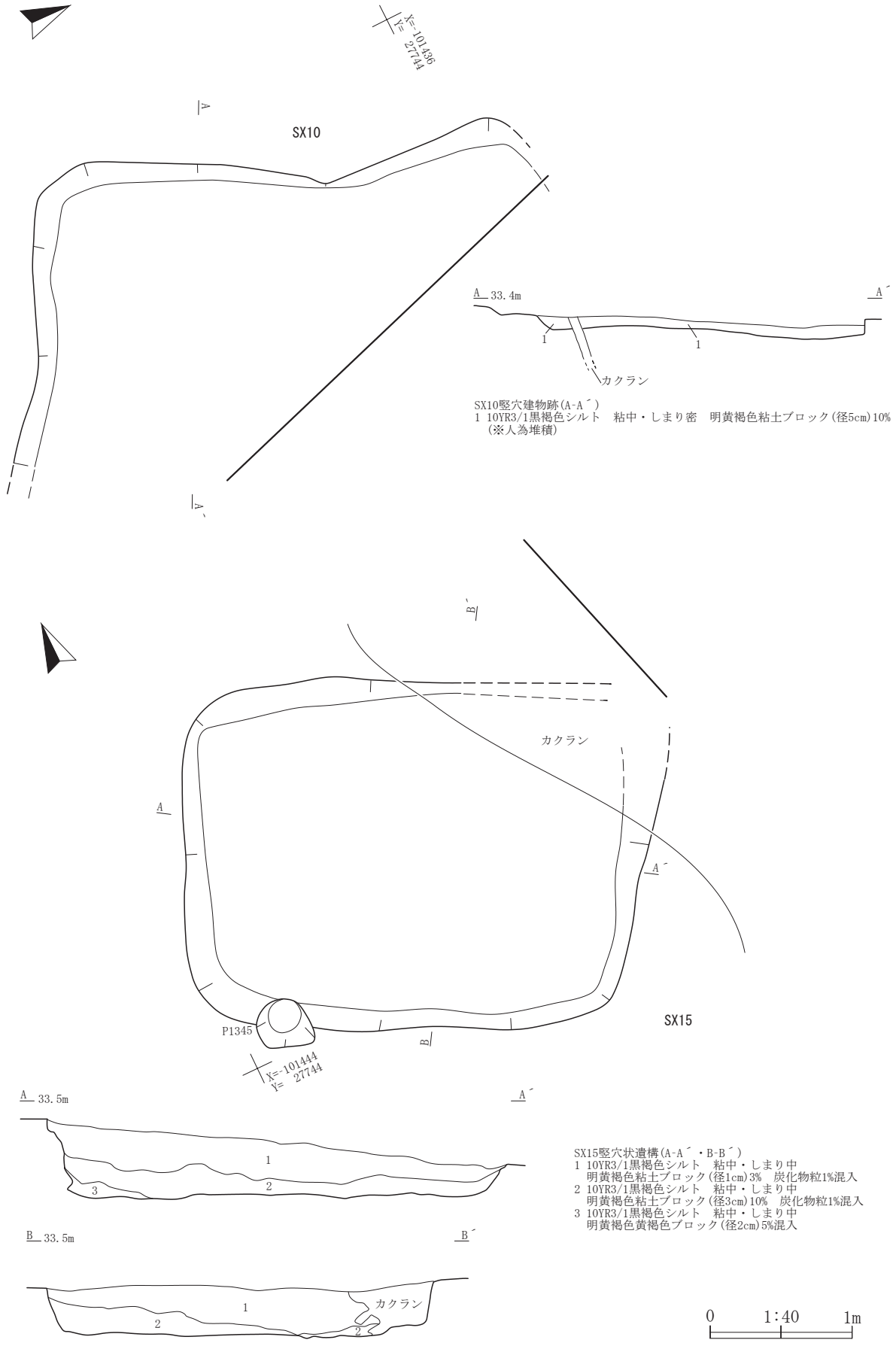


SX01竪穴状遺構(A-A´・B-B´)
1 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや密　明黄褐色シルトブロックφ2～5cm 5%・炭化物粒φ2mm 1%混入
2 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや密　明黄褐色シルトブロックφ2～5cm 30%混入(※貼り床？)

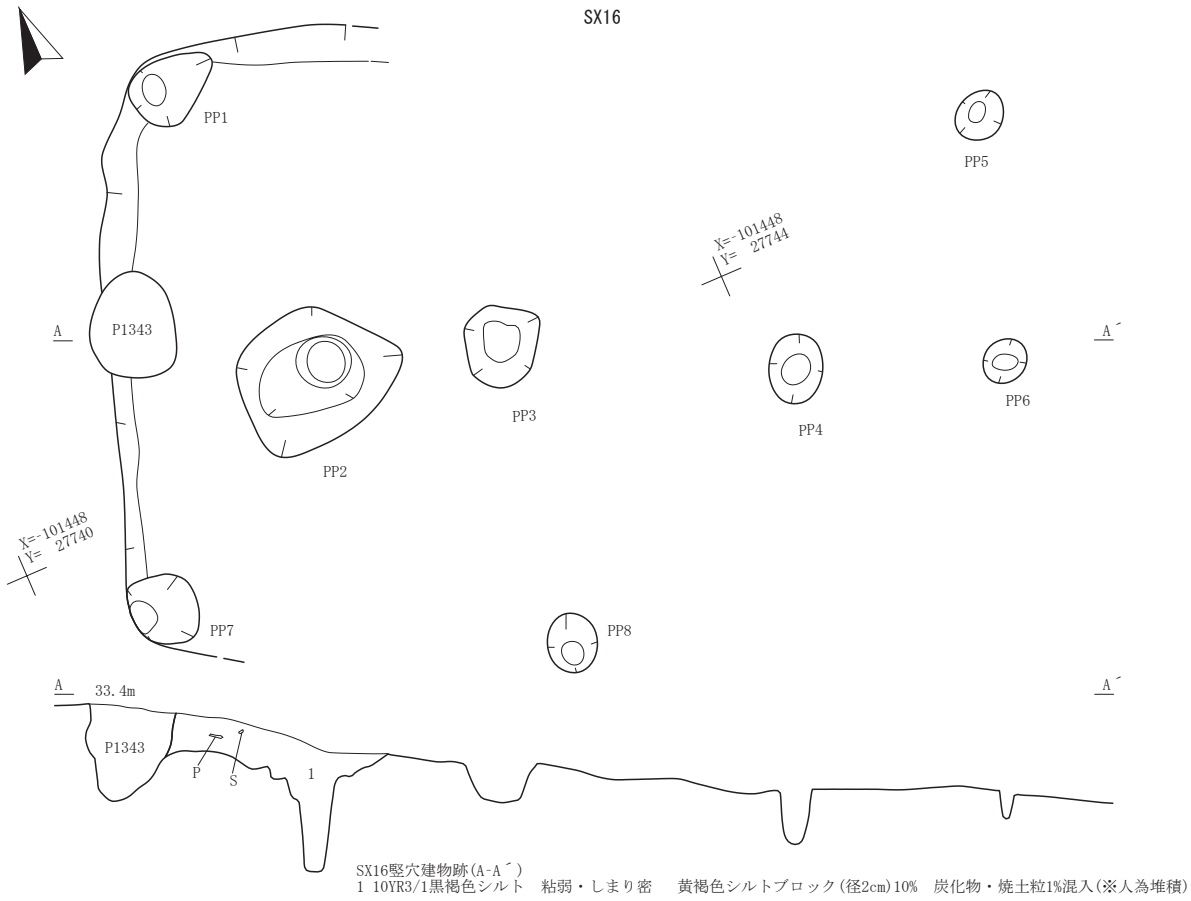
SX02竪穴状遺構(C-C´)
1 10YR3/1黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　明黄褐色シルトブロックφ3cm 3%混入
2 10YR6/8明黄褐色シルト　粘弱・しまりやや密　黒褐色シルトブロックφ5～10cm 20%混入
3 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや強密　明黄褐色シルトブロックφ2～3cm 3%混入
4 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　明黄褐色ブロックφ5～10cm 30%混入
5 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや密　明黄褐色ブロックφ5cm 5%混入
6 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや密　炭化物粒φ5mm 1%混入

0　1:80　4m

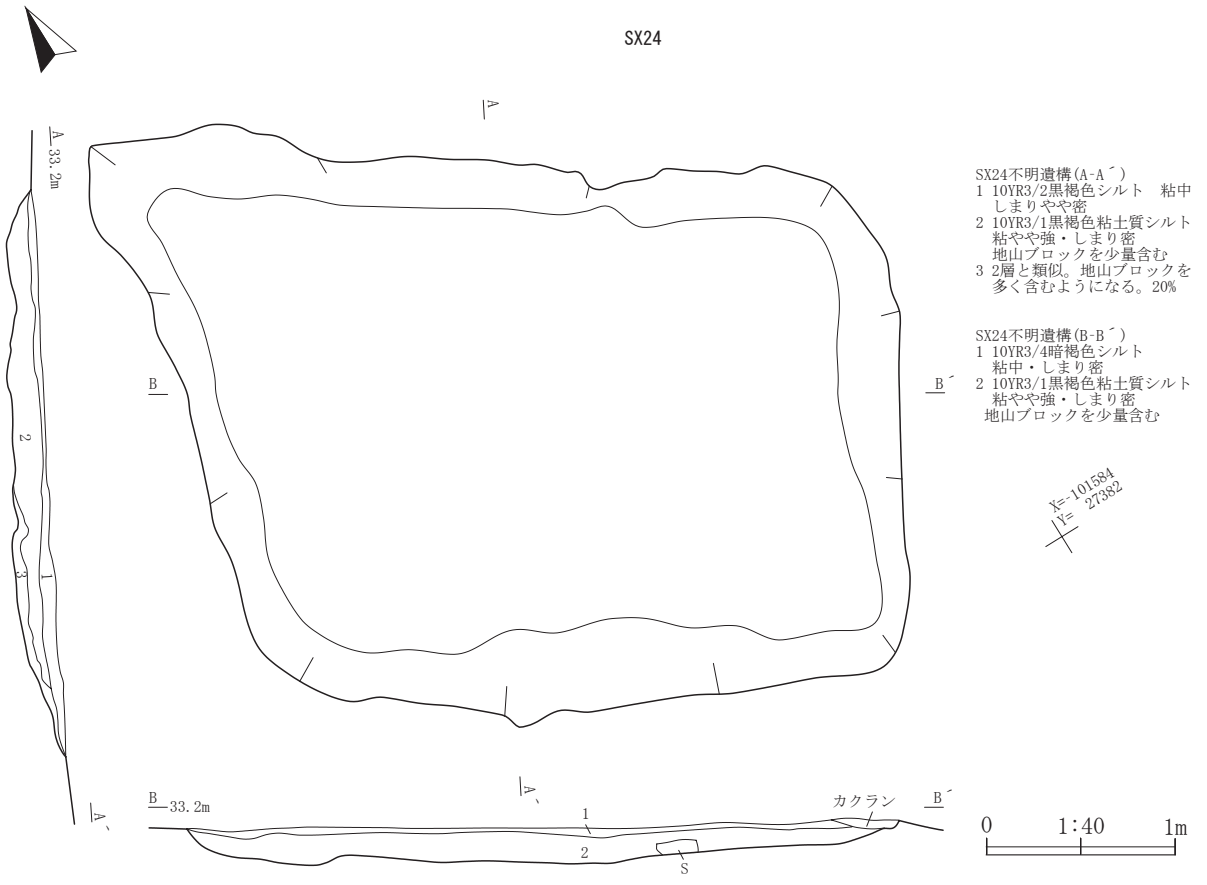
第32図　SX01・02竪穴状遺構



第33図　SX10竪穴建物跡・15竪穴状遺構



SX16竪穴建物跡(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト　粘弱・しまり密　黄褐色シルトブロック(径2cm)10%　炭化物・焼土粒1%混入(※人為堆積)

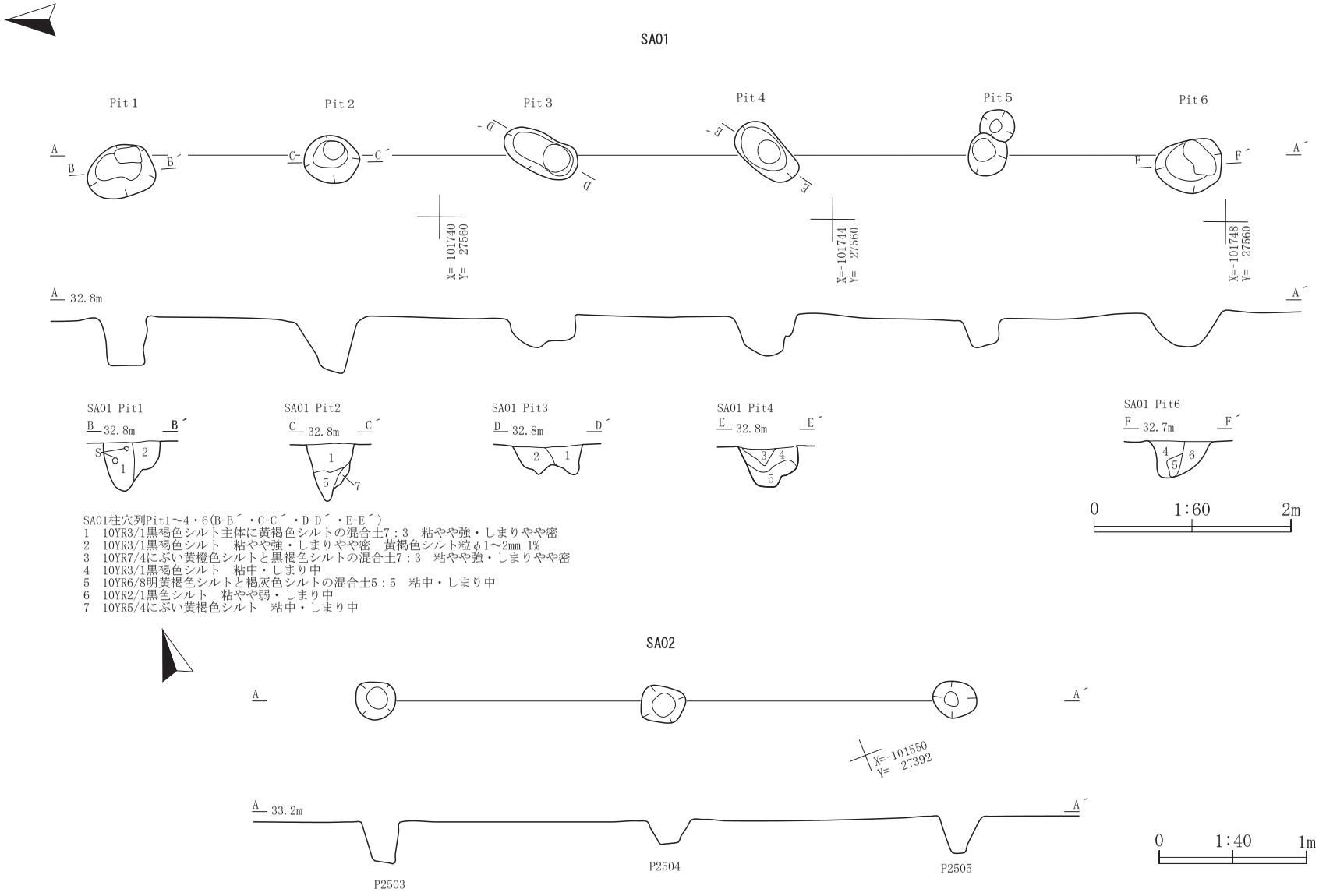


SX24不明遺構(A-A´)
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘中しまりやや密
2 10YR3/1黒褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり密　地山ブロックを少量含む
3 2層と類似。地山ブロックを多く含むようになる。20%

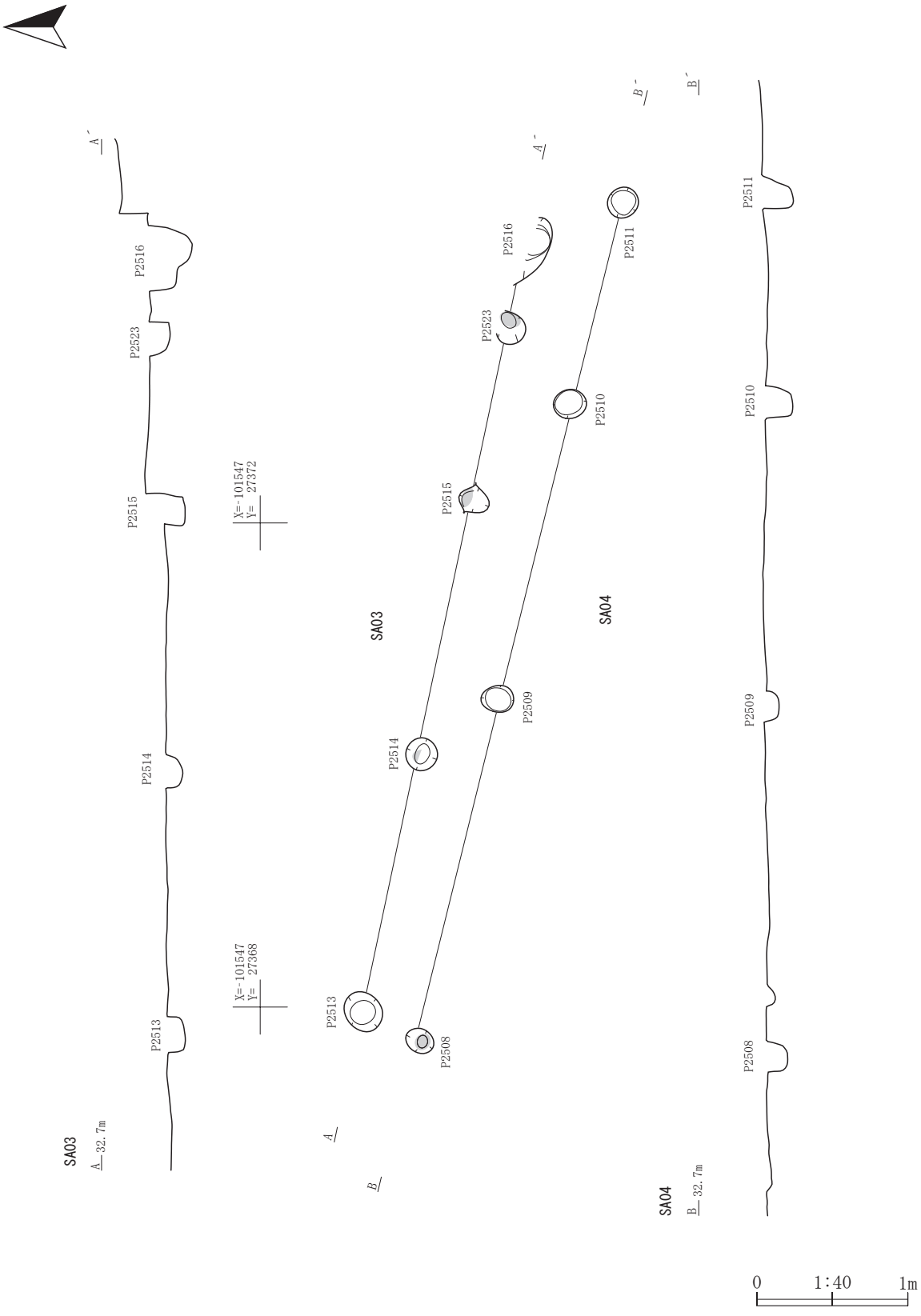
SX24不明遺構(B-B´)
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり密
2 10YR3/1黒褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり密　地山ブロックを少量含む

X=-101584
Y= 27382

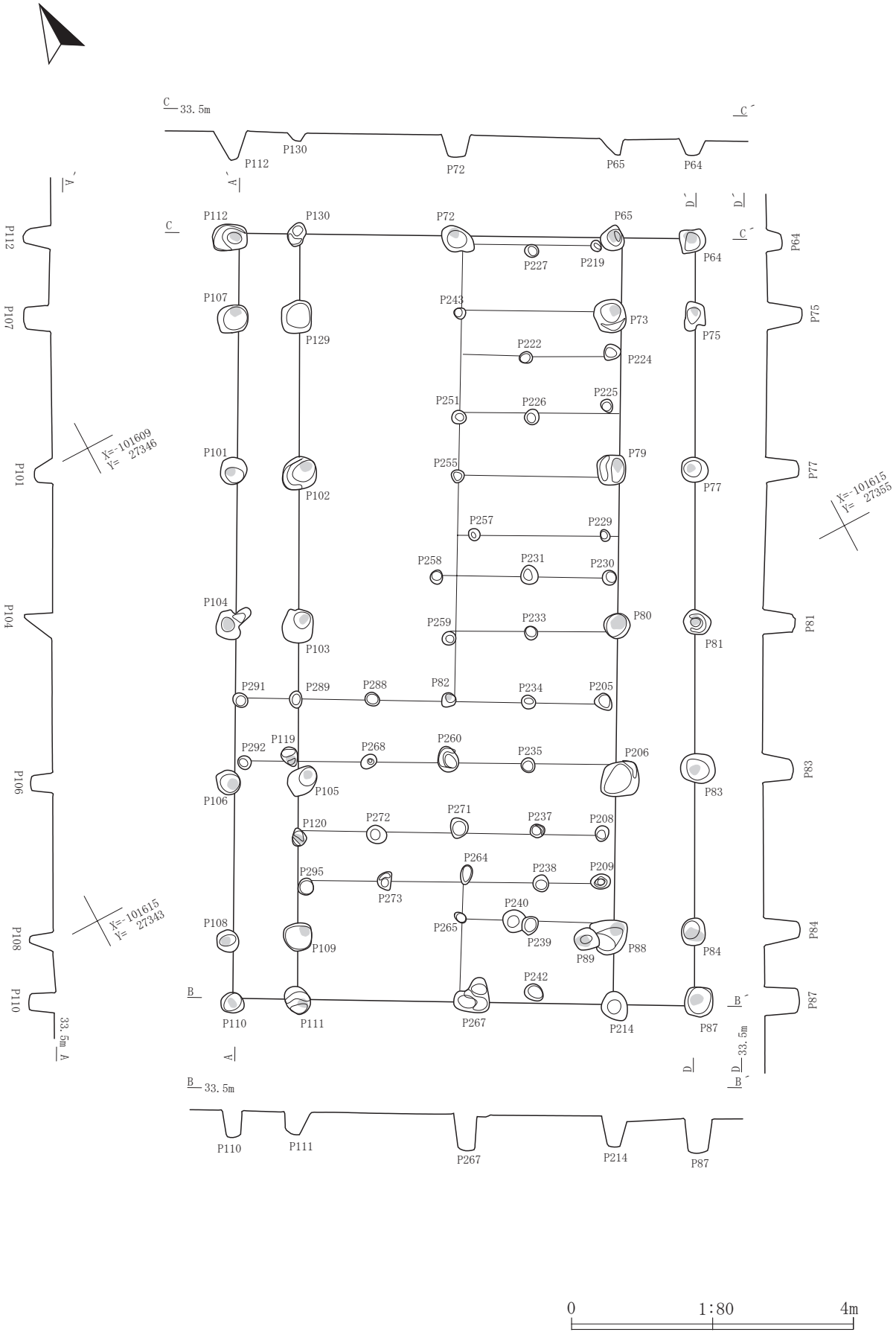
第34図　SX16竪穴建物跡・SX24不明遺構



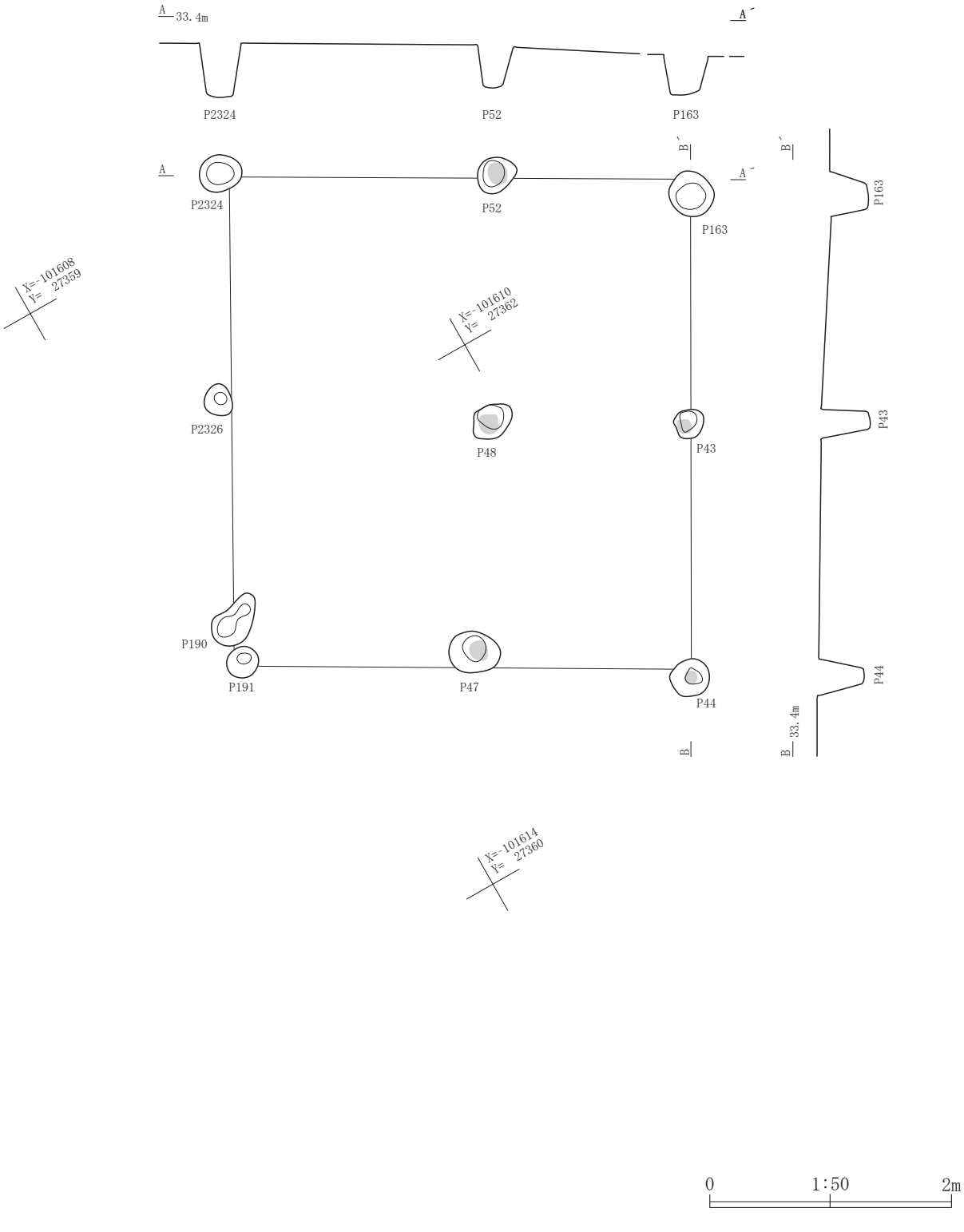
第35図 SA01・02柱穴列



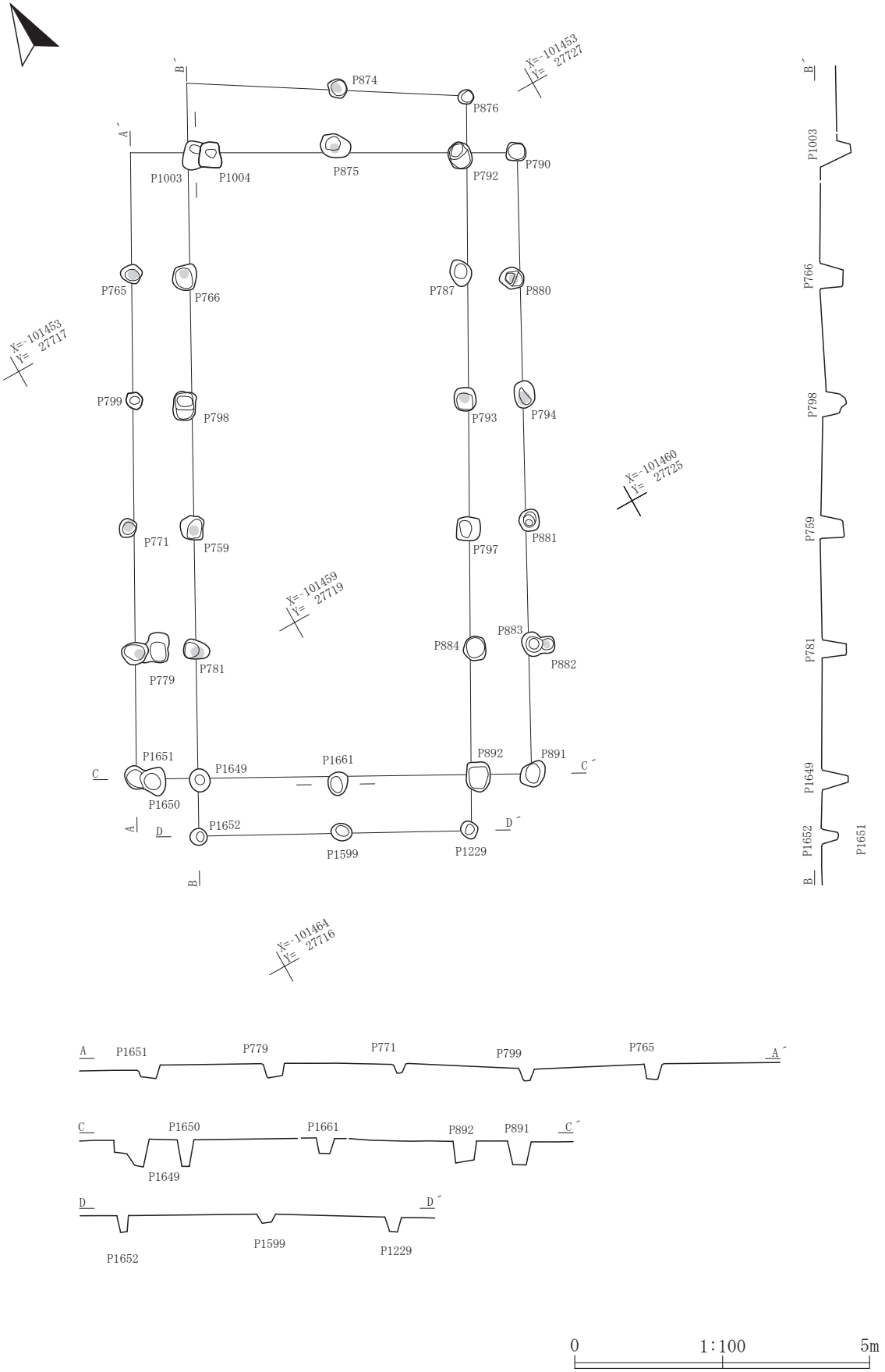
第36図　SA03・04柱穴列



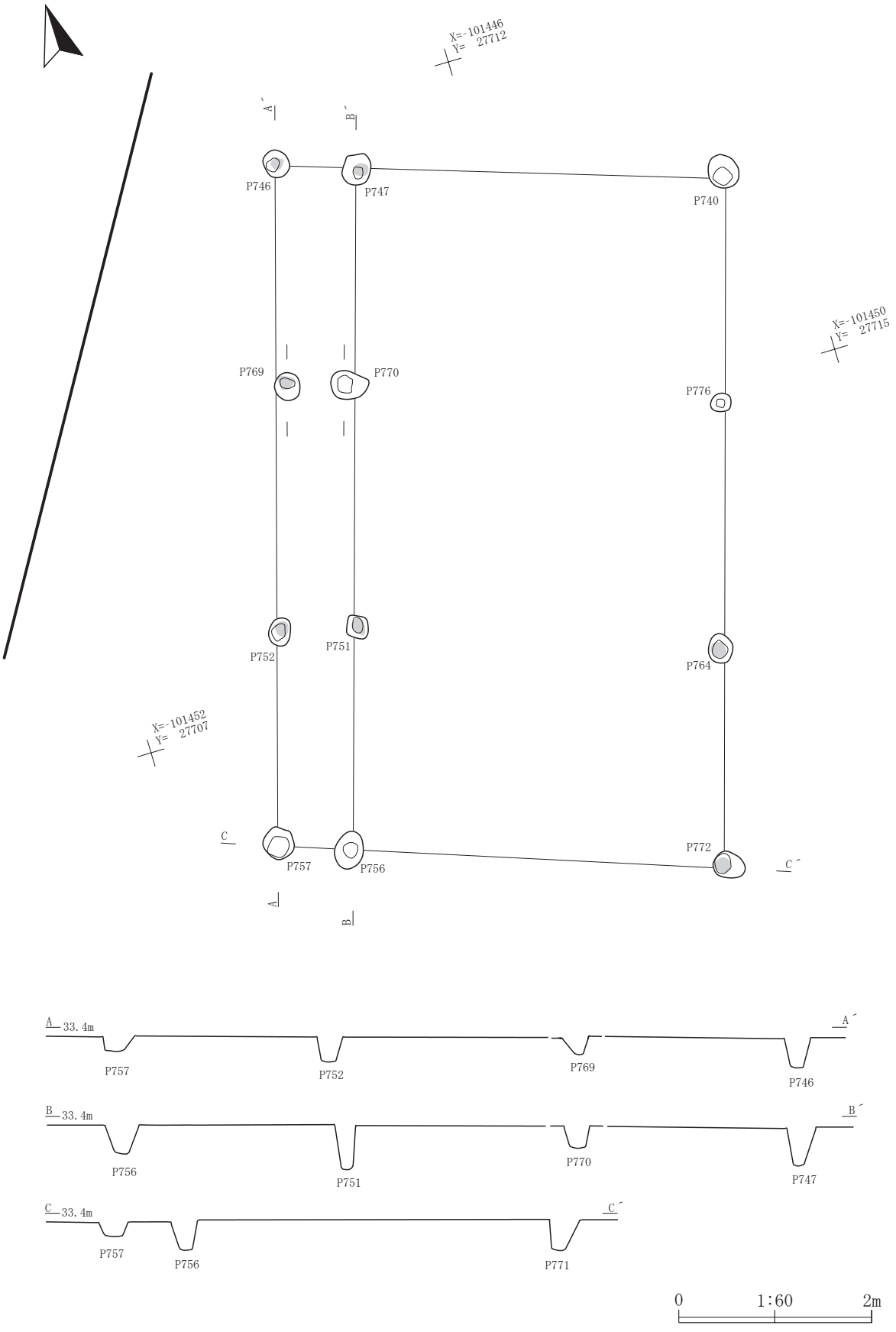
第37図　SB01掘立柱建物跡



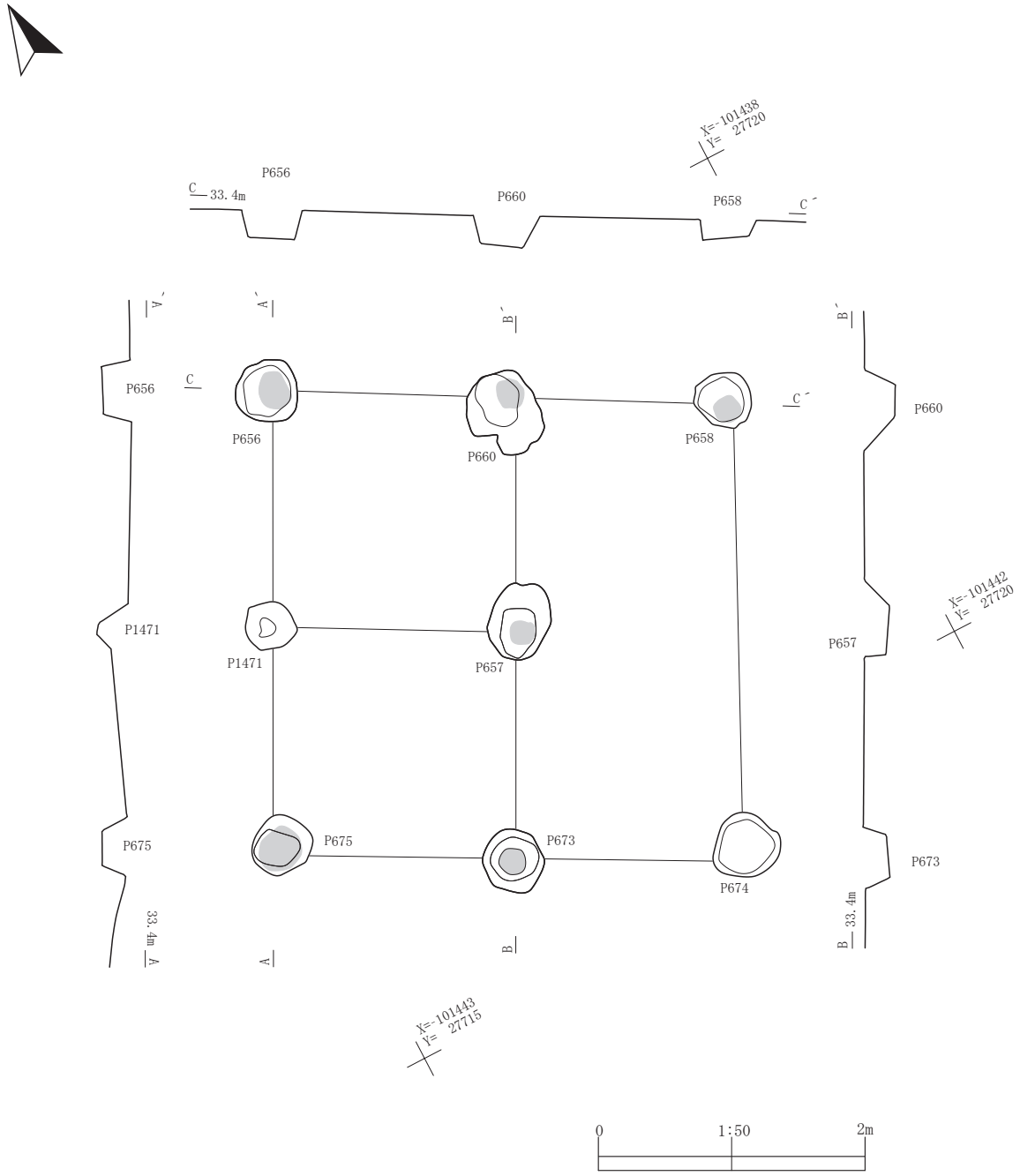
第38図　SB03掘立柱建物跡



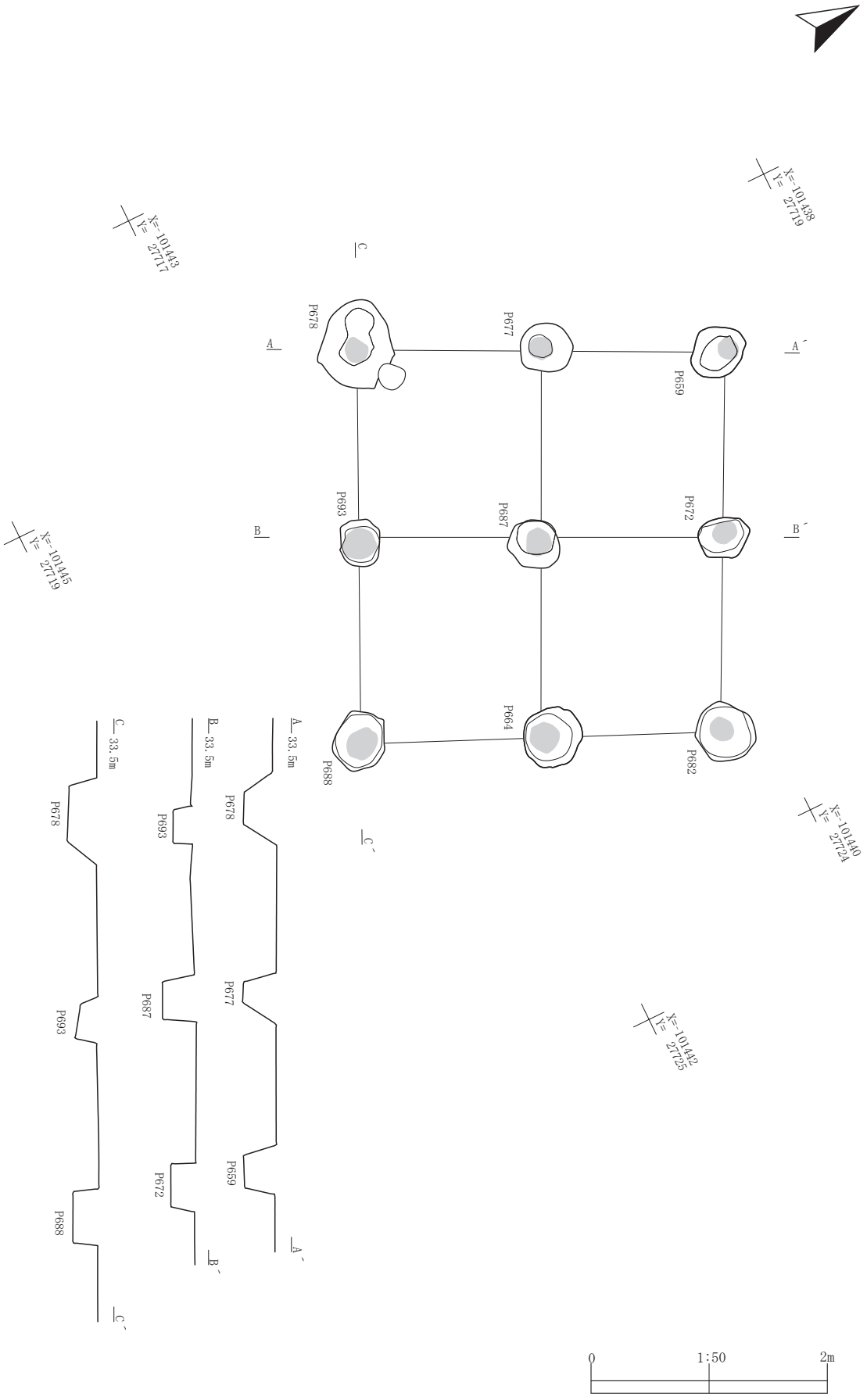
第39図　SB04掘立柱建物跡



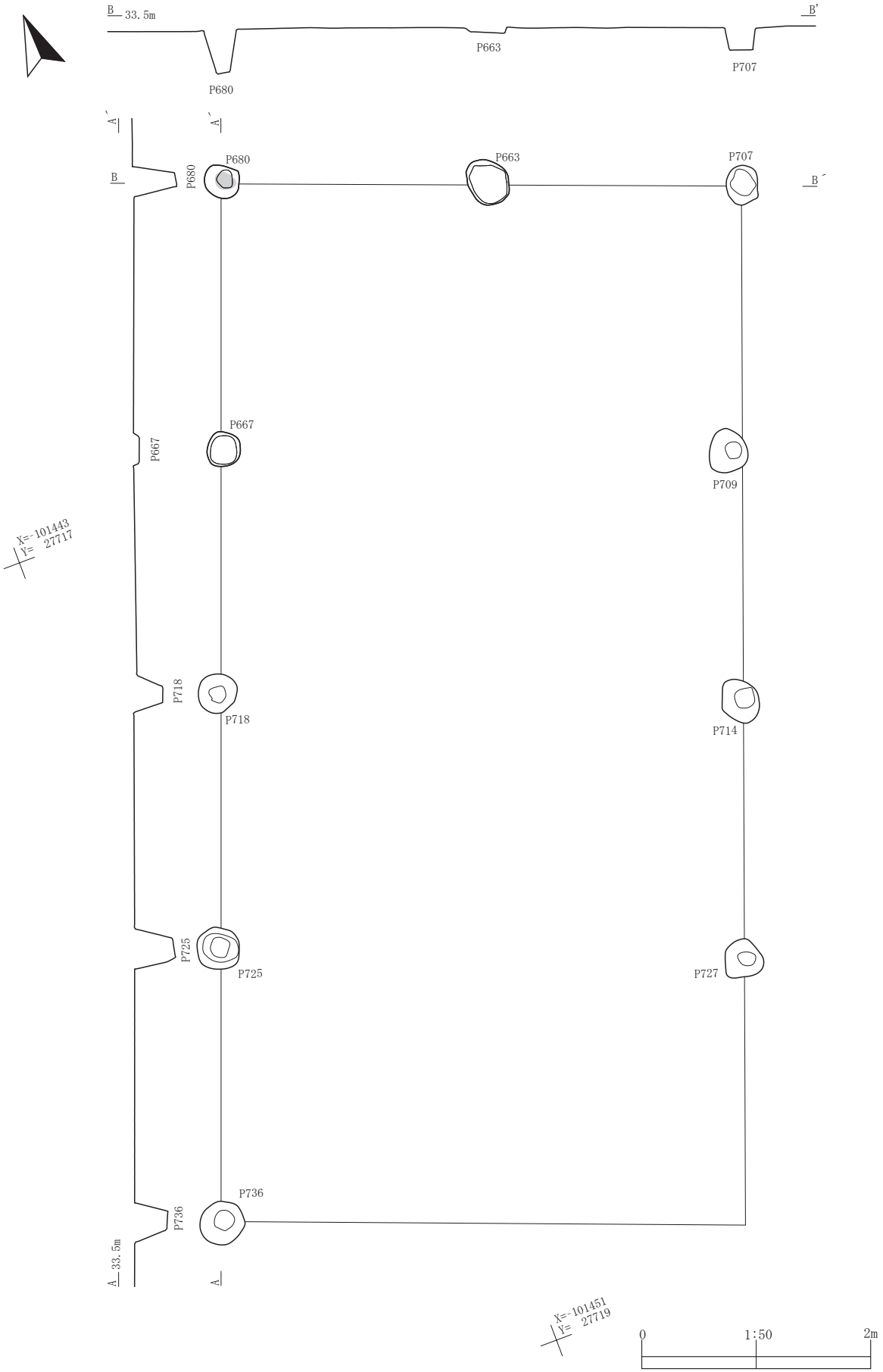
第40図　SB05掘立柱建物跡



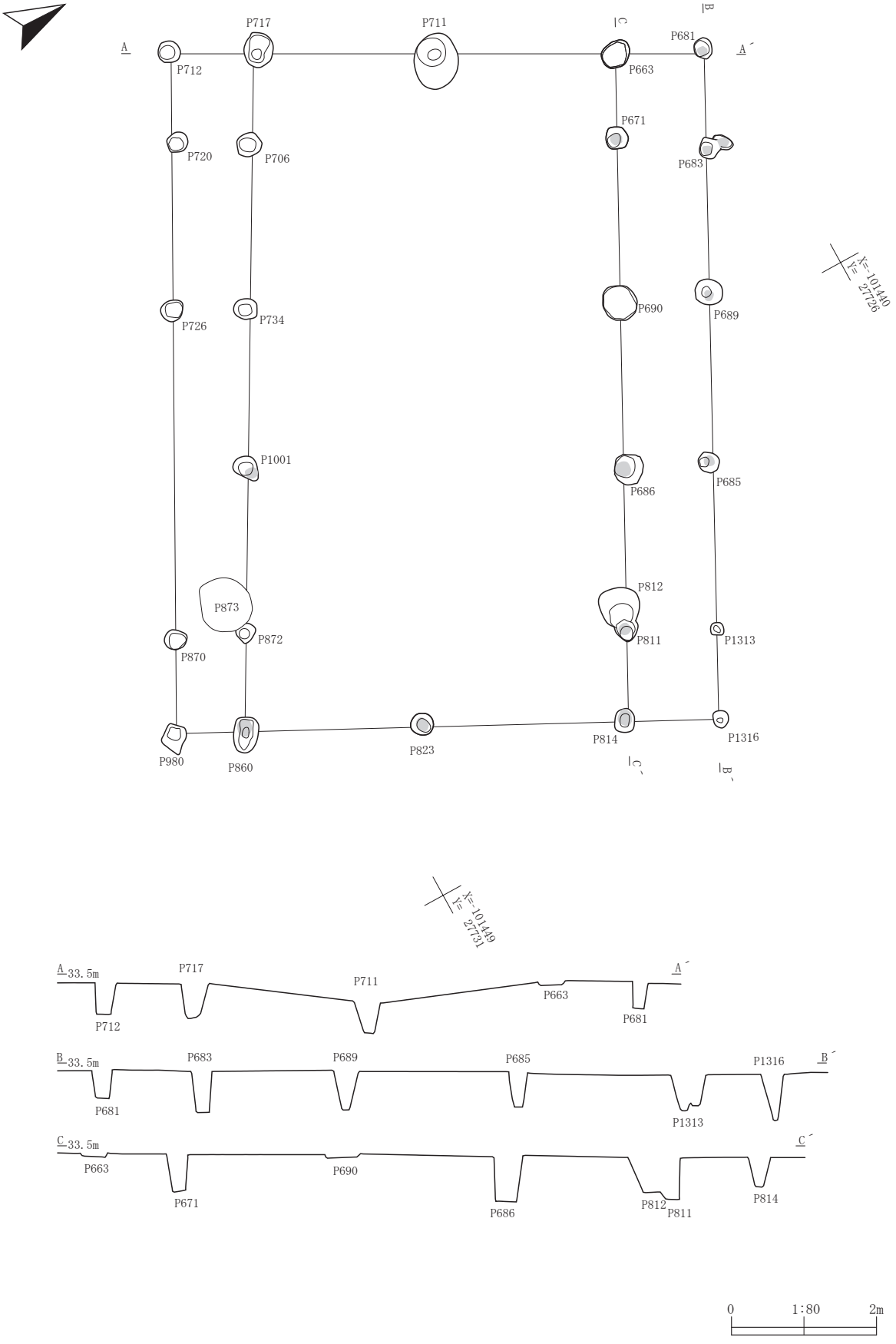
第41図　SB06掘立柱建物跡



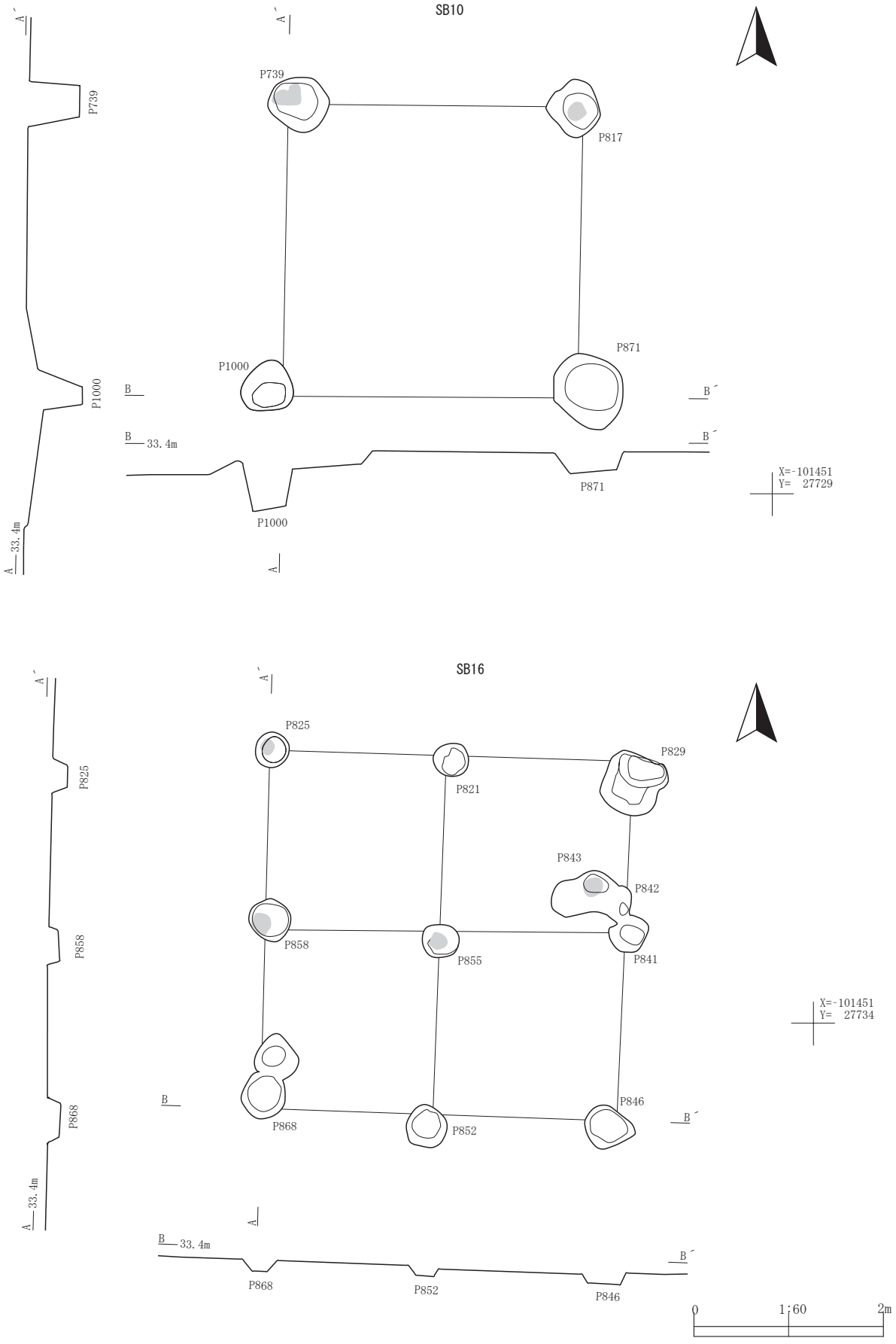
第42図　SB07掘立柱建物跡



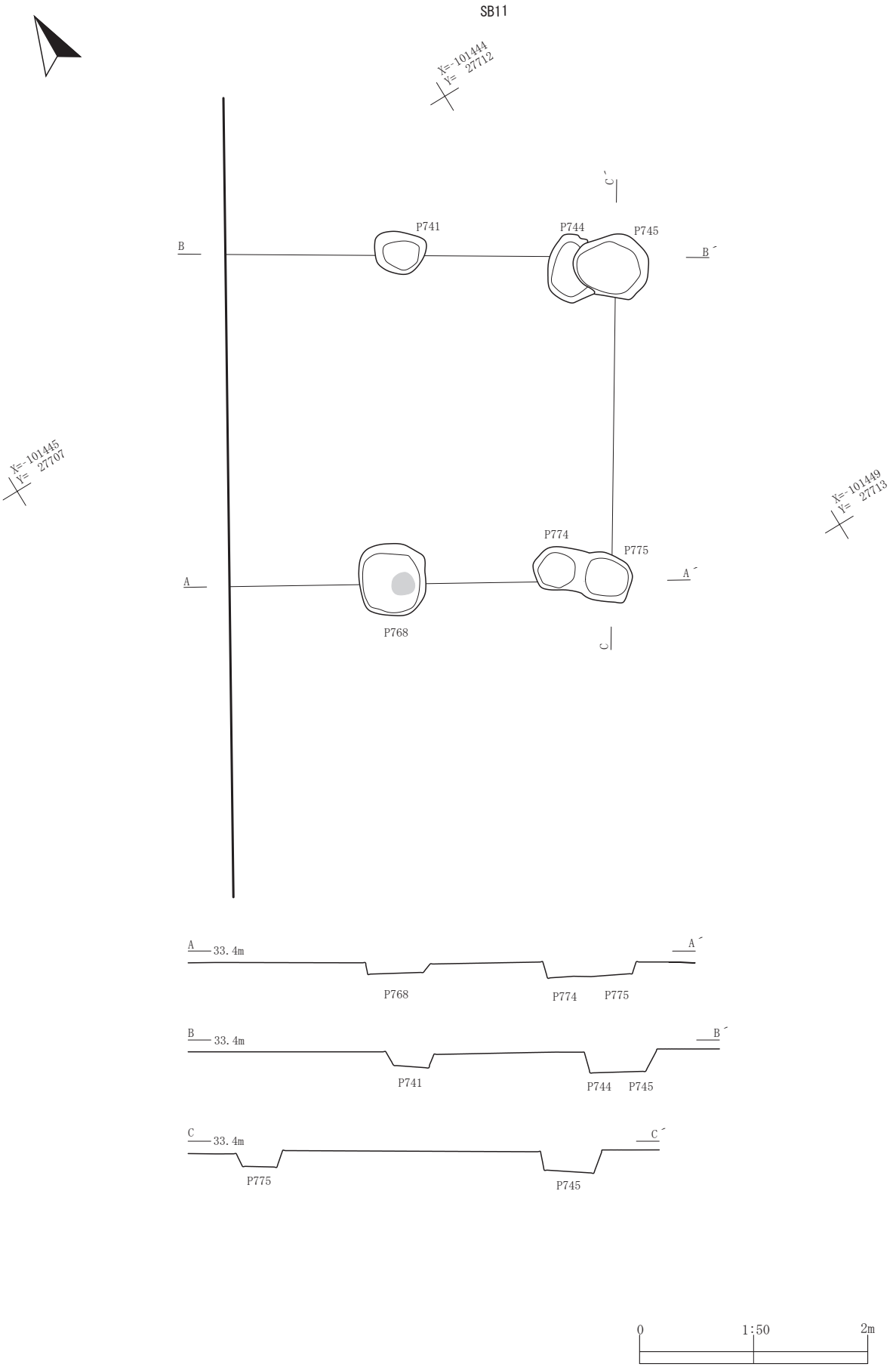
第43図　SB08掘立柱建物跡



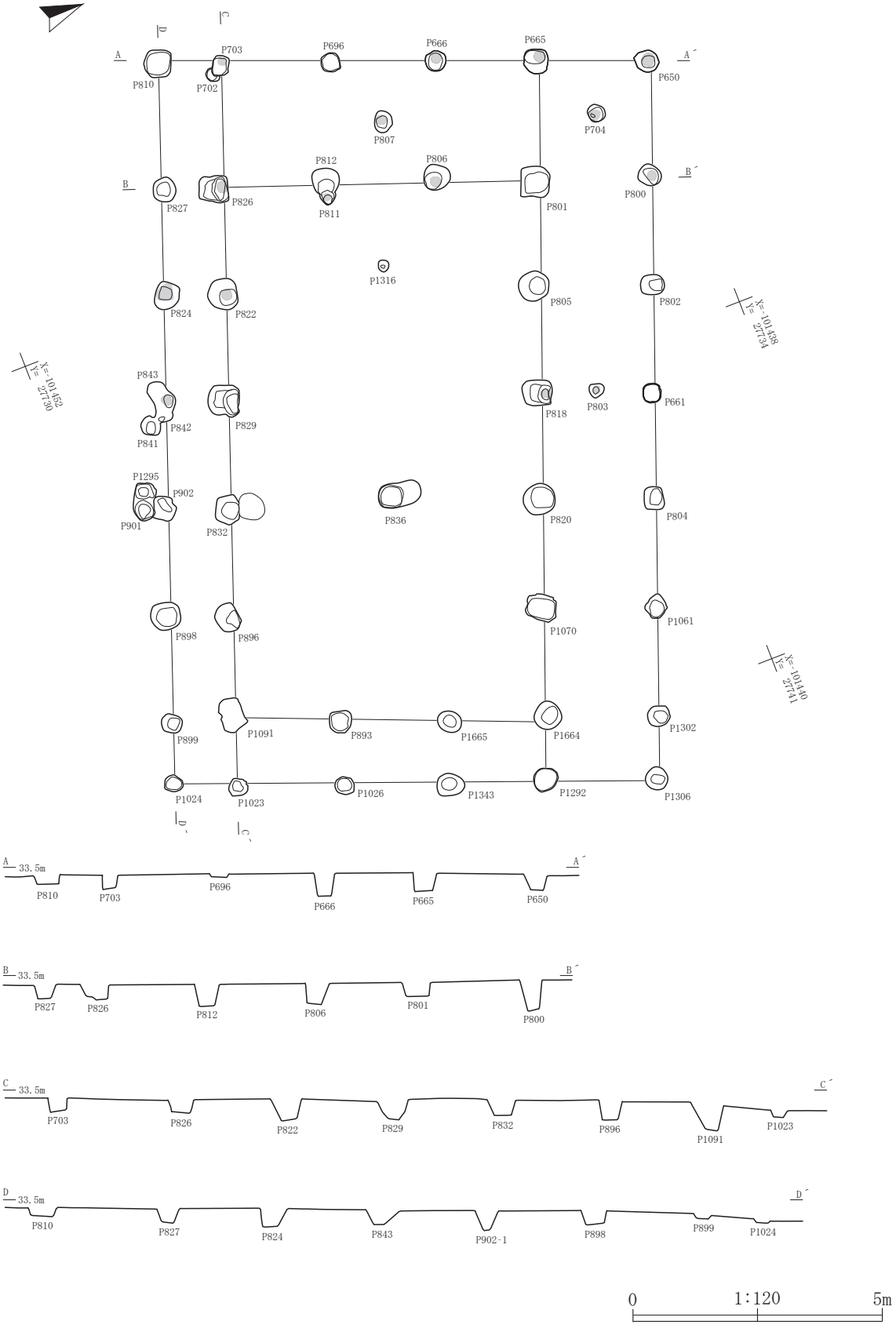
第44図　SB09掘立柱建物跡



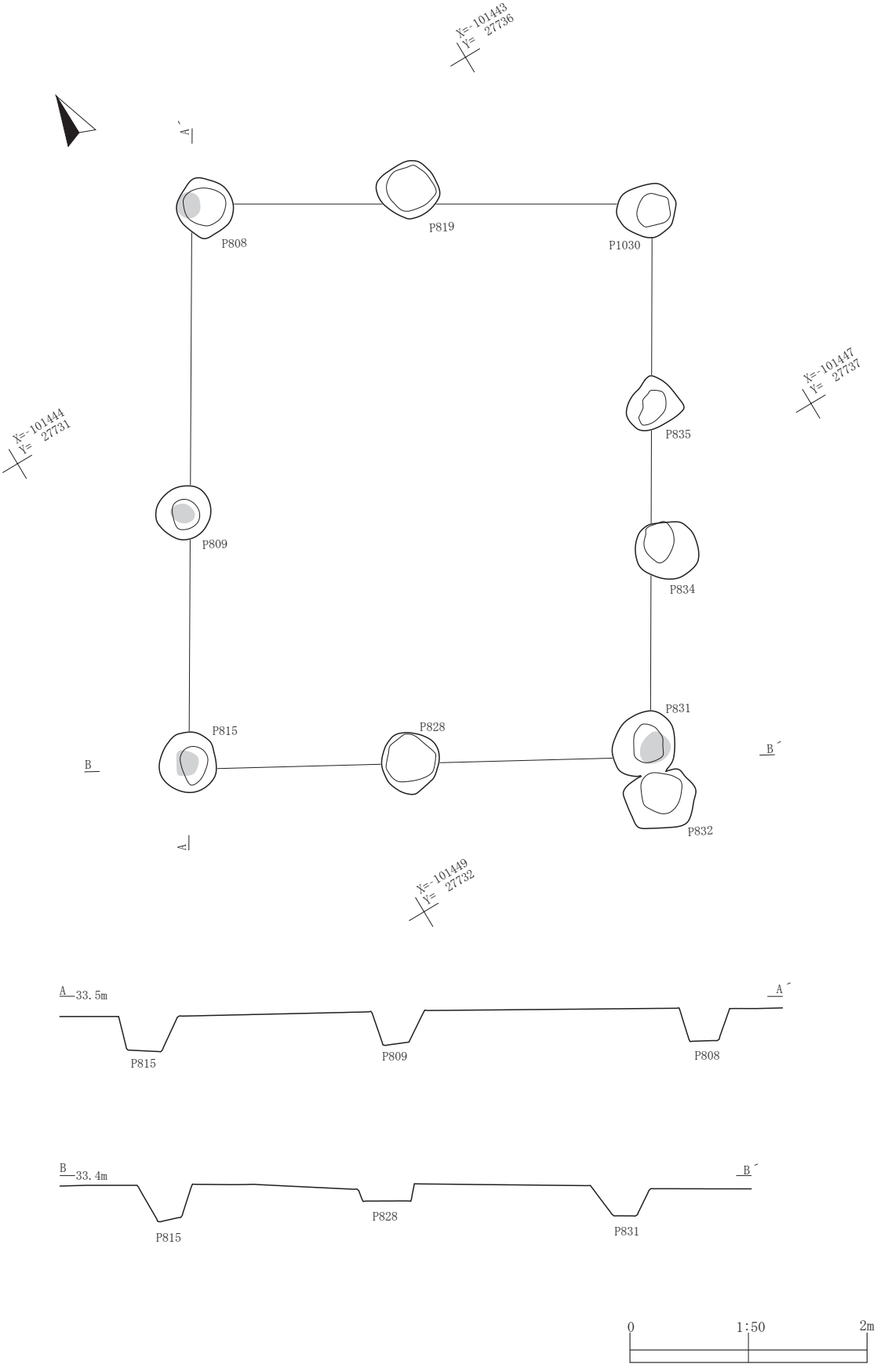
第45図　SB10・16掘立柱建物跡



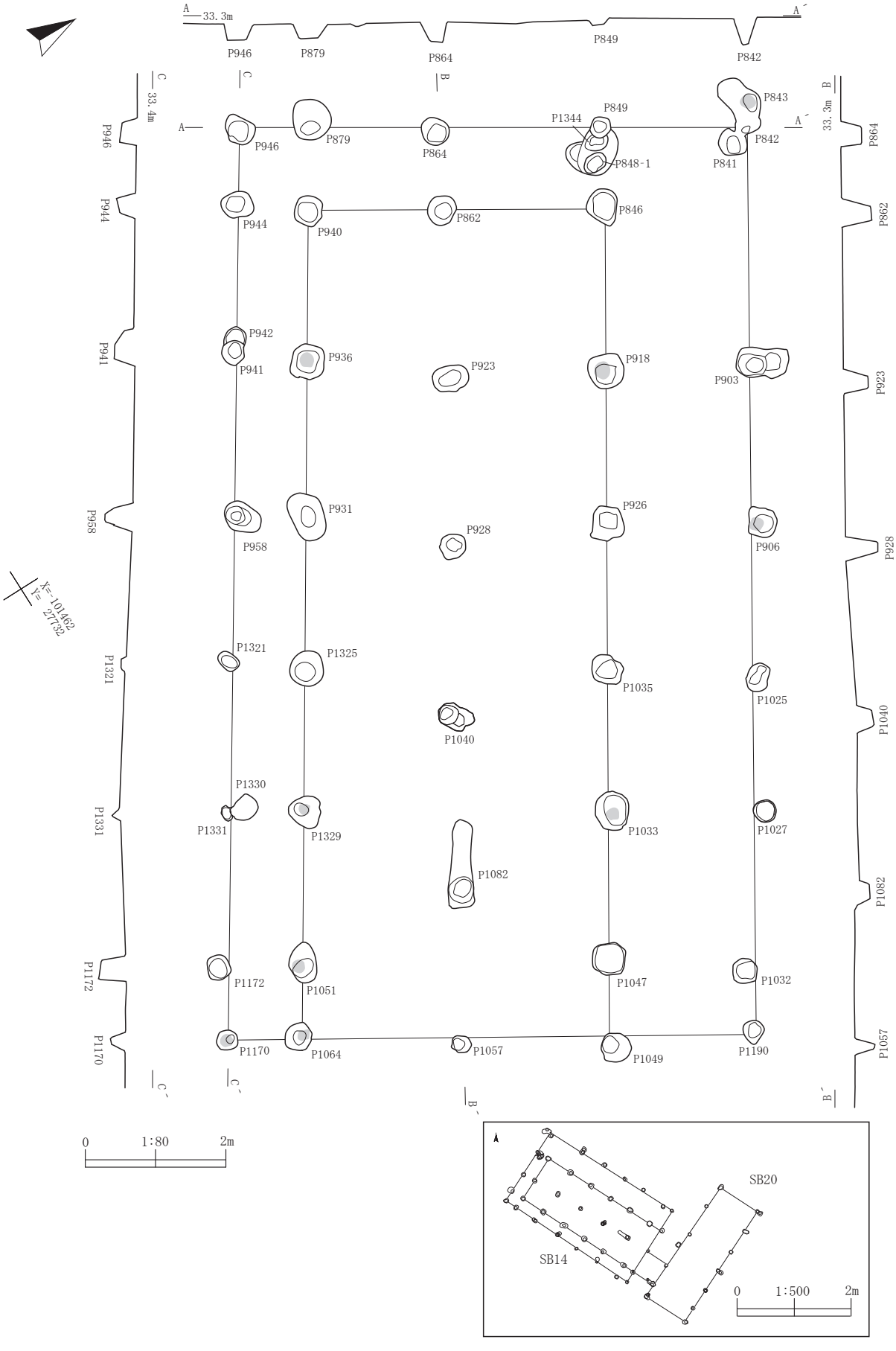
第46図　SB11掘立柱建物跡



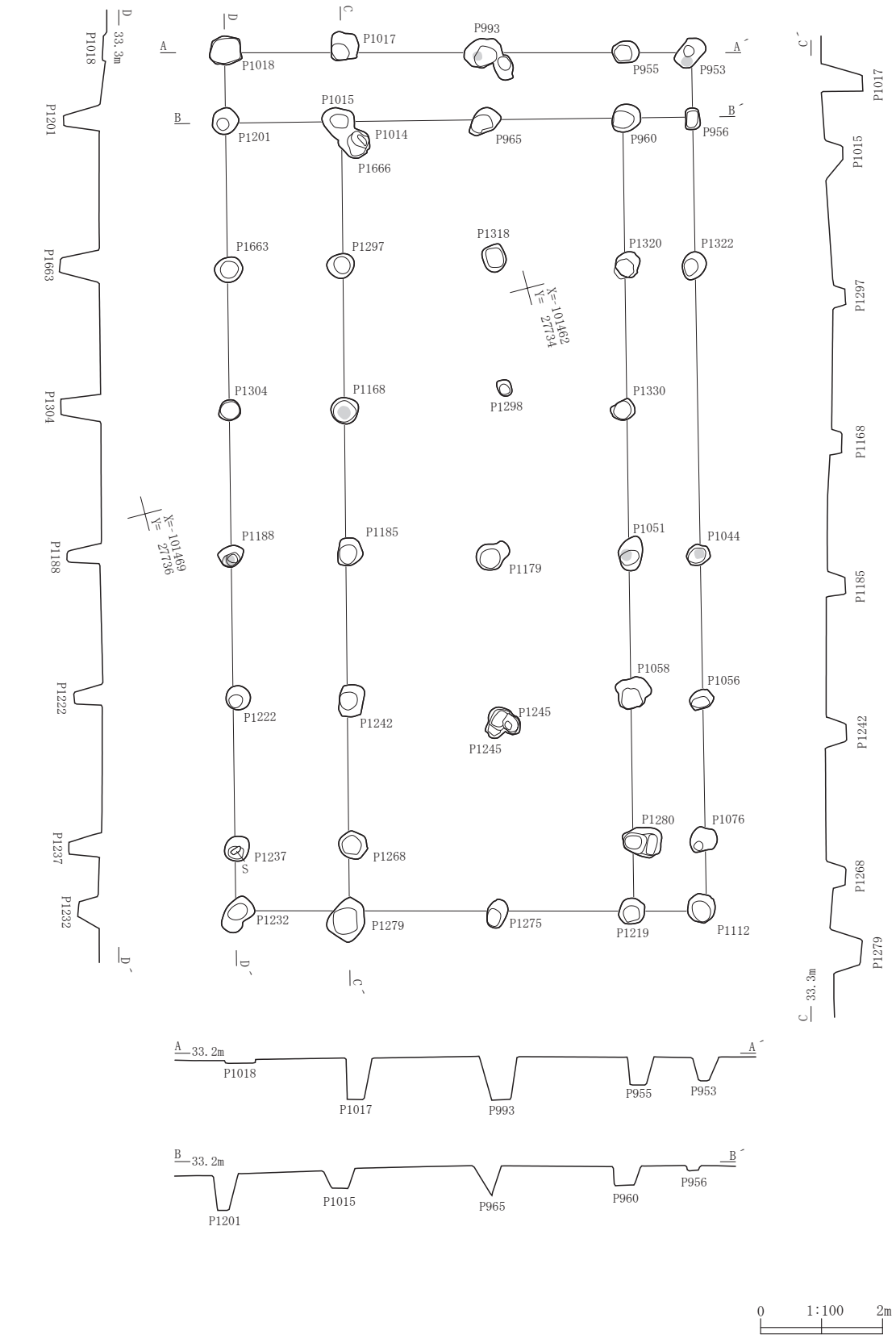
第47図　SB12掘立柱建物跡



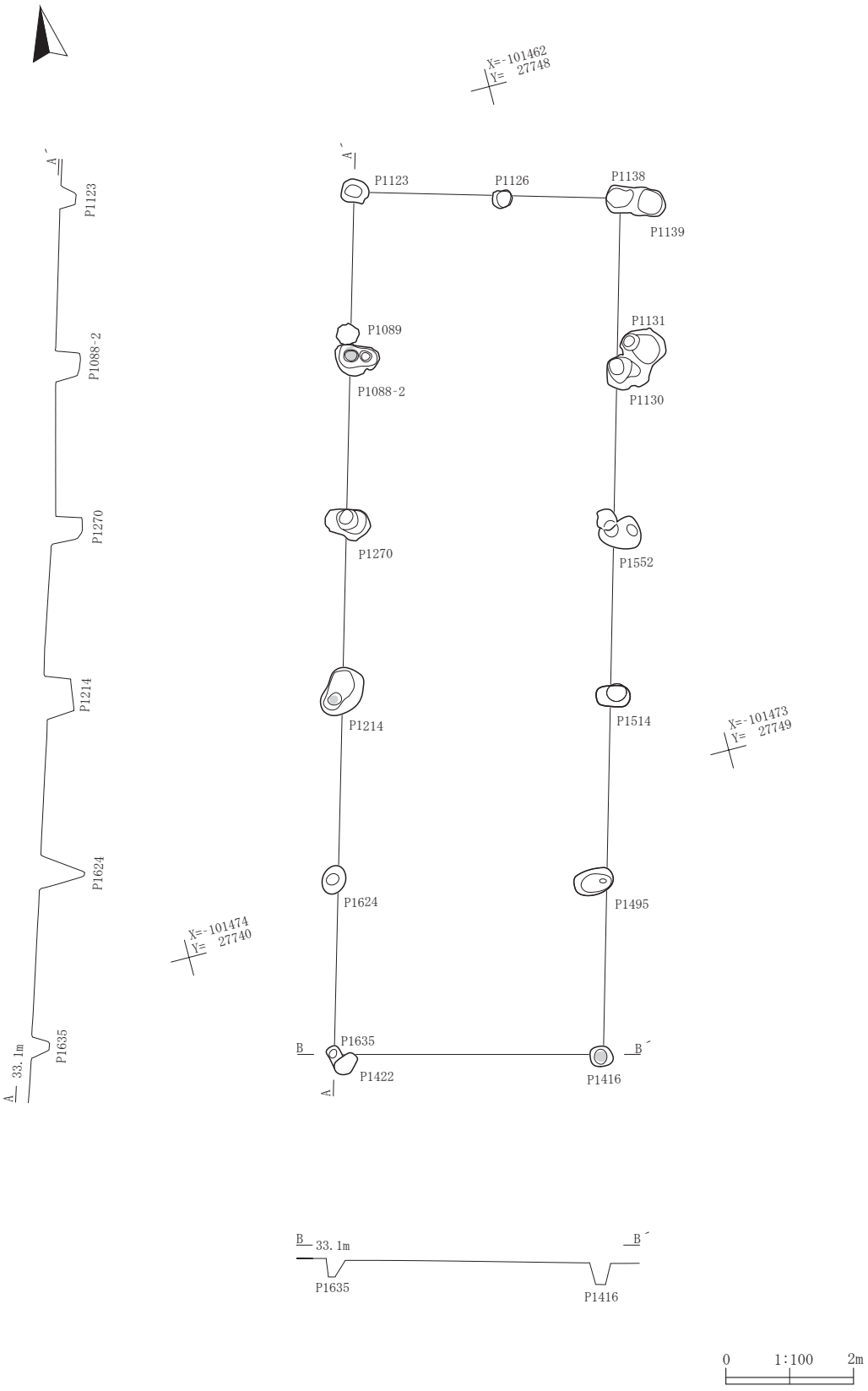
第48図　SB13掘立柱建物跡



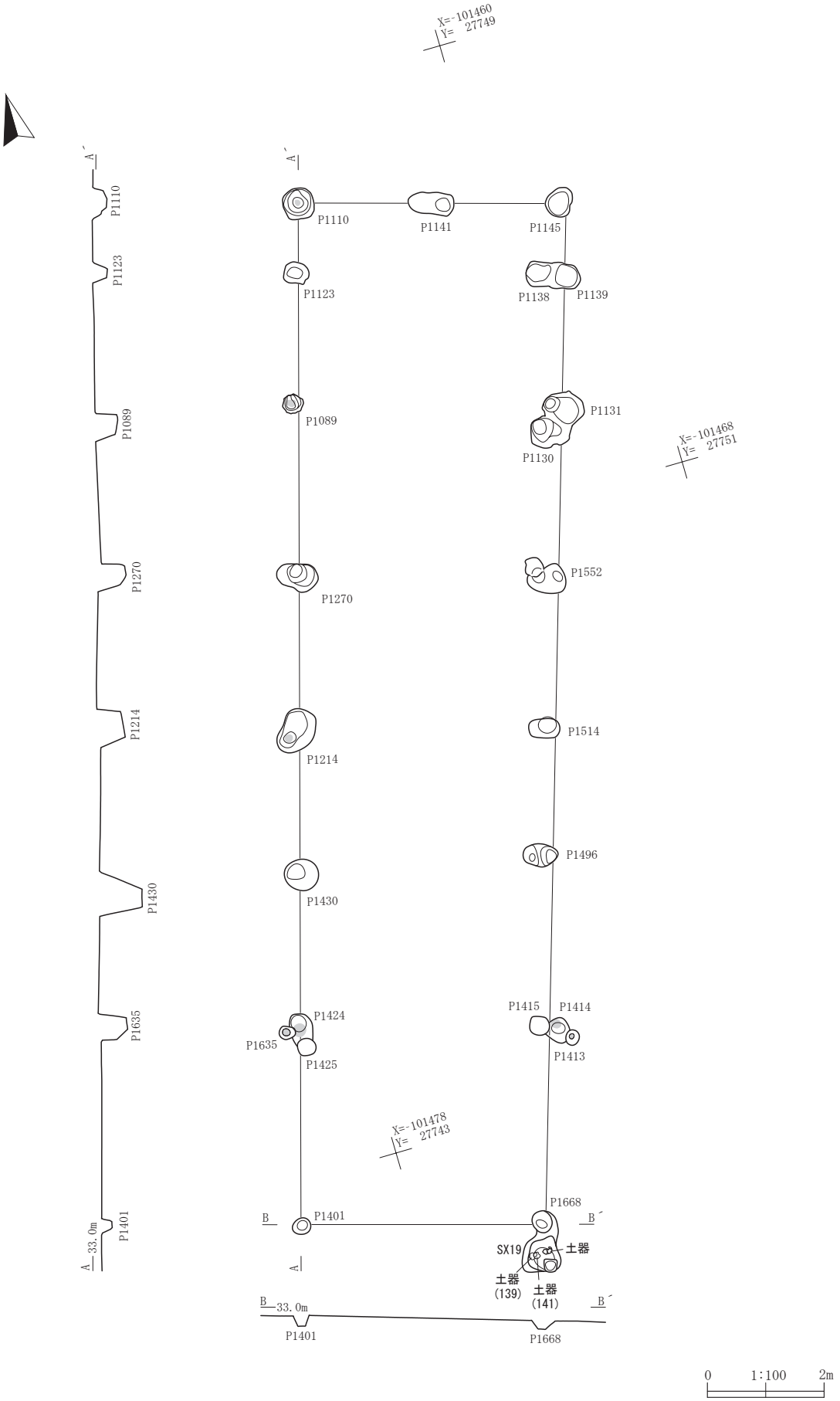
第49図　SB14掘立柱建物跡



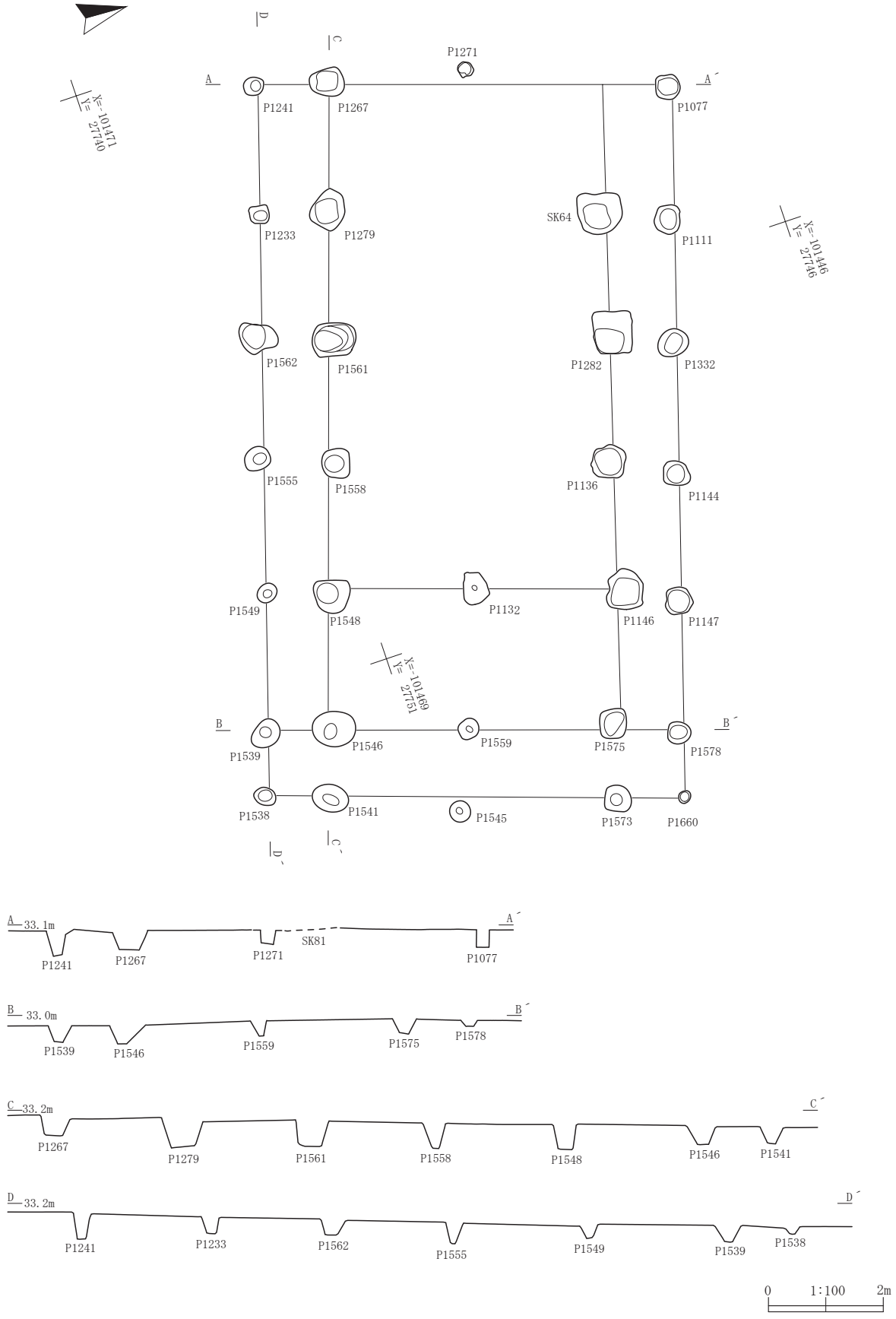
第50図　SB15掘立柱建物跡



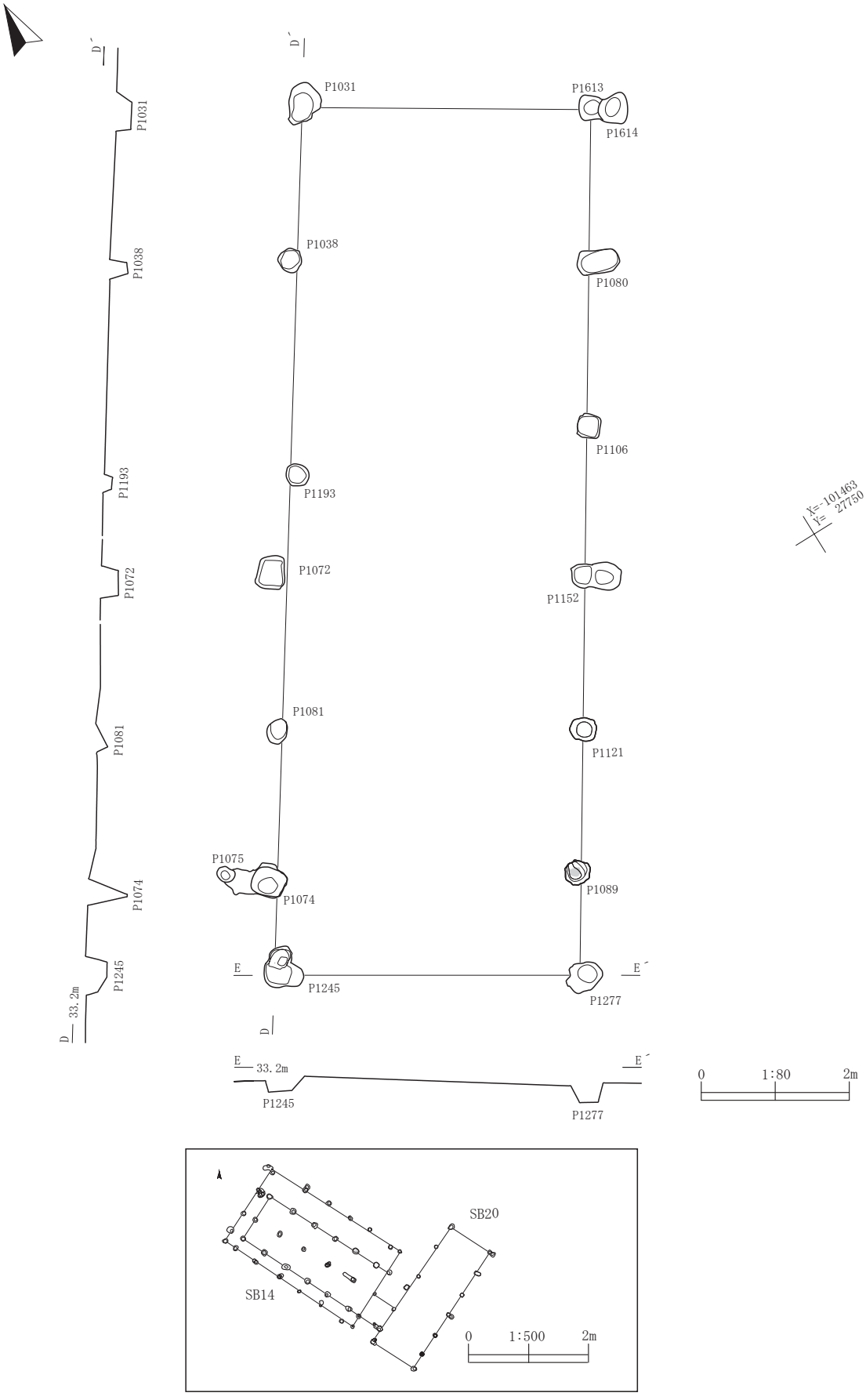
第51図　SB17掘立柱建物跡



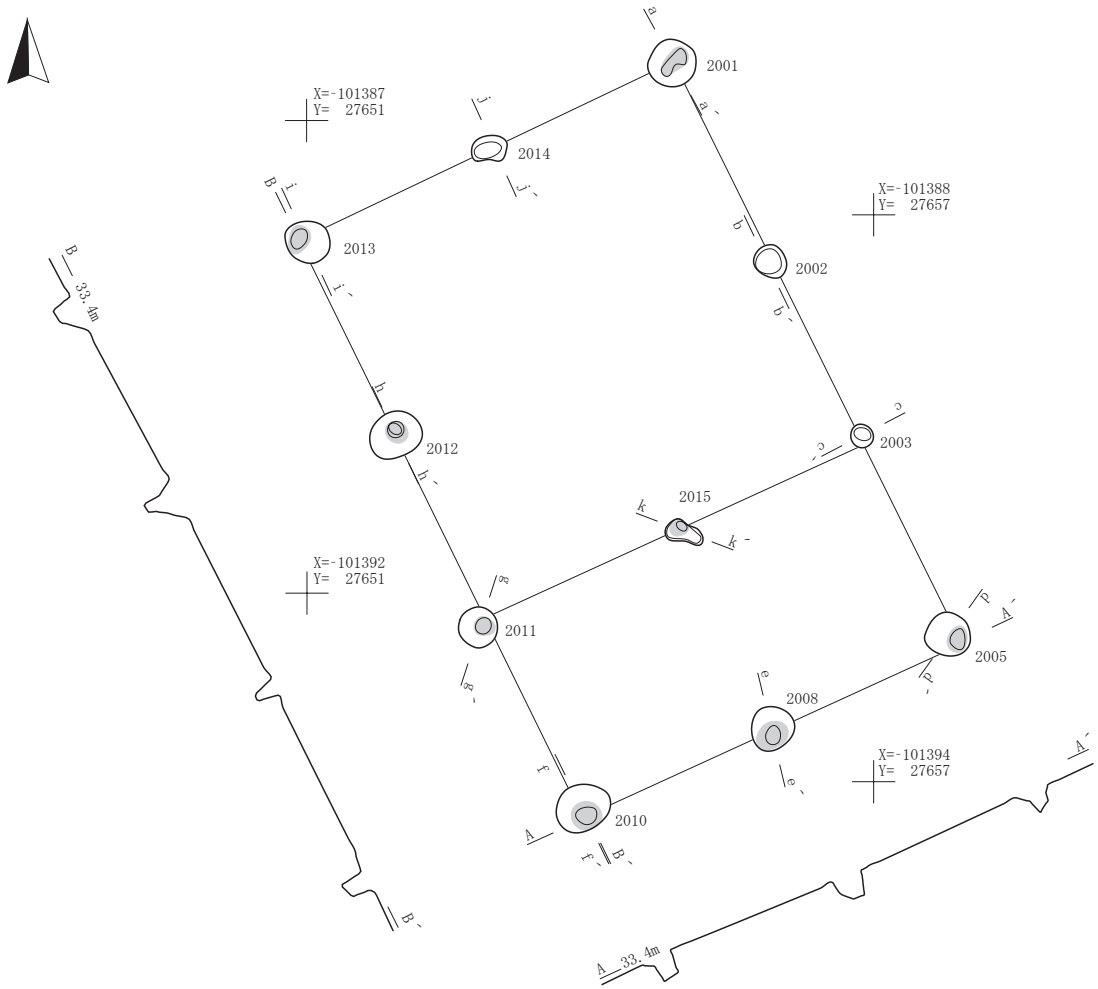
第52図　SB18掘立柱建物跡

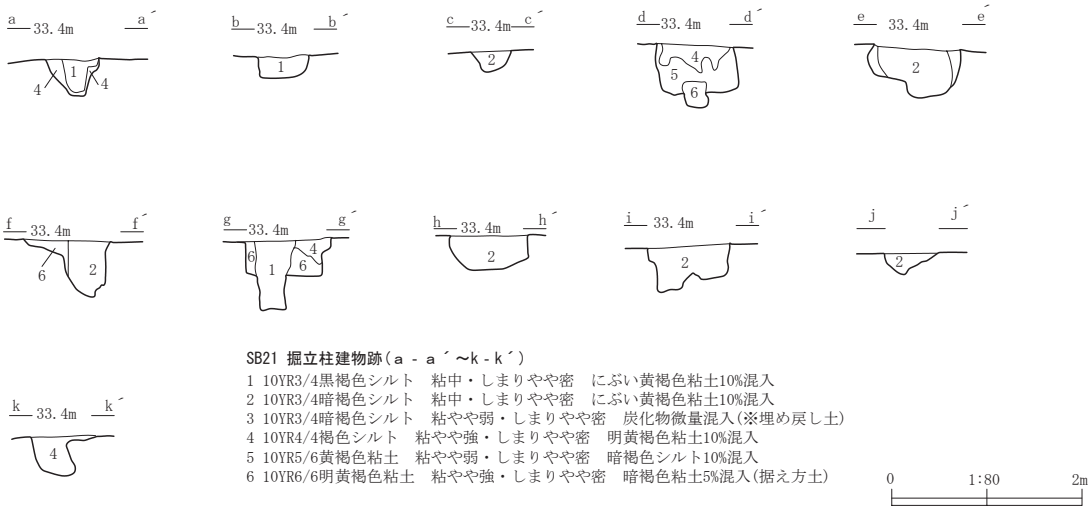


第53図　SB19掘立柱建物跡



第54図　SB20掘立柱建物跡



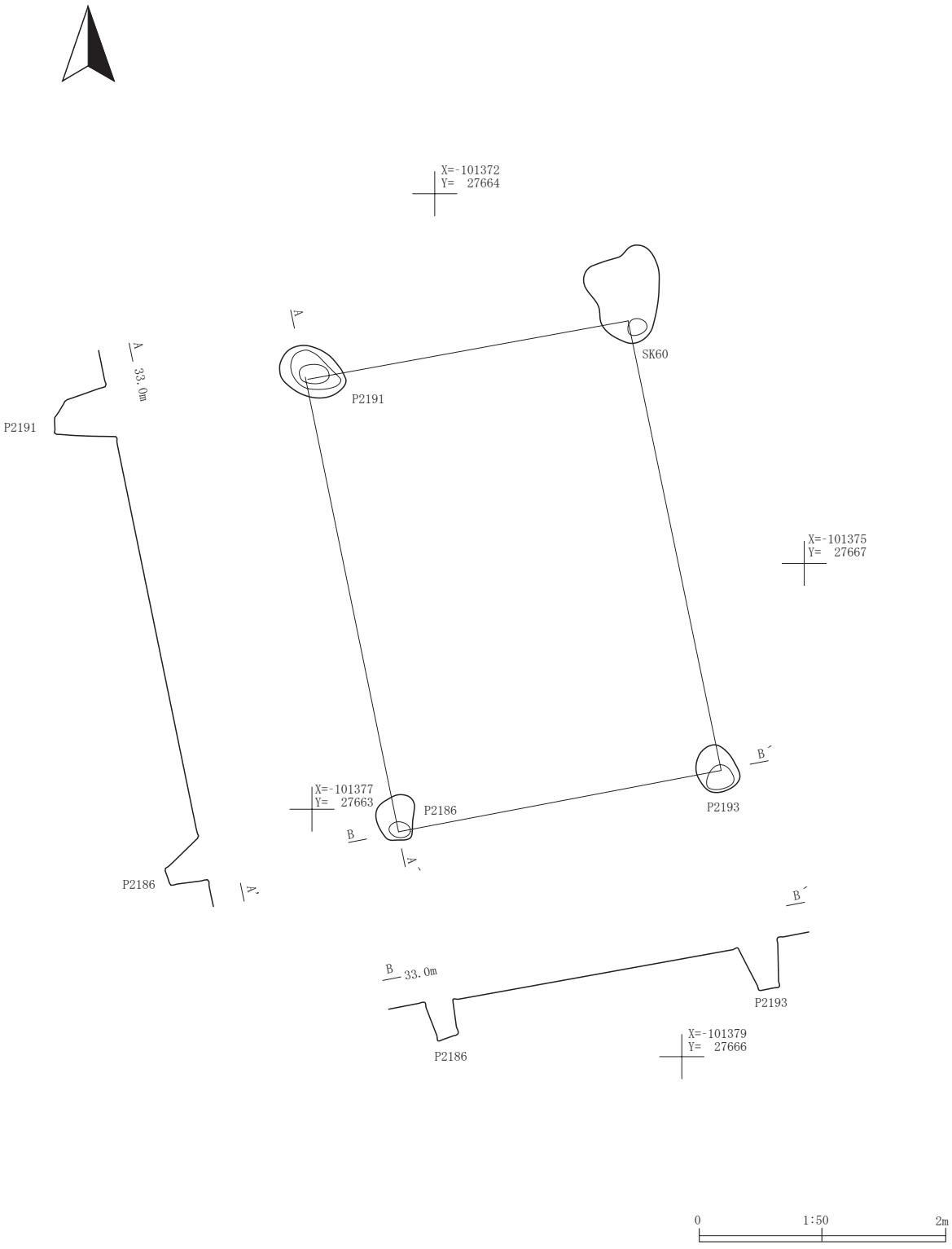


SB21 掘立柱建物跡(a - a´～k - k´)

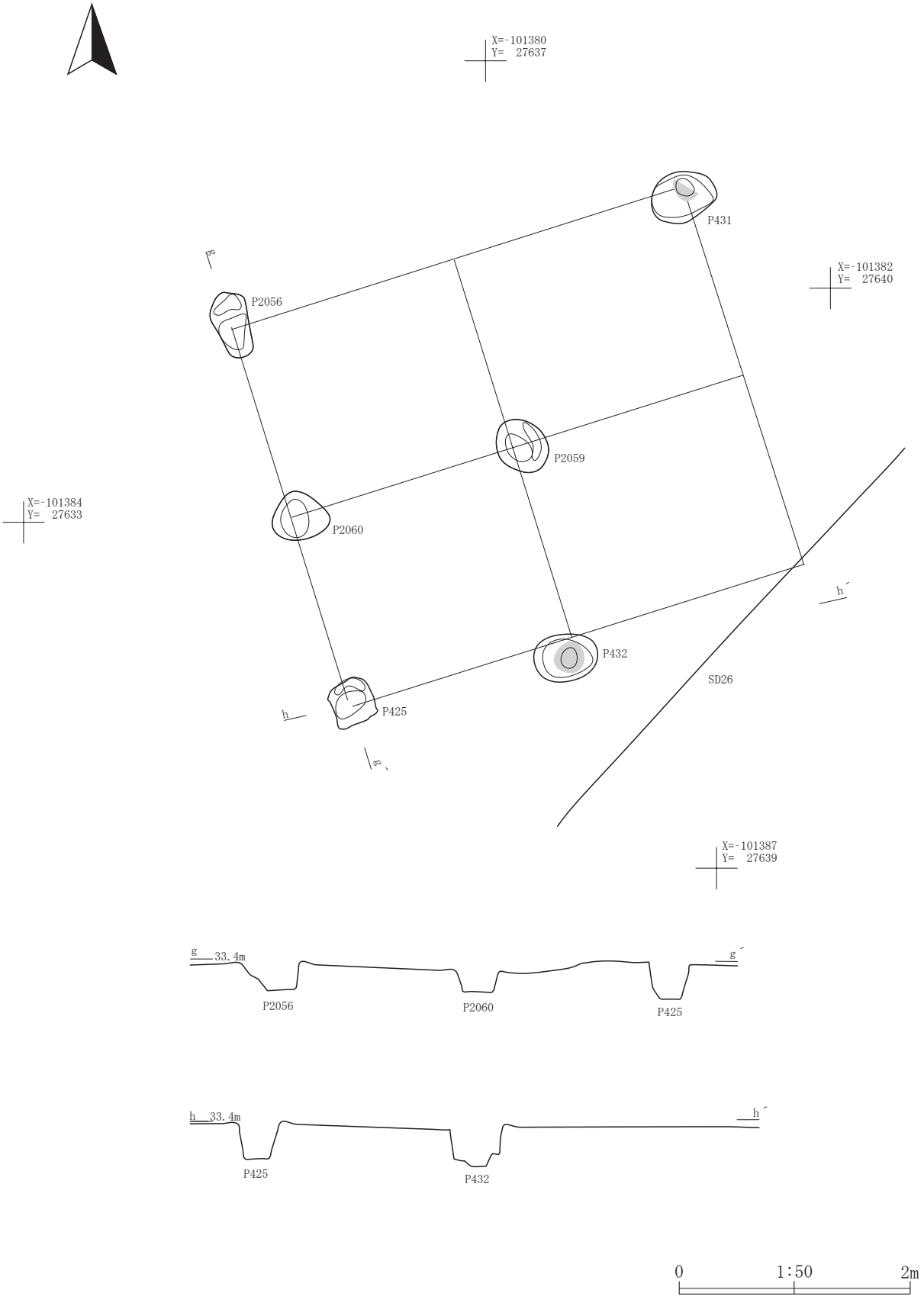
1 10YR3/4黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　にぶい黄褐色粘土10%混入
2 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密　にぶい黄褐色粘土10%混入
3 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密　炭化物微量混入(※埋め戻し土)
4 10YR4/4褐色シルト　粘やや強・しまりやや密　明黄褐色粘土10%混入
5 10YR5/6黄褐色粘土　粘やや弱・しまりやや密　暗褐色シルト10%混入
6 10YR6/6明黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密　暗褐色粘土5%混入(据え方土)

0　1:80　2m

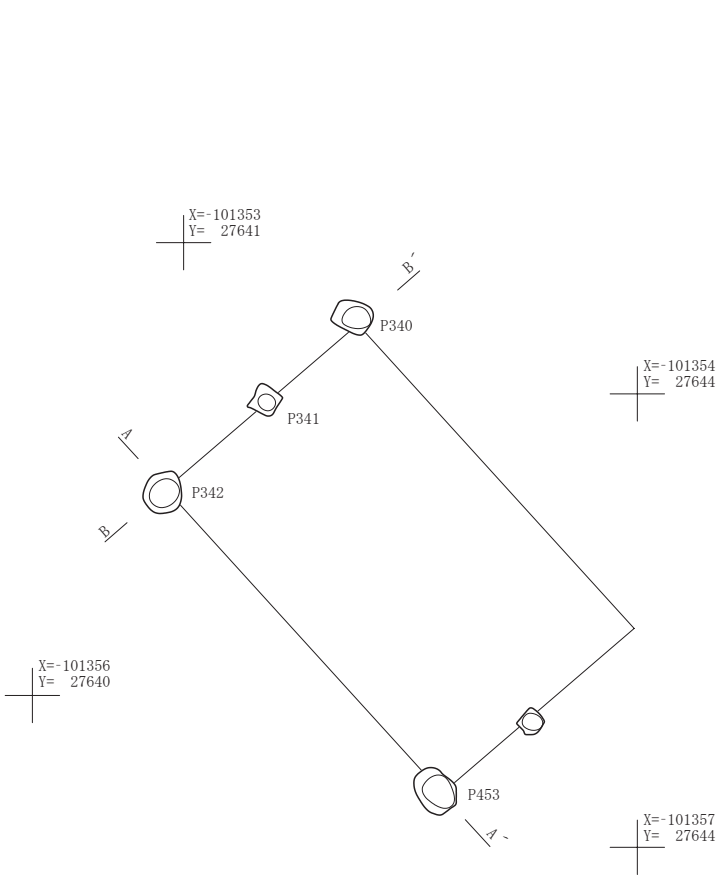
第55図　SB21掘立柱建物跡

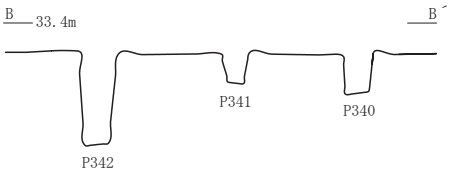


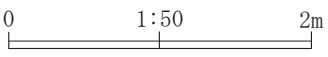
第56図　SB22掘立柱建物跡



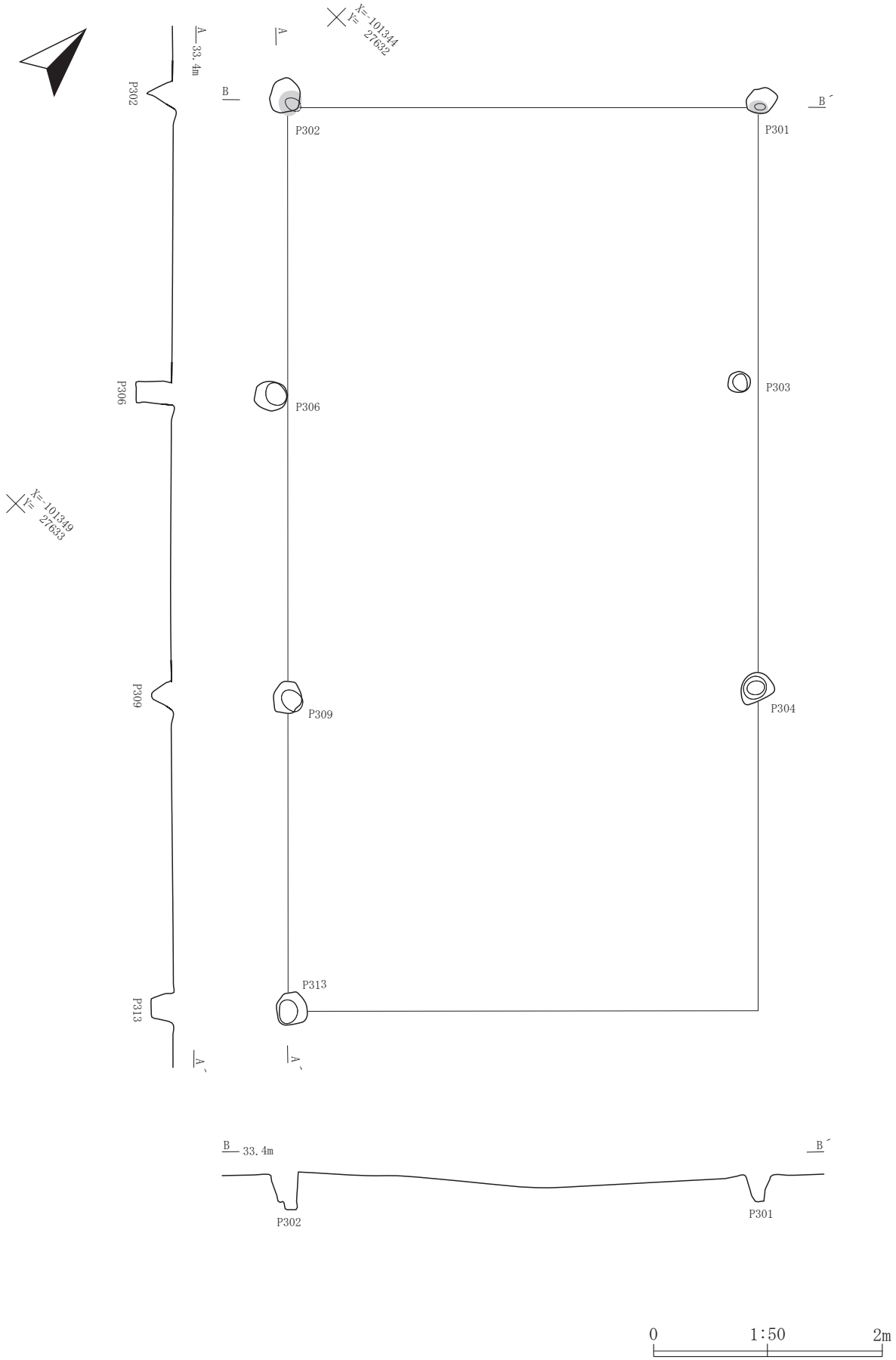
第57図　SB24掘立柱建物跡



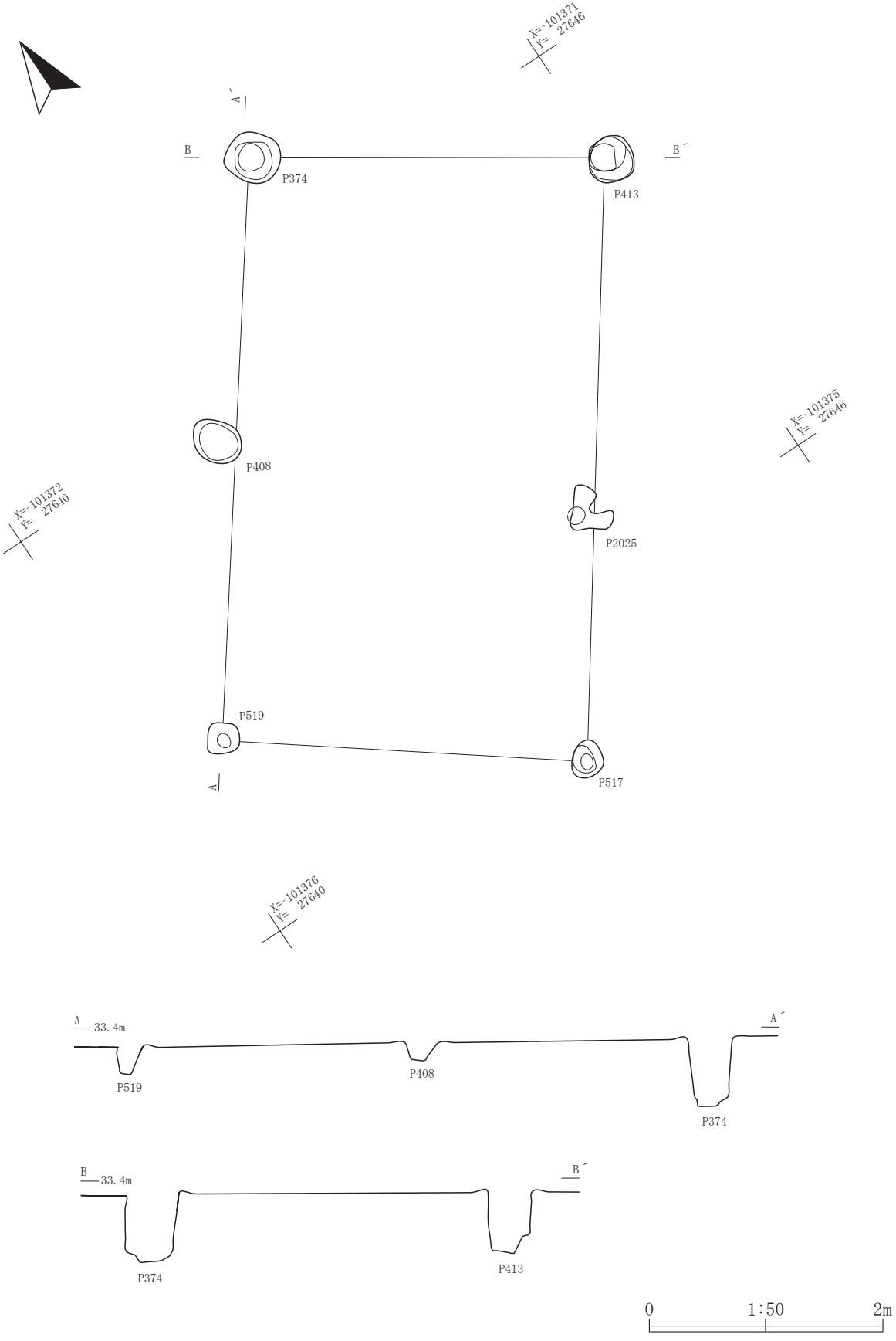




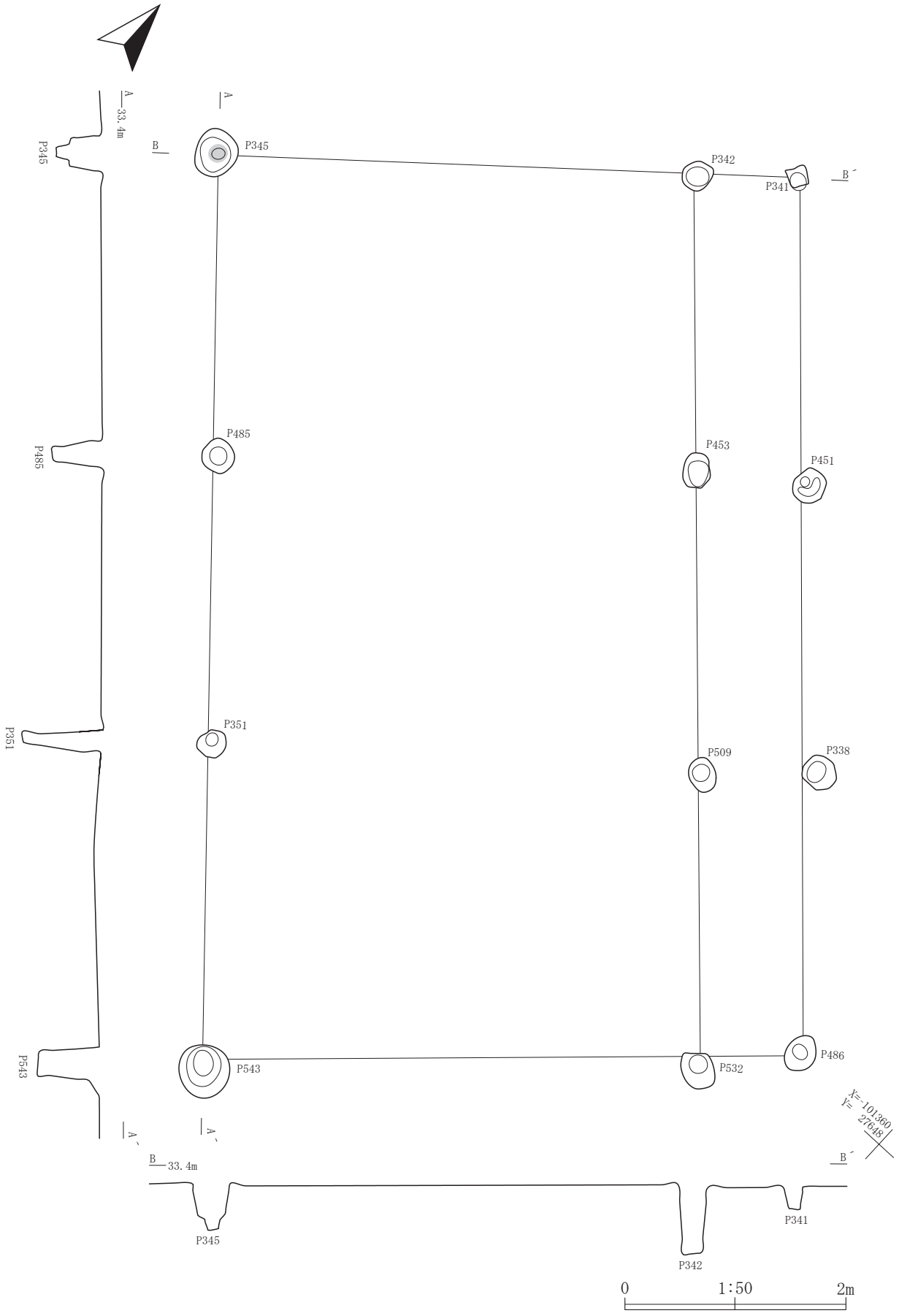
第58図　SB26掘立柱建物跡



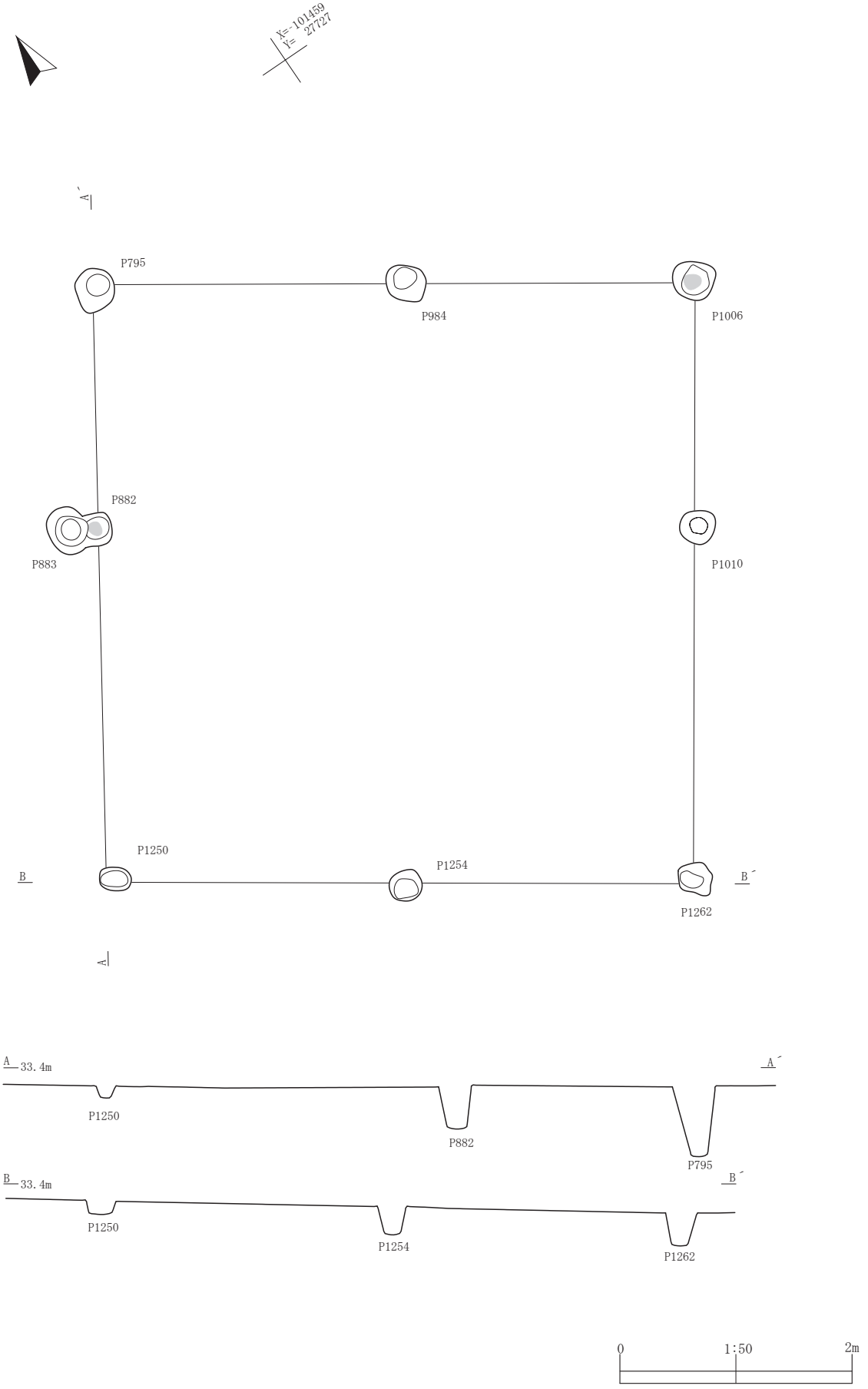
第59図　SB27掘立柱建物跡



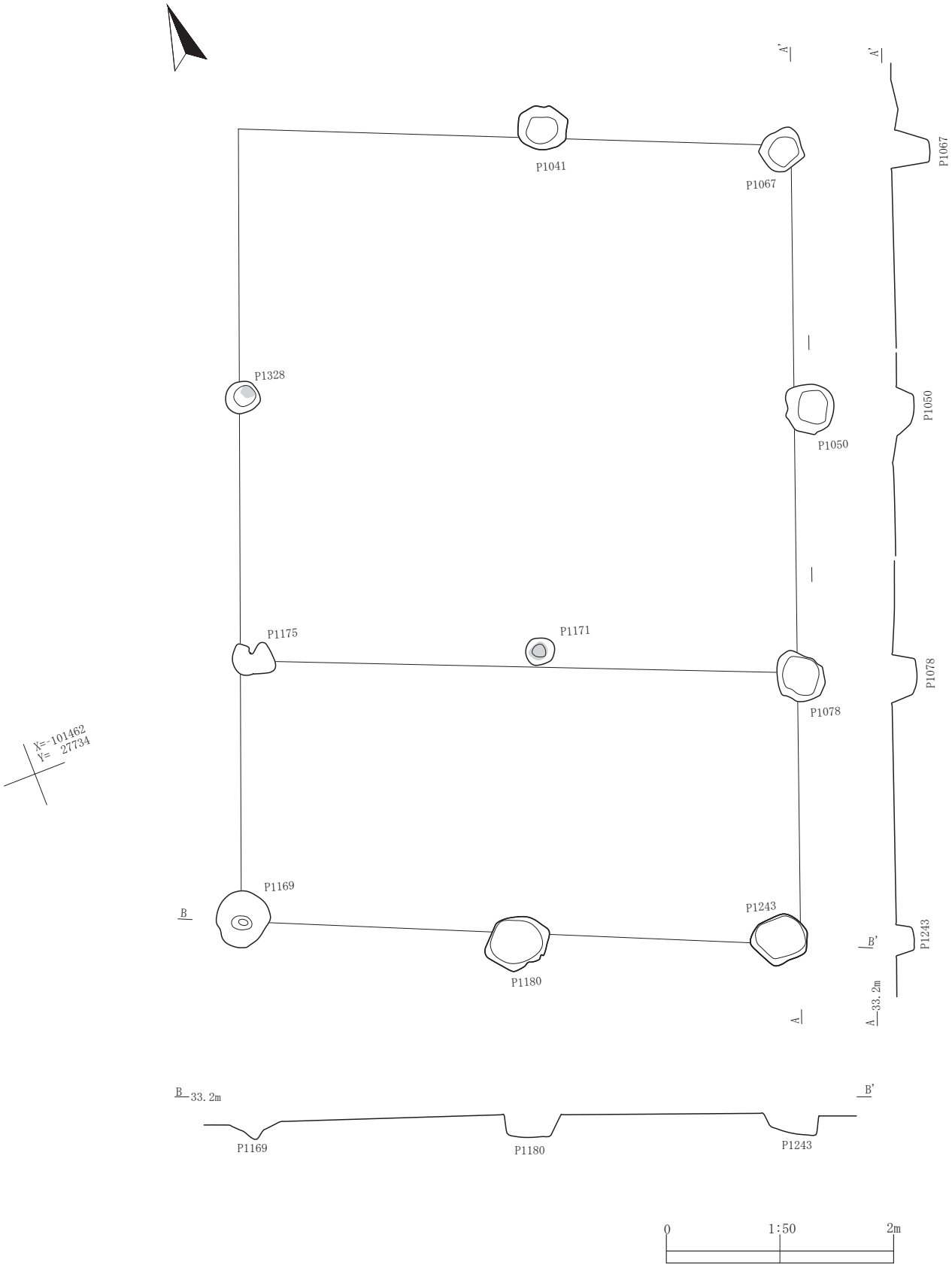
第60図　SB28掘立柱建物跡



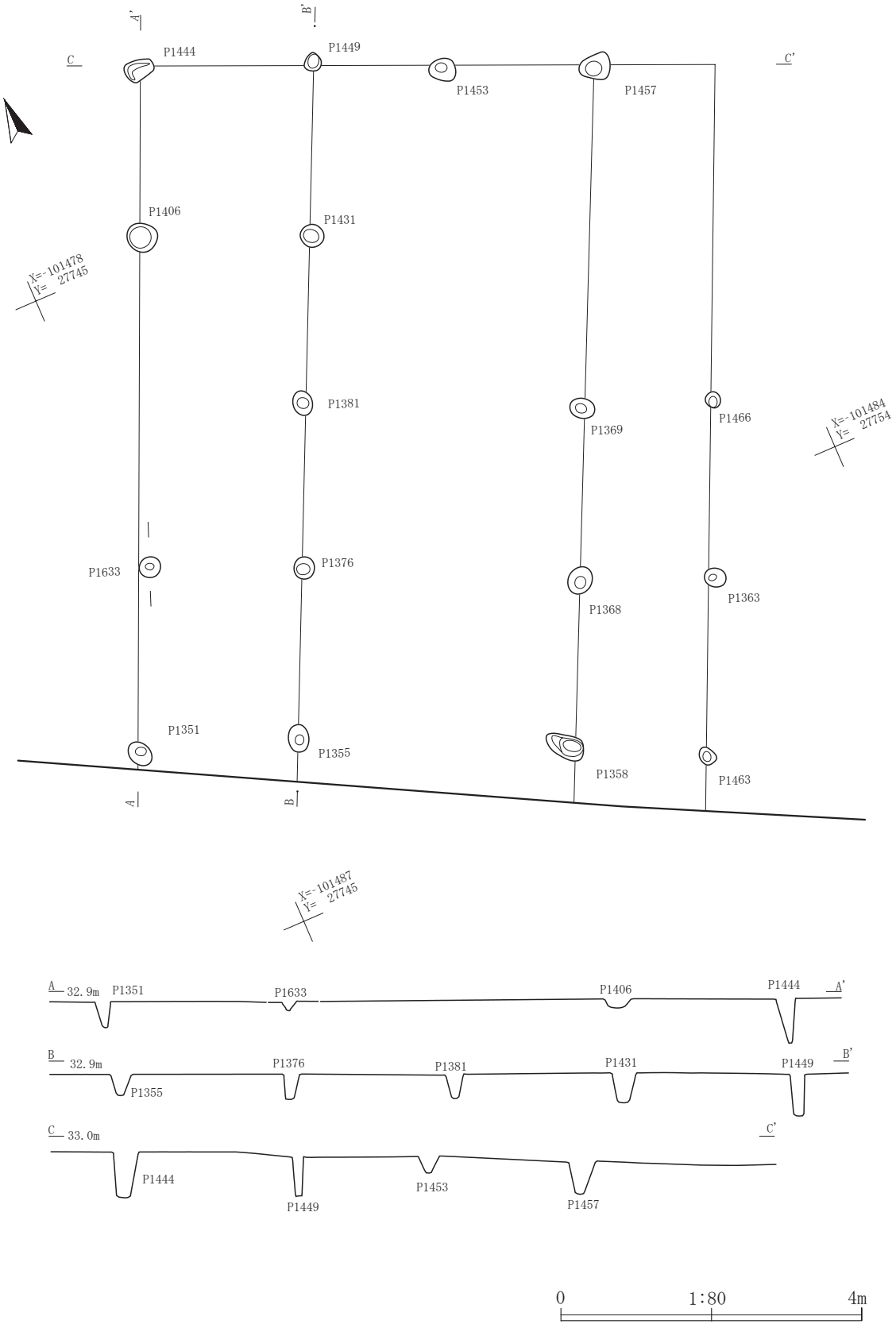
第61図　SB29掘立柱建物跡



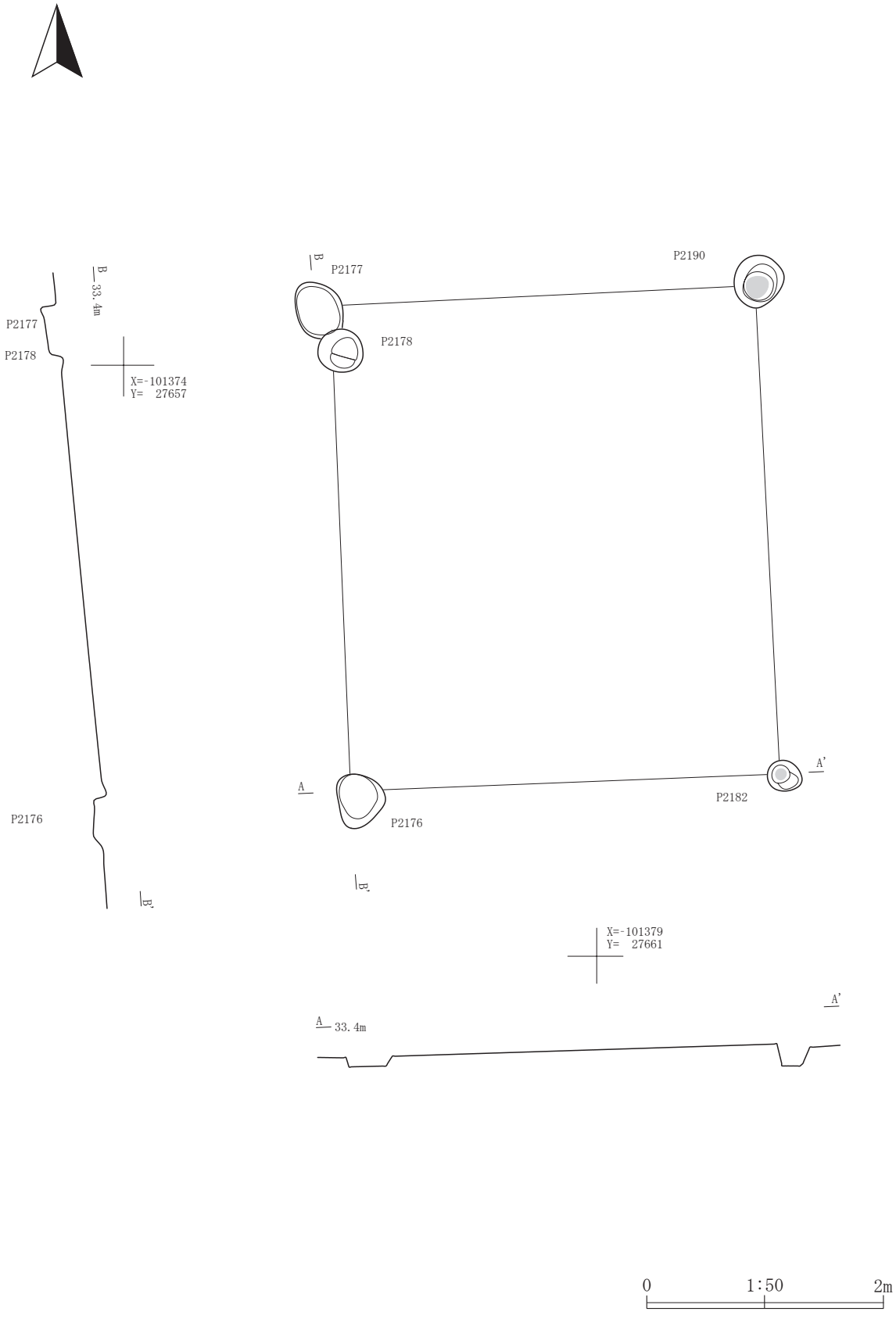
第62図　SB30掘立柱建物跡



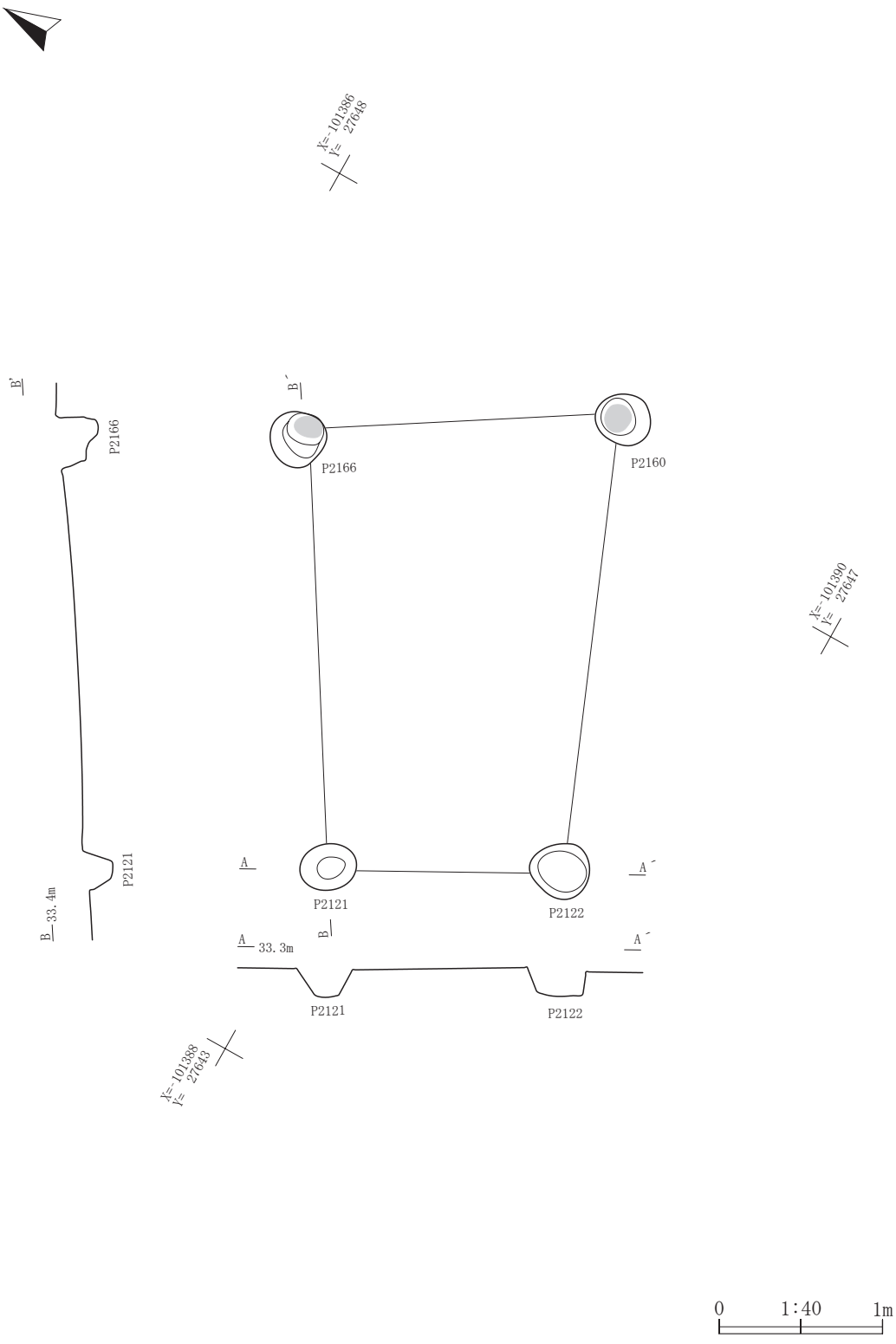
第63図　SB33掘立柱建物跡



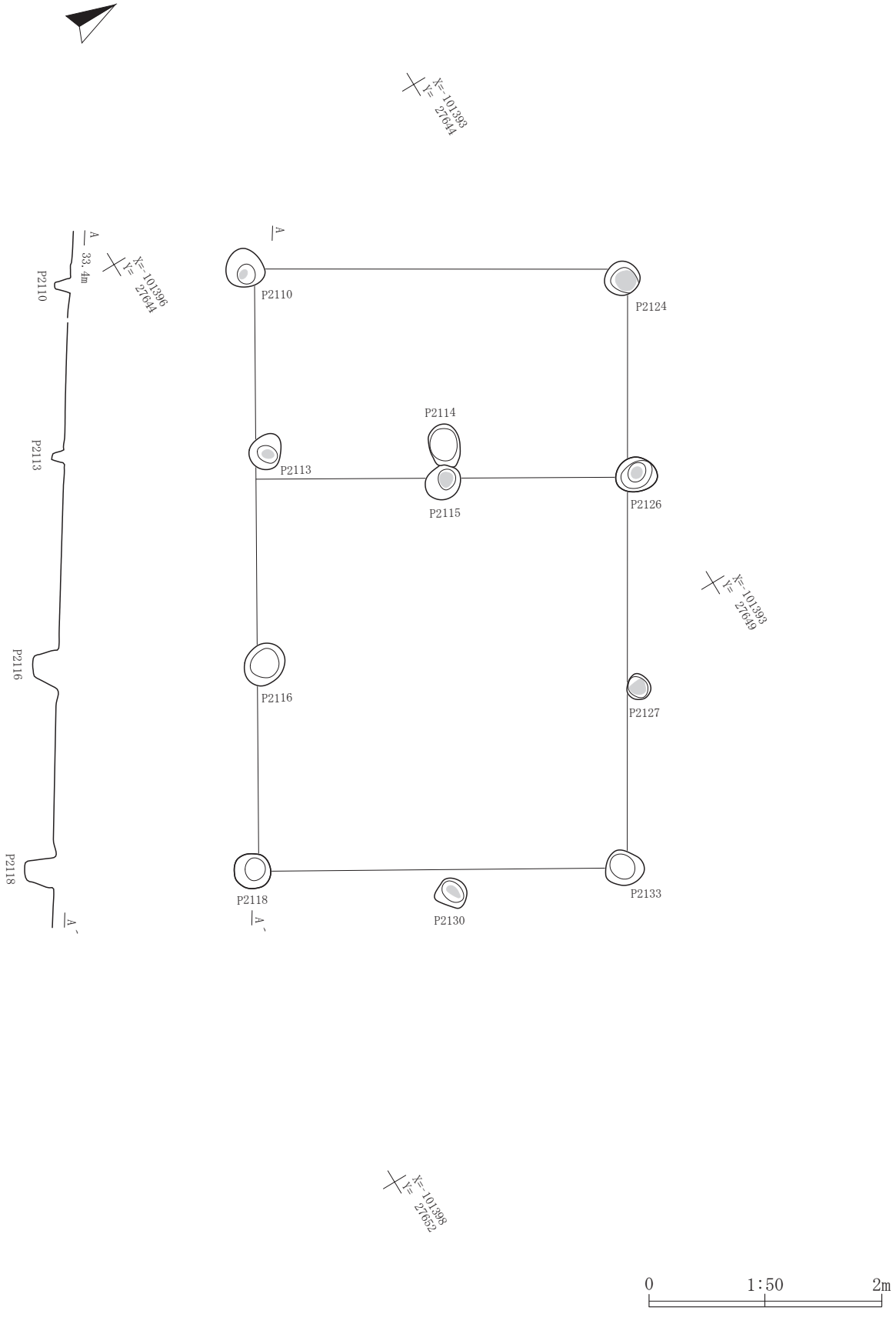
第64図　SB34掘立柱建物跡



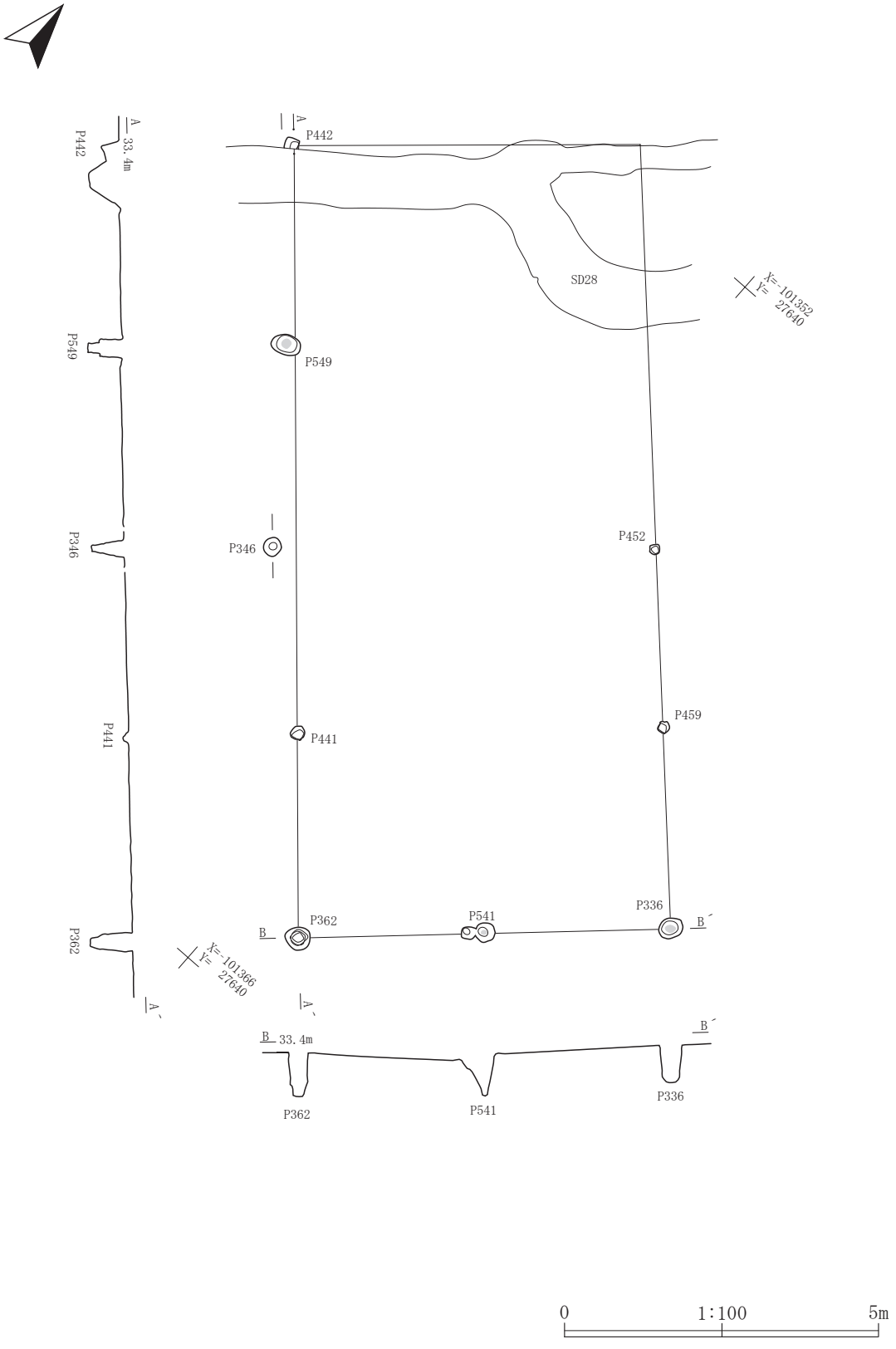
第65図　SB35掘立柱建物跡



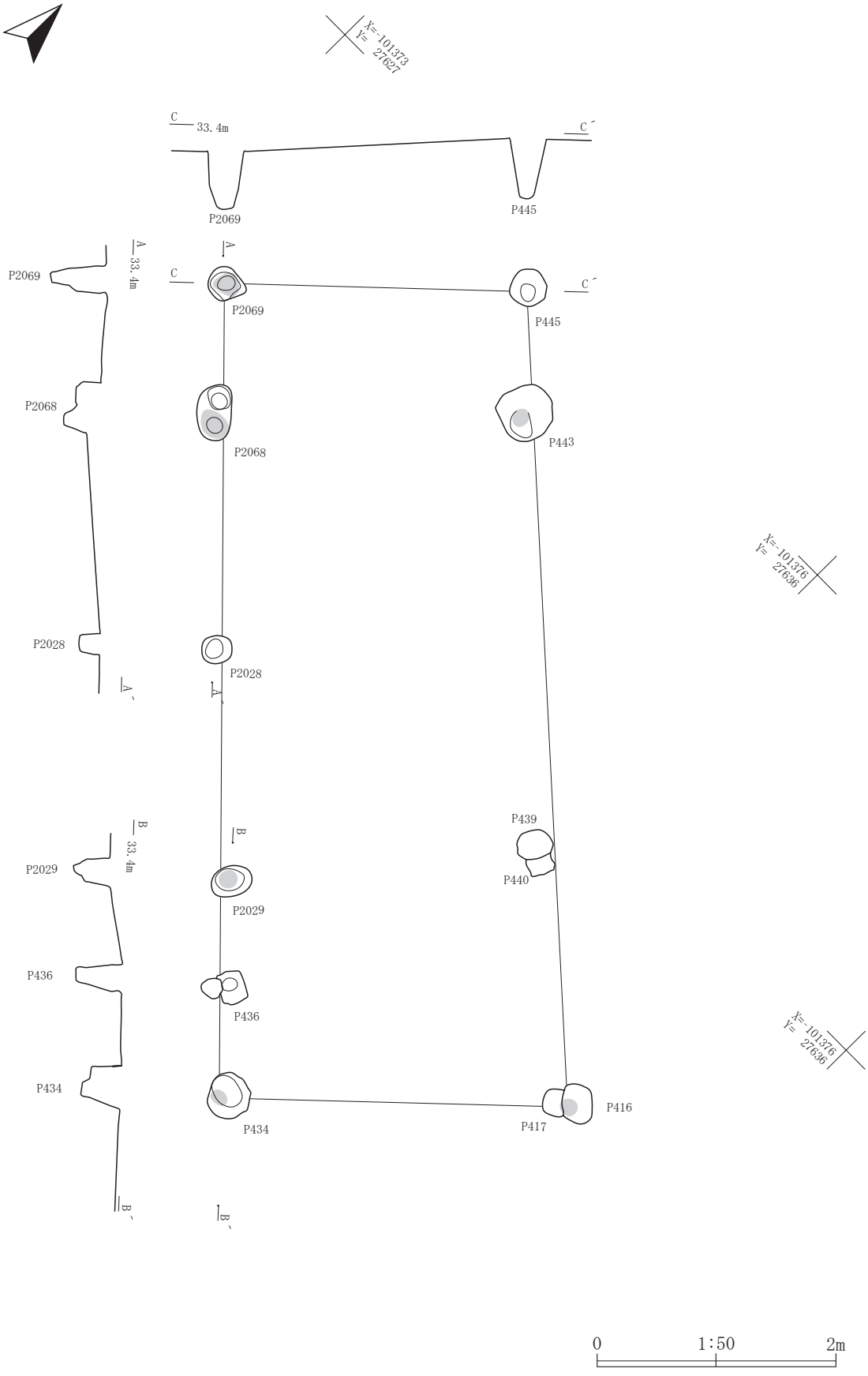
第66図　SB36掘立柱建物跡



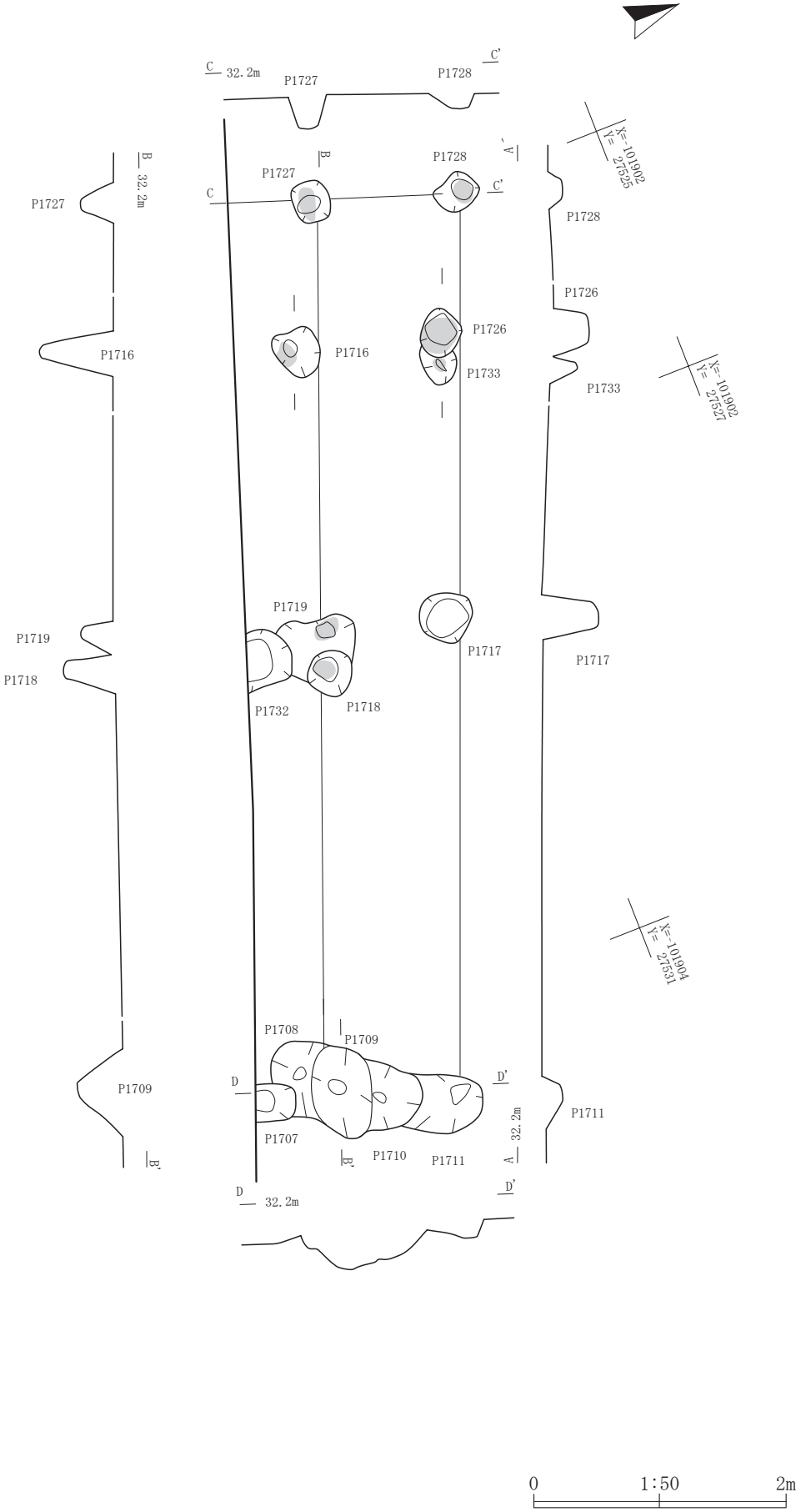
第67図　SB37掘立柱建物跡



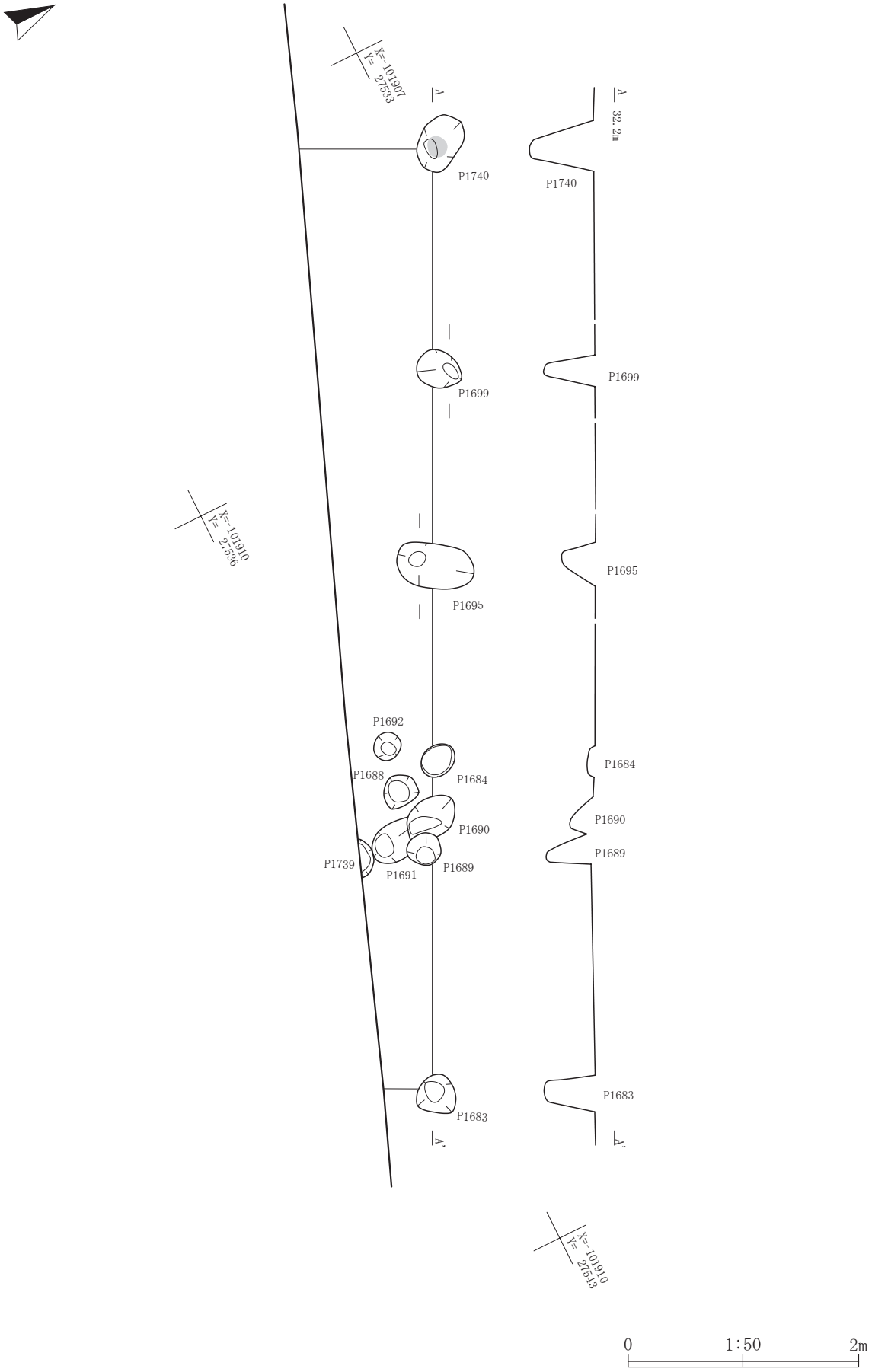
第68図　SB38掘立柱建物跡



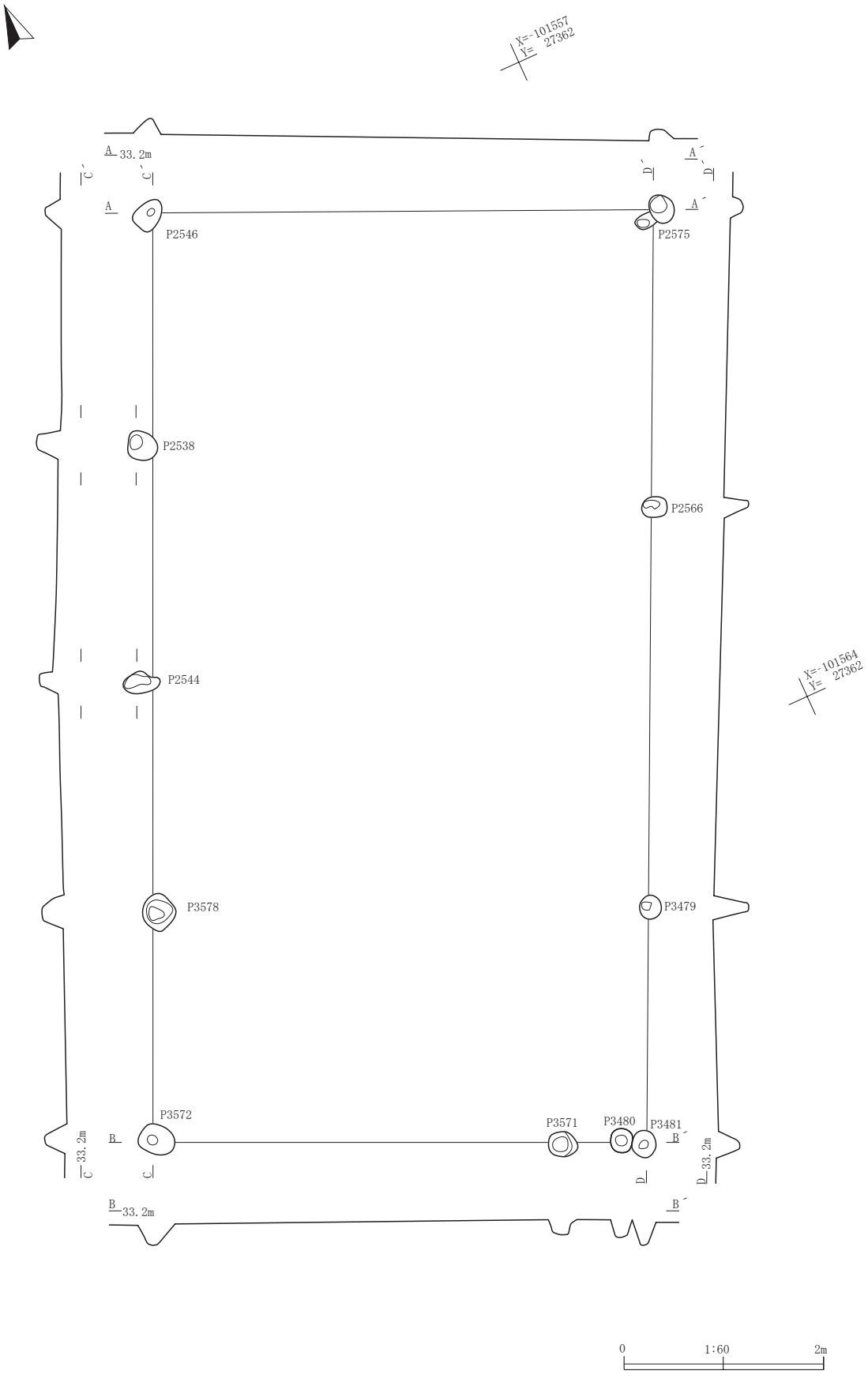
第69図　SB40掘立柱建物跡



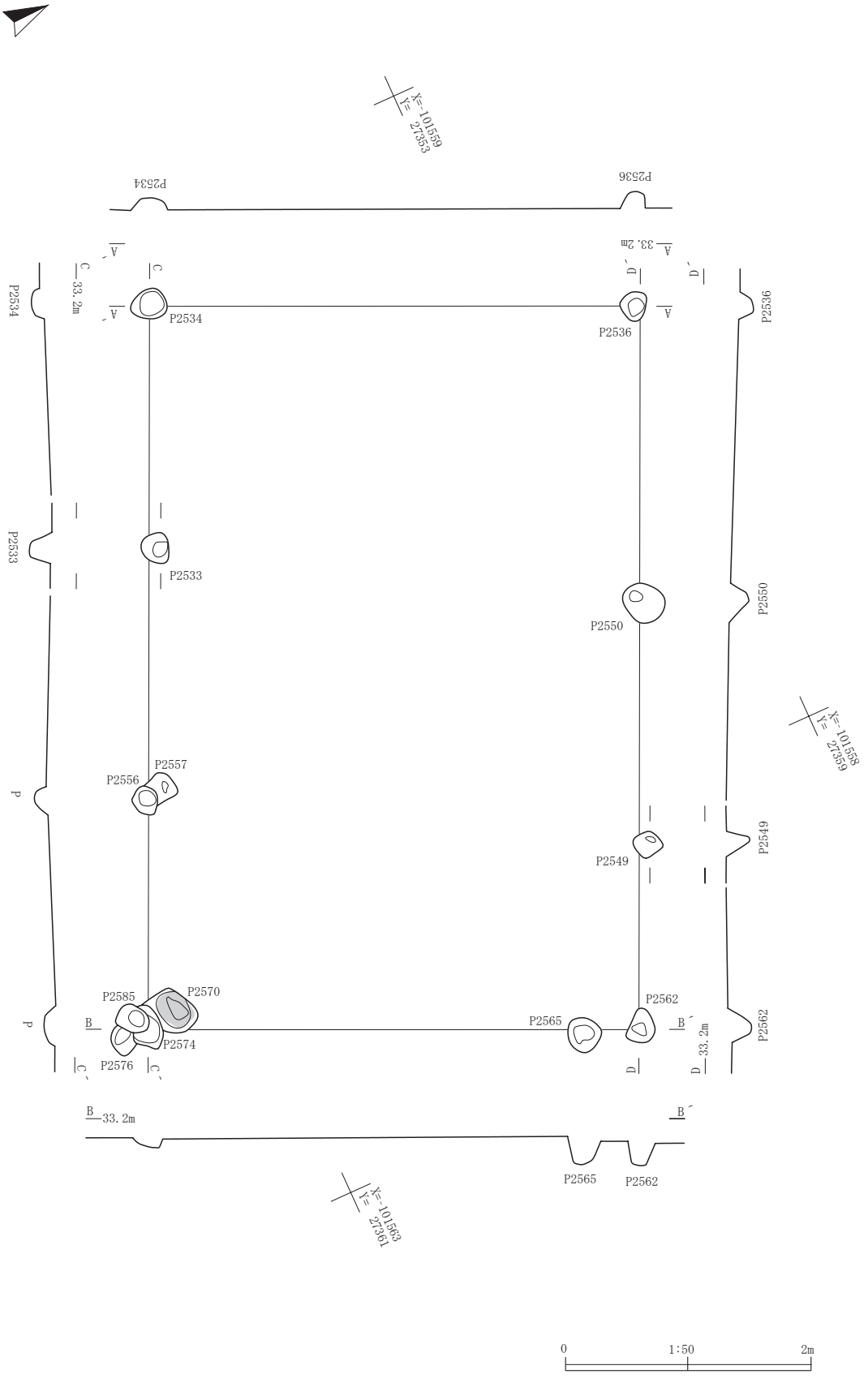
第70図　SB41掘立柱建物跡



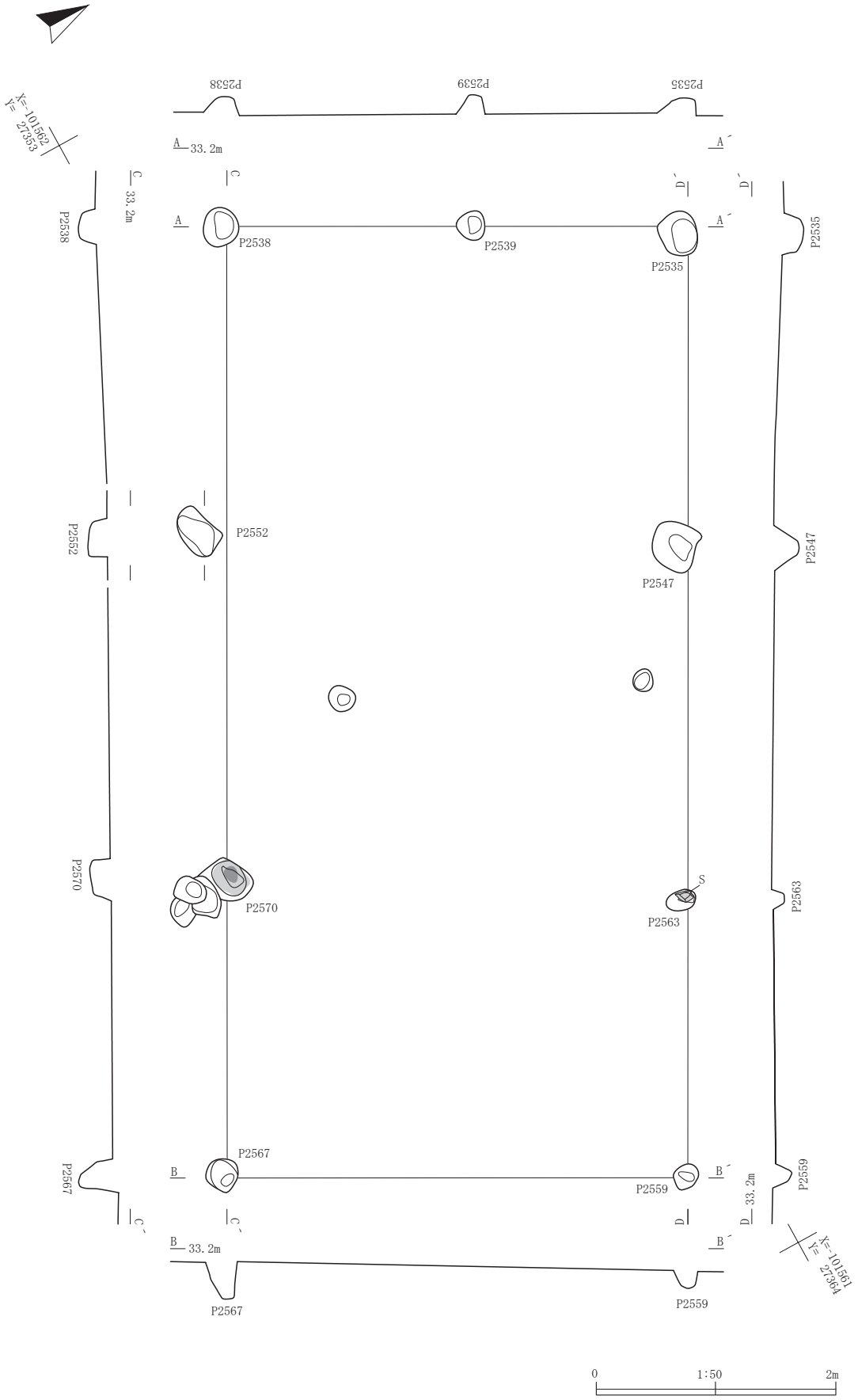
第71図　SB42掘立柱建物跡



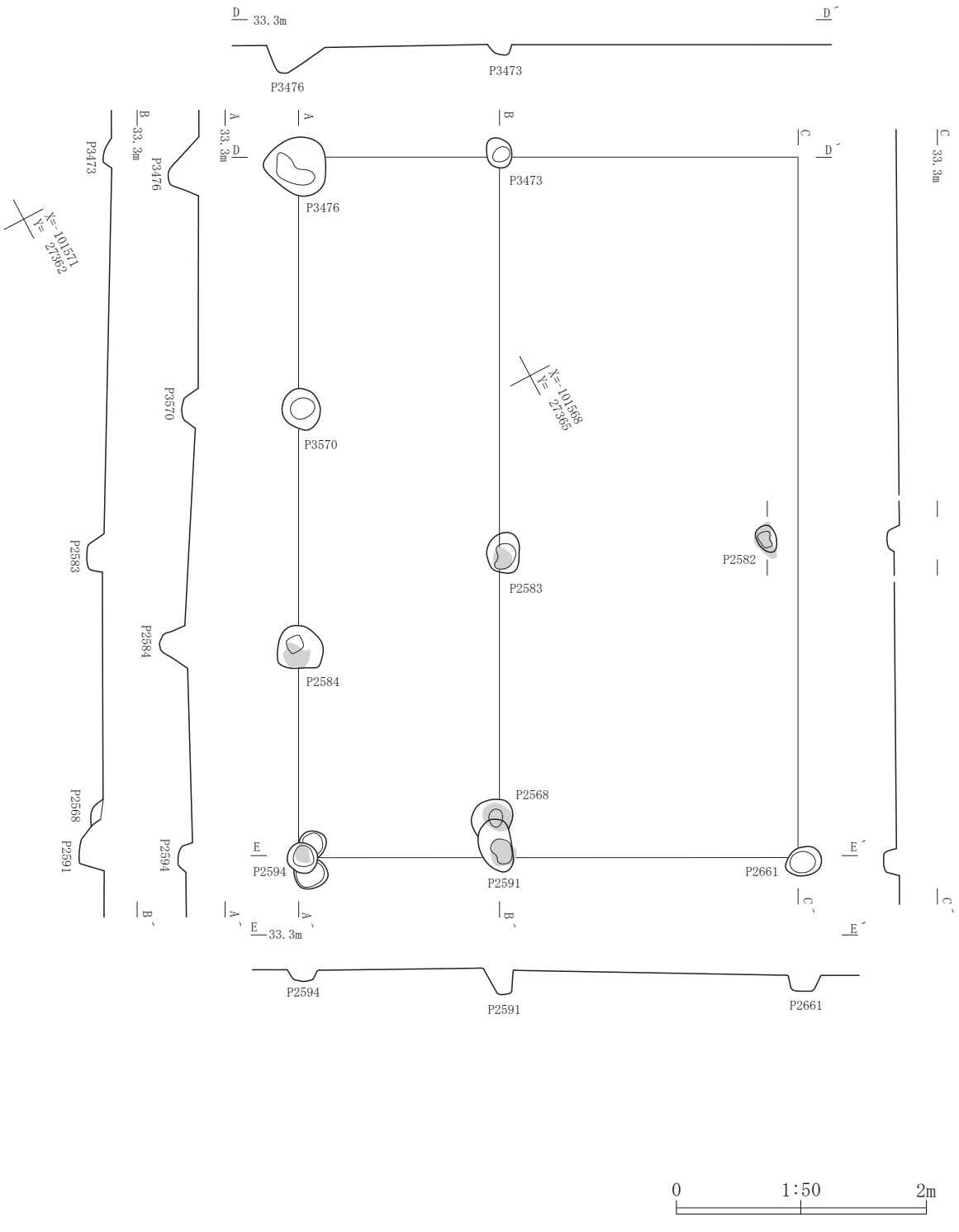
第72図　SB45掘立柱建物跡



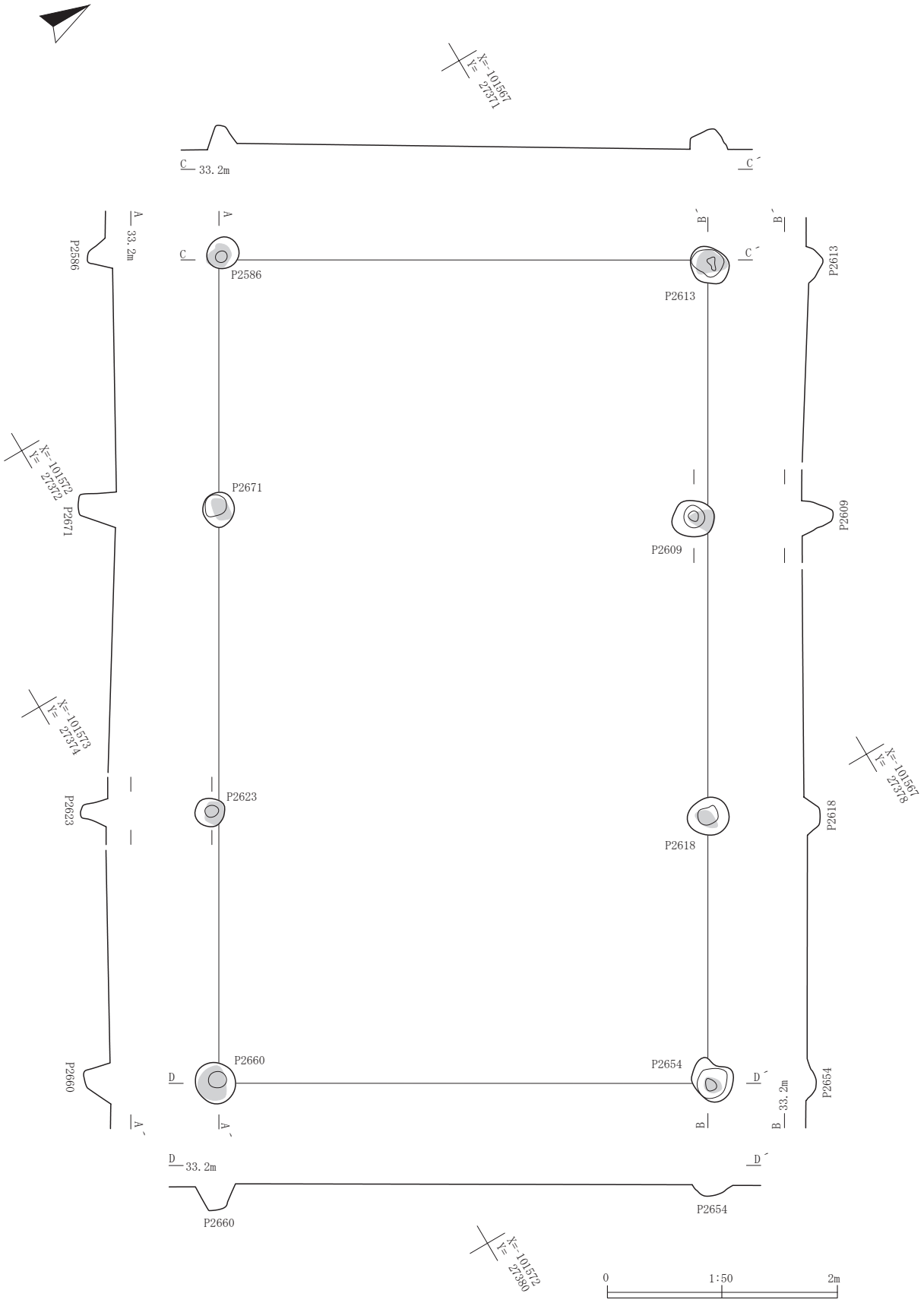
第73図　SB46掘立柱建物跡



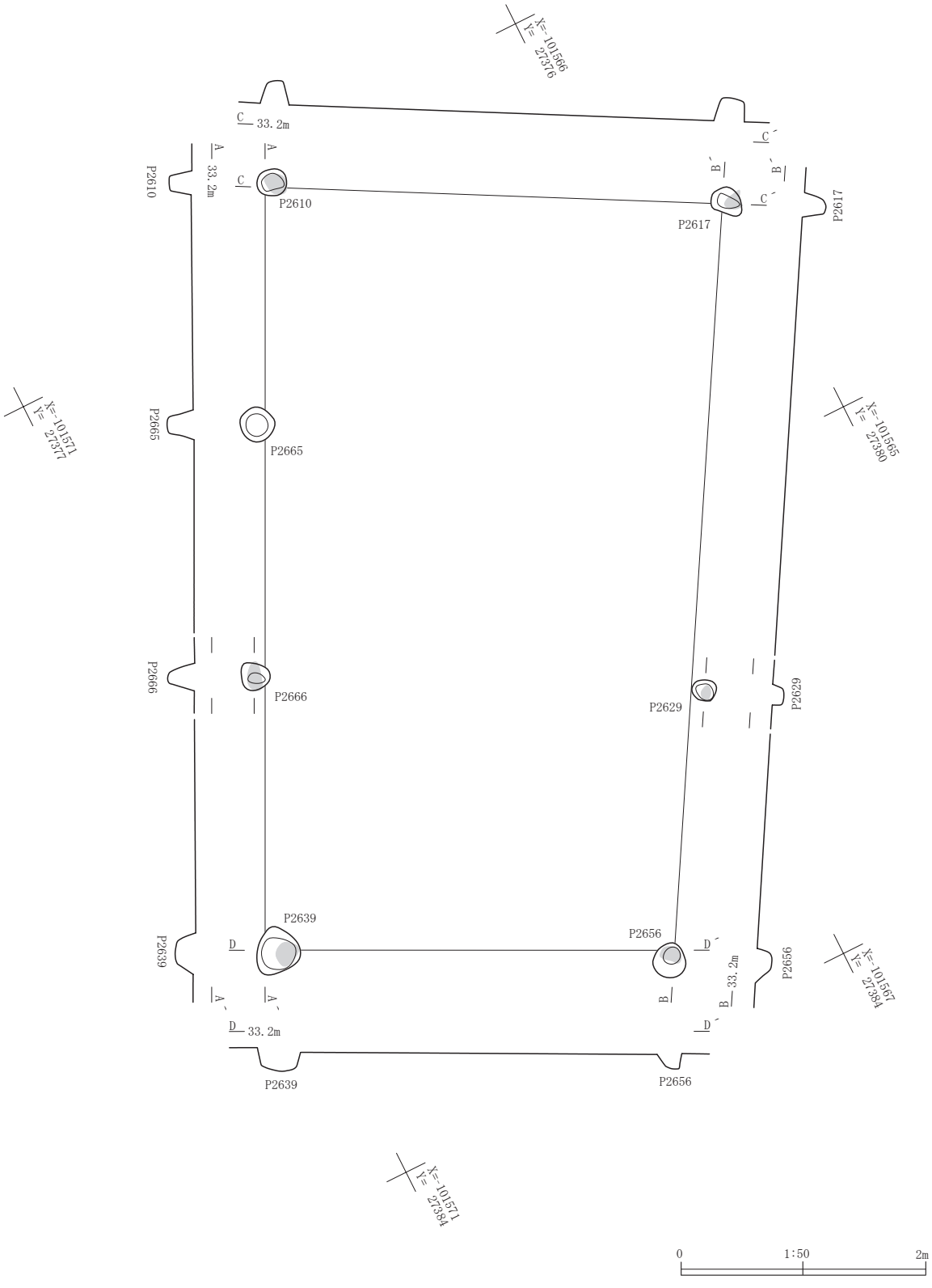
第74図　SB47掘立柱建物跡



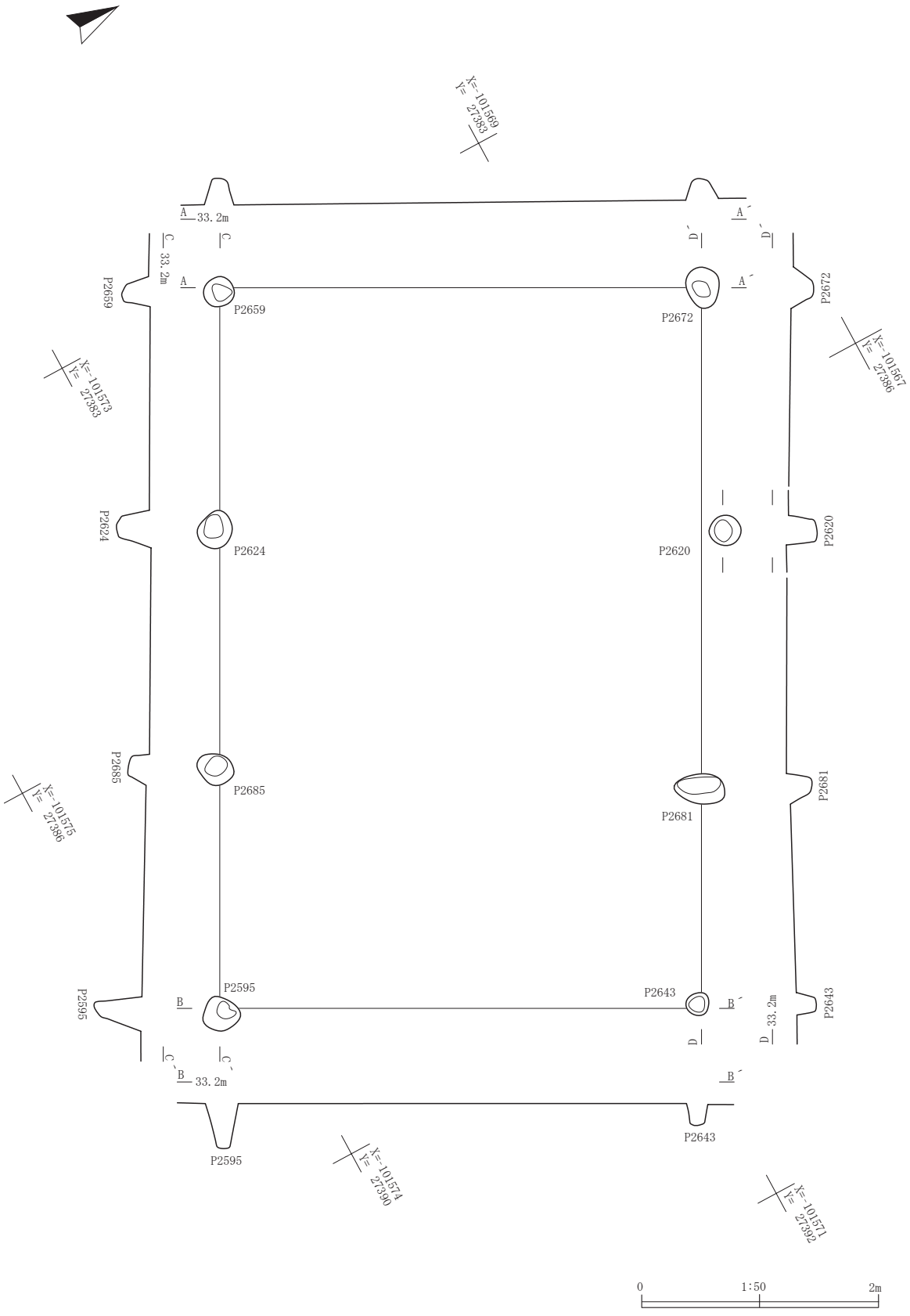
第75図　SB48掘立柱建物跡



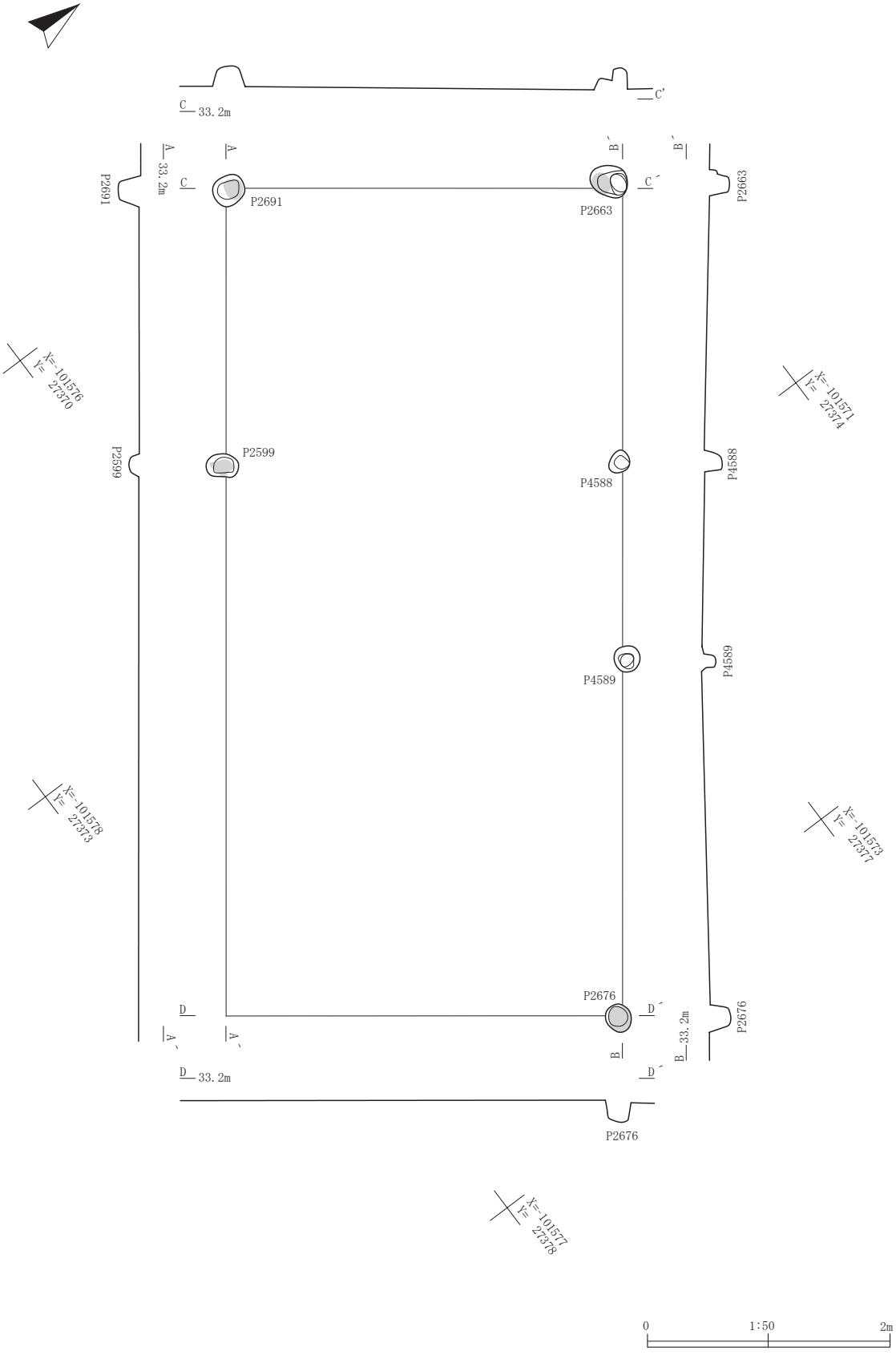
第76図　SB49掘立柱建物跡



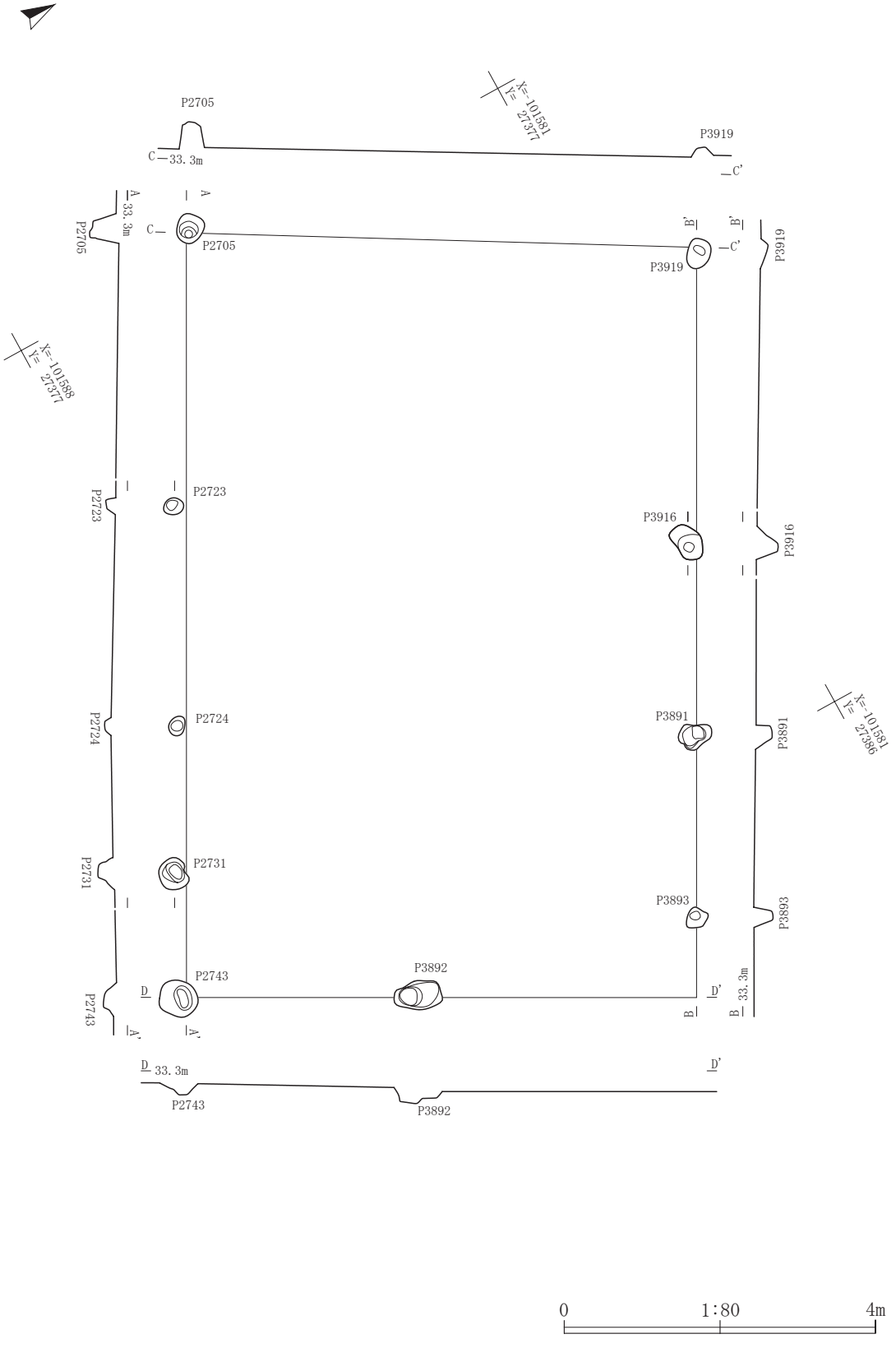
第77図　SB50掘立柱建物跡



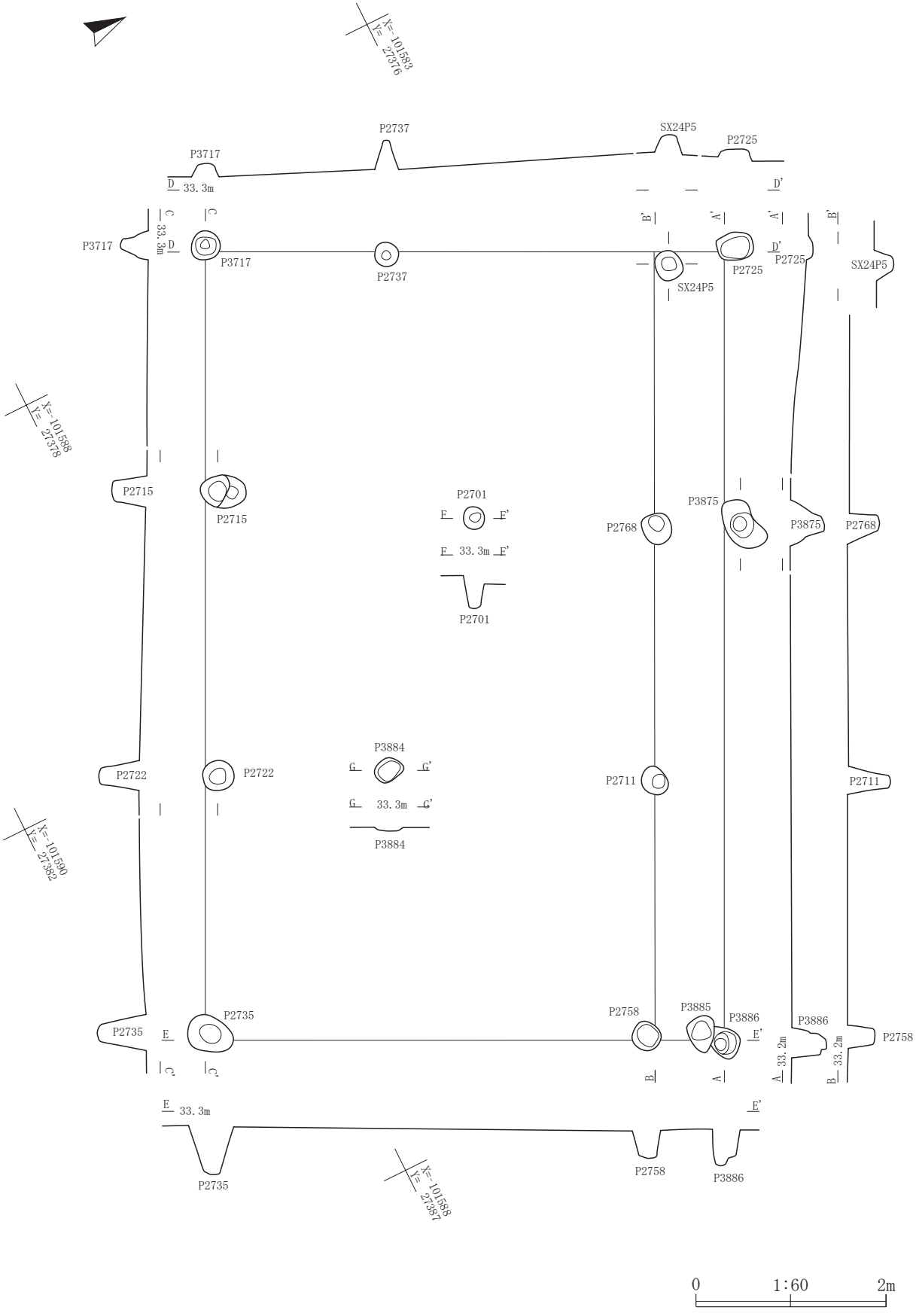
第78図　SB51掘立柱建物跡



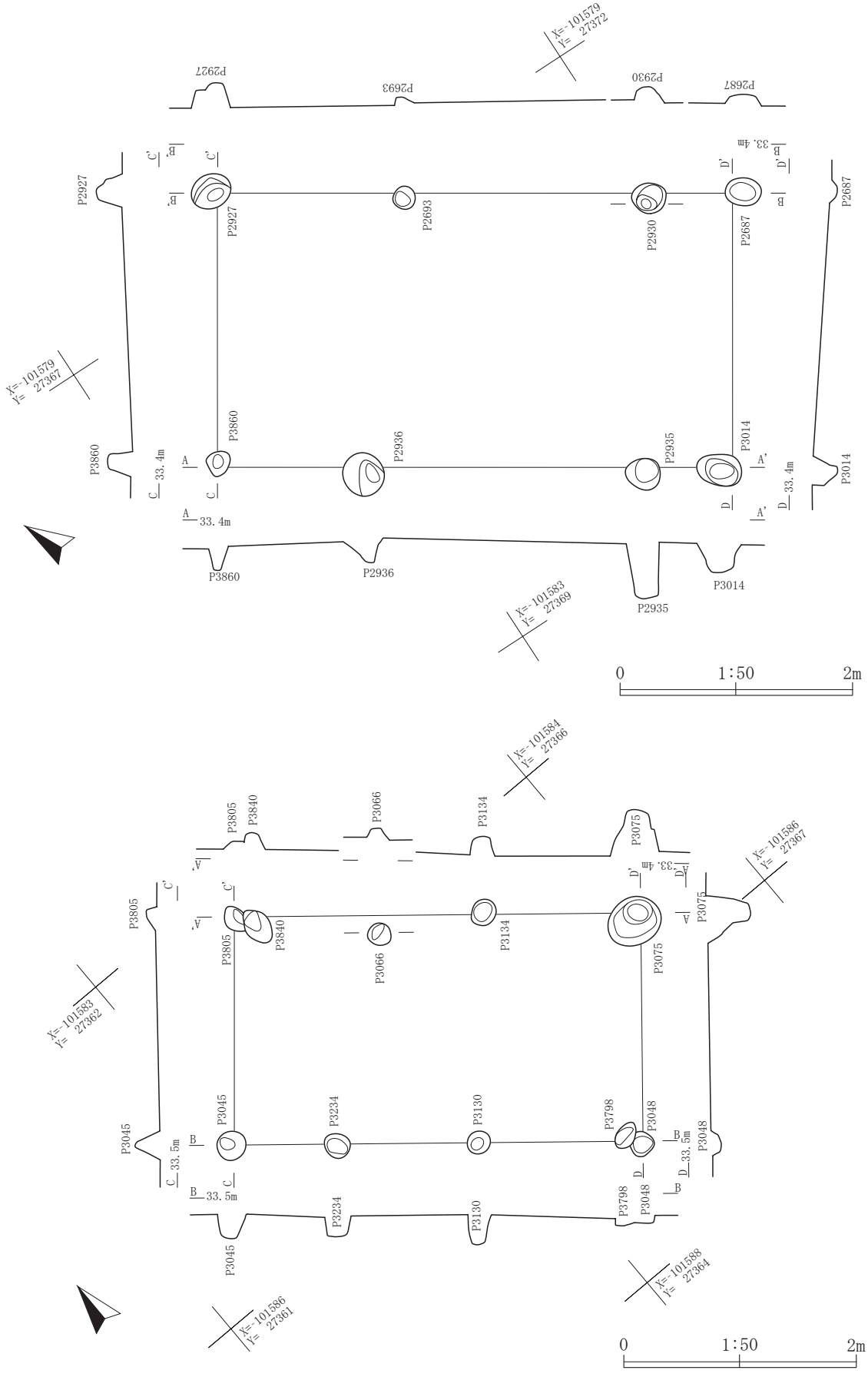
第79図　SB52掘立柱建物跡



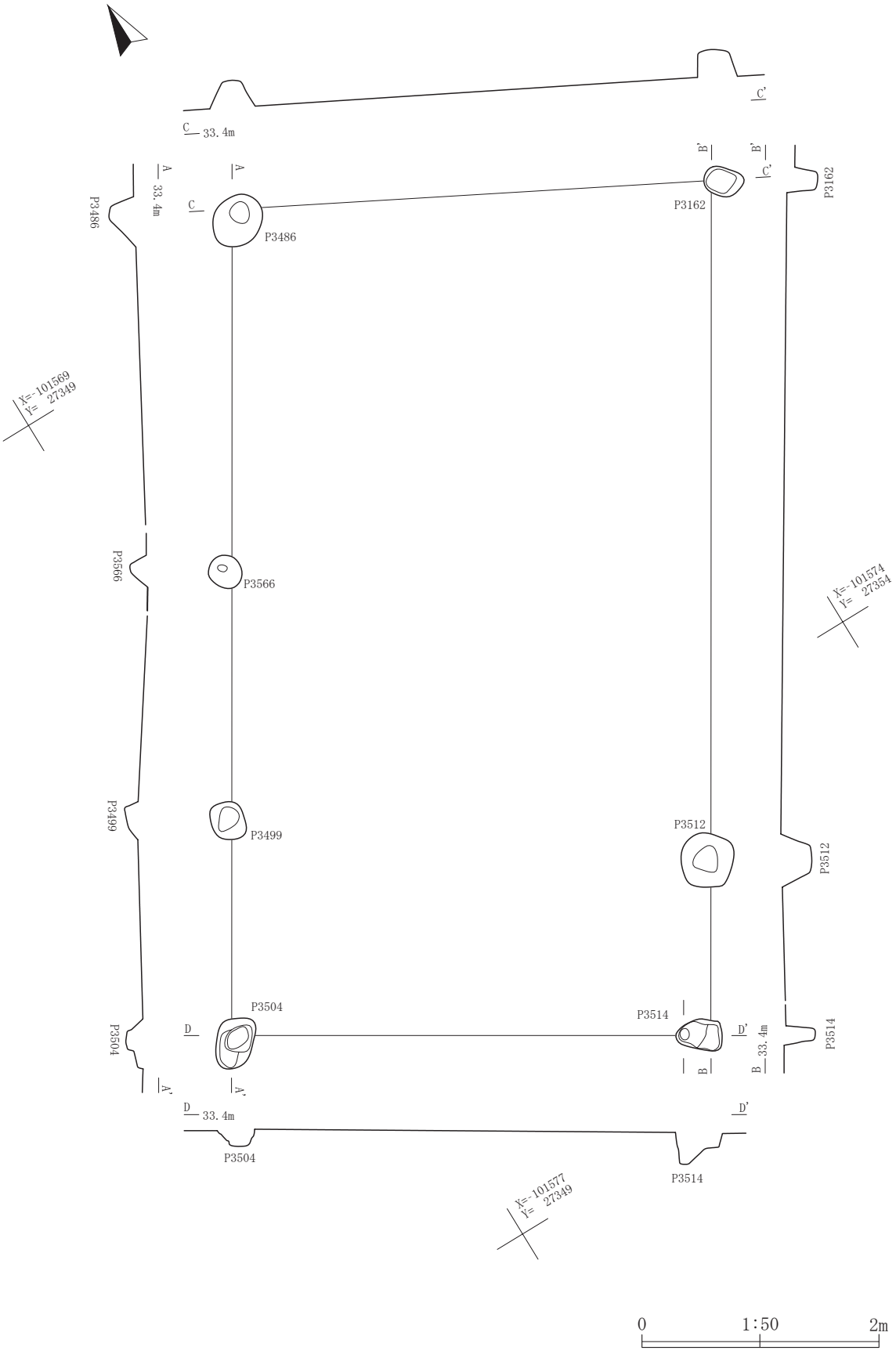
第80図　SB53掘立柱建物跡



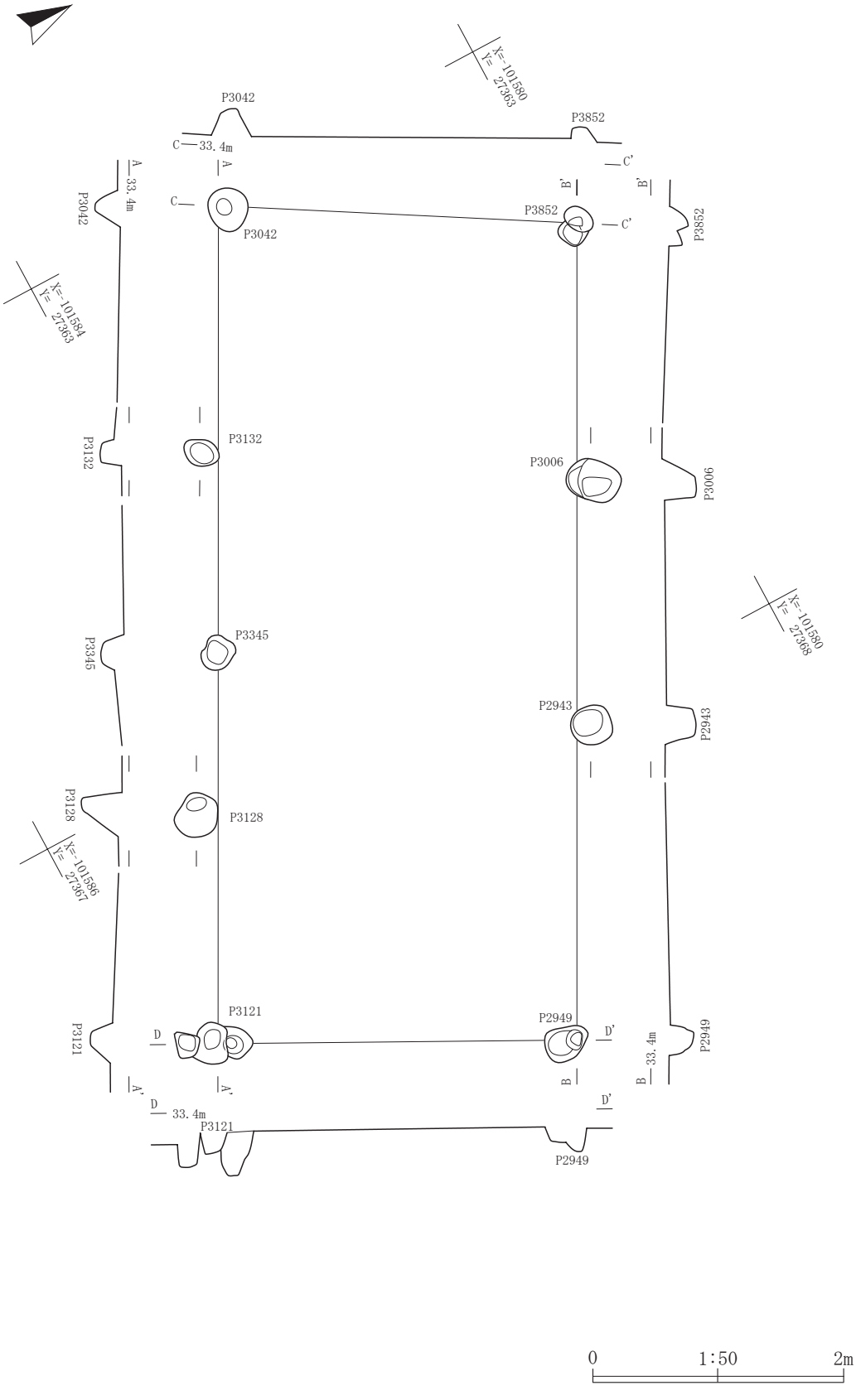
第81図　SB54掘立柱建物跡



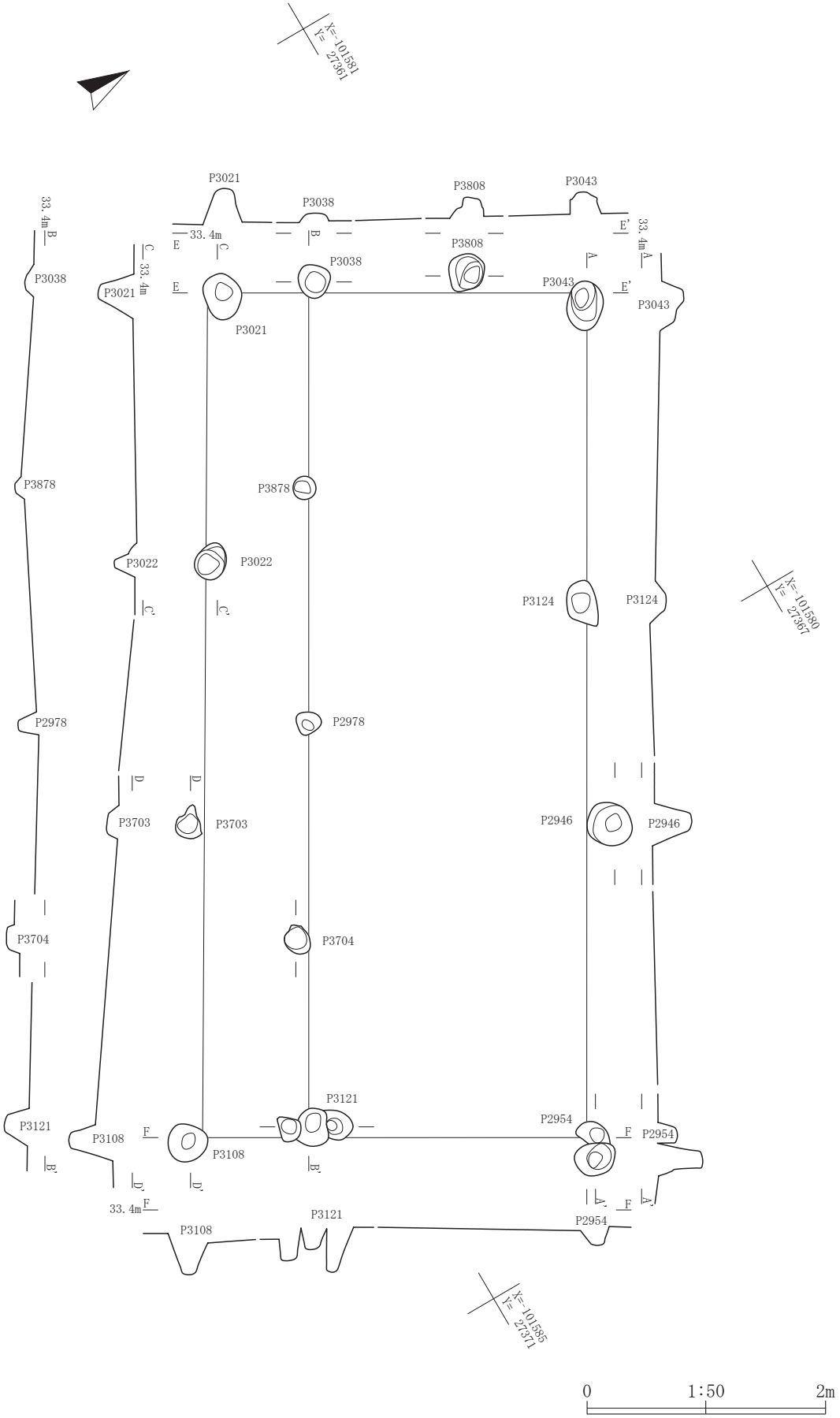
第82図　SB55・61掘立柱建物跡



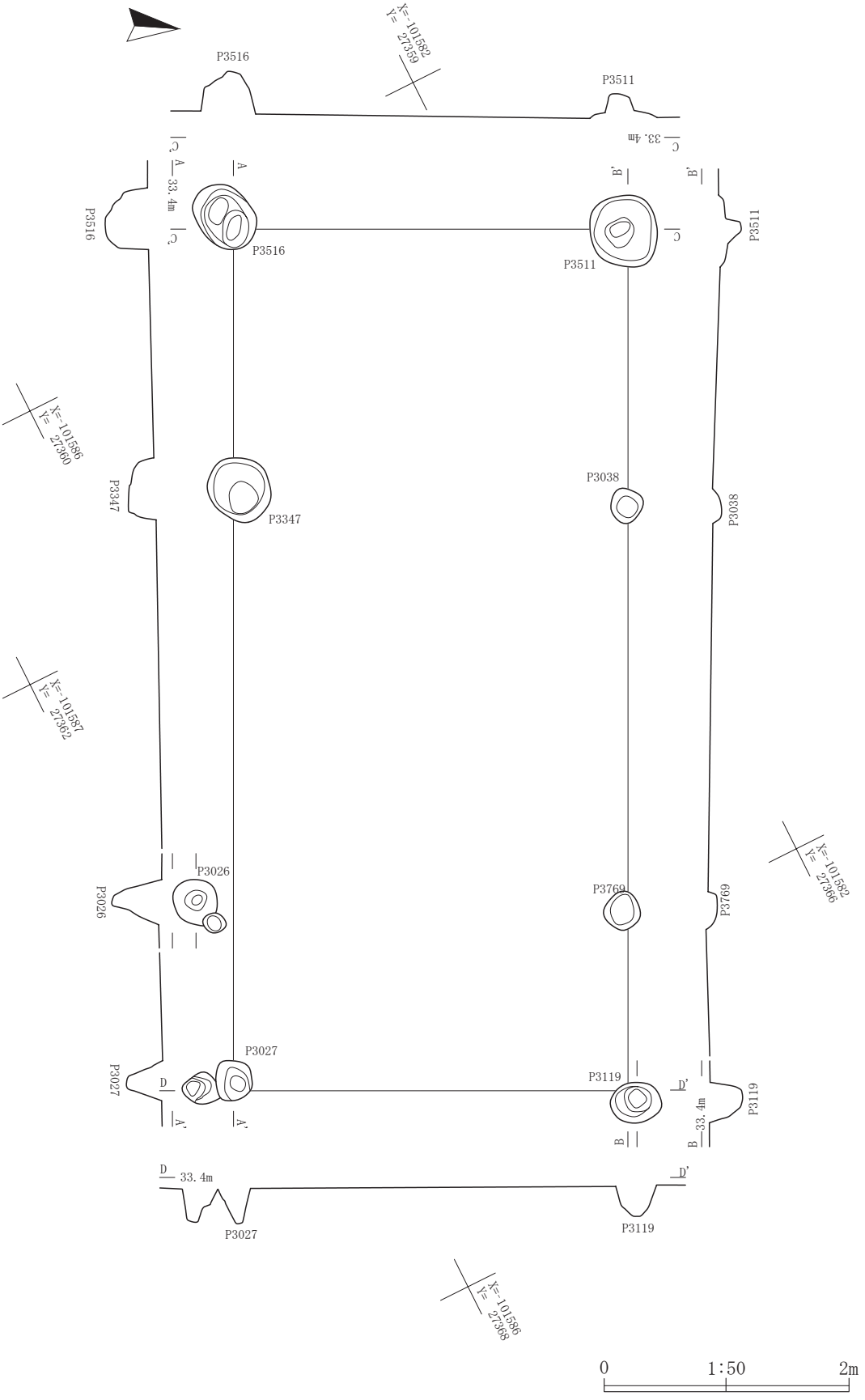
第83図　SB56掘立柱建物跡



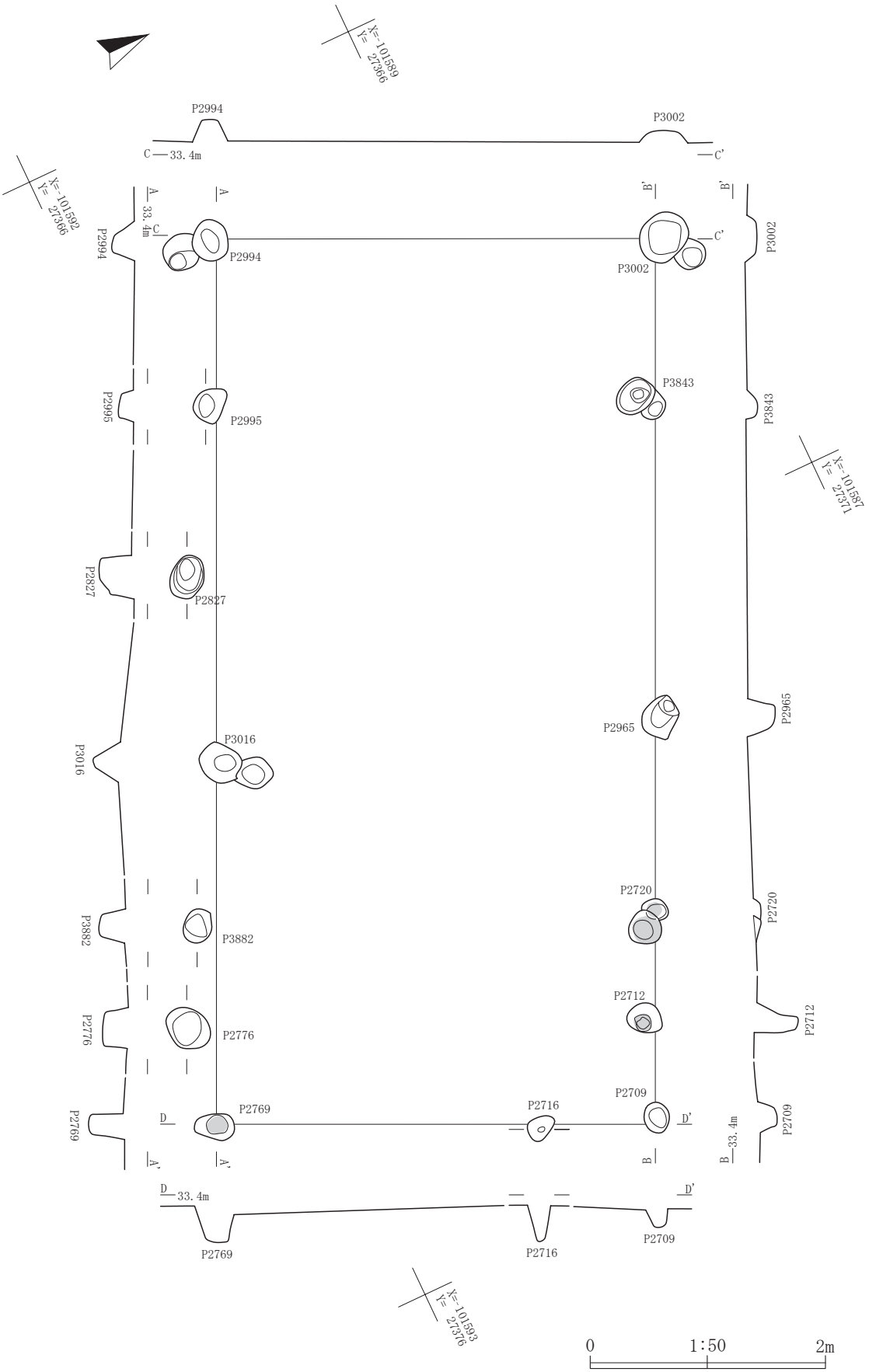
第84図　SB57掘立柱建物跡



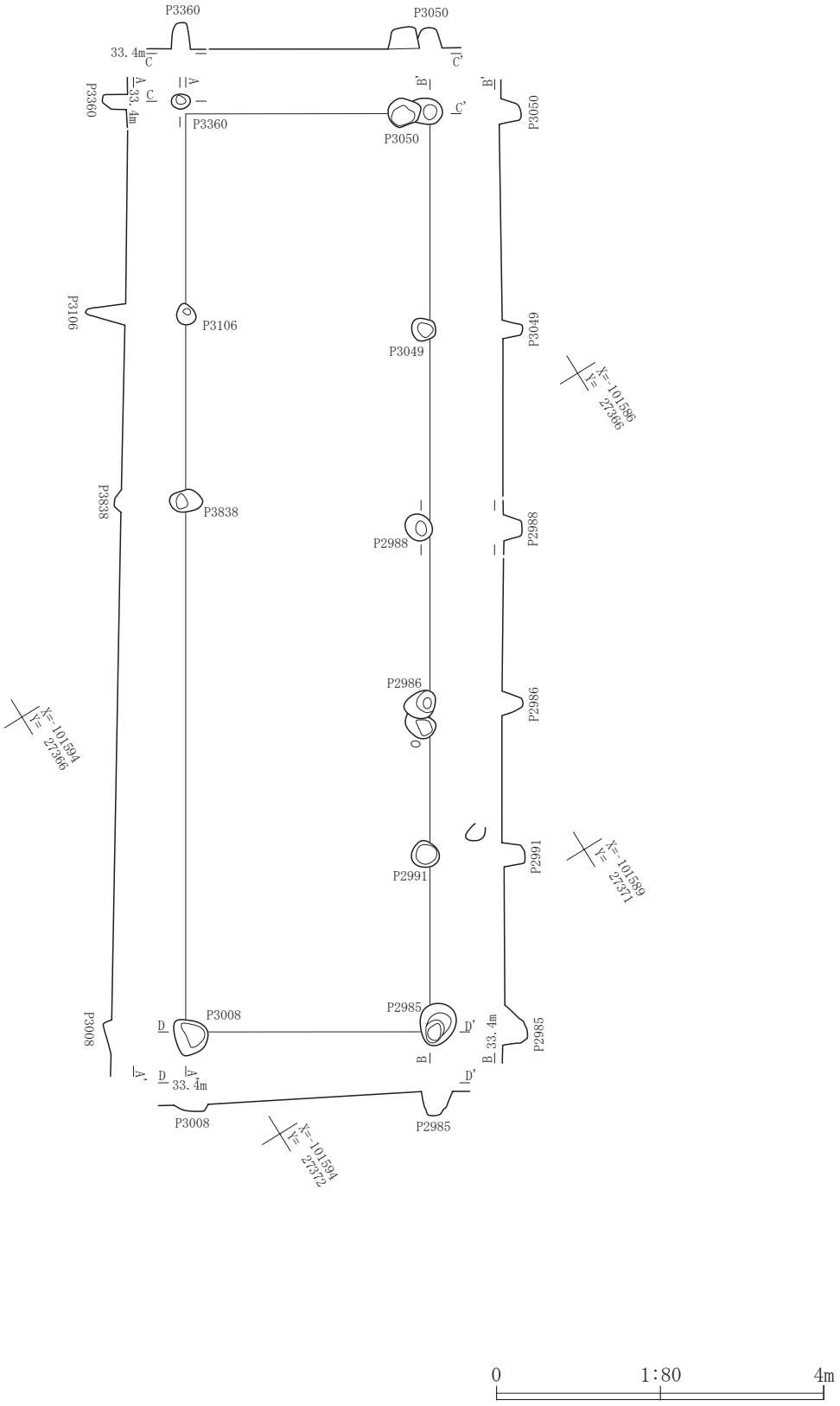
第85図　SB58掘立柱建物跡



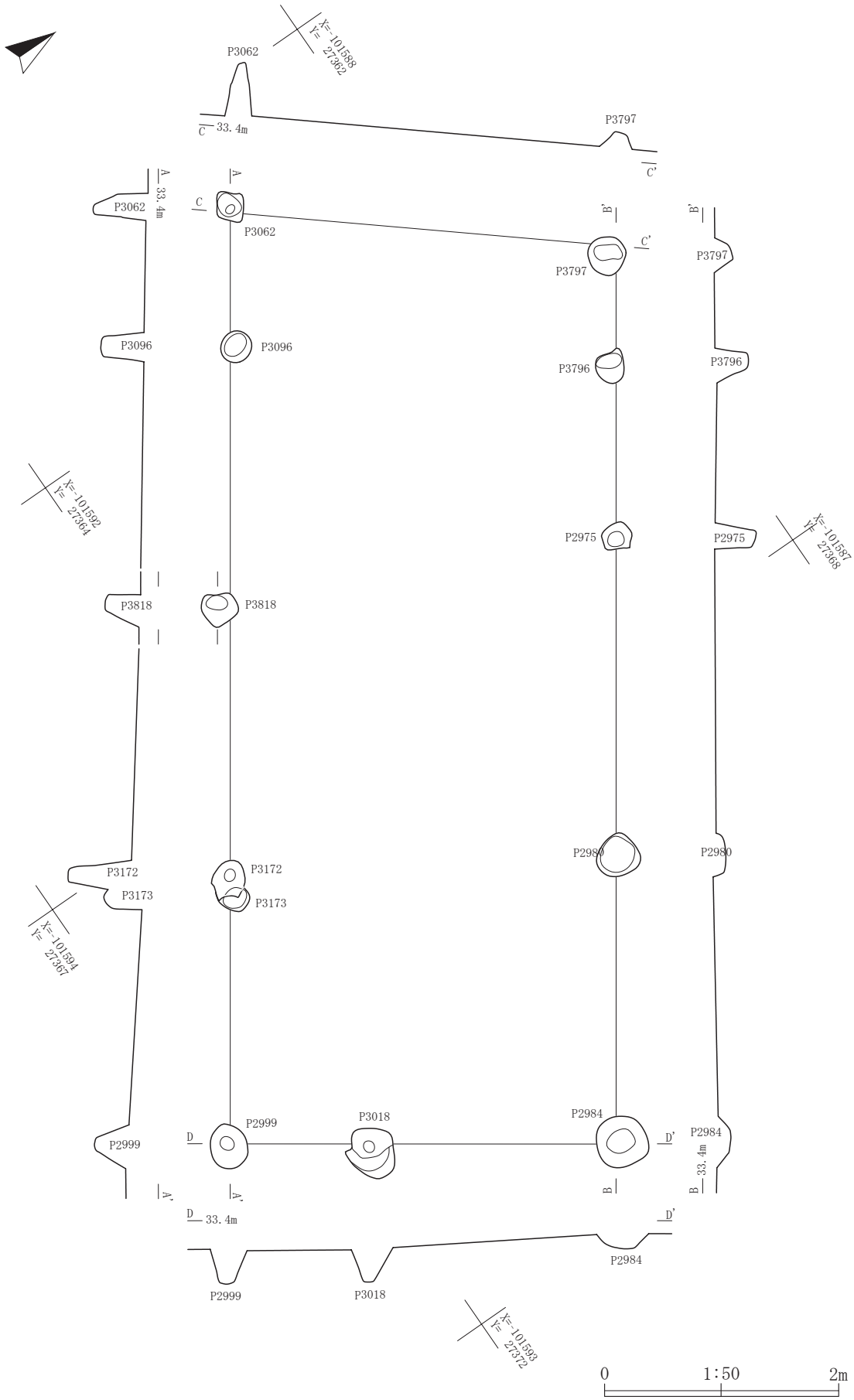
第86図　SB59掘立柱建物跡



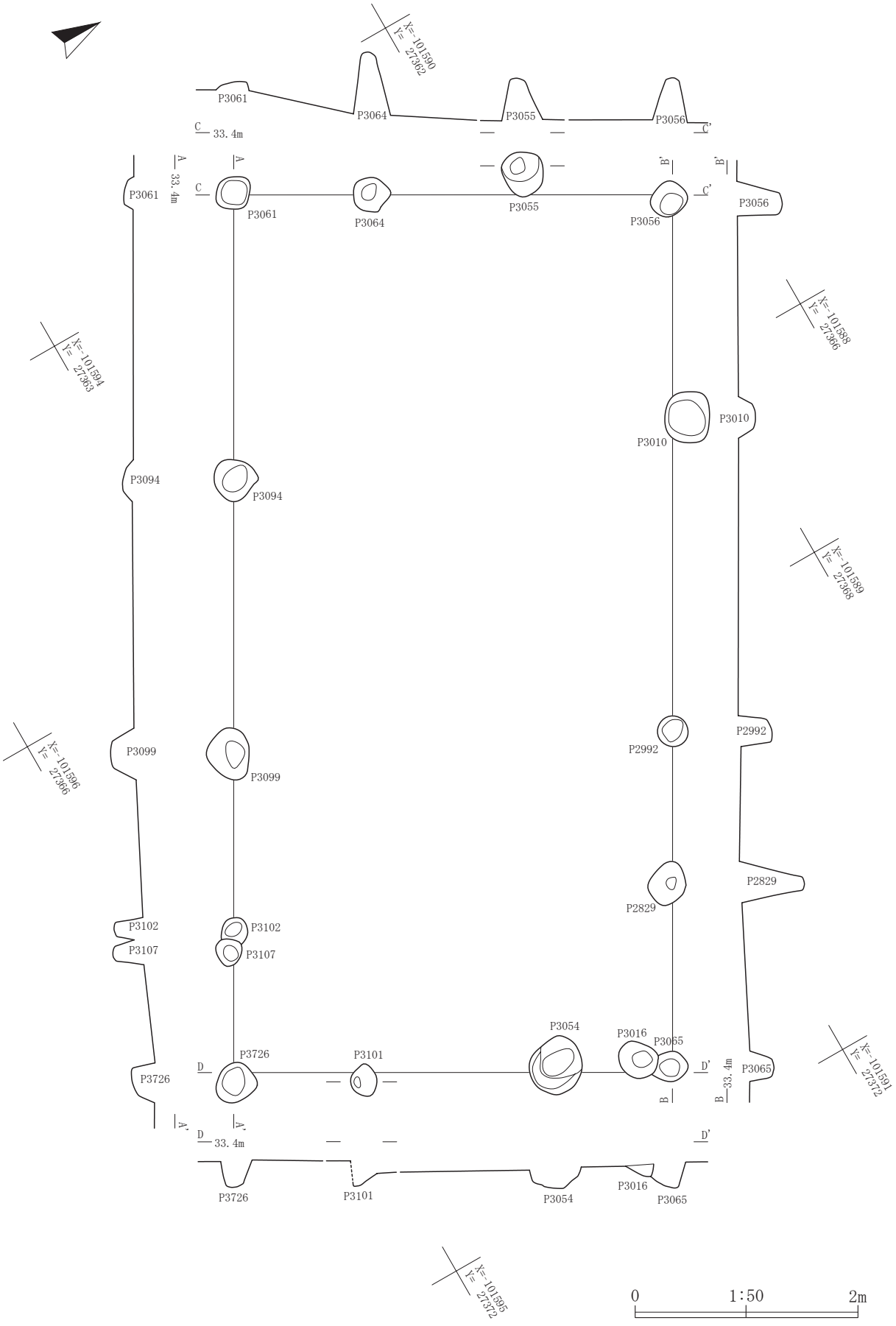
第87図　SB60掘立柱建物跡



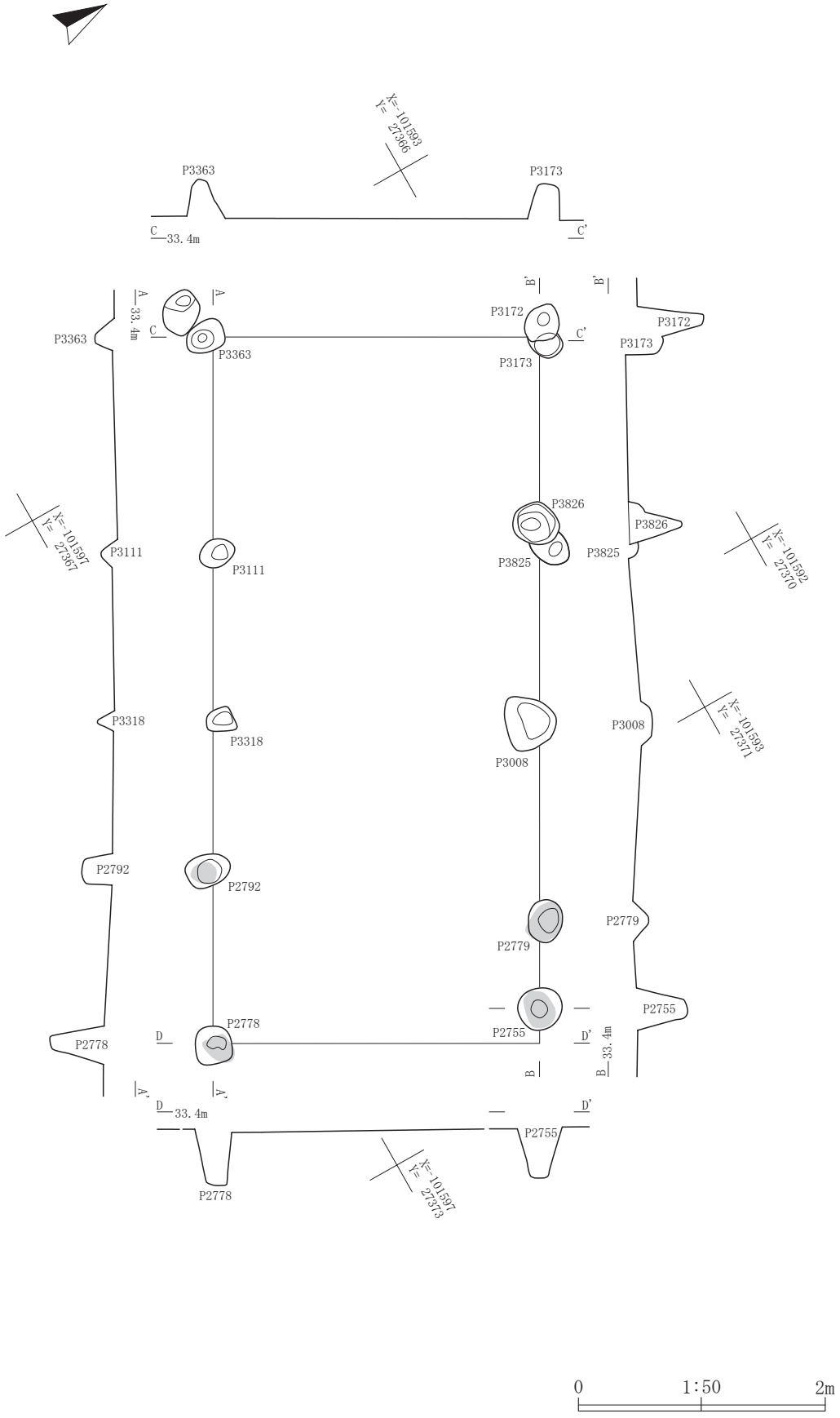
第88図　SB62掘立柱建物跡



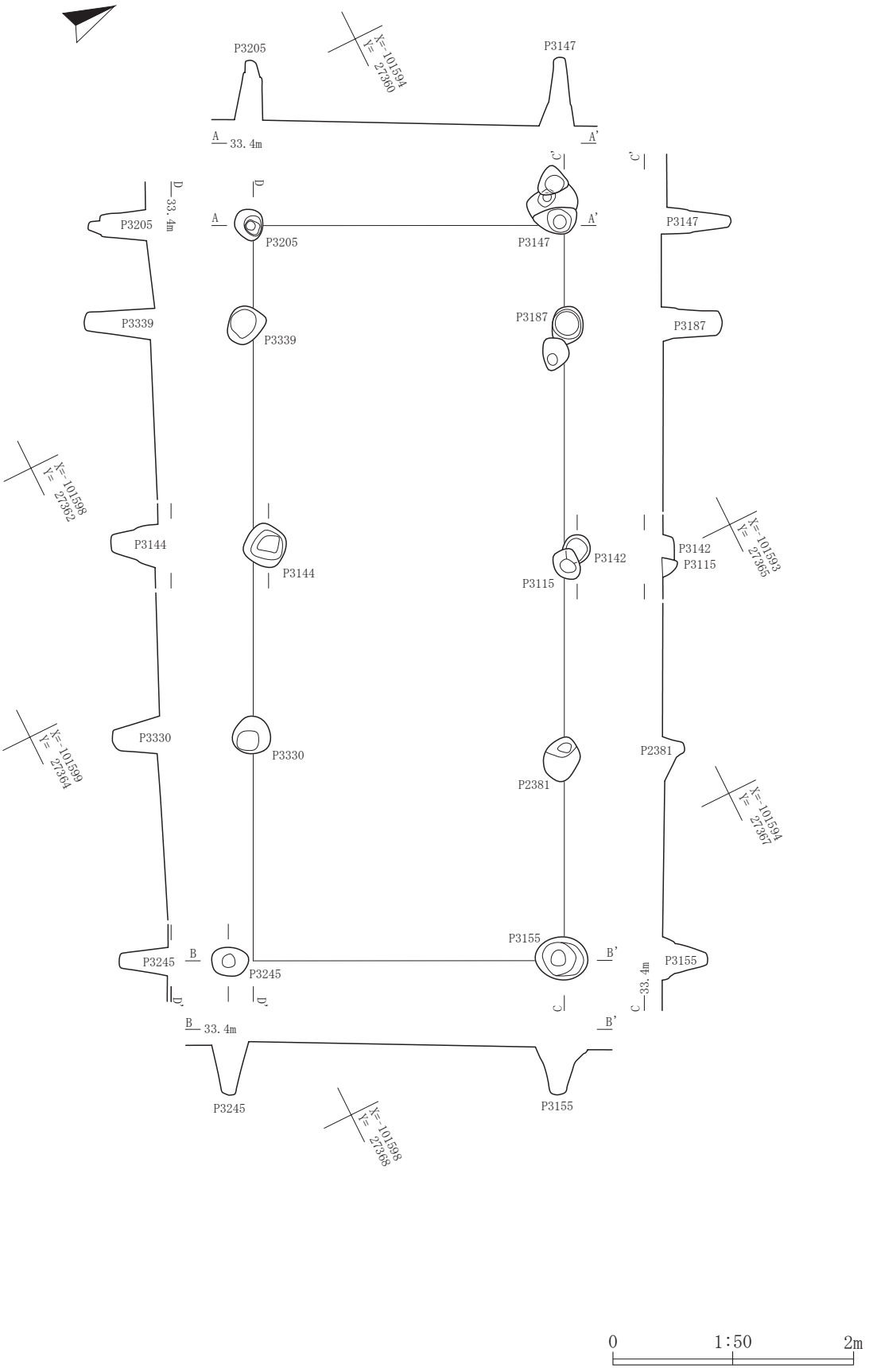
第89図　SB63掘立柱建物跡



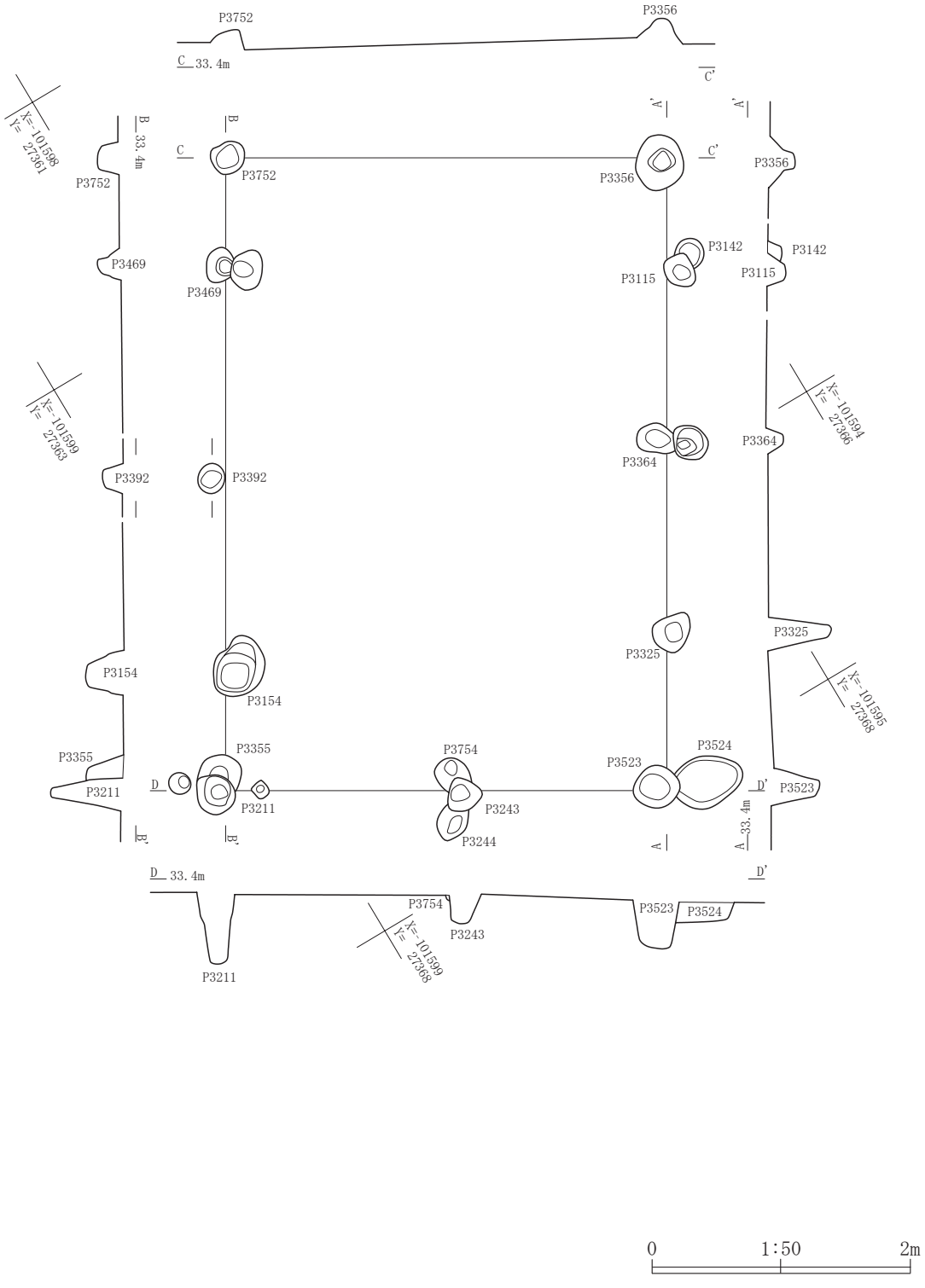
第90図　SB64掘立柱建物跡



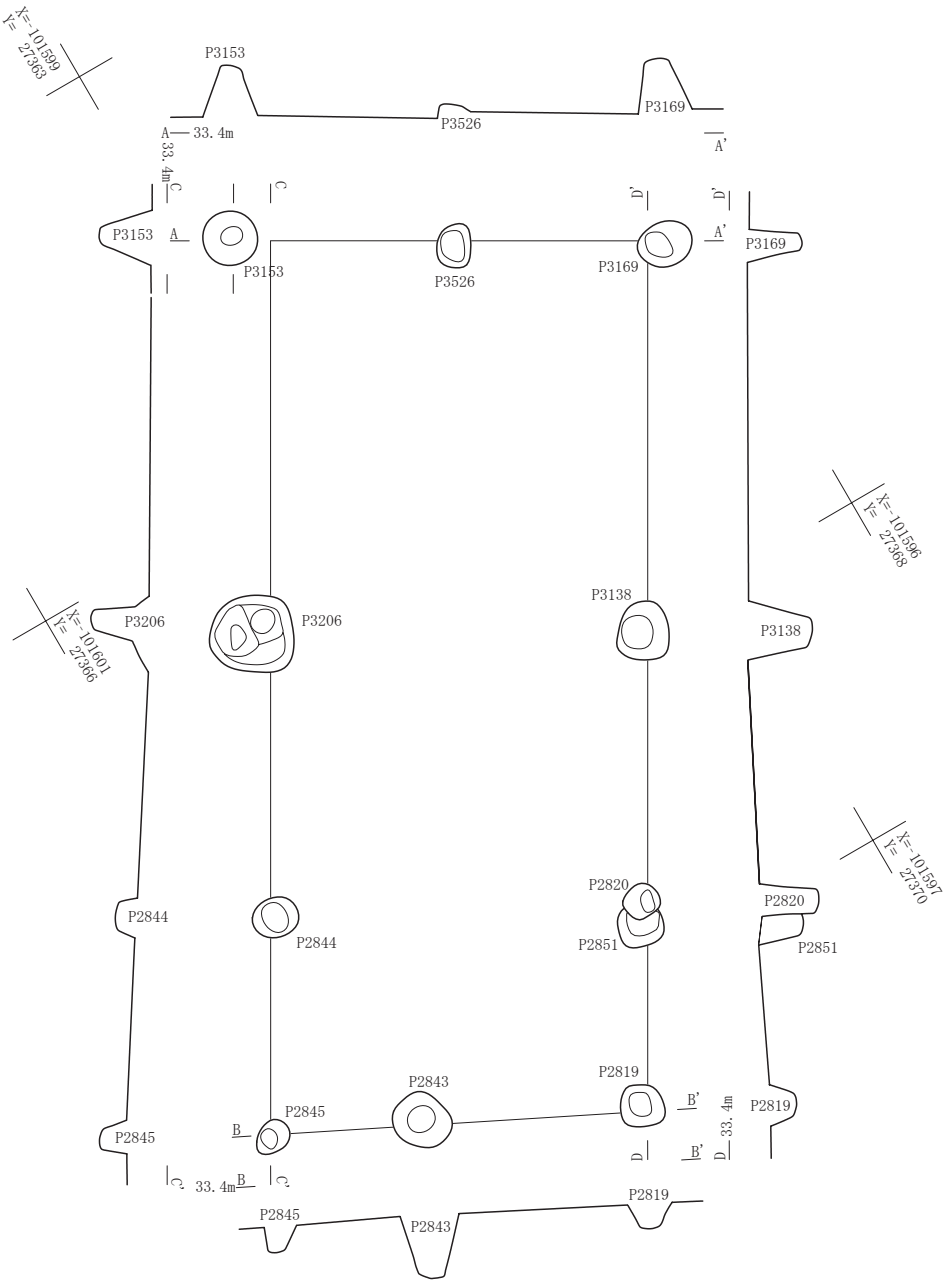
第91図　SB65掘立柱建物跡



第92図　SB66掘立柱建物跡

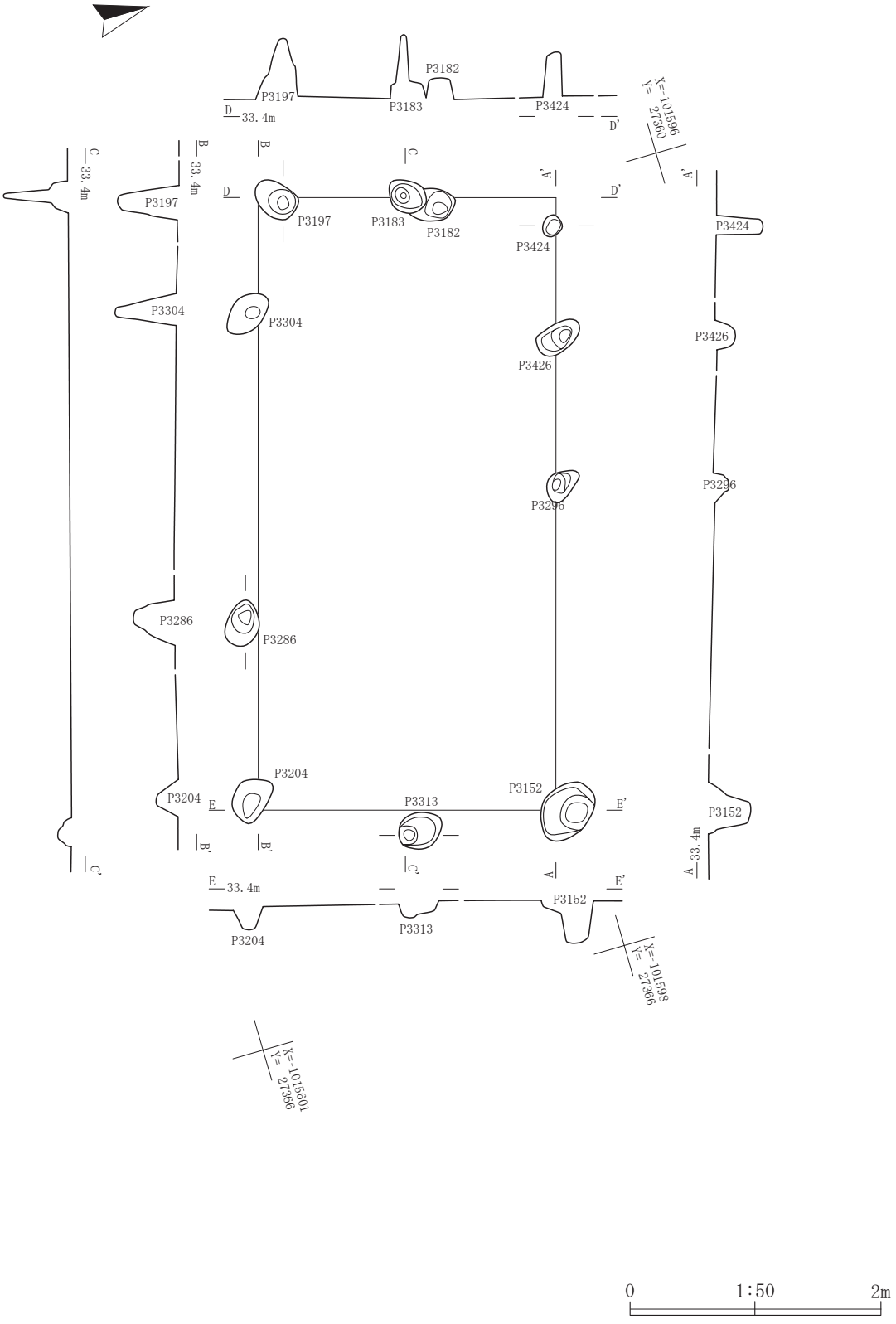


第93図　SB67掘立柱建物跡

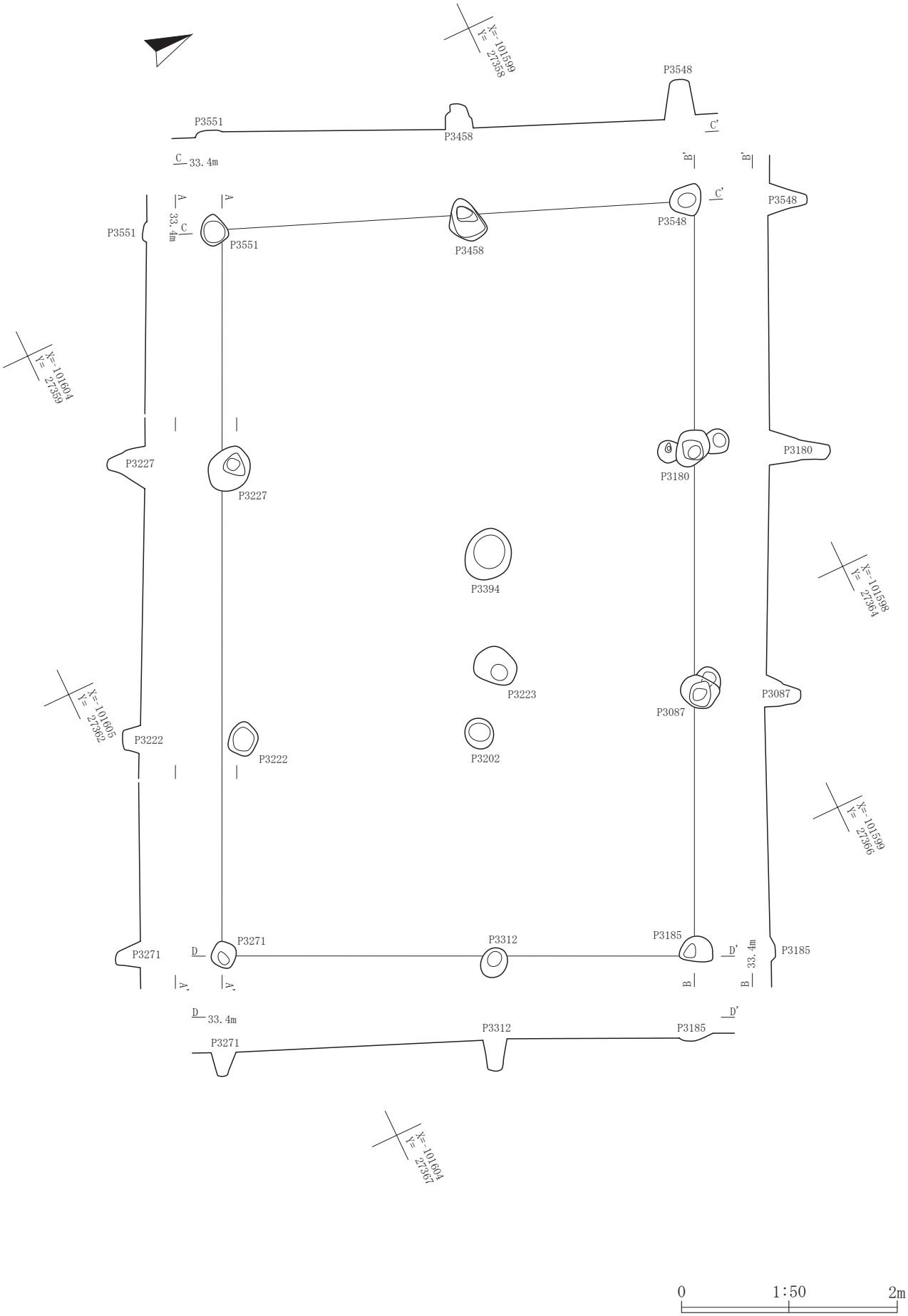


0 1:50 2m

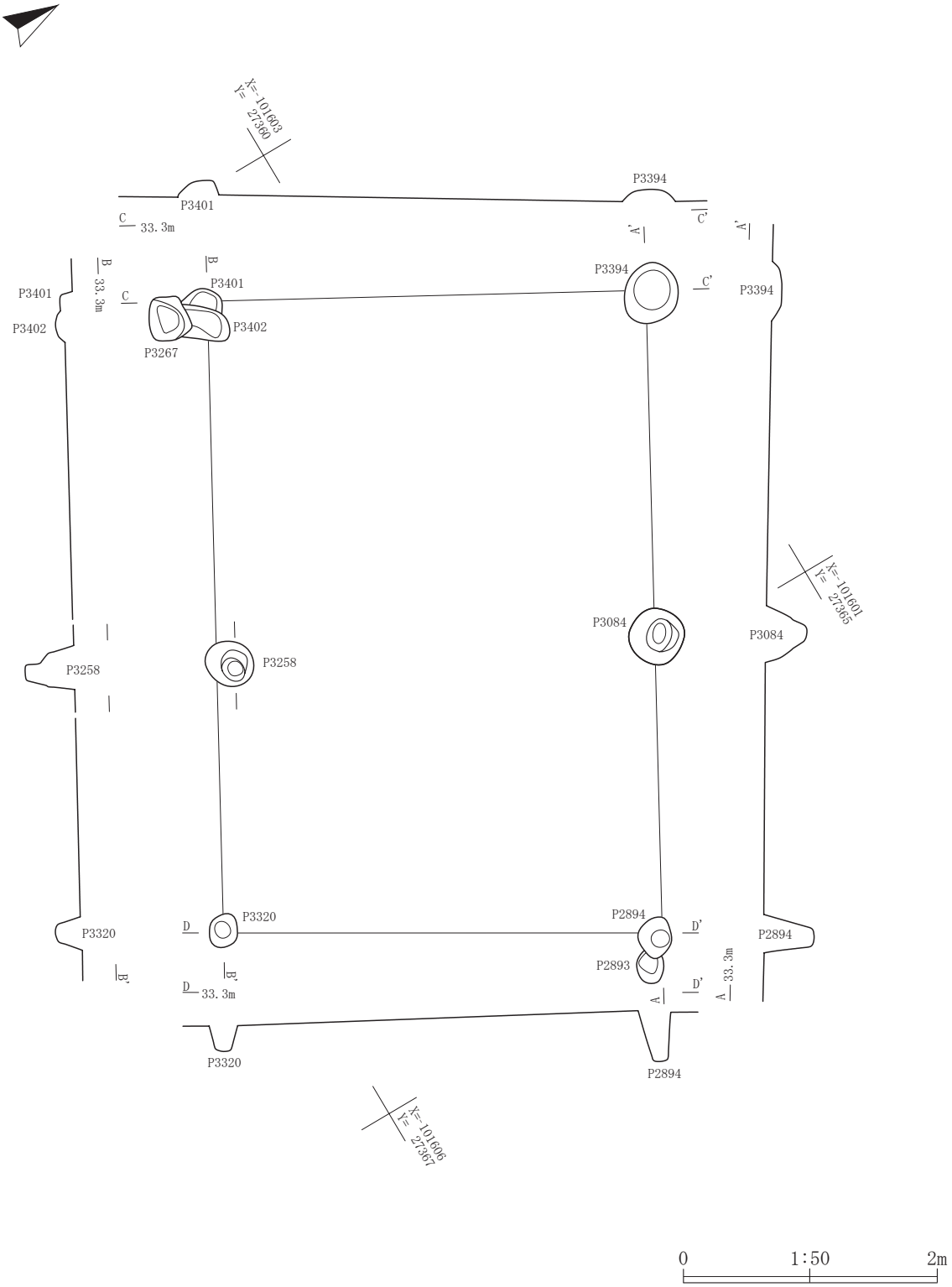
第94図　SB68掘立柱建物跡



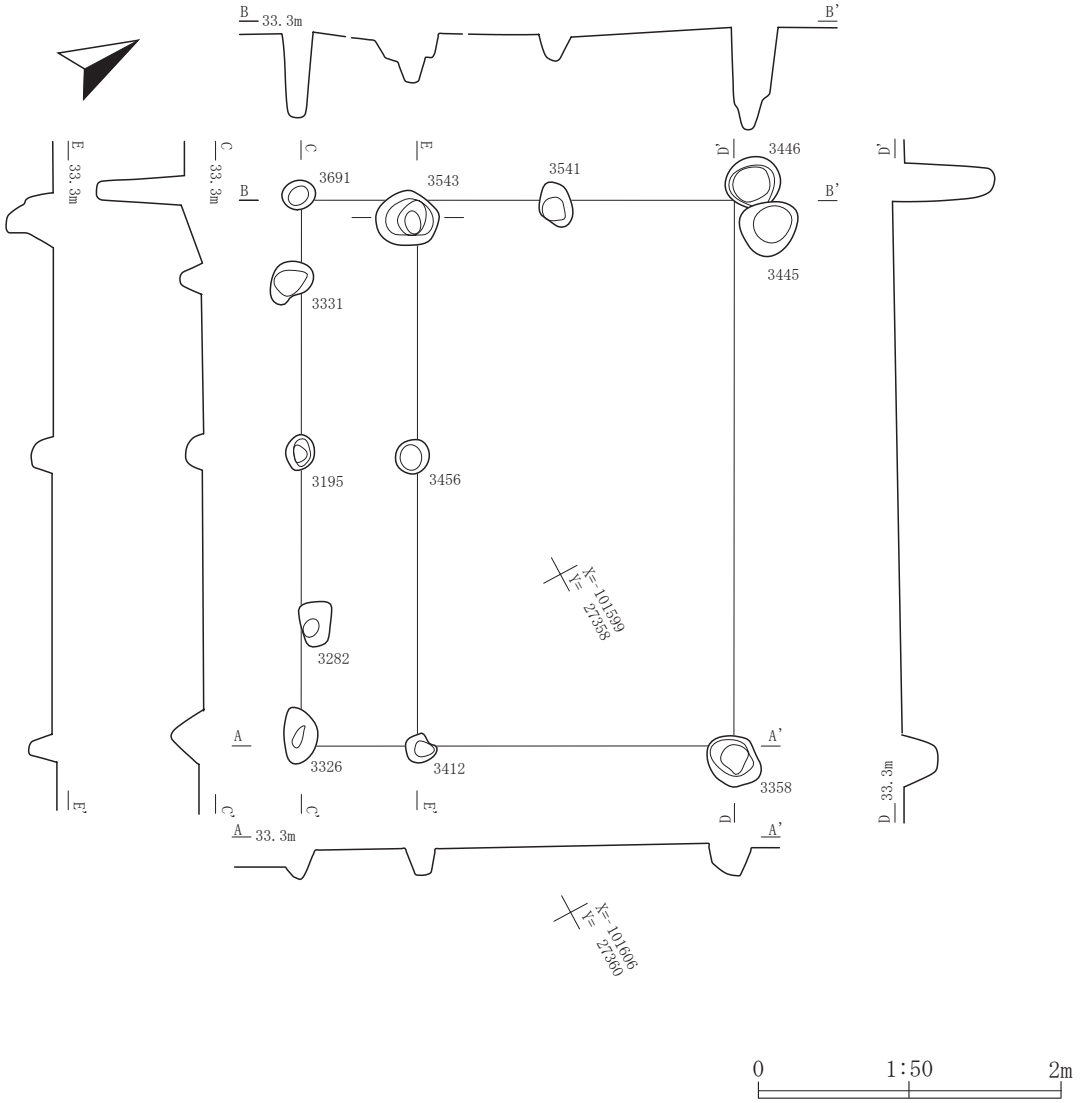
第95図　SB69掘立柱建物跡



第96図　SB70掘立柱建物跡

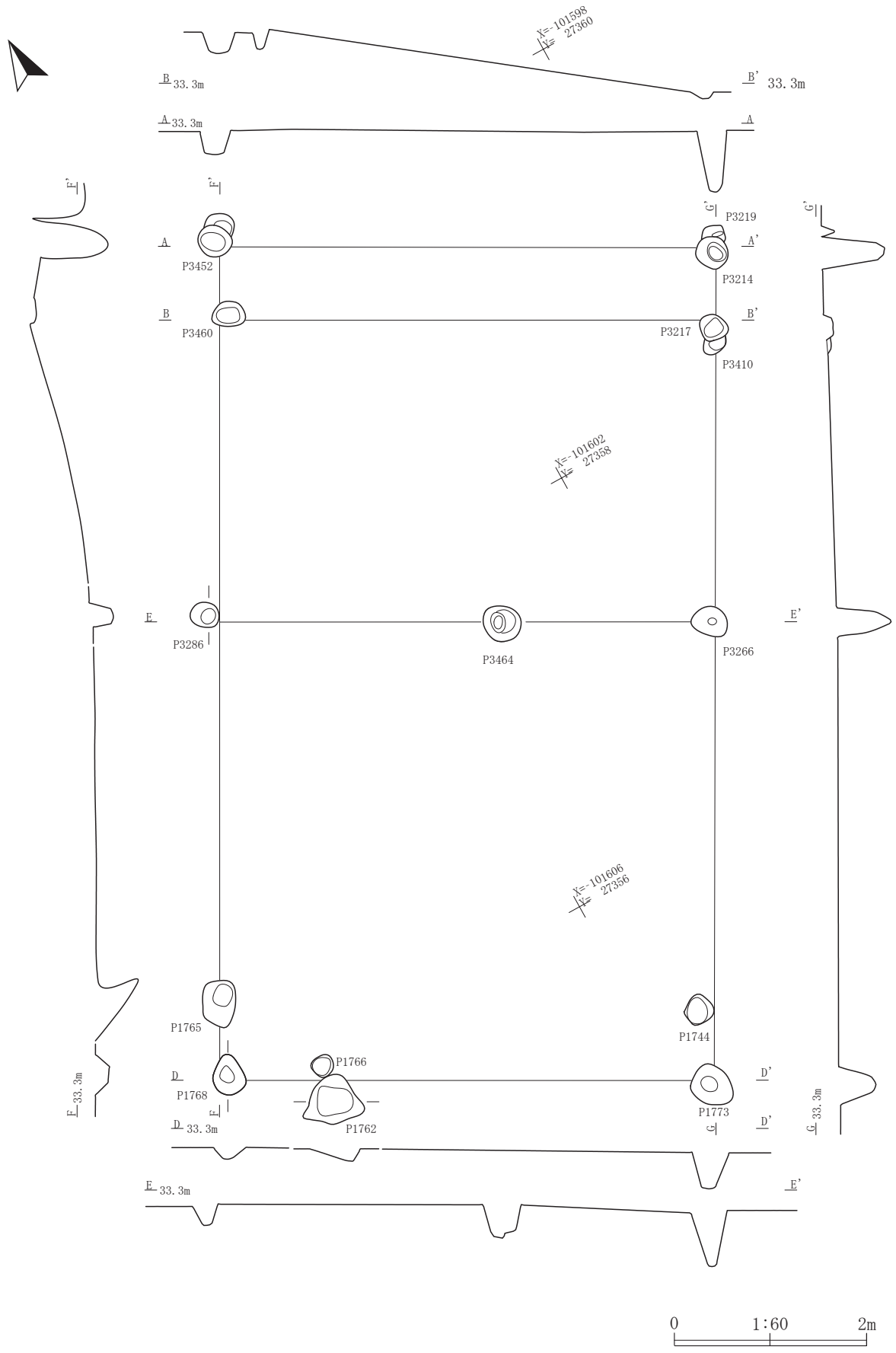


第97図　SB71掘立柱建物跡

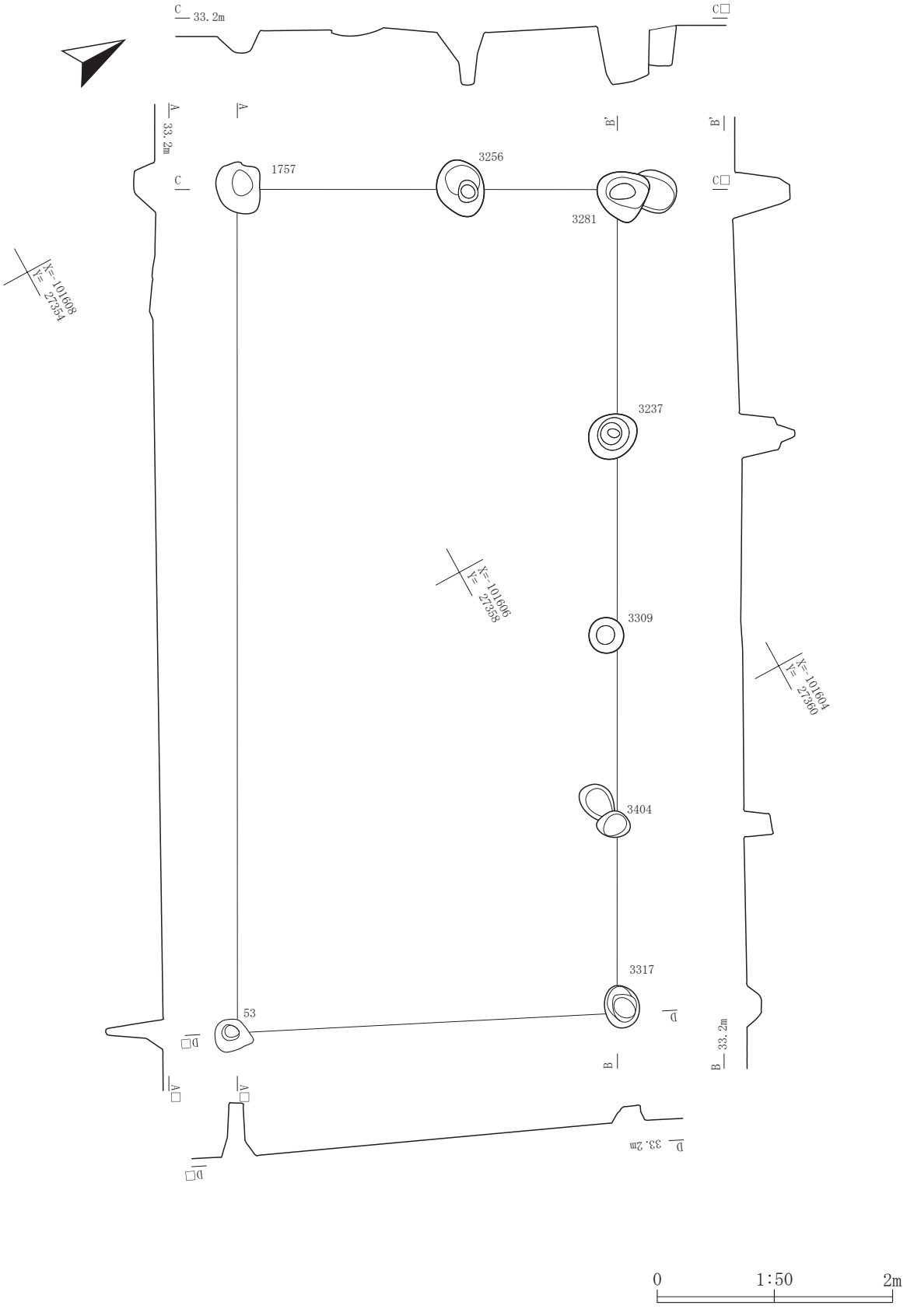


0 1:50 2m

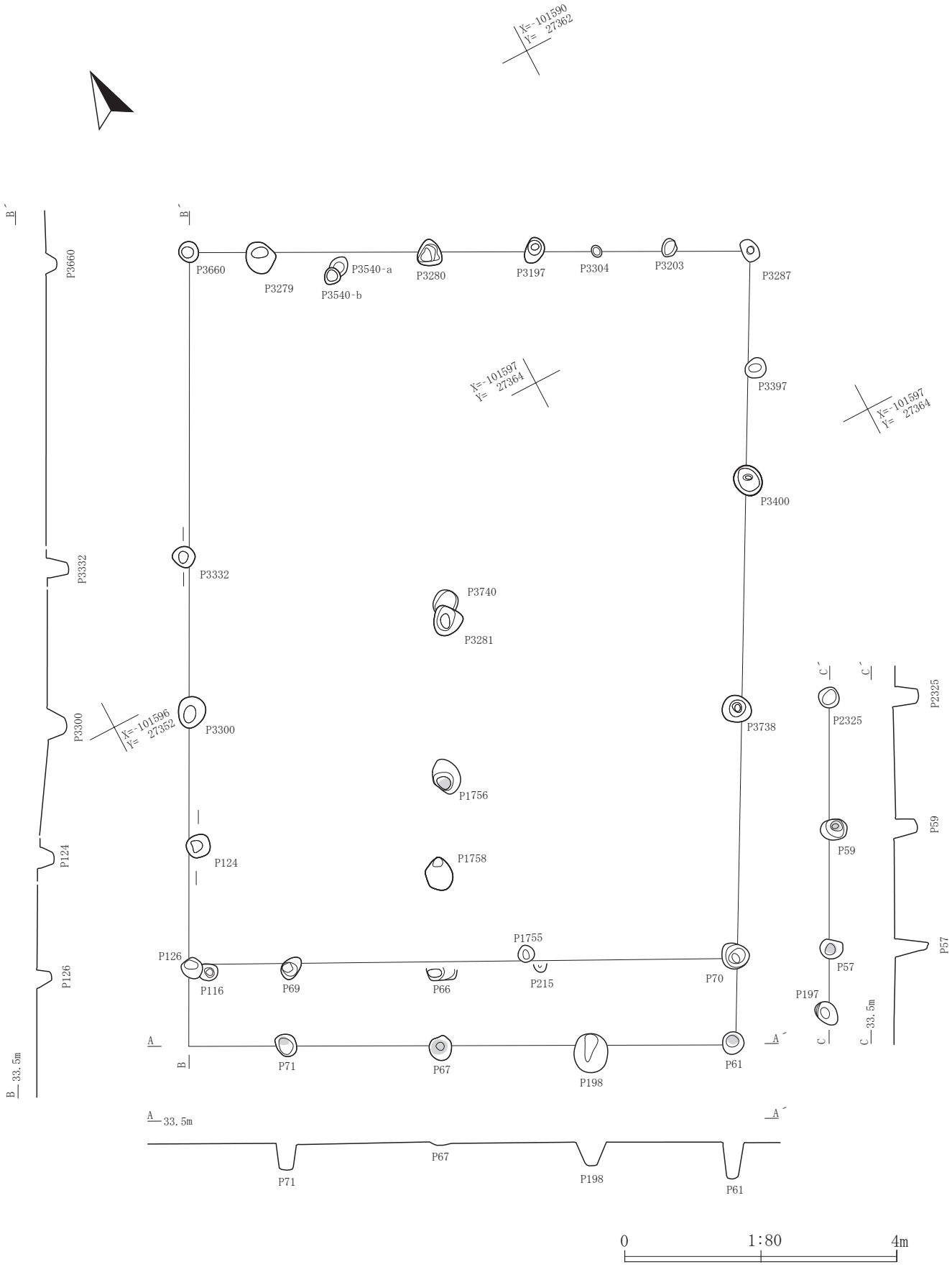
第98図　SB72掘立柱建物跡



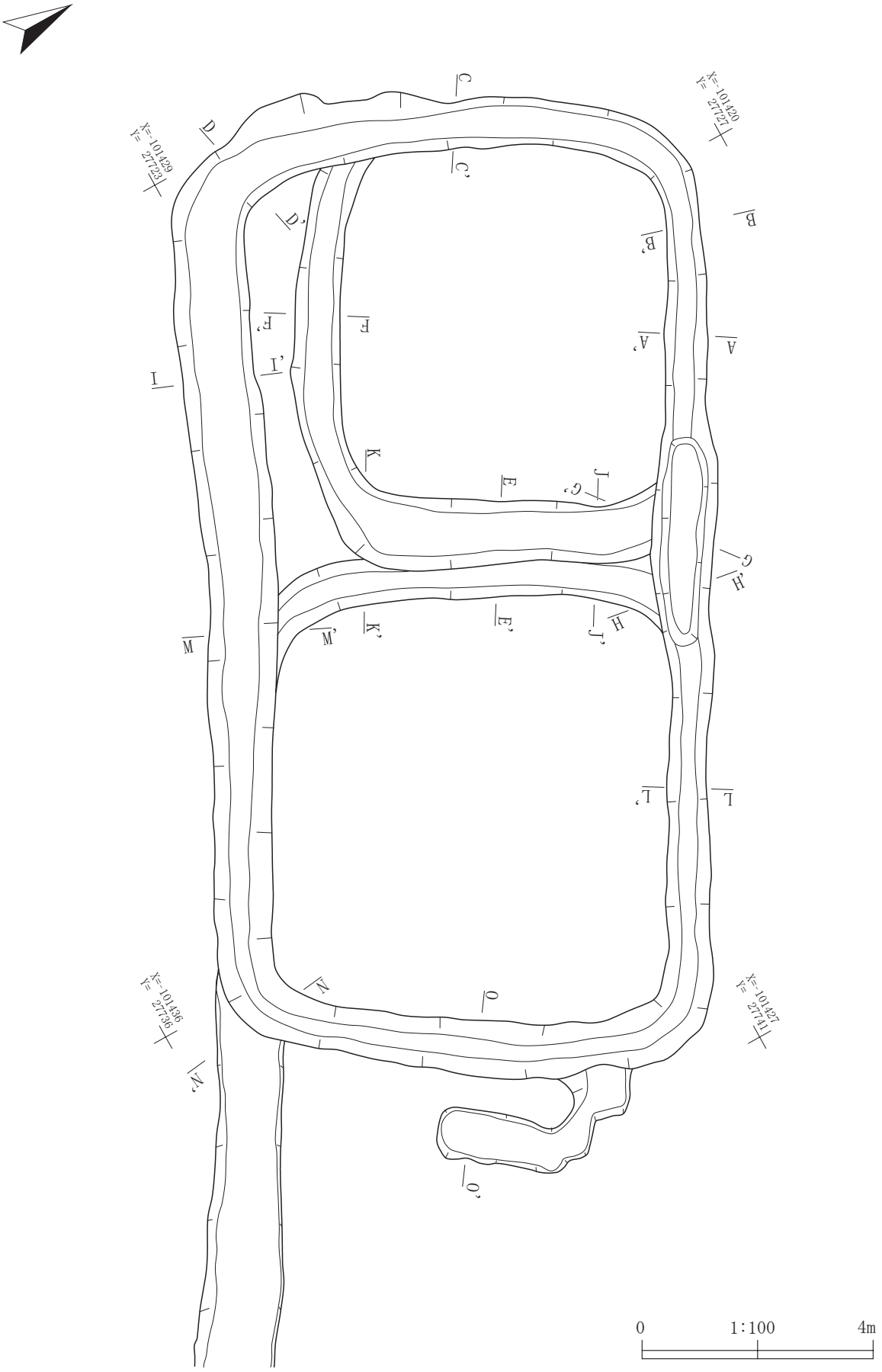
第99図　SB73掘立柱建物跡



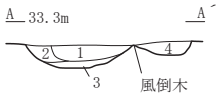
第100図　SB74掘立柱建物跡

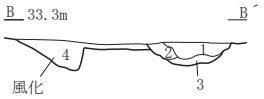


第101図　SB75掘立柱建物跡

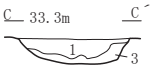


第102図　SX06墳墓 (1)



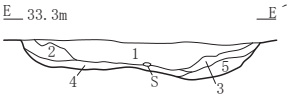


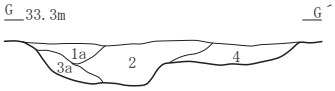
SX06墳墓(F-F´)
1 10YR2/1黒色土　粘やや弱・しまりやや疎
2 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック(※1層との境に分布)

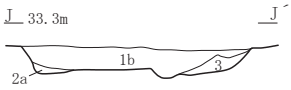


SX06墳墓(A-A´・B-B´・C-C´・D-D´)
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや疎
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや疎　地山ブロック小粒1～5%混入
3 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや疎　地山ブロック小粒10%混入
4 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや密

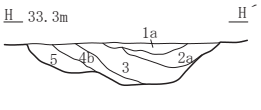
SX06墳墓(I-I´)
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや疎　小礫を極微量含
2 10YR2/1黒色シルト　粘やや弱・しまり中　壁や底面近くには地山ブロック5%混入
3 10YR2/3黒褐色シルト　粘・しまり中　地山ブロック50%混入
※　自然堆積と思われる。1・2層は同時期に内側から入ってきたようだ。

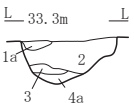


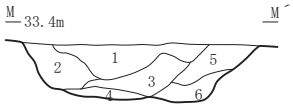


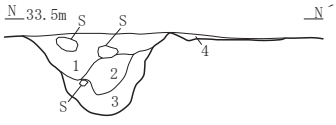


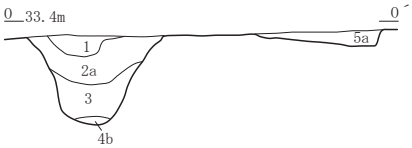
SX06墳墓(E-E´・G-G´・J-J´・K-K´)
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック中小粒を50%以上含
　(※マウンドの崩落土か、基本的には自然堆積と思われる。)
1a 10YR2/1黒色シルト　粘やや弱・しまりやや疎
1b 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック大～小粒30%混入
2 10YR2/3～3/3黒褐～暗褐色シルト　粘中・しまりやや疎　地山ブロック10%混入
2a 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック中粒50%以上混入
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや疎(※4層との境付近は褐色に近い色調になる)
3a 10YR2/1黒色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック小粒10%混入
4 10YR3/1黒褐色シルト　粘中・しまりやや強
4a 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック小粒30%混入
5 10YR4/4褐色シルト　粘中・しまり中
5a 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや強・しまり中　地山ブロック大～小粒50%混入



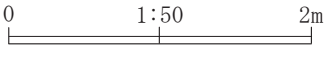




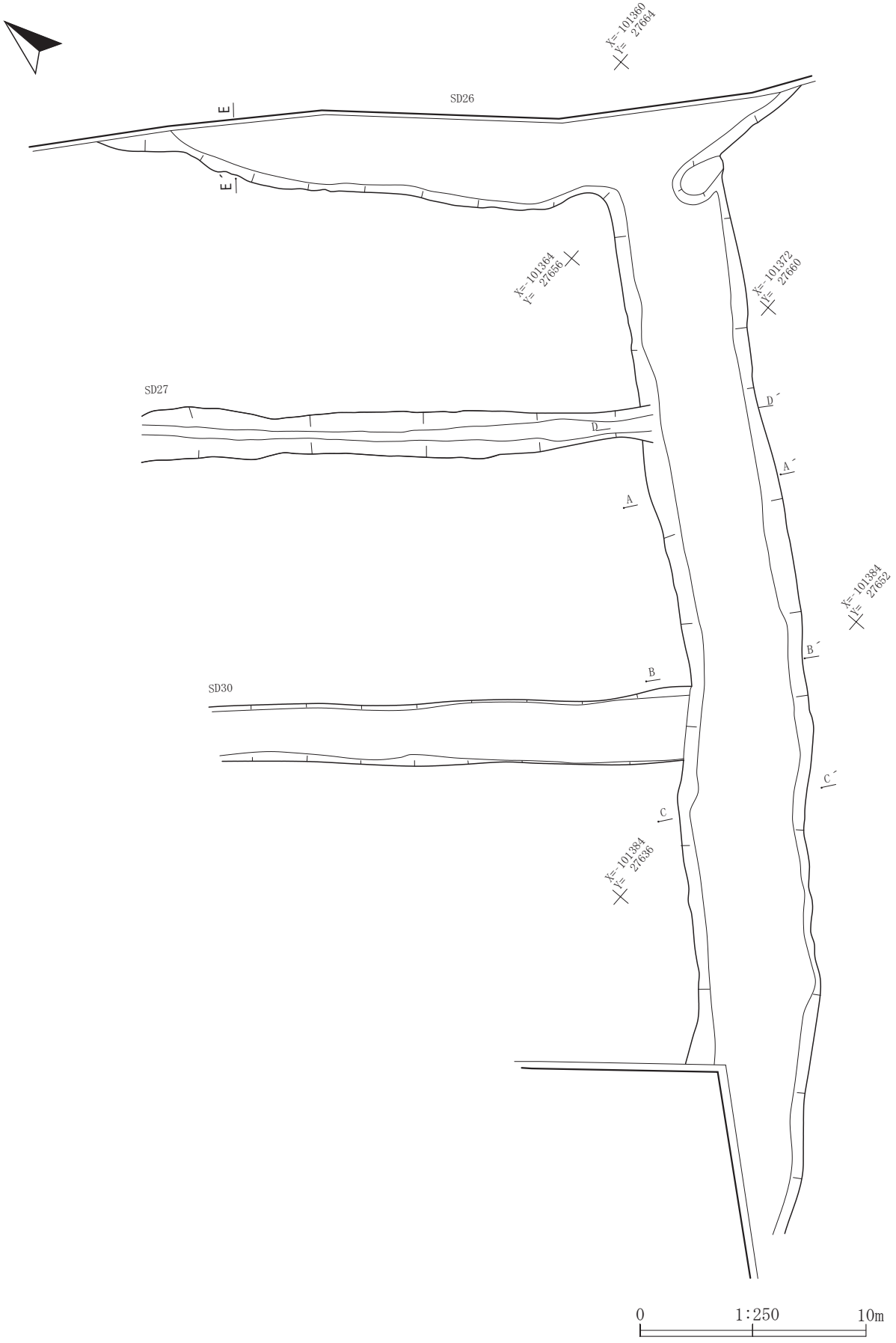




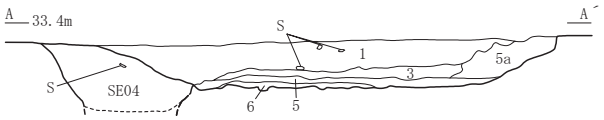
SX06墳墓(H-H´・L-L´・M-M´・N-N´・O-O´)
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
1a 10YR2/1黒色シルト　粘中・しまり中
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック小粒10～20%混入
2a 10YR2/1黒色シルト　粘中・しまりやや疎　小礫極微量混入
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック小粒を20～30%・小礫微量混入
4 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック大～中粒30～40%混入
4a 10YR4/4褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
4b 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり中(※自然堆積)
5 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック小粒3%混入　(※自然堆積)
5a 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック中～大粒50%混入　(※人為堆積)
6 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック中～小粒30～40%混入

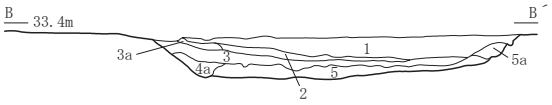


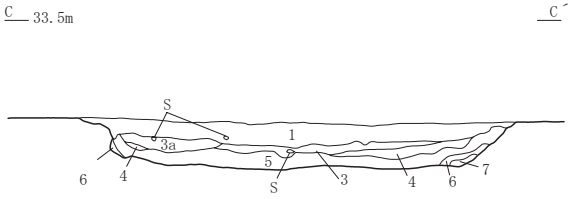
第103図　SX06墳墓 (2)

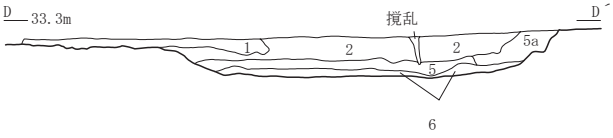


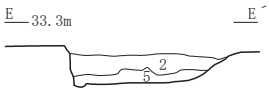
第104図　SD26堀跡（1）



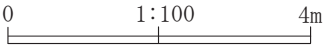




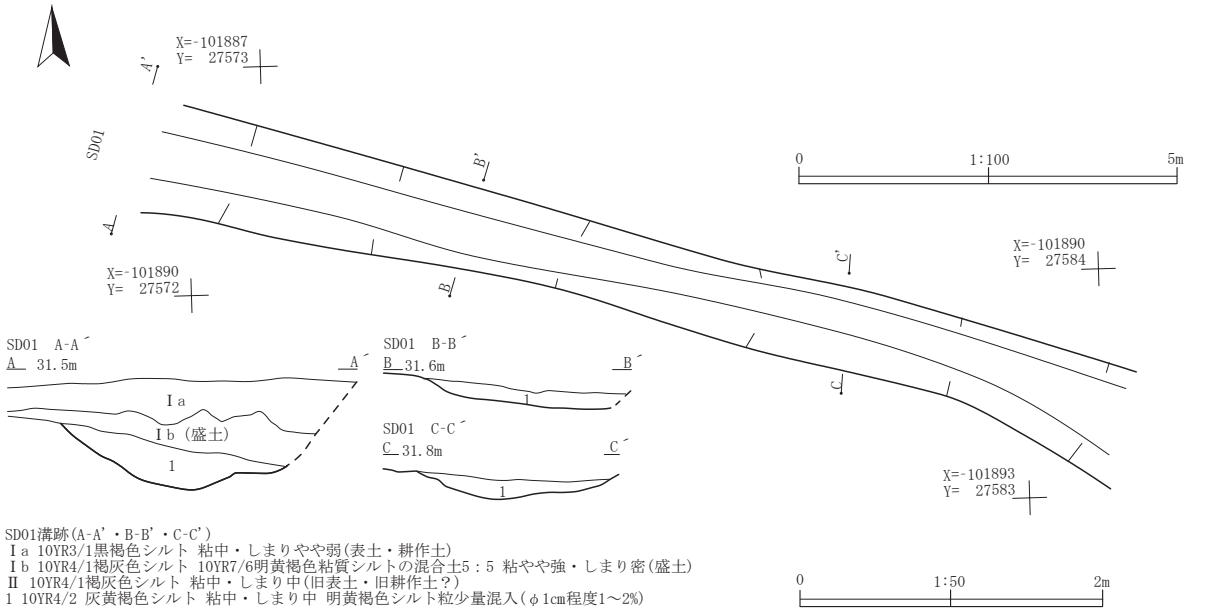




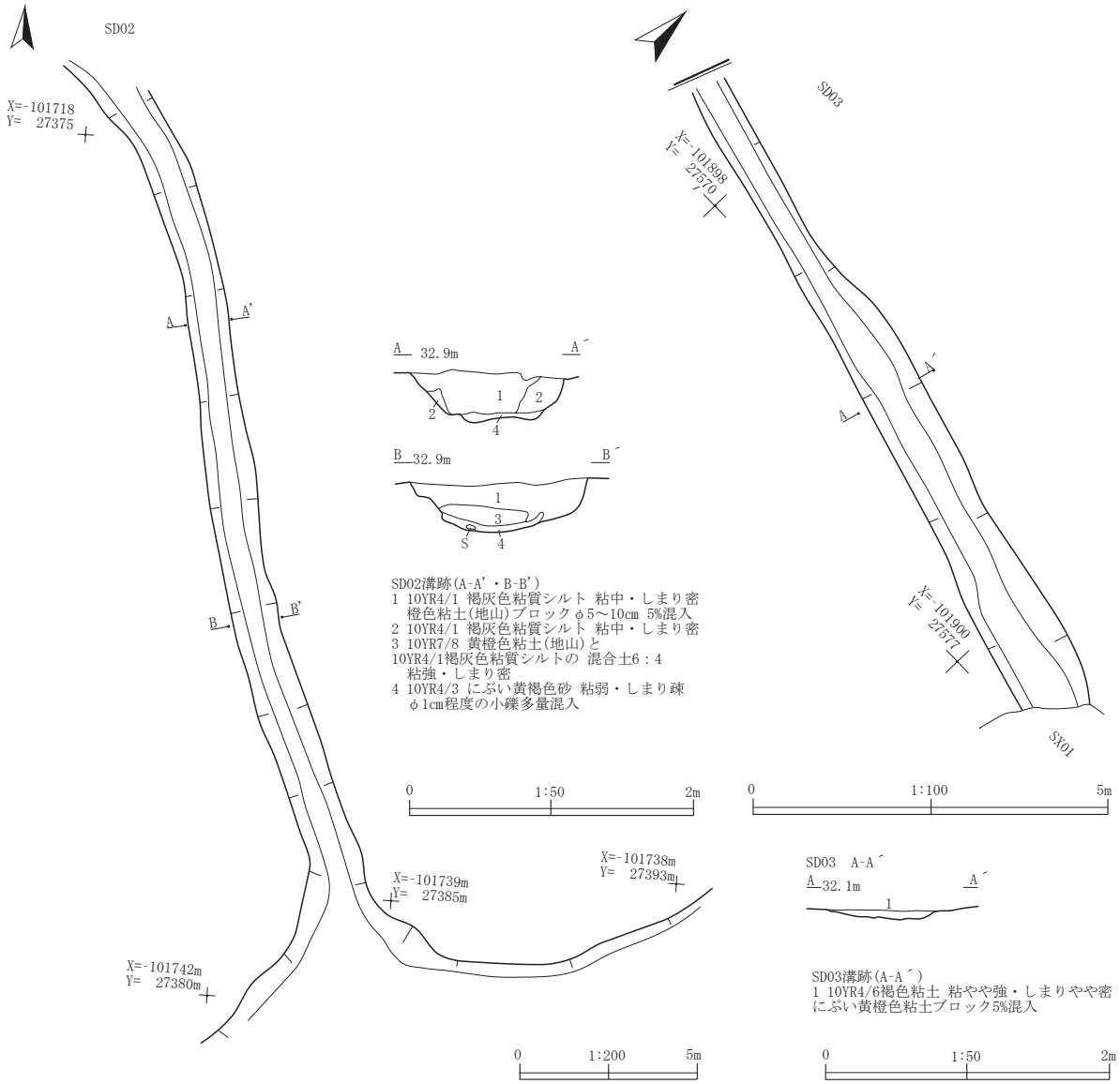
SD26堀跡(A-A´・B-B´・C-C´・D-D´・E-E´)
1 10YR3/4暗褐色シルト 粘やや弱・しまりやや密
2 2.5Y3/2黒褐色泥質土 粘やや強・しまりやや密
3 5Y3/2オリーブ黒色泥質土 粘やや強・しまりやや密
3a 5Y3/2オリーブ黒色泥質土 粘やや強・しまりやや密
4 10YR4/4褐色砂質粘土 粘やや強・しまりやや密 褐灰色泥質土ブロック3%混入
4a 10YR2/3黒褐色泥質粘土質土 粘中・しまりやや密 黄褐色粘土ブロック10%混入
5 7.5YR5/8明褐色粘土質砂質土 粘中・しまりやや密 黄褐色粘土ブロック5～7%混入
(※地山土の再堆積層、酸化鉄の集積顕著)
5a 7.5YR5/8明褐色粘土質砂質土 粘中・しまりやや密 黄褐色粘土ブロック3%混入
6 10YR3/4暗褐色泥質土 粘中・しまりやや密 黄褐色粘土ブロック5%混入
(※底面直上に局所的に堆積する)
7 7.5YR5/8明褐色粘土質砂質土 粘やや強・しまりやや密 褐灰色泥質土ブロック2～3%混入
(※壁の地山崩壊土、5層に類似)



第105図　SD26堀跡 (2)



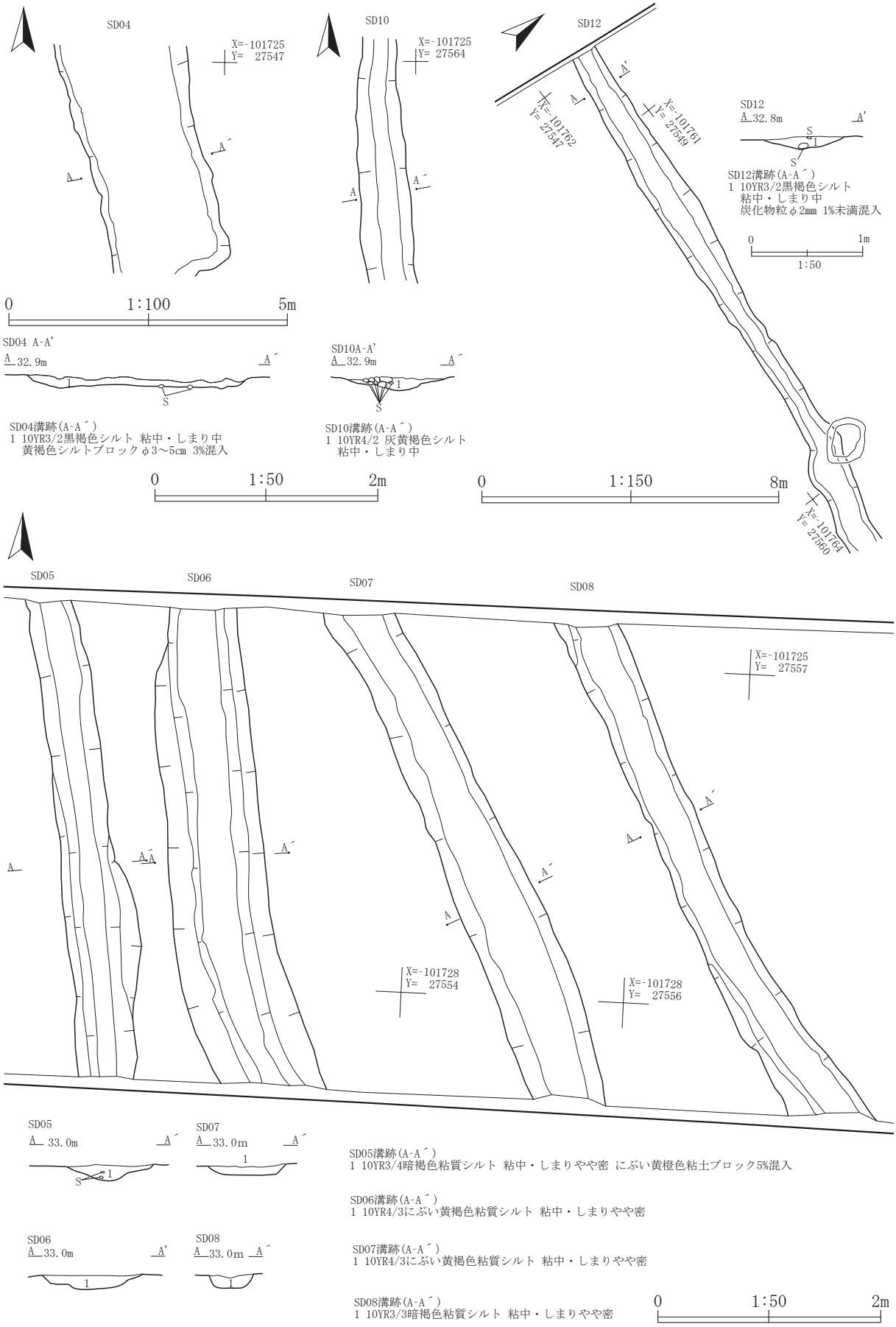
SD01溝跡(A-A'・B-B'・C-C')
Ⅰa 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまりやや弱(表土・耕作土)
Ⅰb 10YR4/1褐灰色シルト 10YR7/6明黄褐色粘質シルトの混合土5：5 粘やや強・しまり密(盛土)
Ⅱ 10YR4/1褐灰色シルト 粘中・しまり中(旧表土・旧耕作土？)
1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘中・しまり中 明黄褐色シルト粒少量混入(φ1cm程度1～2%)



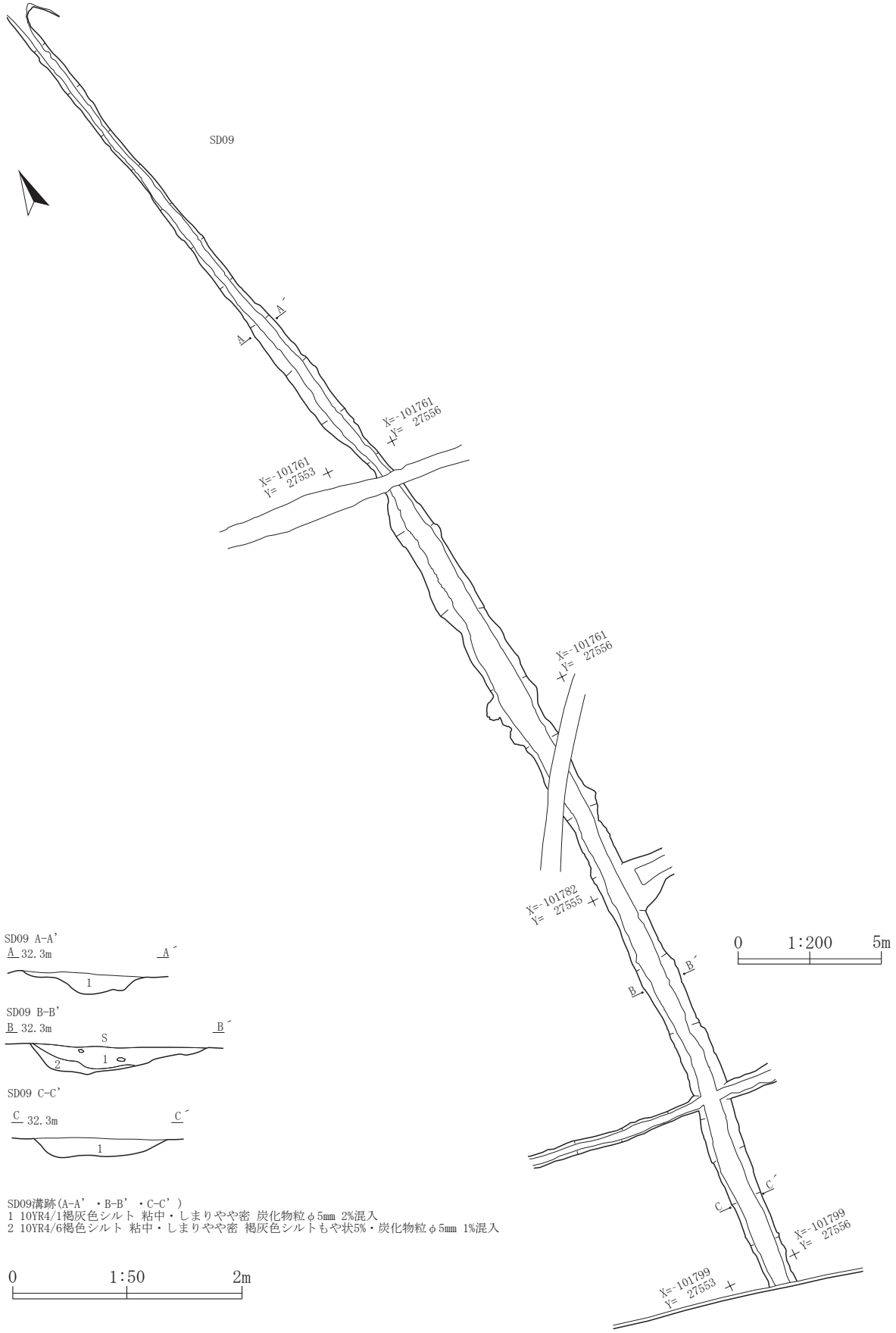
SD02溝跡(A-A'・B-B')
1 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 粘中・しまり密
橙色粘土(地山)ブロック φ5～10cm 5%混入
2 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 粘中・しまり密
3 10YR7/8 黄橙色粘土(地山)と
10YR4/1褐灰色粘質シルトの 混合土6：4
粘強・しまり密
4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 粘弱・しまり疎
φ1cm程度の小礫多量混入

SD03溝跡(A-A´)
1 10YR4/6褐色粘土 粘やや強・しまりやや密
にぶい黄橙色粘土ブロック5%混入

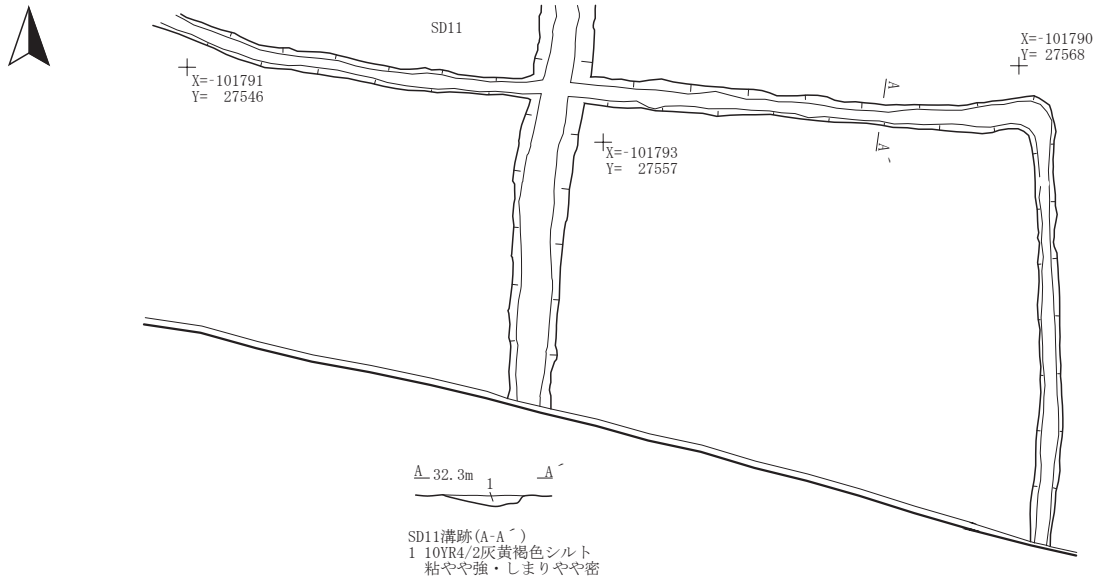
第106図 SD01～03溝跡



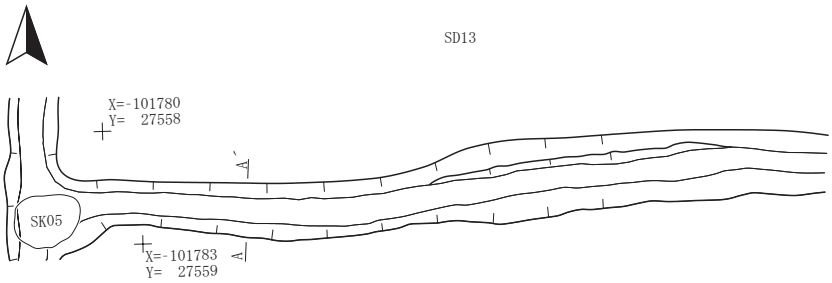
第107図　SD04～08・10・12溝跡

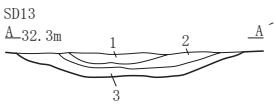


第108図　SD09溝跡

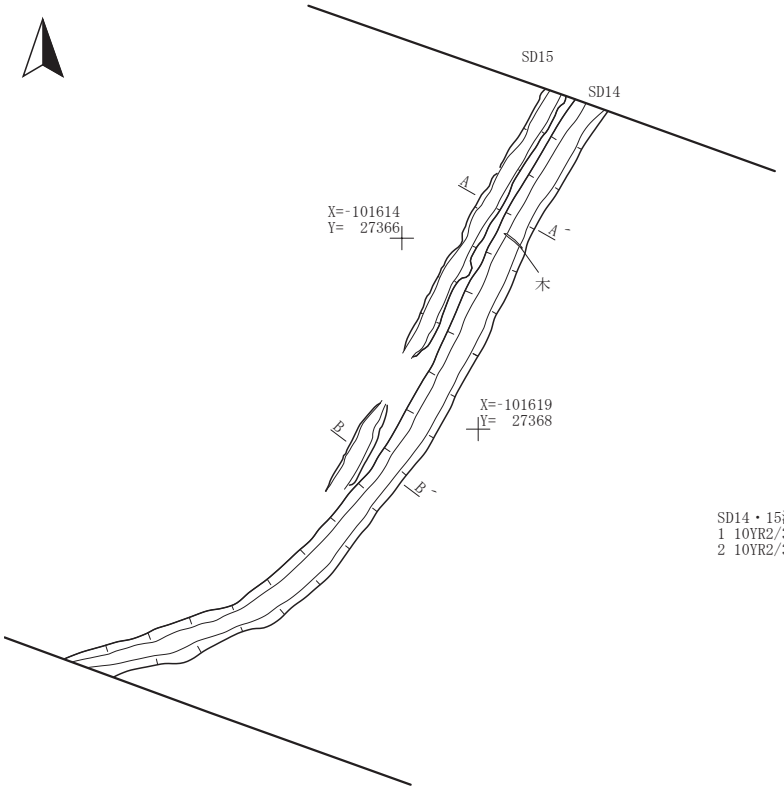


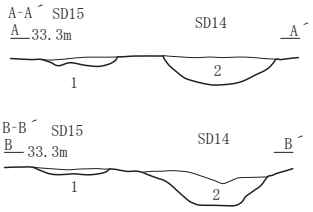
SD11溝跡(A-A´)
1 10YR4/2灰黄褐色シルト
粘やや強・しまりやや密



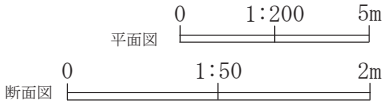


SD13溝跡(A-A´)
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土
粘中・しまりやや密　黒色スコリア？10%混入
2 10YR4/2灰黄褐色粘土 粘強・しまりやや密
3 10YR4/2灰黄褐色粘土 粘強・しまりやや密
酸化鉄の集積5～7%混入

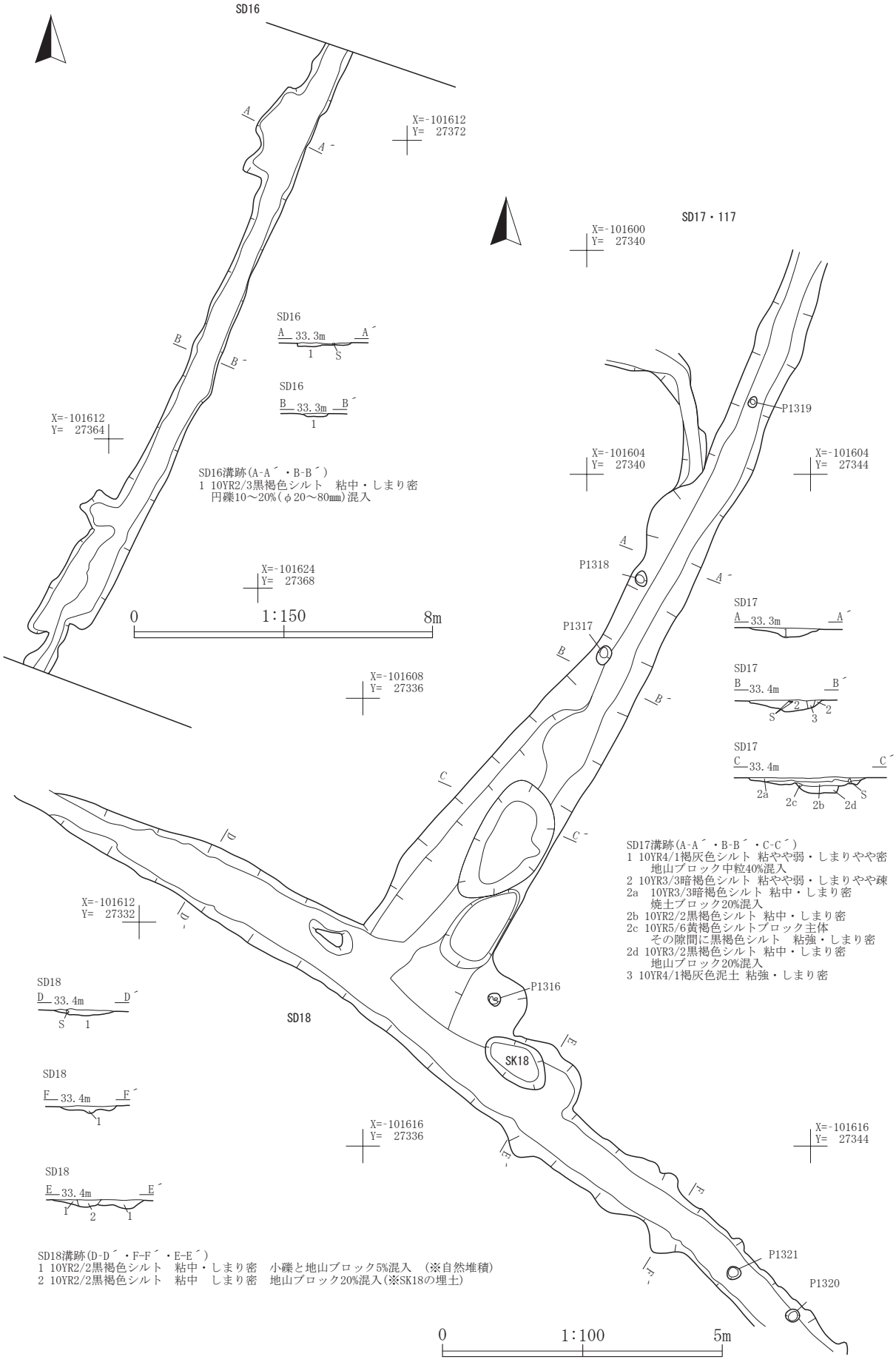




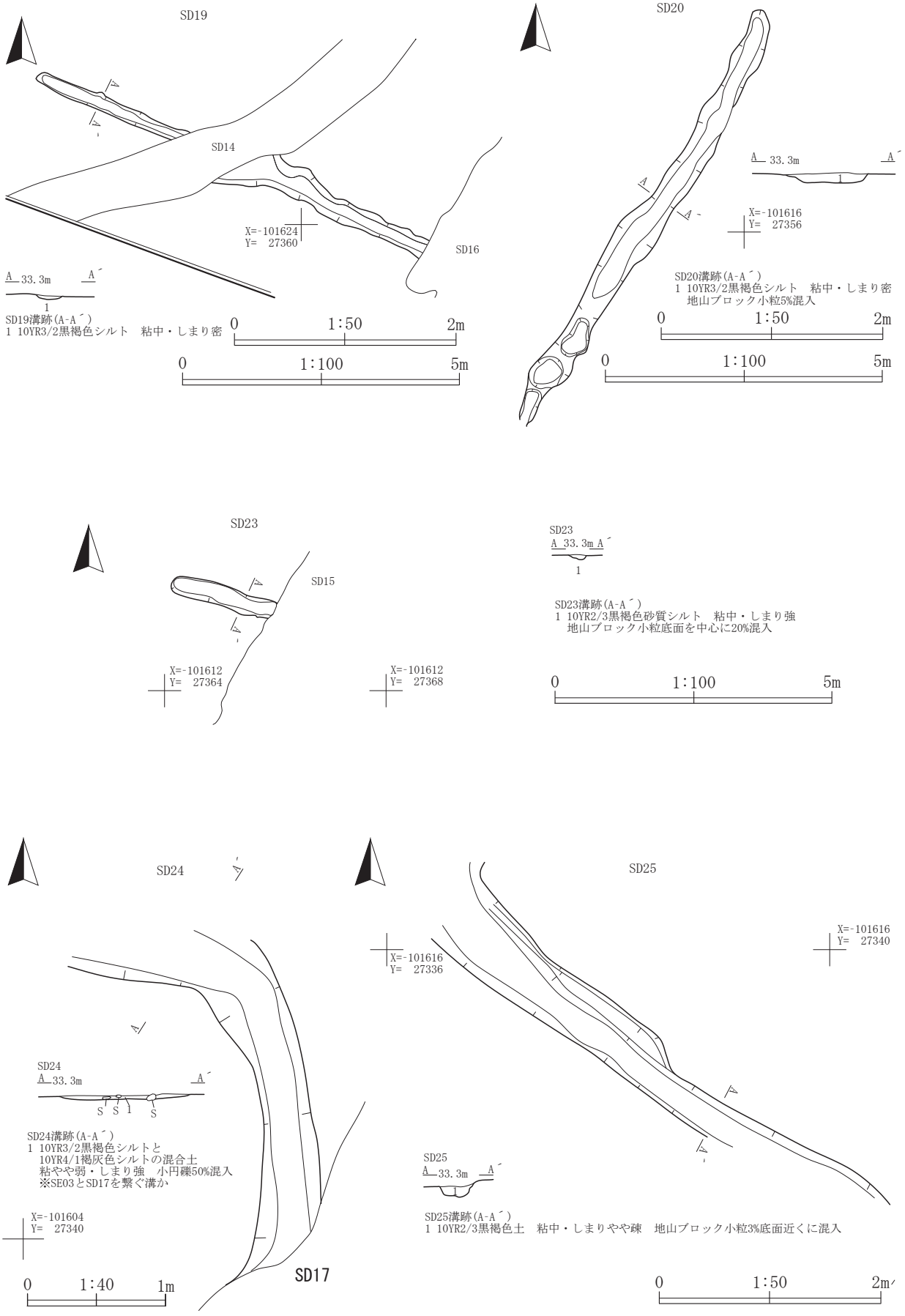
SD14・15溝跡(A-A´・B-B)
1 10YR2/3暗褐色シルト　粘中・しまり密
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり密　円礫10%(φ20～80㎜)混入



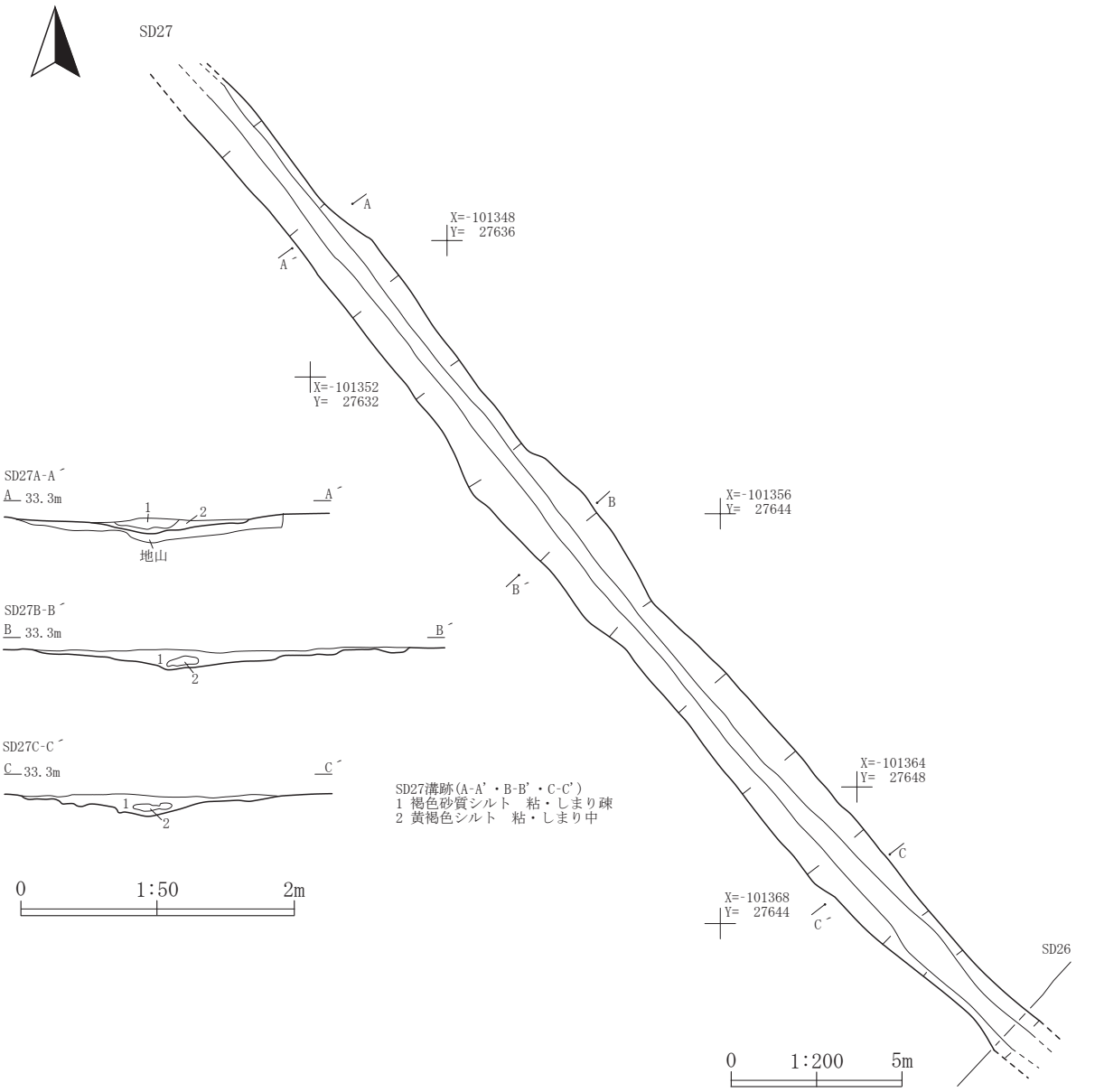
第109図　SD11・13～15溝跡

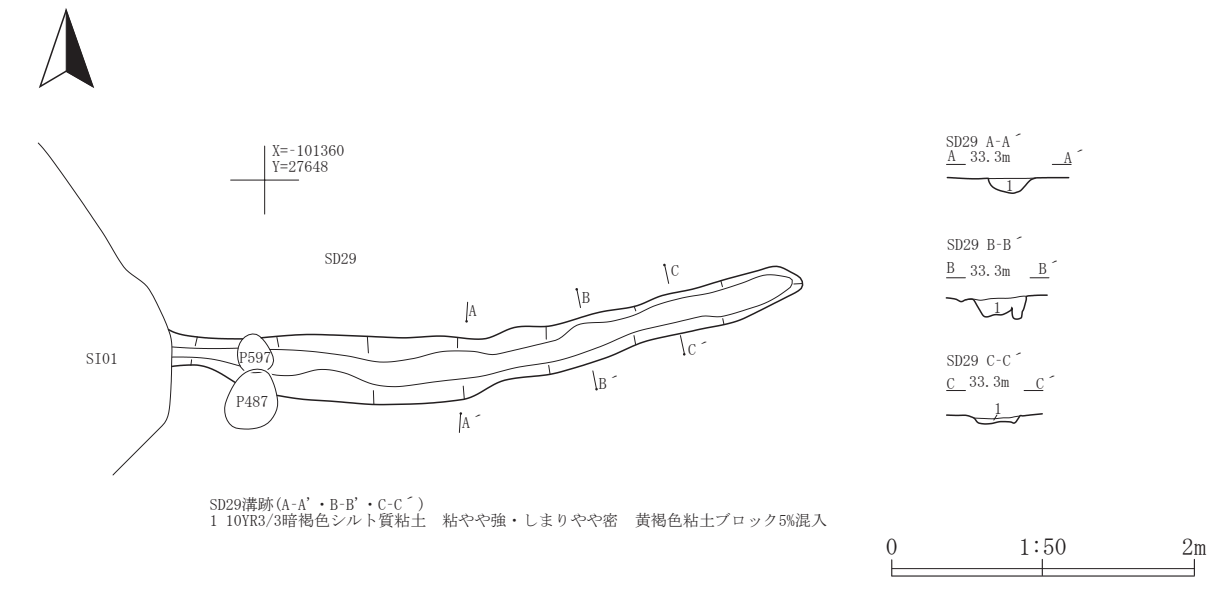


第110図　SD16～18溝跡

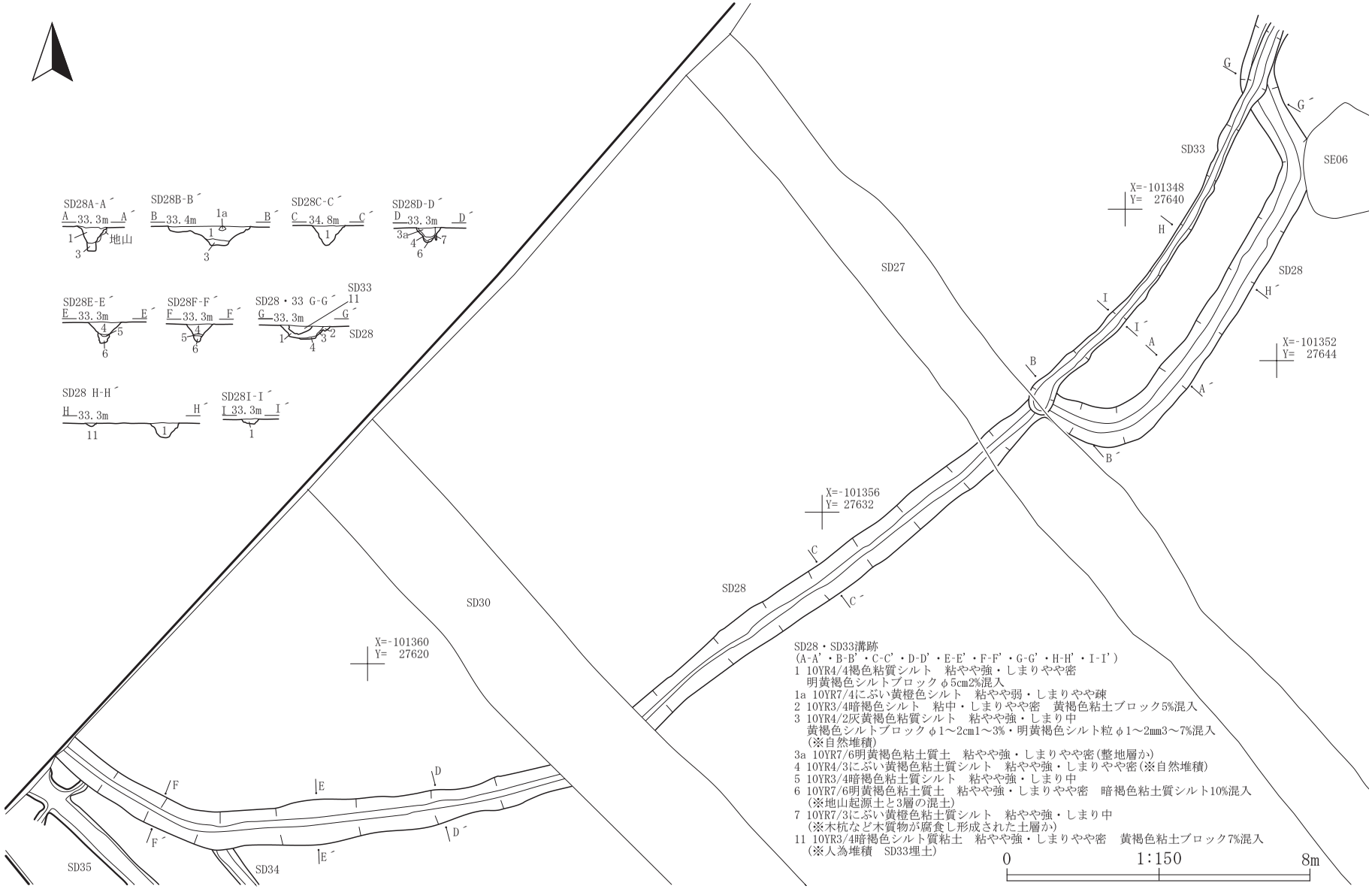


第111図 SD19・20・23～25溝跡

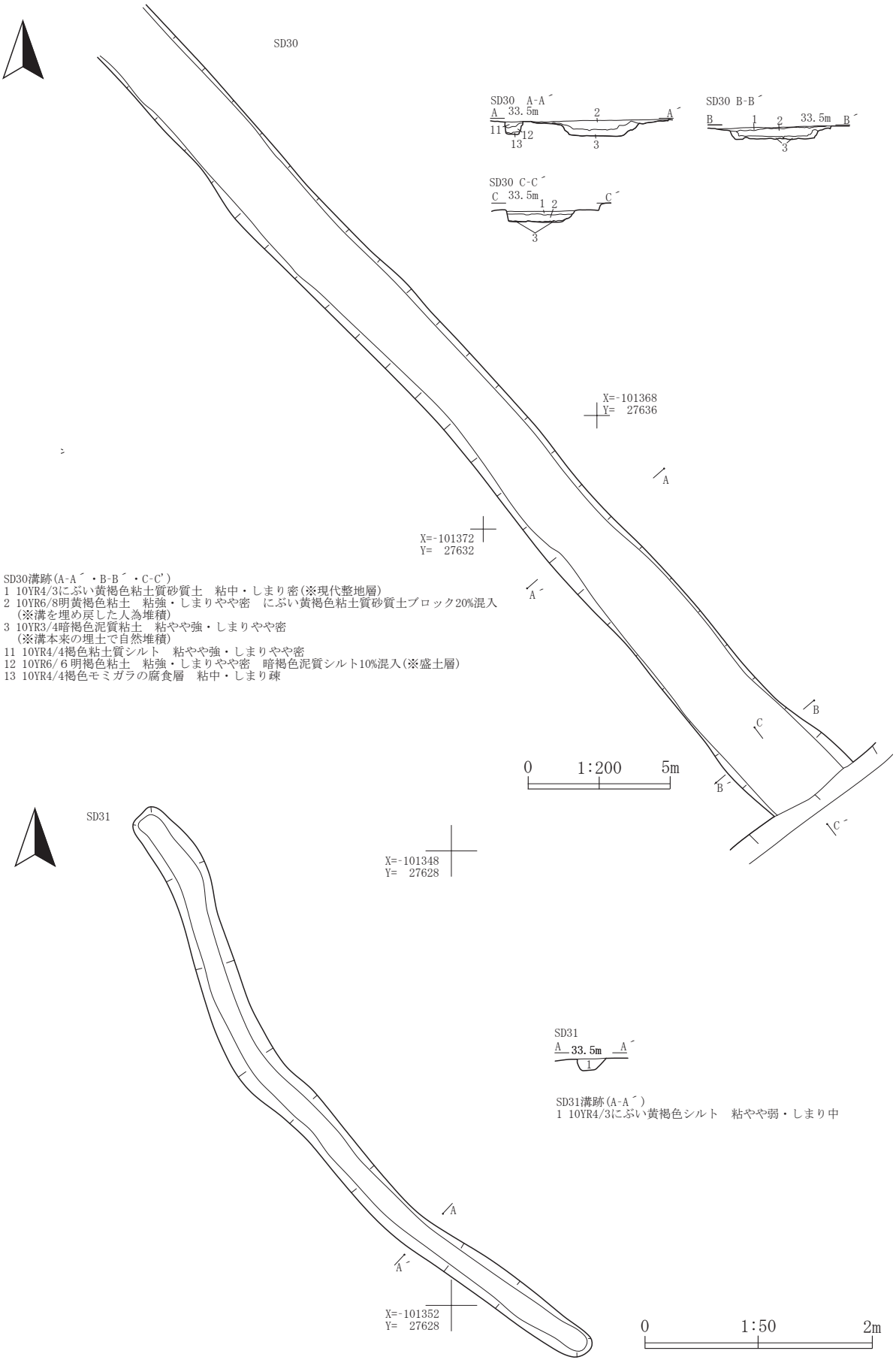




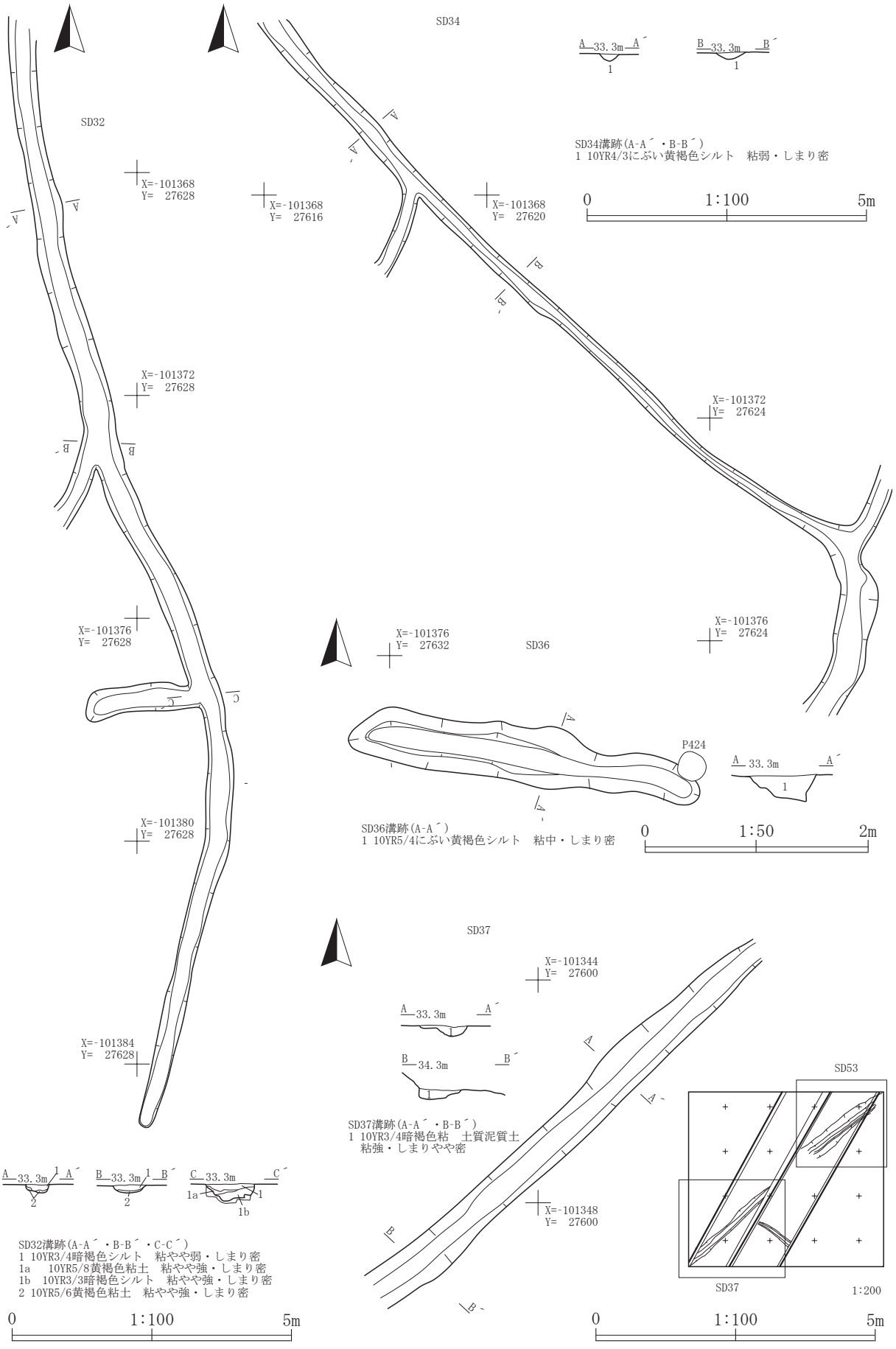
第112図 SD27・29溝跡



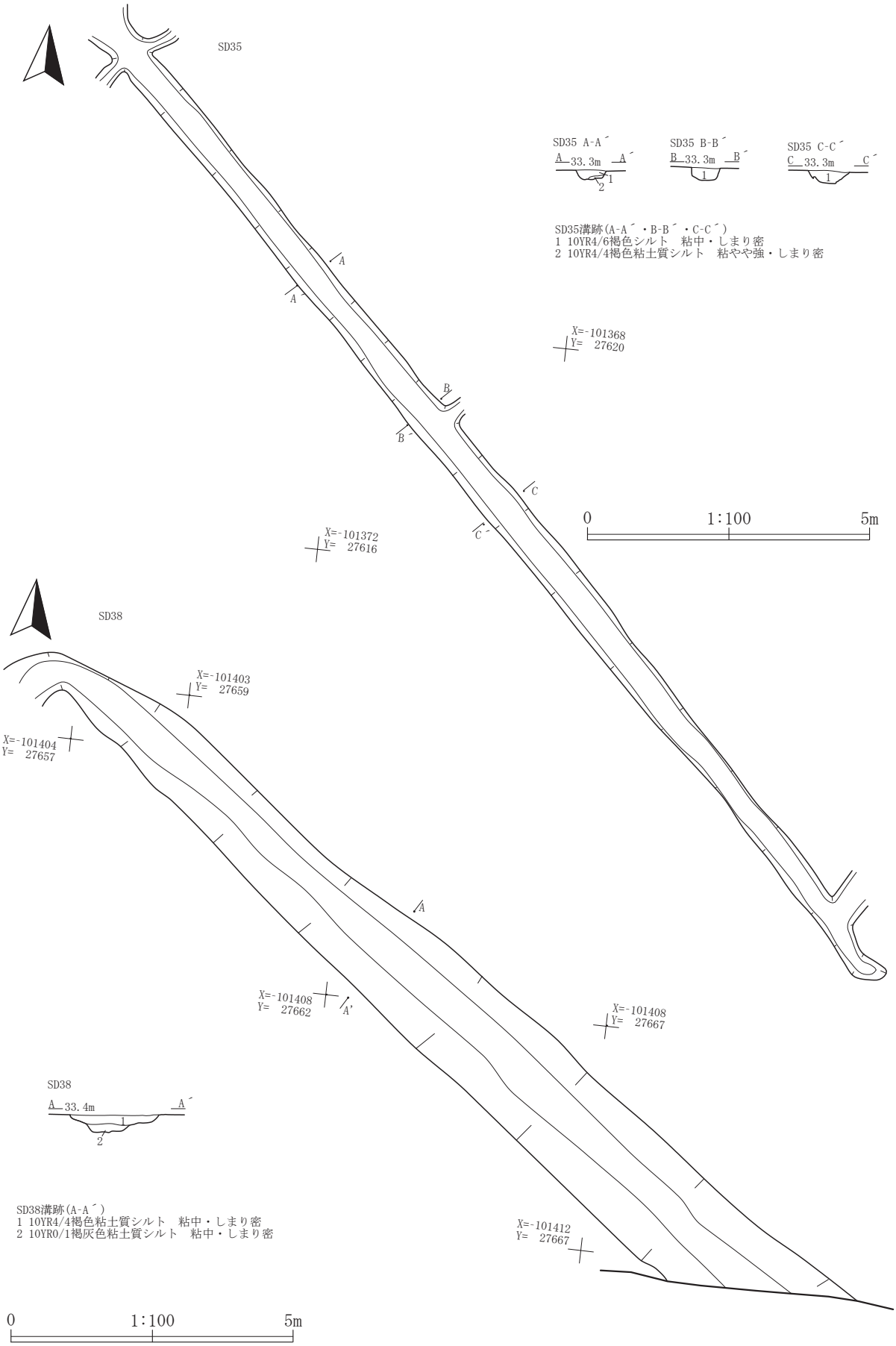
第113図　SD28・33溝跡



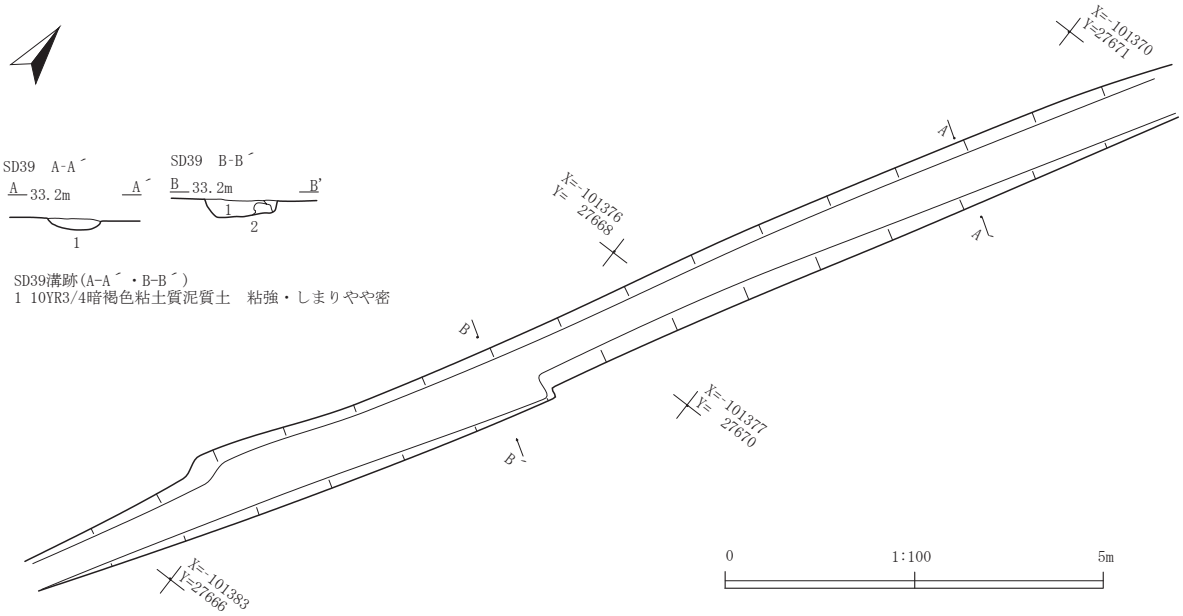
第114図 SD30・31溝跡



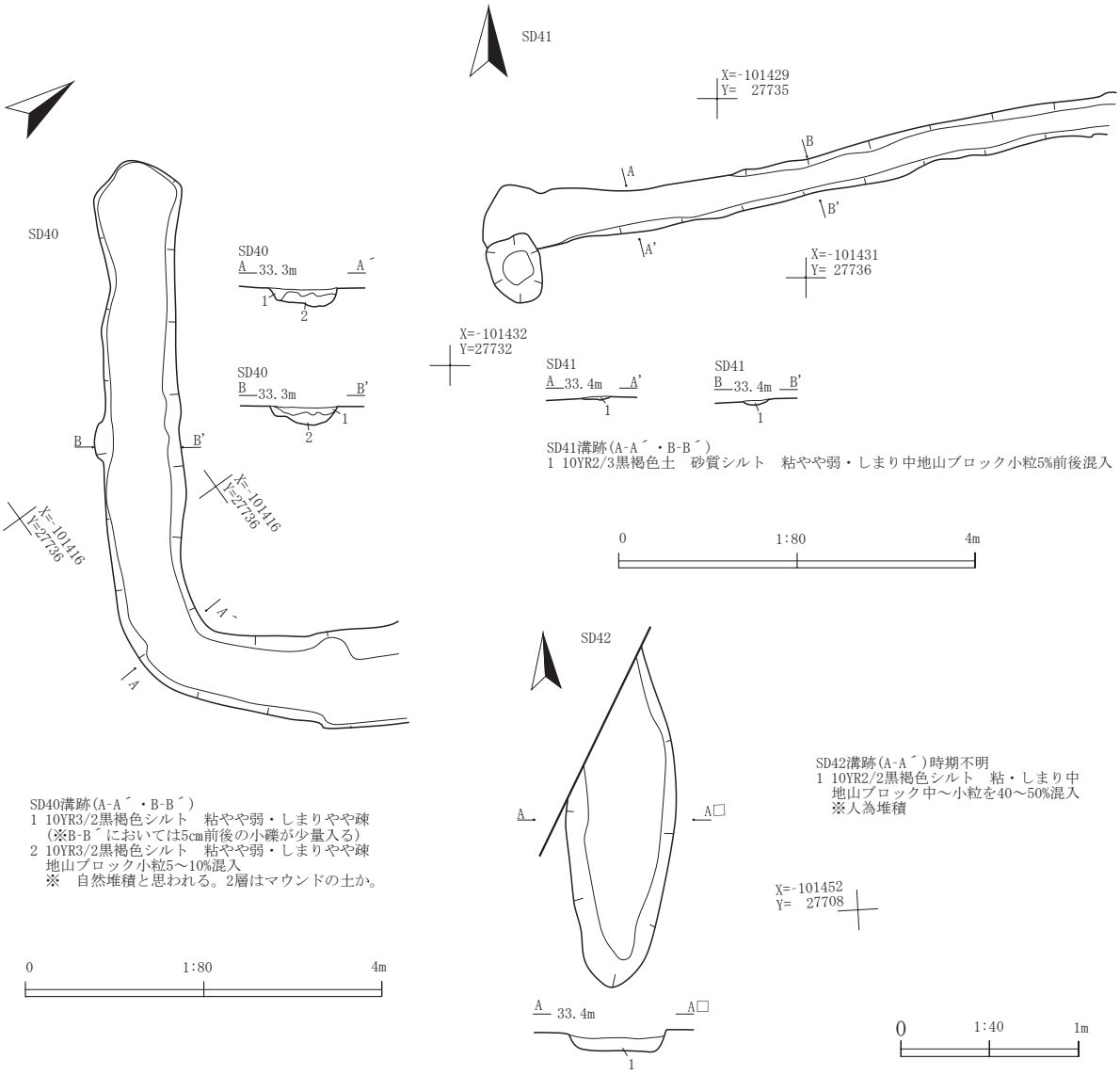
第115図 SD32・34・36・37溝跡



第116図　SD35・38溝跡



SD39溝跡(A-A´・B-B´)
1 10YR3/4暗褐色粘土質泥質土　粘強・しまりやや密

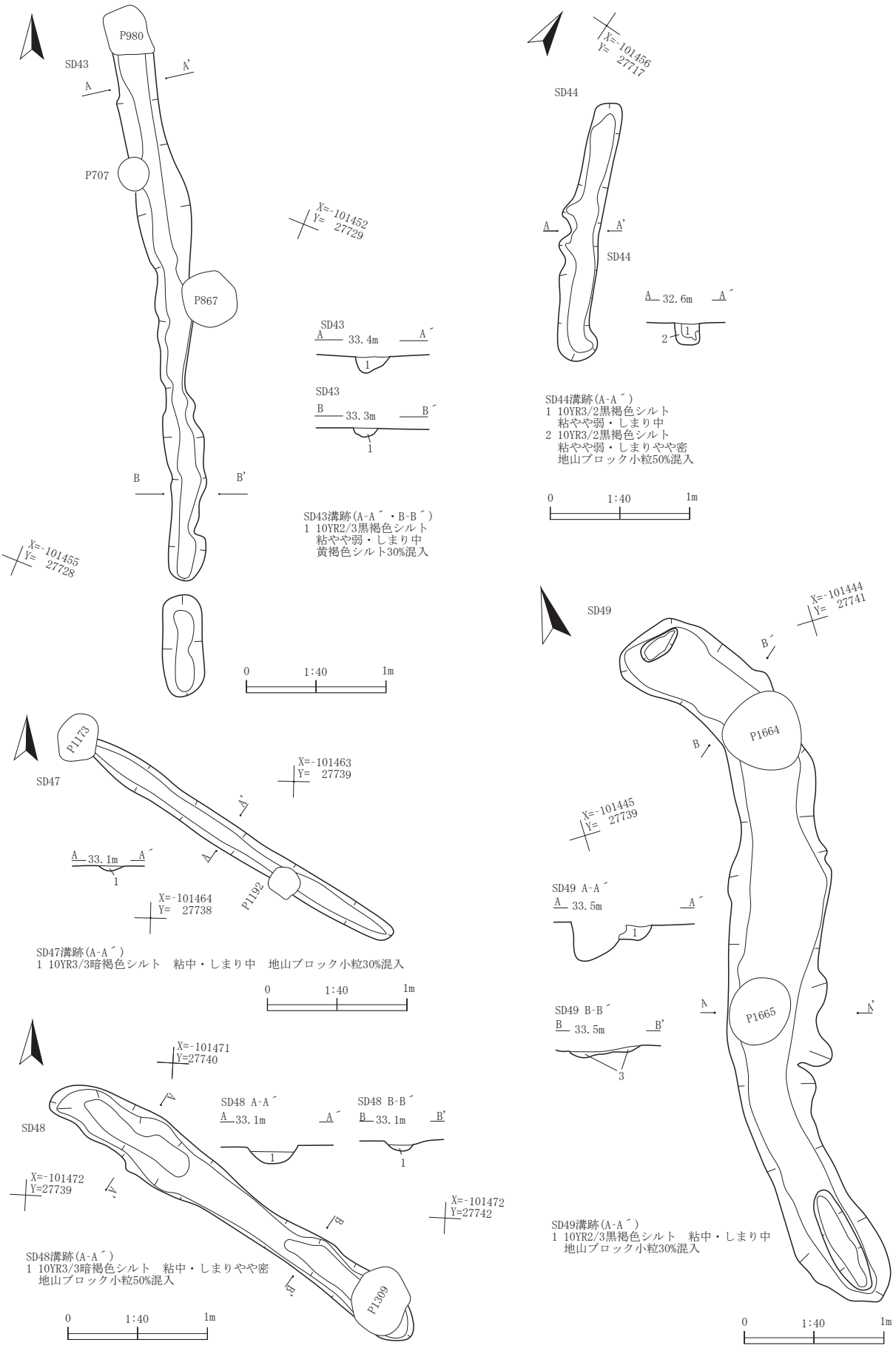


SD41溝跡(A-A´・B-B´)
1 10YR2/3黒褐色土　砂質シルト　粘やや弱・しまり中地山ブロック小粒5%前後混入

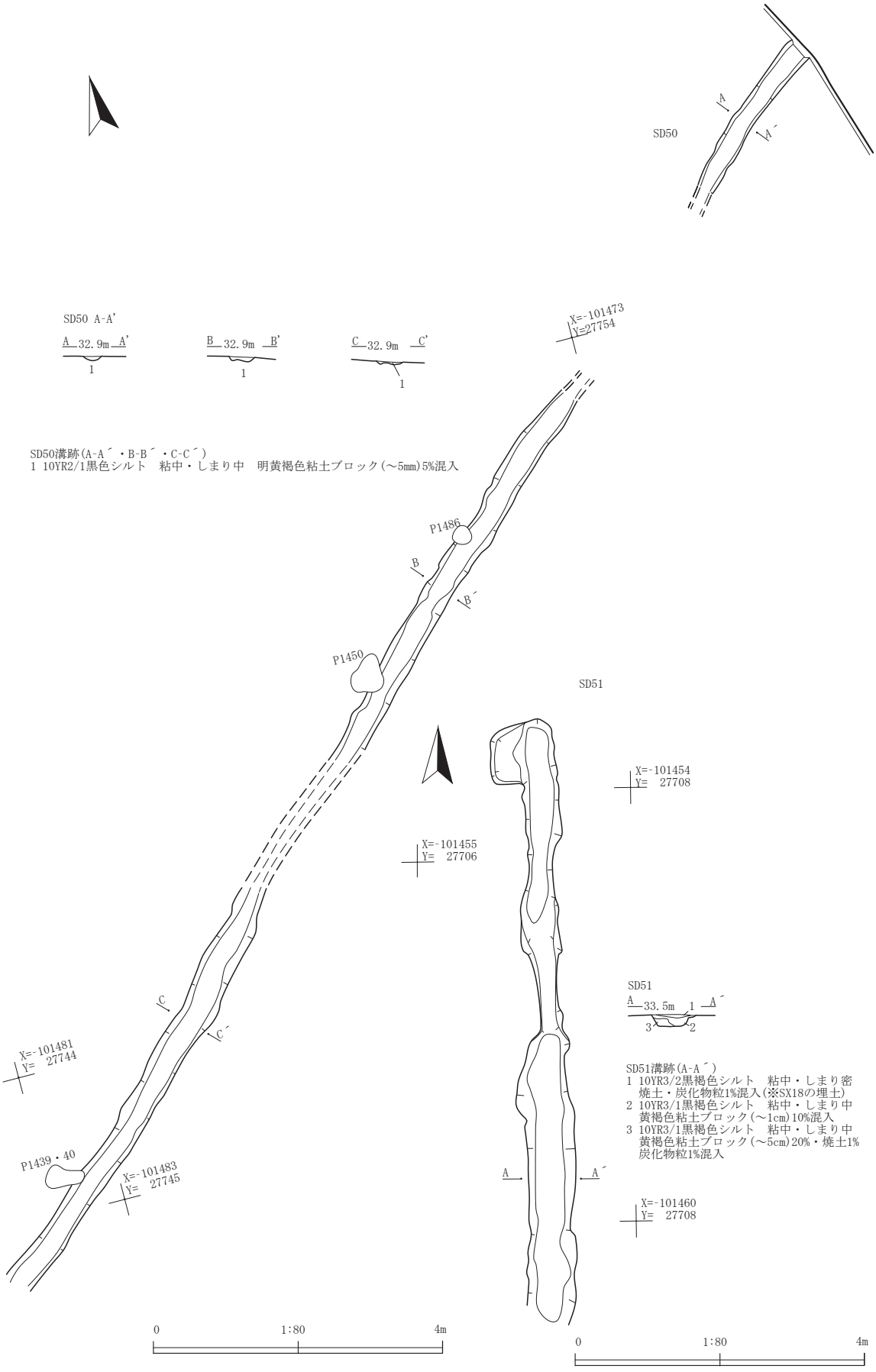
SD40溝跡(A-A´・B-B´)
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや疎
(※B-B´においては5㎝前後の小礫が少量入る)
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや疎
地山ブロック小粒5～10%混入
※　自然堆積と思われる。2層はマウンドの土か。

SD42溝跡(A-A´)時期不明
1 10YR2/2黒褐色シルト　粘・しまり中
地山ブロック中～小粒を40～50%混入
※人為堆積

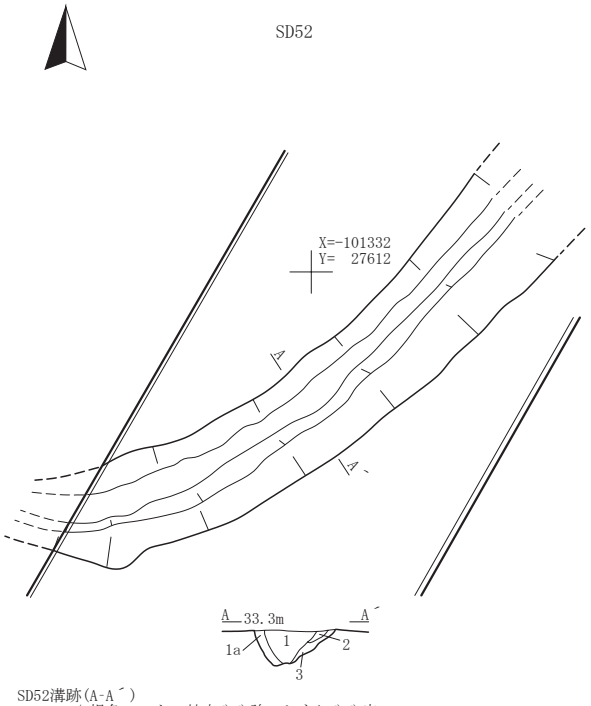
第117図　SD39～42溝跡



第118図　SD43・44・47～49溝跡

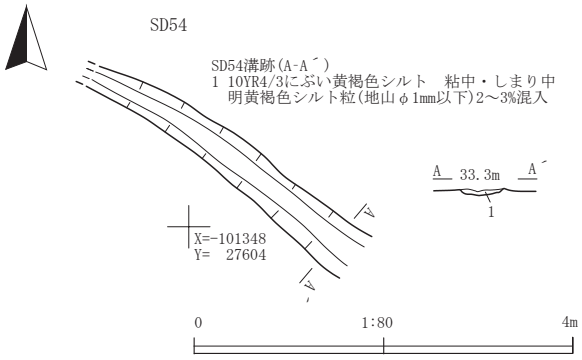


第119図　SD50・51溝跡

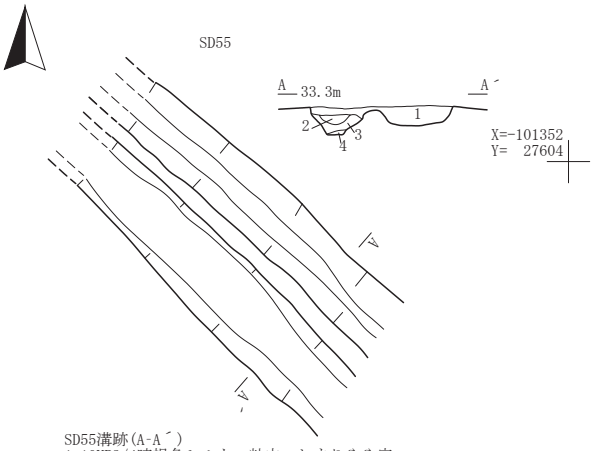


SD52溝跡(A-A´)
1 10YR4/4褐色シルト　粘中やや強・しまりややや密
1a 10YR7/8褐色シルト　黄橙色褐色地山シルトブロック(φ5mm以下)3%混入
2 10YR7/4にぶい黄橙色褐色シルト　粘土ブロック(φ5mm以下)7%
明黄色褐色シルト粒(φ1～2mm)3%混入
3 10YR3/4暗褐色地山シルト　粘中やや強・しまりやや密
明褐色シルト粒(φ1～2mm以下)20%混入
※1、1aは自然堆積、2・3は人為堆積か

0 1:80 4m

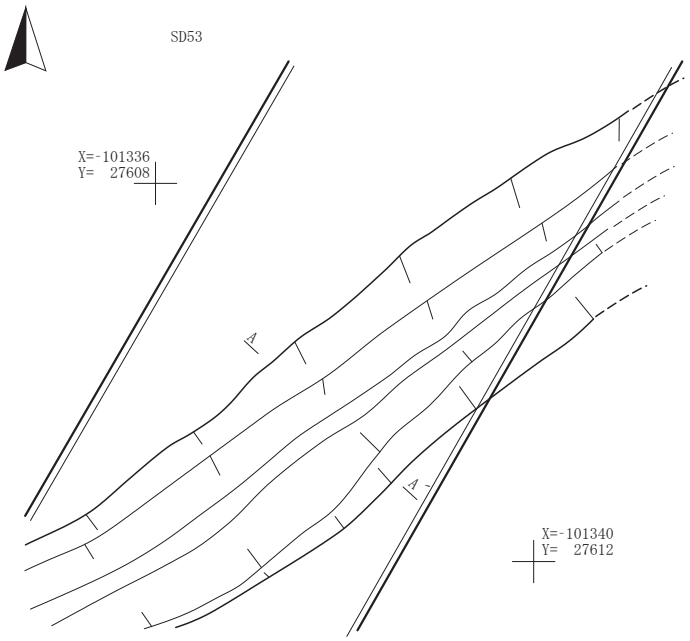


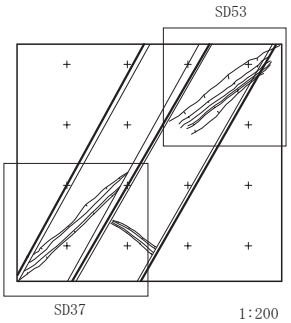
0 1:80 4m

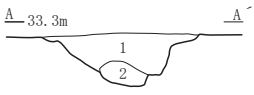


SD55溝跡(A-A´)
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密
明黄褐色地山シルト粒(φ1～2mm)2～3%混入
2 10YR3/4暗褐色シルト　明黄褐色シルトブロック(φ5mm)2%
明褐色シルト粒(φ1mm以下)3～5%混入
3 10YR3/4暗褐色シルト　明黄褐色と明褐色シルト粒(φ1mm以下)3～5%
黒褐色シルトブロック(φ5mm以下)2～3%混入
4 10YR3/4暗褐色シルト　明黄褐色と明褐色シルト粒(φ1～2mm)3～5%混入

0 1:80 4m





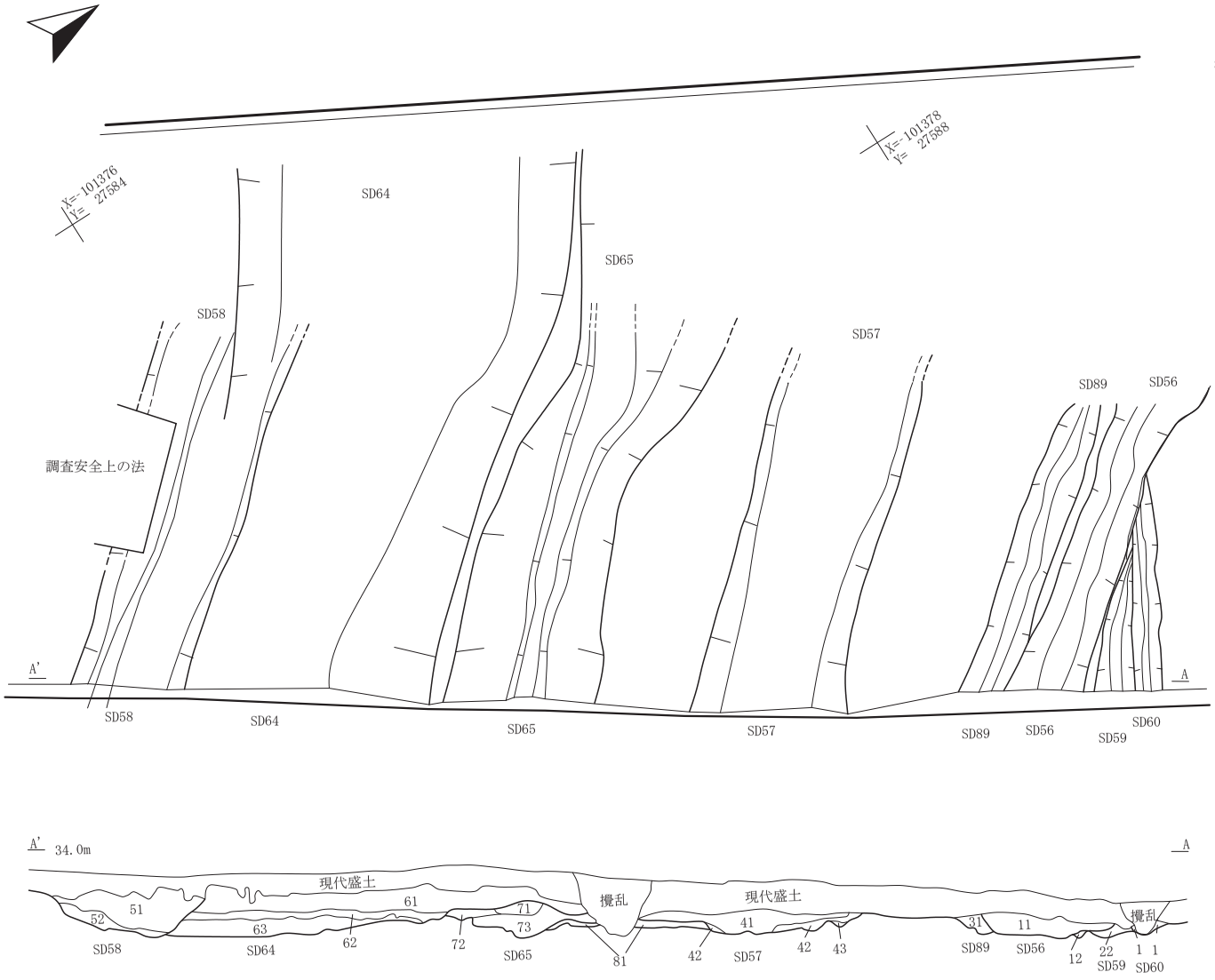


SD53溝跡(A-A´)
1 10YR3/4暗褐色シルト質粘土　粘中・しまりやや密
明赤褐色シルト2層直上に板状(1mm以下)
明黄褐色地山シルト粒(φ1mm以下)3%混入
2 10YR4/1褐灰色粘質シルト　粘強・しまり密
黒褐色泥質粘土少量・礫少量含む

0 1:80 4m

第120図　SD52～55溝跡

第121図　SD64堀跡・SD56～60・64・65・89溝跡



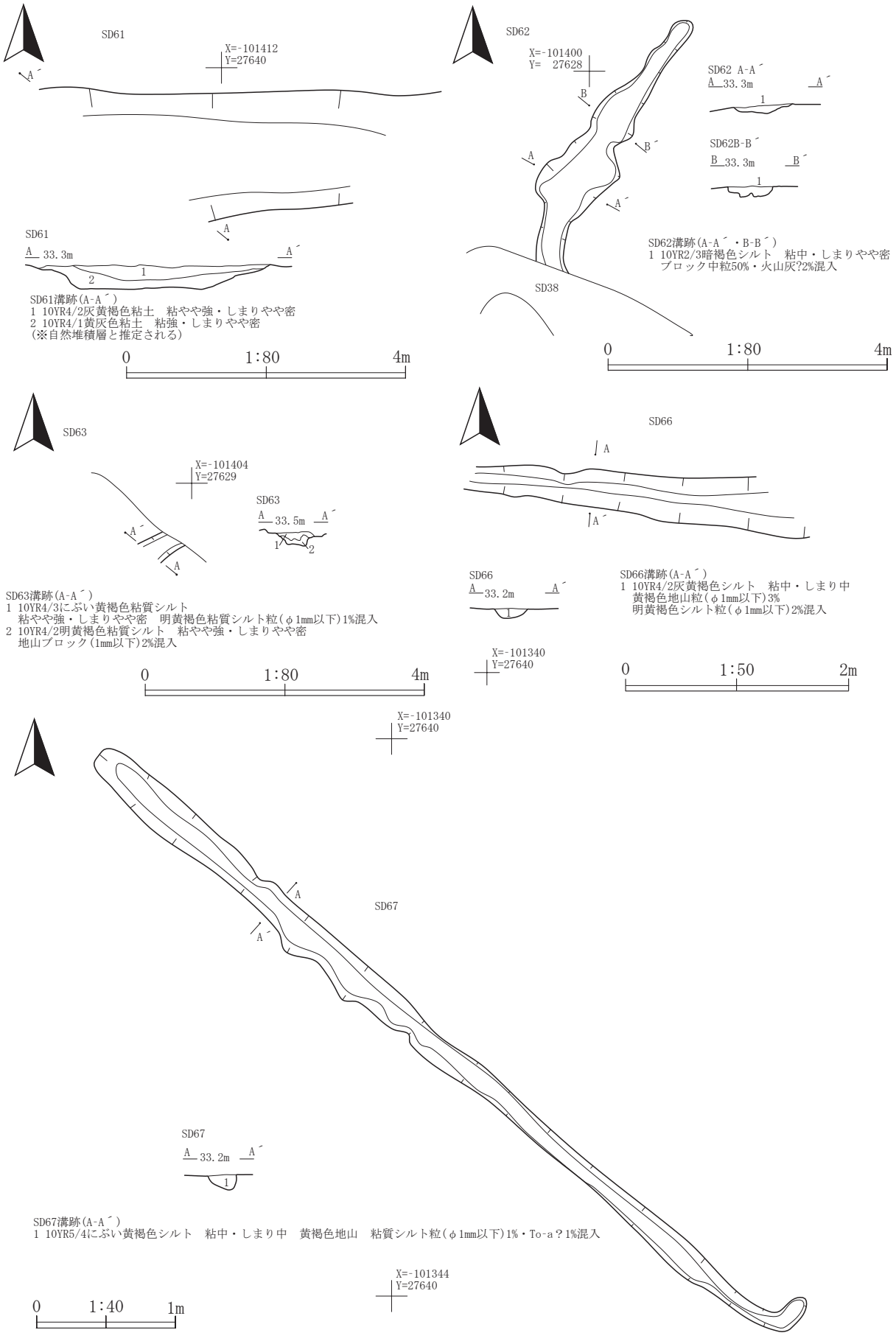
SD56溝跡(A-A´)
11 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘やや強・しまりやや密
12 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
黄褐色粘土15%混入(※地山壁の崩壊土か)

SD57溝跡(A-A´)
41 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり中
42 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
43 10YR4/3にぶい黄褐色粘土　粘やや強・しまり密

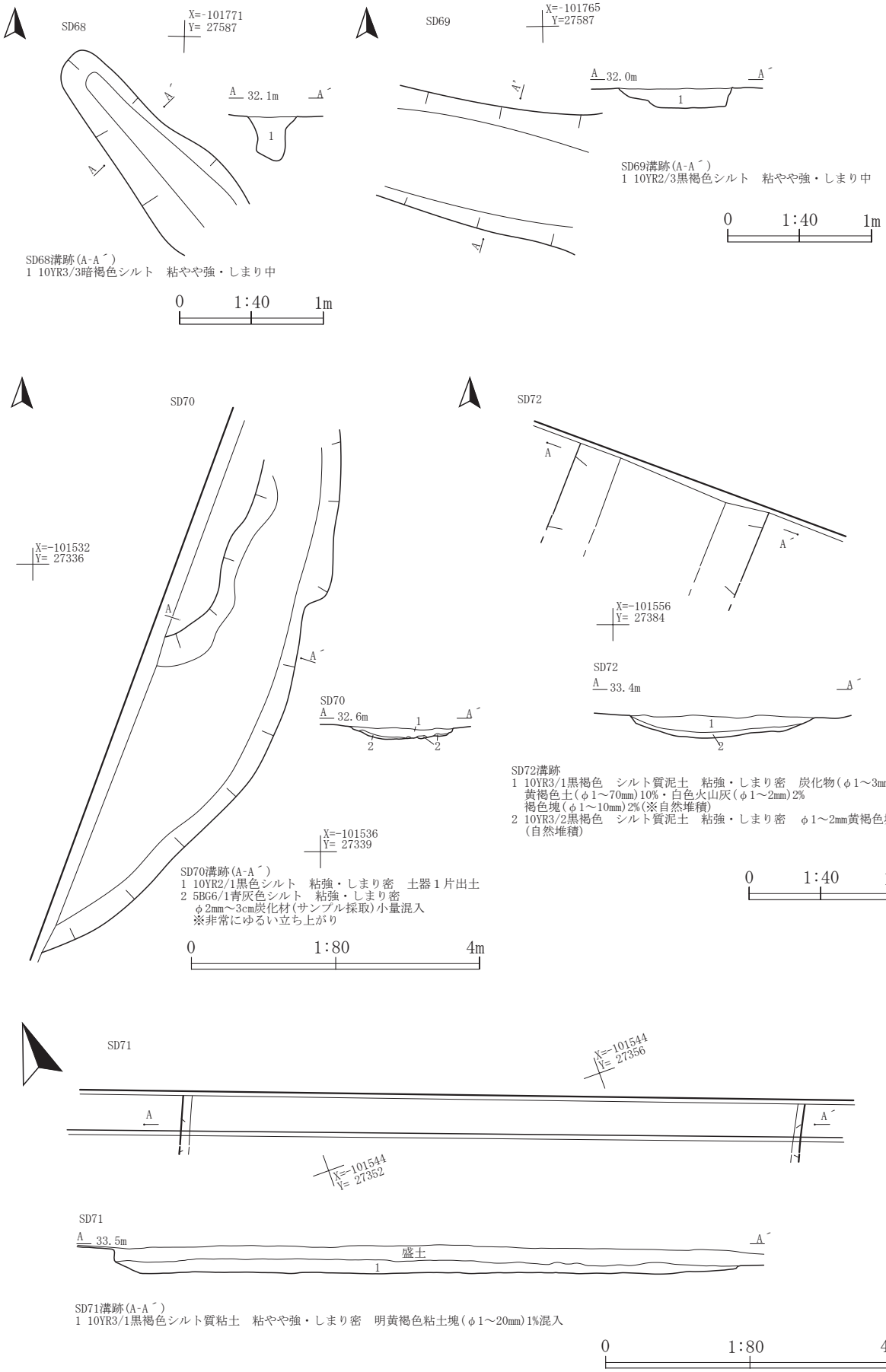
SD56～60溝跡・64堀跡・65溝跡・89溝跡(A-A´) 1/30
1 10YR3/3黒褐色シルト　粘やや強・しまりやや密
11 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘やや強・しまりやや密
12 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
黄褐色粘土15%混入(※地山壁の崩壊土か)
21 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
22 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
黄褐色粘土10%混入(※地山壁の崩壊土か)
31 10YR3/4暗褐色シルト　粘弱・しまりやや密
(※11層に類似、あるいはSD56と埋没が一緒か？)
41 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり中
42 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
43 10YR4/3にぶい黄褐色粘土　粘やや強・しまり密
51 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中
黄褐色粘土ブロック(φ3～5mm)3%混入
(※基本層序Ⅱ層土の再堆積層か)
52 10YR3/1黒褐色シルト　粘やや強・しまり中

61 7.5YR4/6褐色粘土質シルト　粘性中・しまり中
62 10YR1.7/1黒色シルト　粘やや強・しまり中
63 2.5YR4/1黄灰色粘土質泥質土　粘やや強・しまりやや密
(※SD26の5層などに類似するおそらくSD26の続きの堀埋土)
71 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり中
黄褐色粘土ブロック10%混入
72 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中
73 10YR3/3暗褐色シルト質粘土　粘やや強・しまりやや密
81 10YR4/2灰黄褐色粘土質泥質粘土　粘やや強・しまり密
(※63層に類似する。平面図に表れなかった溝跡？)

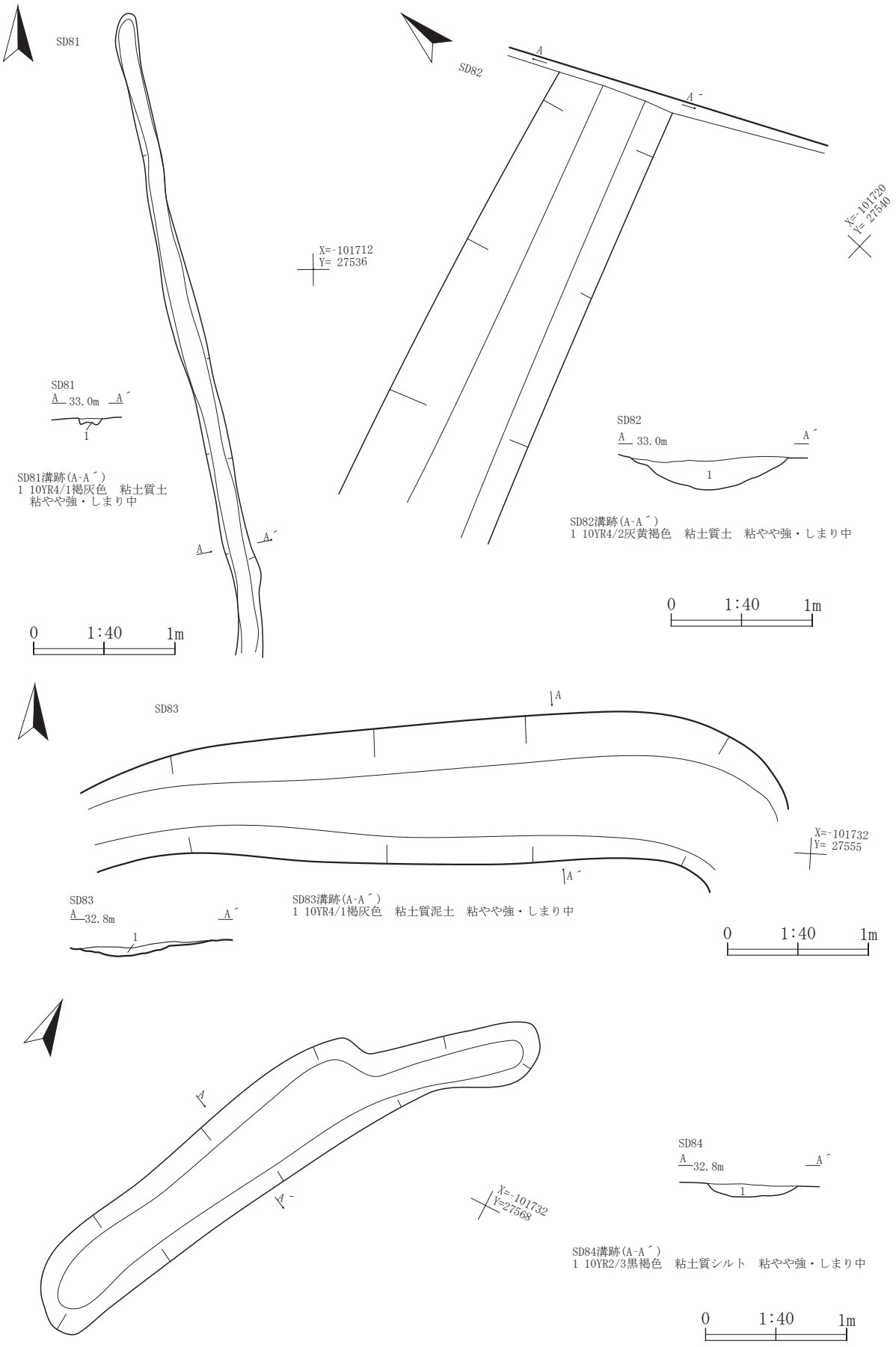
0　1:30　1m



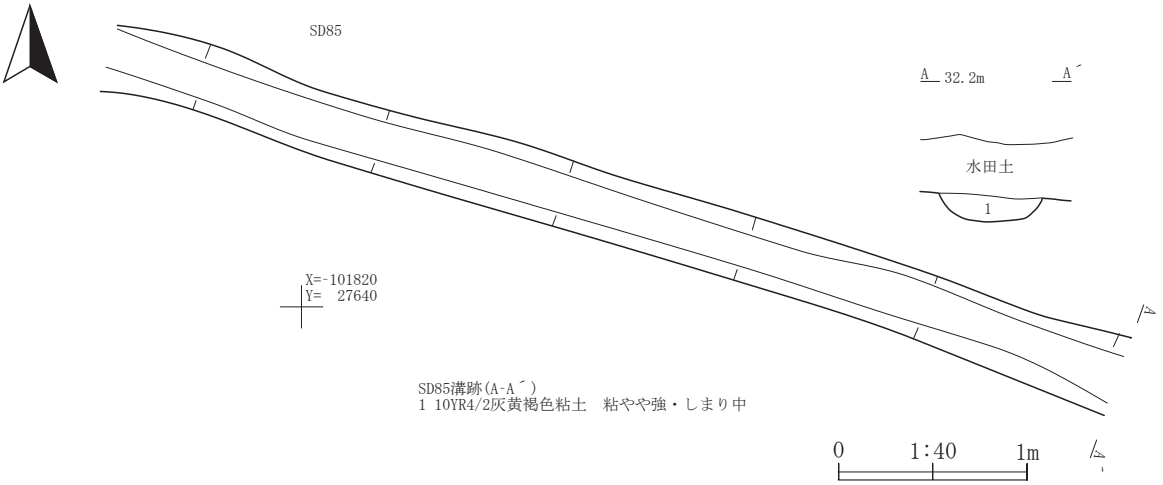
第122図　SD61～63・66・67溝跡

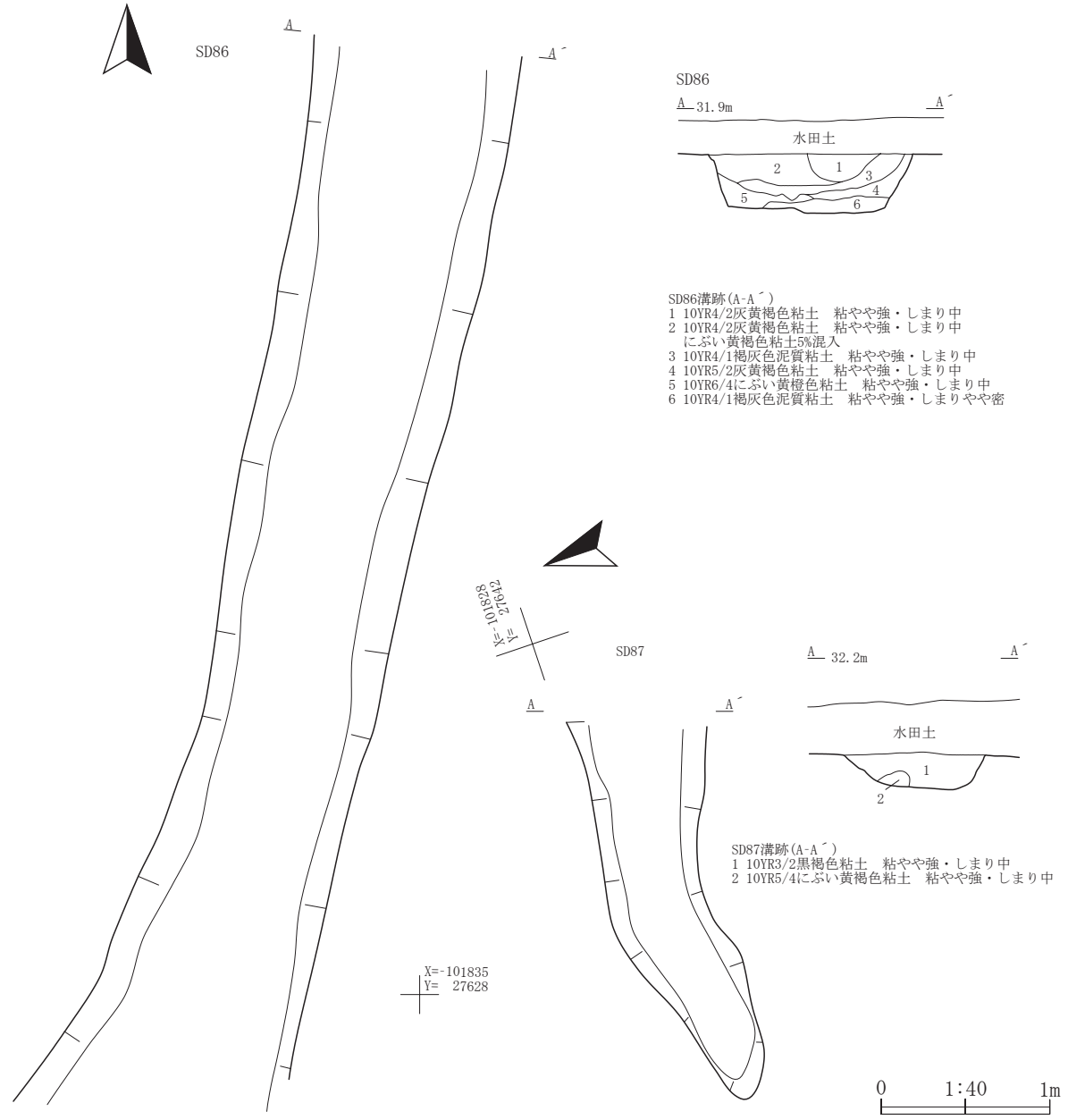


第123図　SD68～72溝跡

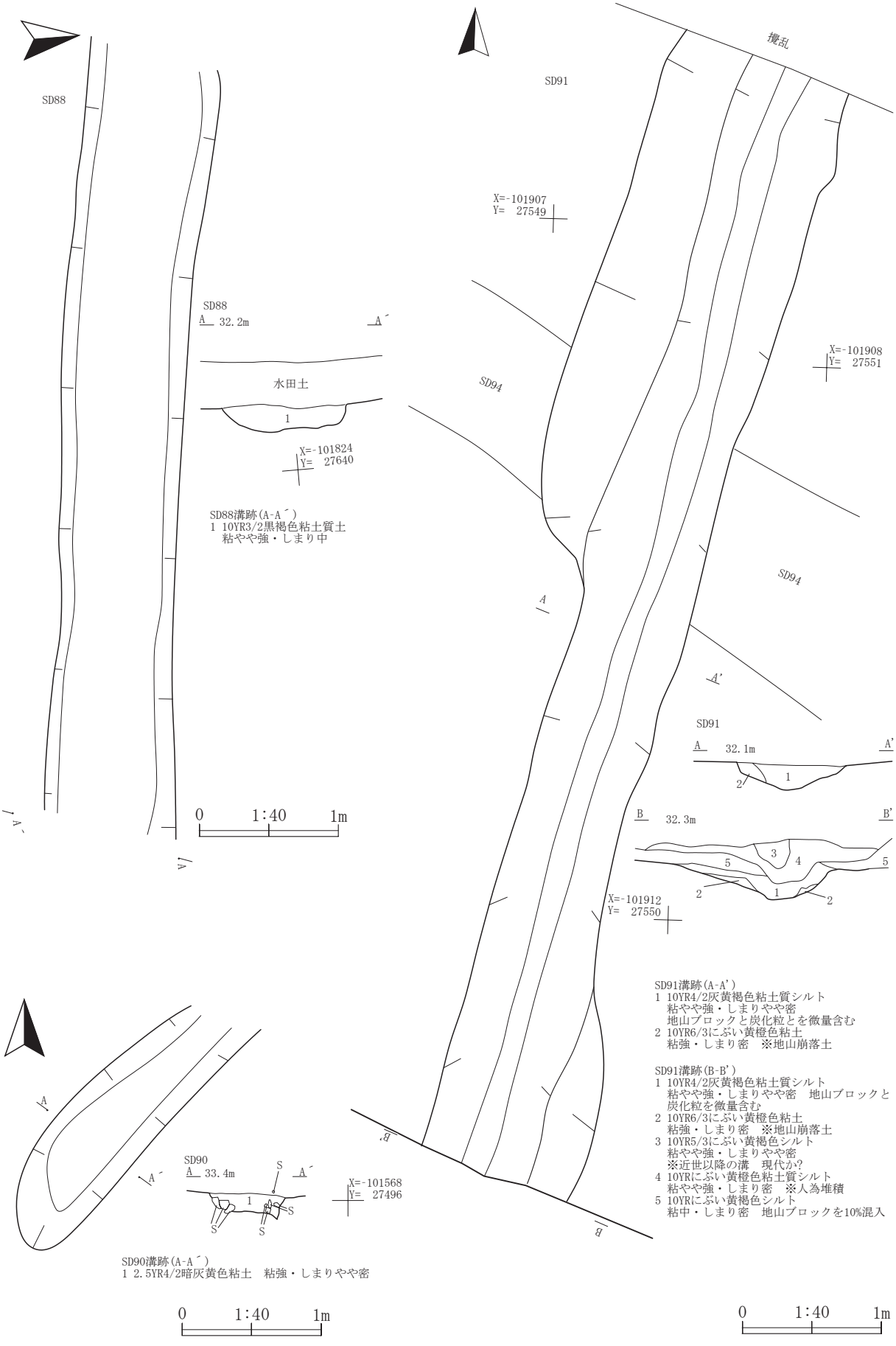


第124図 SD81～84溝跡

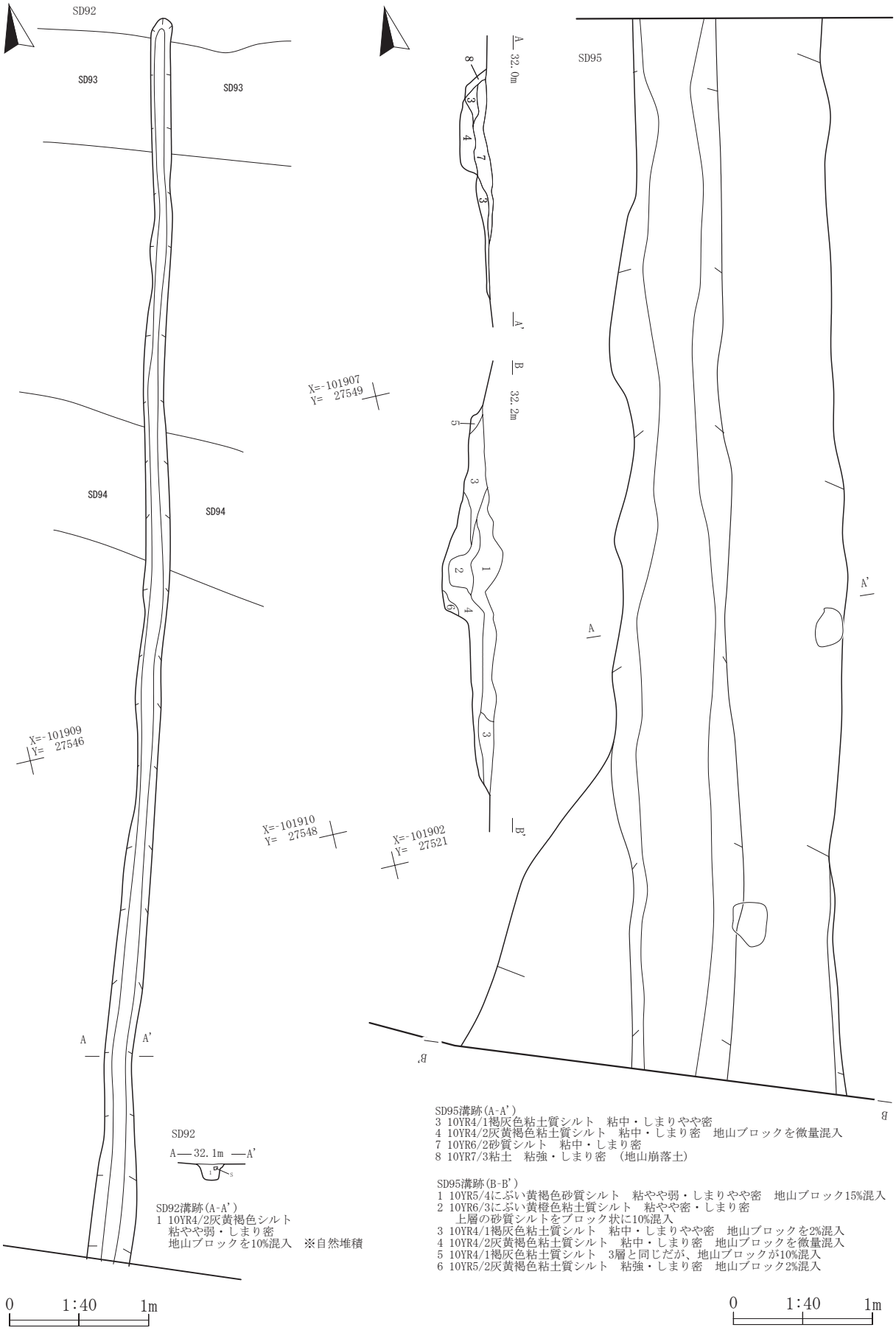




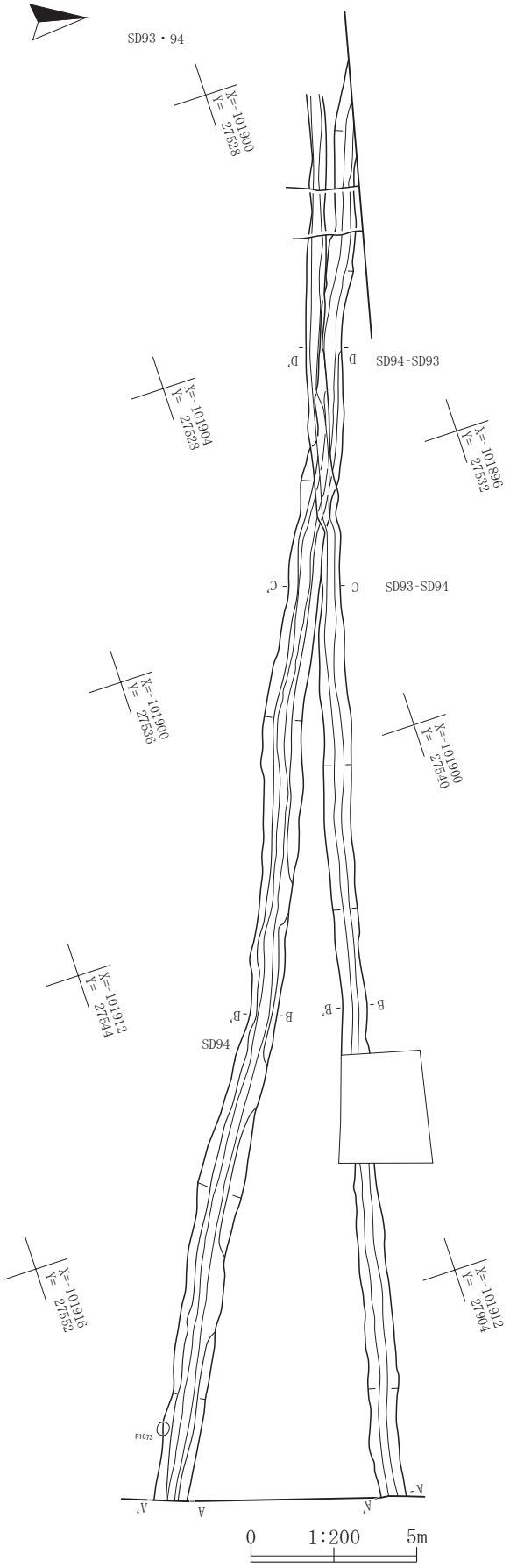
第125図　SD85～87溝跡

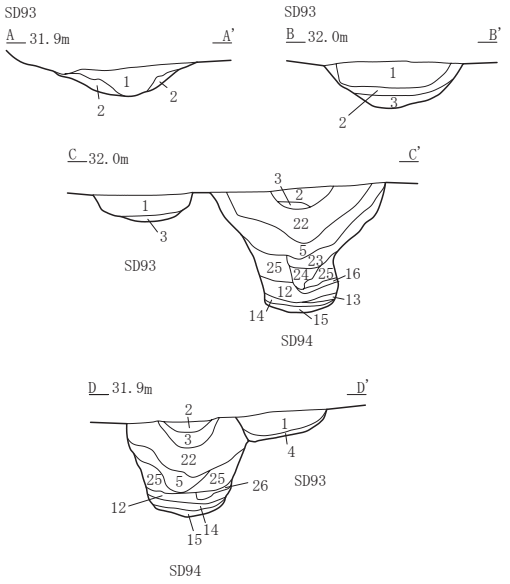


第126図 SD88・90・91溝跡



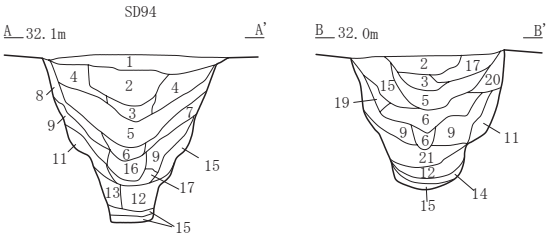
第127図 SD92・95溝跡





SD93-94溝跡(A-A')
1 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり密
　炭化粒・地山ブロックを3%混入
2 10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルト　粘中・しまり密
　※地山崩落土

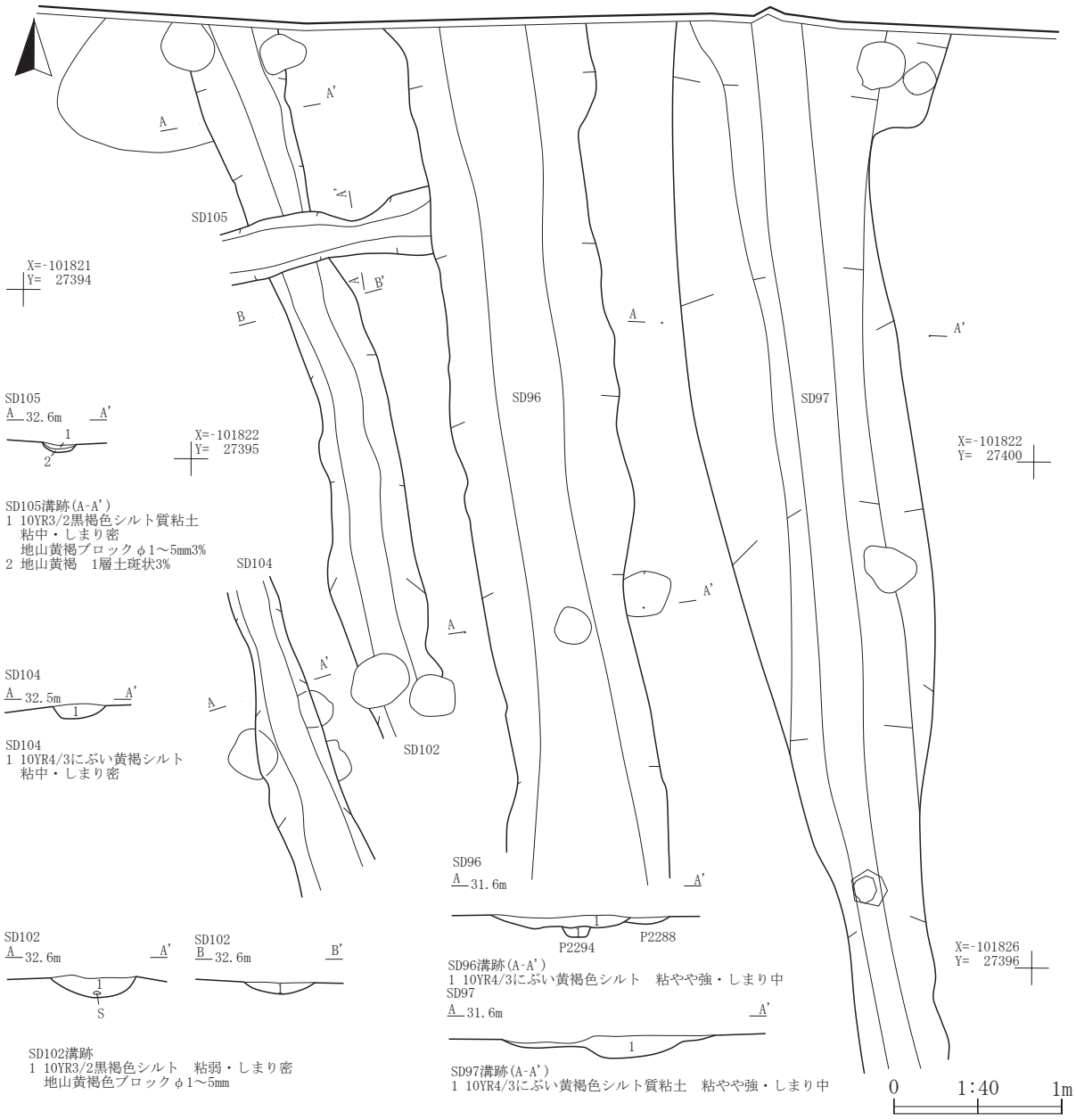
SD93溝跡-94(B-B')
1 SD93(A-A')の1層・2層と同じ
2 SD93(A-A')の1層・2層と同じ
3 10YR4/1褐灰色粘土質シルト　粘強・しまり密
　地山ブロック微量混入



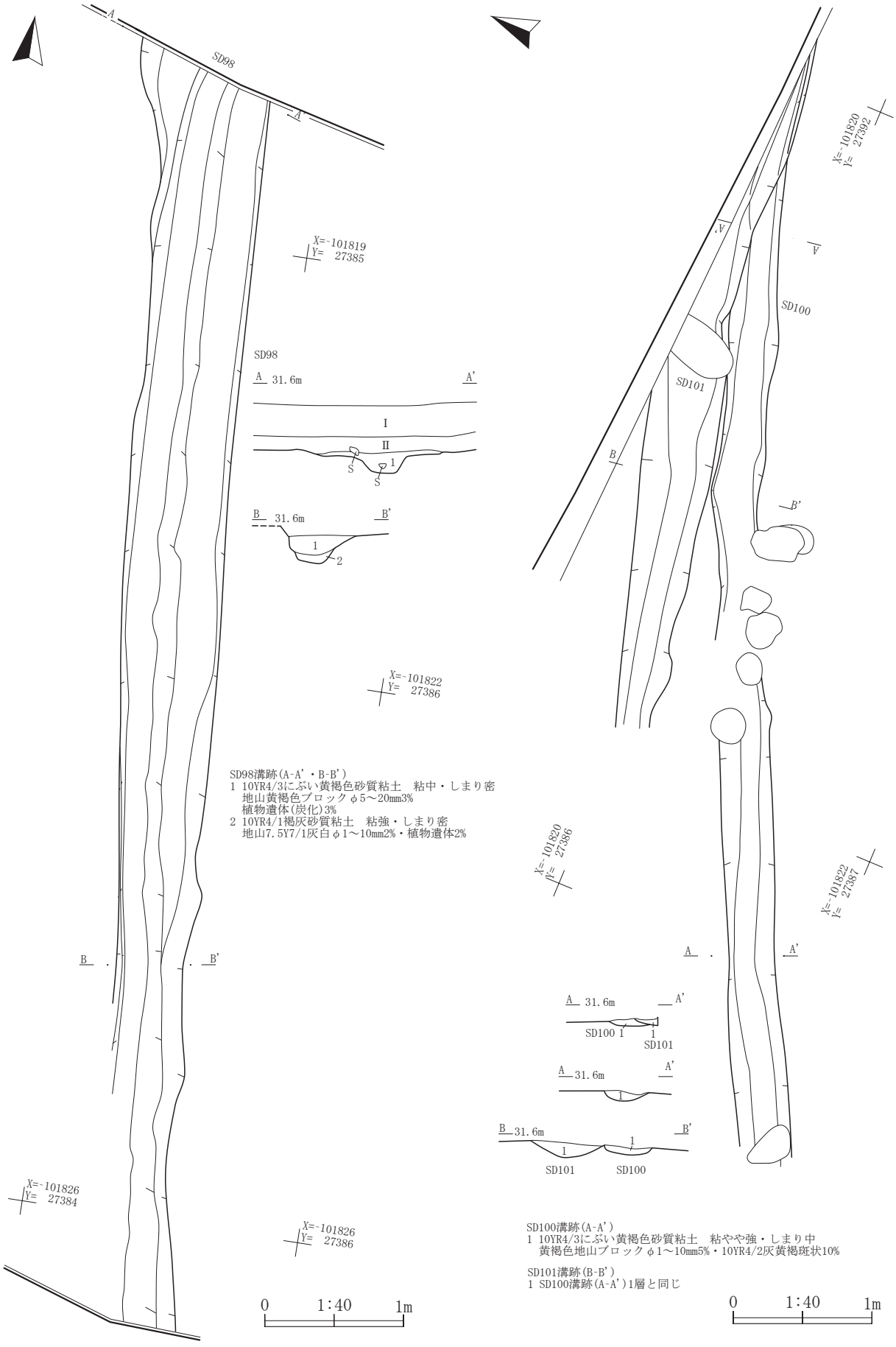
SD94溝跡(A-A')
1 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘中・しまりやや密　To-Aｈがブロック状に微量混入
2 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり密　炭化粒が微量混入
3 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　粘性弱・しまり中
4 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり密
5 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　粘強・しまりやや密　地山ブロックを微量混入
6 5層に類似するが、粘性・しまり共に増す。
　地山ブロック20%混入
7 10YR6/4にぶい黄褐色粘土　粘強・しまり密　※地山崩落土
8 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　粘強・しまり密　地山ブロック40%混入
9 10YR5/4にぶい黄褐色粘土　粘強・しまり密　※地山崩落土
10 10YR6/2灰黄褐色粘土　粘強・しまり密
11 10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土　粘中・しまりやや密　※地山崩落土
12 10YR5/4にぶい黄褐色粘土　粘強・しまり密　※地山崩落土
13 12層に類似するが、砂質ブロックが少量混入する
14 10YR5/4にぶい黄褐色砂層　粘弱・しまりやや密
　溝の底面につき禍鉄鉱の層がみられる
15 5Y5/1 灰色砂層　粘弱・しまりやや密
　上層の粘土がブロック状に少量混入
16 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり中　地山ブロック10%混入
SD94溝跡(B-B')
17 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり密
　1.5㎜の炭化粒、地山ブロックを少量混入
18 10YR4/3灰黄褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
　1.5～10㎜の炭化粒を微量混入
19 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト　粘強・しまり密
　地山ブロックを20%混入
20 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト　粘強・しまり密
　地山ブロックを10%混入
21 10YR6/6明黄褐色粘土　粘強・しまり密　※地山崩落土

0　1:40　1m

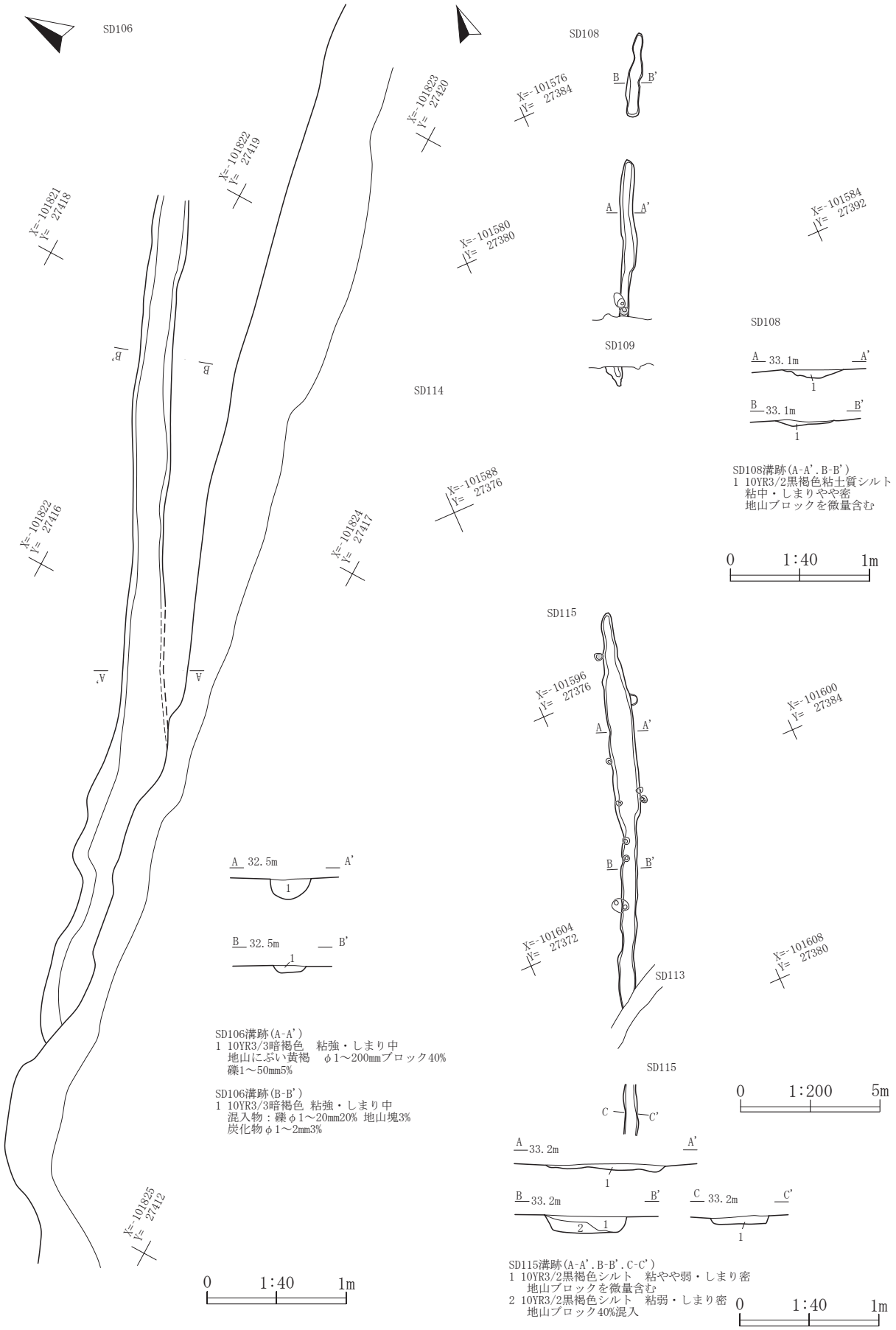
第128図　SD93・94溝跡



第129図 SD96・97・102～105溝跡



第130図　SD98・100・101溝跡



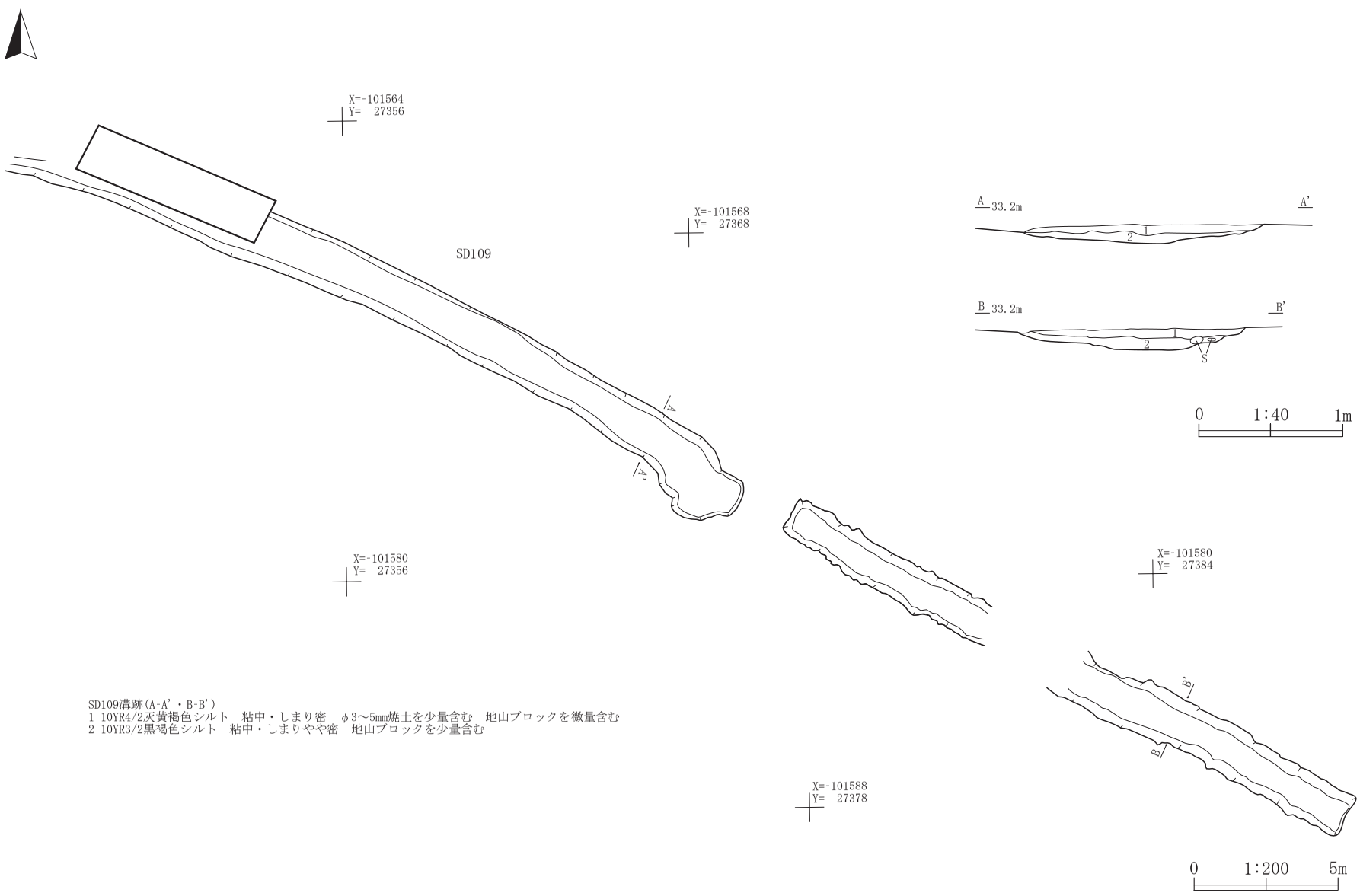
SD106溝跡(A-A')
1 10YR3/3暗褐色　粘強・しまり中
地山にぶい黄褐　φ1～200㎜ブロック40%
礫1～50㎜5%

SD106溝跡(B-B')
1 10YR3/3暗褐色 粘強・しまり中
混入物：礫φ1～20㎜20% 地山塊3%
炭化物φ1～2㎜3%

SD108溝跡(A-A'.B-B')
1 10YR3/2黒褐色粘土質シルト
粘中・しまりやや密
地山ブロックを微量含む

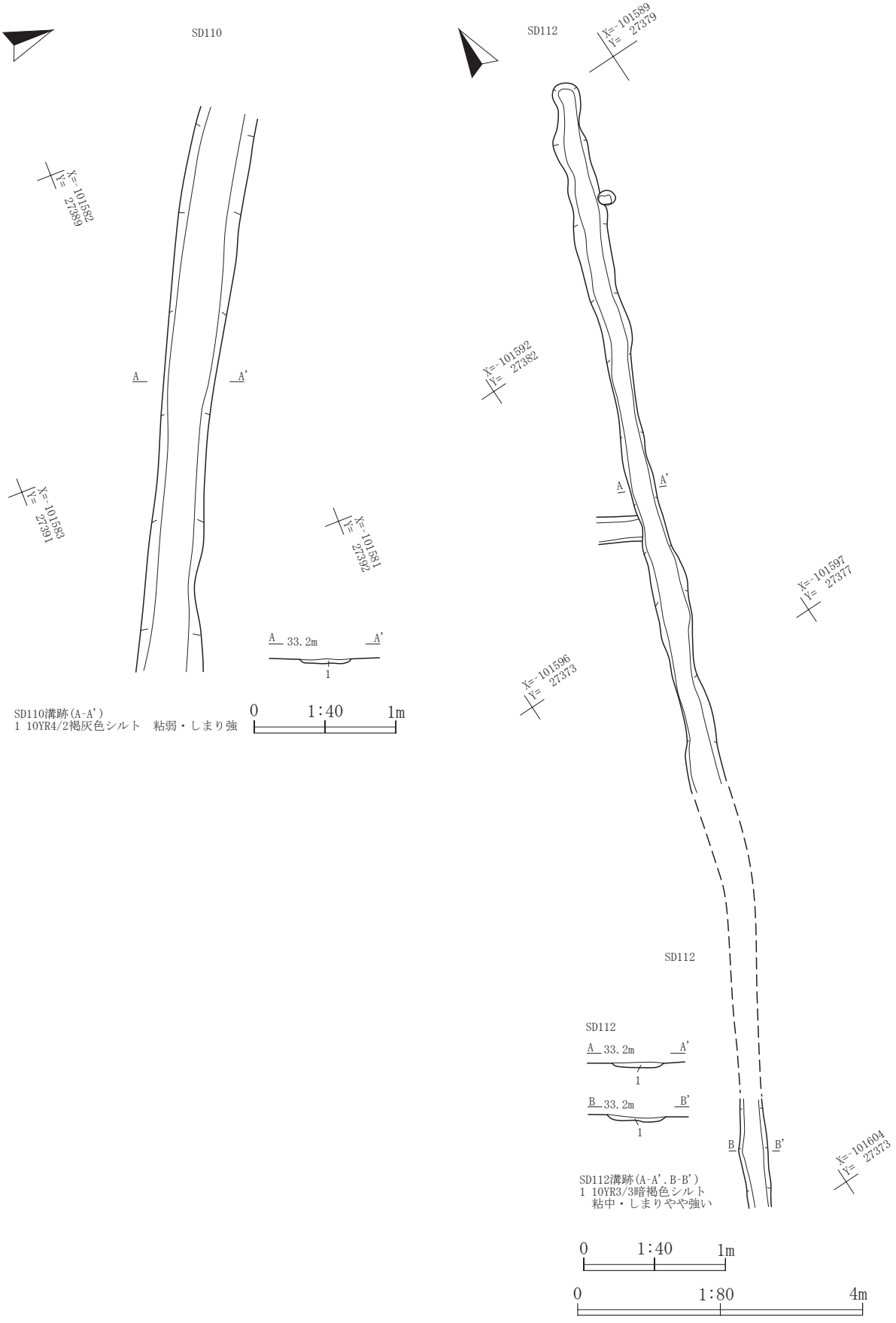
SD115溝跡(A-A'.B-B'.C-C')
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまり密
地山ブロックを微量含む
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘弱・しまり密
地山ブロック40%混入

第131図　SD106・108・115溝跡

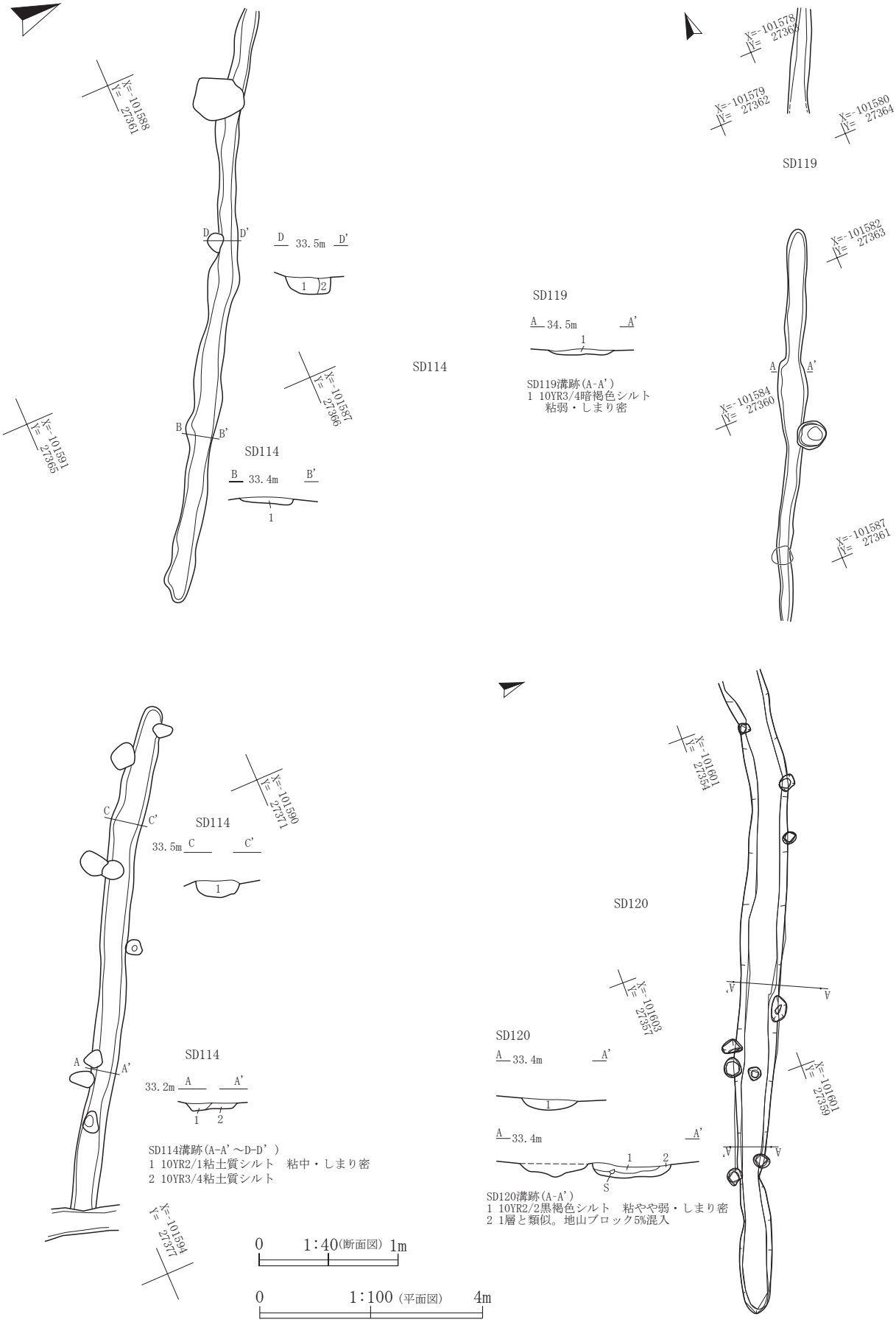


SD109溝跡(A-A'・B-B')
1 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘中・しまり密　φ3～5mm焼土を少量含む　地山ブロックを微量含む
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロックを少量含む

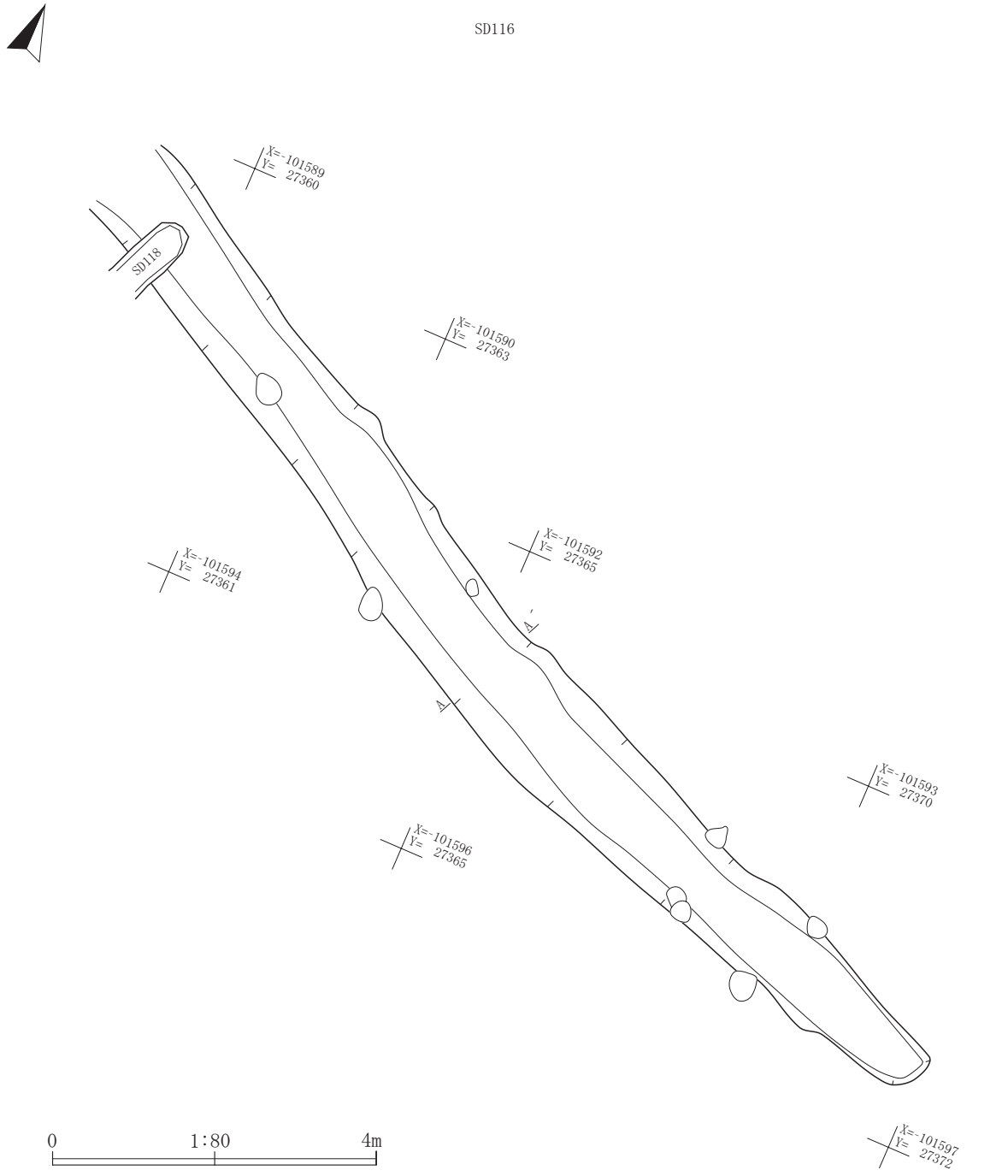
第132図　SD109溝跡

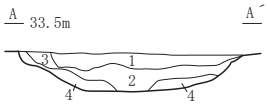


第133図　SD110・112溝跡



第134図　SD114・119・120溝跡

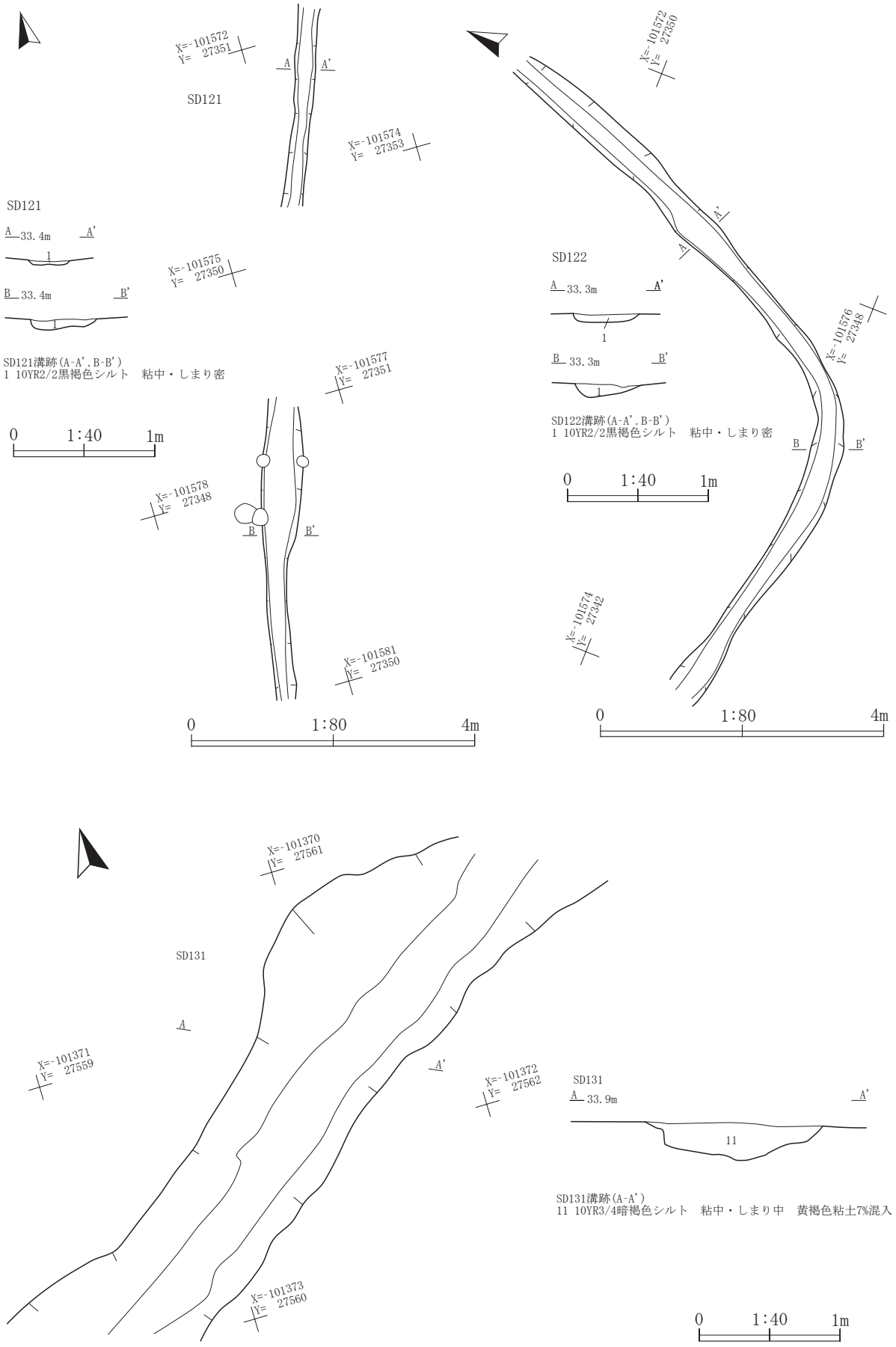




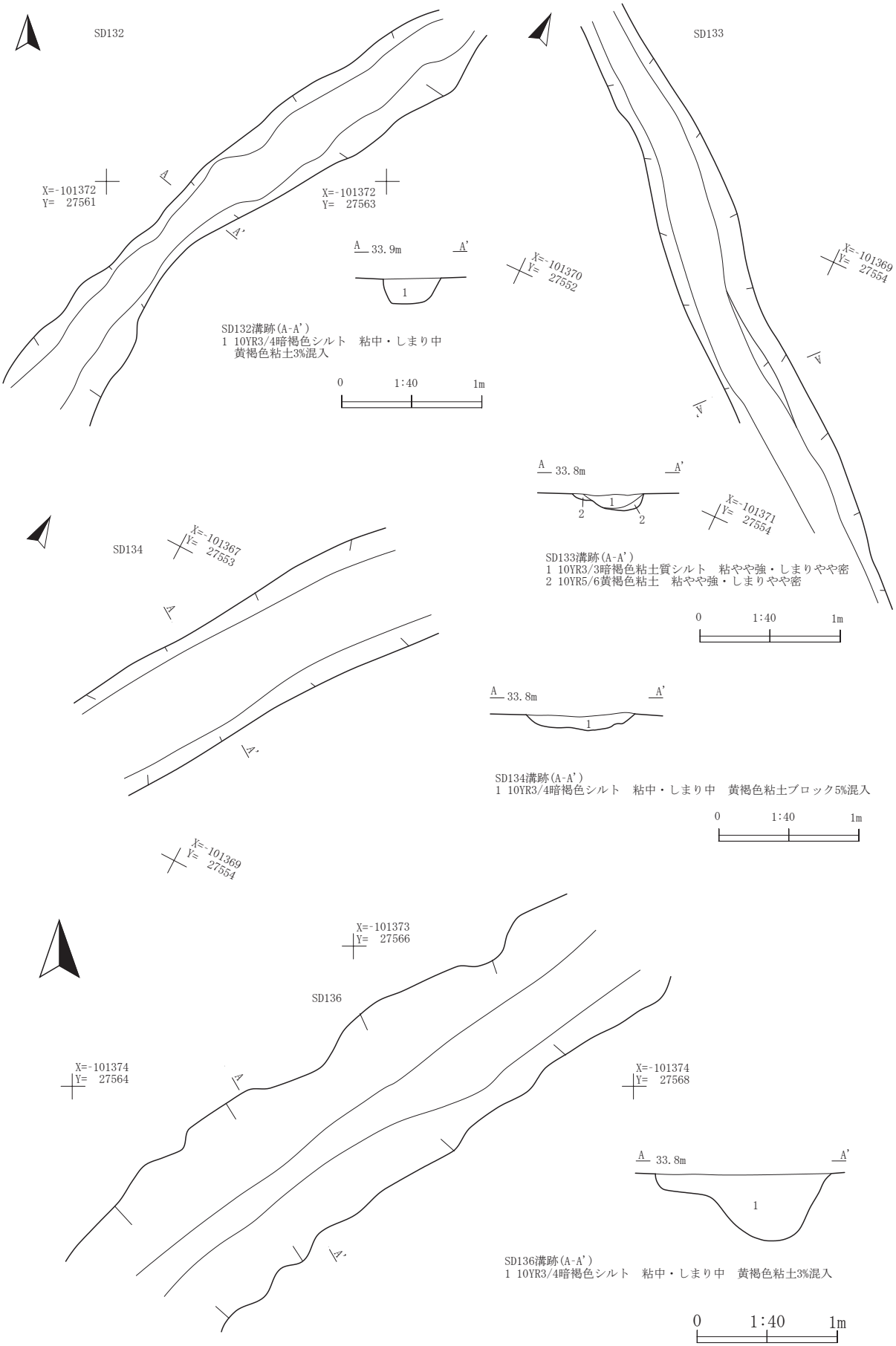
SD116溝跡(A-A´)
1 10YR4/4にぶい黄褐色シルト　粘中・しまり密
2 10YR3/3暗褐色シルト　粘弱・しまりやや密
3 2層に類似。地山ブロックを少量含む
4 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり密　地山ブロックを微量含む

0 1:40 1m

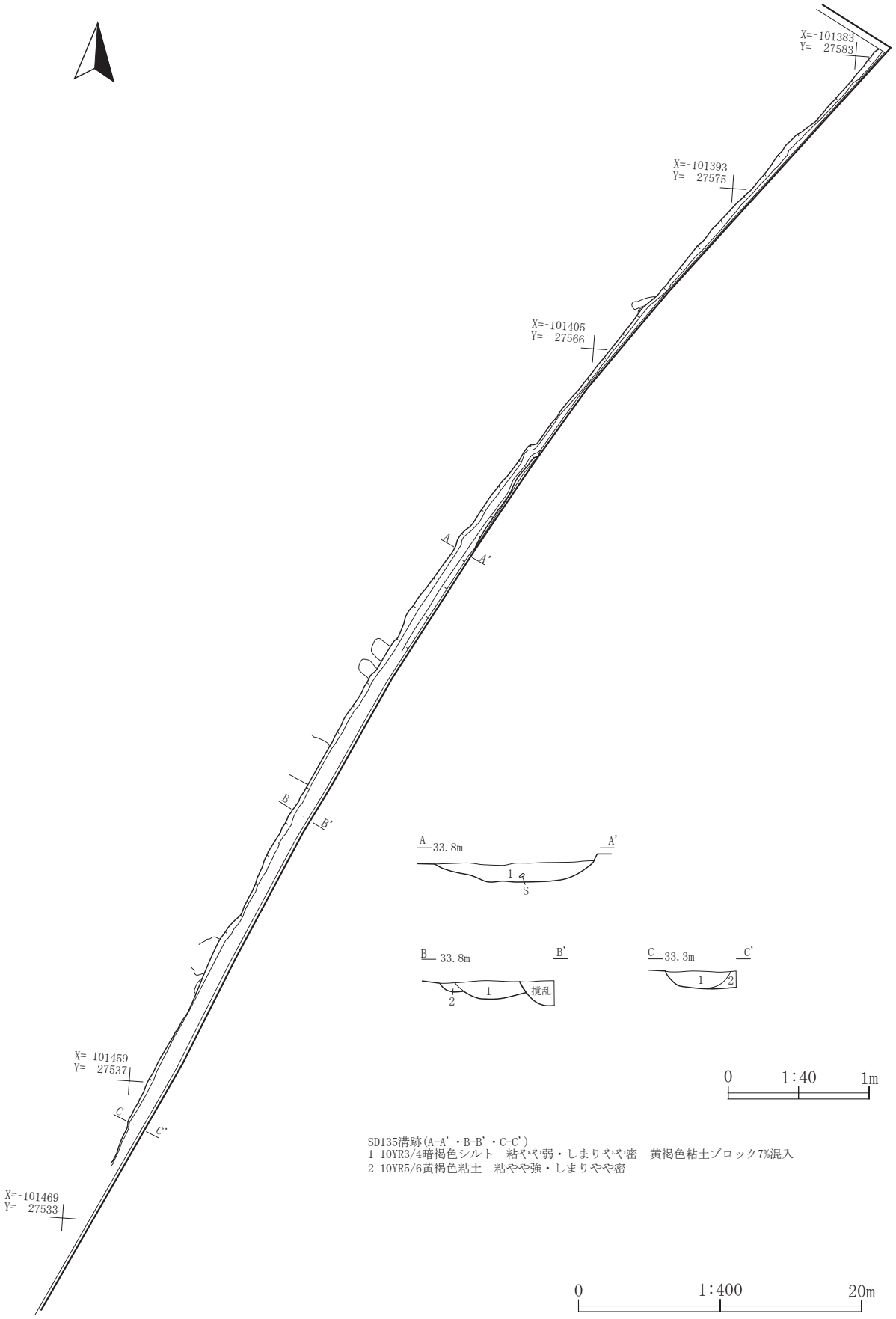
第135図　SD116・118溝跡



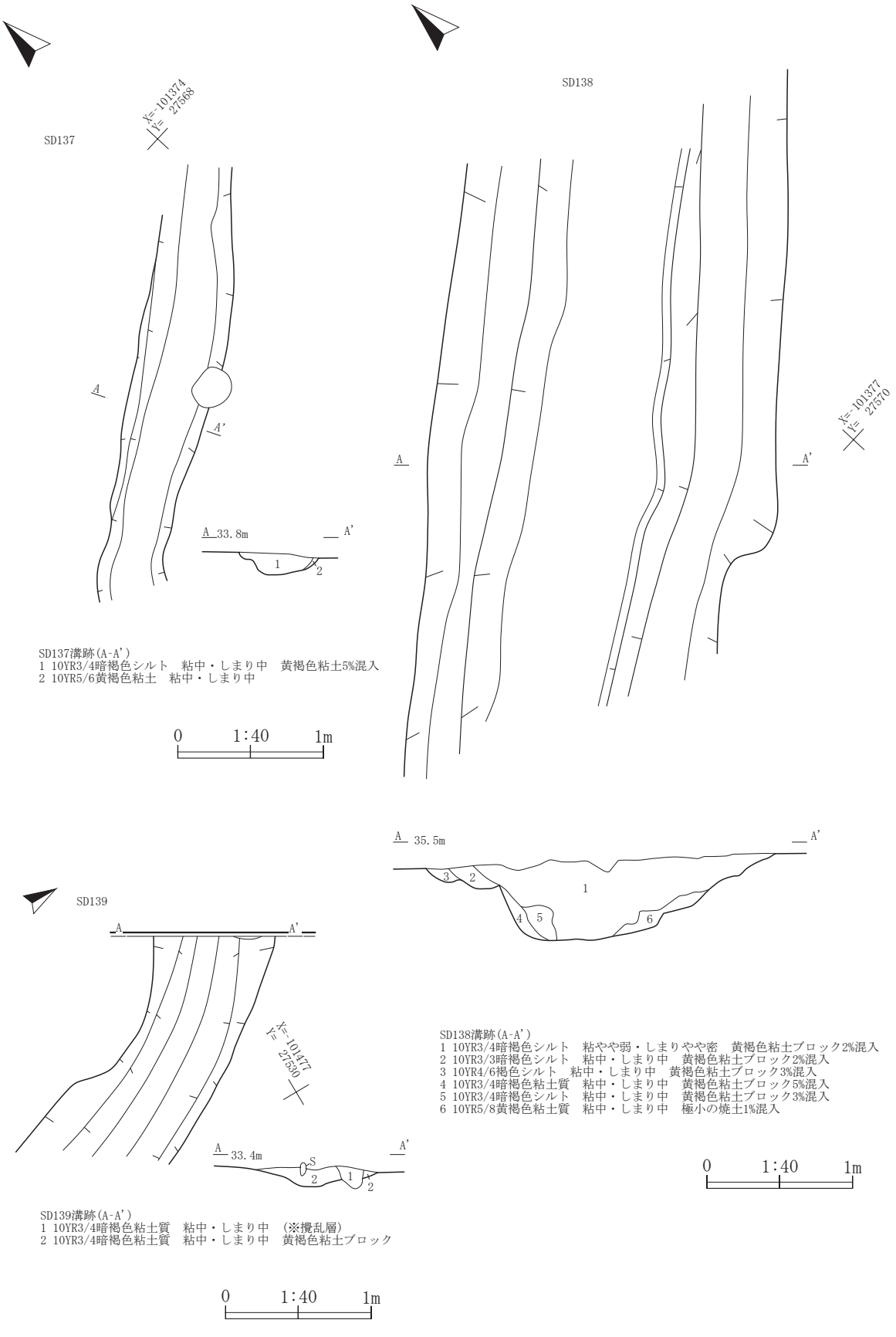
第136図 SD121・122・131溝跡



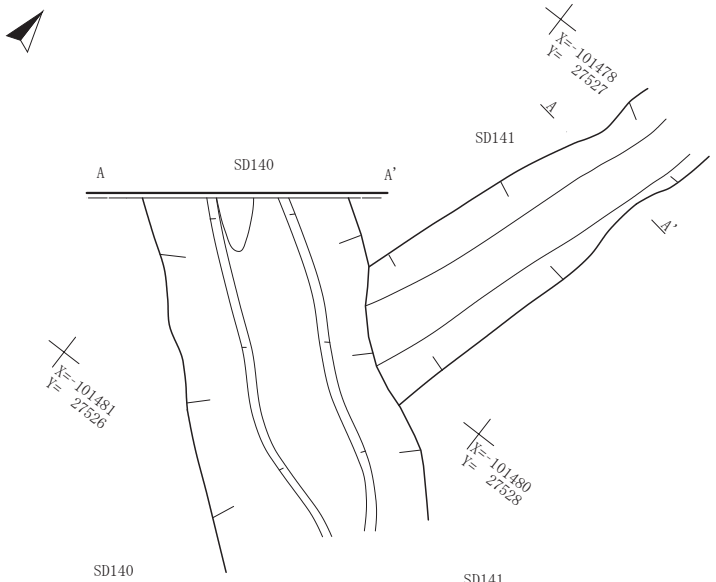
第137図 SD132～134・136溝跡



第138図 SD135溝跡



第139図　SD137～139溝跡

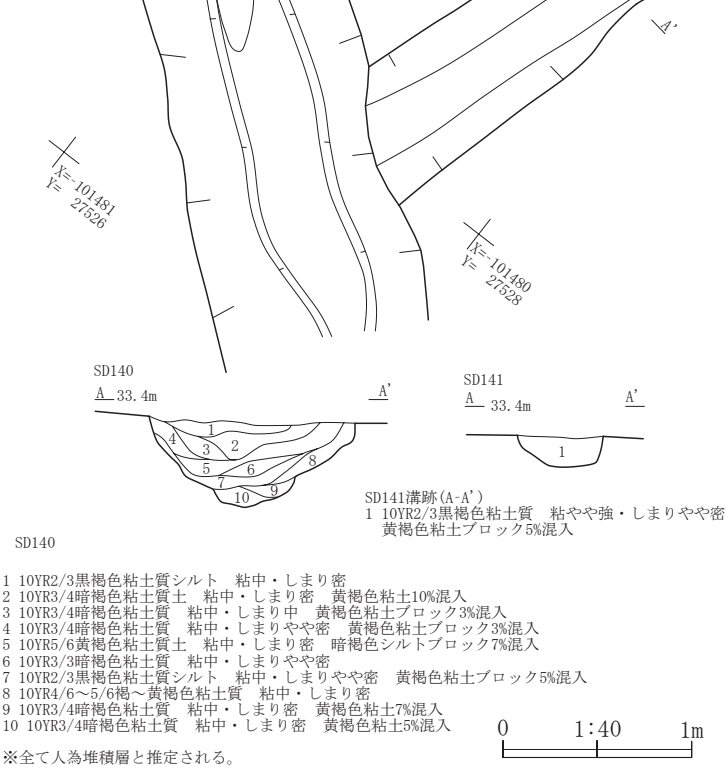


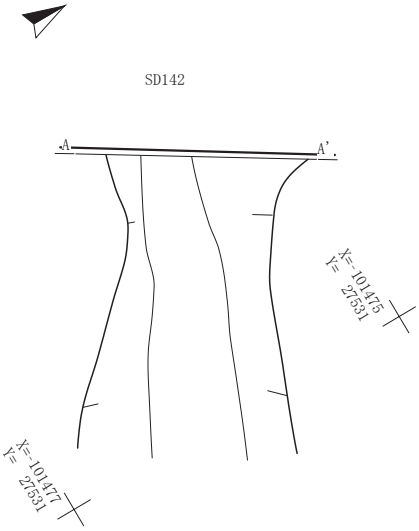
SD141溝跡(A-A')
1 10YR2/3黒褐色粘土質　粘やや強・しまりやや密
　黄褐色粘土ブロック5%混入

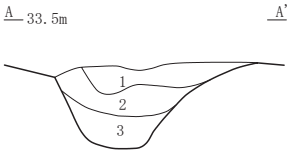
SD140

1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト　粘中・しまり密
2 10YR3/4暗褐色粘土質土　粘中・しまり密　黄褐色粘土10%混入
3 10YR3/4暗褐色粘土質　粘中・しまり中　黄褐色粘土ブロック3%混入
4 10YR3/4暗褐色粘土質　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック3%混入
5 10YR5/6黄褐色粘土質土　粘中・しまり密　暗褐色シルトブロック7%混入
6 10YR3/3暗褐色粘土質　粘中・しまりやや密
7 10YR2/3黒褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック5%混入
8 10YR4/6～5/6褐～黄褐色粘土質　粘中・しまり密
9 10YR3/4暗褐色粘土質　粘中・しまり密　黄褐色粘土7%混入
10 10YR3/4暗褐色粘土質　粘中・しまり密　黄褐色粘土5%混入

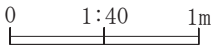
※全て人為堆積層と推定される。

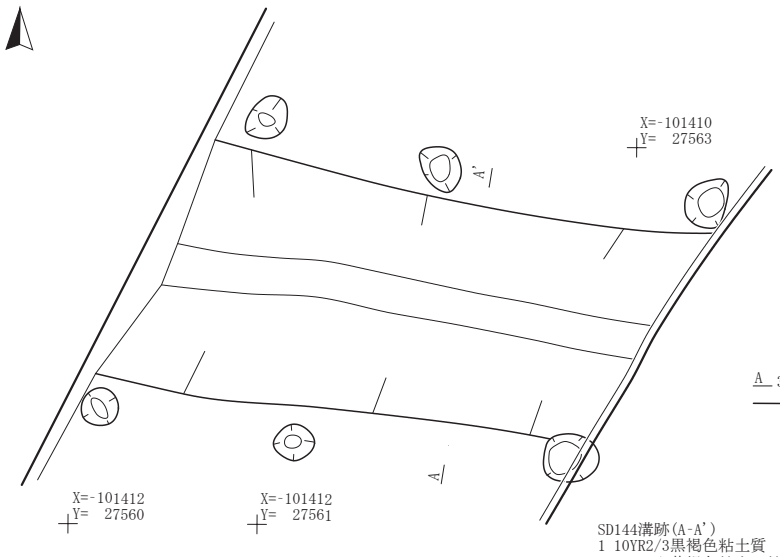


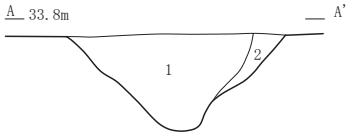




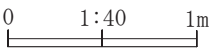
SD142溝跡(A-A')
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり密
2 10YR4/4褐色粘土　粘やや強・しまり密
3 10YR3/2黒褐色粘土　粘やや強・しまり密
　亜円礫(50～150mm)多量混入



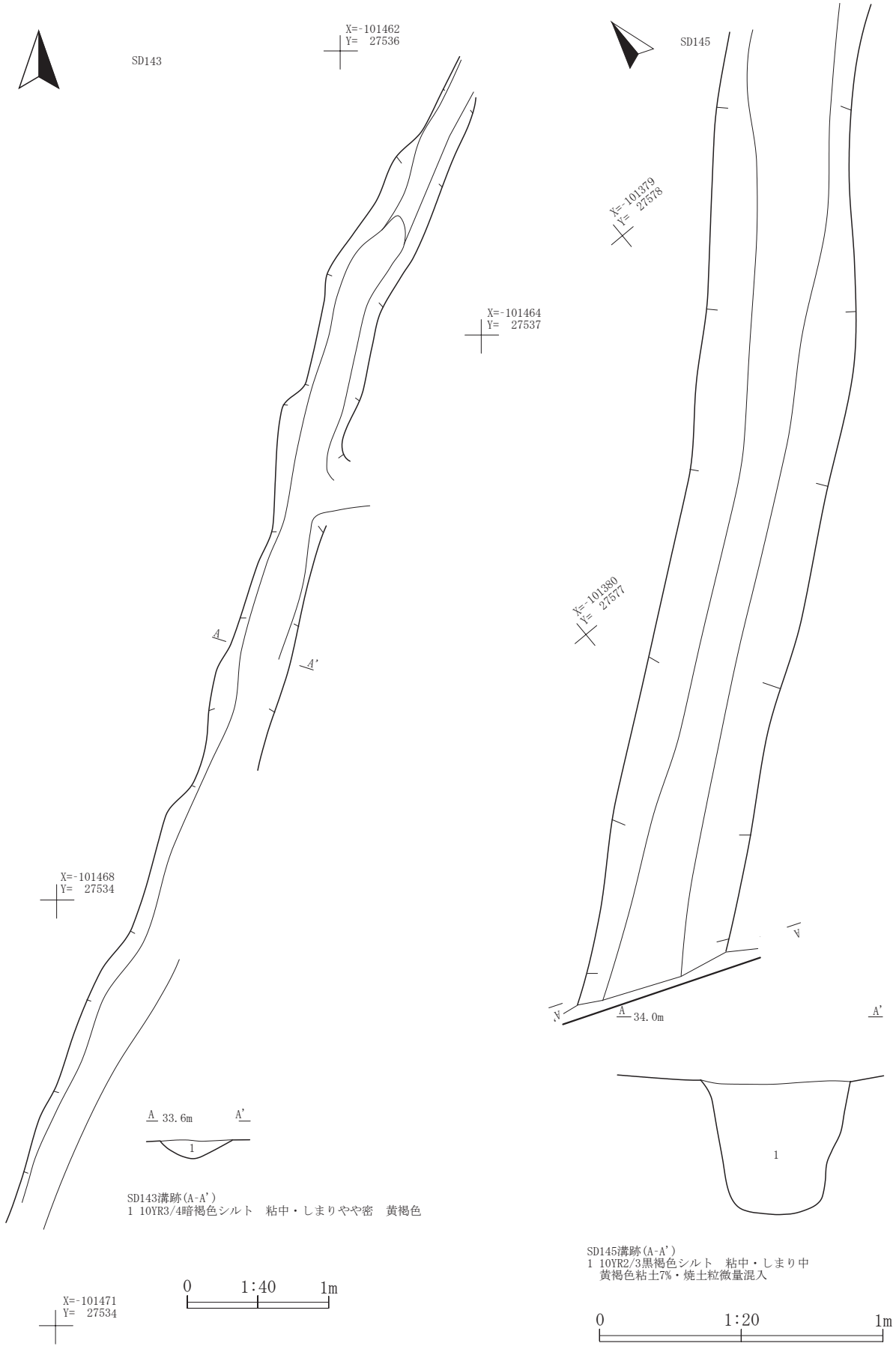




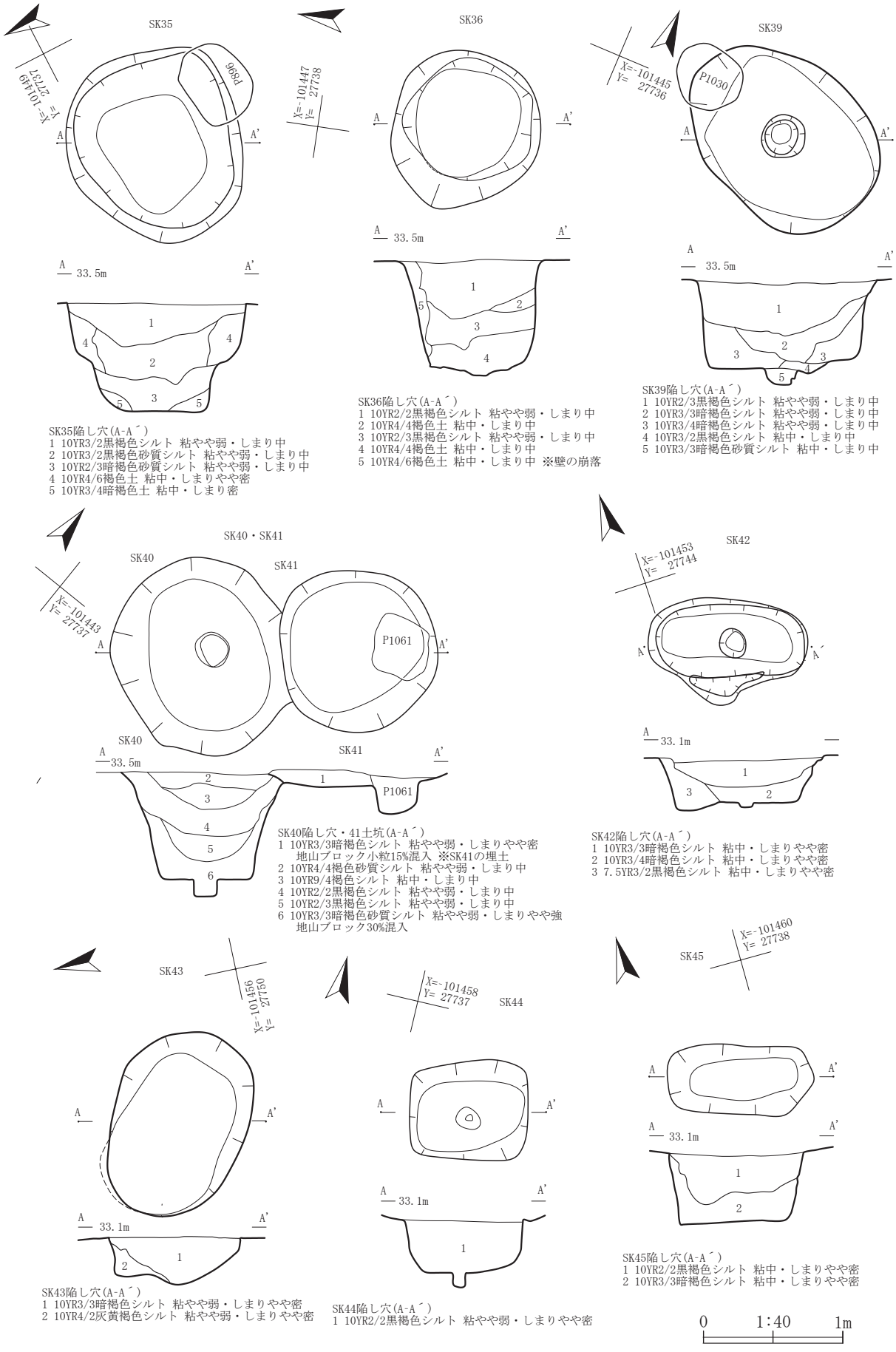
SD144溝跡(A-A')
1 10YR2/3黒褐色粘土質　粘中・しまりやや密　黄褐色土粒3%・焼土粒1%混入
2 10YR5/8黄褐色粘土　粘中・しまりやや密



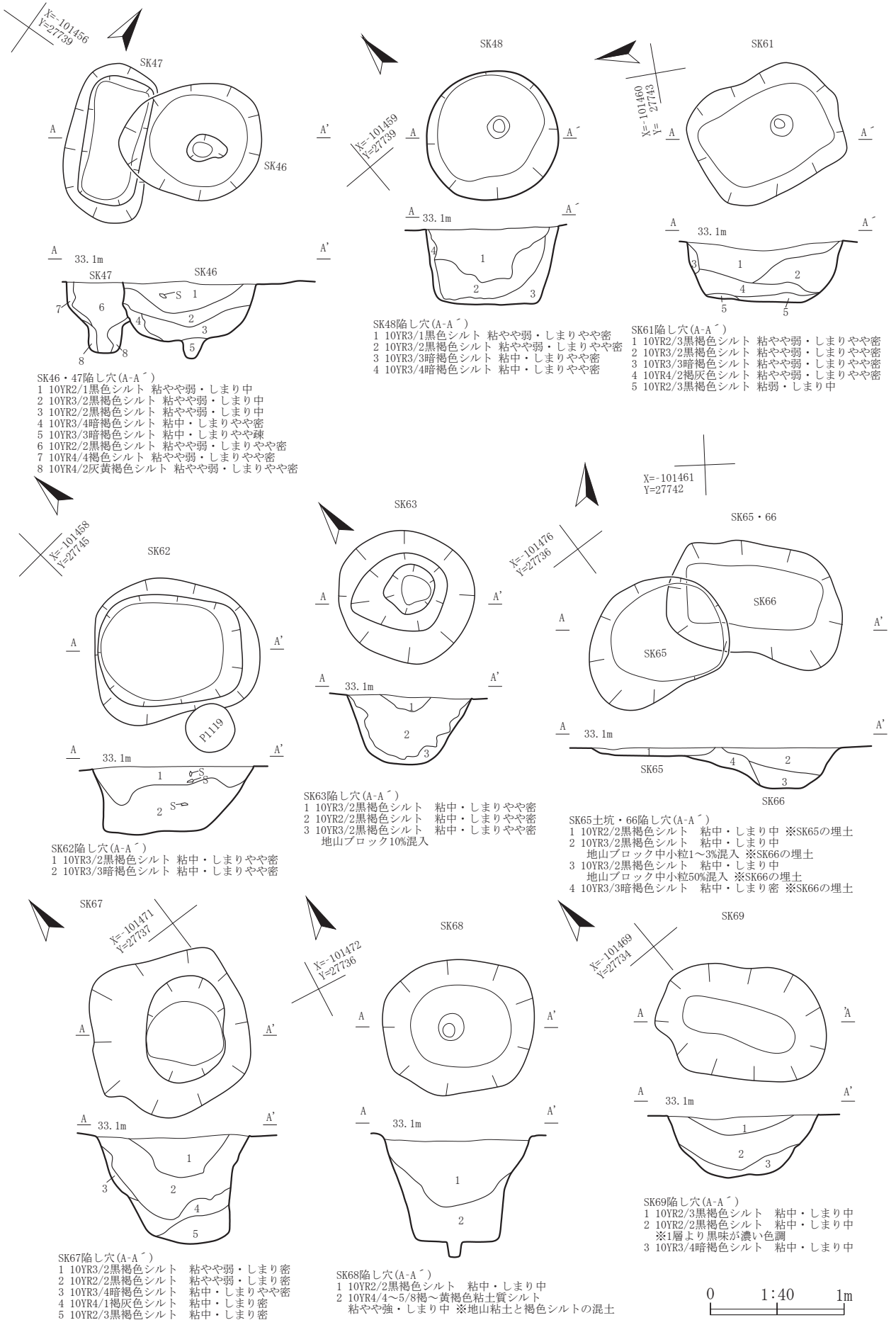
第140図　SD140～142・144溝跡



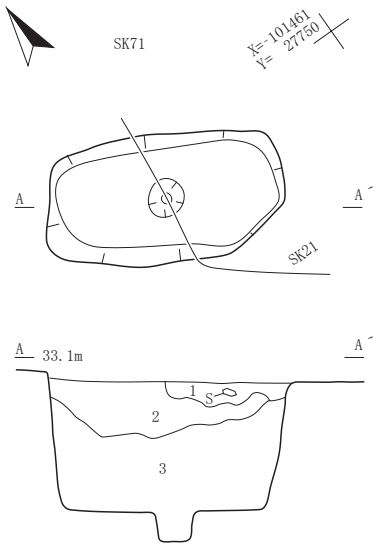
第141図 SD143・145溝跡



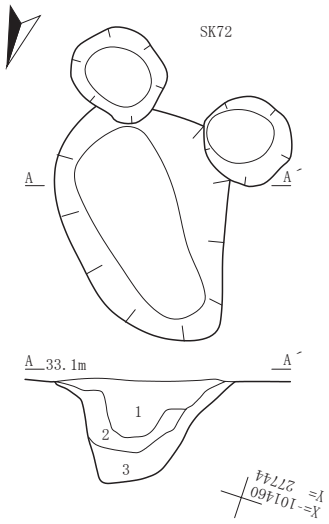
第142図　SK35・36・39～45陥し穴



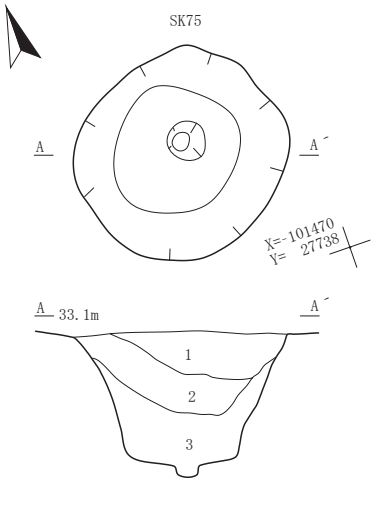
第143図　SK46～48・61～63・66～69陥し穴・SK65土坑



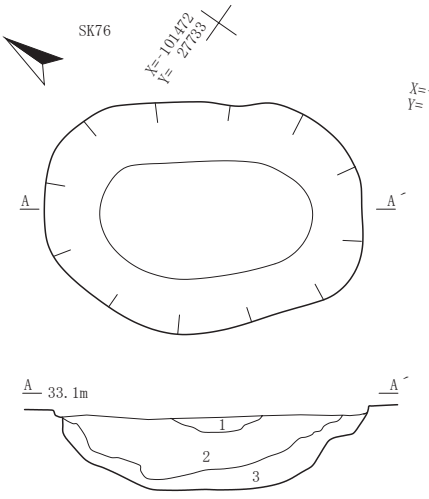
SK71陥し穴(A-A´)
1 10YR2/1黒褐色シルト　粘中・しまりやや疎
　地山ブロック小粒を30%混入
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中
　地山ブロック小粒を15%混入
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
　地山ブロック小粒を50%以上混入



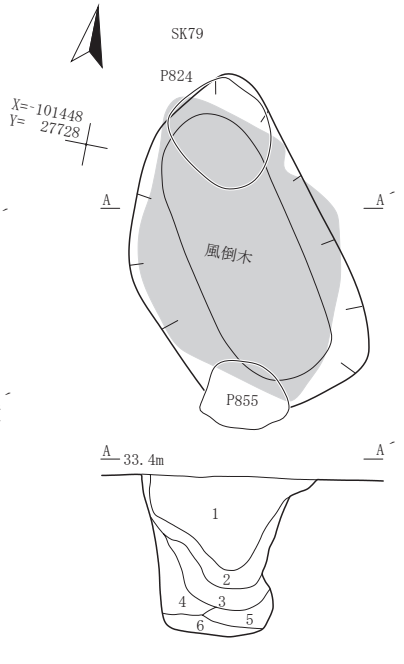
SK72陥し穴(A-A´)
1 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密



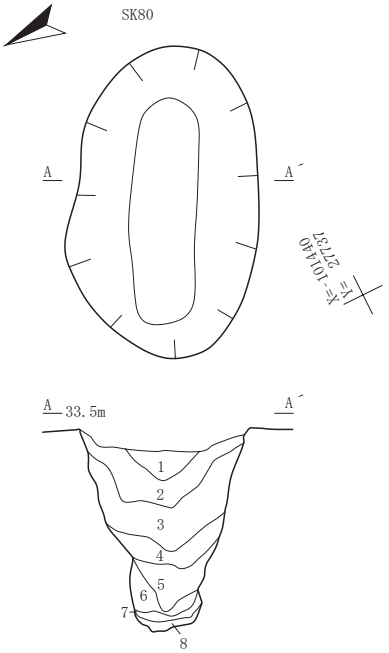
SK75陥し穴(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密



SK76陥し穴(A-A´)
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや密



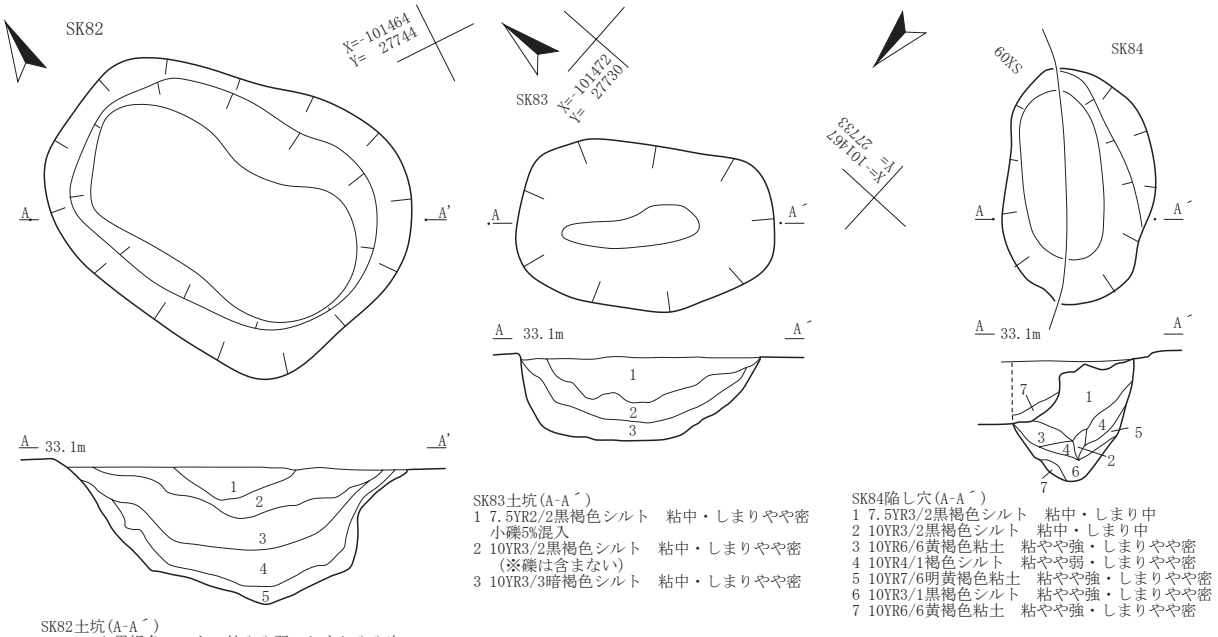
SK79陥し穴(A-A´)
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR4/4褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR5/6黄褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密
4 10YR5/4にぶい黄褐色砂　粘弱・しまりやや密
5 10YR5/4にぶい黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密
6 10YR5/2灰黄褐色砂　粘やや弱・しまり中



SK80陥し穴(A-A´)
1 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR4/4褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密
4 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘中・しまり中
5 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘中・しまり中
6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘中・しまり中
7 10YR4/1褐灰色砂　粘やや弱・しまり中
8 10YR灰黄褐色粘土質砂　粘中・しまり中

0　1:40　1m

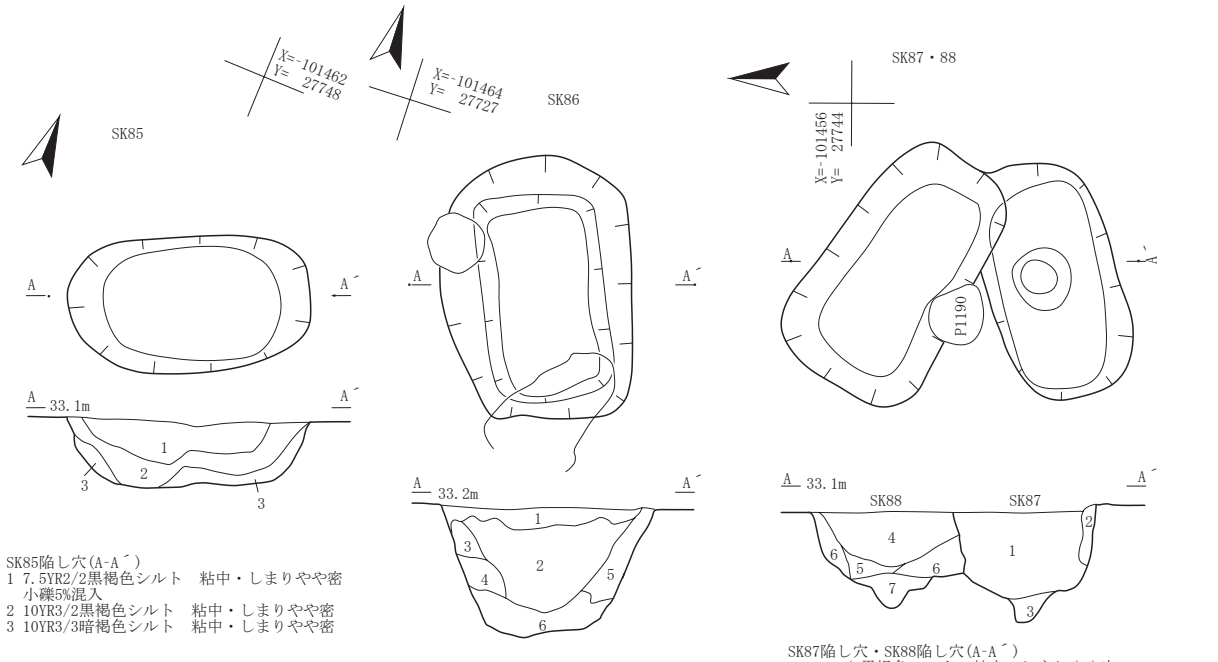
第144図　SK71・72・75・76・79・80陥し穴



SK82土坑(A-A´)
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
2 10YR2/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
3 10YR2/3黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
4 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
5 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘やや中・しまりやや密

SK83土坑(A-A´)
1 7.5YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
　小礫5%混入
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
　(※礫は含まない)
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密

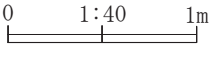
SK84陥し穴(A-A´)
1 7.5YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまり中
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまり中
3 10YR6/6黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密
4 10YR4/1褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
5 10YR7/6明黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密
6 10YR3/1黒褐色シルト　粘やや強・しまりやや密
7 10YR6/6黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密



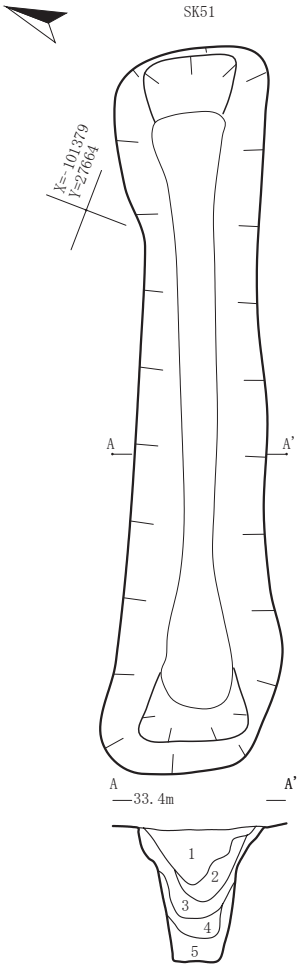
SK85陥し穴(A-A´)
1 7.5YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
　小礫5%混入
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密

SK86土坑(A-A´)
1 7.5YR3/1黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR7/6明黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密
4 10YR2/2黒褐色砂質シルト　粘やや弱・しまりやや密
5 10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密
6 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト　粘やや強・しまりやや密

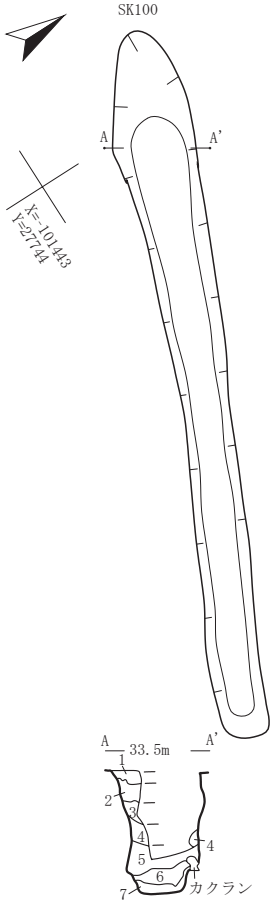
SK87陥し穴・SK88陥し穴(A-A´)
1 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘中・しまりやや密
3 10YR3/3暗褐色砂　粘弱・しまり中
4 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
5 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや強
6 10YR4/4褐色シルト　粘中・しまりやや強
7 10YR3/3暗褐色砂　粘弱・しまり中　中小礫50%混入



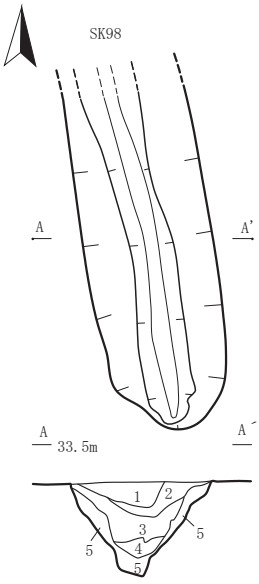
第145図　SK82～88陥し穴



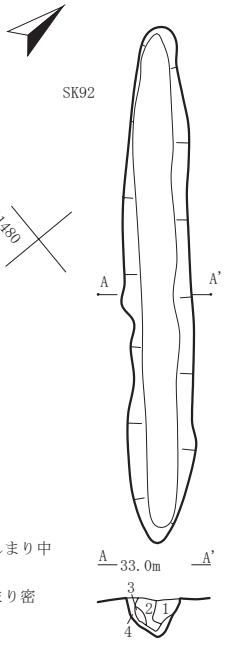
SK51陥し穴(A-A´)
1 10YR2/1黒色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR3/2～4/3黒褐～にぶい黄褐色粘土質土
　粘強・しまりやや密　にぶい黄橙色粘土ブロック10%混入
3 10YR5/6黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密
　黒色シルト7%・にぶい黄橙色粘土20%混入
4 10YR7/3にぶい黄橙色粘土　粘やや強・しまりやや密
　黒色シルト3%混入
5 10YR6/6明黄褐色粘土　粘やや強・しまり密（※地山か？）
※自然堆積層

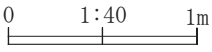


SK100陥し穴(A-A´)
1 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
2 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
3 10YR4/3灰黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
4 10YR5/6黄褐色シルト 粘中、しまり密
5 10YR4/1褐灰色砂質シルト 粘弱・しまり中
　黒褐色シルトブロック(～2cm)10%混入
6 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまり中
　黄褐色粘土ブロック(～1cm)5%混入
7 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘中・しまり中
　明黄褐色粘土ブロック(～5cm)10%混入



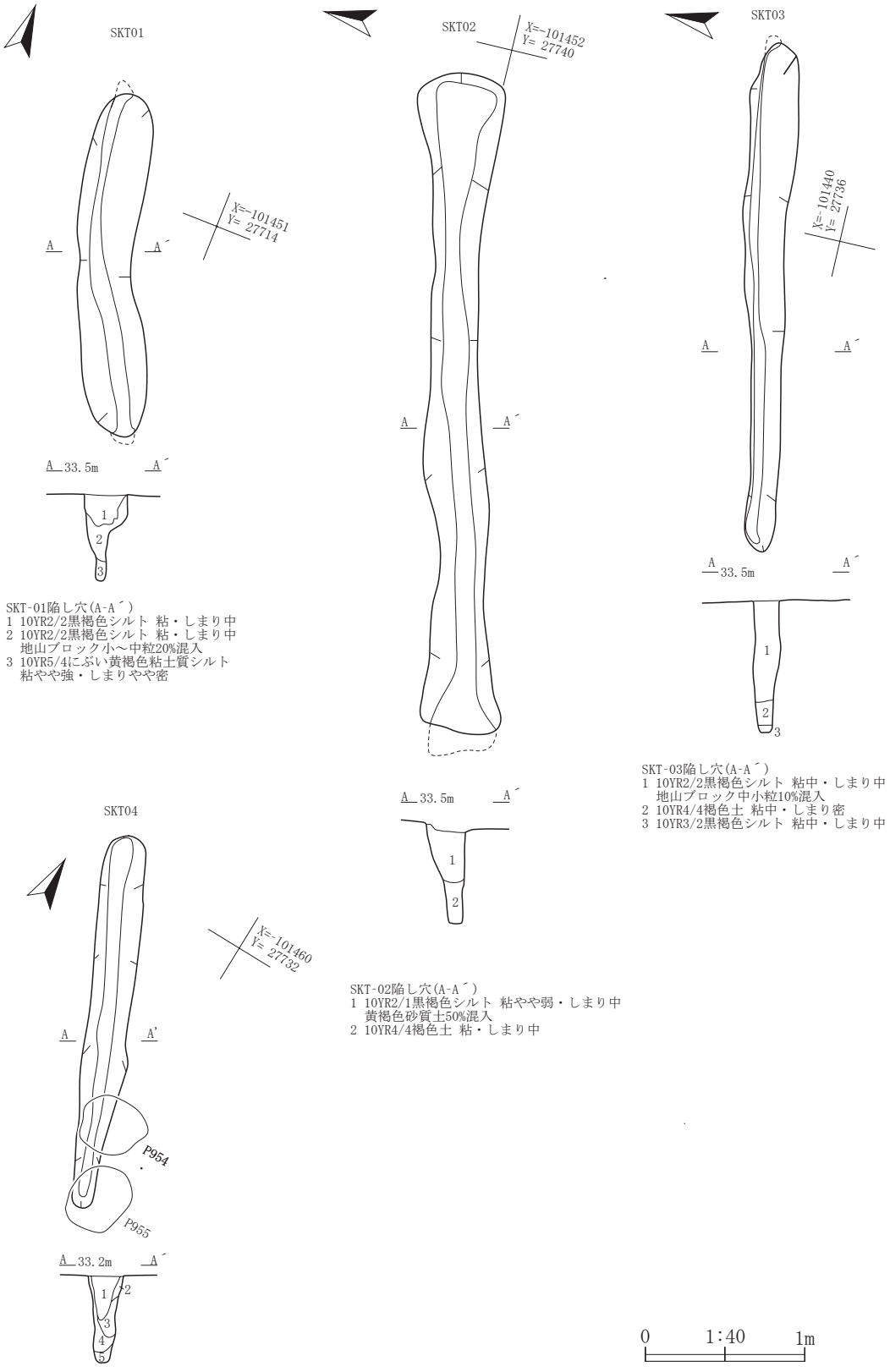
SK98陥し穴(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまり中
2 10YR2/1黒色シルト 粘中・しまり中
3 10YR2.5/1黒色～黒褐色シルト 粘中・しまり中
　明黄褐色粘土ブロック(～2cm)1%混入
4 10YR1.7/1黒色シルト 粘中・しまり中
5 10YR2/1褐灰色粘土質シルト 粘強・しまり密





SK92陥し穴(A-A´)
1 10YR3/2黒褐色シルト 粘中・しまり中
　黒褐色シルト・明黄褐色粘土ブロック各5%混入
2 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまり中
3 10YR6/6粘土と10YR4/1褐灰色シルトの混土(7：3)
　粘強・しまり密
4 3と同じで2：8　粘中・しまり密
※3,4は人為堆積

第146図　SK51・92・98・100陥し穴



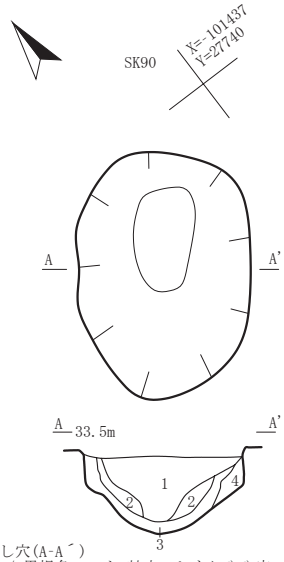
SKT-01陥し穴(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘・しまり中
2 10YR2/2黒褐色シルト 粘・しまり中
地山ブロック小～中粒20%混入
3 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト
粘やや強・しまりやや密

SKT-02陥し穴(A-A´)
1 10YR2/1黒褐色シルト 粘やや弱・しまり中
黄褐色砂質土50%混入
2 10YR4/4褐色土 粘・しまり中

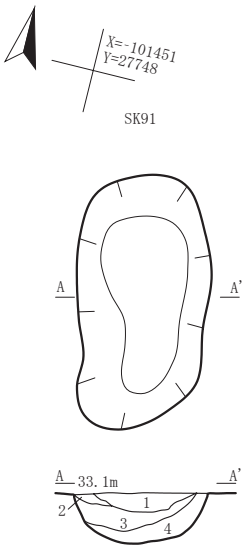
SKT-03陥し穴(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり中
地山ブロック中小粒10%混入
2 10YR4/4褐色土 粘中・しまり密
3 10YR3/2黒褐色シルト 粘中・しまり中

SKT-04陥し穴(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり中
2 10YR5/6黄褐色粘土 粘中・しまり中
3 10YR4/1褐灰色シルト 粘中・しまり中
4 10YR4/4褐色シルト 粘中・しまりやや疎
5 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり中
地山ブロック30%混入

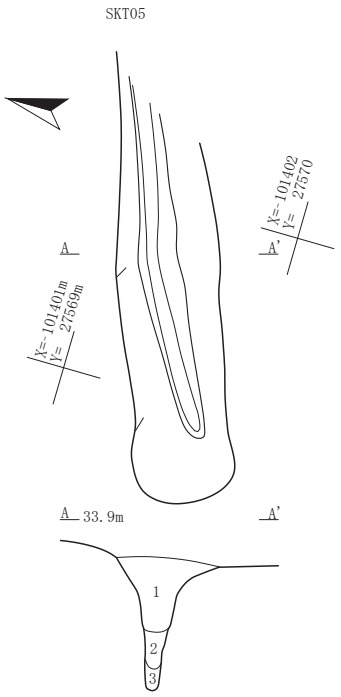
第147図　SKT01～04陥し穴



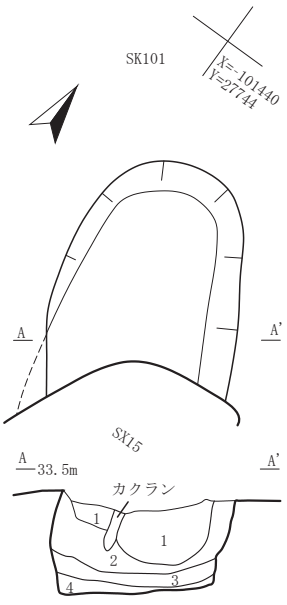
SK90陥し穴(A-A´)
1 10YR3/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
炭水化物粒1%混入
2 2.5YR5/3黄褐色シルト 粘中・しまりやや密
3 2.5YR5/4にぶい赤褐色シルト 粘中・しまりやや密
4 2.5YR5/6明赤褐色砂質シルト 粘中・しまりやや密



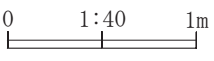
SK91陥し穴(A-A´)
1 10YR3/3暗褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
2 10YR3.5/3暗褐色～にぶい黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
3 10YR3/2黒褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
4 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり密
※全て自然堆積



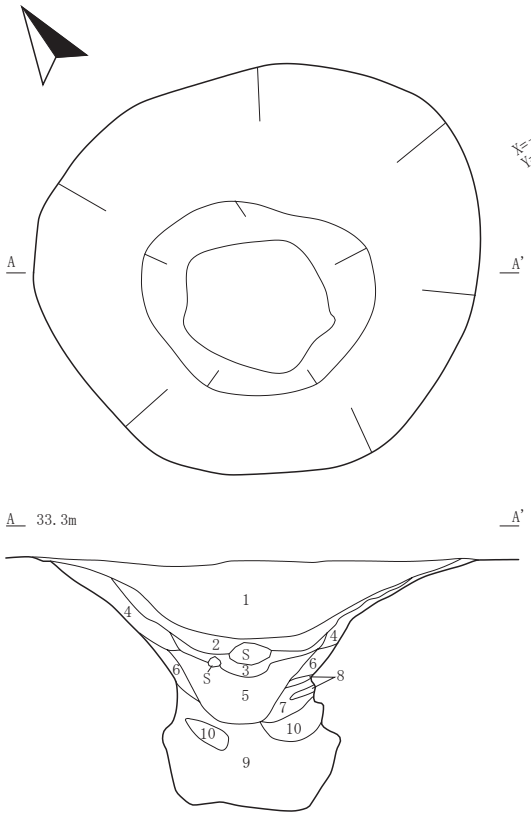
SKT05陥し穴(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘やや強・しまりやや疎
2 10YR5/6黄褐色粘土 粘強・しまり中
3 10YR2/2黒褐色シルト 粘やや強・しまりやや疎
黄褐色粘土20%混入



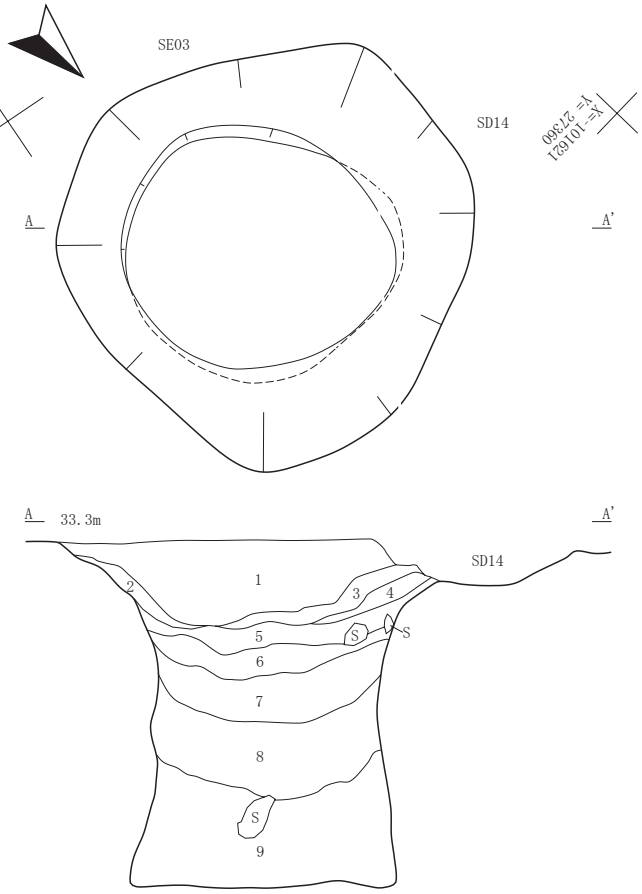
SK101陥し穴(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまり密
焼土粒・炭化物粒1%混入
2 10YR5/6黄褐色シルト 粘中・しまり密
3 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり中
4 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり中



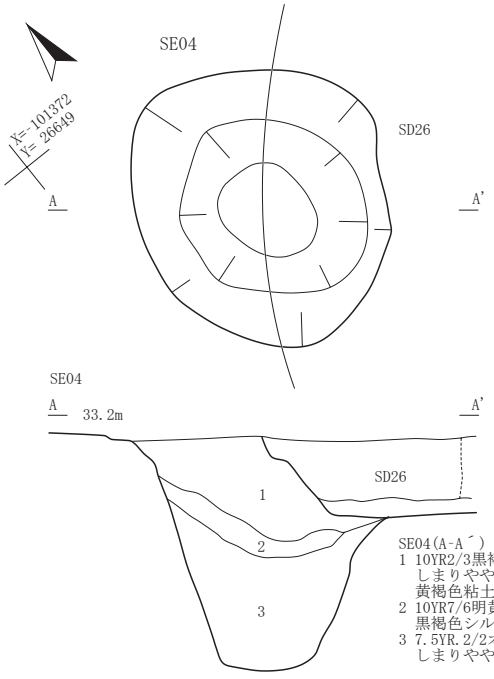
第148図　SK90・91・101・SKT05陥し穴



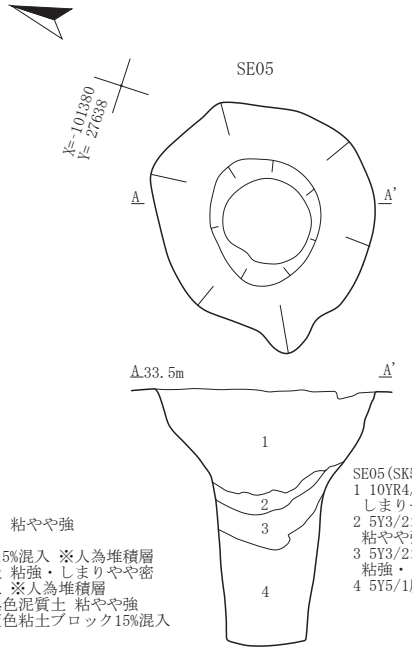
SE01(A-A´)
1 10YR3/3暗褐色シルト質粘土　粘やや強・しまり密
　土器混入　※人為堆積
2 10YR1.7/1黒色泥質土　粘中・しまりやや疎
3 2.5Y3/1黒褐色粘土質泥質土　粘やや強・しまり中
4 2.5Y4/1黄灰色粘土質土　粘やや強・しまりやや密
5 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土質泥質土　粘やや強・しまり中
6 5Y4/1灰色粘土質土　粘やや強・しまり中
7 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土質泥質砂質土　粘やや強・しまりやや疎
8 10YR4/2灰黄褐色砂質泥質土　粘中・しまりやや疎
9 2.5Y3/2黒褐色泥質土粘やや強・しまりやや疎
10 2.5Y4/1黄灰色泥質土　粘やや強・しまりやや疎



SE03(A-A´)
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘やや弱・しまり密　酸化鉄の集積、土器混入 ※人為堆積層
2 10YR4/2灰黄褐色泥質土　粘やや強・しまり中　To-aテフラ小ブロック1%混入
　※人為堆積層
3 10YR1.7/1黒色シルト　粘やや強・しまりやや疎 木質が土壌化した土層か？
4 7.5YR3/3暗褐色粘土　粘やや強・しまりやや疎 ※地山の壁崩壊土か
5 2.5Y3/1黒褐色泥質土　粘やや強・しまりやや疎
6 2.5Y3/1黒褐色泥質土　粘やや強・しまりやや疎　黒色土10%混入
　※3層に類する黒色土
7 5Y3/1オリーブ黒色泥質土　粘やや強・しまり中
8 5Y3/1オリーブ黒色泥質土　粘やや強・しまり中　黒褐色砂質土20%混入
9 5Y3/1オリーブ黒色泥質土　粘やや強・しまり中



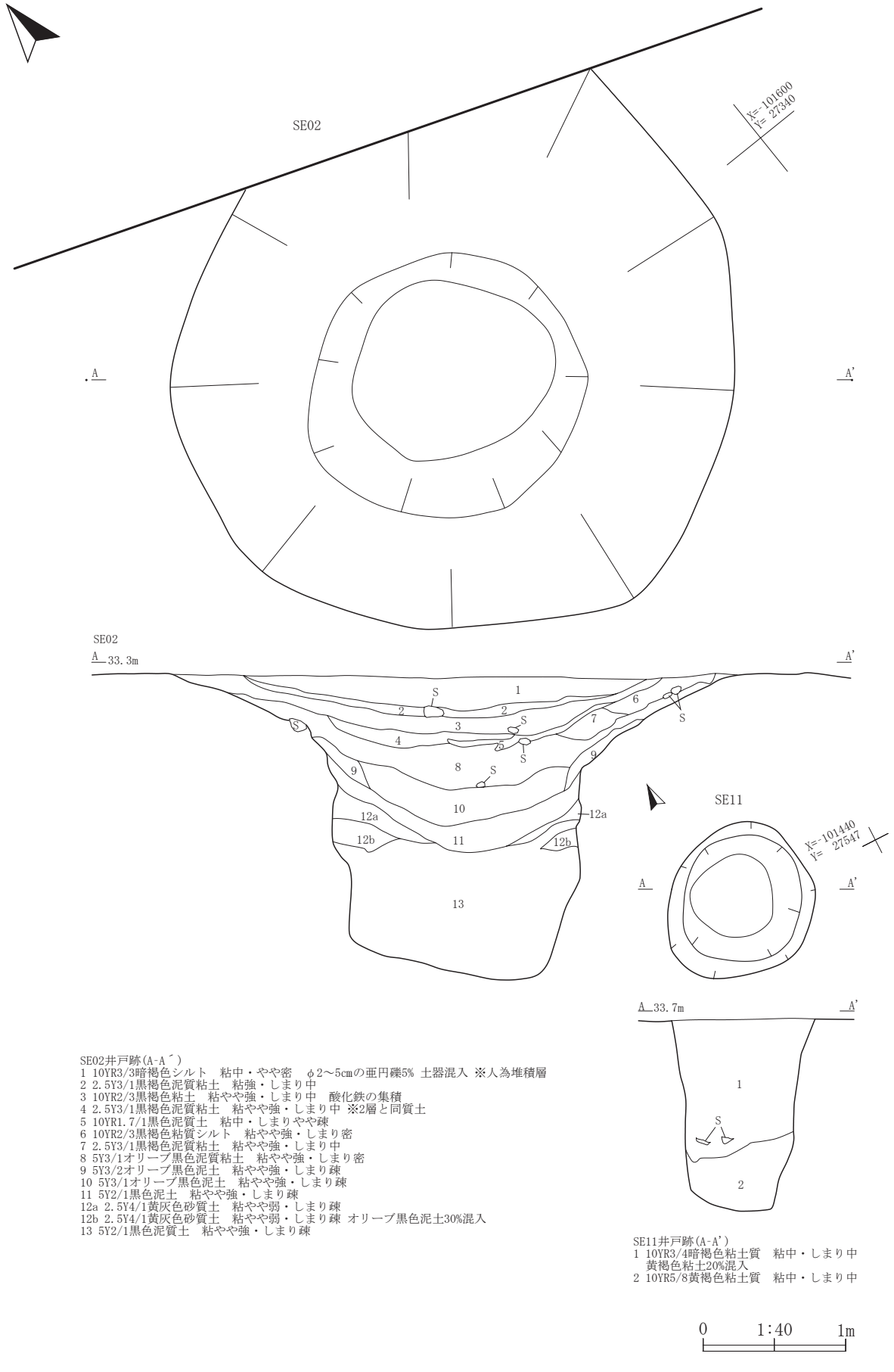
SE04(A-A´)
1 10YR2/3黒褐色シルト 粘やや強
　しまりやや密
　黄褐色粘土ブロック15%混入 ※人為堆積層
2 10YR7/6明黄褐色粘土 粘強・しまりやや密
　黒褐色シルト15%混入 ※人為堆積層
3 7.5YR.2/2オリーブ黒色泥質土 粘やや強
　しまりやや疎 暗緑灰色粘土ブロック15%混入



SE05(SK52)(A-A´)
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘中
　しまりやや密 黄褐色粘土3%混入
2 5Y3/2オリーブ黒色粘土質泥質土
　粘やや強・しまり中 酸化鉄の集積顕著
3 5Y3/2オリーブ黒色粘土質泥質土
　粘強・しまり中
4 5Y5/1灰色泥質土　粘強・しまりやや疎

0　1:40　1m

第149図　SE01・03～05井戸跡

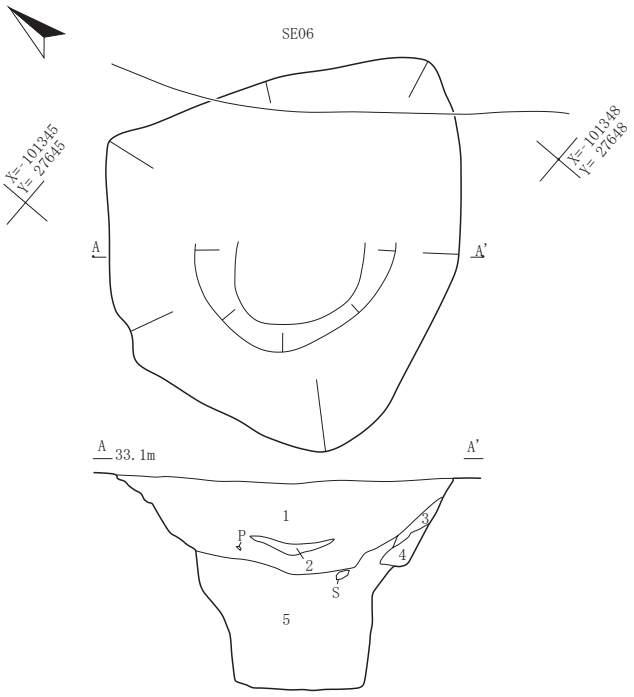


SE02井戸跡(A-A´)
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・やや密　φ2～5㎝の亜円礫5% 土器混入 ※人為堆積層
2 2.5Y3/1黒褐色泥質粘土　粘強・しまり中
3 10YR2/3黒褐色粘土　粘やや強・しまり中　酸化鉄の集積
4 2.5Y3/1黒褐色泥質粘土　粘やや強・しまり中 ※2層と同質土
5 10YR1.7/1黒色泥質土　粘中・しまりやや疎
6 10YR2/3黒褐色粘質シルト　粘やや強・しまり密
7 2.5Y3/1黒褐色泥質粘土　粘やや強・しまり中
8 5Y3/1オリーブ黒色泥質粘土　粘やや強・しまり密
9 5Y3/2オリーブ黒色泥土　粘やや強・しまり疎
10 5Y3/1オリーブ黒色泥土　粘やや強・しまり疎
11 5Y2/1黒色泥土　粘やや強・しまり疎
12a 2.5Y4/1黄灰色砂質土　粘やや弱・しまり疎
12b 2.5Y4/1黄灰色砂質土　粘やや弱・しまり疎 オリーブ黒色泥土30%混入
13 5Y2/1黒色泥質土　粘やや強・しまり疎

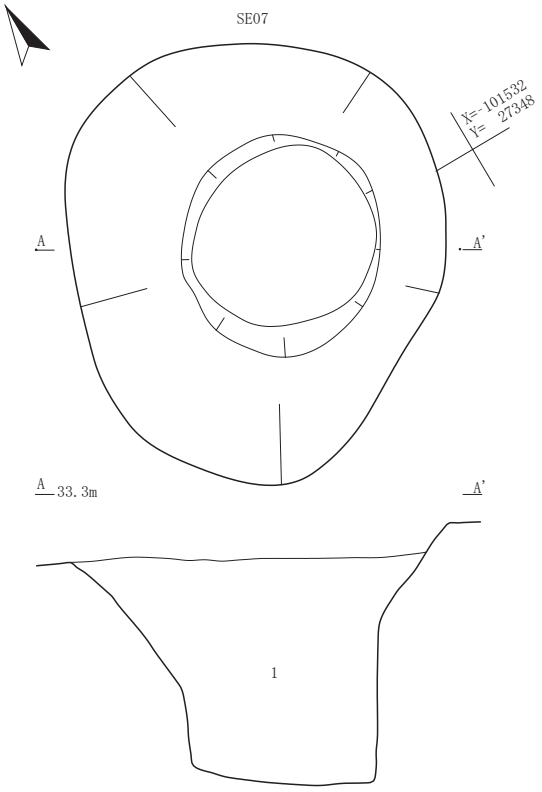
SE11井戸跡(A-A')
1 10YR3/4暗褐色粘土質　粘中・しまり中
　黄褐色粘土20%混入
2 10YR5/8黄褐色粘土質　粘中・しまり中

0　1:40　1m

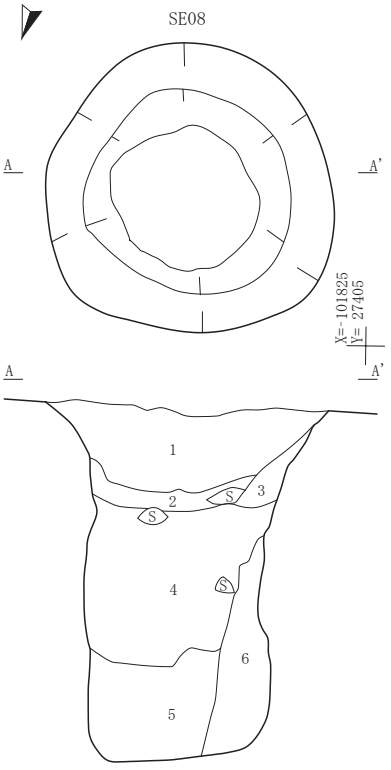
第150図　SE02・11井戸跡



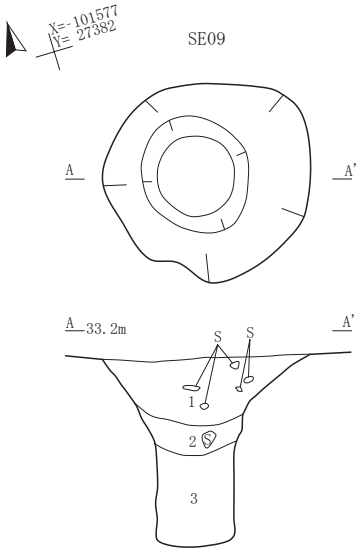
SE06(A-A´)
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
2 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土　粘弱・しまり疎(※To-a？層)
3 10YR4/6褐色粘土　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土20%混入
4 10YR3/3暗褐色粘土　粘やや強・しまり中　黄褐色粘土20%混入
5 10YR2/2オリーブ黒色泥質土　粘強・しまりやや疎　レキ7%



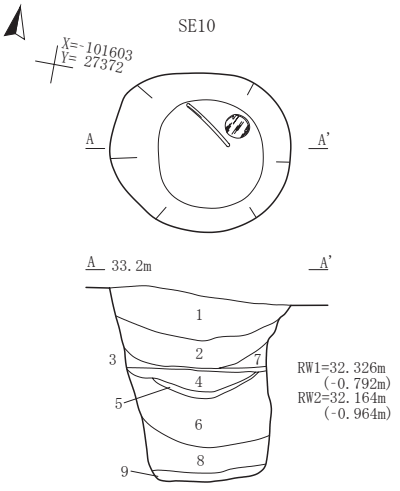
SE07(A-A´)
1 10YR2/1黒色泥質粘土　粘強・しまりやや疎　(※自然堆積か？)



SE08(A-A')
1 10YR4/3にぶい黄褐色砂質粘土　粘やや強・しまり密 礫(3～10cm)30%混入　※人為堆積、踏み固め
2 5YR4/4にぶい赤褐色粘土　粘やや強・しまりやや密 ※酸化鉄の集積層、人為堆積層
3 10YR5/6黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密　礫(5cm前後)30%混入
4 2.5Y4/2暗灰黄色泥質粘土　粘やや強・しまりやや疎 ※漆器など出土、人為堆積
5 7.5YR5/6黄褐色砂質粘土　粘やや強・しまり中　礫(5cm前後)30%混入 ※礫の地山崩壊土か?



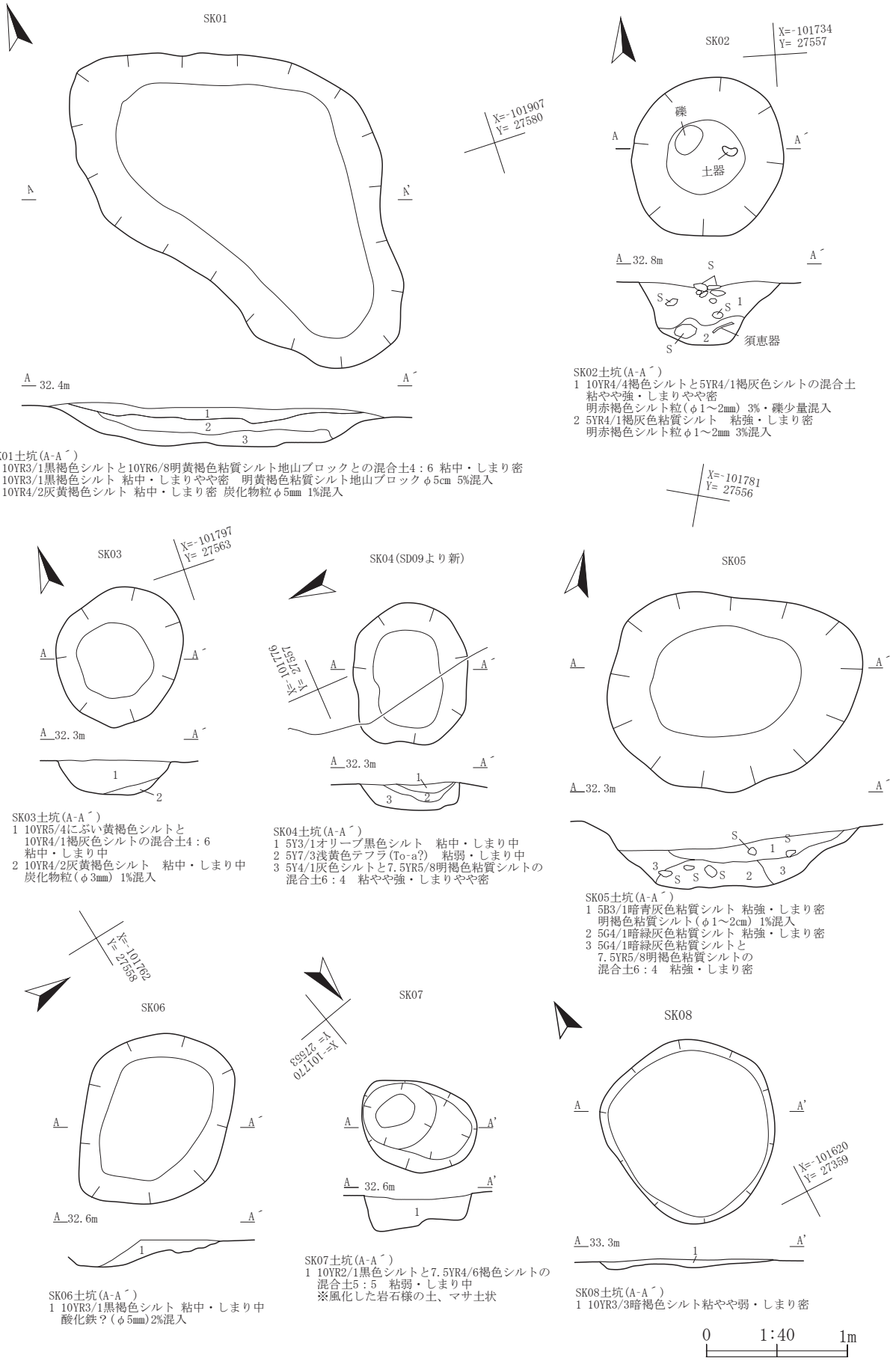
SE09(A-A')
1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト　粘中・しまり強
　φ10mm礫を少量含む。
2 10YR3/1黒褐色粘土　粘やや強・しまり中
　地山ブロックをわずかに含む
3 5Y2/2オリーブ黒色粘土　しまりやや密



SE10(A-A')
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまり密
　φ5mmの焼土・地山ブロックを微量含む
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり密
　地山ブロック5%混入
3 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト
　粘やや強・しまりやや密
　褐鉄鉱とまではいかないが水つきの層
4 10YR3/1黒褐色粘土質シルト　粘強・しまりやや密
5 10YR7/1黒色粘土質シルト　炭化物と植物の層
6 2.5Y3/1黒褐色粘土　粘強・しまりやや密
　植物がやや多く混入
7 10YR2/3暗褐色シルト　粘中・しまり密
　混入物は2層に類似
8 5Y3/1砂質粘土　粘やや強・しまり中　地山崩落土
　植物を少量混入
9 7.5Y4/1砂層　粘なし・しまり中

0　1:40　1m

第151図　SE06～10井戸跡



SK01土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルトと10YR6/8明黄褐色粘質シルト地山ブロックとの混合土4：6 粘中・しまり密
2 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまりやや密 明黄褐色粘質シルト地山ブロックφ5cm 5%混入
3 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘中・しまり密 炭化物粒φ5mm 1%混入

SK02土坑(A-A´)
1 10YR4/4褐色シルトと5YR4/1褐灰色シルトの混合土
粘やや強・しまりやや密
明赤褐色シルト粒(φ1～2mm) 3%・礫少量混入
2 5YR4/1褐灰色粘質シルト 粘強・しまり密
明赤褐色シルト粒φ1～2mm 3%混入

SK03土坑(A-A´)
1 10YR5/4にぶい黄褐色シルトと
10YR4/1褐灰色シルトの混合土4：6
粘中・しまり中
2 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘中・しまり中
炭化物粒(φ3mm) 1%混入

SK04土坑(A-A´)
1 5Y3/1オリーブ黒色シルト 粘中・しまり中
2 5Y7/3浅黄色テフラ(To-a?) 粘弱・しまり中
3 5Y4/1灰色シルトと7.5YR5/8明褐色粘質シルトの
混合土6：4 粘やや強・しまりやや密

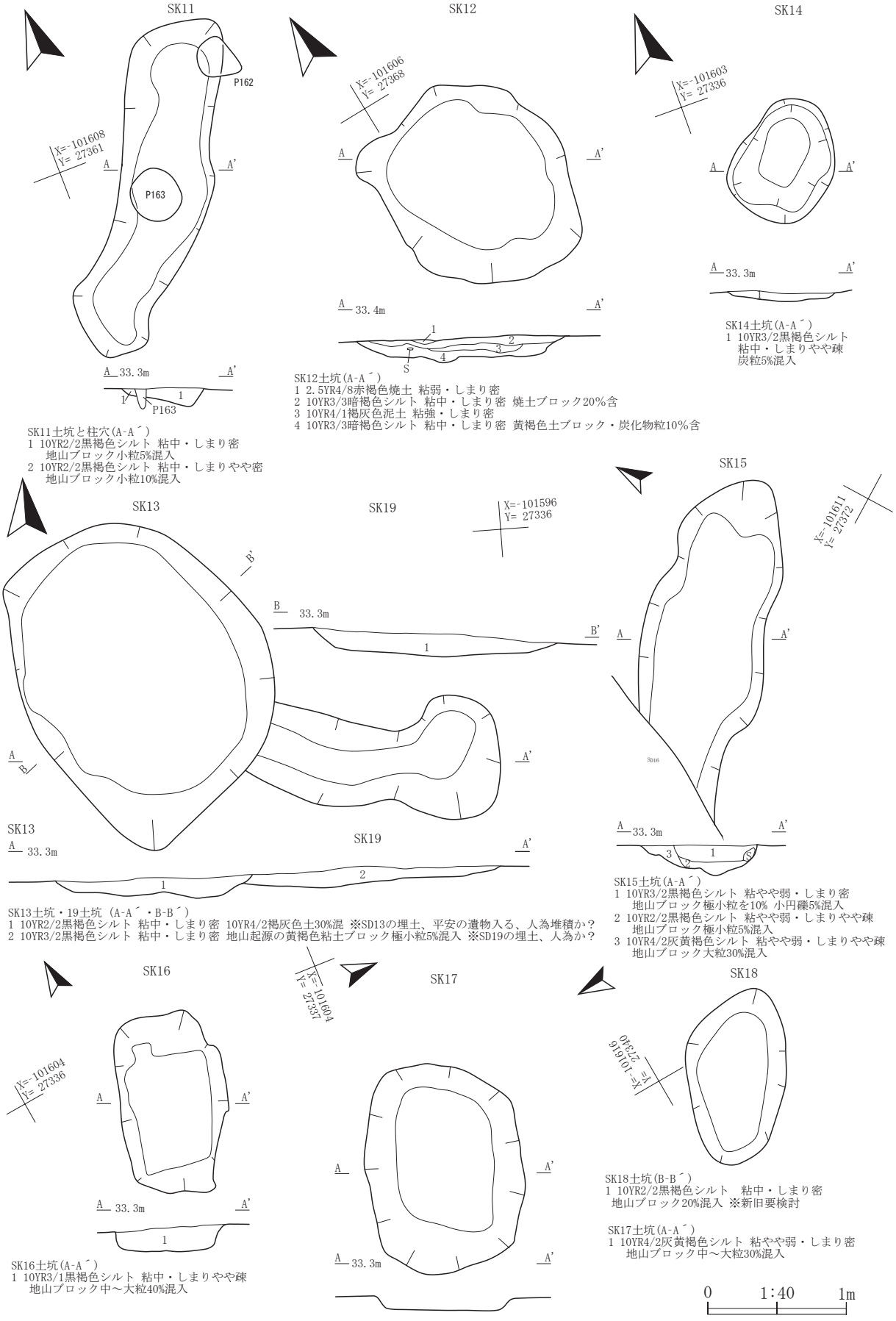
SK05土坑(A-A´)
1 5B3/1暗青灰色粘質シルト 粘強・しまり密
明褐色粘質シルト(φ1～2cm) 1%混入
2 5G4/1暗緑灰色粘質シルト 粘強・しまり密
3 5G4/1暗緑灰色粘質シルトと
7.5YR5/8明褐色粘質シルトの
混合土6：4 粘強・しまり密

SK06土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまり中
酸化鉄？(φ5mm)2%混入

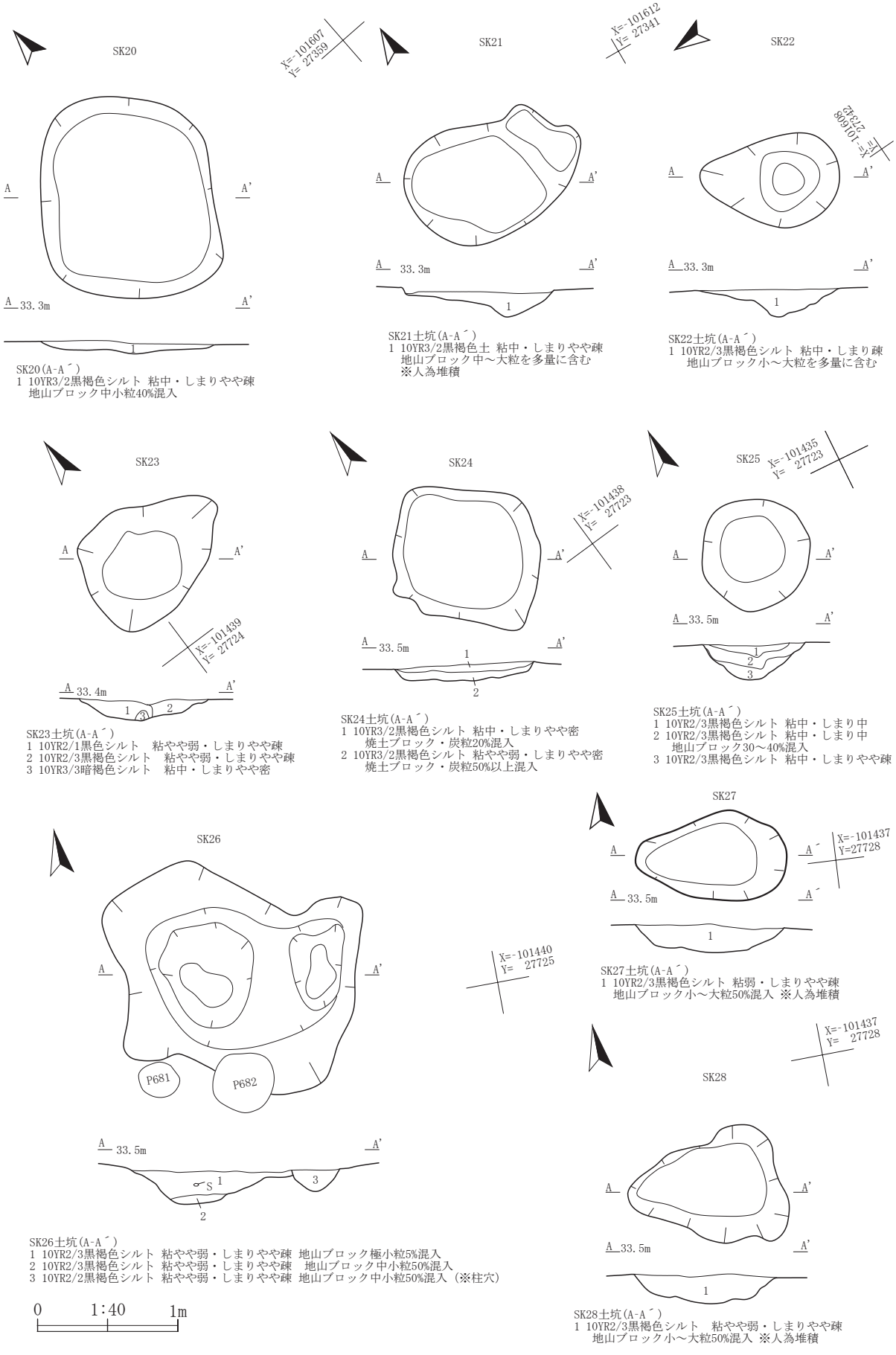
SK07土坑(A-A´)
1 10YR2/1黒色シルトと7.5YR4/6褐色シルトの
混合土5：5 粘弱・しまり中
※風化した岩石様の土、マサ土状

SK08土坑(A-A´)
1 10YR3/3暗褐色シルト粘やや弱・しまり密

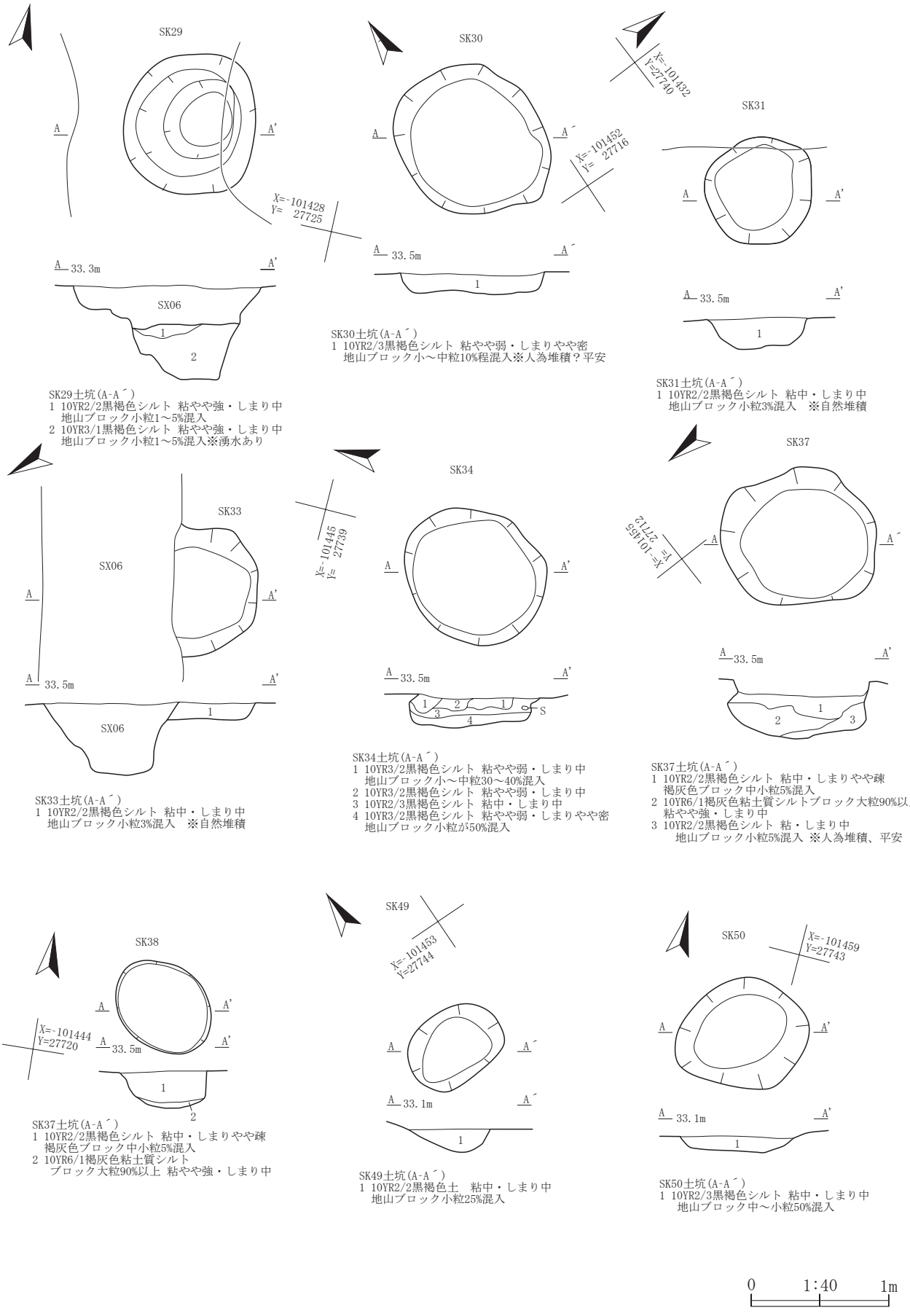
第152図 SK01～08土坑



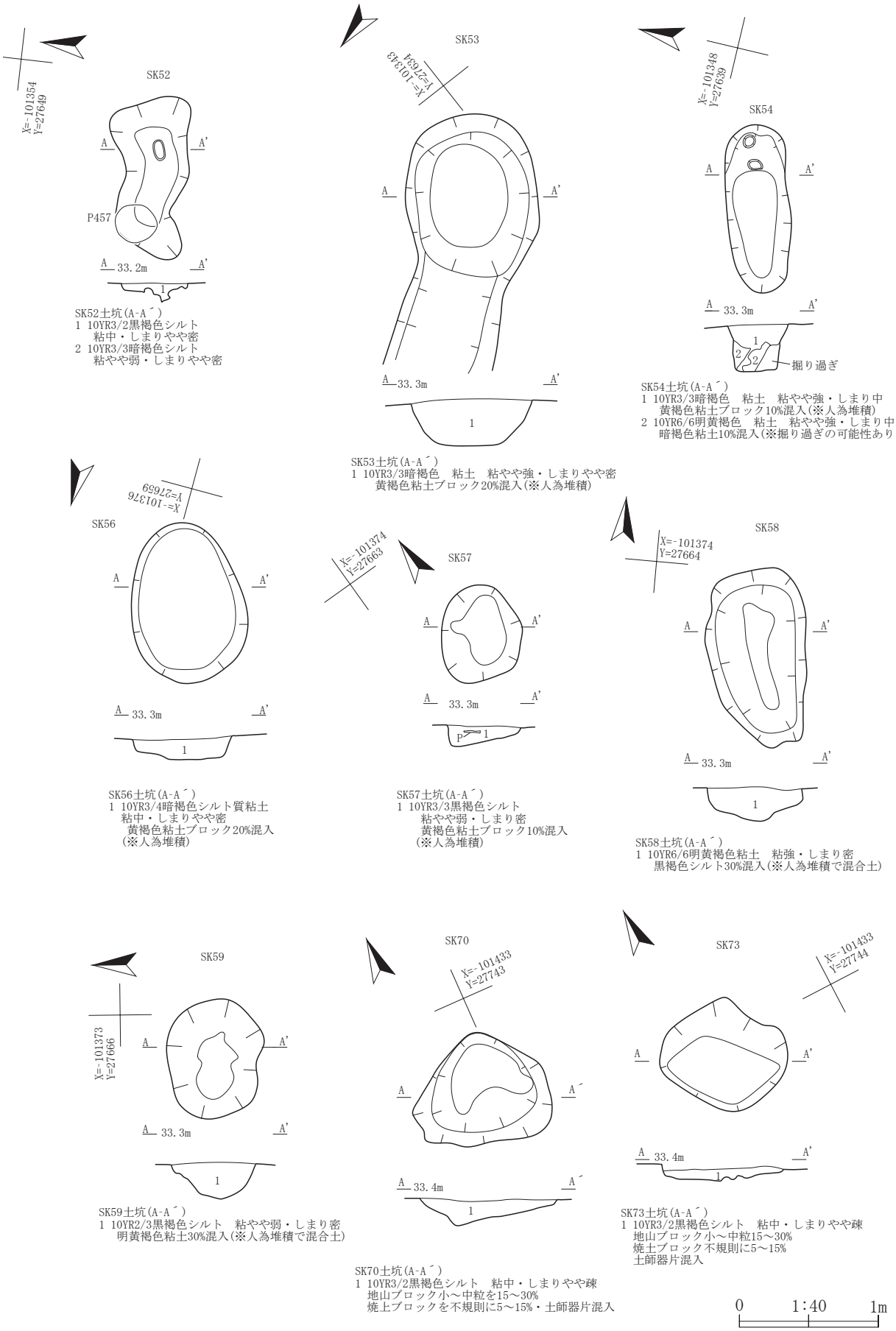
第153図　SK11～19土坑



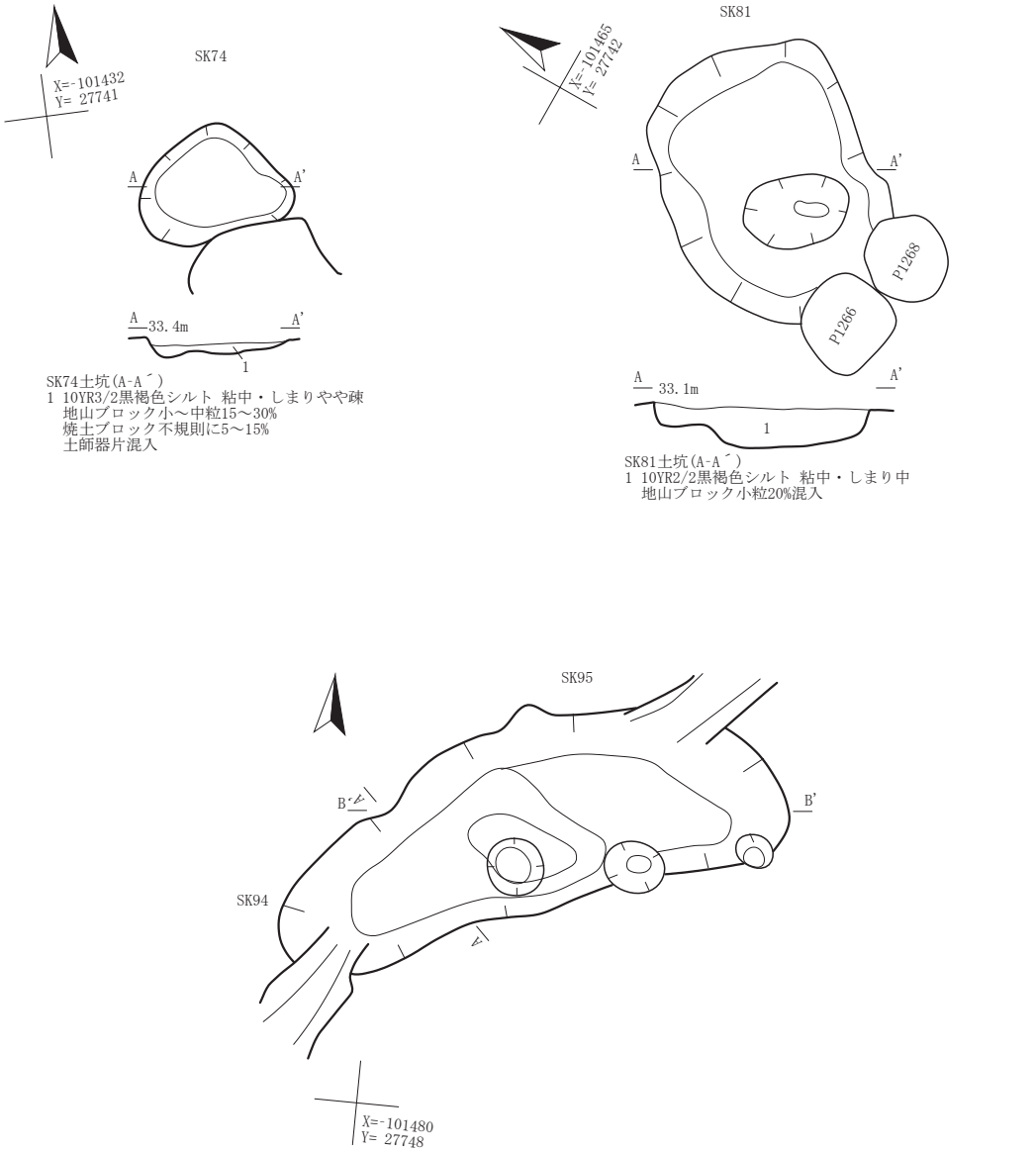
第154図　SK20～28土坑



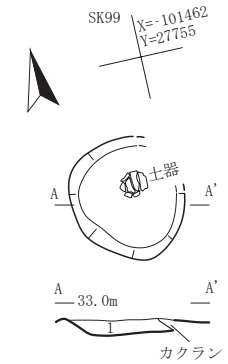
第155図 SK29～31・33・34・37・38・49・50土坑



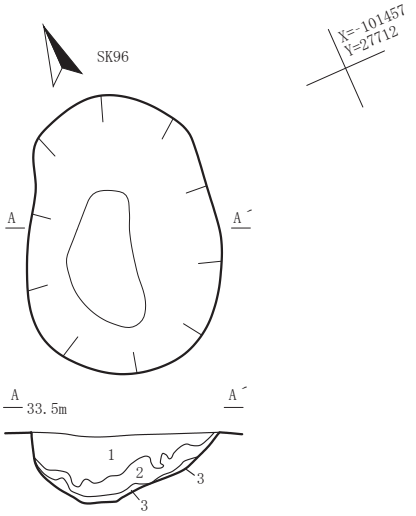
第156図 SK52～54・56～59・70・73土坑



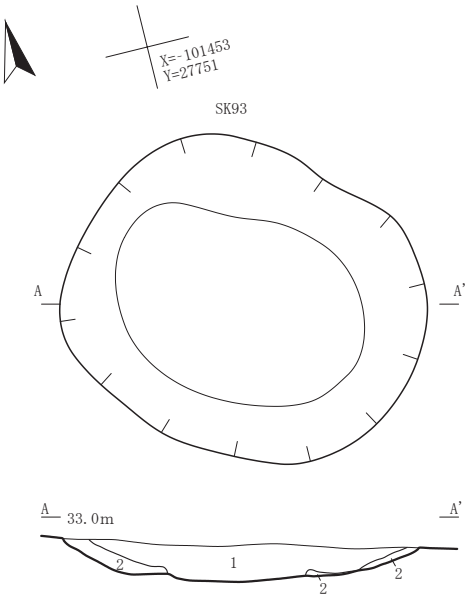
第157図　SK74・81・94・95土坑



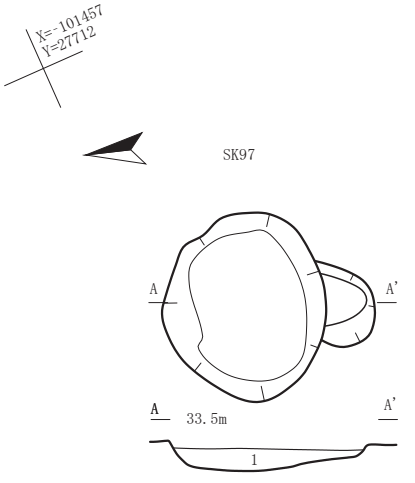
SK99土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト 粘弱・しまり疎
明黄褐色粘土ブロック(～5mm)10%
炭化物粒3%混入 ※人為堆積



SK96土坑(A-A´)
1 10YR2/1黒色シルト 粘中・しまり中
炭化物粒1%混入
2 10YR4/1褐灰色シルト 粘中・しまり中
明黄褐色粘土ブロック(～2cm)7%混入
3 2と同じで明黄褐色粘土ブロック(～2cm)20%混入



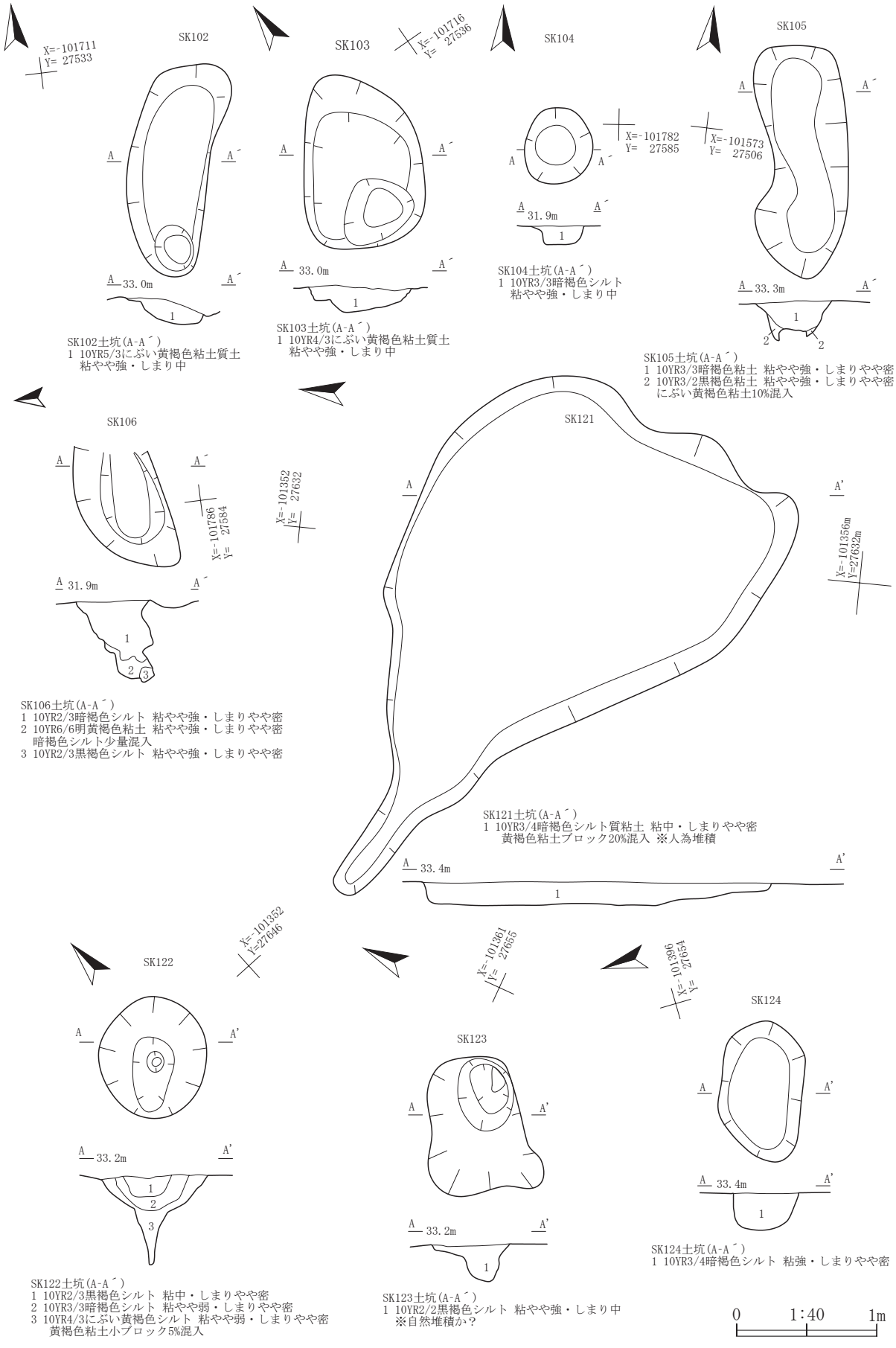
SK93土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト 粘中・しまり中
明黄褐色粘土ブロック(～5mm)5%混入
2 1と同じ 明黄褐色粘土ブロック(～1cm)20%混入
人為堆積



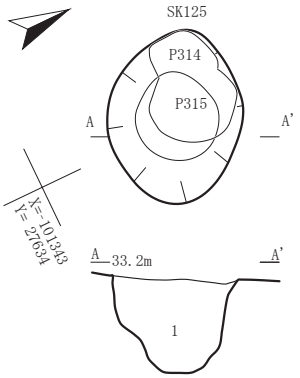
SK97土坑(A-A´)
1 10YR2/1黒色シルト 粘中・しまり中
黄褐色粘土ブロック(～1cm)10% 焼土
炭化物粒3%混入

0 1:40 1m

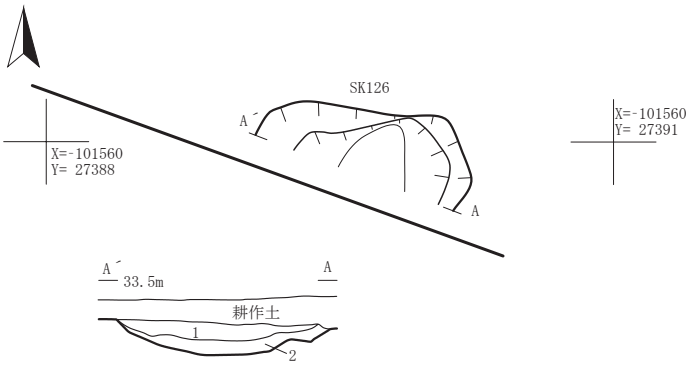
第158図 SK93・96・97・99土坑



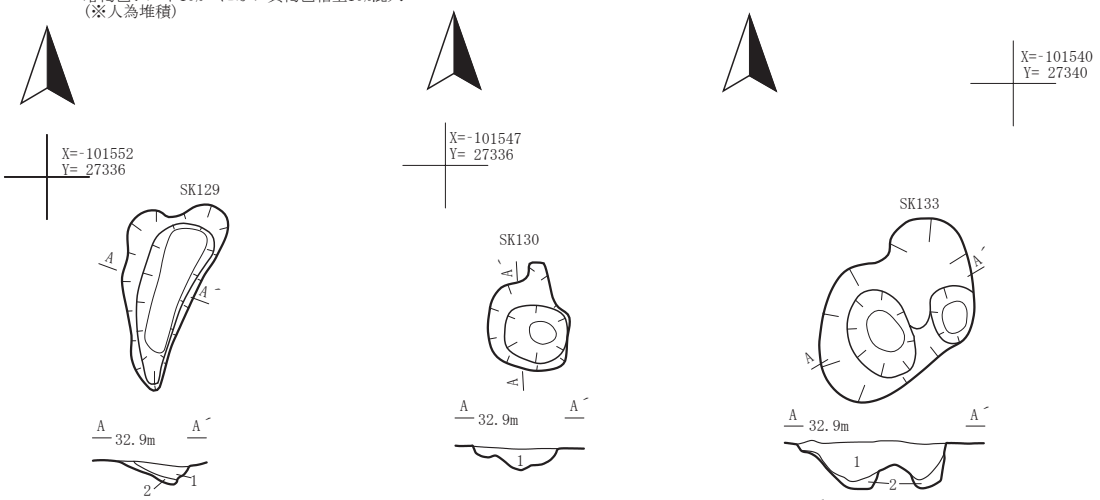
第159図　SK102～106・121～124土坑



SK125土坑(A-A´)
1 10YR5/6黄褐色粘土　粘やや強・しまりやや密
暗褐色シルト10%・にぶい黄褐色粘土10%混入
(※人為堆積)



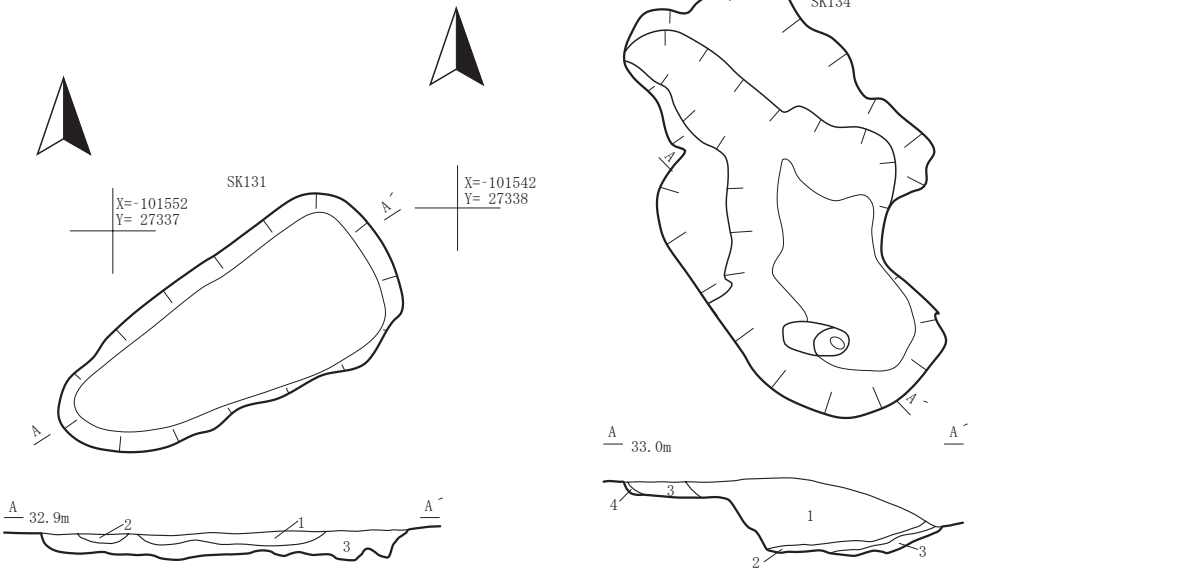
SK126土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト質粘土　粘強・しまり密
炭化物φ1～2mm1%未満・土器片少量・火山灰1%未満混入
2 10YR3/1黒褐色シルト質粘土　粘強・しまり密　礫2%・Ⅱ層塊・1%未満混入



SK129土坑(A-A´)
1　10YR2/1黒色　粘強・しまり密
青灰粘土ブロック(φ1～2mm)10%混入
2　10YR2/1黒色　粘強・しまり密
青灰粘土ブロック(φ1～2mm)50%混入

SK130土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト質粘土　粘強・しまり密
青灰色塊(φ1～5mm)2%・斑状同上色5%
黒色粒(φ1～3mm)3%混入(※自然堆積)

SK133土坑(A-A´)
1 10YR3/1黒褐色シルト質粘土　粘強・しまり密
青灰色塊(φ1～3mm)1%・黄褐色塊(φ1～3mm)1%混入(※自然堆積)
2 10YR3/1黒褐色シルト質粘土　粘強・しまり密
青灰色塊(φ1～40mm)40%・筋状黄褐色3%混入(※自然堆積)



SK131土坑(A-A´)
1 10YR1.7/1黒色シルト質粘土　粘強・しまり密
青灰色塊(φ1～5mm)2%混入(※自然堆積)
2 10YR3/1黒褐色シルト質粘土　粘強・しまり密
褐灰塊(φ1～30mm) 10%・斑状褐灰7%混入(※人為堆積?)
3 10YR2/1黒色　粘強・しまり密
青灰粘土ブロック(φ1～2mm)7%混入(※自然堆積)

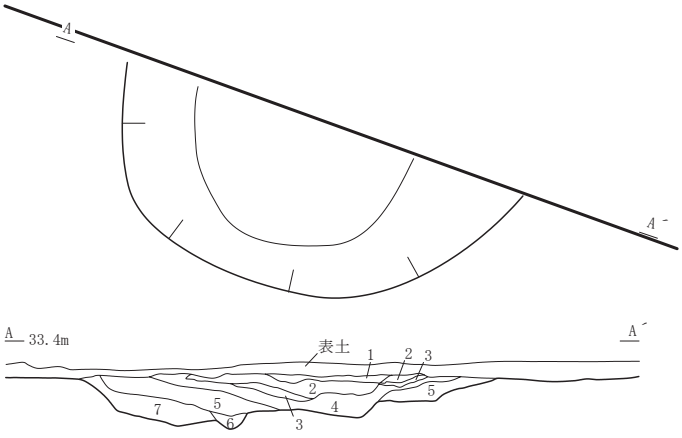
SK134土坑(A-A´)
1 10YR1.7/1黒色シルト質粘土　粘強・しまり密
褐灰塊(φ1～30mm) 7%・斑状褐灰3%混入(※人為堆積?)
2 10YR1.7/1黒色シルト質粘土　粘強・しまり密
青灰塊(φ1～20mm)2%混入(※自然堆積)
3 10YR4/1褐灰色シルト質粘土　粘強・しまり密
斑状褐灰20%混入(※自然堆積)
4 10YR4/1褐灰色シルト質粘土　粘強・しまり密
青灰塊(φ1～30mm)15%混入(※自然堆積)

0　1:40　1m

第160図　SK125・126・129～131・133・134土坑

SK153

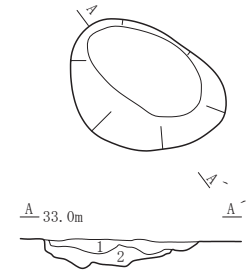
X=-101478
Y= 27292



SK153土坑(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 10YR2/1黒色シルト　粘やや弱・しまりやや密
3 10YR6/3にぶい黄橙色テフラ(砂質)　粘弱・しまり疎(※To-aか)
4 2.5YR4/1黄灰色粘土質泥質土　粘やや強・しまり中
5 2.5YR3/1黒褐色粘土質土　粘やや弱・しまりやや密
6 2.5Y3/1黒褐色粘土質土　粘やや強・しまり中
7 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質土　粘やや強・しまりやや密

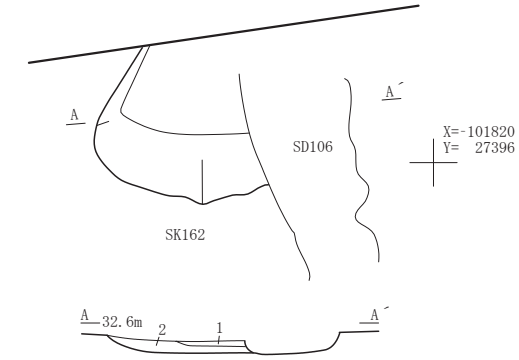
SK160

X=-101505
Y= 27351



SK160土坑(A-A´)
1 10YR4/1褐灰色シルト　粘強・しまり密
　炭化物少量散在
2 10YR5/1褐灰色シルト　粘強・しまり密
　青灰色泥質粘土ブロック中量混入

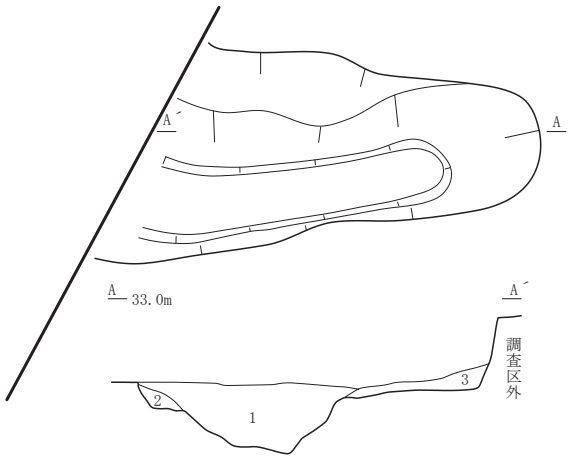
SK162



SK162土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり密
2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土　粘やや弱・しまり密

SK161

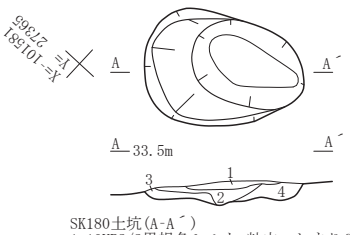
X=-101520
Y= 27344



SK161土坑(A-A´)
1 10YR4/1褐灰色シルト　粘強・しまり密
　炭化物少量散在
2 10YR5/1褐灰色シルト　粘強・しまり密
　青灰色泥質粘土ブロック中量混入
3 10YR4/1褐灰色シルト　粘強・しまり密

SK180

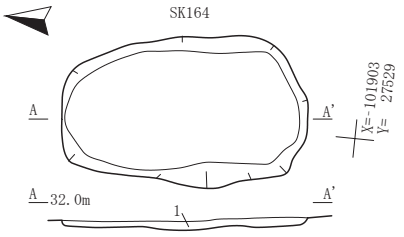
X=-101581
Y=27365



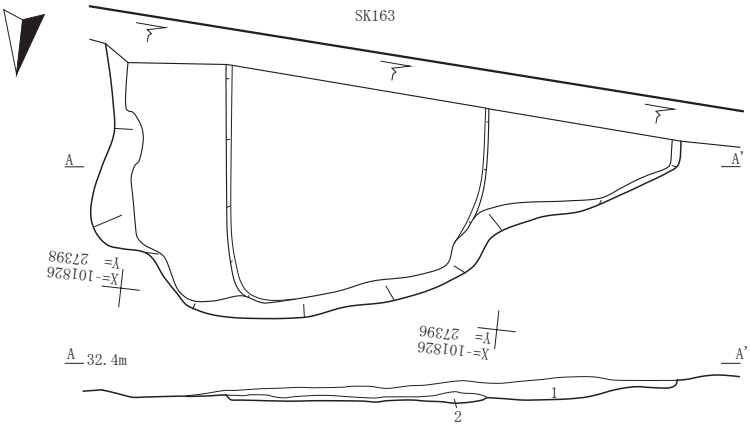
SK180土坑(A-A´)
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
　炭化粒・焼土15%混入、人為堆積層
2 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや強・しまりやや密
　焼土・炭化粒を微量混入
3 10YR3/4暗褐色シルト 粘やや強・しまりやや密
　地山ブロックの量が増す
4 3層に類似。地山ブロックの量が増す、炭化粒・焼土微量混入

0　1:40　1m

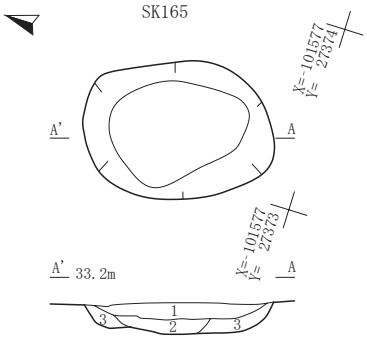
第161図　SK153・160～162・180土坑



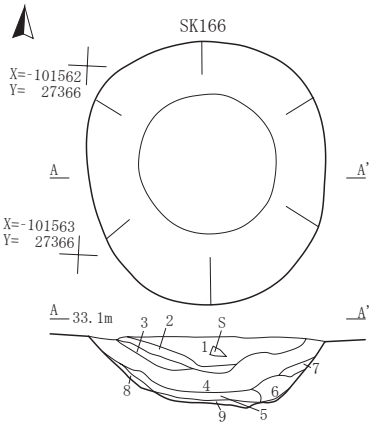
SK164土坑(A-A')
1 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト 粘中・しまりやや密
炭化粒φ5mmを微量含む



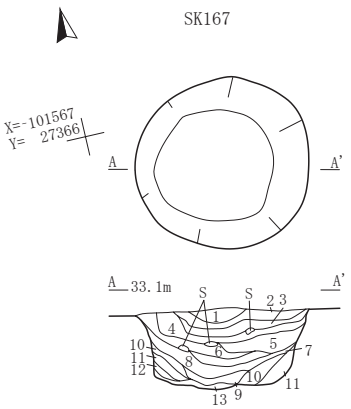
SK163土坑(A-A')
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘弱・しまり密 地山青灰ブロックφ1～30mm5%
炭化物φ1～5mm 10YR5/8黄褐色φ1～5mmブロック5%
十和田a?粒1%φ1～3mm
2 10YR4/1褐灰シルト質粘土 粘やや強・しまり密 地山青灰ブロックφ1～5mm2%
10YR5/8黄褐色φ1～15mm 炭化物φ1～3mm2%



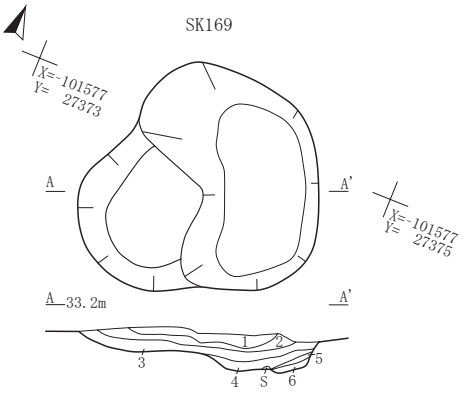
SK165土坑(A-A')
1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト 粘やや強・しまり密
地山ブロックを少量含む
2 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
3 10YR3/3暗褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
地山ブロックを少量含む



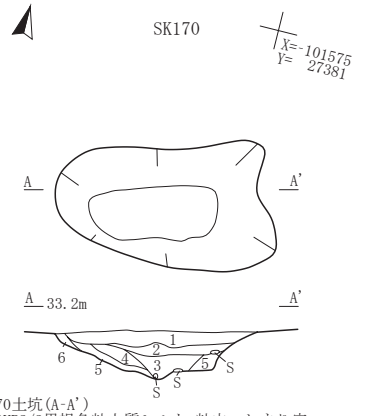
SK166土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや弱・しまりやや密 φ5mmの焼土を微量含む
2 10YR3/2黒褐色シルト 粘やや弱・しまり密
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘中・しまり密 φ3～5mmの焼土を40%含む
4 10YR3/1黒褐色シルト 粘やや弱・しまり密 φ5mmの焼土を少量含む
5 4層と類似。粘やや強・しまりやや密
6 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト 粘やや強・しまり密 地山崩落土
7 10YR3/2黒褐色シルト 粘やや弱・しまり密 地山崩落土を微量含む
8 6層と同じ。地山崩落土
9 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 粘弱・しまり密



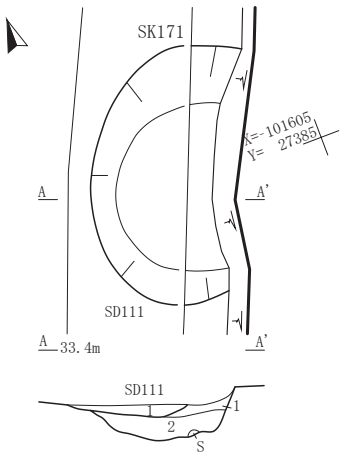
SK167
1 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト 粘中・しまりやや密 地山ブロックを少量含む
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト 粘中・しまり密 φ5mmの炭化粒を微量含む
3 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘やや強・しまりやや密 地山ブロックを少量含む
4 2層と類似するが、粘・しまり共に中
5 10YR4/1褐灰色粘土質シルト 粘強・しまり密 地山ブロックをやや多く含む
6 10YR3/1黒褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
7 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 粘強・しまり密 地山崩落土に6層が僅かに混入
8 6層に類似。粘土。 粘強・しまり密
9 10YR3/2粘土 粘強・しまりやや密 地山ブロックをやや多く含む。
10 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 地山崩落土主体に、9層も少量含む
11 10YR4/6褐色粘土 粘強・しまり密 地山崩落土
12 10YR4/2灰黄褐色粘土 粘強・しまりやや密 地山ブロックをやや多く含む
13 10YR3/3黒褐色砂質粘土 粘中・しまり強 8.10層と似て粘土質だが、砂質が強い



SK169土坑(A-A')
1 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト 粘やや強・しまり密
φ3～5mmの焼土と炭化粒を微量含む
2 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
地山ブロック50%含む
3 10YR3/3暗褐色粘土質シルト 粘やや強・しまり密
地山ブロックを少量、φ5mmの炭化粒を微量含む
4 10YR4/4褐色粘土 粘強・しまり密 埋戻し土
5 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
6 10YR4/4褐色粘土 粘強・しまり密 地山崩落土



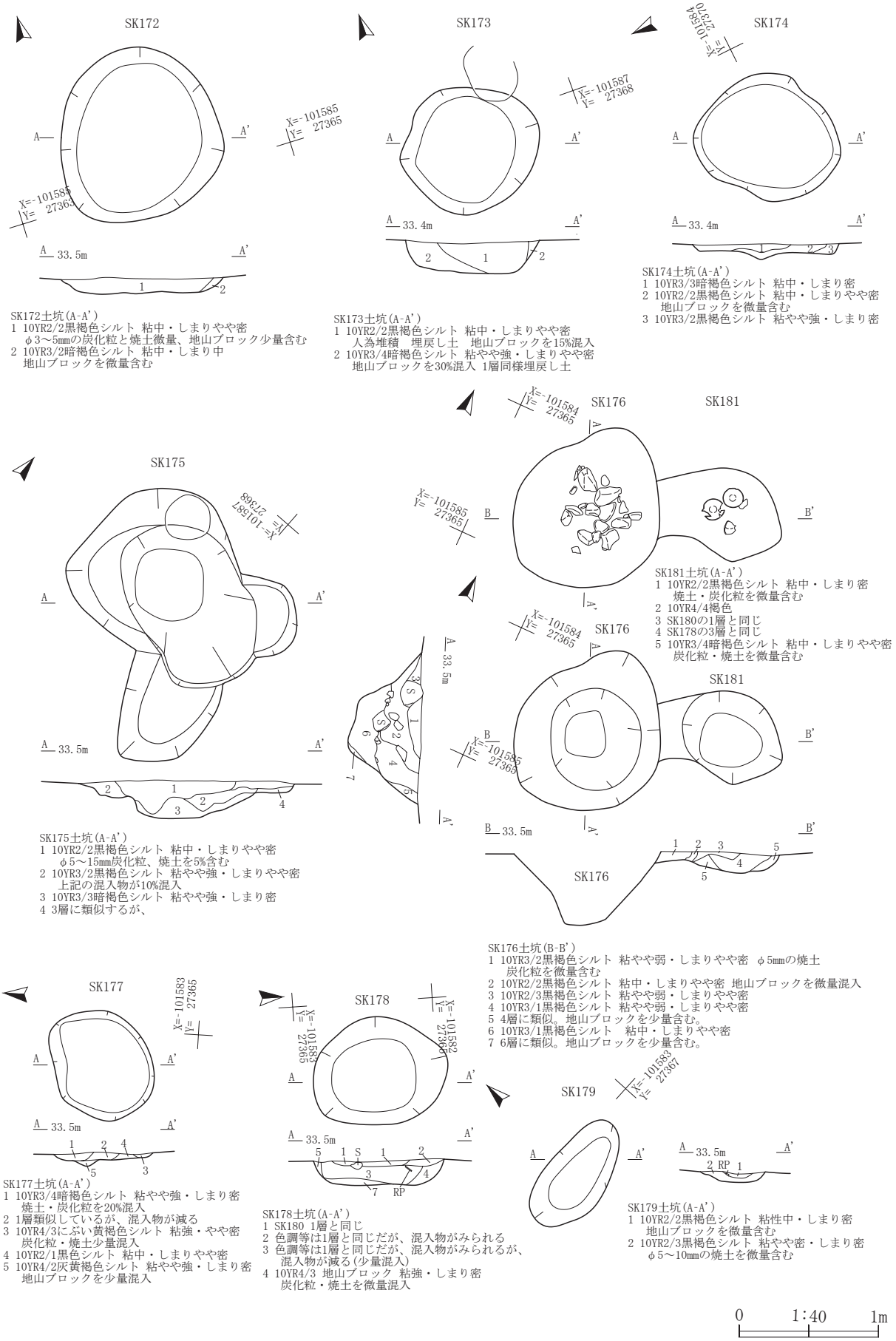
SK170土坑(A-A')
1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト 粘中・しまり密
φ1～5mmの焼土を微量含む
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
3 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘やや強・しまりやや密
φ3～5mm焼土も微量含む
4 10YR3/3暗褐色粘土質シルト 粘強・しまり密
φ3～5mm焼土も微量含む
5 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト 粘強・しまりやや密
地山ブロックを少量含
6 10YR4/4褐色粘土 粘強・しまり密 地山崩落土



SK171土坑(A-A')
1,1' 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘中・しまり密
地山塊φ1～3mm2%、φ1～5mm炭化物2%
2 SX24 2層と同色シルト 粘中・しまり密
地山塊φ1～10mm2%,
1層土斑状5%,礫φ5～10mm3%

0 1:40 1m

第162図 SK163～167・169～171土坑



SK172土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
φ3～5mmの炭化粒と焼土微量、地山ブロック少量含む
2 10YR3/2暗褐色シルト 粘中・しまり中
地山ブロックを微量含む

SK173土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
人為堆積　埋戻し土　地山ブロックを15%混入
2 10YR3/4暗褐色シルト 粘やや強・しまりやや密
地山ブロックを30%混入 1層同様埋戻し土

SK174土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘中・しまり密
2 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
地山ブロックを微量含む
3 10YR3/2黒褐色シルト 粘やや強・しまり密

SK175土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
φ5～15mm炭化粒、焼土を5%含む
2 10YR3/2黒褐色シルト 粘やや強・しまりやや密
上記の混入物が10%混入
3 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや強・しまり密
4 3層に類似するが、

SK176土坑(B-B')
1 10YR3/2黒褐色シルト 粘やや弱・しまりやや密 φ5mmの焼土
炭化粒を微量含む
2 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまりやや密 地山ブロックを微量混入
3 10YR2/3黒褐色シルト 粘やや弱・しまりやや密
4 10YR3/1黒褐色シルト 粘やや弱・しまりやや密
5 4層に類似。地山ブロックを少量含む。
6 10YR3/1黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
7 6層に類似。地山ブロックを少量含む。

SK181土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり密
焼土・炭化粒を微量含む
2 10YR4/4褐色
3 SK180の1層と同じ
4 SK178の3層と同じ
5 10YR3/4暗褐色シルト 粘中・しまりやや密
炭化粒・焼土を微量含む

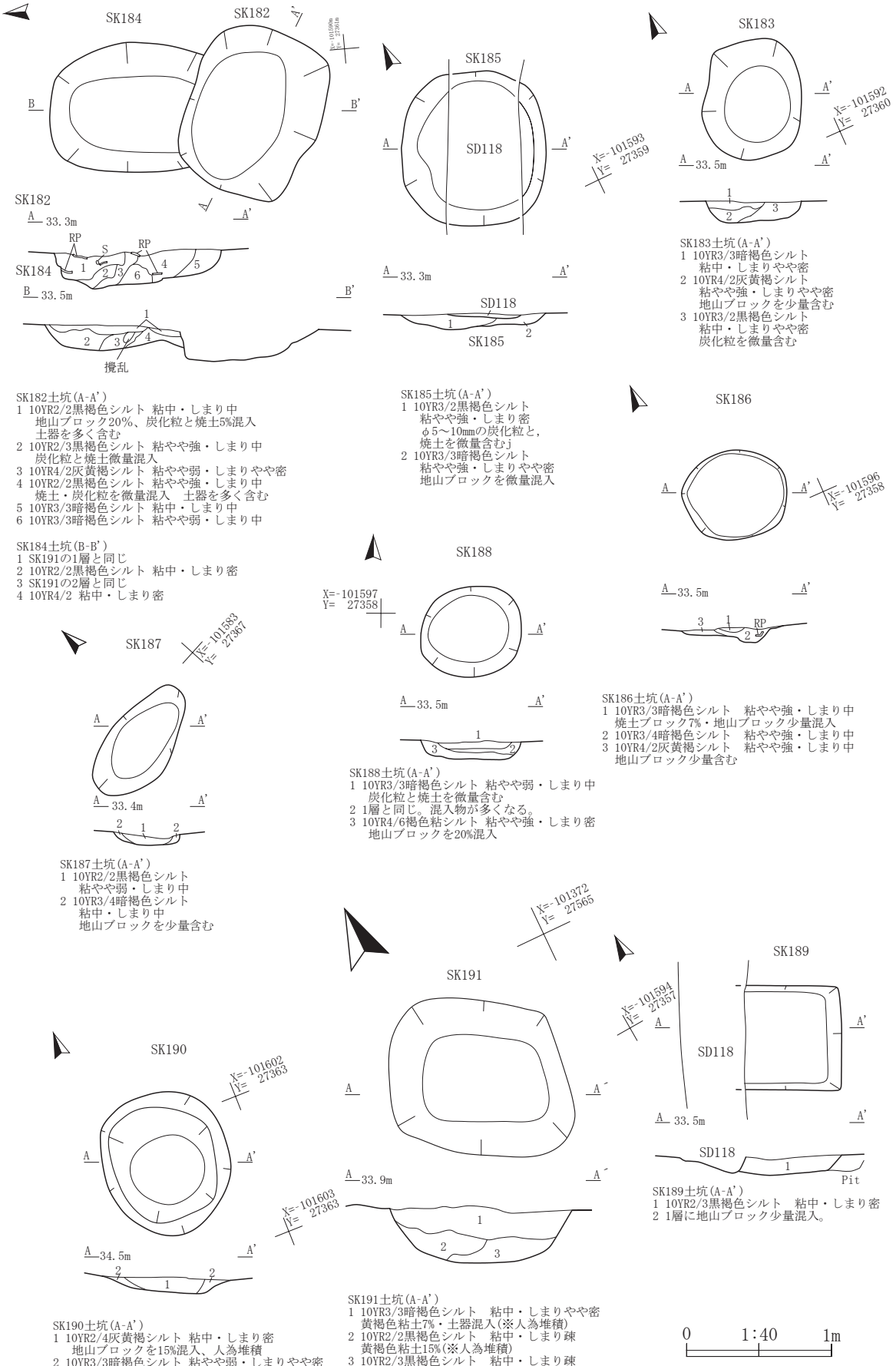
SK177土坑(A-A')
1 10YR3/4暗褐色シルト 粘やや強・しまり密
焼土・炭化粒を20%混入
2 1層類似しているが、混入物が減る
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘強・やや密
炭化粒・焼土少量混入
4 10YR2/1黒色シルト 粘中・しまりやや密
5 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘やや強・しまり密
地山ブロックを少量混入

SK178土坑(A-A')
1 SK180 1層と同じ
2 色調等は1層と同じだが、混入物がみられる
3 色調等は1層と同じだが、混入物がみられるが、
混入物が減る(少量混入)
4 10YR4/3 地山ブロック 粘強・しまり密
炭化粒・焼土を微量混入

SK179土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中・しまり密
地山ブロックを微量含む
2 10YR2/3黒褐色シルト 粘やや密・しまり密
φ5～10mmの焼土を微量含む

0　1:40　1m

第163図　SK172～179・181土坑



SK182土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり中
地山ブロック20%、炭化粒と焼土5%混入
土器を多く含む
2 10YR2/3黒褐色シルト 粘やや強・しまり中
炭化粒と焼土微量混入
3 10YR4/2灰黄褐シルト 粘やや弱・しまりやや密
4 10YR2/2黒褐色シルト 粘やや強・しまり中
焼土・炭化粒を微量混入 土器を多く含む
5 10YR3/3暗褐色シルト 粘中・しまり中
6 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや弱・しまり中

SK184土坑(B-B')
1 SK191の1層と同じ
2 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり密
3 SK191の2層と同じ
4 10YR4/2 粘中・しまり密

SK185土坑(A-A')
1 10YR3/2黒褐色シルト
粘やや強・しまり密
φ5～10mmの炭化粒と,
焼土を微量含むj
2 10YR3/3暗褐色シルト
粘やや強・しまりやや密
地山ブロックを微量混入

SK183土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト
粘中・しまりやや密
2 10YR4/2灰黄褐シルト
粘やや強・しまりやや密
地山ブロックを少量含む
3 10YR3/2黒褐色シルト
粘中・しまりやや密
炭化粒を微量含む

SK186土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや強・しまり中
焼土ブロック7%・地山ブロック少量混入
2 10YR3/4暗褐色シルト 粘やや強・しまり中
3 10YR4/2灰黄褐シルト 粘やや強・しまり中
地山ブロック少量含む

SK188土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや弱・しまり中
炭化粒と焼土を微量含む
2 1層と同じ。混入物が多くなる。
3 10YR4/6褐色粘シルト 粘やや強・しまり密
地山ブロックを20%混入

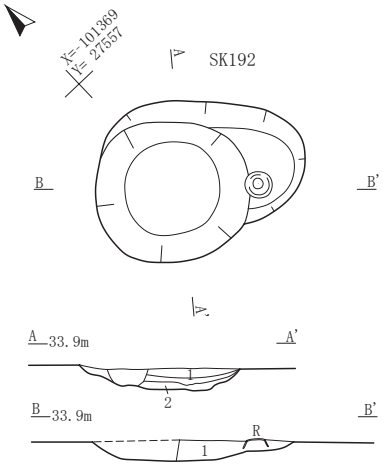
SK187土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト
粘やや弱・しまり中
2 10YR3/4暗褐色シルト
粘中・しまり中
地山ブロックを少量含む

SK189土坑(A-A')
1 10YR2/3黒褐色シルト 粘中・しまり密
2 1層に地山ブロック少量混入。

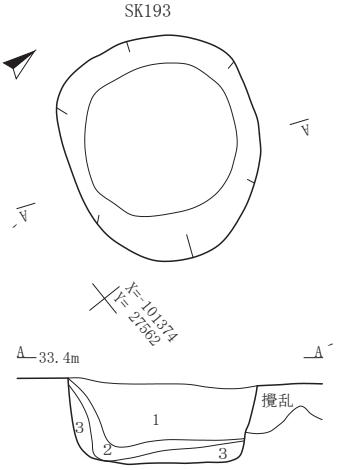
SK190土坑(A-A')
1 10YR2/4灰黄褐シルト 粘中・しまり密
地山ブロックを15%混入、人為堆積
2 10YR3/3暗褐色シルト 粘やや弱・しまりやや密
地山ブロックを5%混入、人為堆積

SK191土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘中・しまりやや密
黄褐色粘土7%・土器混入(※人為堆積)
2 10YR2/2黒褐色シルト 粘中・しまり疎
黄褐色粘土15%(※人為堆積)
3 10YR2/3黒褐色シルト 粘中・しまり疎
黄褐色粘土10%(※人為堆積)

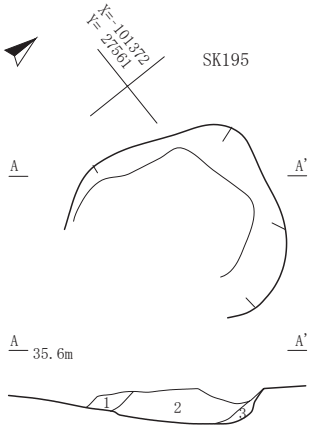
第164図 SK182～191土坑



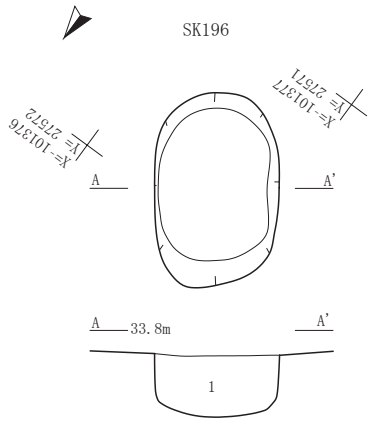
SK192土坑(A-A')
1 10YR3/2 粘やや弱・しまりやや密　地山ブロック15%混入、人為堆積
2 10YR2/2 粘中・しまりやや密　地山ブロック微量含む



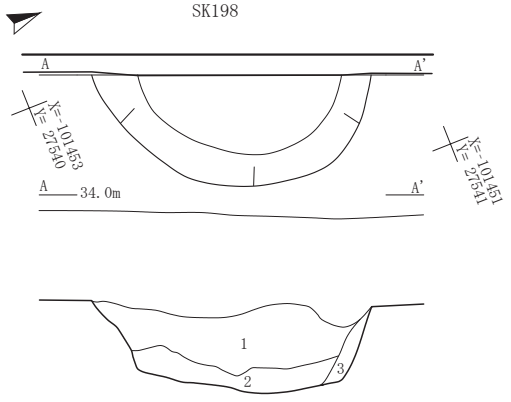
SK193土坑(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
　地山ブロック・焼土微量含む
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘やや強・しまりやや密
　地山ブロック15%・焼土5%混入
3 10YR3/1黒褐色シルト　粘やや強・しまりやや密
　地山ブロック3%混入



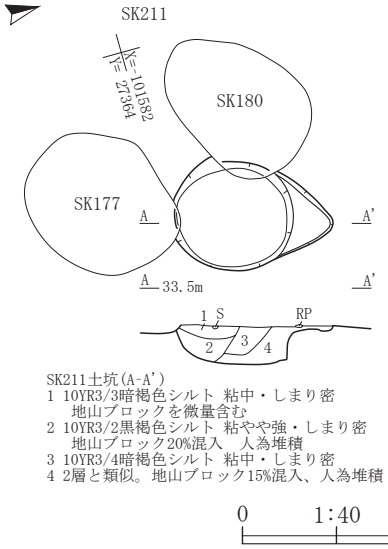
SK195土坑(A-A')
1 10YR5/8黄褐色砂質シルト　粘やや弱・しまり中
2 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密
　黄褐色粘土ブロック3%混入
3 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密
　黄褐色粘土ブロック10%混入



SK196土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
　黄褐色粘土ブロック5%混入



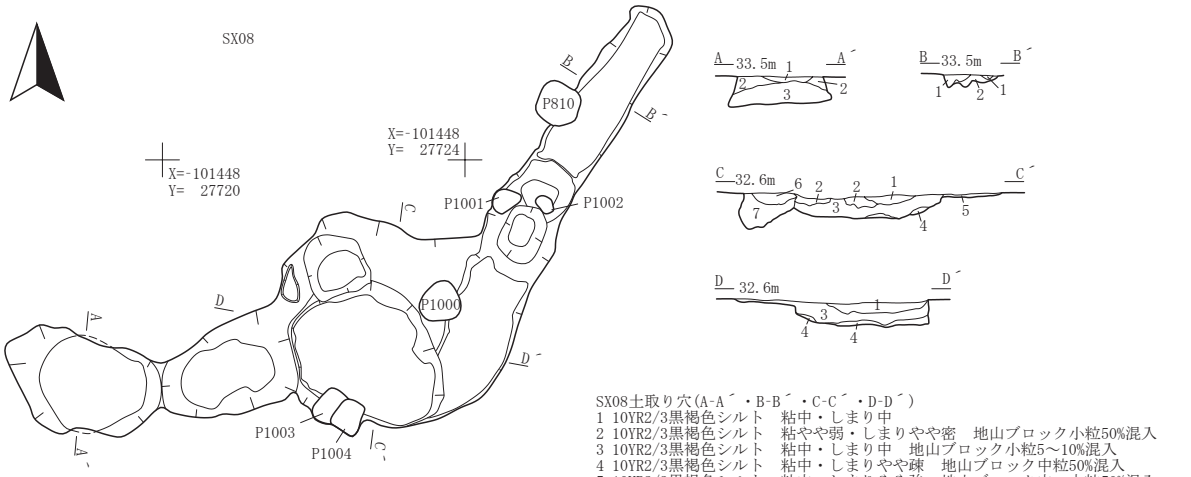
SK198土坑(A-A')
1 10YR2/3黒褐色シルト　粘やや強・しまり中　黄褐色粘土3%混入
2 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや強・しまりやや疎　黄褐色粘土10%混入
※人為堆積層



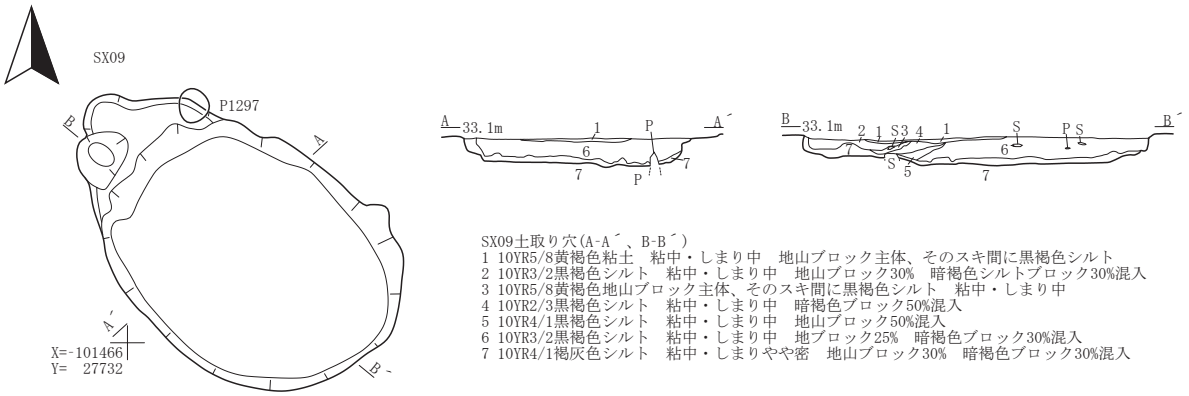
SK211土坑(A-A')
1 10YR3/3暗褐色シルト 粘中・しまり密
　地山ブロックを微量含む
2 10YR3/2黒褐色シルト 粘やや強・しまり密
　地山ブロック20%混入　人為堆積
3 10YR3/4暗褐色シルト 粘中・しまり密
4 2層と類似。地山ブロック15%混入、人為堆積

0　1:40　1m

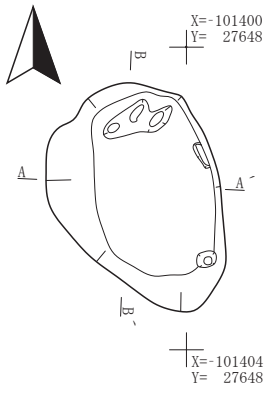
第165図　SK192・193・195・196・198・211土坑



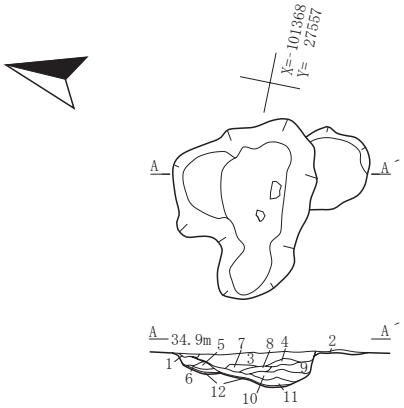
SX08土取り穴(A-A´・B-B´・C-C´・D-D´)
1 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密　地山ブロック小粒50%混入
3 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック小粒5～10%混入
4 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや疎　地山ブロック中粒50%混入
5 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや強　地山ブロック中～大粒50%混入
6 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中
7 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまりやや疎　地山ブロック大粒30%混入



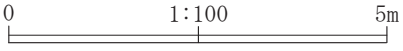
SX09土取り穴(A-A´、B-B´)
1 10YR5/8黄褐色粘土　粘中・しまり中　地山ブロック主体、そのスキ間に黒褐色シルト
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック30%　暗褐色シルトブロック30%混入
3 10YR5/8黄褐色地山ブロック主体、そのスキ間に黒褐色シルト　粘中・しまり中
4 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中　暗褐色ブロック50%混入
5 10YR4/1黒褐色シルト　粘中・しまり中　地山ブロック50%混入
6 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまり中　地ブロック25%　暗褐色ブロック30%混入
7 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや密　地山ブロック30%　暗褐色ブロック30%混入



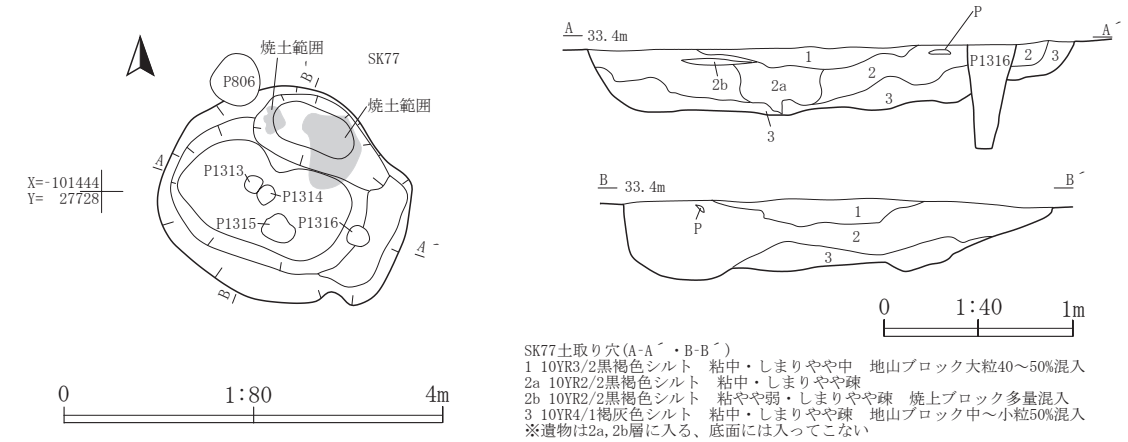
SX11不明遺構(A-A´・B-B´)
1 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　粘やや強・しまり中
黄褐色粘土ブロック3～5%混入
2 10YR5/6黄褐色粘土質土　粘やや強・しまりやや密



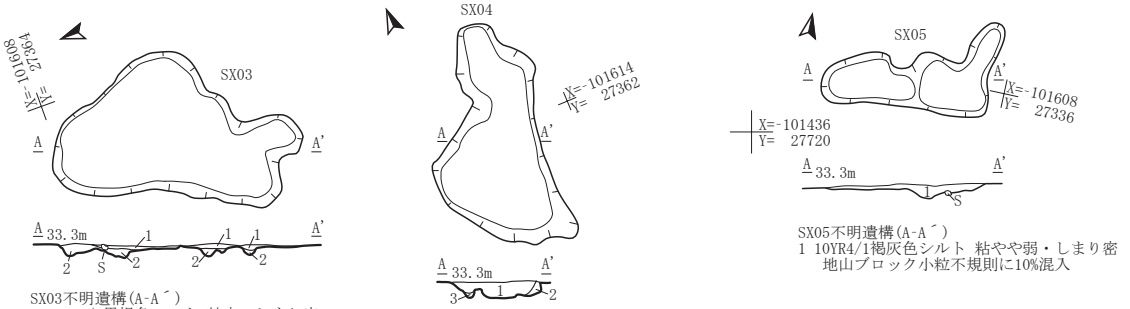
SX28土取り穴(A-A')
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘弱・しまり中　黄褐色粘土ブロック7%混入
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘弱・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック2%混入、
極小の赤褐色土粒をまばらに含む
3 10YR2/3黒褐色シルト　粘中・しまり中　黒色土、
黄褐色粘土ブロック1%混入
4 10YR2/3黒褐色シルト　粘弱・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック1%混入
5 10YR4/4褐色シルト　粘中・しまりやや密　黒色土ブロック2%混入
6 10YR2/3黒褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック2%混入
7 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘中・しまり密　黄褐色粘土2%混入
8 10YR2/3黒褐色粘土質シルト　粘中・しまり密　黄褐色粘土ブロック1%混入
9 10YR3/2黒褐色粘土質シルト　粘中・しまり密　黄褐色粘土ブロック3%混入
10 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック5%混入
11 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック2%混入
12 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　粘中・しまり密
黄褐色粘土ブロック2%混入・土器出土



第166図　SX08・09・11・28土取り穴



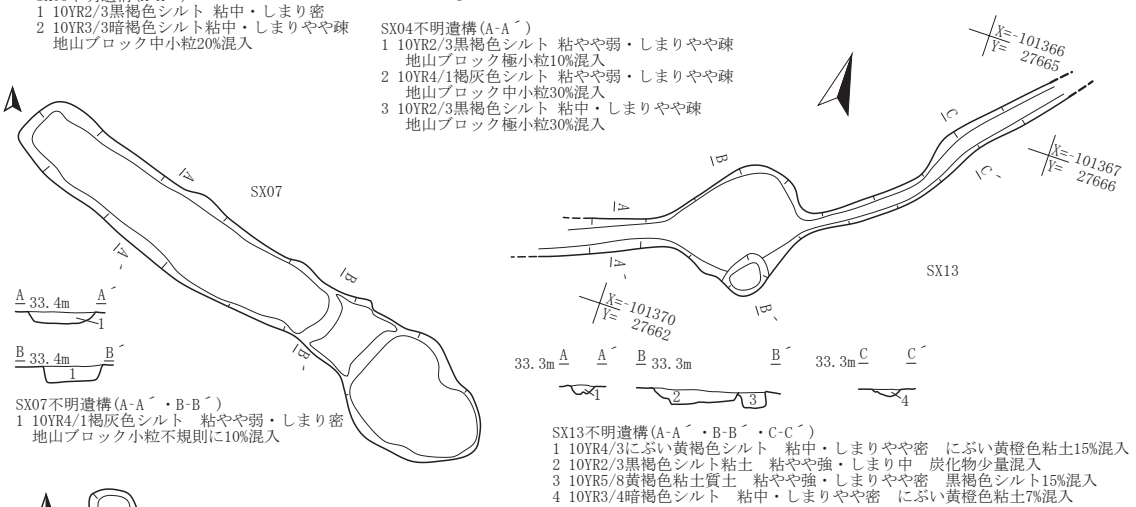
SK77土取り穴(A-A´・B-B´)
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや中　地山ブロック大粒40～50%混入
2a 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや疎
2b 10YR2/2黒褐色シルト　粘やや弱・しまりやや疎　焼土ブロック多量混入
3 10YR4/1褐灰色シルト　粘中・しまりやや疎　地山ブロック中～小粒50%混入
※遺物は2a,2b層に入る、底面には入ってこない



SX03不明遺構(A-A´)
1 10YR2/3黒褐色シルト 粘中・しまり密
2 10YR3/3暗褐色シルト粘中・しまりやや疎
地山ブロック中小粒20%混入

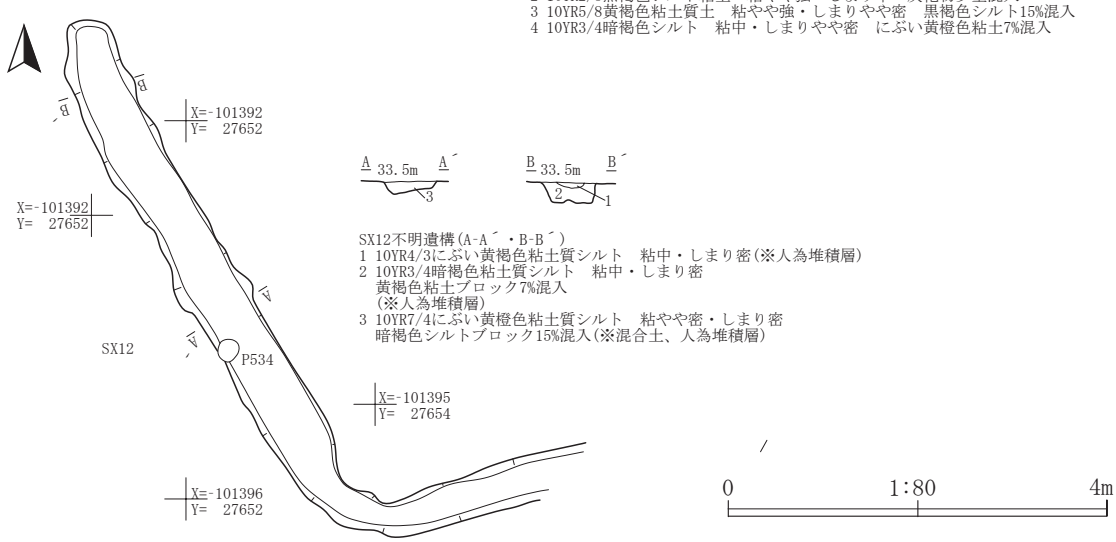
SX04不明遺構(A-A´)
1 10YR2/3黒褐色シルト 粘やや弱・しまりやや疎
地山ブロック極小粒10%混入
2 10YR4/1褐灰色シルト 粘やや弱・しまりやや疎
地山ブロック中小粒30%混入
3 10YR2/3黒褐色シルト 粘中・しまりやや疎
地山ブロック極小粒30%混入

SX05不明遺構(A-A´)
1 10YR4/1褐灰色シルト 粘やや弱・しまり密
地山ブロック小粒不規則に10%混入



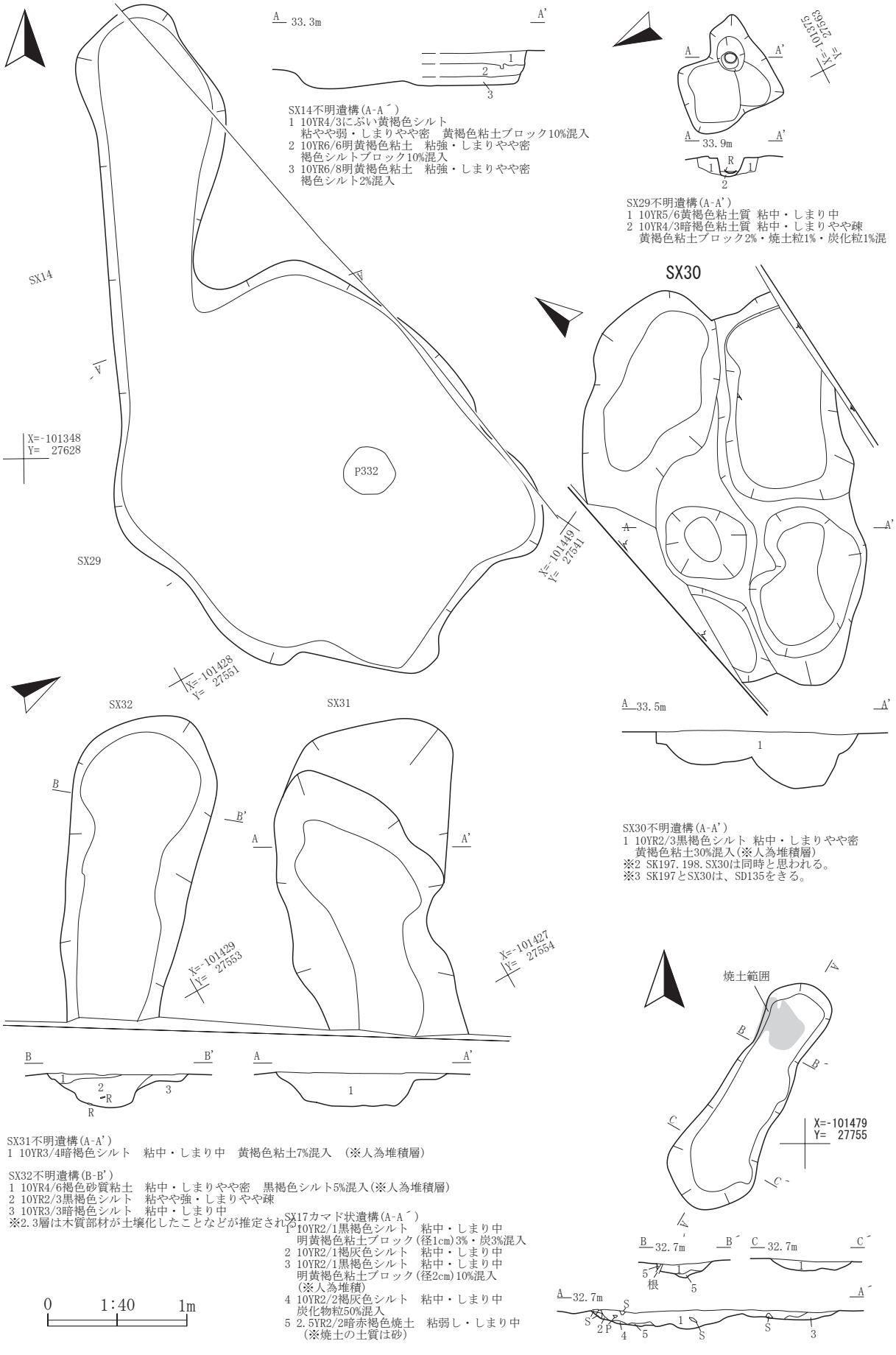
SX07不明遺構(A-A´・B-B´)
1 10YR4/1褐灰色シルト　粘やや弱・しまり密
地山ブロック小粒不規則に10%混入

SX13不明遺構(A-A´・B-B´・C-C´)
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘中・しまりやや密　にぶい黄橙色粘土15%混入
2 10YR2/3黒褐色シルト粘土　粘やや強・しまり中　炭化物少量混入
3 10YR5/8黄褐色粘土質土　粘やや強・しまりやや密　黒褐色シルト15%混入
4 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密　にぶい黄橙色粘土7%混入



SX12不明遺構(A-A´・B-B´)
1 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト　粘中・しまり密(※人為堆積層)
2 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘中・しまり密
黄褐色粘土ブロック7%混入
(※人為堆積層)
3 10YR7/4にぶい黄橙色粘土質シルト　粘やや密・しまり密
暗褐色シルトブロック15%混入(※混合土、人為堆積層)

第167図　SK77土取り穴・SX03～05・07・12・13不明遺構



SX14不明遺構(A-A´)
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
粘やや弱・しまりやや密　黄褐色粘土ブロック10%混入
2 10YR6/6明黄褐色粘土　粘強・しまりやや密
褐色シルトブロック10%混入
3 10YR6/8明黄褐色粘土　粘強・しまりやや密
褐色シルト2%混入

SX29不明遺構(A-A')
1 10YR5/6黄褐色粘土質 粘中・しまり中
2 10YR4/3暗褐色粘土質 粘中・しまりやや疎
黄褐色粘土ブロック2%・焼土粒1%・炭化粒1%混

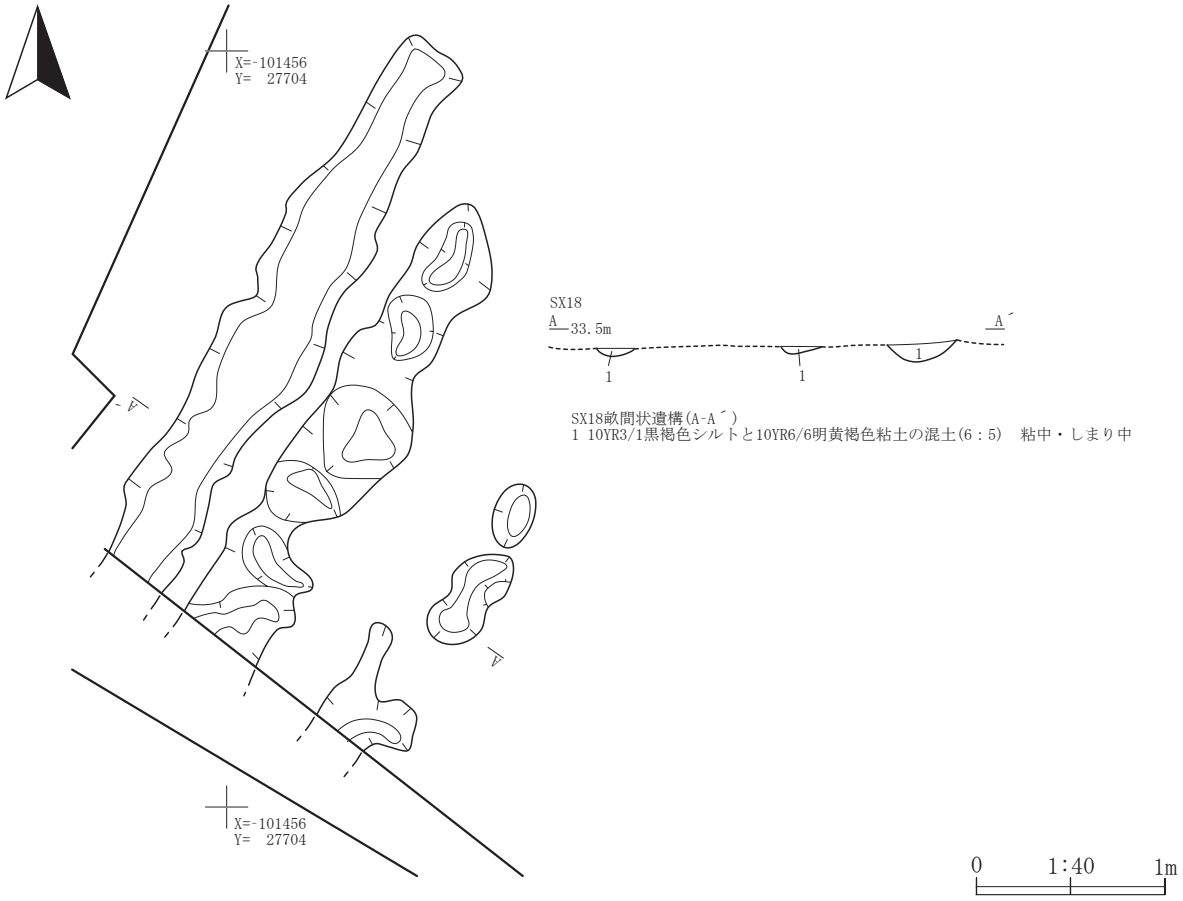
SX30不明遺構(A-A')
1 10YR2/3黒褐色シルト 粘中・しまりやや密
黄褐色粘土30%混入(※人為堆積層)
※2 SK197.198.SX30は同時と思われる。
※3 SK197とSX30は、SD135をきる。

SX31不明遺構(A-A')
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまり中　黄褐色粘土7%混入　(※人為堆積層)

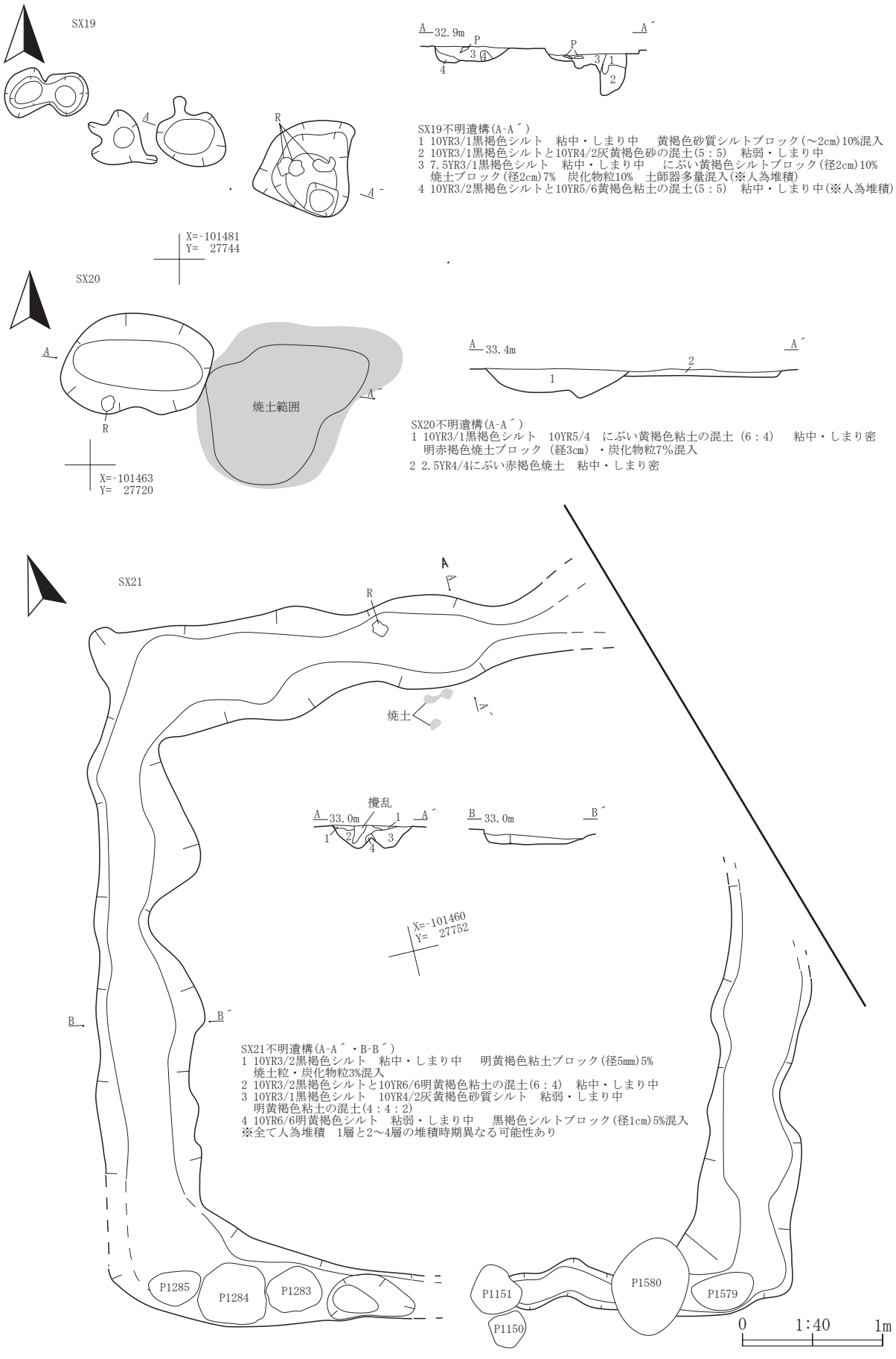
SX32不明遺構(B-B')
1 10YR4/6褐色砂質粘土　粘中・しまりやや密　黒褐色シルト5%混入(※人為堆積層)
2 10YR2/3黒褐色シルト　粘やや強・しまりやや疎
3 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまり中
※2.3層は木質部材が土壌化したことなどが推定される。

SX17カマド状遺構(A-A´)
1 10YR2/1黒褐色シルト　粘中・しまり中
明黄褐色粘土ブロック(径1cm)3%・炭3%混入
2 10YR2/1褐灰色シルト　粘中・しまり中
3 10YR2/1黒褐色シルト　粘中・しまり中
明黄褐色粘土ブロック(径2cm)10%混入
(※人為堆積)
4 10YR2/2褐灰色シルト　粘中・しまり中
炭化物粒50%混入
5 2.5YR2/2暗赤褐色焼土　粘弱し・しまり中
(※焼土の土質は砂)

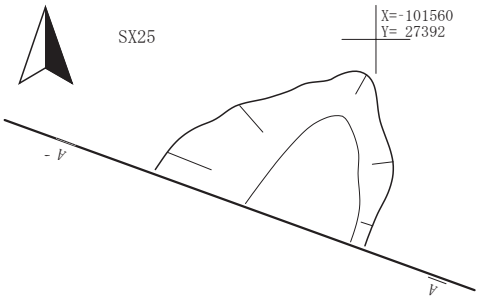
第168図　SX14・29～32不明遺構・SX17カマド状遺構

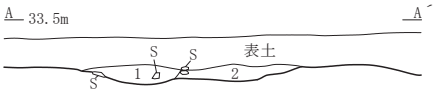


第169図　SX18・22畝間状遺構

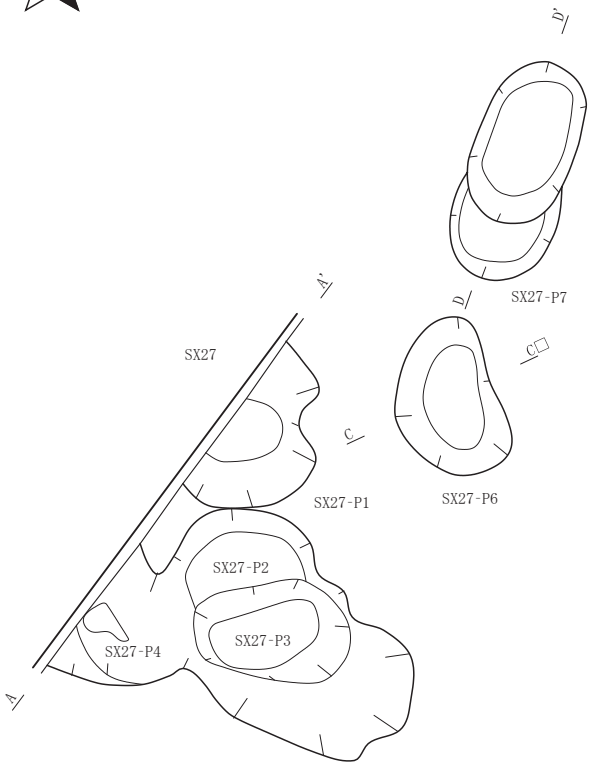


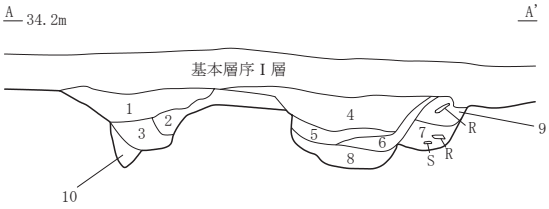
第170図　SX19～21不明遺構



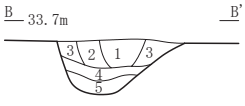


SX25不明遺構(A-A')
1 10YR2/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密
2 2.5YR4/1黄灰色粘土質泥質土　粘やや強・しまり中
礫多量混入

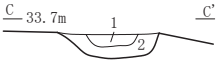




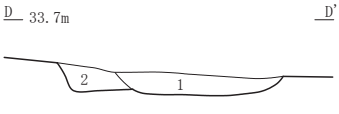
1 10YR2/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土小ブロック3%混入
2 10YR4/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土小ブロック7%混入
(※人為堆積層)
3 10YR6/5黄褐色粘土　粘中・しまりやや密　暗褐色シルト15%混入
(※人為堆積層)
4 10YR3/3暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密(※1層同層？)
5 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまりやや密　黄褐色粘土15%・焼土粒3mm1%混入
(※人為堆積層)
6 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまり中　黄褐色粘土2%混入(※人為堆積層)
7 10YR4/3暗褐色シルト　粘やや強・しまりやや密　焼土ブロック2～5mm7%混入
(※人為堆積層、土器混入)
8 10YR2/2黒色シルト　粘強・しまり中　黄褐色粘土・焼土粒 (2～5mm)　2%土器多量
(※人為堆積層)
9 10YR3/2黒褐色シルト　粘中・しまり中　黄褐色粘土小ブロック5%・
炭化物微量・土器多量混入
(※人為堆積層)
10　10YR6/5黄褐色粘土　粘中・しまりやや密　暗褐色シルト10%混入(※人為堆積層)



SX27-P5不明遺構(B-B')
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
黄褐色粘土ブロック7%混入
2 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
黄褐色粘土ブロック7%・焼土粒2%混入
3 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
黄褐色粘土ブロック10%・焼土粒2%混入
4 10YR5/6黄褐色粘土　粘やや中・しまりやや密
暗褐色シルト7%混入
5 10YR3/4暗褐色シルト　粘やや弱・しまりやや密
黄褐色粘土ブロック5%・焼土粒2%混入
※2013.03.17



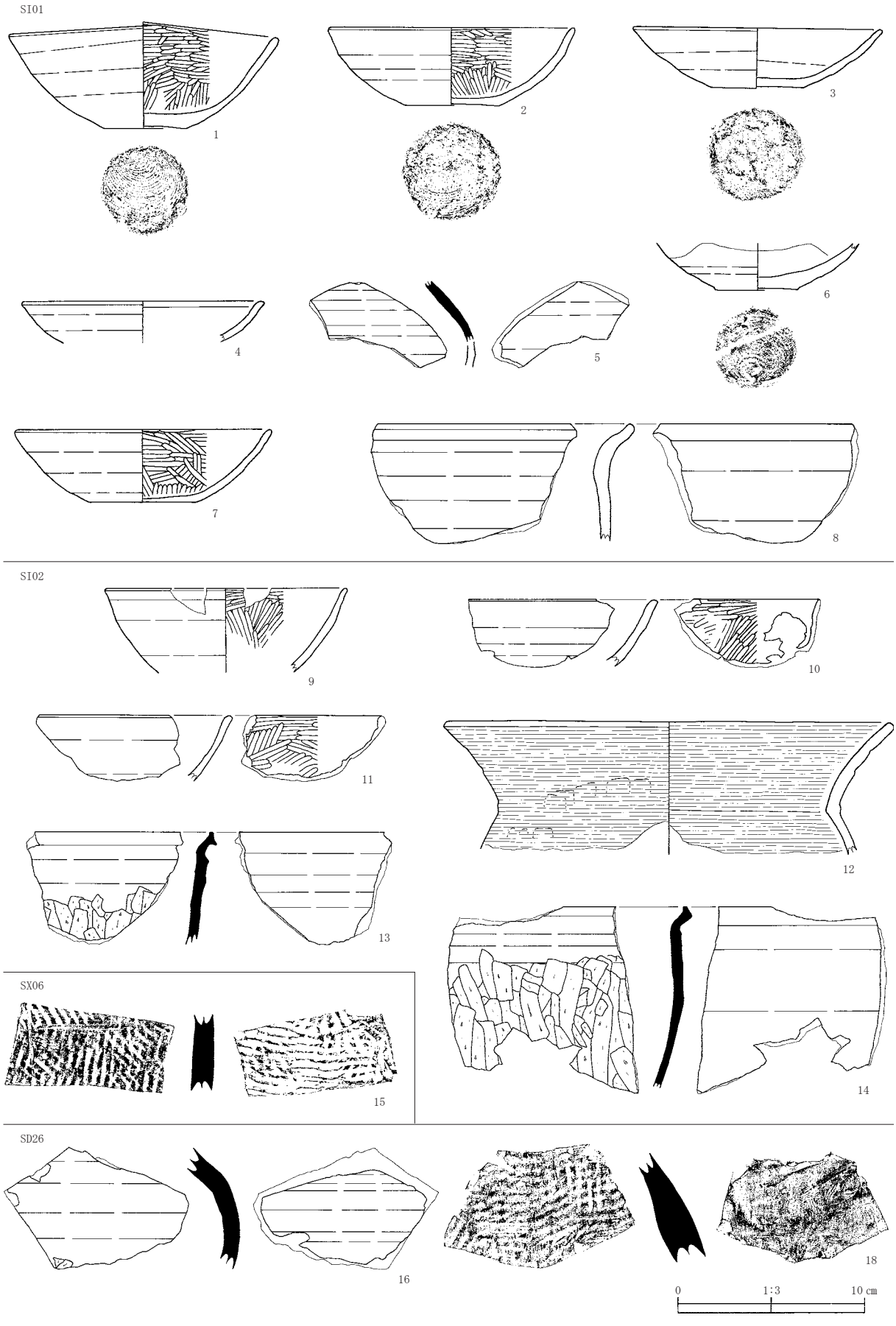
SX27-P6不明遺構(C-C')
1 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密
黄褐色粘土3%・焼土粒2%混入
2 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　粘中・しまりやや密
黄褐色粘土10%・焼土粒2%混入
※2013.03.17



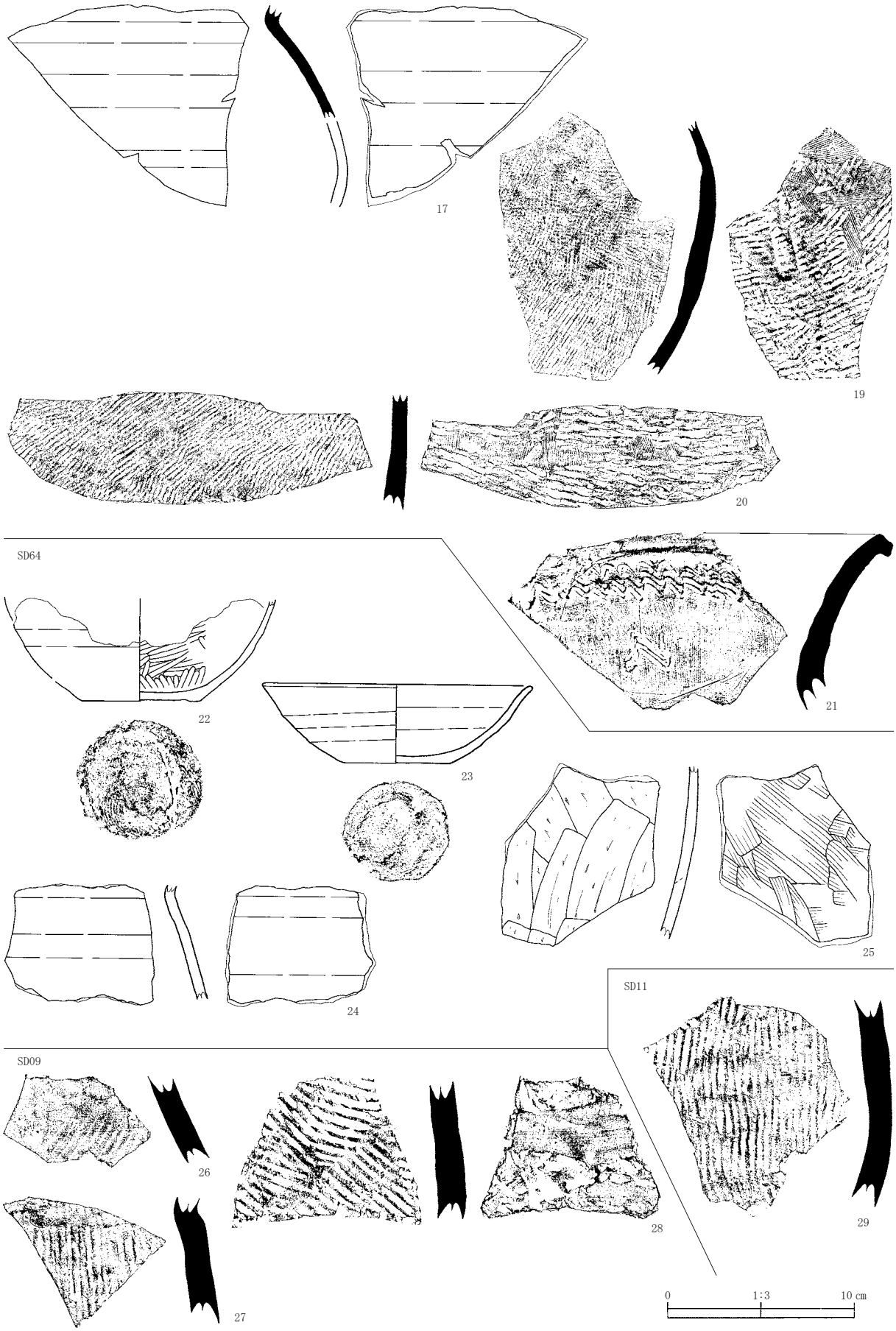
SX27-P7不明遺構(D-D')
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘中・しまりやや密
黄褐色粘土ブロック15%・焼土粒2%混入
2 10YR3/3暗褐色シルト　粘中・しまりやや密
焼土粒7%混入
※2013.03.17

0　1:40　1m

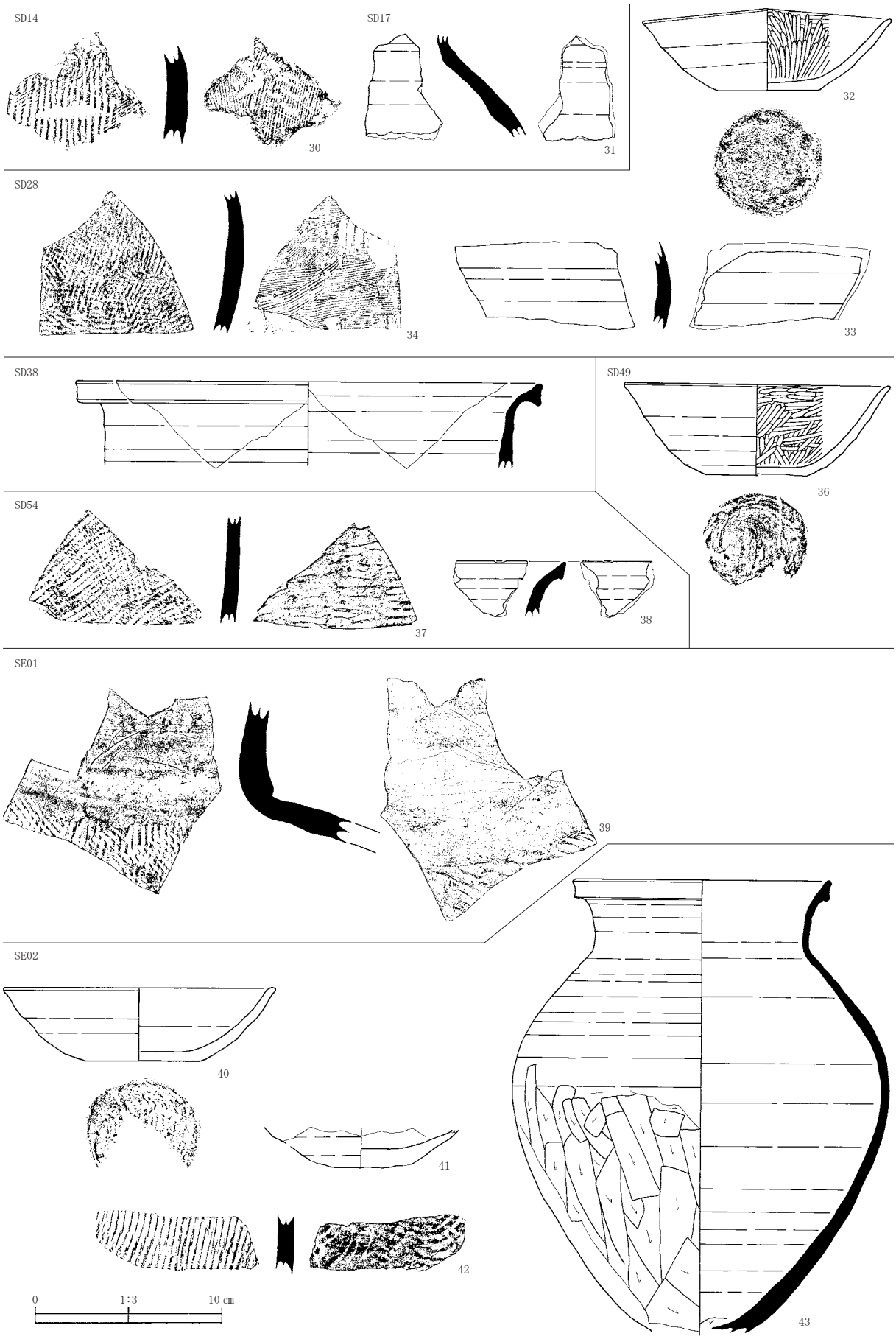
第171図　SX25・27不明遺構



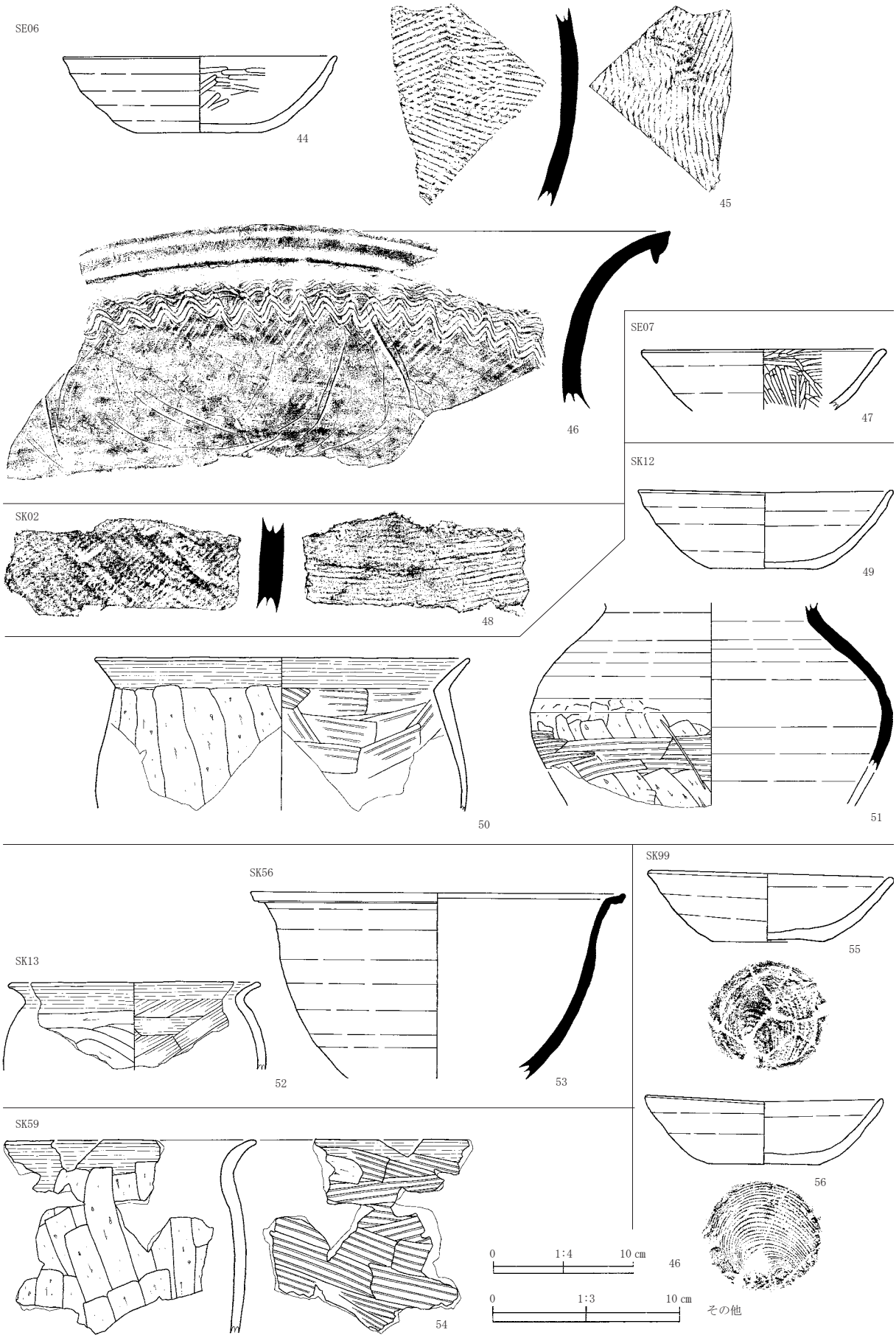
第172図　出土土器 (1)



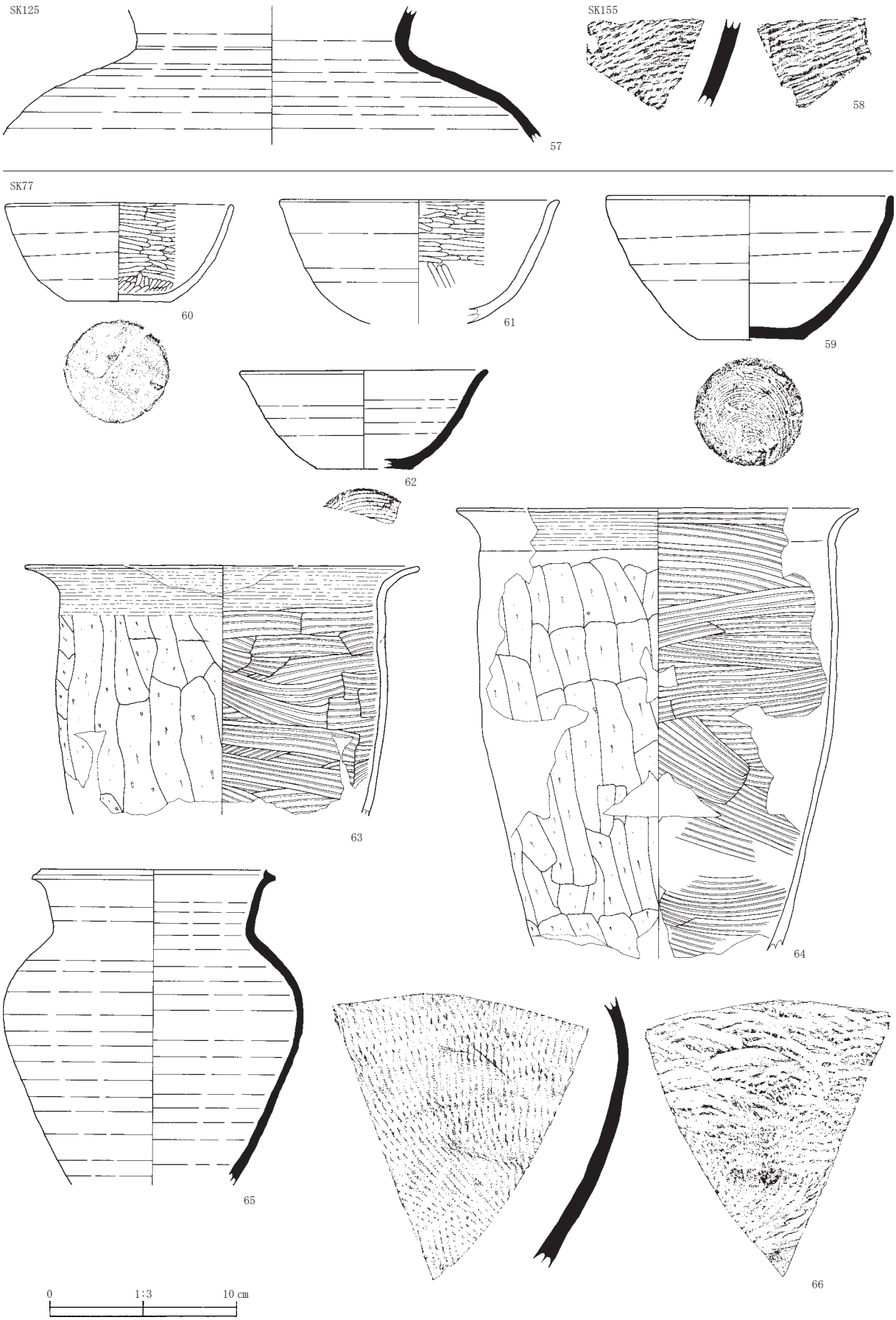
第173図　出土土器(2)


SD14
SD17
30
31
32
SD28
34
33
SD38
SD49
36
SD54
37
38
SE01
39
SE02
40
41
42
43
0
1:3
10 cm

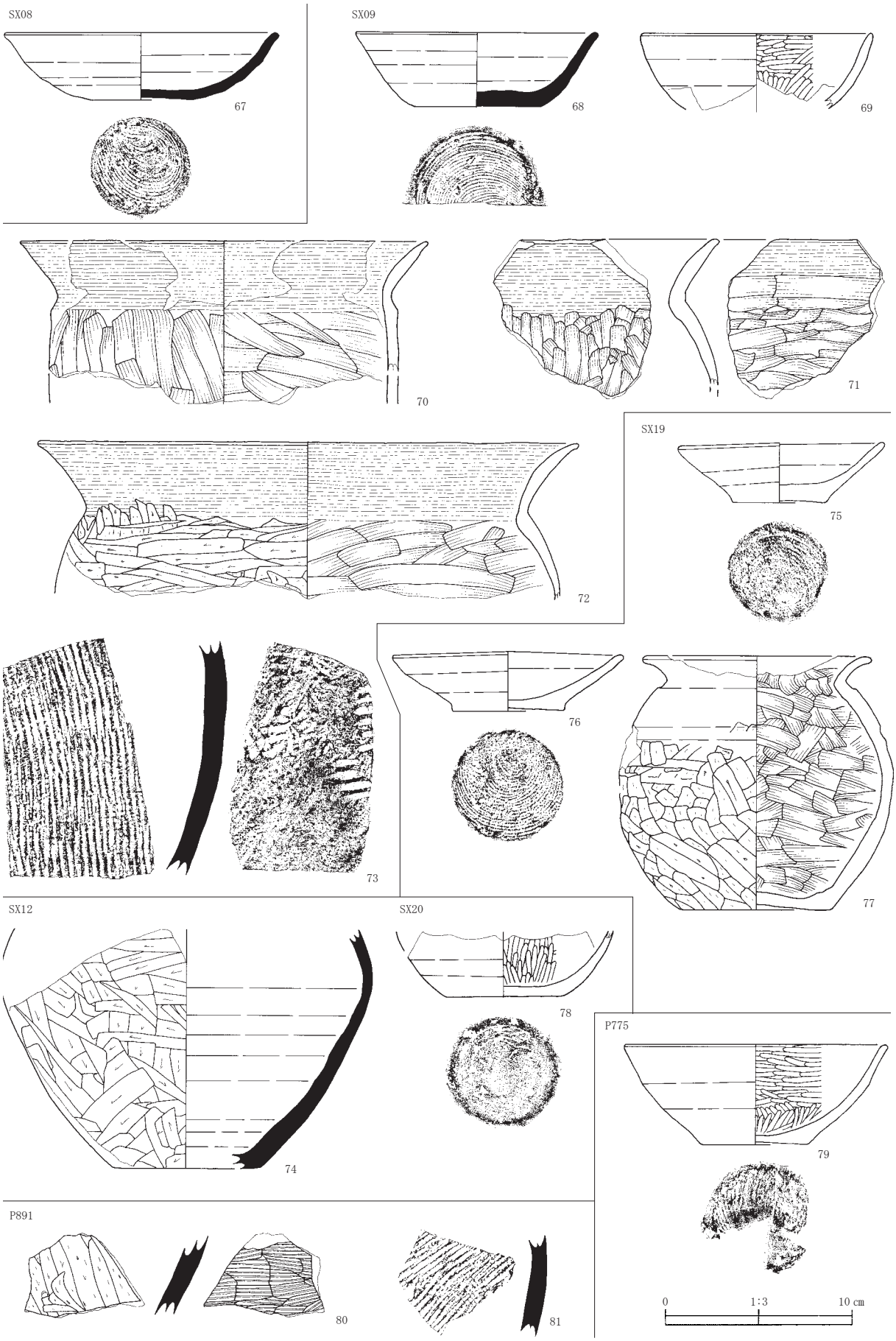
第174図　出土土器(3)


SE06
44
45
46
SE07
47
SK12
49
SK02
48
50
51
SK99
55
SK56
SK13
52
53
56
SK59
54
0 1:4 10 cm
46
0 1:3 10 cm
その他

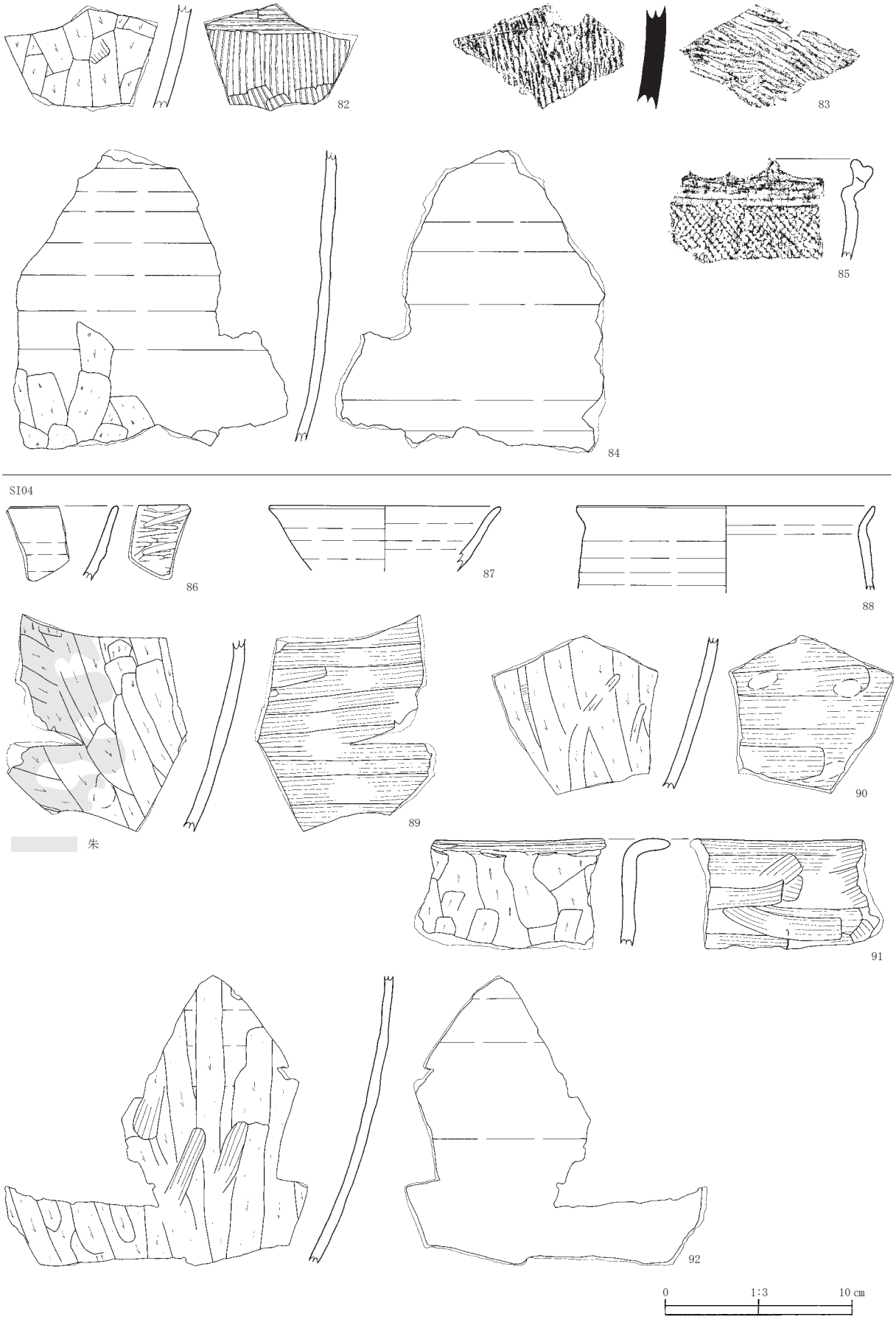
第175図　出土土器(4)



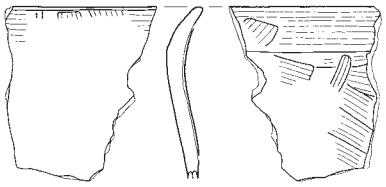
第176図　出土土器(5)

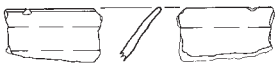

SX08
67
SX09
68
69
70
71
72
SX19
75
73
76
77
SX12
SX20
78
74
P775
79
P891
80
81
0
1:3
10 cm

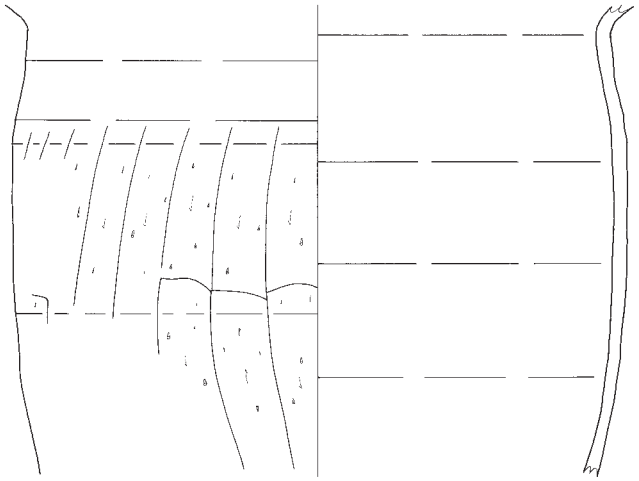
第177図　出土土器(6)

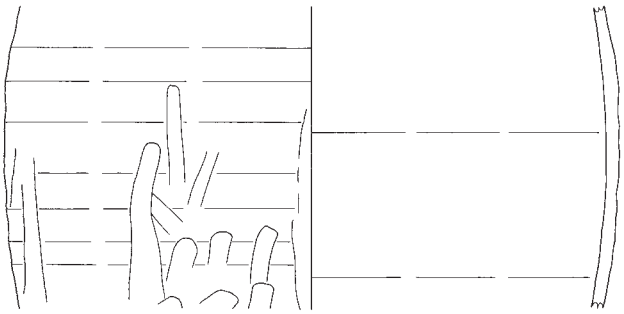


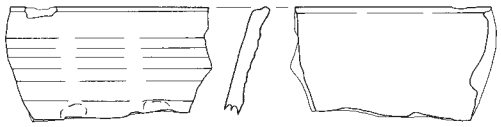
第178図　出土土器(7)


93

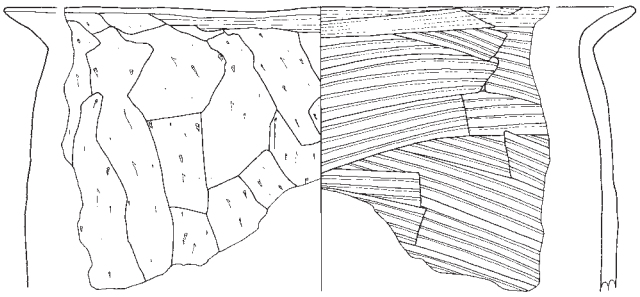

96

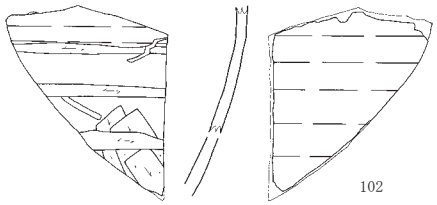

94

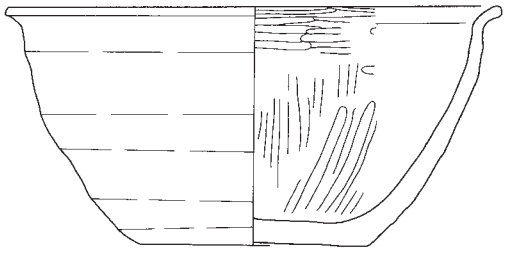

95

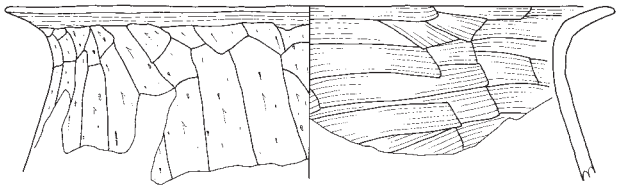

98

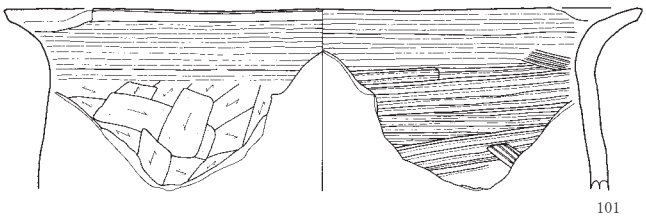
100

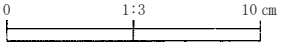

97


102

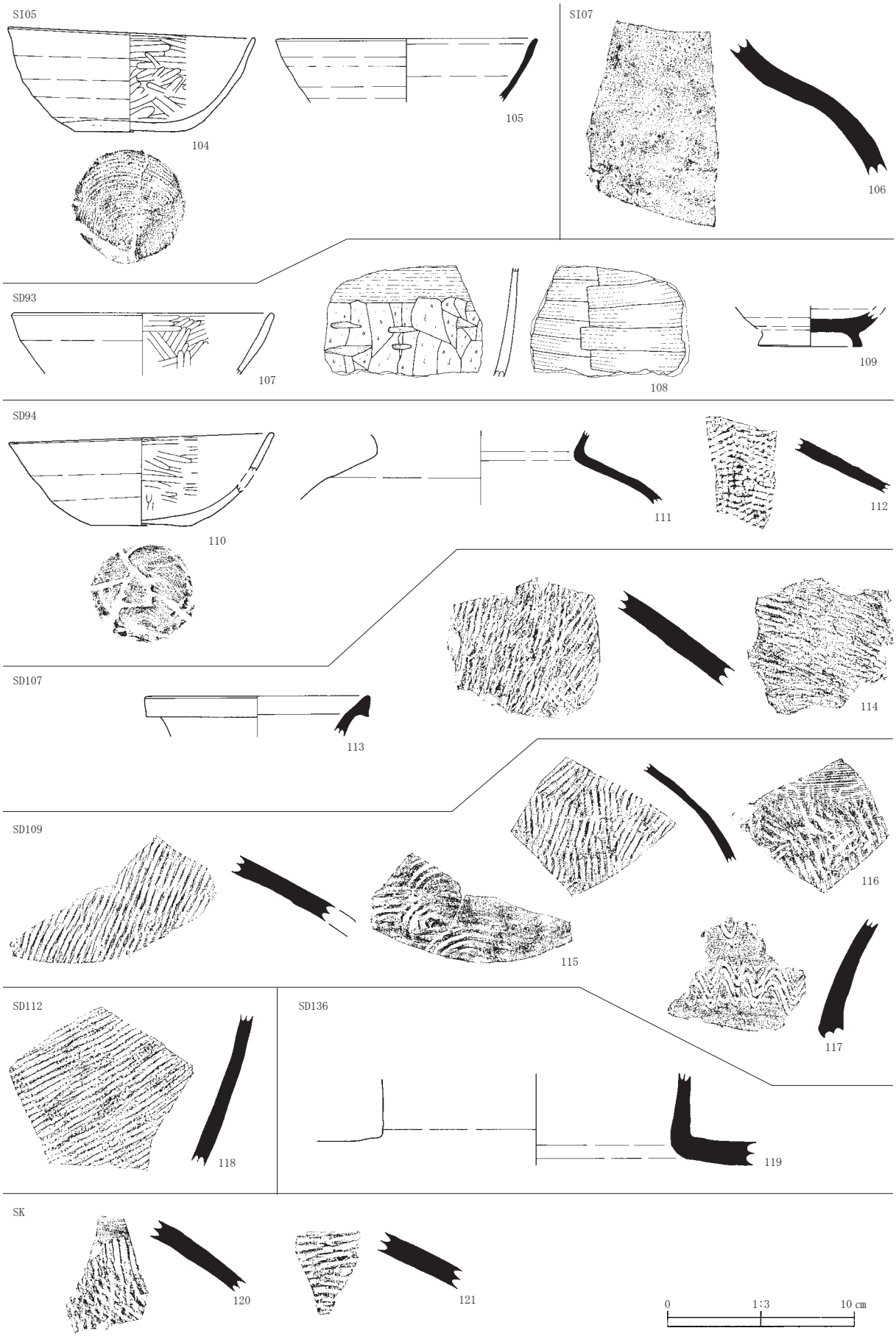

103


99

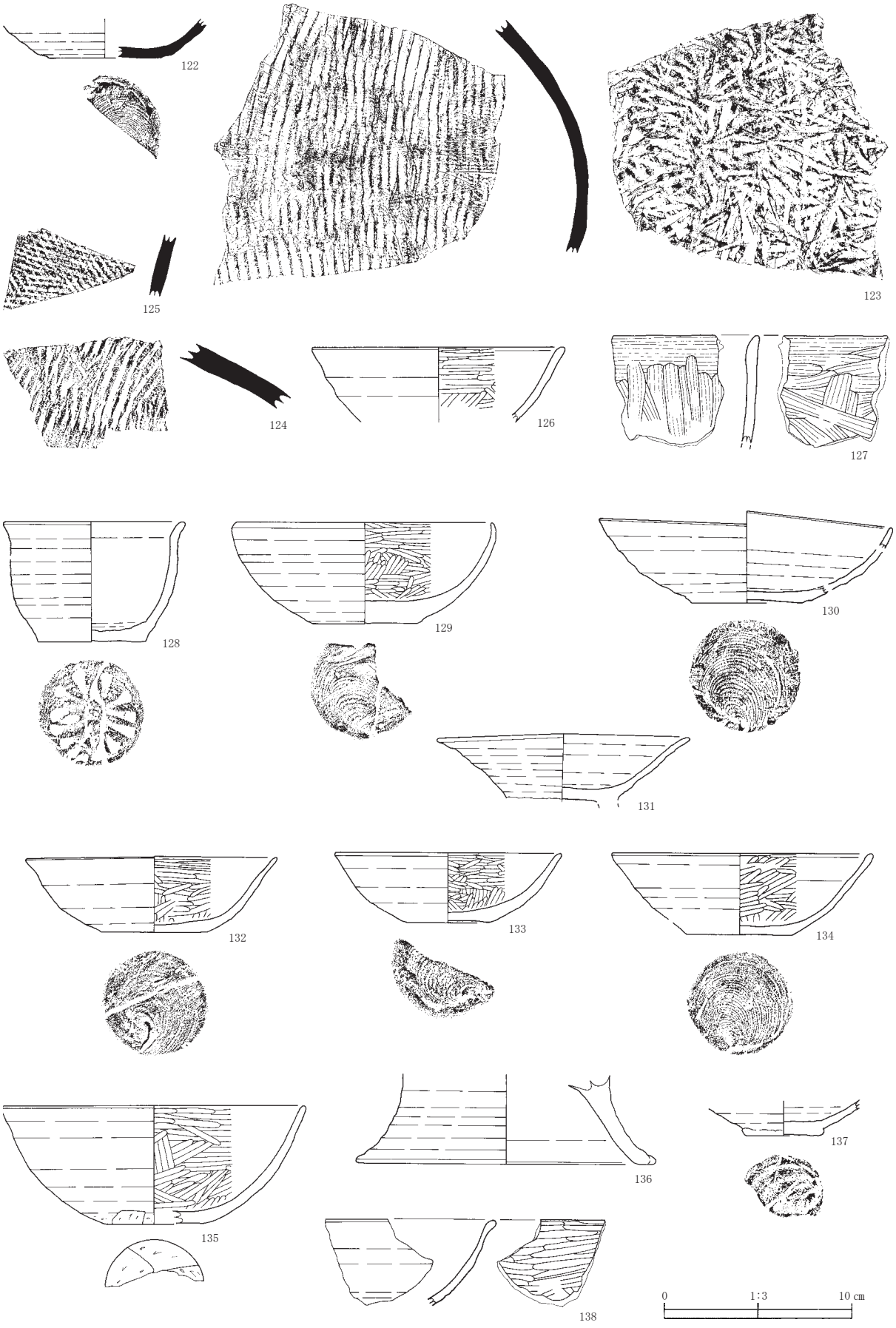

101



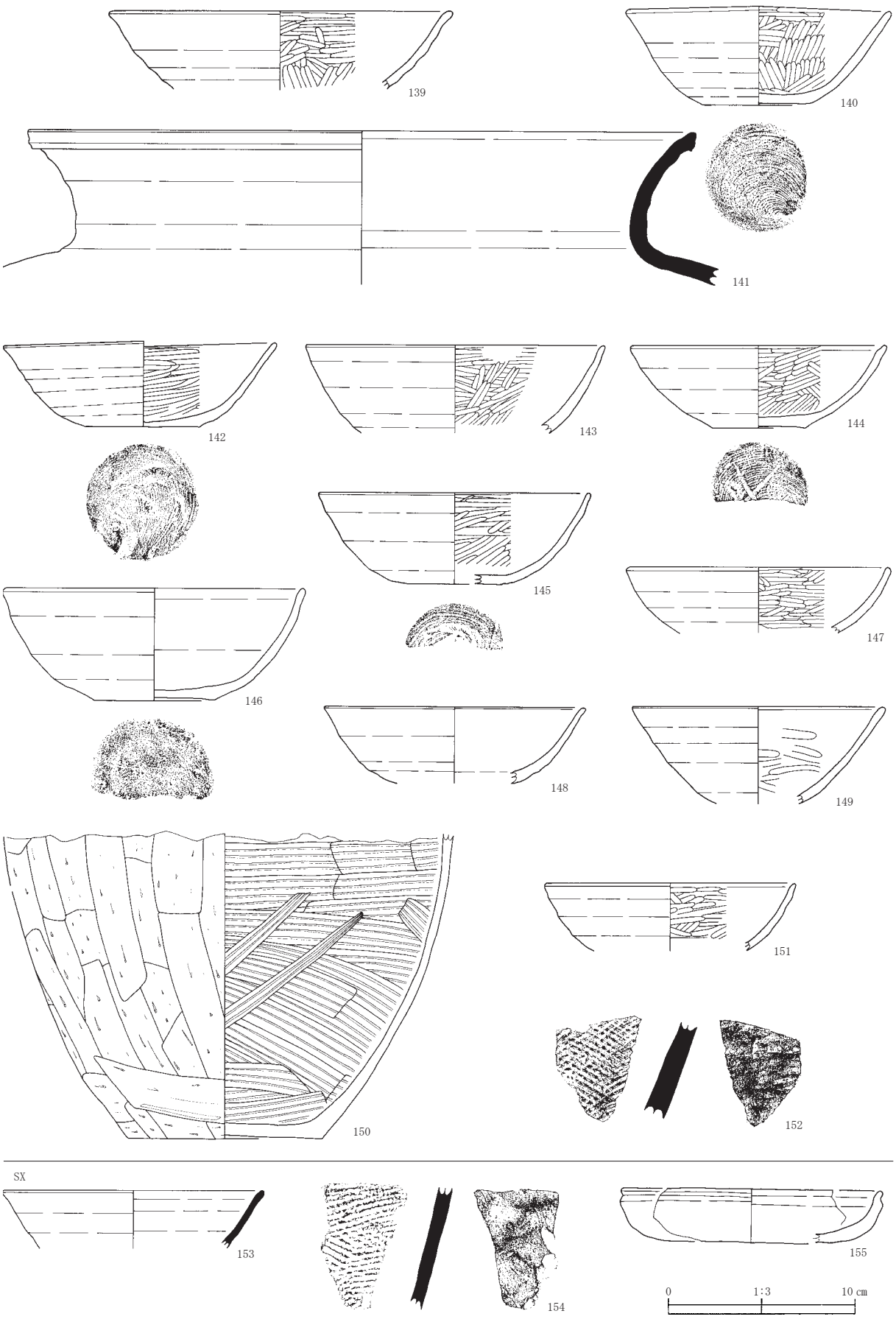
第179図　出土土器(8)


SI05
104
105
SI07
106
SD93
107
108
109
SD94
110
111
112
SD107
113
114
SD109
115
116
SD112
118
SD136
117
119
SK
120
121
0
1:3
10 cm

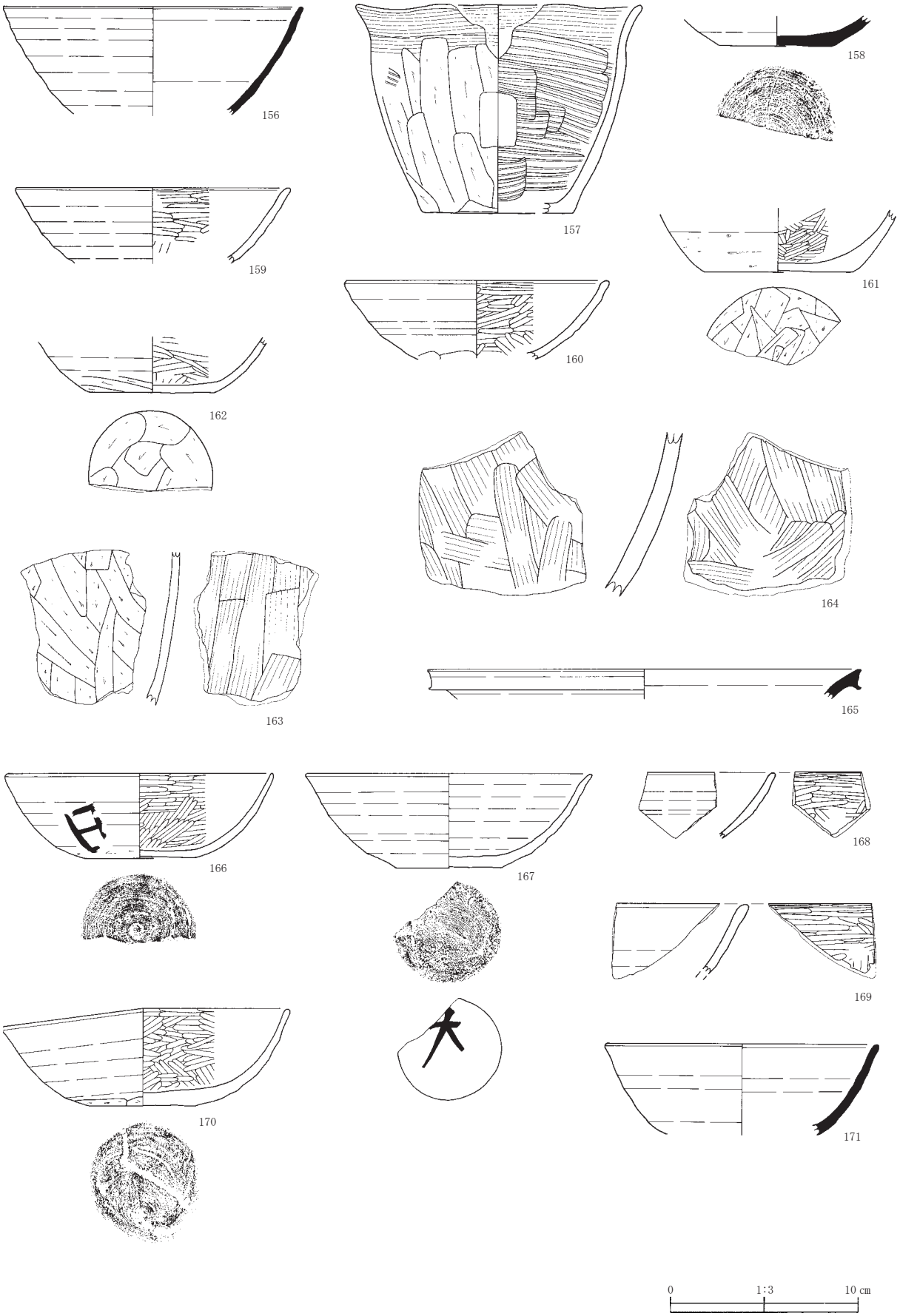
第180図　出土土器(9)



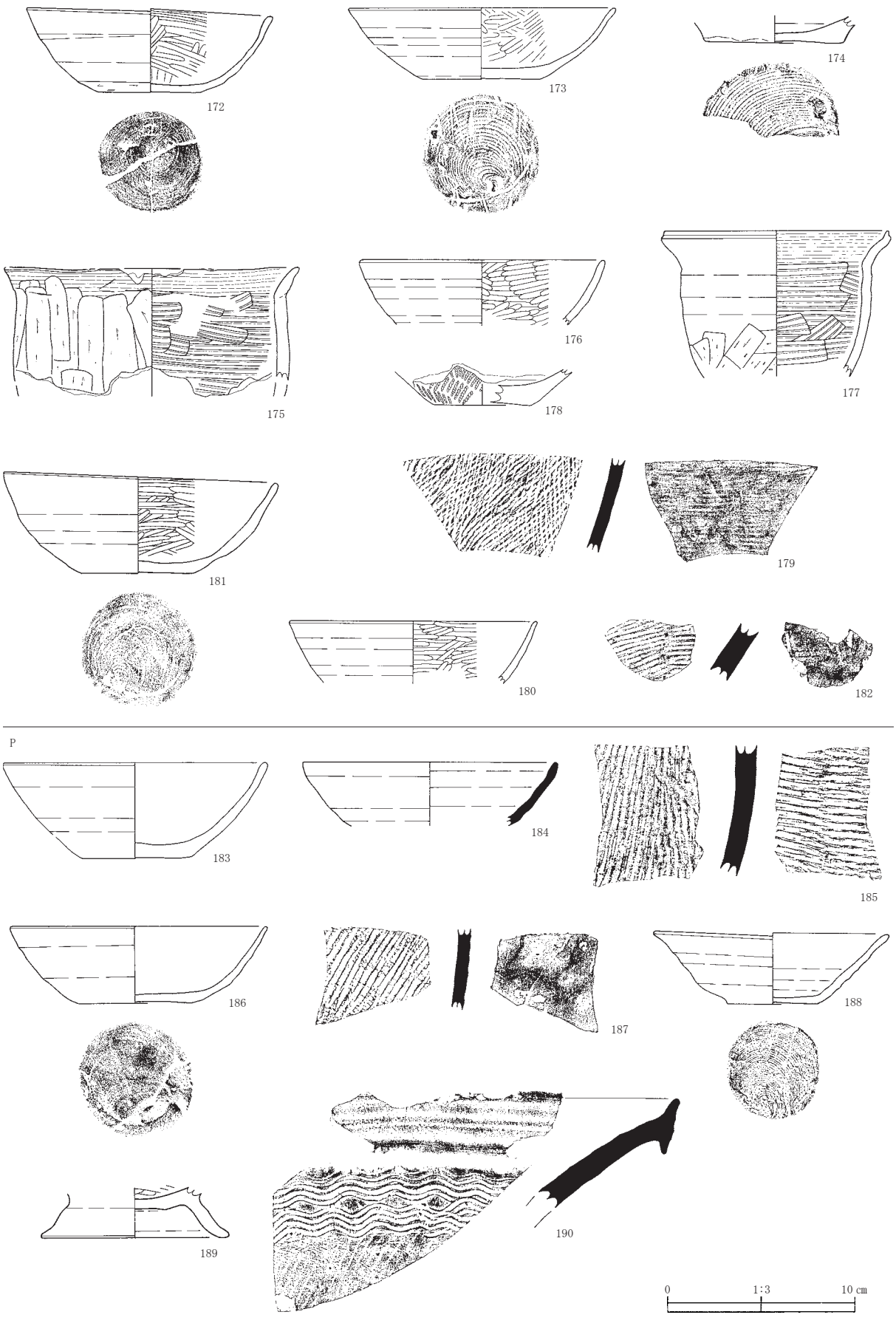
第181図　出土土器(10)



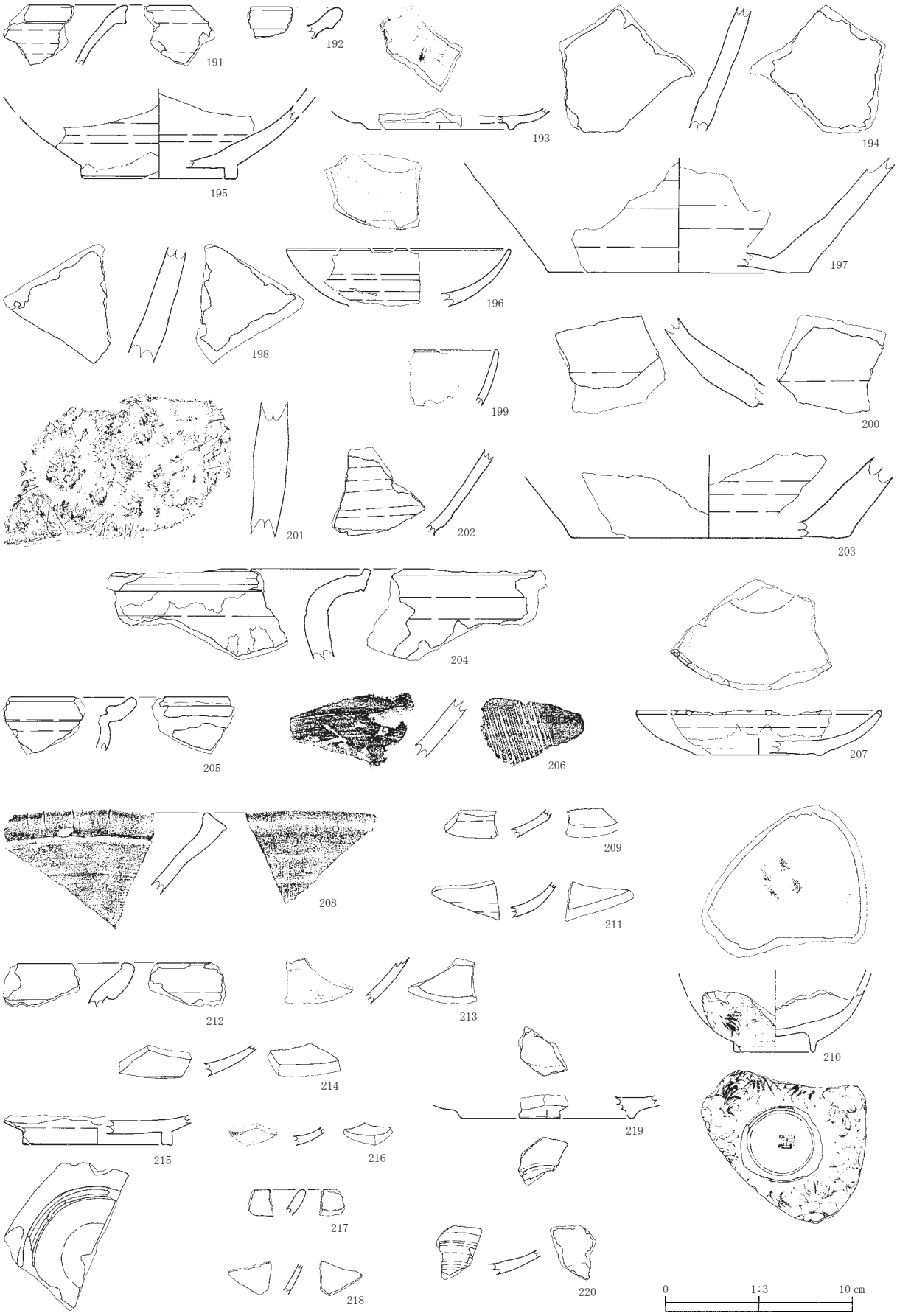
第182図　出土土器(11)



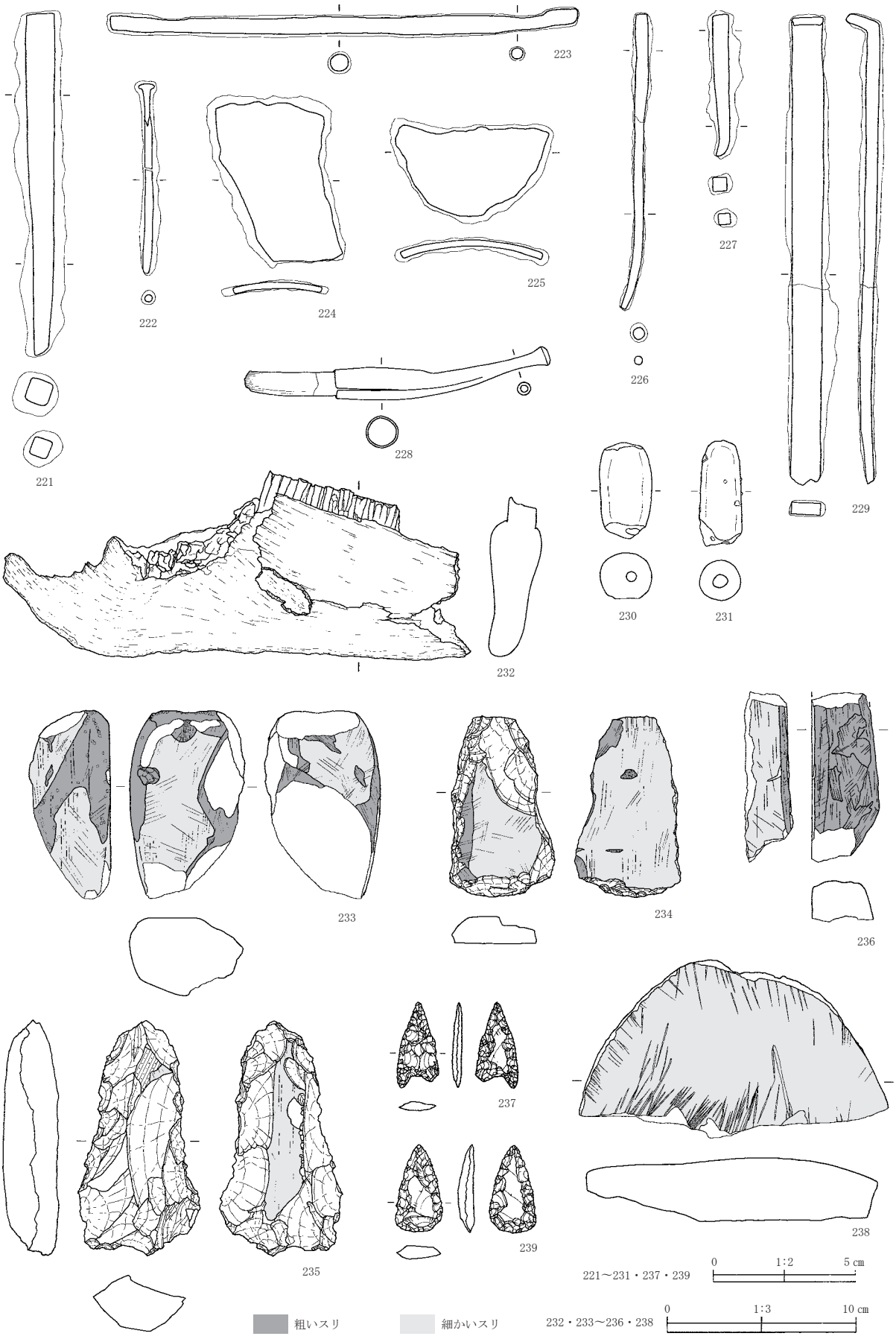
第183図　出土土器(12)



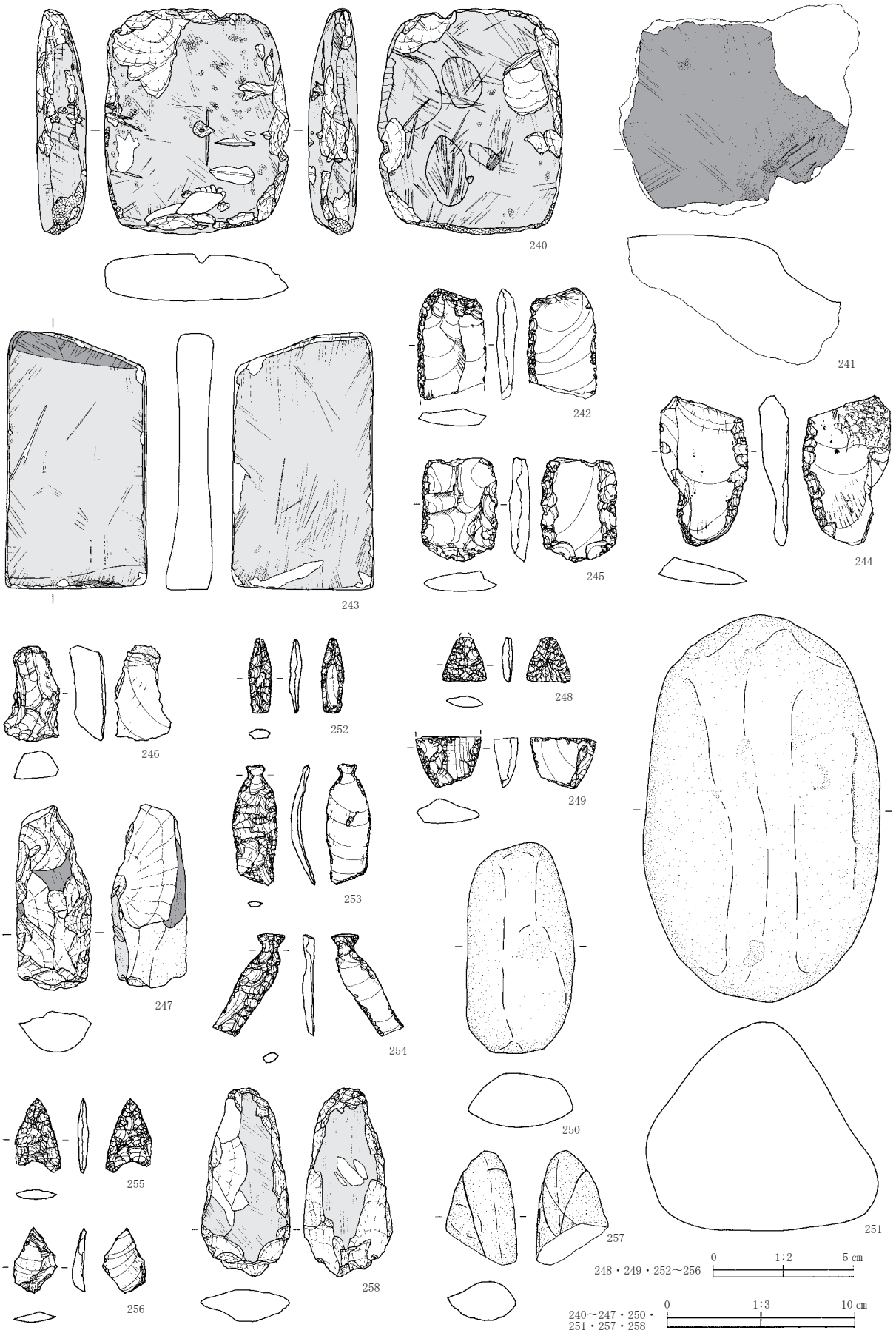
第184図　出土土器(13)


191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
0
1:3
10 cm

第185図　出土陶磁器



第186図　出土鉄製品・土製品・動骨・石器(1)


240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
248・249・252～256
0
1:2
5 cm
240～247・250・
251・257・258
0
1:3
10 cm

第187図　出土石器(2)

Ⅵ　自然科学分析

1　古城林遺跡出土火山灰について

2　古城林遺跡における放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）

3　古城林遺跡におけるトイレ遺構分析

4　古城林遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定

5　分析結果に対する調査担当者のコメント

1　古城林遺跡出土火山灰について

弘前大学大学院理工学研究科
柴　正敏・長沢知周

古城林遺跡より採集された、火山灰サンプル２試料について、以下の観察・分析を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて構成鉱物の種類、火山ガラスの形態を記載した。その結果を表１に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成及び共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（Machida,1999;町田･新井,2003）。本報告では､電子プローブマイクロアナライザー（以下 EPMA）を用いて、火山灰サンプル２試料に含まれる火山ガラスの化学組成を明らかにした。その結果は表2に示した。EPMA は弘前大学･機器分析センター所属の日本電子製 JXA-8230を使用した。使用条件は、加速電圧15kV、試料電流６×10－９A、ビーム径10μｍである。

ガラスの形態と構成鉱物（表１）及び EPMA 分析値（表２）より、十和田ａテフラ起源の火山ガラスからなる。火山ガラスの形態は軽石型を主とする。斑晶鉱物は、石英、斜長石、斜方輝石、単斜輝石及び鉄鉱である。

引用文献

青木かおり・町田　洋　2006　日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成、K_2O-TiO_2図によるテフラの識別。地質調査研究報告、第57巻、第7/8号、239-258。

Machida, H.　1999　Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan：Recent progress. 第四紀研究、第38巻、194-201。

町田　洋・新井房夫　2003　新編火山灰アトラス、日本列島とその周辺。東京大学出版会、336p。

表 1　古城林遺跡出土テフラの鉱物学的記載

試料№	ガラス及び鉱物	火山灰の帰属
試料 1	ガラス（pm>bw）、石英、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a
試料 2	ガラス（pm ≫ bw）、石英、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a

pm：軽石型、bw：バブルウォール型、＞：より多い、To-a：十和田 a テフラ

表 2　古城林遺跡、火山ガラスの EPMA 分析値

古城林遺跡採集火山灰試料

		SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	n	Total	EPMA
試料 1	最小	75.08	0.32	12.38	1.63	0.02	0.36	1.88	4.24	1.22			
	最大	77.12	0.55	13.20	2.20	0.19	0.57	2.57	4.62	1.62			
	平均	76.62	0.37	12.72	1.79	0.09	0.45	2.05	4.45	1.46	16	98.292	WDS
	標準偏差	0.473	0.056	0.176	0.144	0.047	0.048	0.162	0.138	0.093			
試料 2	最小	76.35	0.32	11.92	1.36	0.04	0.33	1.58	4.22	1.44			
	最大	78.32	0.44	13.03	1.92	0.20	0.49	2.13	4.59	1.67			
	平均	76.74	0.38	12.64	1.74	0.12	0.43	2.03	4.43	1.50	16	98.516	WDS
	標準偏差	0.448	0.033	0.287	0.128	0.045	0.035	0.131	0.108	0.058			

十和田 a テフラ

青木・町田（2006）	To-a SID 35	77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37	19	98.41	WDS
	To-a SID 37	76.17	0.42	13.41	1.89	0.09	0.38	1.99	4.08	1.56	18	92.89	WDS

試料 1　火山灰分析値

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
	74.365	0.544	13.077	2.177	0.022	0.564	2.540	4.551	1.203	99.043
	75.778	0.315	12.485	1.697	0.026	0.410	1.996	4.541	1.458	98.706
	74.758	0.329	12.567	1.714	0.102	0.445	1.921	4.150	1.316	97.302
	75.699	0.323	12.491	1.702	0.117	0.452	1.908	4.493	1.475	98.660
	75.448	0.385	12.547	1.900	0.069	0.440	2.160	4.546	1.485	98.980
	74.804	0.343	12.385	1.743	0.124	0.384	2.118	4.331	1.453	97.685
	77.384	0.402	12.786	1.760	0.102	0.462	1.895	4.350	1.425	100.566
	75.770	0.345	12.357	1.609	0.069	0.370	2.024	4.309	1.480	98.333
	74.487	0.334	12.393	1.883	0.157	0.427	1.994	4.155	1.483	97.313
	75.002	0.374	12.477	1.684	0.058	0.440	1.979	4.130	1.378	97.522
	75.014	0.337	12.394	1.708	0.131	0.450	2.002	4.452	1.410	97.898
	74.363	0.323	12.324	1.659	0.087	0.455	1.822	4.163	1.519	96.715
	76.607	0.382	12.772	1.629	0.193	0.467	1.953	4.619	1.402	100.024
	73.957	0.320	12.161	1.891	0.047	0.428	2.017	4.390	1.566	96.777
	76.270	0.410	12.732	1.719	0.069	0.363	2.055	4.537	1.490	99.645
	75.201	0.396	12.070	1.684	0.098	0.480	1.886	4.306	1.390	97.511
最小値	73.957	0.315	12.070	1.609	0.022	0.363	1.822	4.130	1.203	96.715
最大値	77.384	0.544	13.077	2.177	0.193	0.564	2.540	4.619	1.566	100.566
平　均	75.307	0.366	12.501	1.760	0.092	0.440	2.017	4.376	1.433	98.292
標準偏差	0.915	0.057	0.250	0.142	0.046	0.048	0.164	0.165	0.086	1.149

100%規格化

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
	75.084	0.549	13.203	2.198	0.022	0.569	2.565	4.595	1.215	100.000
	76.771	0.319	12.649	1.719	0.026	0.415	2.022	4.601	1.477	100.000
	76.831	0.338	12.915	1.762	0.105	0.457	1.974	4.265	1.352	100.000
	76.727	0.327	12.661	1.725	0.119	0.458	1.934	4.554	1.495	100.000
	76.226	0.389	12.676	1.920	0.070	0.445	2.182	4.593	1.500	100.000
	76.577	0.351	12.679	1.784	0.127	0.393	2.168	4.434	1.487	100.000
	76.948	0.400	12.714	1.750	0.101	0.459	1.884	4.326	1.417	100.000
	77.054	0.351	12.566	1.636	0.070	0.376	2.058	4.382	1.505	100.000
	76.544	0.343	12.735	1.935	0.161	0.439	2.049	4.270	1.524	100.000
	76.908	0.384	12.794	1.727	0.059	0.451	2.029	4.235	1.413	100.000
	76.625	0.344	12.660	1.745	0.134	0.460	2.045	4.548	1.440	100.000
	76.889	0.334	12.743	1.715	0.090	0.470	1.884	4.304	1.571	100.000
	76.589	0.382	12.769	1.629	0.193	0.467	1.953	4.618	1.402	100.000
	76.420	0.331	12.566	1.954	0.049	0.442	2.084	4.536	1.618	100.000
	76.542	0.411	12.777	1.725	0.069	0.364	2.062	4.553	1.495	100.000
	77.121	0.406	12.378	1.727	0.101	0.492	1.934	4.416	1.425	100.000
最小値	75.084	0.319	12.378	1.629	0.022	0.364	1.884	4.235	1.215	100.000
最大値	77.121	0.549	13.203	2.198	0.193	0.569	2.565	4.618	1.618	100.000
平　均	76.616	0.372	12.718	1.791	0.094	0.447	2.052	4.452	1.459	100.000
標準偏差	0.473	0.056	0.176	0.144	0.047	0.048	0.162	0.138	0.093	0.000

FeO*：鉄はすべて 2 価として表した。

試料２　火山灰分析値

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
	75.893	0.419	12.754	1.580	0.164	0.427	2.097	4.324	1.431	99.089
	75.882	0.414	12.934	1.708	0.117	0.423	2.055	4.190	1.522	99.245
	76.577	0.392	12.515	1.792	0.037	0.453	1.985	4.497	1.499	99.747
	76.121	0.377	12.696	1.729	0.139	0.412	1.991	4.500	1.477	99.442
	75.211	0.341	12.831	1.677	0.106	0.478	2.075	4.362	1.425	98.506
	74.800	0.357	11.385	1.294	0.157	0.318	1.505	4.100	1.592	95.508
	75.477	0.332	12.461	1.759	0.058	0.430	2.019	4.347	1.483	98.366
	75.733	0.368	12.662	1.654	0.153	0.421	1.945	4.463	1.488	98.887
	76.026	0.363	12.422	1.823	0.098	0.441	2.039	4.345	1.424	98.981
	74.546	0.340	12.478	1.781	0.084	0.439	2.026	4.178	1.419	97.291
	76.583	0.357	12.607	1.841	0.106	0.420	2.090	4.600	1.524	100.128
	76.067	0.434	12.402	1.907	0.088	0.436	2.006	4.471	1.439	99.250
	74.954	0.360	12.511	1.722	0.084	0.459	1.964	4.254	1.496	97.804
	74.837	0.400	12.261	1.735	0.171	0.401	2.075	4.302	1.487	97.669
	75.763	0.312	11.991	1.741	0.197	0.383	2.034	4.519	1.421	98.361
	75.119	0.391	12.301	1.671	0.124	0.427	2.090	4.352	1.512	97.987
最小値	74.546	0.312	11.385	1.294	0.037	0.318	1.505	4.100	1.419	95.508
最大値	76.583	0.434	12.934	1.907	0.197	0.478	2.097	4.600	1.592	100.128
平　均	75.599	0.372	12.451	1.713	0.118	0.423	2.000	4.363	1.477	98.516
標準偏差	0.630	0.034	0.367	0.137	0.044	0.036	0.140	0.139	0.049	1.120

100％規格化

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
	76.591	0.423	12.871	1.595	0.166	0.431	2.116	4.364	1.444	100.000
	76.459	0.417	13.032	1.721	0.118	0.426	2.071	4.222	1.534	100.000
	76.771	0.393	12.547	1.797	0.037	0.454	1.990	4.508	1.503	100.000
	76.548	0.379	12.767	1.739	0.140	0.414	2.002	4.525	1.485	100.000
	76.352	0.346	13.026	1.702	0.108	0.485	2.106	4.428	1.447	100.000
	78.318	0.374	11.920	1.355	0.164	0.333	1.576	4.293	1.667	100.000
	76.731	0.338	12.668	1.788	0.059	0.437	2.053	4.419	1.508	100.000
	76.585	0.372	12.805	1.673	0.155	0.426	1.967	4.513	1.505	100.000
	76.809	0.367	12.550	1.842	0.099	0.446	2.060	4.390	1.439	100.000
	76.622	0.349	12.825	1.831	0.086	0.451	2.082	4.294	1.459	100.000
	76.485	0.357	12.591	1.839	0.106	0.419	2.087	4.594	1.522	100.000
	76.642	0.437	12.496	1.921	0.089	0.439	2.021	4.505	1.450	100.000
	76.637	0.368	12.792	1.761	0.086	0.469	2.008	4.350	1.530	100.000
	76.623	0.410	12.554	1.776	0.175	0.411	2.125	4.405	1.522	100.000
	77.025	0.317	12.191	1.770	0.200	0.389	2.068	4.594	1.445	100.000
	76.662	0.399	12.554	1.705	0.127	0.436	2.133	4.441	1.543	100.000
最小値	76.352	0.317	11.920	1.355	0.037	0.333	1.576	4.222	1.439	100.000
最大値	78.318	0.437	13.032	1.921	0.200	0.485	2.133	4.594	1.667	100.000
平　均	76.741	0.378	12.637	1.738	0.120	0.429	2.029	4.428	1.500	100.000
標準偏差	0.448	0.033	0.287	0.128	0.045	0.035	0.131	0.108	0.058	0.000

FeO*：鉄はすべて２価として表した。

2－1　古城林遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

㈱加速器分析研究所

1　測定対象試料

古城林遺跡（北緯39° 5′ 30″、東経141° 8′ 40″）の測定対象試料は、SI02竪穴住居跡床直出土炭化材（1：IAAA-112338）、SX21不明遺構1層出土炭化材（2：IAAA-112339）、SX19不明遺構3層出土炭化材（3：IAAA-112340）、SD28溝跡埋土下位出土炭化材（4：IAAA-112341）の合計4点である（表1）。1はTo-aテフラの下位から出土し、SI02で共伴する土器は9世紀前半頃と推定される。SX21は周辺の遺構の状況等から中世と推定される。SX19は不整形の小型土坑で、9世紀後半から10世紀と推定される土器がまとまって出土している。SD28からは主に古代の土師器や須恵器が出土し、9世紀後半から10世紀と推定されている。

2　測定の意義

遺構の帰属年代に関わる情報を得る。

3　化学処理工程

⑴　メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
⑵　酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
⑶　試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
⑷　真空ラインで二酸化炭素を精製する。
⑸　精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
⑹　グラファイトを内径1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算　出　方　法

⑴　$\delta^{13}C$ は、試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表１）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

⑵　^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

⑶　pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が100以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

⑷　暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測　定　結　果

炭化材の14C 年代は、SI02竪穴住居跡床直の1が1220±20yrBP、SX21不明遺構１層の２が1240±20yrBP、SX19不明遺構３層の３が1140±20yrBP、SD28溝跡埋土下位の４が660±20yrBP である。暦年較正年代（１σ）は、１が725～865cal AD、２が695～856cal AD、３が882～966cal AD、４が1285～1383cal AD の間に各々複数の範囲で示される。１は、To-a テフラの下位で、９世紀前半頃の土器が伴うことと整合する値である。２の測定結果は、中世の遺構と推定されるのに対して古い値となっている。３、４は出土土器より９世紀後半から10世紀と推定され、３の暦年代範囲はおおむねこれに一致するが、４は新しい値を示した。

試料の炭素含有率はすべて60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ13C（‰）（AMS）	δ13C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-112338	1	SI02竪穴住居跡　床直	炭化材	AAA	−28.03 ± 0.42	1,220 ± 20	85.88 ± 0.23
IAAA-112339	2	SX21不明遺構　1層	炭化材	AAA	−26.46 ± 0.59	1,240 ± 20	85.74 ± 0.25
IAAA-112340	3	SX19不明遺構　3層	炭化材	AAA	−31.15 ± 0.49	1,140 ± 20	86.74 ± 0.25
IAAA-112341	4	SD28溝跡　埋土下位	炭化材	AAA	−30.37 ± 0.43	660 ± 20	92.07 ± 0.25

表 2

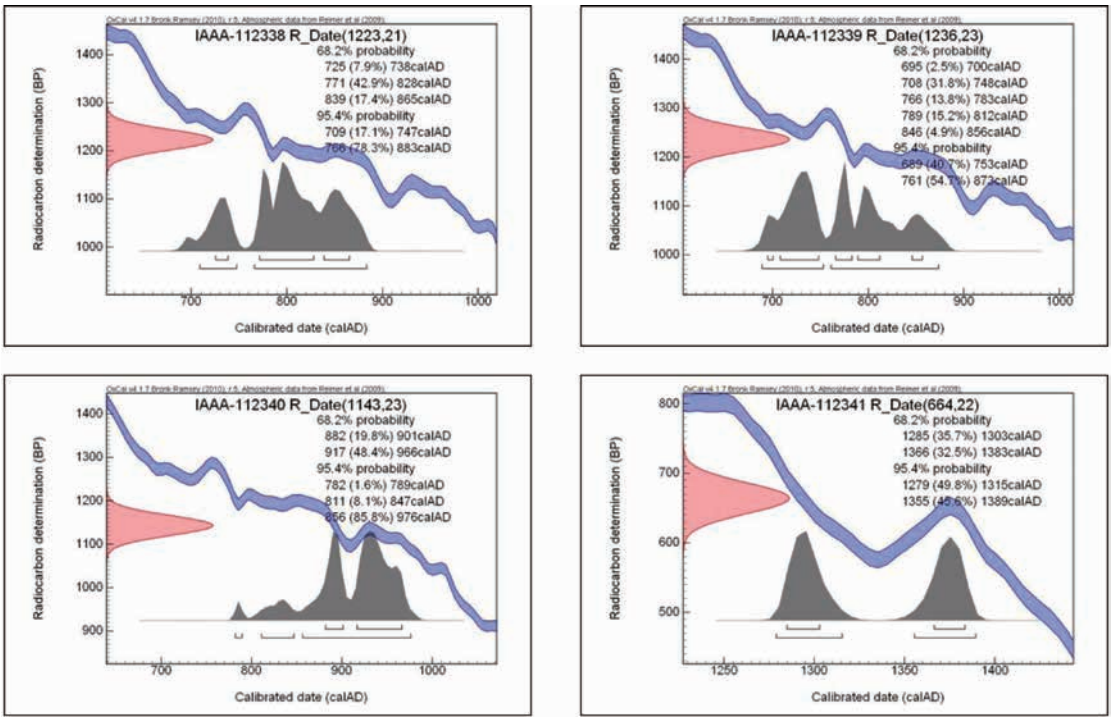
測定番号	δ13C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-112338	1,270 ± 20	85.35 ± 0.22	1,223 ± 21	725calAD − 738calAD（7.9%） 771calAD − 828calAD（42.9%） 839calAD − 865calAD（17.4%）	709calAD − 747calAD（17.1%） 766calAD − 883calAD（78.3%）
IAAA-112339	1,260 ± 20	85.48 ± 0.22	1,236 ± 23	695calAD − 700calAD（2.5%） 708calAD − 748calAD（31.8%） 766calAD − 783calAD（13.8%） 789calAD − 812calAD（15.2%） 846calAD − 856calAD（4.9%）	689calAD − 753calAD（40.7%） 761calAD − 873calAD（54.7%）
IAAA-112340	1,240 ± 20	85.65 ± 0.24	1,143 ± 23	882calAD − 901calAD（19.8%） 917calAD − 966calAD（48.4%）	782calAD − 789calAD（1.6%） 811calAD − 847calAD（8.1%） 856calAD − 976calAD（85.8%）
IAAA-112341	750 ± 20	91.05 ± 0.24	664 ± 22	1285calAD − 1303calAD（35.7%） 1366calAD − 1383calAD（32.5%）	1279calAD − 1315calAD（49.8%） 1355calAD − 1389calAD（45.6%）

文　　献

Stuiver M. and Polach H.A.　1977　Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al.　2009　IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150



2－2　古城林遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（㈱）加速器分析研究所

1　測定対象試料

古城林遺跡は、岩手県奥州市前沢区古城字新山前ほか（北緯39° 5′ 30″、東経141° 8′ 40″）に所在する。測定対象試料は、SE03井戸跡埋土中出土炭化材（5：IAAA-123243）、SE06井戸跡埋土2層出土炭化材（6：IAAA-123244）SD109溝跡埋土中出土炭化材（7：IAAA-123245）の合計3点である（表1）。

SE03井戸跡は古代もしくは12世紀と推定されているが、時期を判断できる土器などは出土していない。SE06井戸跡の埋土2層は十和田aテフラ層で、試料6はこの層から出土したことから、西暦915年頃と推定される。ただし、再堆積したテフラ層である可能性もある。SD109溝跡は、出土遺物から時期を判断できないものの、埋土の様相や近隣の遺構の時期などから12世紀と推定される。

2　測定の意義

遺構の帰属年代に関わる情報を得る。

3　化学処理工程

⑴　メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
⑵　酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
⑶　試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
⑷　真空ラインで二酸化炭素を精製する。
⑸　精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
⑹　グラファイトを内径1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算　出　方　法

⑴　$\delta^{13}C$ は、試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

⑵　^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（$\pm 1\sigma$）は、試料の^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

⑶　pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が100以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

⑷　暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（$1\sigma = 68.2\%$）あるいは２標準偏差（$2\sigma = 95.4\%$）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測　定　結　果

試料の^{14}C 年代は、SE03井戸跡埋土中出土炭化材５が630±20yrBP、SE06井戸跡埋土２層出土炭化材６が1190±30yrBP、SD109溝跡埋土中出土炭化材７が360±20yrBP である。暦年較正年代（1σ）は、５が1297～1390cal AD、６が782～878cal AD、７が1463～1619cal AD の間に各々複数の範囲で示される。５と７は推定される時期より新しい値を示した。６の年代値は十和田ａテフラよりやや古い。

試料の炭素含有率はすべて60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ13C (‰) (AMS)	δ13C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC （%）
IAAA-123243	5	SE03井戸跡　埋土中	炭化材	AAA	-26.20 ± 0.61	630 ± 20	92.46 ± 0.27
IAAA-123244	6	SE06井戸跡　埋土２層	炭化材	AAA	-26.72 ± 0.57	1,190 ± 30	86.19 ± 0.27
IAAA-123245	7	SD109溝跡　埋土中	炭化材	AAA	-24.77 ± 0.41	360 ± 20	95.57 ± 0.28

表 2

測定番号	δ13C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC （%）			
IAAA-123243	650 ± 20	92.23 ± 0.24	629 ± 23	1297calAD - 1318calAD（25.7%） 1352calAD - 1390calAD（42.5%）	1289calAD - 1329calAD（38.7%） 1341calAD - 1396calAD（56.7%）
IAAA-123244	1,220 ± 20	85.89 ± 0.25	1,193 ± 25	782calAD - 791calAD（ 8.1%） 808calAD - 878calAD（60.1%）	726calAD - 738calAD（ 1.4%） 771calAD - 895calAD（93.0%） 927calAD - 935calAD（ 0.9%）
IAAA-123245	360 ± 20	95.61 ± 0.26	364 ± 23	1463calAD - 1520calAD（46.0%） 1593calAD - 1619calAD（22.2%）	1452calAD - 1525calAD（54.0%） 1557calAD - 1632calAD（41.4%）

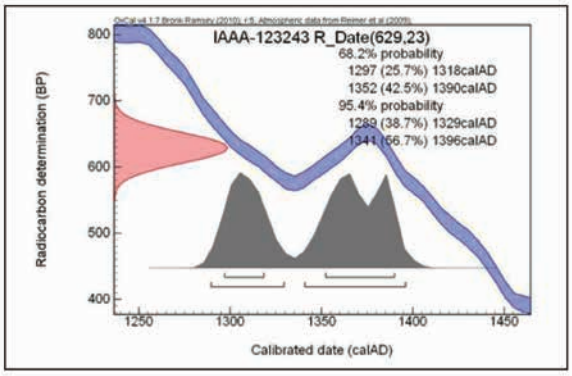
［参考値］

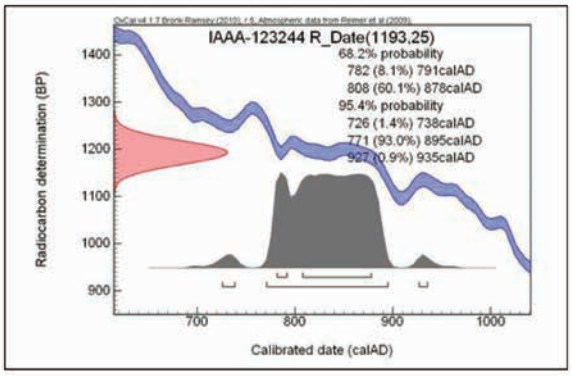
文　　献

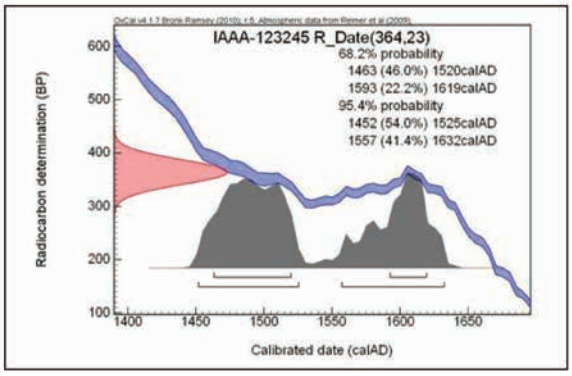
Bronk Ramsey C.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al.　2009　IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A.　1977　Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363







［参考］暦年較正年代グラフ

3　古城林遺跡におけるトイレ遺構分析

株式会社古環境研究所

1．は　じ　め　に

古城林遺跡は、岩手県奥州市前沢区古城に所在する。2011・2012年度の発掘調査において、縄文時代～近世までの遺構や遺物が検出されている。

ここでは､12世紀を中心とする柱穴や溝跡､井戸跡などとともに検出された性格不明の土坑（SK167）について、埋土の寄生虫卵分析、花粉分析、種実同定分析を行ない、土坑の遺構としての性格および用途の検討を行った。

性格や用途によって遺体群集は特異な分類群の構成や組成を示すことがあり、廃棄土坑や便所遺構などを識別することができる場合もある。また、それらの遺体群集からは生業や食物を探れることもある。なお、ここでは参考に珪藻分析を付加して行う。

2．試　　料

分析試料は、SK167土坑埋土の13層より採取された試料（褐色粘土）１点である。

3．寄生虫卵分析

(1) 原　　理

人、動物などに寄生する寄生虫の卵殻は堆積物中に残存しやすい。人が密度高く居住すると周囲の寄生虫卵の汚染度が高くなる。また、便所遺構等の糞便の堆積物では寄生虫卵密度が高く、他の堆積物と識別することができ便所遺構を確認することも可能である。さらに、寄生虫の特有の生活史や感染経路から食物を探ることもできる。現状では近年研究されだした研究であり分析例も少ない。

(2) 方　　法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

１）試料から１cm^3を採量
２）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
３）篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す
４）25％フッ化水素酸を加え30分静置（２・３度混和）
５）水洗後サンプルを２分
６）２分したサンプルの一方にアセトリシス処理を施す
７）両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
８）検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、２分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を３回繰り返して行った。

(3) 結　　果

分析の結果、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。花粉の残存状況は良いことから、寄生虫卵が分解された可能性は低く、寄生虫卵は当初より含有されていなかったとみなされる。

4．花　粉　分　析

(1) 原　　理

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生･環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

(2) 方　　法

寄生虫卵分析で２分しアセトリシス処理を施した沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製、検鏡・計数をおこなう。

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行う。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行う。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示す。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

(3) 結　　果

１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉12、樹木花粉と草本花粉を含むもの１、草本花粉18、シダ植物胞子２形態の計33である。これらの学名と和名および粒数を表１に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図１に示す。近隣の森林植生及び気候帯の変遷を推定するために樹木花粉総数を基数とする樹木花粉ダイアグラムを図２に示す。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科

〔草本花粉〕

サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ササゲ属、フウロソウ属、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2）花粉群集の特徴（図１）

草本花粉が80.0％を占め、密度はやや低い。イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属が高率に出現し、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科がやや多く、アブラナ科、ソバ属、ササゲ属、オモダカ属などが出現する。樹木・草本花粉のクワ科－イラクサ科もやや優占し、樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、スギが出現する。

5．種　実　同　定

(1) 原　　理

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

(2) 方　　法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1）試料100cm^3（全量143.88g）に水を加え放置し、泥化

2）攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25㎜の篩で水洗選別

3）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

(3) 結　　果

カヤツリグサ科１の草本１分類群が同定された。顕微鏡写真に示し、以下に形態的特徴を記す。

カヤツリグサ科　Cyperaceae　果実（炭化）　長さ×幅：1.18㎜×0.94㎜

炭化しているため黒色で広倒卵形を呈す。断面は扁平である。

6．珪　藻　分　析

寄生虫卵が検出されなかったため、参考に珪藻分析を行った。

(1) 方　　法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

1）試料から１cm^{3}を採量

2）10％過酸化水素水を加え、加温反応させながら１晩放置

3）上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（５～６回）

4）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥

5）マウントメディアによって封入し、プレパラート作製

6）検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

（2）結　　果

珪藻は貧塩性種（淡水生種）で占められ、真・好流水性種が大半を占める。好流水性種で、沼沢湿地付着生指標種の Eunotia　minor が卓越し、Gomphonema　parvulum が比較的高い出現率を示す。他に陸生珪藻の Navicula　mutica、Pinnularia　subcapitata が低率に出現する。

7．考　　察

SK167土坑埋土の13層からは寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。花粉群集はイネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属を中心にカヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科などの草本花粉で主に構成され、種実ではカヤツリグサ科１点のみの検出であった。このことから、これらは周囲の植生を反映した構成・組成の遺体群集とみなされ、当該堆積物が糞便に起原したものである可能性は考えにくい。花粉分析から、サジオモダカ属、オモダカ属、タデ属サナエタデ節の水生植物の生育が示唆され、珪藻では好流水性種で沼沢湿地付着生指標種の Eunotia　minor が卓越し、Gomphonema parvulum が比較的高い出現率を示すことから、SK167土坑13層の堆積物は水草の生育する流水の伴う浅い水域で生成されたものであることが示唆される。またヨモギ属が多く、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科、ソバ属、ササゲ属、チドメグサ亜科などが出現する。クワ科－イラクサ科を含めいずれも畑作雑草の性格もつ草本や栽培植物であり、周囲に畑が分布しソバ属、ササゲ属、アブラナ科などの栽培植物が栽培されていたと推定される。樹木は周囲にはほとんど分布せず、遠方にコナラ属コナラ亜属やスギが分布していた。

8．ま　と　め

SK167土坑の13層は、検出された遺体群集の特徴から、オモダカ属などの水草の生育する流水を伴う浅い水域で生成された堆積物とみなされた。周囲には畑の分布が示唆され、ソバ属、ササゲ属、アブラナ科などの栽培植物が栽培されていた。

参考文献

Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard　1992　Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from　Latrine Soils.Jounal of Archaeological Science，19, p.231-245.

金子清俊・谷口博一　1987　線形動物・扁形動物．医動物学，新版臨床検査講座，８，医歯薬出版，p. 9 -55.

金原正明･金原正子　1992　花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－, 奈良国立文化財研究所, p.14-15.

金原正明　　1999　寄生虫．考古学と動物学，考古学と自然科学，２，同成社，p.151-158.

中村　純　　1967　花粉分析．古今書院，p.82-102.

島倉巳三郎　1973　日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60p.

中村　純　　1974　イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として . 第四紀研究 ,13,p.187-193.

中村　純　　1977　稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

中村　純　　1980　日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

笠原安夫　　1985　日本雑草図説，養賢堂，494p.

Hustedt,F.　1937-1938　Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131-506.

Lowe,R.L.　1974　Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

K. Krammer・H.Lange-Bertalot　1986-1991　Bacillariophyceae・ 1－4 .

Asai,K.&,Watanabe,T.　1995　Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.

安藤一男　　1990　淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.

小杉正人　　1988　珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p. 1 -20.

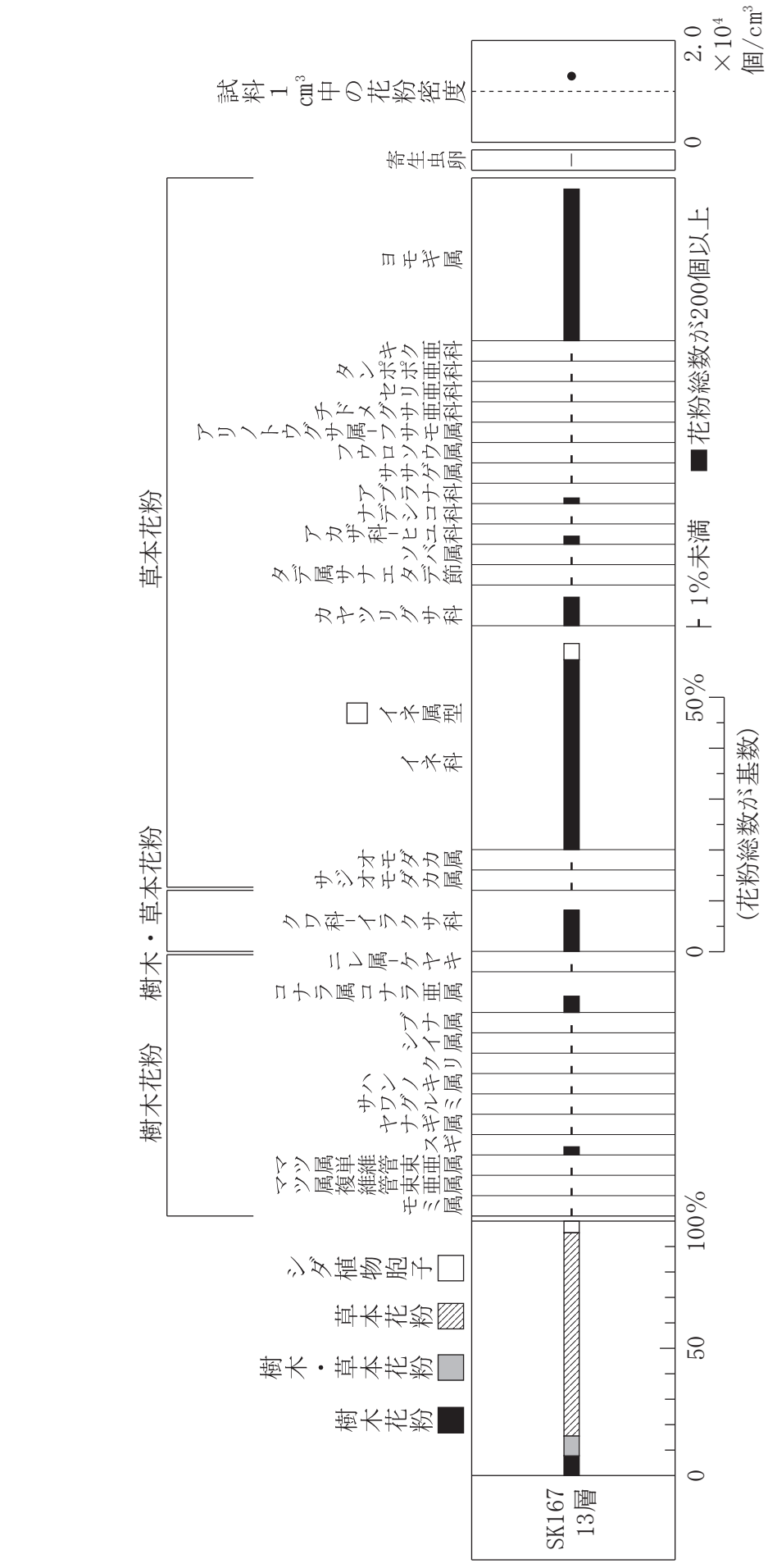


図１　古城林遺跡における花粉ダイアグラム

表1　古城林遺跡における花粉分析結果

分類群		SK167
学　名	和　名	13層
Arboreal pollen	樹木花粉	
Abies	モミ属	1
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	1
Pinus subgen. Haploxylon	マツ属単維管束亜属	1
Cryptomeria japonica	スギ	9
Salix	ヤナギ属	1
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1
Alnus	ハンノキ属	4
Castanea crenata	クリ	2
Castanopsis	シイ属	1
Fagus	ブナ属	3
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	18
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属 - ケヤキ	3
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	
Moraceae-Urticaceae	クワ科 - イラクサ科	45
Nonarboreal pollen	草本花粉	
Alisma	サジオモダカ属	1
Sagittaria	オモダカ属	3
Gramineae	イネ科	208
Oryza type	イネ属型	18
Cyperaceae	カヤツリグサ科	31
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節	5
Fagopyrum	ソバ属	3
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科 - ヒユ科	9
Caryophyllaceae	ナデシコ科	3
Cruciferae	アブラナ科	6
Vigna	ササゲ属	1
Geranium	フウロソウ属	1
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属 - フサモ属	1
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	1
Apioideae	セリ亜科	3
Lactucoideae	タンポポ亜科	4
Asteroideae	キク亜科	3
Artemisia	ヨモギ属	166
Fern spore	シダ植物胞子	
Monolate type spore	単条溝胞子	20
Trilate type spore	三条溝胞子	7
Arboreal pollen	樹木花粉	45
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	45
Nonarboreal pollen	草本花粉	467
Total pollen	花粉総数	557
Pollen frequencies of 1cm3	試料1cm3中の花粉密度	1.3×10^4
Unknown pollen	未同定花粉	11
Fern spore	シダ植物胞子	27
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)
Stone cell	石細胞	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(+)

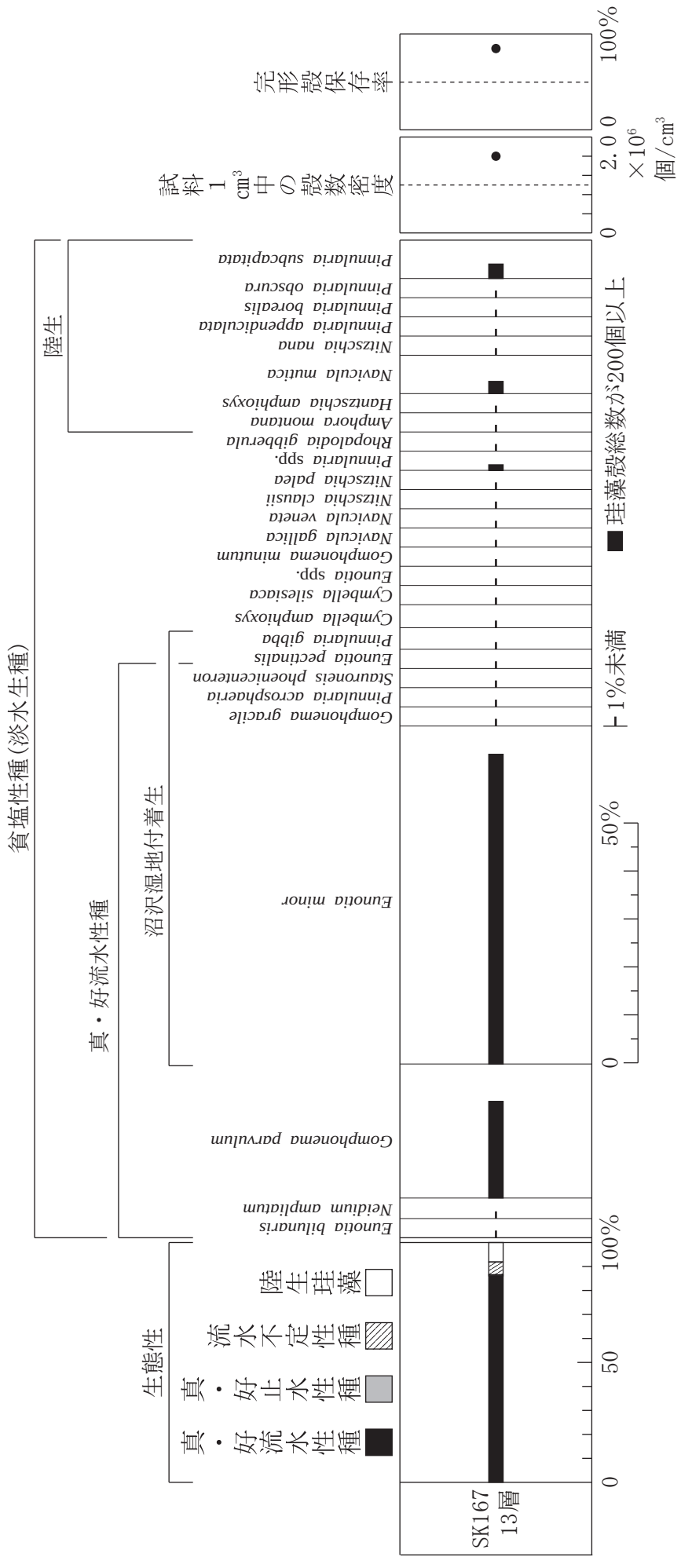
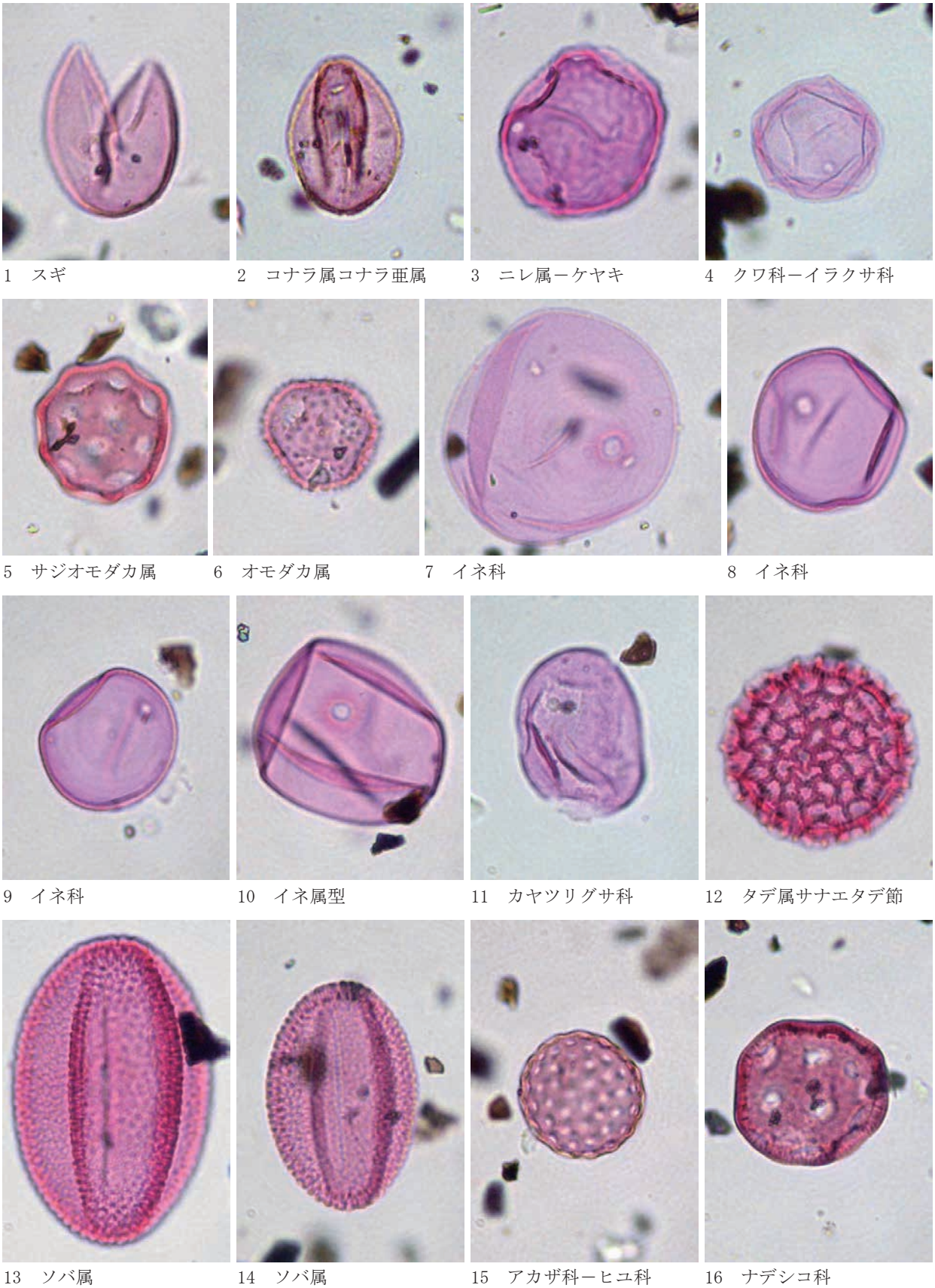


図2　古城林遺跡における主要珪藻ダイアグラム

表２　古城林遺跡における珪藻分析結果

分類群	SK167
	13層
Amphora montana	1
Cymbella amphioxys	1
Cymbella silesiaca	1
Eunotia bilunaris	2
Eunotia minor	279
Eunotia pectinalis	1
Eunotia spp.	2
Gomphonema gracile	1
Gomphonema minutum	1
Gomphonema parvulum	87
Hantzschia amphioxys	4
Navicula elginensis	1
Navicula gallica	1
Navicula mutica	11
Navicula veneta	4
Neidium ampliatum	1
Nitzschia clausii	1
Nitzschia nana	1
Nitzschia palea	1
Pinnularia acrosphaeria	1
Pinnularia appendiculata	1
Pinnularia borealis	3
Pinnularia gibba	1
Pinnularia obscura	1
Pinnularia subcapitata	13
Pinnularia spp.	5
Rhopalodia gibberula	4
Stauroneis phoenicenteron	1
Surirella angusta	1
合　計	432
未同定	2
破片	77
試料１cm^{3}中の殻数密度	1.6 ×10 6
完形殻保存率（%）	84.9
Trilate type spore	三条溝胞子
Arboreal pollen	樹木花粉
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉
Nonarboreal pollen	草本花粉
Total pollen	花粉総数
Pollen frequencies of 1cm^3	試料１cm^{3}中の花粉密度
Unknown pollen	未同定花粉
Fern spore	シダ植物胞子
Helminth eggs	寄生虫卵
Stone cell	石細胞
Digestion rimeins	明らかな消化残渣
Charcoal fragments	微細炭化物

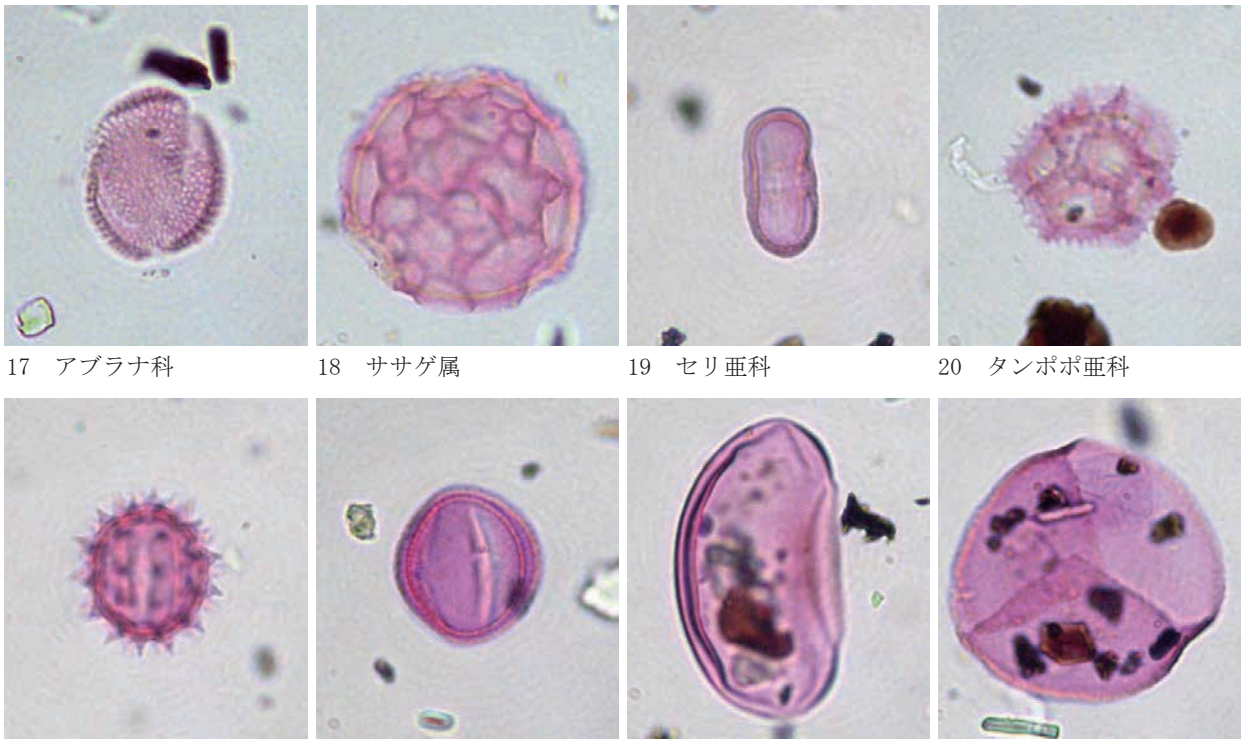
古城林遺跡の花粉・胞子Ⅰ



1　スギ　2　コナラ属コナラ亜属　3　ニレ属－ケヤキ　4　クワ科－イラクサ科
5　サジオモダカ属　6　オモダカ属　7　イネ科　8　イネ科
9　イネ科　10　イネ属型　11　カヤツリグサ科　12　タデ属サナエタデ節
13　ソバ属　14　ソバ属　15　アカザ科－ヒユ科　16　ナデシコ科

10 μm

古城林遺跡の花粉・胞子Ⅱ

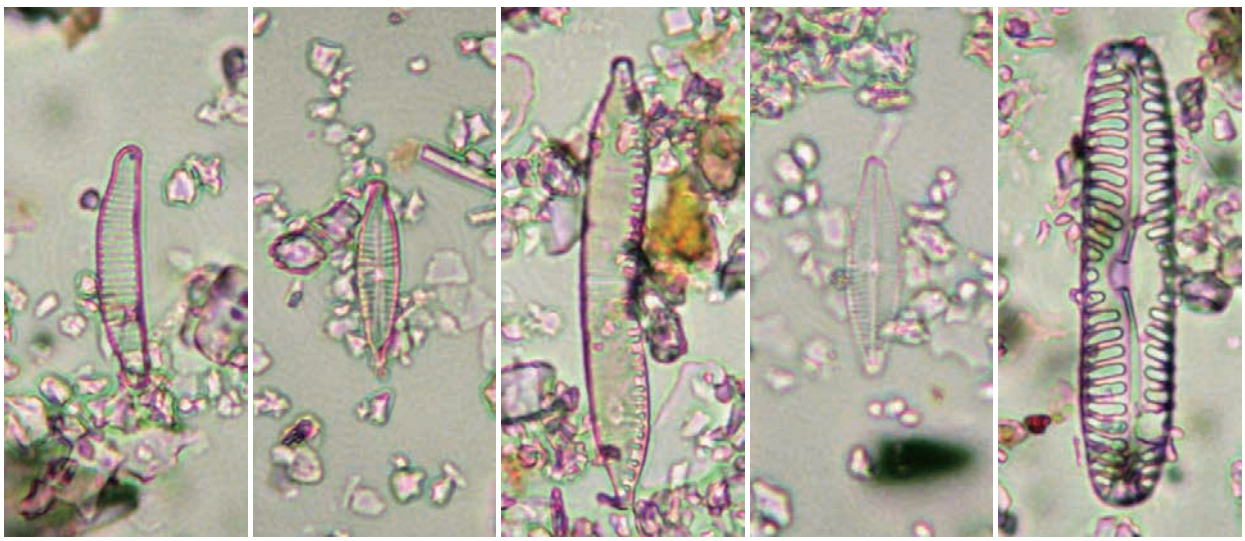


17　アブラナ科　18　ササゲ属　19　セリ亜科　20　タンポポ亜科

21　キク亜科　22　ヨモギ属　23　シダ植物単条溝胞子　24　シダ植物三条溝胞子

10μm

古城林遺跡の珪藻



25　*Eunotia minor*　27　*Hantzschia amphioxys*　28　*Navicula veneta*　29　*Pinnularia borealis*

10μm

古城林遺跡の種実

1　カヤツリグサ科果実

0.5mm

4　古城林遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定

明治大学文化財研究施設運営委員　杉原重夫
明治大学文化財研究施設　金成太郎
明治大学文学部 RA　佐藤裕亮
弦巻千晶
2012年１月20日　明治大学文化財研究施設

１．は　じ　め　に

考古学研究では、遺物が遺跡へと至るまでの来歴を辿ることによって、個々の時代における人々の行動様式や流通関係に迫ることが可能となる。特に狩猟・採集によって生計を立てていたと考えられている石器時代においては、石器に使用する石材の原産地推定が、空間的な人の動きに迫るための有効な分析方法となる。なかでも、火山の噴出物として生成された黒曜石は、結晶構造をもたず、斑晶の含有量が少ないことから元素組成が安定おり、このような黒曜石の岩石学的特質に着目して、今日まで様々な理化学的分析方法を用いた原産地推定が行われている。特に蛍光Ｘ線分析装置を用いた分析は、装置の操作や測定の前処理が容易である点や、特に資料を非破壊で測定できるなどといったメリットにより、考古資料の扱いに適している。また、比較的短い時間で測定できるという点で、分析対象が出土遺物全般におよぶ石器研究においては非常に有効な測定手段といえる。以上のような経緯で、今回も蛍光Ｘ線分析装置を用いた原産地推定を行った。石器石材（黒曜石・サヌカイト等）の元素組成を根拠とした原産地推定のフローチャートを図１に示す。

２．測　定　方　法

蛍光Ｘ線法を用いて黒曜石の正確な元素分析値を得るには、内部が均質で表面形態が一様な試料を作成し、検量線法などによって定量的に分析を行うのが一般的である。そのためには、試料を粉砕してプレスしたブリケットを作成するか、もしくは溶融してガラスビードを作成する必要がある。しかしながら、遺跡から出土した遺物は、通常、非破壊での測定が要求されるため、上記の方法をとることは困難である。そのため、遺物に直接Ｘ線を照射する定性（半定量）分析が行われている。このような直接照射によって発生する蛍光Ｘ線の強度そのものは、試料の状態や装置の経年変化によって変動する可能性が高いが、特定元素の強度同士の比を採った場合はその影響は小さいと考えられている。今回は測定強度比をパラメータとして原産地推定を行った。

３．試料の前処理

比較用の産出地採取原石については、必要に応じて新鮮な破断面または研磨面を作製し、超音波洗浄器によるクリーニングを行った。遺跡出土石器は、多くの場合新鮮で平滑な剥離面があるため、試料表面をメラミンスポンジとアルコールで洗浄してから測定を行った。特に汚れがひどい遺物のみ超音波洗浄器を用いた。

４．装置・測定条件

蛍光Ｘ線の測定にはエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置 JSX-3100s（日本電子株式会社）を用いた。Ｘ線管球は、ターゲットがRh（ロジウム）のエンドウインドウ型を使用した。管電圧は30kV、電流は抵抗が一定となるよう自動設定とした。Ｘ線検出器はSi（ケイ素）/Li（リチウム）半導体検出器を使用した。試料室内の状態は真空雰囲気下とし、Ｘ線照射面径は15㎜とした。測定時間は、240secである。測定元素は、主成分元素はケイ素（Si）、チタン（Ti）、アルミニウム（Al）、鉄（Fe）、マンガン（Mn）、マグネシウム（Mg）、カルシウム（Ca）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）の計９元素、微量元素はルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の計４元素の合計13元素とした。また、Ｘ線データ解析ソフトには、明治大学文化財研究施設製；JsxExtを使用した。

５．原産地推定の方法

黒曜石はケイ酸、アルミナ等を主成分とするガラス質火山岩であるが、その構成成分は産出地による差異が認められる。とりわけ微量元素のRb、Sr、Y、Zrでは産出地ごとの組成差がより顕著となっている。望月は、この産地間の組成差から黒曜石の産地推定が可能であると考え、上記の４元素にK、Fe、Mnの３元素を加えた計７元素の強度比を組み合わせることで産地分析を行っている（望月ほか1994、望月1997）。これら７元素による原産地分析の有効性は、ガラスビードを用いた定量分析によっても裏付けられている（嶋野ほか2004）。ここでも、上記した望月の判別方法に準拠する形をとることとし、原産地推定のパラメータにRb分率｛Rb強度×100/（A ＝ Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）｝、Sr分率（Sr強度×100/A）、Mn強度×100/Fe強度、log（Fe強度/K強度）を用いて判別図を作製し、判別分析はZr分率（Zr強度×100/A）を加えて行った。

６．黒曜石原産地の判別

６－１．判別図

判別図は、視覚的に分類基準が捉えられる点、および判定基準が分かりやすいというメリットがある。また、測定結果の提示に際し、読者に理解しやすいという点も有効であろう。まず、各産出地採取試料（基準試料）の測定データを基に２種類の散布図（Rb分率 vs Mn ×100/Fe、Sr分率 vs log（Fe/K））を作製し、各原産地を推定するための判別域を決定した。次に遺物の測定結果を重ね合わせて大まかな判別を行った。基準試料の測定強度比の平均値を表1に示す。

６－２．判別分析

判別図や測定値の比較による原産地の推定は、測定者ごとの恣意的な判断を完全に排除することは難しい。そこで、多変量解析の一つである判別分析を行った。判別分析では、上記のパラメータを基にマハラノビス距離を割り出し、各原産地に帰属する確率を求めた。距離と確率とは反比例の関係にあり、資料と各原産地の重点間の距離が最も短い原産地（群）が第一の候補となる。なお、分析用ソフトには明治大学文化財研究施設製；MDR1.02を使用した。また、判別結果の参考資料として、各原産地（重点）間のマハラノビス距離を提示した（表２）。

7．黒曜石原産地の名称と地理的な位置づけ

北海道・東北地方の黒曜石原産地（附図１）の選定にあたっては、日本の黒曜石産出地データベース（杉原・小林2004、2006）を使用し、この中から、既存の文献・資料を参考にして現地調査を行い、石器石材に利用可能と思われる黒曜石の産出地を選択した（金成ほか2007、2010）。

黒曜石原産地（obsidian source）の判別にあたっては、各産出地を火山体、島嶼、河川流域、岩石区等の地形・地質的条件によって枠組みを行い、これを「地区；area」と名づけ、現在、黒曜石を産出する地点（露頭・散布地など）を「原石産出地（単に産出地とよぶ）；point」とした。今回の原産地推定に使用した「系；series」は、「地区」内の「産出地」のうち、蛍光Ｘ線分析の結果に地形・地質情報を参考にして判別された地理的に隣接する「産出地」群である。また、それぞれの「系」内の黒曜石産出地については、火道や貫入岩の位置、噴出物の産状や分布状態、黒曜石の岩石学的特徴（含有する斑晶鉱物、球顆の有無、色調、透明度など）についても検討を行い、この原産地設定が火山地質学的に有意義であることを確認している。ただし、同一の「系」内の産出地でも、複数の判別域が存在する場合や、異なる「系」同士で判別が困難な例も存在する。同一「系」内の地域において岩石学的に有意に元素比が異なる原石が混在して産出する場合は、「A、B、C…」の様に区分する。黒曜石産出地には、噴出源に近い一次産出地のほか、河川や海流によって遠方に運ばれた二次産出地があり、ここでの判別域は、必ずしも考古学的原産地（石器時代における採取地）を示すのではないことは言うまでもない。

表３　北海道・東北地方における黒曜石原産地の区分

	地区（area）	系（series）	産出地（point）	産出量
a）北海道地方	名寄地区	名寄系	智恵文川，忠烈布川，朝日川，下川橋	△
	白滝地区	赤石山系	赤石山，八号沢，球顆の沢，幌加沢，流紋沢川，幌加蜂の巣沢，幌加湧別川，湧別川	◎
		十勝石沢系	十勝石沢の露頭，十勝石沢川，白土の沢，あじさいの滝，IK露頭，幌加蜂の巣沢，幌加湧別川（野宿の沢），湧別川	◎
	社名淵地区	社名淵系	サナブチ川，湧別川	△
	生田原地区	生田原系	仁田布川，背谷牛山南東麓	○
	置戸地区	置戸山系	置戸山，訓子府川，墓地の沢川，常呂川	○
		所山系	所山，オンネアンズ川，墓地の沢川，常呂川	○
	ケショマップ地区	ケショマップ系	ケショマップ川，七ノ沢（武利川）	△
	旭川地区	旭川系	高砂台（雨粉台），近文台，	ー
	滝川地区	滝川系	江部乙，秩父別，大和，美葉牛	ー
	十勝地区	上士幌系	十一の沢，タウシュベツ川，芽登川，旭ヶ丘，居辺川，音更川	○
		美蔓系	十勝川，鎮練川，佐幌川	△
	赤井川地区	赤井川系	土木川	○
	豊浦地区	豊浦系	豊泉	△
b）東北地方	小泊地区	小泊系	小泊中学校，折腰内	ー
	西青森地区	西青森系	鷹森山，天田内川，新城川	ー
	岩木山地区	岩木山系	出来島，鳴沢川（建石町），中村川，鶴ヶ坂	△
	深浦地区	深浦系	六角沢，岡崎浜	△
	男鹿地区	男鹿系	金ヶ崎，脇本	○
	北上地区	北上系	雫石（小赤沢），折居，花泉	ー
	月山地区	月山系	田代沢・大越沢，長防山，上野新田（小野木山）	○
	湯の倉地区	湯の倉系	湯の倉	ー
	色麻地区	色麻系	東原	△
	秋保地区	土蔵系	土蔵，水上南	ー
		馬場町北系	馬場町北	○

産出量：◎多，○有，△少，ー極少

a）北海道地方

「名寄地区」：名寄盆地周辺の智恵文丘陵や忠烈布丘陵では、丘陵地を構成する第三紀中新世の陸成堆積物（川西層：北海道立地下資源調査所1994）中から洗い出された黒曜石が、河床礫として産出する（吉谷ほか1999a；向井ほか2000）。黒曜石円礫の表面は不透明で灰黒色をなし、特徴的な爪痕状の溝や虫食い状の窪みが認められる。黒曜石の産出量が多いのは、忠烈布丘陵を刻む忠烈布川上流や朝日川の河床であり、智恵文丘陵における黒曜石の産出は少ない。

「白滝地区」：白滝地区は、日本における最大級の黒曜石産出地である（木村1995；北海道埋蔵文化財センター 1998；向井ほか2000；杉原2003）。この地域については、古くからカルデラの存在が指摘されており（国府谷ほか1964）、黒曜石はカルデラ内に形成された溶岩ドームから噴出したものと考えられる。このうち赤石山（標高1,147m）では、ビュートまたはメサ状の地形の山頂部に厚さ約50m の黒曜石溶岩が認められる。ここから産出するのは数cm～数mm大の球顆を含む黒色黒曜石、球顆をまったく含まない漆黒色の黒曜石、真紅の流れ模様をもつ黒曜石、赤褐色部分がブロック状に入る黒曜石など岩相は多様である（鈴木2007；直江2009の赤石山系）。八号沢の露頭では、赤石山の黒曜石溶岩の基底部付近が露出している。

また、赤石山南方約 3 kmでメサ状の地形として残る標高872m の山頂部にも厚さ 5 m 前後の黒曜石質溶岩が認められ、この山体を刻む十勝石沢露頭や白土の沢からは多量の黒曜石岩塊が周辺の河谷に供給されている。十勝石沢川（通称でんぷん沢）沿いで見られる黒曜石礫は、すべてこの山頂部からの転石である。ここから産出する黒曜石は梨肌状とよばれるザラザラした割れ面に特徴がある（鈴木2007；直江2009の梨肌系）。梨肌状の黒曜石は、このほか赤石山南西側の流紋沢川付近の林道でも転石として認められるが、供給源は不明である。

さらに、あじさいの滝、IK 露頭の黒曜石原産地は、赤石山東麓の標高800～850m 付近に位置しており、肉眼観察結果では赤石山山頂の漆黒色の黒曜石と酷似するが、後述の通り蛍光 X 線分析では十勝石沢露頭や白土の沢の黒曜石と同じ化学組成を示す（鈴木2007；直江2009のあじさい滝系）。

幌加沢、幌加蜂の巣沢（あじさいの滝下流）、幌加湧別川では、上記の黒曜石が河床礫として混在して産出する。これらのほかに、幌加湧別川支流の野宿の沢やカルデラ内で黒曜石溶岩の下位に広く分布する第三紀鮮新世の火砕流堆積物（国府谷ほか1964の幌加湧別溶結凝灰岩の一部）からも黒曜石を産出するが、詳しい調査は行われていない。白滝地区の黒曜石は湧別川沿いの河岸段丘や現河床にも多く認められ、約60km離れた湧別川河口のオホーツク海の海底からも発見されている（赤松ほか1996）。

「社名淵地区」：遠軽市街地北方で湧別川に合流するサナブチ川では、社名淵付近において、河床から黒曜石の小円礫が採取できる（向井・和田2003；向井2003）。これらの黒曜石はサナブチ川上流域の社名淵層（八幡ほか1988）の礫岩層中に含まれていたものが、洗い出されたと考えられる。また、サナブチ川と上モベツ川の分水界領域には第三紀中新世の藻別層（八幡ほか1988）と呼ばれる流紋岩溶岩が広く分布し、ここから黒曜石や真珠岩（パーライト）が産出する。上モベツ川沿いには黒曜石岩脈の露頭があり、ここから崖錐堆積物として供給された黒曜石が上モベツ川沿いに河床礫として分布する（旭川市博物館2003）。ただし、この露頭や河床で採取されるのは脆く崩れ易い松脂岩（ピッチストーン）である。これらの地域には、ほかにも多数の貫入岩があり、黒曜石の産出も知られているが詳細は不明である。また、湧別川沿いでも社名淵付近の丘陵地から供給されたと考えられる黒曜石が認められる。なお、黒曜石の割れ面はプラスチック

のような樹脂状光沢があり独特である。

「生田原地区」：生田原では背谷牛山（標高624m）の南東麓及び、周辺を流れる仁田布（にいたっぷ）川沿いで黒曜石が採取できる（向井ほか2004）。この地域では背谷牛山溶岩（安山岩）の下位に中新世の流紋岩（生田原層：山田ほか1963；野地ほか1967）が分布しており、この中から産出すると考えられる。

「置戸地区」：置戸町の置戸山（標高550m）と所山（標高580m）の２ヶ所では、第三紀鮮新世における流紋岩質溶岩の噴出に伴い黒曜石を産出する（鈴木1964；沢村・秦1965；向井ほか2002;旭川市博物館2003）。これらの山塊はいずれも独立した溶岩ドームないし溶岩流の地形（またはその名残）と考えられるが、地表面は崖錐堆積物やロームに覆われていて、露頭における岩体の確認はできていない。置戸山の黒曜石は南西麓の林道沿いの崖錐堆積物や北麓沿いの訓子府川で認められるだけである。一方、所山の黒曜石は、山頂付近や林道沿いの崖錐堆積物中に直径50㎝大から拳大の岩塊や角礫として分布する。これらの黒曜石は、墓地の沢川やオンネアンズ川が合流する常呂川沿いに北見市内まで河床礫として認められる（杉原ほか2009）。

「ケショマップ地区」：遠軽町丸瀬布と北見市留辺蘂町にまたがる華勝真布山（標高1,162m）では、山麓部分を構成する凝灰角礫岩層（トムイルベシベ層：酒匂ほか1964）から黒曜石の角礫を産出し、分布地域周囲の沢に多くの転石として認められる。これらの黒曜石は、河床礫として丸瀬布方面では七ノ沢から武利川へ、留辺蘂方面ではケショマップ川から無加川へと運ばれていている（旭川市博物館2003）。

「旭川・滝川地区」：旭川市の高砂台（雨粉台）、近文台および滝川市江部乙町や、周辺の秩父別町中山、新十津川町大和、北竜町美葉牛の盆地周辺では低い丘陵や段丘を構成する砂礫層（鮮新世の旭川層下部）中から黒曜石の円礫～亜円礫を産出する（鈴木1955；向井1999；向井・和田2001）。噴出源から石狩川水系によって運ばれてきたと考えられるが、その噴出地点は不明である。これらの黒曜石は表面が風化して灰色に変質していて、不均質に溶蝕された虫食い状の溝がある。黒曜石には漆黒色で破断面が透き通ったものや灰色で斑晶が認められるものなども存在する。

「十勝地区」：十勝平野では、丘陵地や台地を構成する堆積物（段丘礫層）中や現河床に広範囲にわたり黒曜石が産出する（大場・松下1965；佐々木1979；松澤ほか1981；旭川市博物館2003；向井・和田2004；吉谷2004）。その供給源の１つとして音更川水系最上流部の十勝三股付近が指摘されている（吉谷ほか1999a）。十勝三股付近の十一の沢（旧十三の沢）やタウシュベツ川沿いでは、人頭大から直径10㎝前後の亜角礫～円礫の黒曜石が多量に産出し、いずれも河床礫や崖錐堆積物中の転石である。吉谷ほか（1999b）により糠平湖上流部で軽石流堆積物中から黒曜石の産出が指摘されているが、その噴出源については未だ明らかでない。十勝三股一帯の盆地については、約１Maに大規模火砕流の噴出によって形成された長径約14㎞のカルデラ（十勝三股カルデラ）の存在が明らかになっている（石井ほか2008）。しかし黒曜石の産出地が南クマネシリ岳南・西麓の流紋岩質岩類である十勝幌加層（山岸・松波1976）の分布地域に限られていること、タウシュベツ川産黒曜石のフィッション・トラック年代（4.1±0.4Ma：未公表、以下FT年代）から黒曜石を生成した噴火は、このカルデラが形成されるかなり以前であると考えられる。十勝三股付近から産出した黒曜石は、上士幌付近から音更川のほか芽登川、居辺川、士幌川、利別川流域に広がる広大な十勝平野に分布する。なかでも芽登川上流の旭ヶ丘付近（旭丘牧場）の光地園面を構成する上旭ヶ丘礫層（松澤ほか1978；十勝平野、地質図及び地形面区分図編集委員会編 1981）からは大量に黒曜石礫が産出し、これより下流部の低位の段丘群でも認められている。こうした

段丘礫や河床礫として産出するものは、衝突痕に覆われているものが多い。これらの産出地の黒曜石は漆黒色のものが多いが、なかには赤色の流れ縞模様があるもの（紅十勝・花十勝）も産出する。

このほか十勝川とその支流である然別川、鎮錬川、久山川、佐幌川流域では、台地からの洗い出しと考えられる黒曜石の円礫が認められる。藁科・谷島（1992）は十勝川と然別川に挟まれた美蔓台地において、台地を構成する美蔓礫層（松澤ほか1978）中から黒曜石を採取している。美蔓台地から産出する黒曜石は、上士幌周辺のものと供給源が異なると考えられるが、噴出源の火山は明らかでない。

「赤井川地区」：赤井川カルデラ周辺の丘陵地のうち、余市川支流の土木川の河床とその上流に続く林道沿いで、人頭大から直径数cm程度の黒曜石が崖錐堆積物や河床礫として多量に産出し、同じ丘陵地を刻む曲川や白井川沿いの沢でも採取されている（旭川市博物館2003；向井ほか2004）。この黒曜石を含む流紋岩質噴出物は余市川南岸沿いに露出する厚い白色火砕流堆積物の上位を占めると考えられるが、黒曜石の岩体自体は観察されていない。この地域は外側の余市川カルデラと内側の赤井川カルデラの二重の陥没地形を形成しており（太田ほか1954；横山ほか2003）、黒曜石がどの噴火活動に関連する堆積物なのかは明らかでない。だが、FT 年代（2.4 ± 0.2Ma：未公表）からは赤井川カルデラの形成初期かそれ以前の噴出物である可能性が強い。なお、赤井川カルデラ内でも黒曜石の小礫が転石として認められるが、それらはカルデラ内に噴出した永沢火山噴出物（横山ほか2003）に含まれる黒曜石レンズに由来するものであろう。

「豊浦地区」：内浦湾（噴火湾）に臨む豊浦町大岸付近では、豊泉川の河床から黒曜石の亜角礫が産出する（旭川市博物館2003；向井2005a）。黒曜石は二次的に堆積した可能性がある火砕流または泥流堆積物中から産出するが，この地域の地質層序（土居ほか1958）や東方の洞爺カルデラの活動との関係は不明である。

b）東北地方

「小泊地区」：青森県小泊村付近では小泊岬を中心に第三紀冬部層（対馬・上村1959；奥海・前田1963）の流紋岩溶岩に伴い白色の火砕流堆積物としてパーライトが産出し、この中に黒曜石の小礫（マレカナイト）が認められる。小泊中学校脇の大露頭から産出する黒曜石の小礫は灰色～黒灰色で直径５cm前後のものが多い。小泊岬対岸の折腰内（オートキャンプ場付近）でも黒曜石の小礫が採取できる。

「西青森地区」：青森市西部の鶴ヶ坂、鷹森山、戸門、大釈迦などでは、丘陵地を構成する第三紀鮮新世の軽石質凝灰岩（鶴ヶ坂層）や、この上位に重なる更新世の砂礫層（岡野層・前田野目層）中に黒曜石の小円礫（直径５cm以下）が含まれている。また、丘陵を刻む天田内川、新城川などの河谷にも黒曜石が認められる。これらの黒曜石の供給源は岩木山のほか複数あると考えられる（杉原・鈴木2005；向井2006；杉原ほか2008a；齋藤ほか2008）。

「岩木山地区」：青森県西海岸にまたがる七里長浜の出来島海岸などで、円磨された黒曜石が海浜礫として、あるいは海食崖に露出する砂礫層中に認められる（新渡戸・鈴木1983；佐々木1997；向井2005b、2006）。また岩木山北麓（十面沢～十腰内～建石付近）では山麓扇状地の土石流堆積物（黒木1995）や、これに続く台地を構成する海成堆積物（山田野層：小貫ほか1963）や泥流堆積物（鈴木1972）に、人頭大から直径５cm前後の円礫～亜円礫の黒曜石が含まれている。これらの堆積物中の黒曜石は、岩木山の新期火山噴出物（青森県農林部土地改良第一課1987）に由来すると考えられるが、溶岩流や岩屑なだれ堆積物などが未区分のため、火口の位置や噴出時

期は明らかでない。これらの黒曜石が鳴沢川などの河川によって日本海に運ばれて出来島海岸に漂着したと考えられる。このほか岩木山西方の中村川上流の乗廻橋付近では峡谷底から拳大以下の黒曜石礫が産出するが、この黒曜石は、峡谷沿いに露出する軽石質火山灰層（大秋層田代凝灰岩部層：藤田・根本2002；青森県農林水産部農村整備課2004；福田ほか2008；島口2009）からの転石と考えられる。しかし、岩木山北麓の火山麓扇状地堆積物中の黒曜石礫とは堆積時期や産状が異なることから、その起源や噴出年代については今後の調査が必要である。

「深浦地区」：青森県深浦町付近の六角沢の河床や岡崎浜の海浜からは、黒色半透明な黒曜石の小さな亜角礫を産出する（近堂1985；井上1989；佐々木1997；向井2006）。これらの黒曜石は、この付近一帯に広く分布する流紋岩質火砕流堆積物に由来するものと考えられ、その大きさは最大直径約５㎝で、１～３㎝大のものが多い。露頭が少ないためその産状は明らかでないが、なかにはパーライト状の火砕流堆積物からマレカナイトとして産出するものも含まれると考えられる。

「男鹿地区」：男鹿半島では、金ヶ崎海岸と脇本～船越海岸で黒曜石の海浜礫が採取できる（磯村1972、1993、1994；井上1985；佐々木1997；向井2005c）。男鹿半島では、真山～毛無山の山稜から加茂川流域及び金ヶ崎の海岸などに流紋岩質の溶岩や火砕岩が広く分布し、真山流紋岩（類）とよばれている（西男鹿団体研究グループ1972；藤岡1973；深瀬2000；大口ほか2008；小林ほか2008）。真山流紋岩（類）は全体的にガラス質で、金ヶ崎海岸の海浜礫で産出する黒曜石は、この岩体に由来すると考えられる。かつて金ヶ崎海岸沿いの道路敷設工事の際には、「テーブル大」の黒曜石岩塊が産出したことがあるという（五十嵐1968）。脇本付近の海食崖沿いに露出する鮪川（しびかわ）層（北里1975）中の砂礫層からは表面がやや風化した黒曜石の円礫が認められる。鮪川層は更新世中期の堆積物とされており（白石ほか2008）、ここから産出する黒曜石は真山流紋岩（類）からの二次堆積と考えられる。脇本～船越海岸の黒曜石礫は鮪川層中に含まれていたものが、浸食されて海岸に打ち上げられたことが想定できる。

「北上地区」：北上川沿いに南北に連なる盆地内の丘陵地や台地を構成する砂礫層中には、まれに直径数㎝以下の黒曜石礫が認められる。このうち、雫石盆地西縁部の晴山沢や荒沢では、第三系の山津田層（須藤・石井1987；土井ほか1998）最上部のデイサイト質軽石凝灰岩層（火砕流堆積物）や礫層中に黒曜石礫が含まれる。また、小赤沢付近でも第四系の橋場層の砂礫層中に握り拳大の黒曜石の亜円礫が産出する（鈴木1983；井上1989）。このほか、奥州市水沢区の胆沢扇状地末端の折居付近では、段丘礫層に覆われる礫層（折居層：木野1963）中に黒曜石が含まれている（佐島1975）。また、一関市花泉町金沢、老松、日形や一関市真滝、滝沢などにおいて丘陵地を構成する砂礫層（滝沢層：中川1961）中に直径５㎝前後の黒曜石の円礫が認められる（佐島1975；井上1989；佐々木1997；向井2006）。黒曜石の礫径は、北上川の上流で大きく下流で小さい傾向にあり、下流ほど円磨度が増す（吉谷ほか2001）。これらの表面は灰色不透明な水和層の皮膜で覆われていたり、虫食い状の窪みが認められたりする。内部については新鮮な黒色でガラス光沢を示すものが多いが、やや透明度の低い灰黒色のものも含まれる。なお、これら北上川沿いの地帯では、北上川最上流域のいわゆる仙岩地域の火山群が黒曜石の供給源として想定できる。

「月山地区」：山形県では月山・湯殿山と北方の山麓及び丘陵にかけての地域に、月山火山を起源とする火砕流堆積物や、これからの泥流や岩屑なだれの堆積物が広く分布し、この中から各地で黒曜石が産出することが知られている（百瀬1975；神保ほか1964；山形県企画調整部土地対策課1979）。このうち西川町志津の月山荘付近の道路沿いでは、ガラス質凝灰岩中に数㎝以下の黒

曜石角礫が認められる（百瀬1975；井上1989；向井2006）。また湯殿山の南側山腹を刻む田代沢や大越沢では、河床に多量の黒曜石の円礫が散乱している。また、鶴岡市大網付近の長防山（天保堰沿い）や天狗森、今野川に分布するパーライト（百瀬1975；本多・清水1962）は火砕流堆積物と考えられ、小豆大のマレカナイトが多量に含まれるほか、拳大の黒曜石も含まれている。さらに鶴岡市北部一帯には月山からの流れ山と考えられる独立した小丘陵が多数認められ、羽黒町上野新田（小野木山）などで、この流れ山堆積物（笹川岩屑流）から黒曜石の円礫～亜円礫が産出する（百瀬1975；土谷ほか1984；井上1989；大場・石原2000；佐々木1997；向井2006）。

「湯の倉地区」：宮城県宮崎町湯の倉では、鳴瀬川上流にある田川の支谷（澄川）の谷壁に黒曜石の岩脈が露出し、周囲の火砕流堆積物と接する部分の幅150～200㎝に角礫状の黒曜石が産出する。また、黒曜石礫は周辺の火砕流堆積物中にも含まれているほか、田川の河床でも円礫として採取することが可能である（井上1985；佐々木1997）。この火砕流堆積物は、永志田層（庄司1958；宮城県企画部土地対策課1993）などとよばれている。

「色麻（しかま）地区」：宮城県色麻町愛宕山付近（根岸）では、丘陵を構成する東原層（北村ほか1981）とよばれる砂礫層が20～30m の厚さで発達する。この砂礫層の限られた層準内に黒曜石の円礫が多量に含まれる（佐々木1997）。黒曜石礫は直径5㎝程度のものが多く、いずれも風化のため周囲がパーライト状に白濁変質して脆いものが多いが、内部にクルミ大～枇杷の種状のマレカナイトが含まれている。

「秋保（あきう）地区」：仙台市西部の丘陵性山地には、第三紀中新世の流紋岩質凝灰岩を含む火山性堆積物が広く分布することが知られている。このうち名取川上流部にあたる仙台市秋保町馬場町北（大雲寺の北側）には、流紋岩によって構成される丘陵が認められている（宮城県企画部土地対策課1985）。この丘陵は火山岩頸（volcanic neck）の地形と考えられる。岩脈縁辺部（幅50㎝前後）には黒曜石が認められ、山麓では崖錐堆積物（ローム）中に黒曜石が角礫として多く散乱する（向井2006）。ただしこの黒曜石は斑晶鉱物を多く含むことから、割れ面が平滑にはならない。また土蔵付近の丘陵地では、安山岩や流紋岩を含む砂礫層（白沢層の馬場凝灰岩）中に黒曜石の円礫～亜円礫が含まれている（高橋・野田1965；井上1985）。これらの砂礫層中の黒曜石は谷筋沿いの林道（水上南）で転石として認められるほか、土蔵付近では水田の耕作土からも採取できる（井上1985；佐々木1997）。土蔵付近の黒曜石は、表面が風化している。

8．石器の原産地推定結果

今回測定したのは、岩手県奥州市古城林遺跡（縄文時代・古代・中近世）から出土した黒曜石製遺物である。測定した遺物は５点であり、原産地が判別できた遺物は２点であった。

原産地推定の結果は、北上地区北上系Ａが２点であった。

9．お　わ　り　に

黒曜石製遺物の原産地推定は、明治大学文化財研究施設に設置されている「黒曜石原産地推定システム」で行ったものである。なお、この報告書を参考に論文を作成する場合は、原産地推定の結果を遺物の出土状況からも検討していただきたい。

引用・参考文献

青森県農林水産部農村整備課　2004　『土地分類基本調査「川原平」（５万分の１）』、35p.
青森県農林部土地改良第一課　1987　『土地分類基本調査「五所川原」（５万分の１）』、47p.
赤松守雄・本吉春雄・右代啓視　1996　「オホーツク海底上で採集される黒耀石礫とその意義」北海道開拓記念館研究紀要、24、pp.9-16.
旭川市博物館　2003　『黒曜石展―産地を巡って―』第36回企画展、61p.
五十嵐芳郎　1968　「秋田産黒耀石」出羽路、38、pp.47-50.
石井英一・中川光弘・斎藤　宏・山本明彦　2008　「北海道中央部、更新世の十勝三股カルデラの提唱と関連火砕流堆積物―大規模火砕流堆積物と給源カルデラの対比例として―」地質学雑誌、114、pp. 348-365.
磯村朝次郎　1972　「男鹿半島産の黒曜石の原石について」男鹿半島研究、１、pp.17-20.
磯村朝次郎　1993　「男鹿半島における石器原石の採取地について」日本海域文化研究所所報、２、pp.1-3.
磯村朝次郎　1994　「再び男鹿半島における石器原石について」日本海域文化研究所所報、３、pp.1-2.
井上真理子　1985　「大木囲貝塚出土の黒曜石製石器の原石起源について」北奥古代文化、16、pp.1-31.
井上真理子　1989　「縄文時代の物と人の動き―東北地方の黒曜石原石産地と大木囲貝塚との関係―」考古学論叢、２、pp.225-249.
大口健志・鹿野和彦・小林紀彦・佐藤雄大・小笠原憲四郎　2008　「男鹿半島の火山岩相―始新世～前期中新世火山岩と戸賀火山」日本地質学会第115年学術大会見学旅行案内書、pp.17-32.
大関将美・菅原洵　2002　「比重測定による東北地方の縄文遺跡出土の黒曜岩原産地推定」まほら、宮城県迫桜高等学校生徒会、創刊号、pp.71-75.
太田良平・上村不二雄・大沢あつし　1954　『５万分の１地質図幅「仁木」および同説明書』北海道開発庁、55p.
大場利夫・松下　亘　1965　「北海道の先土器時代」日本の考古学　先土器時代、Ⅰ、pp.174-197.
大場与志男・石原慈子　2000　「山形県月山周辺の黒曜石・パーライト」山形大学紀要（自然科学）、14[4]、pp.161-168.
奥海　靖・前田勝春　1963　「青森県小泊村および市浦村のパーライト」東北の工業用鉱物資源、３、pp.234-237.
小貫義男・三位秀夫・島田昱郎・竹内貞子・石田琢二・斎藤常正　1963　「青森県津軽十三湖地域の冲積層」東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告、58、pp.１-36.
金成太郎・杉原重夫・長井雅史・柴田 徹　2007　「北海道における黒曜石の原産地に関する定量・定性分析」日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集、pp.232-233.
金成太郎・杉原重夫・長井雅史・柴田 徹　2010　「北海道・東北地方を原産地とする黒曜石の定量・定性分析―黒曜石製遺物の原産地推定に関わる研究―」考古学と自然科学、60、pp.57-81.
北村　信・大沢　穠・石田琢二・中川久夫　1981　『「古川地域の地質」地域地質研究報告（５万分の１図幅)』地質調査所、32p.
木野義人　1963　「表層地質説明書」『土地分類基本調査　地形・表層地質・土じょう調査「水沢」（５万分の１)』経済企画庁、pp.1-42.
北里　洋　1975　「男鹿半島上部新生界の地質および年代」東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告、75、pp.17-49.
木村英明　1995　「黒曜石・ヒト・技術」北海道考古学、31、pp.3-63.
黒木貴一　1995　「岩木山北麓の火山麓扇状地」季刊地理学、47[4]、pp.285-301.
国府谷盛明・長谷川潔・松井公平　1964　『５万分の1地質図幅「白滝」および同説明書』北海道開発庁、35p.
小林紀彦・大口健志・鹿野和彦　2008　「東北日本、男鹿半島門前層層序の再検討」地質調査研究報告、59、pp.211-224.
近堂祐弘　1985　「北海道・東北地域の黒曜石研究」考古学ジャーナル、24、pp.7-11.
齋藤　岳・杉原重夫・金成太郎・太田陽介　2008　「青森県ムシリ遺跡・十腰内（２）遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定」青森県立郷土館調査研究年報、32、pp.11-24.
酒匂純俊・浅井　宏・金山喆祐　1964　『５万分の１地質図幅「北見富士」および同説明書』北海道開発庁、31p.
佐々木繁喜　1979　「十勝石について」十勝考古、３、pp.11-24.
佐々木繁喜　1997　「東北地方の黒曜石」岩手考古学、９、pp.45-83.
佐島三郎　1975　「胆沢扇状地出土の黒耀石」ふるさと、36、pp.1-3.
沢村孝之助・秦　光男　1965　『５万分の1地質図幅「留辺蘂」および同説明書』北海道開発庁、46p.
島口　天・齋藤　岳・柴　正敏　2009　「弘前市中村川支流の孫産童子沢に分布する凝灰岩産黒曜石」青森県立郷土館研究

紀要、33、pp.35－38.
嶋野岳人・石原園子・長井雅史・鈴木尚史・杉原重夫　2004　「波長分散型蛍光Ｘ線分析装置による日本全国の黒耀石全岩定量分析」日本文化財科学会第21回大会研究発表要旨集、pp.140－141.
白石建雄・白井正明・西川　治・鈴木隼人・古橋恭子・星多恵子　2008　「男鹿半島―能代地域の地形と第四系」日本地質学会第115年学術大会見学旅行案内書、pp.33－50.
庄司力偉　1958　「宮城県北西部亜炭田地域の地質―鮮新統に発達する堆積輪廻の生成に関する研究―」東北鉱山、5、pp.1－25.
神保　悳・吉田　昭・島崎恵造・玉ノ井正俊　1964　「表層地質各論」『土地分類基本調査　地形・表層地質・土じょう調査「湯殿山」（５万分の１）』経済企画庁、pp.1－23.
杉原重夫　2003　「日本における黒耀石の産出状況」駿台史学、117、pp.159－174.
杉原重夫・小林三郎　2004　「考古遺物の自然科学的分析に関する研究―黒耀石産出地データベース―」明治大学人文科学研究所紀要、55、pp.1－83.
杉原重夫･鈴木尚史　2005　「青森県三内丸山遺跡出土―縄文時代黒曜石遺物の産地推定―」特別史跡三内丸山遺跡年報、9、pp.22－35.
杉原重夫・小林三郎　2006　「文化財の自然科学的分析による文化圏の研究」明治大学人文科学研究所紀要、59、pp.43－94.
杉原重夫･金成太郎･杉野森淳子　2008a　「青森県出土黒曜石製遺物の産地推定」青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要、13、pp.41－60.
杉原重夫･金成太郎･柴田　徹･長井雅史　2009　「北海道、置戸安住遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定」旧石器研究、５、pp.131－150.
鈴木　醇　1955　『５万分の１地質図幅「旭川」および同説明書』北海道開発庁、38p.
鈴木隆介　1972　「岩木火山の変位」地理学評論、45［11］、pp.733－755.
鈴木隆英　1983　「岩手県岩手郡雫石町小赤沢産の黒曜石について」紀要、３、岩手県埋蔵文化財センター、pp.45－78.
鈴木宏行　2007　「原産地遺跡における遺跡間変異研究―北海道遠軽町白滝遺跡群出土の小型舟底形石器石器群を対象として―」考古学談叢、東北大学大学院文学研究科考古学研究室　須藤隆先生退任記念論文集刊行会、pp.109－129.
鈴木　守　1964　「置戸町の黒曜石」北海道立地下資源調査所報告、32、p.80.
須藤　茂・石井武政　1987　『「雫石地域の地質」地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）』地質調査所、142p.
高橋兵一・野田素子　1965　「宮城県川崎村腹帯北方のパーライト」東北の工業用鉱物資源、５、pp.112－114.
対馬坤六・上村不二雄　1959　『５万分の1地質図幅「小泊」および同説明書』地質調査所、37p.
土谷信之・大沢　穠・池辺　穣　1984　『「鶴岡地域の地質」地域地質研究報告（５万分の１図幅）』地質調査所、77p.
土居繁雄・松井公平・藤原哲夫　1958　『５万分の１地質図幅「豊浦」および同説明書』北海道開発庁、40p.
土井宣夫・越谷　信・本間健一郎　1998　「岩手県雫石盆地北―西縁部の地質と活断層群の垂直変位量」活断層研究、17、pp.31－42.
十勝平野、地質図および地形面区分図編集委員会編　1981　『十勝平野、地質図および地形面区分図（1/200, 000）』.
直江康雄　2009　「白滝産黒曜石の獲得とその広がり」旧石器研究、５、pp.11－22.
中川久夫　1961　「本邦太平洋沿岸地方における海水準静的変化と第四紀編年」東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告、54、pp.１－61.
西男鹿団体研究グループ　1972　「男鹿半島南西部戸賀―門前間の地質」地球科学、26［5］、pp.183－194.
新戸渡隆・鈴木克彦　1983　「日本海七里長浜の黒曜石原石採取踏査」考古風土記、８、pp.90－100.
野地正保・渡辺 順・魚住　悟・鈴木　守　1967　『５万分の１地質図幅「丸瀬布」および同説明書』北海道開発庁、28p.
深瀬雅幸　2000　「男鹿半島、前期中新世流紋岩の岩石学（演旨）」日本地質学会第107年学術大会講演要旨、pp.176.
福田友之・齋藤　岳・島口　天　2008　「青森県弘前市中村川上流域の黒曜石産地」青森県立郷土館調査研究年報、32、pp.９－10.
藤岡一男　1973　「男鹿半島の地質（付図：５万分の１）」日本自然保護協会調査報告、男鹿半島自然公園学術調査報告、44、pp.５－34.
藤田一世・根本直樹2002「青森県西津軽地域における鮮新統テフラの対比」地学団体研究会第56回北海道総会プログラム、講演要旨、pp.161－162.
北海道埋蔵文化財センター　1998　『白滝遺跡群を掘るⅠ―上白滝8遺跡の調査―』、23p.

北海道立地下資源調査所　1994　『名寄市の地質と地下資源』名寄市、106p.
本多朔郎・清水貞雄　1962　「山形県朝日村大網のパーライト」東北の工業用鉱物資源、２、pp.292－295.
松澤逸巳・右谷征靖・川添　熙・春日井昭・木村方一・野川　潔・松井　晋　1978　「北部十勝地域」地団研専報　十勝平野、22、pp.142－161.
松澤逸巳・松井　愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中　実・小久保公司　1981　『地域地質研究報告　５万分の１地質図幅　釧路（2）第42号「帯広地域の地質」』地質調査所、82p.
宮城県企画部土地対策課　1985　『土地分類基本調査「川崎・山形」（５万分の１）』宮城県、63p.
宮城県企画部土地対策課　1993　『土地分類基本調査「鳴子・薬莱山」（５万分の１）』、70ｐ.
向井正幸　1999　「旭川から産出する黒曜石について」旭川市博物館研究報告、５、pp.43－56.
向井正幸　2003　「遠軽町社名淵地域に分布する黒曜石の特徴」旭川市博物館研究報告、９、pp.27－30.
向井正幸　2005a　「紋別地域、留辺蘂地域、豊浦地域から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、11、pp.９－20.
向井正幸　2005b　「青森県津軽地方から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、11、pp.21－30.
向井正幸　2005c　「秋田県男鹿半島から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、11、pp.31－38.
向井正幸　2006　「東日本から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、12、pp.27－61.
向井正幸・長谷川仁彦・和田恵治　2000　「旭川周辺地域における黒曜石ガラスの化学組成―黒曜石の産地特定への適用―」旭川市博物館研究報告、６、pp.51－64.
向井正幸・和田恵治　2001　「旭川西方、秩父別・北竜地域から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、７、pp.23－30.
向井正幸・和田恵治・大倉千加子　2002　「置戸地域・赤井川地域から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、８、pp.47－58.
向井正幸・和田恵治　2003　「遠軽地域・雄武地域から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、９、pp.19－26.
向井正幸・渋谷亮太・和田恵治　2004　「生田原地域から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、10、pp.35－40.
向井正幸・和田恵治　2004　「十勝地方から産出する黒曜石ガラスの化学組成」旭川市博物館研究報告、10、pp.47－56.
望月明彦　1997　「蛍光Ｘ線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」Ｘ線分析の進歩、28、pp.157－168.
望月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里　1994　「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について―沼津市土手上遺跡 BB Ⅴ層の原産地推定から―」静岡県考古学研究、26、pp.１－24.
百瀬孝美　1975　「月山山麓の黒曜石」科学研究発表集録、５、pp.46－50.
山形県企画調整部土地対策課　1979　『土地分類基本調査「鶴岡」（５万分の１）』、65p.
山岸宏光・松波武雄　1976　『５万分の１地質図幅「糠平」及び同説明書』北海道立地下資源調査所、40p.
山田敬一・寺岡易司・石田正夫　1963　『５万分の１地質図幅「生田原」および同説明書』北海道開発庁、42p.
八幡正弘・田近　淳・黒沢邦彦・松波武雄　1988　『５万分の１地質図幅「丸瀬布北部」および同説明書』北海道立地下資源調査所、110p.
横山　光・八幡正弘・岡村　聡・西戸裕嗣　2003　「西南北海道、赤井川カルデラの火山層序とカルデラ形成史」岩石鉱物科学、32、pp.80－95.
吉谷昭彦　2004　「十勝の黒曜岩」ひがし大雪博物館ブックレット、１、31p.
吉谷昭彦・片山博臣・鈴木邦輝・吉田清人・鈴木　力・涌嶋三奈　1999a　「名寄盆地およびその付近に産出する黒曜岩の微量元素からみた化学組成の特徴」北国研究集録、３、pp.37－44.
吉谷昭彦・須田　修・川辺百樹・陶守統一・片山博臣・涌嶋三奈・上村　暁　1999b　「十勝地方に産出する黒曜岩の微量元素の組成について」上士幌町ひがし大雪博物館研究報告、21、pp.１－11.
吉谷昭彦・上村　暁・片山博臣　2001　「岩手県内の北上川流域に産出する黒曜岩の微量元素組成について」鳥取大学教育地域科学部紀要　地域研究、３［1］、pp.169－177.
藁科哲夫・谷島由貴　1992　「新しく判明した黒曜石の産地」郷土と科学、105、pp.１－６.

表０　古城林遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果

試料№	Rb 分率	Sr 分率	Zr 分率	Mn ×100/Fe	Log（Fe/K）	候補１	確率	距離	候補２	確率	距離	遺跡名	遺跡№	シール等	出土地点
IKK2-054	20.3337	22.3714	41.6924	3.8041	0.4477	北上系Ａ	1.0000	11.7533	置戸山系	0.00	552.63	古城林	KJH-11	Ｄ１	SD09溝跡
IKK2-055	21.8221	23.8160	40.8495	3.7098	0.1293	判別不可	－	－	－	－	－	古城林	KJH-11	D33	⑨区検出時
IKK2-056	19.7472	22.9561	42.0795	3.9755	0.4395	北上系Ａ	1.0000	2.8554	四方峠系	0.00	678.11	古城林	KJH-11	D35	出土地不明
IKK2-057	18.7200	24.1392	45.0812	3.7799	0.4461	判別不可	－	－	－	－	－	古城林	KJH-11	D53	SX06墳墓
IKK2-058	19.5180	23.9756	43.0140	4.5077	0.7276	判別不可	－	－	－	－	－	古城林	KJH-11	D54	14区北西端

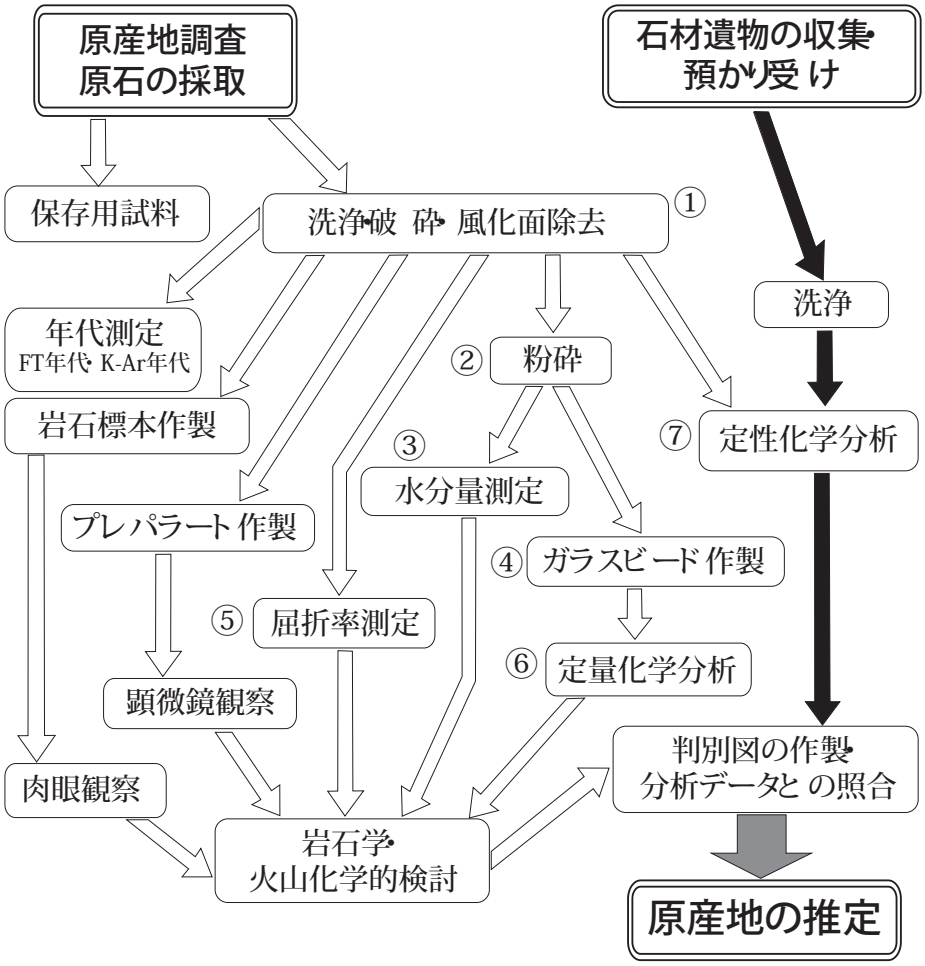
表１　北海道・東北地方における黒曜石の測定値（強度比）

原産地		Rb 分率	Sr 分率	Zr 分率	Mn ×100/Fe	Fe/K
名寄系Ａ；n=56	平均値：	29.8332	24.0450	34.2942	2.2027	1.9505
	標準偏差：	0.6177	0.5356	0.6872	0.0487	0.0290
名寄系Ｂ；n=11	平均値：	35.3175	12.4363	32.9297	1.5020	1.5687
	標準偏差：	0.5201	0.5459	0.4468	0.0599	0.0374
赤石山系；n=151	平均値：	46.1064	10.0669	24.1947	3.6799	1.2809
	標準偏差：	0.8980	0.7575	1.0007	0.1517	0.0569
十勝石沢系；n=116	平均値：	53.3228	4.0426	19.9294	4.5306	1.2274
	標準偏差：	1.0475	0.7975	1.1094	0.1110	0.0305
社名淵系；n=20	平均値：	30.0002	13.2198	39.5429	3.2022	1.8748
	標準偏差：	0.5243	0.5775	0.6192	0.0592	0.0389
生田原系；n=63	平均値：	30.3818	9.7155	45.5441	1.6229	1.7969
	標準偏差：	0.6671	0.5115	0.8254	0.0473	0.0394
置戸山系；n=25	平均値：	26.0770	21.6069	40.1146	3.0153	2.1485
	標準偏差：	0.6325	0.4841	0.8222	0.0608	0.0663
所山系；n=37	平均値：	35.8981	18.3673	30.9634	3.2615	1.3757
	標準偏差：	0.6374	0.5073	0.6809	0.0809	0.0392
ケショマップ系；n=64	平均値：	27.3917	27.7661	32.5990	2.7875	2.4674
	標準偏差：	0.6934	1.0164	0.7488	0.1399	0.0306
旭川Ａ・滝川系Ａ；n=18	平均値：	31.0568	27.3119	28.9108	3.0865	2.0811
	標準偏差：	0.5544	0.5626	0.6414	0.0611	0.0703
旭川系Ｂ；n=10	平均値：	25.4016	31.9111	32.1185	2.9203	3.0803
	標準偏差：	0.6741	0.8834	1.3632	0.0501	0.0580
上士幌・美蔓系Ａ；n=115	平均値：	40.0800	15.0582	26.3367	3.8147	1.3066
	標準偏差：	0.8822	0.7670	0.9569	0.0862	0.0392
美蔓系Ｂ；n=20	平均値：	31.6863	24.9799	29.8919	2.4020	2.1598
	標準偏差：	0.9950	0.5907	0.9268	0.0546	0.1406
赤井川系；n=42	平均値：	38.7798	16.1257	28.2118	4.8933	1.2322
	標準偏差：	0.8048	0.7357	0.9436	0.0754	0.0248
豊浦系；n=20	平均値：	23.9305	27.1562	36.4499	4.3797	1.7401
	標準偏差：	0.7532	0.7554	0.6161	0.1211	0.0415
小泊系；n=25	平均値：	46.4658	12.0293	26.5073	3.5296	0.9651
	標準偏差：	0.7599	0.5166	0.9849	0.1014	0.0191
西青森系；n=29	平均値：	40.3146	17.3977	25.5706	3.7344	1.4330
	標準偏差：	0.5080	0.5827	0.8576	0.0725	0.0264
岩木山系；n=52	平均値：	27.7673	30.4254	25.7264	12.9973	1.2363
	標準偏差：	0.9601	1.1595	1.0518	0.2586	0.0430
深浦系；n=40	平均値：	15.1647	0.7125	73.2569	2.2049	2.6968
	標準偏差：	0.4189	0.3923	0.6112	0.0754	0.0610
男鹿系；n=47	平均値：	40.4131	22.6536	21.9782	16.5470	0.8319
	標準偏差：	0.6591	0.6273	0.8569	0.1551	0.0166
北上系Ａ；n=44	平均値：	19.3547	24.0818	41.9012	3.7985	2.8222
	標準偏差：	0.7931	0.9511	0.8548	0.1398	0.1166
月山系；n=55	平均値：	31.0560	28.7694	26.0881	11.9601	1.0478
	標準偏差：	1.4263	1.5951	1.4881	0.3412	0.0416
湯の倉系；n=16	平均値：	9.2363	35.7329	46.1112	2.6698	8.4943
	標準偏差：	0.8667	0.7128	0.5739	0.0338	0.1755
色麻系；n=21	平均値：	6.5862	32.4398	48.7309	5.3994	8.1681
	標準偏差：	0.5668	0.8226	0.7233	0.0675	0.1822
土蔵系；n=16	平均値：	7.1023	40.0162	40.9130	2.4707	17.9128
	標準偏差：	0.6311	0.6191	0.8704	0.0313	0.4082
馬場町北系；n=19	平均値：	6.7739	38.0019	42.5593	2.8996	13.1923
	標準偏差：	0.6103	0.8065	1.2039	0.0651	0.4966
四方峠系；n=29	平均値：	7.1579	39.9272	42.6650	4.5529	9.7784
	標準偏差：	1.0604	1.3484	1.1802	0.1359	1.0566
前川系；n=17	平均値：	12.1720	32.4789	46.5764	2.5111	4.4600
	標準偏差：	0.4614	0.6607	0.7001	0.0461	0.0782

表２　判別分析における群間距離（マハラノビス距離）

	名寄系Ａ	名寄系Ｂ	赤石山系	十勝石沢系	社名淵系	生田原系	置戸山系	所山系	ケショマップ系	旭川Ａ・滝川系Ａ	旭川系Ｂ	上士幌・美蔓系Ａ
名寄系Ａ	0	1271	717	1540	682	913	431	280	388	557	2978	523
名寄系Ｂ	1271	0	413	1168	1083	308	2345	954	1393	3454	5586	803
赤石山系	717	413	0	159	1633	3123	2270	488	4774	1614	4875	71
十勝石沢系	1540	1168	159	0	3390	6746	4416	1482	7717	2897	6189	396
社名淵系	682	1083	1633	3390	0	1167	452	426	1183	887	1548	325
生田原系	913	308	3123	6746	1167	0	1736	1124	1014	3294	3843	1023
置戸山系	431	2345	2270	4416	452	1736	0	567	325	389	469	450
所山系	280	954	488	1482	426	1124	567	0	2788	523	4067	91
ケショマップ系	388	1393	4774	7717	1183	1014	325	2788	0	71	335	600
旭川Ａ・滝川系Ａ	557	3454	1614	2897	887	3294	389	523	71	0	1227	395
旭川系Ｂ	2978	5586	4875	6189	1548	3843	469	4067	335	1227	0	1013
上士幌・美蔓系Ａ	523	803	71	396	325	1023	450	91	600	395	1013	0
美蔓系Ｂ	69	1203	1622	4235	799	1932	221	323	107	256	337	1059
赤井川系	1689	2166	483	690	1047	2497	1562	520	1894	1169	2864	231
豊浦系	595	2055	2257	3282	393	1232	161	1046	398	443	867	1474
小泊系	2101	1255	461	957	2235	2077	3067	707	4079	3034	6358	625
西青森系	1251	1557	371	1302	911	2005	1700	201	2210	1196	4101	51
岩木山系	2309	3268	2976	3203	2137	3167	1995	2520	1814	1787	1808	2531
深浦系	7425	6075	15091	23093	5874	3160	6009	9552	8873	10442	10522	12789
男鹿系	9557	10663	8528	8919	8815	10786	9121	7854	9809	8775	10958	7647
北上系Ａ	1600	4622	2511	2835	1163	3974	604	1799	526	770	331	1674
月山系	2860	4722	4408	4916	2754	3841	2177	3236	2333	2429	2296	3516
湯の倉系	12077	18065	34145	46650	17140	12734	11869	24071	10452	15056	7713	31980
色麻系	18177	25725	19234	18569	12973	19894	12094	17570	13395	14485	11224	16994
土蔵系	15053	21413	25239	31163	16124	18538	12936	20169	11383	13747	8921	22896
馬場町北系	7132	10443	13251	16569	7122	8896	5606	9708	5220	6525	4016	11084
四方峠系	2900	3938	3796	4544	1648	2342	1542	2907	2203	2630	1888	3263
前川系	4773	9068	15602	23369	5916	6459	3511	9449	3013	4947	1965	12760

	美蔓系Ｂ	赤井川系	豊浦系	小泊系	西青森系	岩木山系	深浦系	男鹿系	北上系Ａ	月山系	湯の倉系	色麻系	土蔵系	馬場町北系	四方峠系	前川系
名寄系Ａ	69	1689	595	2101	1251	2309	7425	9557	1600	2860	12077	18177	15053	7132	2900	4773
名寄系Ｂ	1203	2166	2055	1255	1557	3268	6075	10663	4622	4722	18065	25725	21413	10443	3938	9068
赤石山系	1622	483	2257	461	371	2976	15091	8528	2511	4408	34145	19234	25239	13251	3796	15602
十勝石沢系	4235	690	3282	957	1302	3203	23093	8919	2835	4916	46650	18569	31163	16569	4544	23369
社名淵系	799	1047	393	2235	911	2137	5874	8815	1163	2754	17140	12973	16124	7122	1648	5916
生田原系	1932	2497	1232	2077	2005	3167	3160	10786	3974	3841	12734	19894	18538	8896	2342	6459
置戸山系	221	1562	161	3067	1700	1995	6009	9121	604	2177	11869	12094	12936	5606	1542	3511
所山系	323	520	1046	707	201	2520	9552	7854	1799	3236	24071	17570	20169	9708	2907	9449
ケショマップ系	107	1894	398	4079	2210	1814	8873	9809	526	2333	10452	13395	11383	5220	2203	3013
旭川Ａ・滝川系Ａ	256	1169	443	3034	1196	1787	10442	8775	770	2429	15056	14485	13747	6525	2630	4947
旭川系Ｂ	337	2864	867	6358	4101	1808	10522	10958	331	2296	7713	11224	8921	4016	1888	1965
上士幌・美蔓系Ａ	1059	231	1474	625	51	2531	12789	7647	1674	3516	31980	16994	22896	11084	3263	12760
美蔓系Ｂ	0	1575	643	2635	1168	2056	8905	9665	1246	2943	12521	17502	14018	6850	2974	4611
赤井川系	1575	0	1007	1040	299	2091	14763	6251	982	2640	40053	12861	26347	11384	2571	15381
豊浦系	643	1007	0	3479	1966	1502	9344	7025	539	1339	22137	9926	16445	5880	1409	5979
小泊系	2635	1040	3479	0	1334	3862	14258	8363	3464	4913	36569	22134	28543	14996	3989	17361
西青森系	1168	299	1966	1334	0	2329	13030	7655	1509	3351	28900	16528	21372	10636	3197	11731
岩木山系	2056	2091	1502	3862	2329	0	56432	1137	19059	198	180250	21677	129378	32106	6457	83654
深浦系	8905	14763	9344	14258	13030	56432	0	13877	4198	3163	8184	11780	13052	5586	1553	3811
男鹿系	9665	6251	7025	8363	7655	1137	13877	0	32574	435	312348	45611	229698	60077	14062	158827
北上系Ａ	1246	982	539	3464	1509	19059	4198	32574	0	1749	11046	6768	10370	3376	724	2485
月山系	2943	2640	1339	4913	3351	198	3163	435	1749	0	159259	17661	109279	28385	5042	70323
湯の倉系	12521	40053	22137	36569	28900	180250	8184	312348	11046	159259	0	4576	1377	318	416	1914
色麻系	17502	12861	9926	22134	16528	21677	11780	45611	6768	17661	4576	0	10786	1653	240	10067
土蔵系	14018	26347	16445	28543	21372	129378	13052	229698	10370	109279	1377	10786	0	95	271	8018
馬場町北系	6850	11384	5880	14996	10636	32106	5586	60077	3376	28385	318	1653	95	0	193	5553
四方峠系	2974	2571	1409	3989	3197	6457	1553	14062	724	5042	416	240	271	193	0	7601
前川系	4611	15381	5979	17361	11731	83654	3811	158827	2485	70323	1914	10067	8018	5553	7601	0



① 洗浄・破砕・風化面除去：試料の洗浄，およびトリミングによって，風化・酸化部位を除去する．
　使用機器：超音波洗浄機，Renfert basic master．

② 粉砕：試料が粉末になるまで鉄乳鉢，および攪拌擂潰機を用いて粉砕する．
　使用機器：石川式攪拌擂潰機AGB．

③ 水分量測定：試料を燃焼して原石に含まれる水分量を測定する．
　測定機器：京都電子工業カールフィッシャー水分計MKC-610，および水分気化装置ADP-512．

④ ガラスビード作成：粉末試料をフラックス（融剤，四ホウ酸リチウム；Li2b407）とともに1100℃，8分で溶融させ，ガラスビード（おはじき状のガラス板）を作製する．
　使用機器：日本サーモニクスNT2100．

⑤ 屈折率測定：既知の屈折率をもった浸液を用い，透明～半透明試料の屈折率を測定する．屈折率は化学組成を反映しており，また少量かつ簡便な測定が可能．
　測定機器：京都フィッショントラック温度変化屈折率測定システムRIMS2000．

⑥ 定量科学分析：波長分散型蛍光X線分析装置（WDX）を使用．測定元素はSi，Ti，Al，Fe，Mn，Mg，Ca，Na，K，P，Rb，Sr，Ba，Y，Zr，Nb，Th，V，Zn，Cr，Ni，Co．6試料の連続測定が可能．
　測定機器：リガクRIX1000．

⑦ 定性化学分析：エネルギー分散型蛍光X線分析装置（EDX）を使用．化学成分の存在比を非破壊，非接触で測定している．16試料の連続測定が可能．
　測定機器：日本電子JSX-3100s．

図1　石材遺物（黒曜石・サヌカイト）の原産地推定

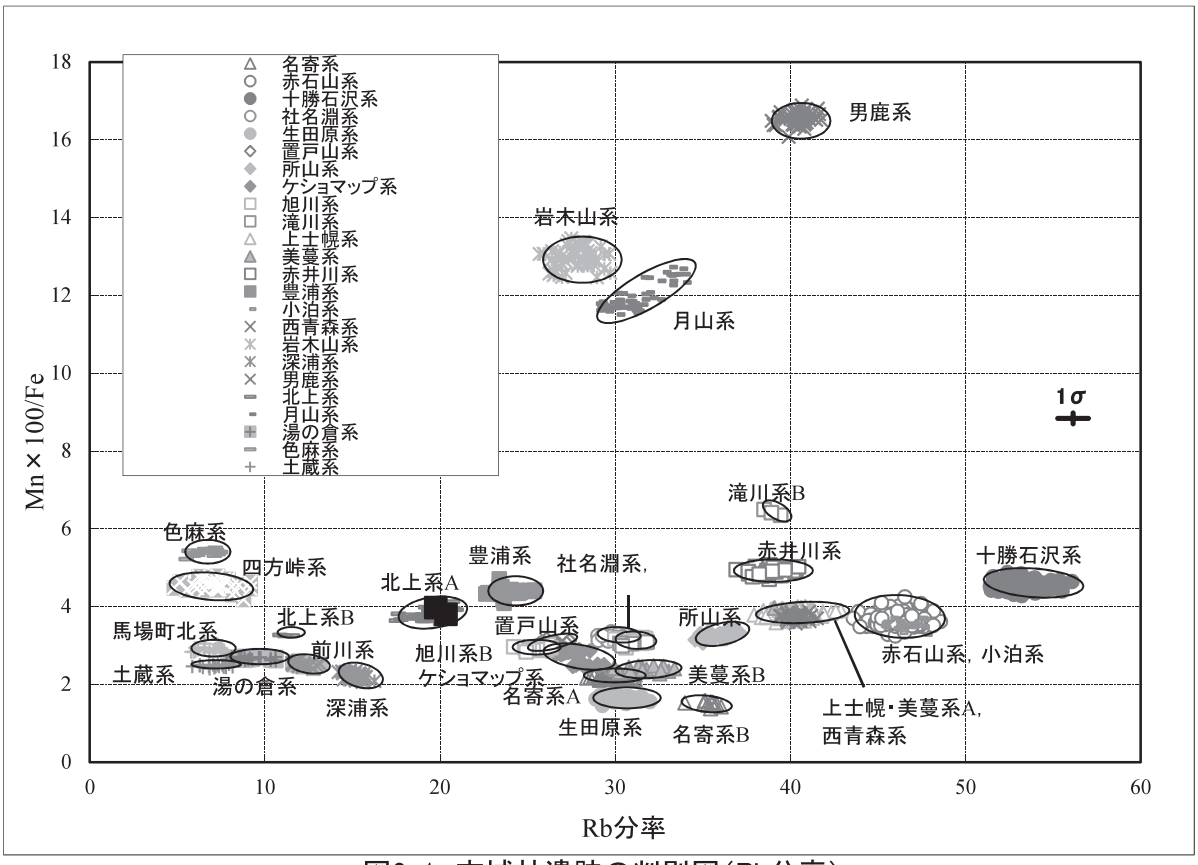


図2-1　古城林遺跡の判別図（Rb分率）

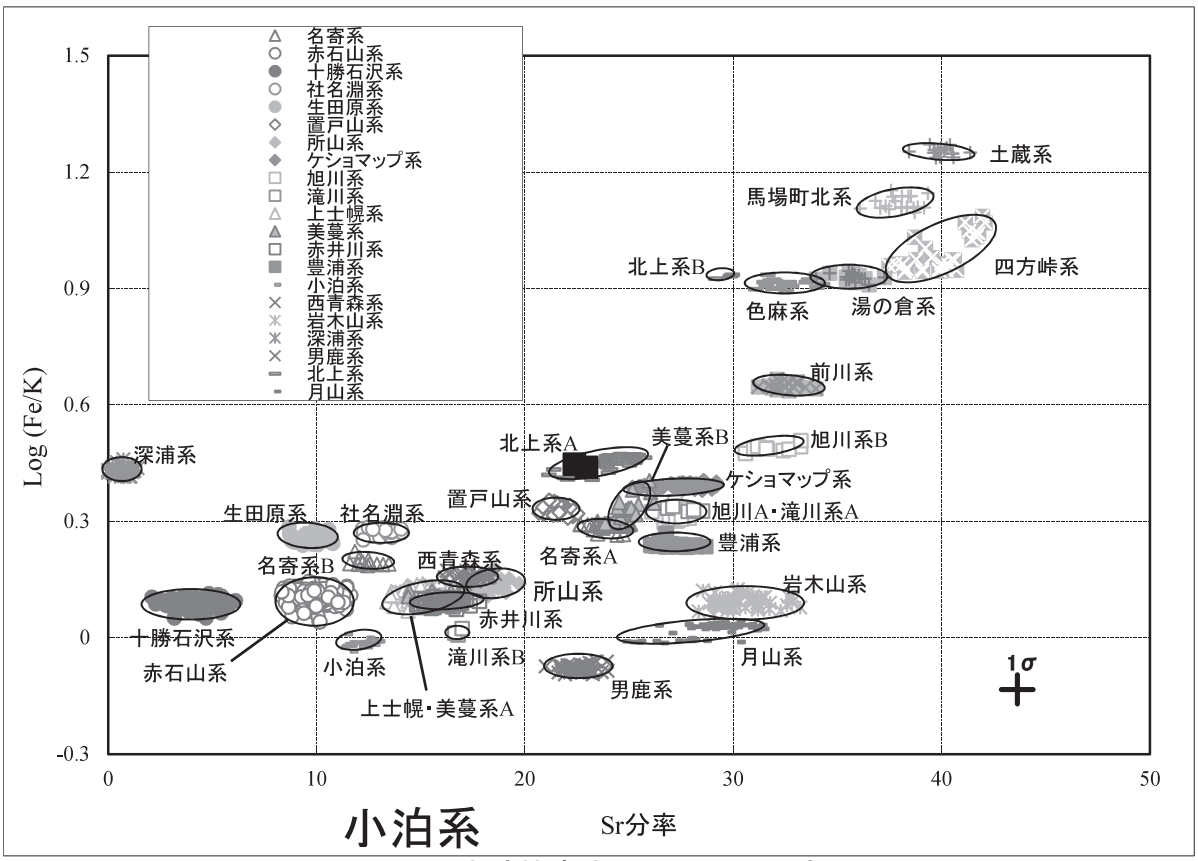
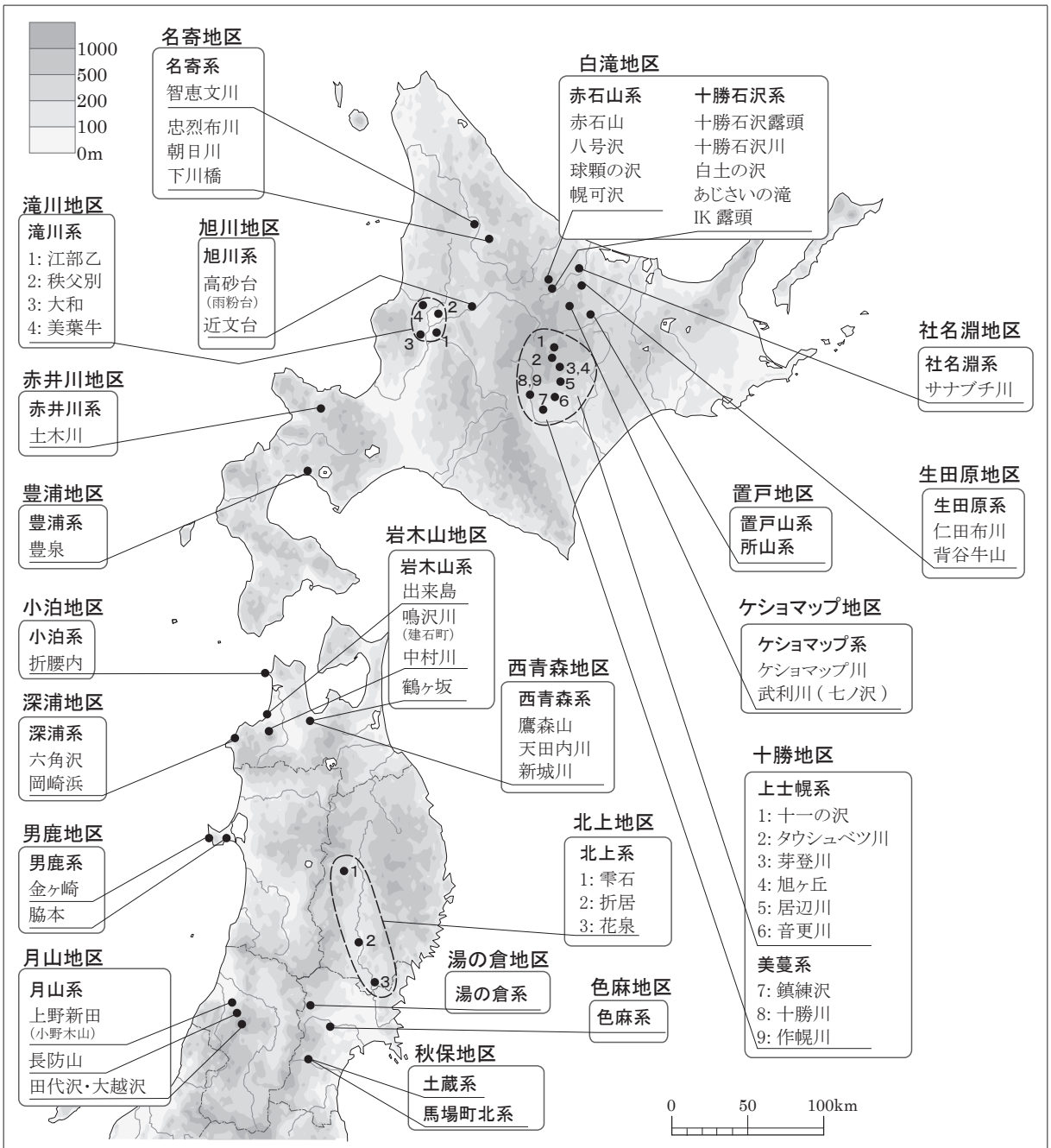


図2-2　古城林遺跡の判別図（Sr分率）



附図1　石器時代における北海道・東北地方の黒曜石産地

5　分析結果に対する調査担当者のコメント

(1)　火 山 灰 分 析

テフラ分析は試料１、試料２の２サンプルについて、火山灰分析をお願いした。その結果、２つの試料ともに十和田ａ降下テフラ（以後 To-a と呼ぶ）と同定された。

試料１は、SI02竪穴住居跡（⑨区）の床面直上から検出した灰白色テフラである。この遺構の検出地の現況は、旧水田跡で近年は休耕田を畑地として転用・利用されていた。遺構上部は水田造成時に削平を受け、遺構埋土の層厚も薄い状況であった。テフラの検出状況や産状は、住居の床面付近（僅かに上）において、灰白色粉末状の小ブロックが狭い範囲（※床面全体的ではない）に散らばる様子で検出された。遺構の年代は、出土した土器より９世紀前半代と推定されることから、To-a の降下年代と矛盾しない。

試料２は、SK153土坑（⑭区）の３層より検出した。遺構検出地の現況は水田で、遺構自体は水田畦の直下に一部かかったことで削平による消失を免れ、断面図の作成ラインの遺構埋土は比較的良好に遺存していた。テフラは埋土の中位くらいにレンズ状に５㎝前後の堆積が観られた。遺構からは土器などの出土遺物はないが、埋土の様子から古代と推定される。また、今回の分析結果に準拠すればTo-a 降下期より古い遺構と捉えられよう。調査時の所見を補足すると、テフラの直上に乗る黒色土層は、本遺跡で古代の遺構に普通に見られる土層（基本層序Ⅱ層）と比較して、黒味が濃く、やや泥っぽい土質的特徴にあったことを付記しておきたい。

上記した分析試料以外でも同様の産状のテフラを検出した遺構が幾つかある。それらについても、ここで概要を記述し補足としたい。To-a の検出遺構としては、SE03井戸跡（⑦区）、SE06井戸跡（⑨区）、SK04土坑（⑤区）、⑦区遺構検出面、⑱区旧河道が挙げられる。上記の内、SE03井戸跡については、堆積土中に見られた To-a は再堆積層への混入と捉え、テフラ降下時期より新しい時期の帰属遺構と推定した（周囲の遺構分布などを鑑みて12世紀と推定した）。また SE06井戸跡は、中世若しくは近世の堀跡と推定したSD26堀跡に裁られることから、埋土中の白色テフラはTo-a 降下期との矛盾はない。分析結果を加味すると、本遺跡で局所的に認められた灰白色テフラは全て To-a と推定される。

今回の調査区全体的に旧地形が削平を受けていることにも起因してか、テフラ検出遺構について遺存が悪く、良好堆積も少なかった。ただ、本遺跡周辺には確実に平安時代の指標テフラが分布することが、分析結果からも裏付けられたことは意義深い。

(2)　放射性炭素年代測定

７つの遺構出土炭化材について、年代測定を実施した。^{14}C 年代値は以下の通りである。なお、暦年較正年代については、分析の項を参照いただきたい。

試料１　SI02竪穴住居跡（⑨区）床直　1220±20yrBP　※（調査判断の年代）９世紀前半
試料２　SX21不明遺構（⑩区）１層　1240±20yrBP　※13世紀後半？
試料３　SX19不明遺構（⑩区）３層　1140±20yrBP　※10世紀中頃～11世紀
試料４　SD28溝跡（⑨区））埋土下位　660±20yrBP　※ To － a テフラ降下年代より古い
試料５　SE03井戸跡 (⑦区) 埋土中　630±20yrBP　※12世紀
試料６　SE06井戸跡（⑨区）埋土2層　1190±30yrBP　※古代
試料７　SD109溝跡（㉔区）埋土中　360±20yrBP　※12世紀

年代測定は古代や12世紀と推定される遺構の実年代を探る目的で実施した。測定試料は、全て遺構埋土から出土した炭化材で、土器の内面付着煤などは実施していない。出土土器や重複遺構などから調査判断した各遺構の考古学年代に対して、今回得られた^{14}C 測定結果は推定された年代と誤差が大きく、調査担当者の予測していた年代とはかけ離れたものとなった。今後においても^{14}C 年代測定資料の事例増加と蓄積が必要と考える。

(3)　トイレ遺構分析

SK167土坑埋土の13層について、土質の様相や‘匂い’などから所謂「トイレ状遺構」に伴う埋土である可能性が示唆されたことから、トイレ遺構分析を実施した。寄生虫卵分析の結果、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。従って、今回の調査でトイレ状遺構の存在を明示できる状況にはない。ただ、合わせて実施した花粉、種実同定、珪藻分析からは、周囲に畑が分布し、ソバ属、ササゲ属、アブラナ科などの栽培植物が栽培されていたことが推定された。当時の植生や環境の復元が導かれたことは、一つの成果として科学的分析の意義を感じる。

(4)　黒曜石産地同定

今回の調査では、石器製作に伴うと捉えられる黒曜石製のフレークが数点出土した。黒曜石の出土状況としては、遺構検出作業時や古代若しくは中世と推定した遺構から出土しているものの、剥離の在り方などからは縄文時代の産物の可能性もあり、黒曜石の時代は不明の状況にある。ただし、黒曜石の原産地同定を実施する意義は大きいと判断し、依頼した経緯がある。その結果、２点が北上山地系、２点が産地不明の結果を得られた。

(5)　炭化材樹種同定

今回の調査で出土した炭化材の内、古代と推定された遺構を中心に木炭協会による炭化材同定を実施した。目的としては、その結果、クリとナラの２種類が特定された。なお、同定をお願いし、樹種の種類が特定できたのは以下の表に記した試料である。

遺構名	地点	遺構の年代	種類	樹種	年代測定	備考
SI02竪穴住居跡	床直	古代（９世紀前半）	炭化材	クリ	AMS１	
SX19不明遺構	３層	古代（10世紀中頃）	炭化材	クリ	AMS３	土壌化
SX20不明遺構	１層	古代	炭化物	ナラ		土壌化
SX21円形周溝	１層	古代	炭化物	ナラ	AMS２	土壌化
SD70溝跡	埋土中	古代（平安）	炭化材	クリ		土壌化
P711		古代	炭化物	ナラ		
P787		古代	炭化材	ナラ		土壌化

Ⅶ　総　　括

八反町遺跡と古城林遺跡の調査は、農道･水路の改築部分や小区画田面の拡張部分などを対象とし、実施した。この両遺跡は、便宜的に２つの遺跡に区分されているが、地形的には同一面に広がる一連の遺跡として捉えられる。従って、今回調査した八反町遺跡は、平成22年に実施された八反町遺跡調査区（岩手埋文第610集：2013）とは直線距離にして約500m離れていることと、時期や性格などを鑑みると古城林遺跡と合わせて扱うことが妥当と判断される。ここでは八反町遺跡と古城林遺跡を合わせて総括を行う。

調査区は、調査区北端の北側において西から東に流れる松の木沢川と、調査区南端の南側において西から東に流れる明後沢川に挟まれ、北東－南西方向で約500m、北西－南東方向で約550mに亘り、総面積20,903㎡（八反町974㎡、古城林19,929㎡）を実施した（※両河川とも本来の流路は現在において改変されている）。その結果、古代・中世を中心に縄文時代の狩猟場などであることが分かった。

１　時期毎の概要

古城林遺跡・八反町遺跡合わせた遺構数を時期毎にまとめると、以下のようになる。

縄文時代は、陥し穴43基である。

古代は、竪穴住居跡６棟、掘立柱建物跡８棟、溝跡51条、井戸跡７基、土坑74基、土取り穴５基、不明遺構９基、12世紀は掘立柱建物跡２棟、溝跡５条、井戸跡３基、土坑１基、不明遺構１基である。

中世は竪穴建物跡２棟､竪穴状遺構３基､掘立柱建物跡56棟（古代～中世と中近世を含む）､墳墓１基、堀跡２条、溝跡41条（古代～中世と中近世を含む）、土坑22基（古代～中世と中近世を含む）、カマド状遺構１基（中世）、不明遺構５基である。

近世は、溝跡６条、畝間状遺構２箇所（近世？）、不明遺構１基である。

近代は、溝跡４条、井戸跡１基、近世～現代は溝跡５条、土坑１基、不明遺構１基、近世墓29基（近代も含む）、時期不明は掘立柱建物跡１棟、柱穴列４基、溝跡８条、土坑17基、柱穴状土坑3,568基、土取り穴５基（古代５）、カマド状遺構１基（中世）、畝間状遺構２箇所（近世？）である。

下記には、時代毎に概要を記載する。

(1)　縄　文　時　代

縄文時代は陥し穴43基、縄文土器３点、石器中コンテナ１箱を検出した。出土している土器は晩期末葉であるが､晩期の竪穴住居跡などの遺構が検出されていないうえに､出土点数も少ないことから､その様相については判然としない。石器は、石鏃、尖頭器、石匙、石篦、スクレイパー、磨製石斧などが出土しているが、これら石器の出土地をみると⑨・⑩区など北側に位置する調査区（現松の木沢川に近接する調査地）から多い傾向が看取される。また、今回の調査で多数検出した陥し穴の分布も同様に北側に位置する調査区である（⑨・⑩区に加え⑧区から検出している）。この状況から、北側に位置する調査区付近が、早期末～前期前半や後・晩期の主要な狩猟場であったと想定できる。加えて、そう遠くない距離・位置に集落跡の存在も示唆できよう。

＜陥し穴について＞

今回の調査では多数の陥し穴を検出し、平面形での分類からＡ類円形・楕円形とＢ類溝状の２種類

に大別した。数的には圧倒的にＡ類が多い。このＡ類とした円形・楕円形の陥し穴は、溝状と比較して検出事例が少なく（※土坑として報告されている可能性もあるが）、必然的に帰属時期を含め検証が進め難いと捉えられよう。ここでは、主にＡ類について若干の分析を行う。また、空間占地の在り方から、配置関係を考えることを目的に、第188図に⑩区の陥し穴のみを抽出した図を掲載した。

Ａ類の陥し穴は34基検出した。検出地は全て⑩区からである。平面規模110㎝前後、深さ60㎝前後（※検出面からの深さ）が平均値になる。底面に逆茂木痕である可能性を有する副穴を持つものが12基あり、約35%が副穴を持つ。埋土は全般に締りの良い黒褐色シルトで、今回の調査全体的に基本層としては認め難い土層で、縄文時代の中でも古い時期に位置付けられる可能性がある。野外調査時の所見を加えると、成獣のシカやイノシシを捕獲対象とするには平面規模が小さく、深さも浅いように思われる。それらより小形の動物が主たる対象である可能性も考えられようか。配置関係について、同時性が不明なことから推測の域を出ない内容となるが、第188図を見る限り幾つかの配置パターンが想定できるように思う。想定①として、何個かのまとまりにより（５～６個くらい）、略環状気味に取り囲むような配置。想定②として、３～５個くらいによる列状に近い配置。何れ上述以外にも考察の余地が多分にある。

次にＢ類の陥し穴をみていく。Ｂ類は９基を検出した。検出地は⑧・⑨・⑩区である。平面規模は長さ200～400㎝、幅30～70㎝、深さ20～80㎝である。底面に副穴を持つものはない。埋土は、黒色シルトを主体とするが、Ａ類の埋土と比較すると、軟らかい土質で色調もより黒味が濃い。それら黒色シルトに、壁の崩壊土と想定される地山土（黄褐色粘土）が壁際や底面付近を中心に堆積が認められる。特徴として、全般にやや浅いものが主体である。配置については今回の調査結果からは言及が難しい。時期については、古代以降の遺構との重複関係から、古代より古いことは支持できるが、詳細な時期の特定はできない。同様の形態の陥し穴が、盛岡市湯沢遺跡などで中期末葉の竪穴住居跡を裁り構築されている事例がある。ただし、中期末～後期前半頃に限定できるのかについては、さらなる検討の余地があると思われる。

さて、ここからはＡ類の陥し穴の時期について若干考察してみたい。今回の調査では土器などの遺物や縄文時代のテフラ（十和田中掫テフラなど※以後 To-Cu と呼ぶ）は検出されていないが、田村壮一の研究によればこの形態の陥し穴は早期末～前期前半の可能性も考えられる（田村：1988）。近年、本稿でＡ類とした陥し穴は岩手県域で類例がやや増えている。また、田村の推定した縄文時代前期前半より古期とすることを裏付ける資料として To-Cu の混入が認められるものが、田野畑村和野ソマナイ遺跡、北上市稲葉Ⅰ遺跡、奥州市林前Ⅱ遺跡などで見つかっている。ただ、本遺跡のＡ類全ての時期を縄文時代前期前半より以前と特定することに対して、若干注視する点を述べるなら、形態が古代の陥し穴にも似ているものが含まれることが挙げられる。古代の陥し穴について、奥州市宮沢原下遺跡における十和田ａテフラの混入が認められた陥し穴を基本資料に、詳細に検討した濱田宏の研究がある（濱田：2010）。濱田によれば、古代標準タイプの陥し穴は、開口部の平面が楕円形または長方形、底面の形状は長方形をなすものが多く、底面から１～４個の杭痕が見つかるものがあるらしい。本稿でＡ類としたものの中には、平面形態が方形基調のものが含まれる（SK45・66・86・87・88など）。また、濱田を参照する限り、逆茂木と推定される副穴の有無の要素から、明確に縄文期に限定できるわけではないと捉えられそうである。上述してきたとおり、Ａ類の陥し穴は出土遺物が皆無なことから埋土の様相や、溝状との相違点、田村の研究成果などを加味し、縄文時代早期末～前期前半の位置づけを推定し調査判断として報告しておきい。ただ、埋土の様相や平面形態を中心とする調査判断に依存するため客観的な再検証が必要と思われ、あるいは古代のものが混在してしまっている可能性を

否定するものではないことを付記しておきたい。

(2)　古　　代

古代は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、土取り穴、溝跡、不明遺構９基、柱穴状土坑が検出された。今回の調査で出土した土器は、奈良時代に比定されるものはなく、全て平安時代で９世紀前半～11世紀まで長期に亘り営まれた集落跡と想定される。出土土器からは、９世紀前半、９世紀中頃～後半、９世紀後半～10世紀前半、10世紀中頃～11世紀、の４つの時期に大別できようか。

以下には時期推定の中心となる土師器坏を出土している主な遺構を時期別に挙げてみる。

＜９世紀前半＞ SI02竪穴住居跡（⑨区）、SD38溝跡（⑨区）、SX09土取り穴（⑩区）、SX27不明遺構（⑧区）、SX28土取り穴（⑧区）、などが挙げられる。その内、SX09・28土取り穴とSX27不明遺構より、比較的纏まった土器量が得られている。補足として、墨書土器がSX27不明遺構とSX28土取り穴から、灰釉陶器がSX28土取り穴及びSE10井戸跡より土錘がSI02竪穴住居跡床面直上層より（※土錘自体はSD09溝跡からも１点出土）、得られている。

＜９世紀中頃～後半＞ SD64堀跡（⑪区、※ただしSD64堀跡の時期は中近世と推定される）、SK77土取り穴（⑩区）、SK182土坑（㉔区）などが挙げられる。特に、SK77土坑とSK182土坑より良好資料が得られた。

＜９世紀後半～10世紀前半＞（※To-aテフラ降下期より古い）SI01竪穴住居跡（⑨区）、SI04竪穴住居跡（⑧区）、SI05竪穴住居跡（⑧区）、SD49溝跡（⑩区）、SD64堀跡（⑪区、※遺構の帰属時期は中世と推定した）、SD94溝跡（②区）、SE02井戸跡（⑦区）、SE06井戸跡（⑨区）、SK12土坑（⑦区）SK99土坑（⑩区）、SK125土坑（⑩区）、SK181土坑（㉔区）、SK185土坑（㉔区）などが多くの遺構が挙げられる。この結果をみても、本遺跡の中心時期と捉えられる。纏まりのある土器資料としてはSI01竪穴住居跡を挙げて置く。

＜10世紀中頃～11世紀＞（※To-aテフラ降下期より新しい）SX12不明遺構（⑨区）SX19不明遺構（⑩区）が挙げられる。当時期と推定される土器資料は少ないが、強いて挙げればSX19不明遺構より２点の土師器坏（75・76）を得られた。

全般的な傾向としては、To-aテフラ降下期の直前期である９世紀後半～10世紀前半に帰属すると推定される遺構が多い。また、遺構の種類単位で見た場合、土取り穴からの土器出土量が多い傾向が看取される。そして、土取り穴５基中４基については、上記した遺跡の主体時期より古い時期の可能性が考えられる。特記事項としては、出土した灰釉陶器２点は何れも９世紀代前半と捉えた土師器と共伴している。

(3)　12　世　紀

12世紀の遺物が出土した遺構を述べると、SX15竪穴建物跡、SD26堀跡（※遺構の時期は中世と推定している）、SD14・17・38溝跡、SE02井戸跡から常滑産若しくは渥美産の陶器が、SX24不明遺構から手づくねかわらけが出土している。その他として、㉔区の遺構検出中に白磁壺の破片と推定される214が出土している。上記以外にも12世紀と推定される遺構は多い。

これら12世紀の遺物を出土した遺構の検出地は⑦・⑩・㉔区を中心とするが、それらの調査区からは掘立柱建物跡群及び柱穴状土坑が多数検出された共通点がある。また、古代若しくは中世と判断した遺構の中にも、当時期が含まれている可能性もあり、明確な状況とは言い難い。ただ、本遺跡において12世紀の活動痕跡が認められたことは特記事項である。本地域の調査事例は、白鳥館、水尻遺跡、

明後沢遺跡群、寺の上経塚、道上遺跡、大桜遺跡、八反町遺跡、中畑城跡、古城方八町遺跡、五輪経塚、田高Ⅱ遺跡、安久沢東遺跡、彼岸田遺跡、川前遺跡、白山上野遺跡など、急増している状況にあり、古城林遺跡も貴重な追加事例になると捉えられよう。

(4)　中　　世

中世と推定される遺構は、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、竪穴状遺構、墳墓基、土坑、堀跡、溝跡、カマド状遺構、不明遺構基、柱穴状土坑など多数ある。しかしながら、出土遺物が伴わないものが多く、尚且つ遺構の帰属時期とは異時期と判断される遺物（古代の土師器や須恵器）が出土している遺構も多い。時期推定の根拠は全般に弱いことは否めずない。その中で、SB15掘立柱建物跡に伴うP993、⑭区遺構外、SD107溝跡、㉔区P2734から中世陶器・陶磁器が出土している。

検出遺構の中で、特記事項としてはSX06墳墓が挙げられる。当初は方形周溝と捉えていた遺構で、長径約17m、短径8.5mを測る。類似する遺構が、本遺構から南東へ約800mに位置する川前遺跡や、南へ約1.2㎞に位置する水尻遺跡でも検出されている。また、大規模な堀跡であるSD26堀跡を検出したことは、当時の有力者の存在も示唆できよう。

補足として、中世と推定される掘立柱建物跡が多数検出された調査⑩区に限り鎌倉Ⅰ～Ⅳ期と時期分類を推定・設定した。その時期分類の推定経緯などについては本章の２節で取り上げ考察を加えることとする。

(5)　近　　世

中世より新しいと判断され、近世若しくは近世以降と推定される遺構は、溝跡、井戸跡、畝間状遺構などが検出された。遺物は肥前産を中心とする近世陶磁器などが出土しているが、何れの遺構についても、詳細な時期を特定できない。

(6)　時　期　不　明

時期不明とした遺構についてもここで若干説明を述べておくこととしたい。出土遺物が乏しく、埋土の様相などから近代～現代の可能性が高いものが主体である。ただ、現代の削平などにより遺構上部が大幅な削平を受け検出面から時期を判別し難いものや、埋土の様相から新しいと調査判断したものなどを対象に位置付けた。土坑、柱穴列、溝跡などの一部が該当する。

2　古城林遺跡調査区⑩区の遺構変遷について

調査⑩区では掘立柱建物跡20棟、竪穴建物跡２棟他に、墳墓の可能性が高いもの（※SX06、以後Ａと表記する）、お堂の痕跡と考えているもの（※SX21、以後Ｂと表記する）、土取穴など（※SK77、SX08・09、以後Ｃと表記する）が検出された。この調査区では1043個の柱穴があり、掘立柱建物跡に組めなかったものがまだ多数ある。それらの柱穴と掘立柱建物跡を構成する柱穴の埋土中からは時期の判るような遺物が殆ど出土していない。なお、今回の調査で検出・復元した掘立柱建物跡の模式図を第189～192図に示した。

そうした中で各遺構の時期変遷を想定するにあたり、最も重視したのは遺構間の切り合い関係である（具体的な新旧関係については第Ⅳ章及び遺構観察表を参照願いたい）。これに加えて各建物（遺構）の主軸方向が大きく異なることがないようにしながら、可能な限り同時存在する遺構の数が多くなる

ように組み合わせた。変遷の数が多くならないように考慮したものである。そして各時期には主屋となるような規模の大きい建物が必ず入るようにもしている。

遺構変遷（案）としては、Ⅰ期（13世紀初頭～前葉）、Ⅱ期（13世紀中葉～後葉）、Ⅲａ期（13世紀後葉～末葉）、Ⅲａ～Ⅲｂ期（13世紀後葉～14世紀初頭）、Ⅲｂ期（14世紀初頭）、Ⅳ期（14世紀前葉）を想定した。各遺構の切り合い関係はそれほど多くない。よって今回示した遺構変遷が唯一絶対の変遷ではない。どの時期に含めても矛盾のない遺構もあるし、今回６段階に分けた変遷も、７段階以上にすることも可能である。あくまでも変遷案であることを断っておく。但し各掘立柱建物跡の平面形態については大きな変更は生じないと考えている。掘立柱建物跡変遷案図を第193図に示した。以下は各期の概要である。

平安時代：SB10・16掘立柱建物跡や、土坑、複数の土取り穴がある。平安時代の集落の中心は調査区⑩区の南側から南西部に広がっている可能性が高い。その一部は調査区⑧・⑨区で検出されている。⑩区は本遺跡の平安時代集落の北東隅に位置しているといえる。ほぼ南北棟のSB10・16掘立柱建物跡は平面形態から共に倉庫と考えられる。互いに極めて近い位置関係にあるので平安時代の中で時期差がある。土坑及び土取穴には埋め戻された土と共に土師器・須恵器片も廃棄されていた。

鎌倉時代Ⅰ期：SB04・06・09・33・34掘立柱建物跡、SX16竪穴建物跡、SX06と命名した墳墓と考えているＡから成る。規模の大きな掘立柱建物跡SB04・09・34の中でSB04とSB34が南北棟の建物となっている（厳密には北東－南西方向が主軸である）。南北棟の建物は本県に於いては12世紀後半の平泉藤原氏時代の遺跡から多く見つかっている。その多くは規模の大きな建物で、二面或いは四面に庇のある格の高い建物も多い。こうしたことから⑩区で見つかった掘立柱建物跡群についてもSB04・34が最も古い段階に位置づけられると考えた。但し南北棟の建物といっても北東－南西方向に傾いていること、墳墓を伴うこと等、平泉藤原氏の時代の遺跡とは様相の異なる点もあることから、鎌倉時代の初期と想定した。

鎌倉時代Ⅱ期：SB07・11・13・14・20・30掘立柱建物跡、墳墓Ａから成る。主屋と考えているSB15の周りに小規模な掘立柱建物跡が複数配置されている。SB07・11は倉庫で、SB13・30は付属小屋であろう。主屋SB14の東側には棟に沿って細長い掘立柱建物跡SB20が並んでいる。このように主屋の隣に細長い建物が取り付く平面形態は、発掘遺構としての事例が殆ど無い。その代わり13世紀から14世紀に描かれた絵画資料の中にはよく似た例を見ることができる。『法然上人絵伝』や『一遍上人絵伝』の中には地方武士の邸宅を描いたとされるものが複数あって、その絵画資料の建築について考察を加えたものも多い（玉井1996、小野2004）。Ⅱ期にあるSB14・20などはこうした絵画資料とよく似ていることが分かる。このことからSB14・20を中心とした建物群は、鎌倉時代の地方武士の屋敷とみるのが最も妥当と考えⅠ期の次に位置づけた。

鎌倉時代Ⅲ期：この時期はSB05・15・17掘立柱建物跡と持仏堂の痕跡と考えているＢをⅢａ期、SB17からSB18へと建て替えが行われたⅢｂ期に細分している。主要建物であるSB15・17及びSB15・18はⅡ期にあったSB20・30と同様に地方武士の邸宅と想定され、その西側に付属小屋、裏手の一角には墳墓に代わり持仏堂を建てたのではないかと考えた。主屋の平面形も絵画資料を模式図化した例（小野2004）と比べると中門廊が付く場所が異なるだけで主屋部分はとてもよく似ていることが分かる。

鎌倉時代Ⅳ期：SB08・12・19掘立柱建物跡、SX15竪穴建物跡、持仏堂痕跡と考えているＢで構成される。掘立柱建物跡SB12・19は共に主屋規模の建物である。とくにSB12は調査区⑩で見つかった掘立柱建物跡では最大規模となる。間取りについてはⅡ～Ⅲ期の主屋とほぼ同じである。これまでは

東側に取り付けられていた細長い建物は、SB12の西側に配置される。

前述したようにこの時期変遷は確たる根拠に基づいて提示しているものではない。むしろ不確実な部分のほうが多いと言えよう。しかし⑩区で検出された掘立柱建物跡群が中世前期に位置づけられる可能性は決して低くはないと考えている。中世後半や近世の遺跡であればこれほどの面積を掘れば一定量の遺物が出土するのが本県では普通である。また中世初期（12世紀）であれば遺物もさることながら建物も南北棟や東西棟の建物が多く柱間寸法も10尺近くになるであろう。このように消去法で見ていくと中世前期から中期に絞られでいくわけで、その中でも主要建物の平面形式は鎌倉時代の地方武士邸宅を描いた絵画資料とよく似ていることから13 ～ 14世紀と位置付けた。其々の遺構変遷については検討の余地が多いものの各掘立柱建物跡の平面形についてはしっかりしている。よって中世前期の建築遺構の調査例が少ない現時点では貴重な建築遺構であり大きな成果であるといえよう。

3　ま　と　め

今回の調査は平成23年度、平成24年度の述べ２ヵ年に渡り実施された。八反町遺跡は、周知遺跡範囲の北東端付近の調査を行った。古城林遺跡は、旧林前Ⅰ遺跡と旧林前Ⅱ遺跡及びその周辺地域を合わせた20万㎡以上に広がると推定される遺跡で、今回は遺跡全体の約1/10の調査を実施したと捉えられる。

その結果、古代（平安時代）及び中世を中心に、縄文時代や12世紀、近世～近代にいたる多数の遺構を検出した。縄文時代においては、早期末～前期前半と推定される円形・楕円形を基調とする陥し穴が限られた空間に密集して検出された。平安時代は、竪穴住居跡は６棟の検出に留まるが、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡、土取り穴などが検出された。出土土器から、９世紀前半～11世紀まで長期に亘る集落と考えることができる。併せて、平安集落の核心域は⑩区の南西部（現況は畑地が広がる）と推定されよう。12世紀は、遺構・遺物共に断片的な資料であったが、奥州藤原氏に関連することが想起されよう。特に手づくねかわらけを得られたことは特記事項である。中世は、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、墳墓、堀跡などが検出された。今回の調査成果から遺跡全域に広がると推定される。検出された柱穴状土坑の配置関係から、多くの掘立柱建物跡を復元でき、また大規模なSX06墳墓の検出は調査成果として特記事項の一つである。

今回の調査成果が地域史解明の一助となることを期待する。

Ⅶ参考引用文献

伊藤博幸ほか　1981　『西光田遺跡』水沢市文化財報告書第５集水沢市教育委員会

伊藤博幸・佐久間賢ほか　1981　『胆沢城－昭和55年度発掘調査概報－』水沢市教育委員会

大泰司統　2007　「北日本の陥し穴猟」『縄文時代の考古学』５号　同成社

小野正敏　2004　「中世武士の館、その建築系譜と景観」『中世の系譜』 高志書院

高橋千晶　2004　「胆沢城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』奥羽史研究叢書７　蝦夷研究会

田村壮一　1986　「陥し穴状遺構の形態と時期について」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』Ⅶ

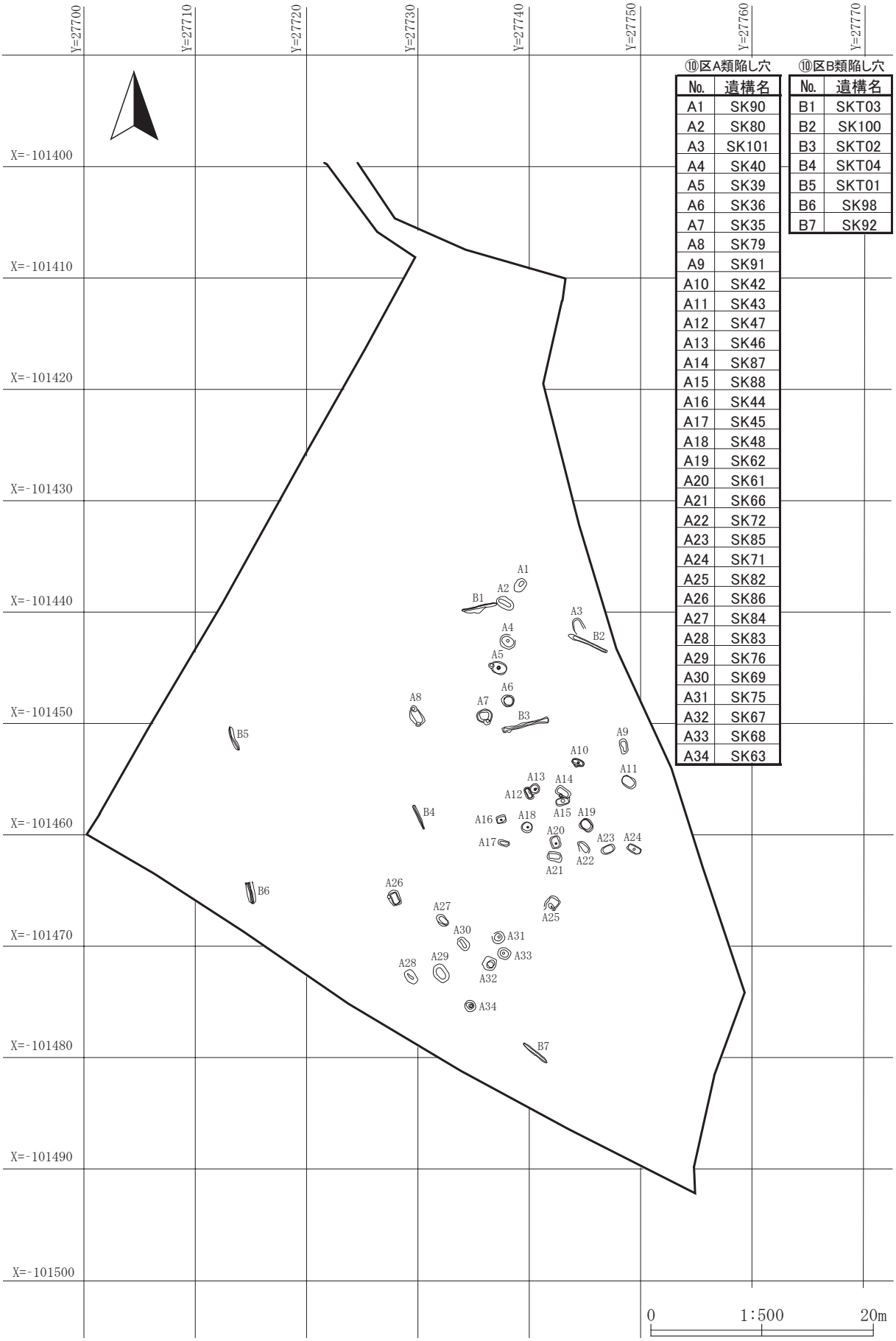
平野　祐　2007　「東北地方南部における陥し穴の形態と地域色」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』ＸＸⅣ

濱田　宏　2010　「古代に属する陥し穴について」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』ＸＸⅨ

村田晃一　1995　「宮城郡における10世紀前後の土器」『福島考古』第36号

村田　淳　2004　「岩手県内出土の緑釉陶器－出土事例の集成と若干の検討『岩手考古学』第16号　岩手考古学会

村田　淳　　2009　「近世」『岩手考古学』第20号岩手考古学会設立20周年記念岩手考古学・回顧と展望　岩手考会
村田　淳　　2012　「東北地方出土の平安時代施釉陶器集成－１青森県・秋田県－」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』ＸＸＸＩ
村田　淳　　2013　「東北地方出土の平安時代施釉陶器集成－青森県・秋田県における出土状況の整理－」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』ＸＸＸⅡ
八木光則　　1993　「古代斯波郡と爾薩体の土器様相」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会　特集シンポジウム　北日本における律令期の土器様相』古代城柵官衙遺跡検討会
玉井哲雄　　1996　「武家住宅」『絵巻物の建築を読む』　東京大学出版会
岩手県教育員会　2008　『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成18年度）』岩手県文化財調査報告書第126集
北上市教育委員会　2004　『稲葉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』北上市埋蔵文化財調査報告書第68集
㈶水沢市文化振興財団埋蔵文化財調査センター　2006　『林前Ⅱ遺跡・寺ノ西遺跡』水沢市埋文調査報告書第19集
㈶奥州市文化振興財団奥州市埋蔵文化財調査センター　2011　『合野遺跡・白山上野遺跡』奥州市埋蔵文化財調査報告書第11集
※公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる発刊報告書は「岩手埋文」と略し、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書の集数のみを明記した。
岩手埋文　　1978　『湯沢遺跡発掘調査報告書』第１集
岩手埋文　　2000　『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書』第317集
岩手埋文　　2005　『和野ソマナイ遺跡発掘調査報告書』第466集
岩手埋文　　2005　『平成16年度発掘調査報告書』第469集
岩手埋文　　2005　『西川目・堰向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』第464集
岩手埋文　　2006　『大清水上遺跡発掘調査報告書』第475集
岩手埋文　　2007　『宮沢原下遺跡発掘調査報告書』第495集
岩手埋文　　2008　『山の神遺跡・宮沢原下遺跡第２次発掘調査報告書』第512集
岩手埋文　　2010　『平成21年度発掘調査報告書』第571集
岩手埋文　　2011　『水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡発掘調査報告書』第587集
岩手埋文　　2011　『平成22年度発掘調査報告書』第588集
岩手埋文　　2013　『八反町遺跡・中畑城跡発掘調査報告書』第610集
岩手埋文　　2013　『安久沢東遺跡発掘調査報告書』第611集
岩手埋文　　2013　『彼岸田遺跡発掘調査報告書』第612集



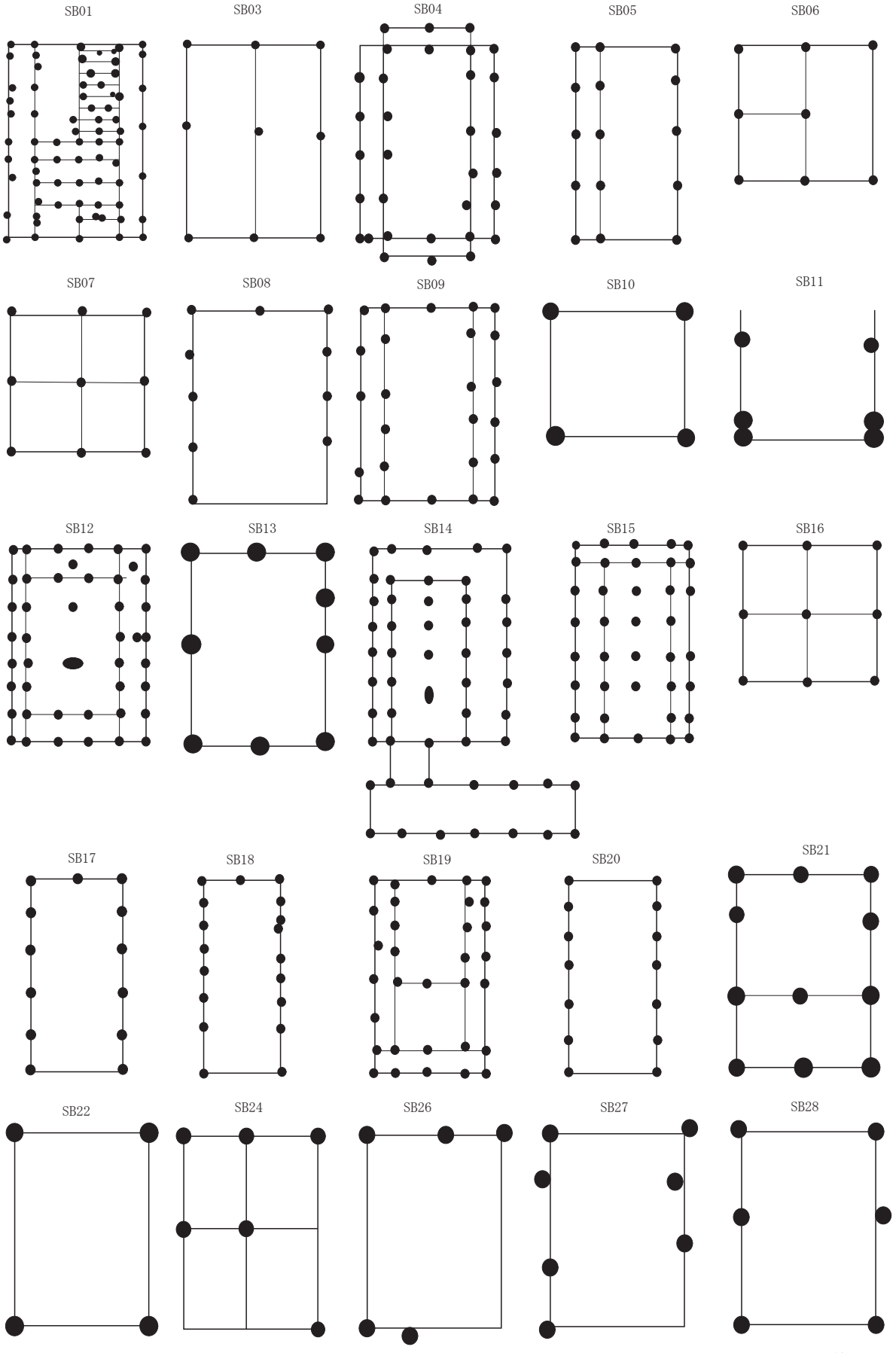
⑩区A類陥し穴

No.	遺構名
A1	SK90
A2	SK80
A3	SK101
A4	SK40
A5	SK39
A6	SK36
A7	SK35
A8	SK79
A9	SK91
A10	SK42
A11	SK43
A12	SK47
A13	SK46
A14	SK87
A15	SK88
A16	SK44
A17	SK45
A18	SK48
A19	SK62
A20	SK61
A21	SK66
A22	SK72
A23	SK85
A24	SK71
A25	SK82
A26	SK86
A27	SK84
A28	SK83
A29	SK76
A30	SK69
A31	SK75
A32	SK67
A33	SK68
A34	SK63

⑩区B類陥し穴

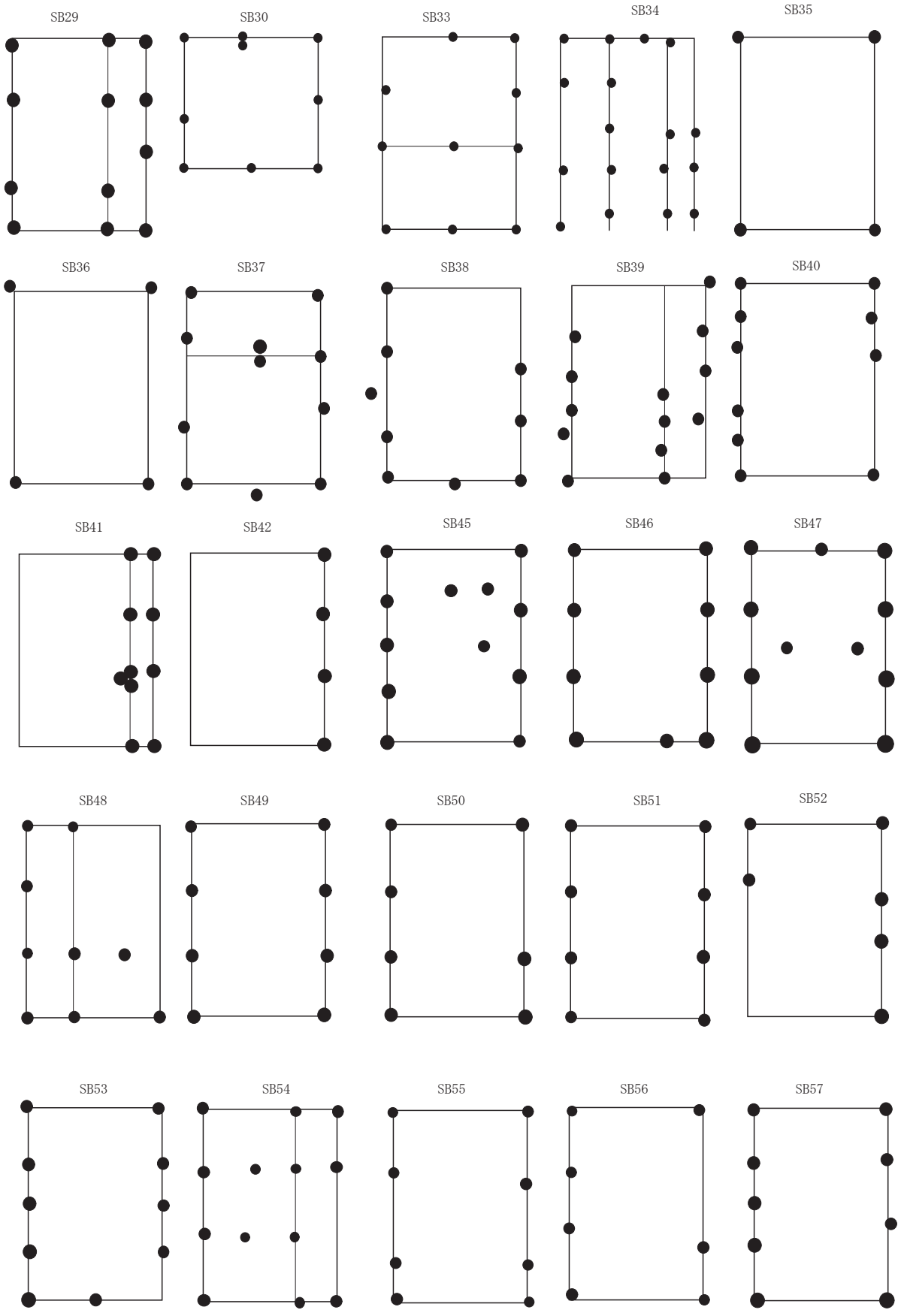
No.	遺構名
B1	SKT03
B2	SK100
B3	SKT02
B4	SKT04
B5	SKT01
B6	SK98
B7	SK92

第188図　⑩区陥し穴分布図



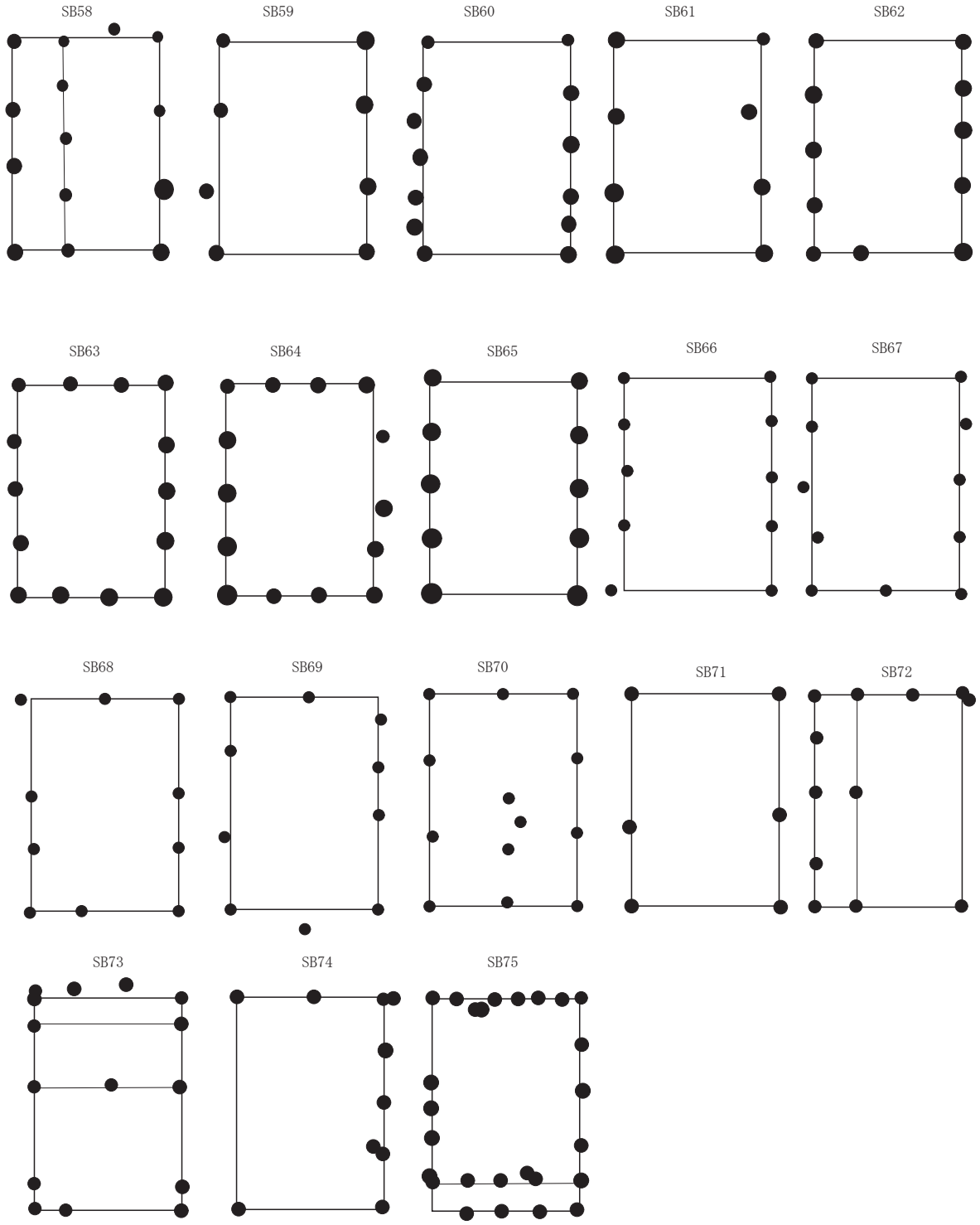
縮尺不同

第189図　掘立柱建物跡模式図(1)



縮尺不同

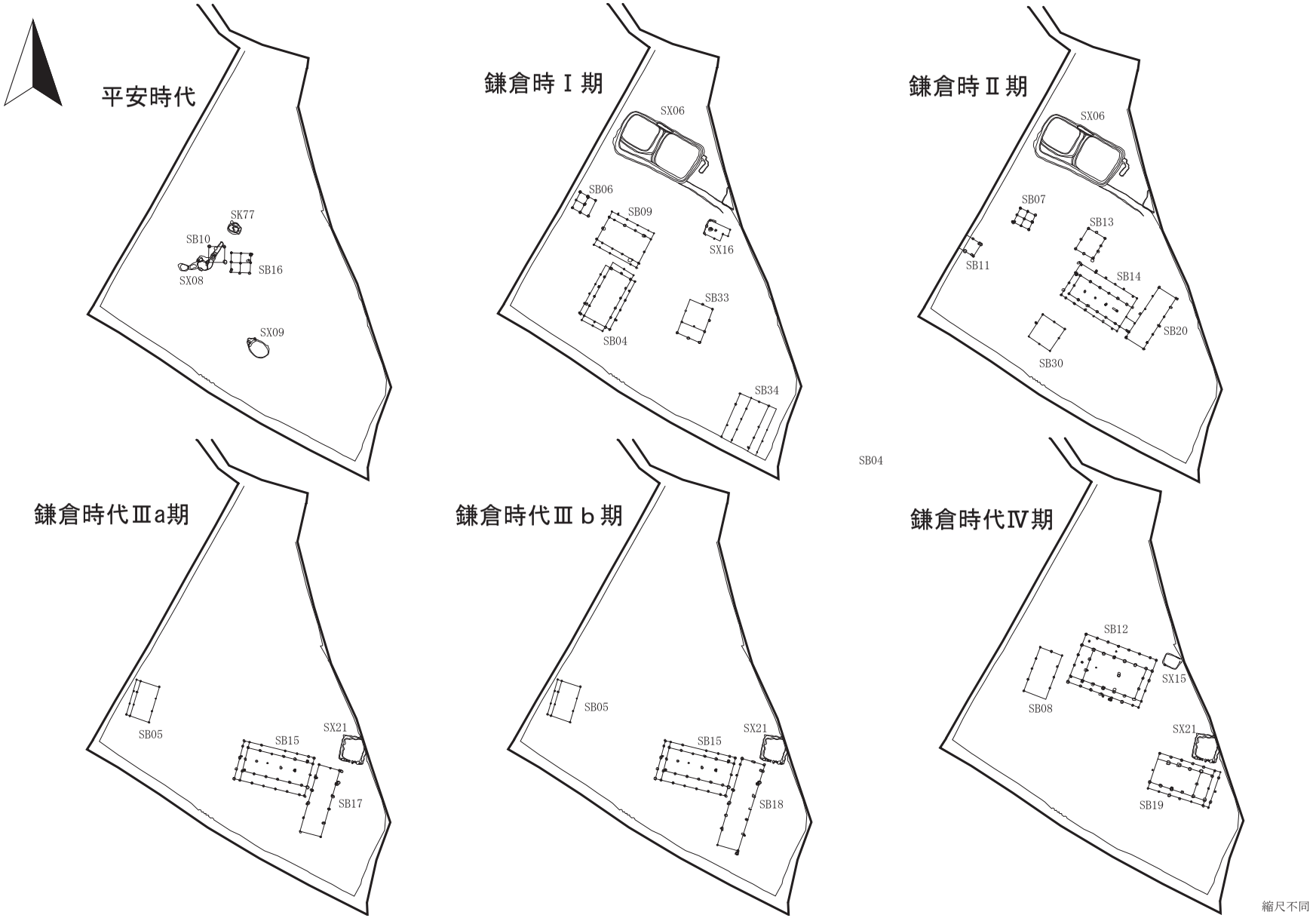
第190図　掘立柱建物跡模式図 (2)



縮尺不同

第191図　掘立柱建物跡模式図 (3)

第192図　⑩区掘立柱建物跡全体図



第193図　⑩区掘立柱建物跡変遷図

写　真　図　版

八反町・古城林遺跡全景（上が北）

⑨区全景（上が北）

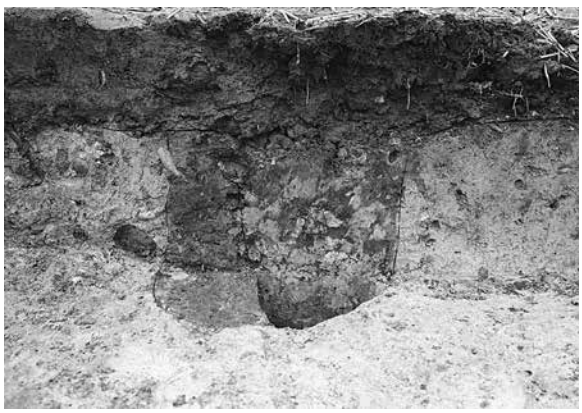
写真図版１　遺跡全景

⑩区全景（上が北）

⑨区基本層序（南から、※ SD26 堀跡の延長部分）

⑩区基本層序（東から）

⑪区基本層序（西から）



⑭区基本層序（北から、P2502 の断面）

写真図版 2　遺跡全景・基本層序

①区調査開始直後（西から）

⑤区調査前風景（南東から）

⑦区調査開始直後（南から）

⑨区調査前風景（南東から）

⑩区試掘・雑物撤去（西から）

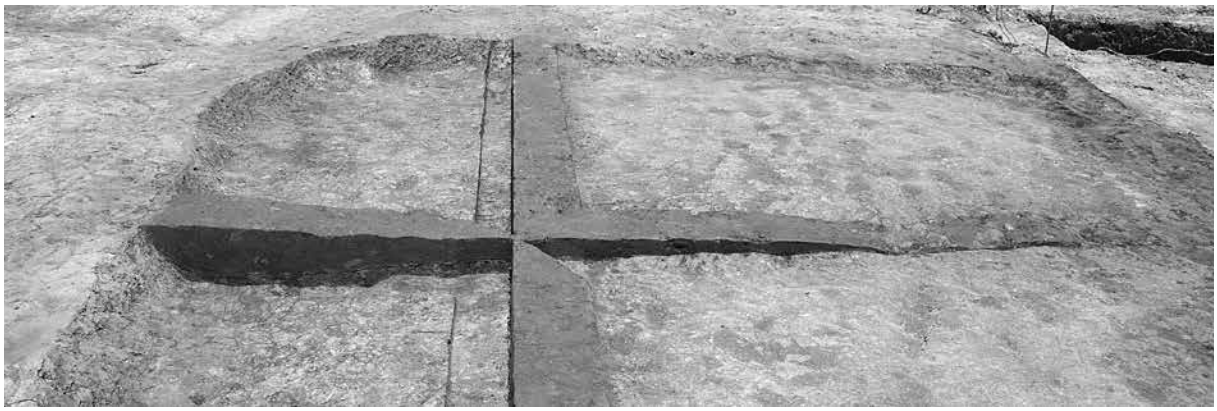
⑪区調査開始直後（北から）

⑭区調査開始直後（北から）

⑯区調査開始直後（西から）

写真図版３　調査前の現況

SX01・02 竪穴建物跡完掘全景（北から）



SX01 竪穴建物跡断面（南から）

SX02 竪穴建物跡断面（北から）

写真図版 4　SX01・02 竪穴建物跡

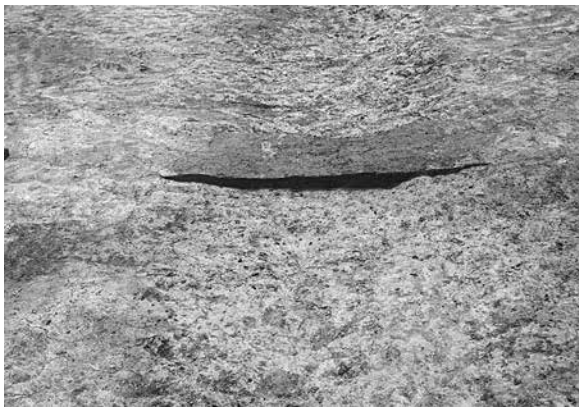
SD01 溝跡完掘全景（東から）

SD01 溝跡 A-A’ 断面（東から）

SD01 溝跡 B-B’ 断面（東から）

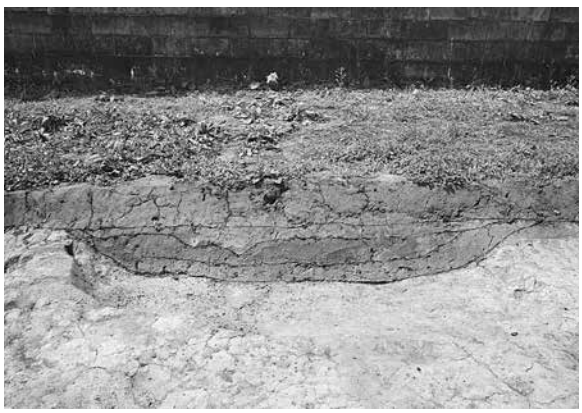
SD01 溝跡作業風景（東から）

SD03 溝跡完掘全景（西から）



SD03 溝跡断面（西から）

SK01 土坑完掘全景（北東から）



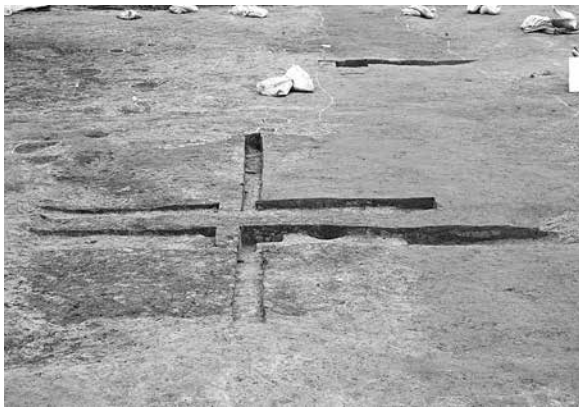
SK01 土坑断面（北から）

写真図版 5　SD01・03 溝跡、SK01 土坑

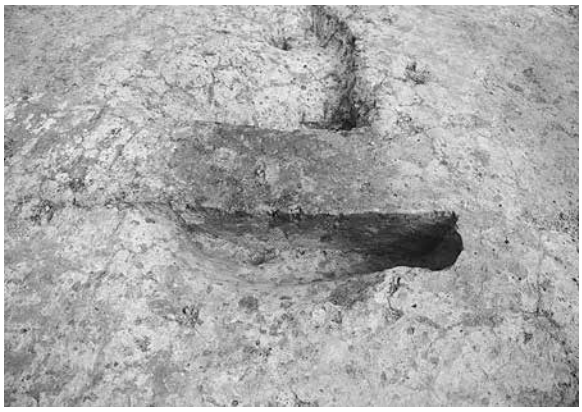
SI01 竪穴住居跡完掘全景（南から）

SI01 竪穴住居跡掘り方完掘全景（南から）

写真図版 6　SI01 竪穴住居跡（1）

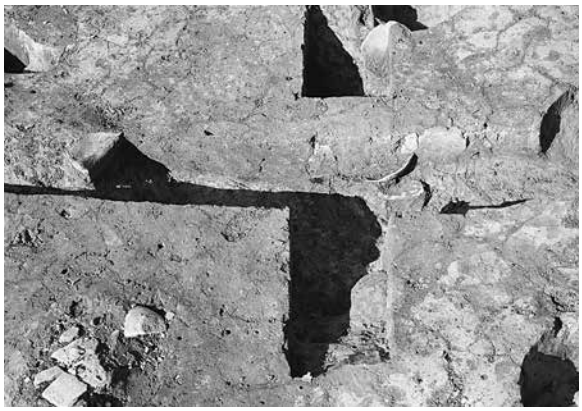


SI01 竪穴住居跡埋土断面（西から）

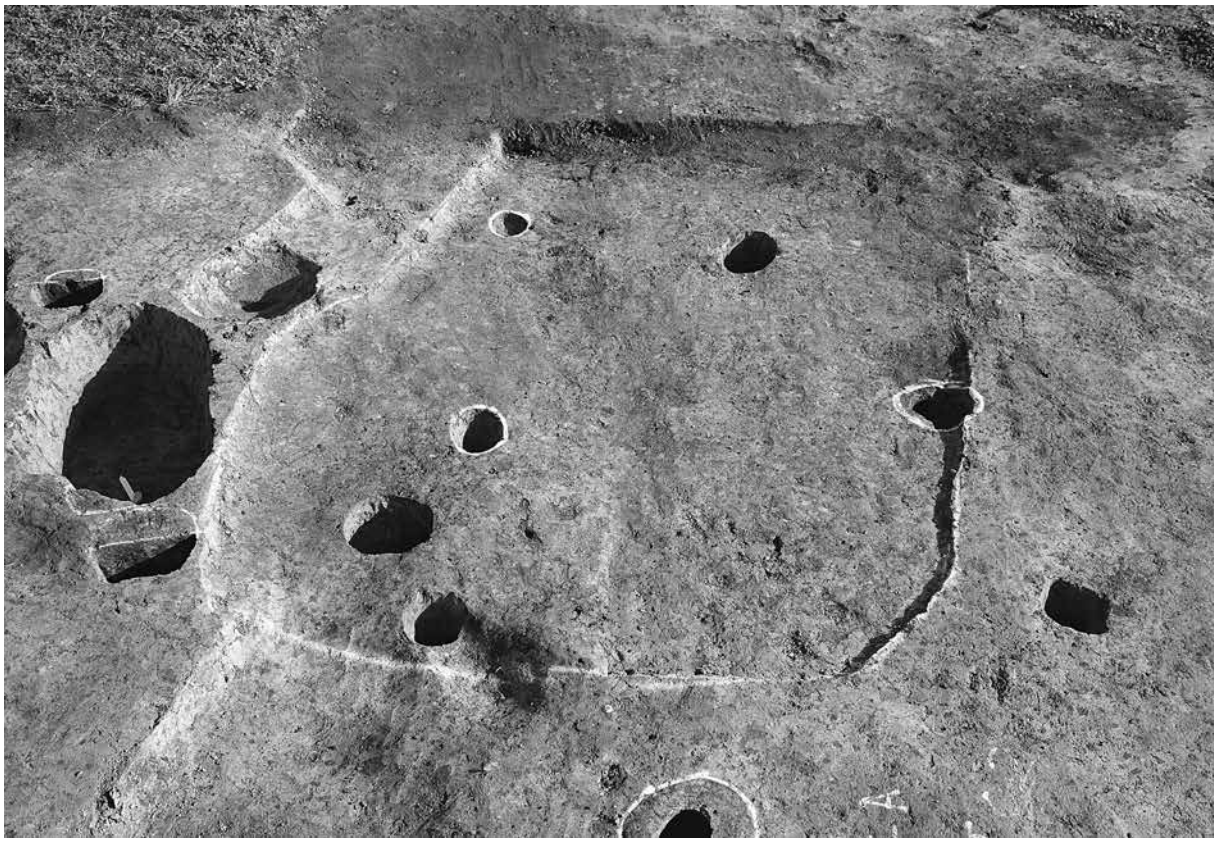


SI01 竪穴住居跡煙道断面（南から）

SI01 竪穴住居跡床下土坑土器出土状況（南から）



SI01 竪穴住居跡床下土坑ｃ－ｃ’断面（南東から）



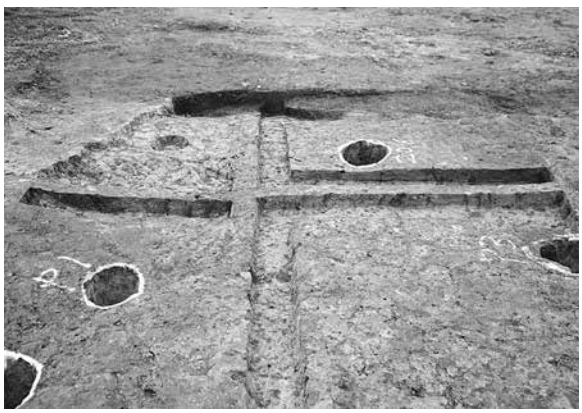
SI02 竪穴住居跡完掘全景（西から）

写真図版 7　SI01 竪穴住居跡（2）、SI02 竪穴住居跡（1）

SI02 竪穴住居跡精査中（南から、※床面にテフラブロック）

SI02 竪穴住居跡テフラアップ（南から）

SI02 竪穴住居跡 B-B’ 断面（西から）



SI02 竪穴住居跡貼り床断面（西から）

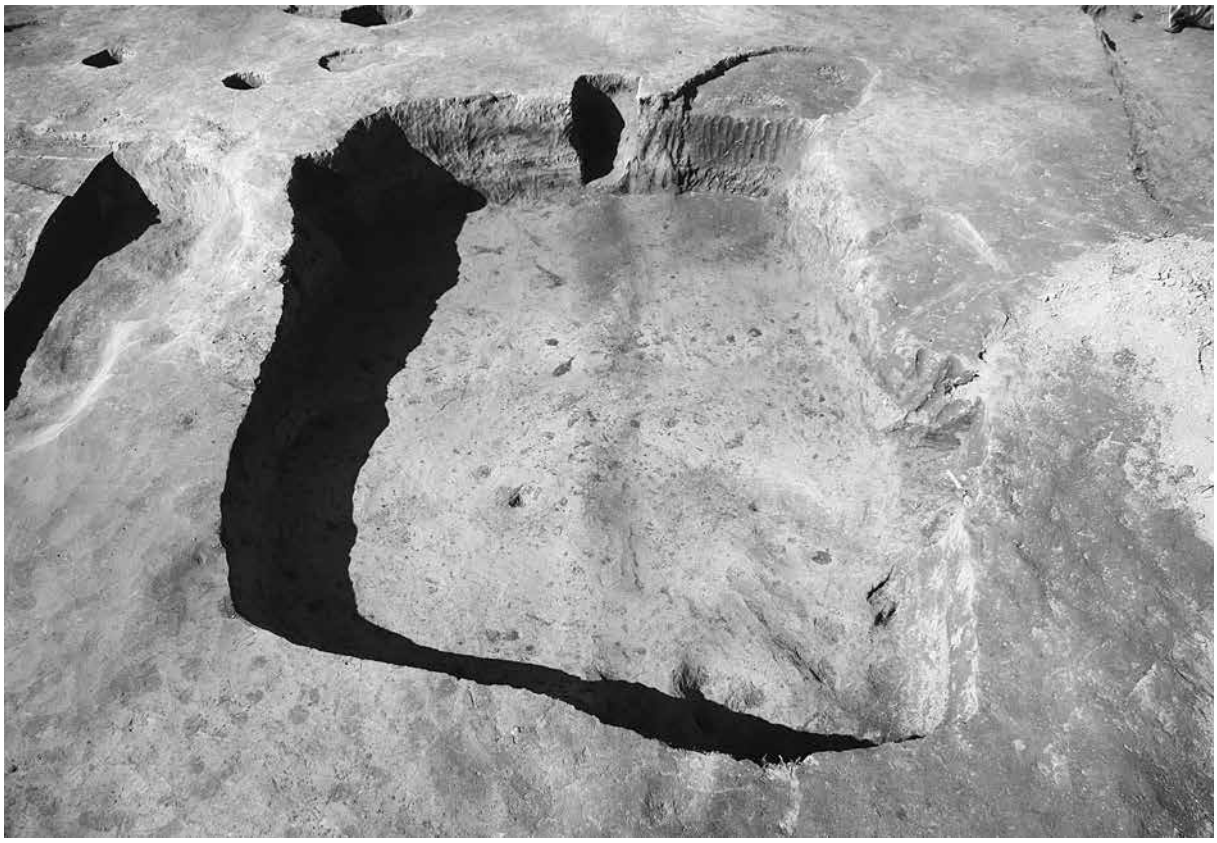
SI02 竪穴住居跡煙道断面（西から）

写真図版 8　SI02 竪穴住居跡（2）

SX10 竪穴建物跡完掘全景（東から）

SX10 竪穴建物跡 A-A’ 断面（南から）

写真図版 9　SX10 竪穴建物跡



SX15 竪穴状遺構完掘全景（東から）

SX15 竪穴状遺構 B–B’ 断面（東から）

SX15 竪穴建物跡断面（南から）

写真図版 10　SX15 竪穴状遺構

SX16 竪穴建物跡完掘全景（東から）

SX16 竪穴建物跡 A-A’ 断面（南から）

写真図版 11　SX16 竪穴建物跡

SB01 ～ 03 掘立柱建物跡全景（南から）

SB01 ～ 03 掘立柱建物跡全景（南東から）

写真図版 12　SB01 ～ 03 掘立柱建物跡（1）

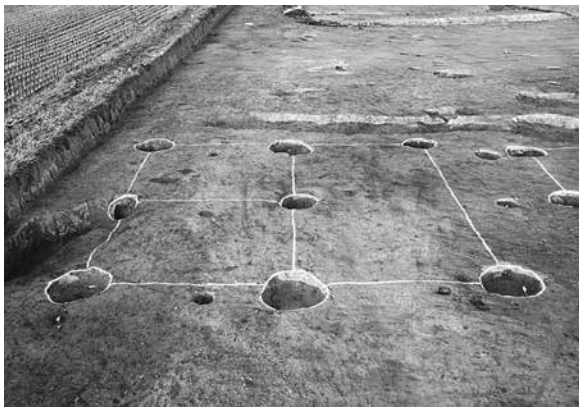
SB01・02 掘立柱建物跡全景（南から）

SB03 掘立柱建物跡全景（南から）

写真図版 13　SB01 ～ 03 掘立柱建物跡（2）

SB04 掘立柱建物跡全景（南から）

SB05 掘立柱建物跡全景（南から）



SB06 掘立柱建物跡全景（南西から）

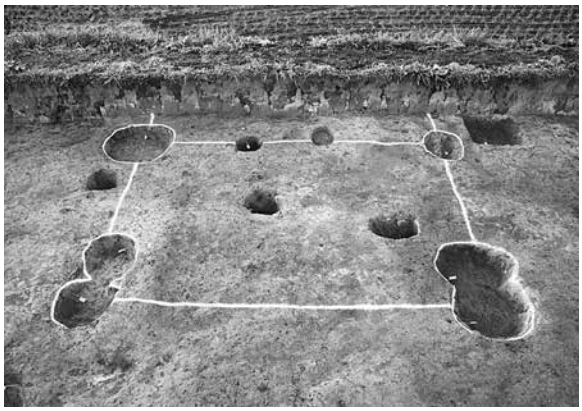
SB07 掘立柱建物跡全景（南東から）

SB08 掘立柱建物跡全景（南から）

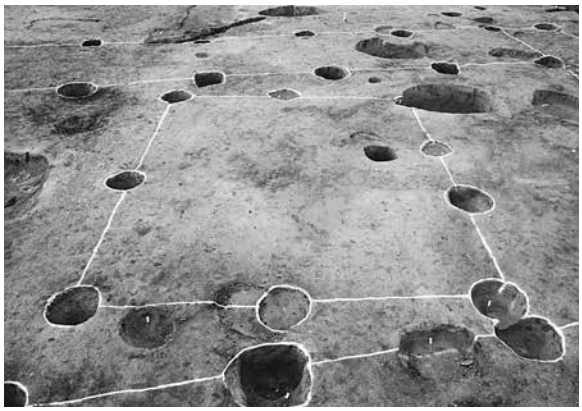
写真図版 14　SB04 ～ 08 掘立柱建物跡

SB09 掘立柱建物跡全景（南東から）

SB10 掘立柱建物跡全景（東から）



SB11 掘立柱建物跡全景（南東から）



SB13 掘立柱建物跡全景（南西から）

SB12 掘立柱建物跡全景（西から）

写真図版 15　SB09 ～ 13 掘立柱建物跡

SB14 掘立柱建物跡全景（北西から）

SB15 掘立柱建物跡全景（西から）

写真図版 16　SB14・15 掘立柱建物跡

SB17 掘立柱建物跡全景（南から）

SB18 掘立柱建物跡全景（南から）

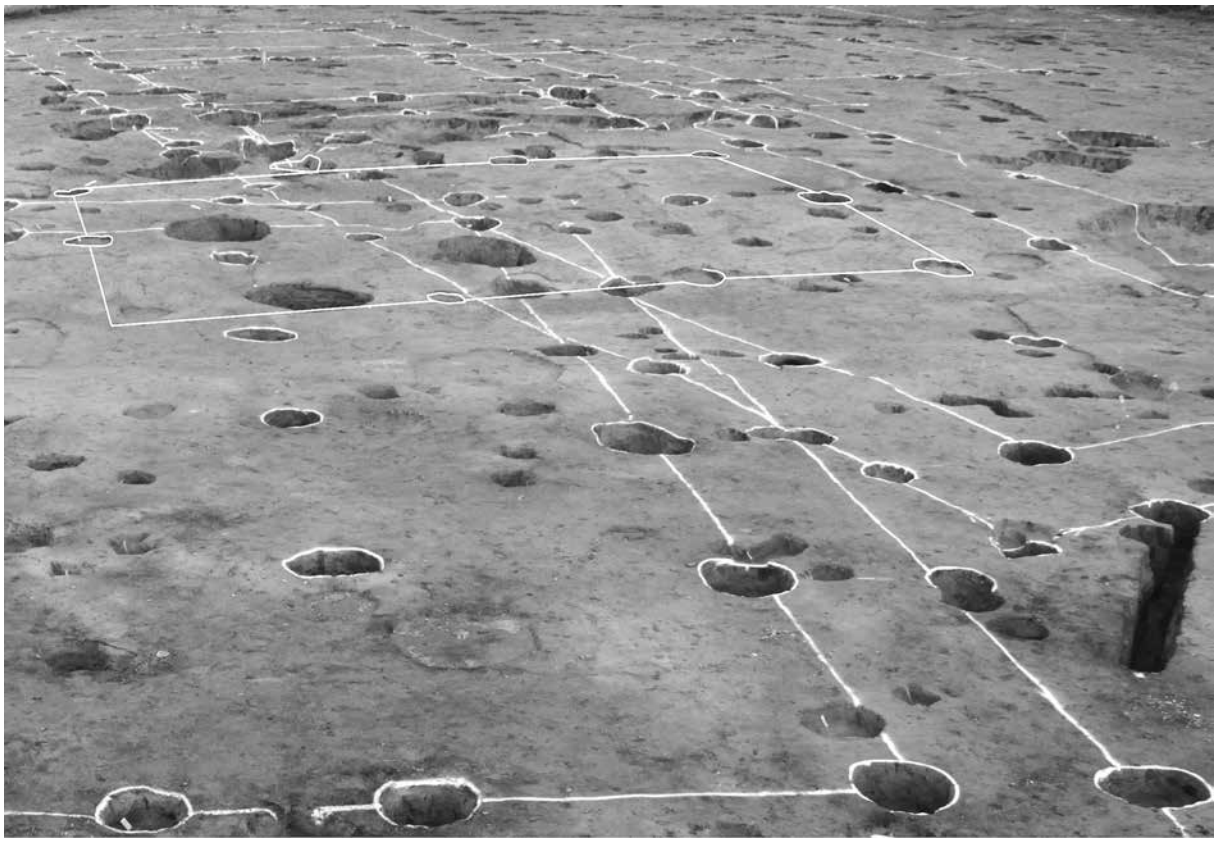
写真図版 17　SB17・18 掘立柱建物跡

SB16 掘立柱建物跡全景（西から）

SB19 掘立柱建物跡全景（北西から）

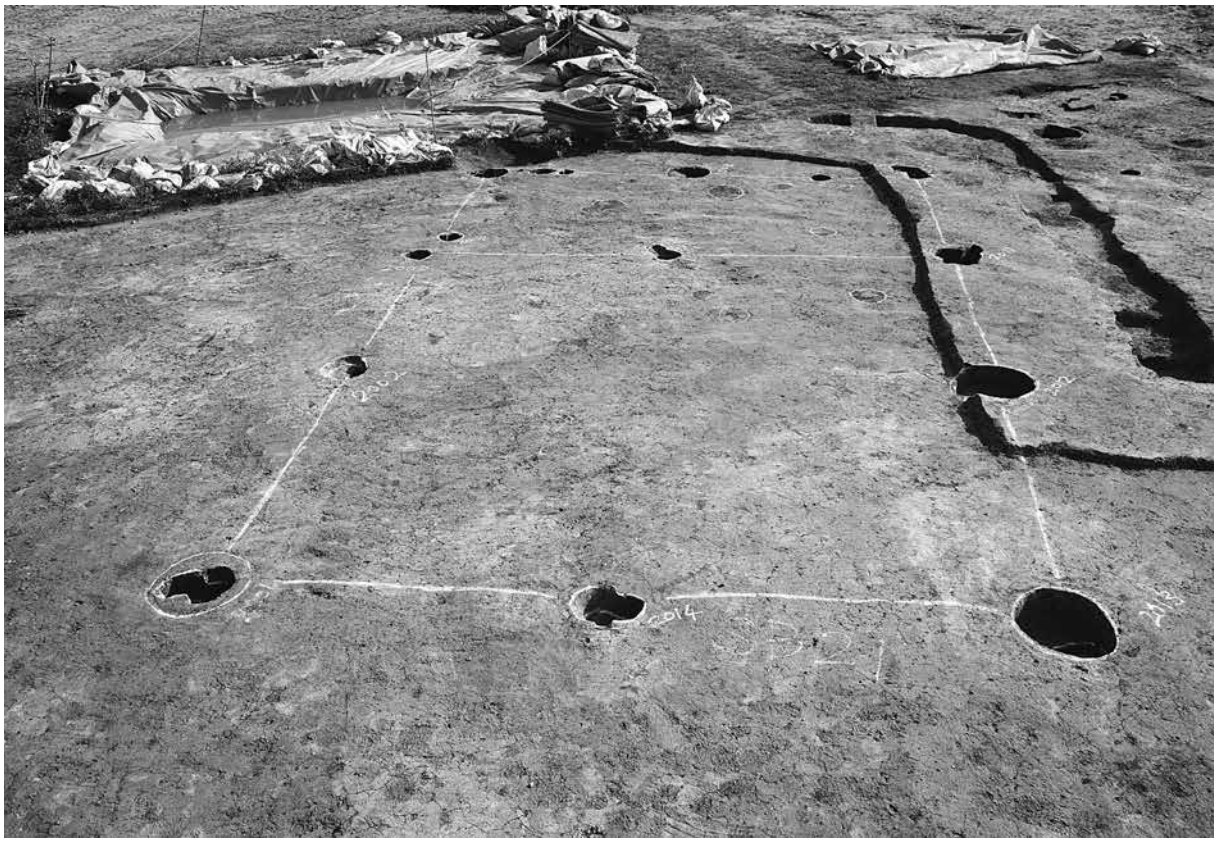
SB20 掘立柱建物跡全景（西から）

作業風景（北西から）

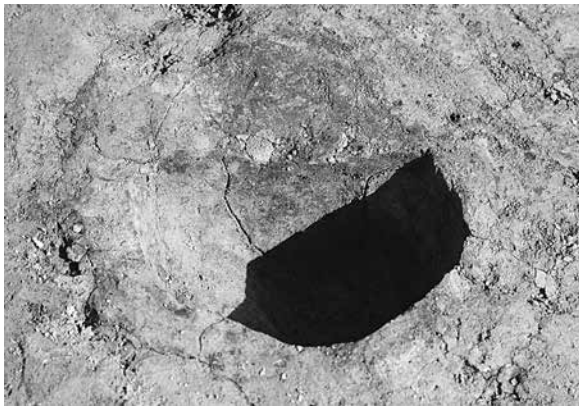


SB33 掘立柱建物跡全景（北西から）

写真図版 18　SB16・19・20・33 掘立柱建物跡



SB21 掘立柱建物跡全景（西から）



P2001 断面（南から）

P2002 断面（南から）

P2003 断面（西から）

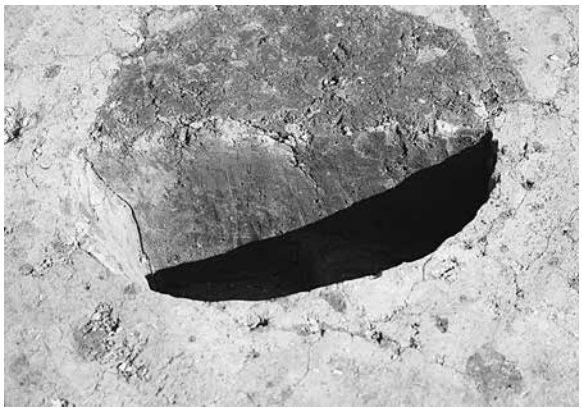
P2005 断面（西から）

写真図版 19　SB21 掘立柱建物跡

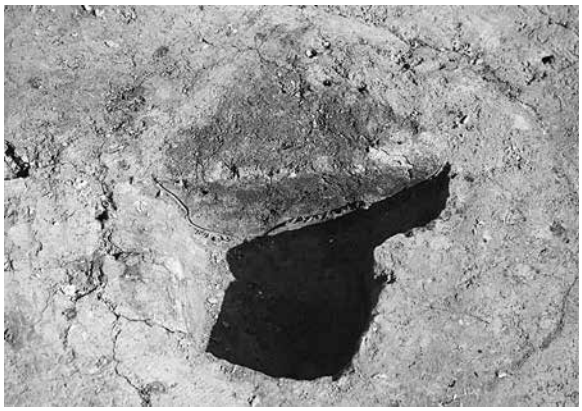
P2008 断面（南から）

P2011 断面（南から）

P2012 断面（南から）



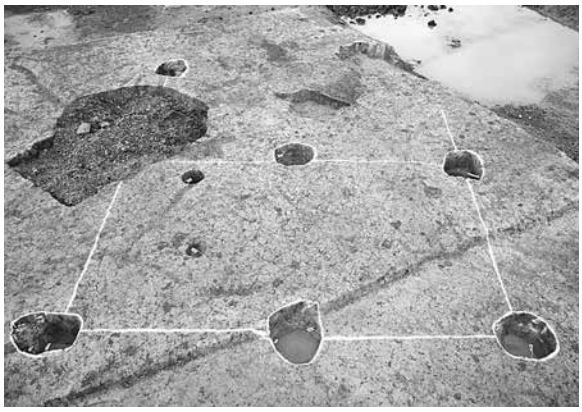
P2013 断面（南から）



P2014 断面（南から）

P2015 断面（南から）

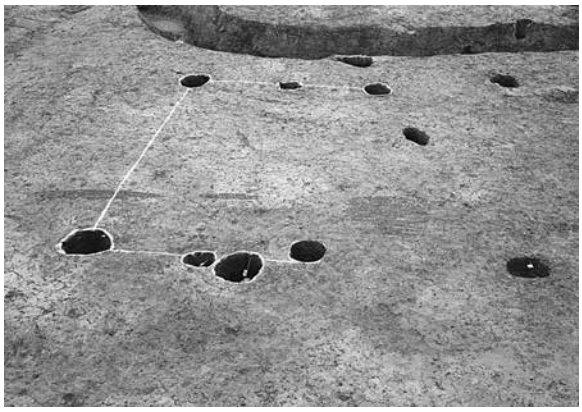
SB22・23 掘立柱建物跡全景（西から）



SB24 掘立柱建物跡全景（南西から）

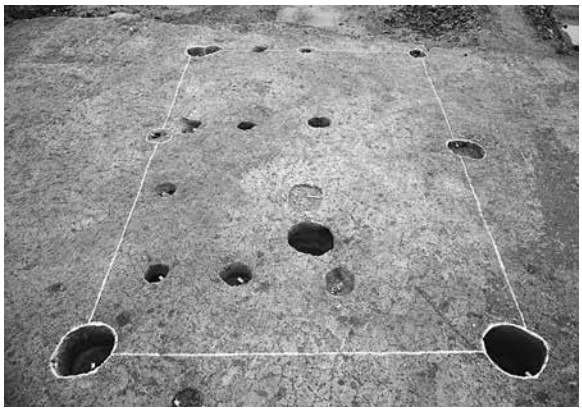
写真図版 20　SB21 ～ 24 掘立柱建物跡

SB25 掘立柱建物跡全景（東から）



SB26 掘立柱建物跡全景（南から）

SB27 掘立柱建物跡全景（西から）

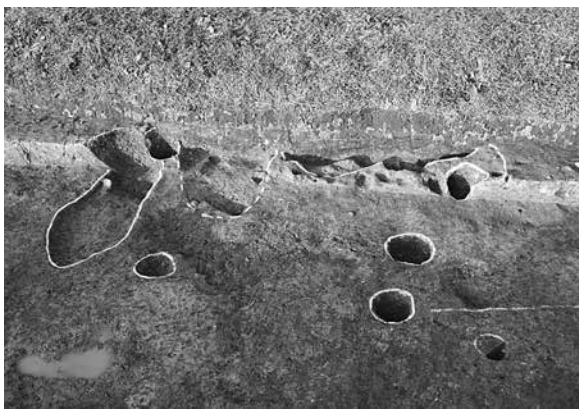


SB28 掘立柱建物跡全景（北から）

SB29 掘立柱建物跡全景（西から）

SB29 掘立柱建物跡 P486 断面（南から）

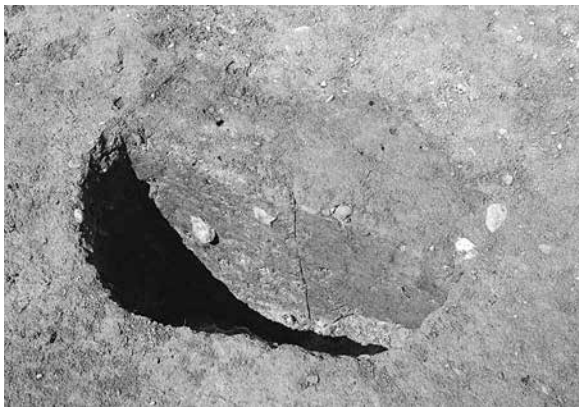
SB29 掘立柱建物跡 P532 断面（南から）



SB31 掘立柱建物跡全景（南から）

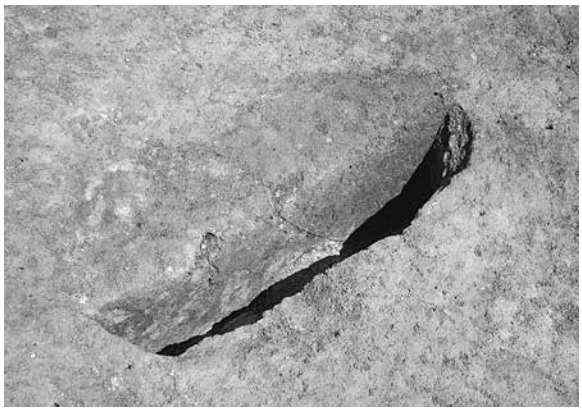
写真図版 21　SB25 ～ 29・31 掘立柱建物跡

SA01 柱穴列全景（南から）



SA01 柱穴列 pit1 断面（東から）

SA01 柱穴列 pit2 断面（東から）

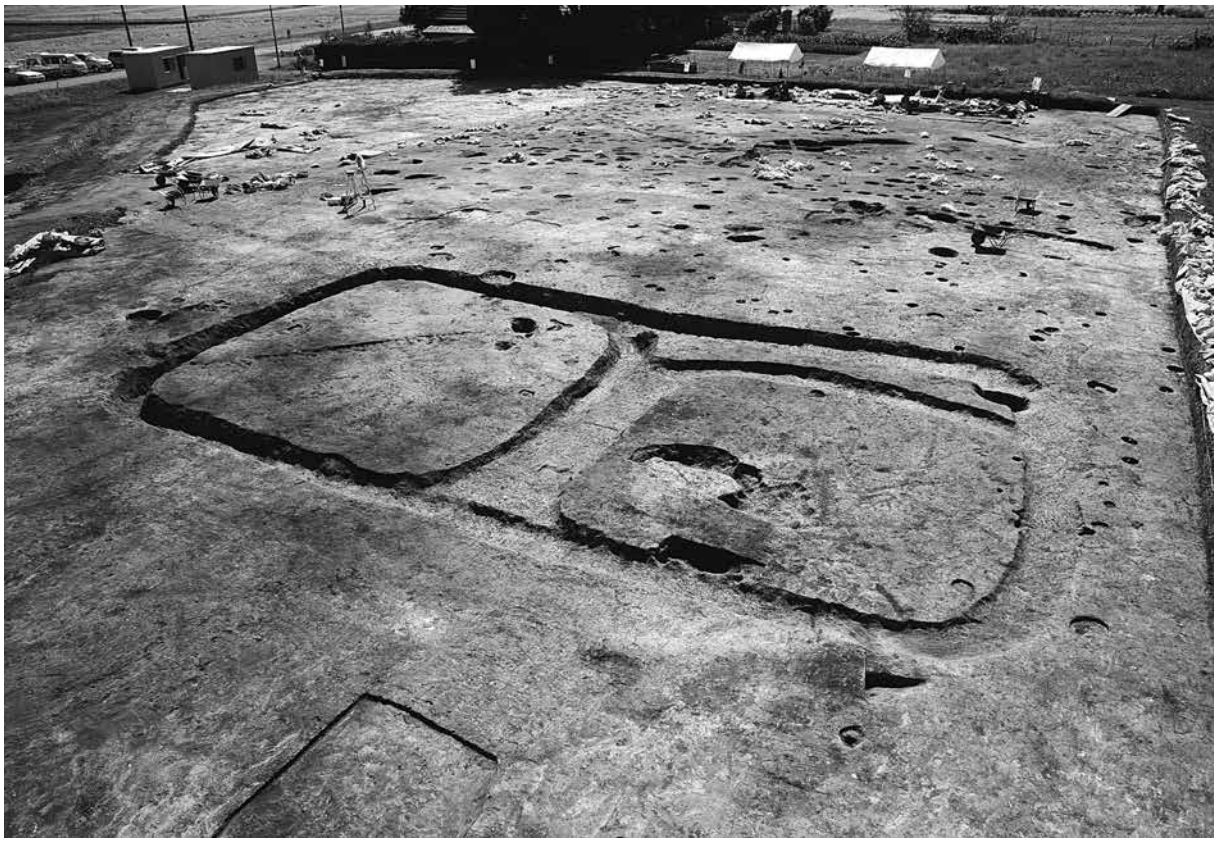


SA01 柱穴列 pit3 断面（南東から）

SA03・04 柱穴列完掘全景（北東から）

SA02 柱穴列全景（東から）

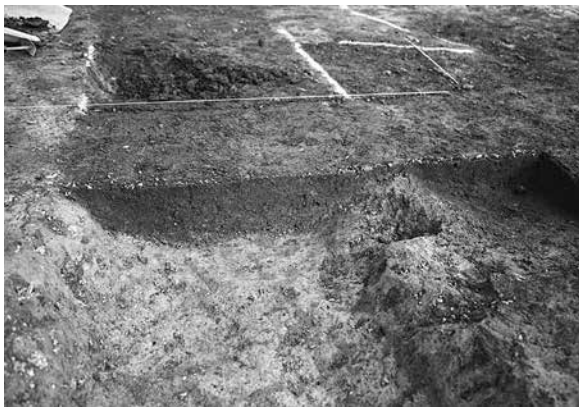
写真図版 22　SA01 ～ 04 柱穴列



SX06 墳墓完掘全景（北から）

SX06 墳墓検出状況（北から）

写真図版 23　SX06 墳墓（1）

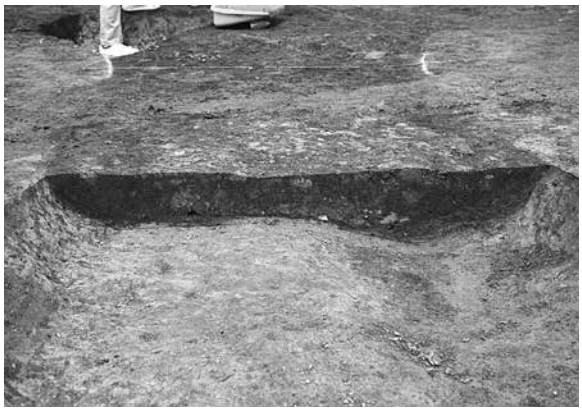


SX06 墳墓 A-A’ 断面（北西から）

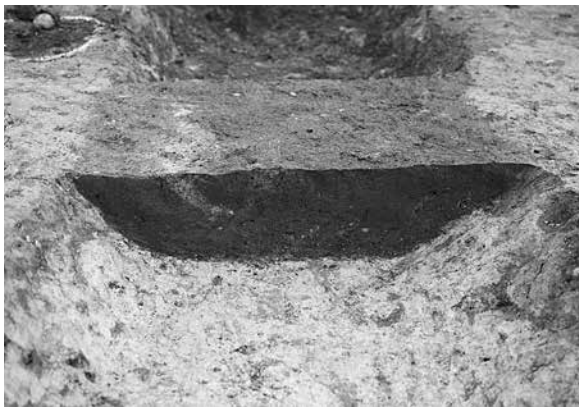
SX06 墳墓 B-B’ 断面（北西から）

SX06 墳墓 C-C’ 断面（南西から）

SX06 墳墓 D-D’ 断面（南から）



SX06 墳墓 E-E’ 断面（南西から）



SX06 墳墓 F-F’ 断面（北西から）

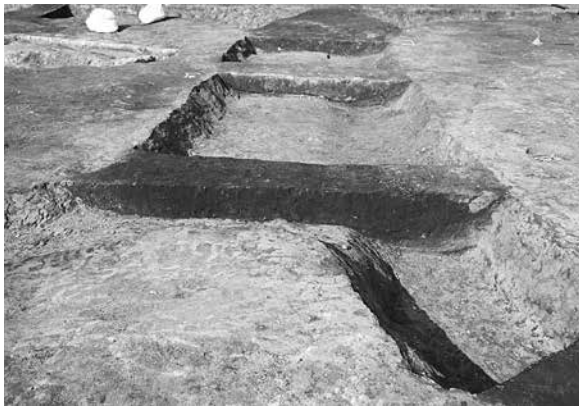
SX06 墳墓 G-G’ 断面（北西から）

SX06 墳墓 H-H’ 断面（東から）

写真図版 24　SX06 墳墓（2）

SX06 墳墓 I-I’ 断面（南東から）

SX06 墳墓 J-J’ 断面（南西から）



SX06 墳墓 K-K’ 断面（南西から）

SX06 墳墓 L-L’ 断面（北西から）

SX06 墳墓 M-M’ 断面（南東から）

SX06 墳墓 N-N’ 断面（西から）

SX06 墳墓 O-O’ 断面（南から）

SX06 墳墓断面（南から）

写真図版 25　SX06 墳墓（3）

SX06 墳墓断面（西から）

SX06 墳墓検出状況（南西から）

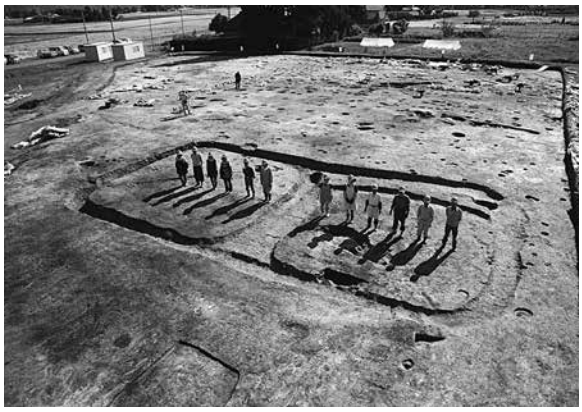
SX06 墳墓検出状況（南東から）

SX06 墳墓精査中（北西から）1

SX06 墳墓精査中（北西から）2

SX06 墳墓精査中（西から）3

SX06 墳墓精査中（南東から）4



SX06 墳墓完掘全景（北から）

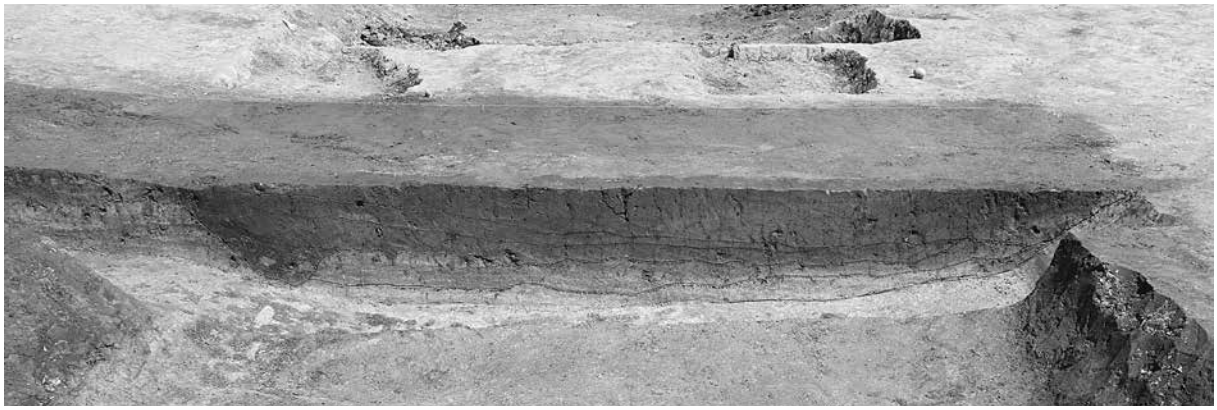
写真図版 26　SX06 墳墓（4）

SD26 堀跡完掘全景（南から）

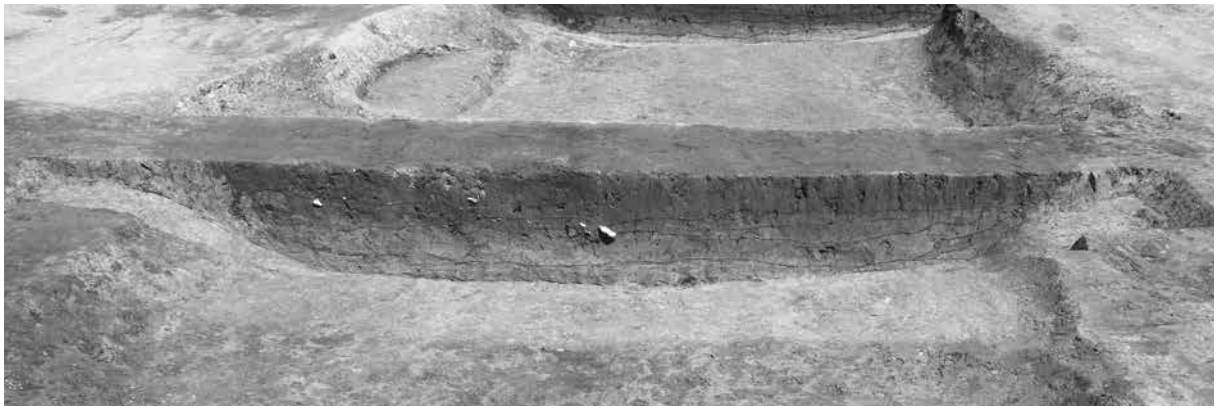
SD26・64 堀跡全景（上が北）

写真図版 27　SD26 堀跡（1）

SD26 堀跡 A-A’ 断面（南から）



SD26 堀跡 B-B’ 断面（南から）



SD26 堀跡 C-C’ 断面（南から）

SD26 堀跡 D-D’ 断面（南から）

写真図版 28　SD26 堀跡（2）

SD26 堀跡 E–E’ 断面（西から）

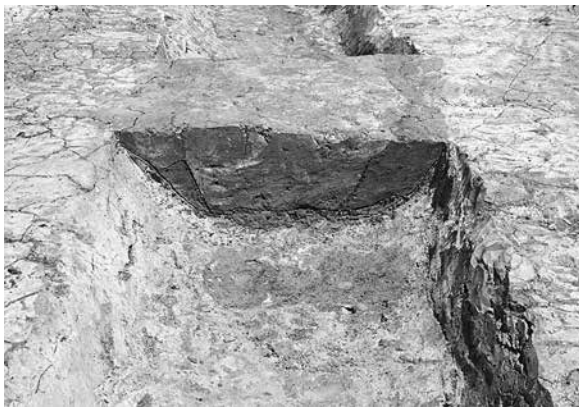
SD64 堀跡完掘全景（西から）

SD64 堀跡断面（西から）

写真図版 29　SD26(3)・64 堀跡

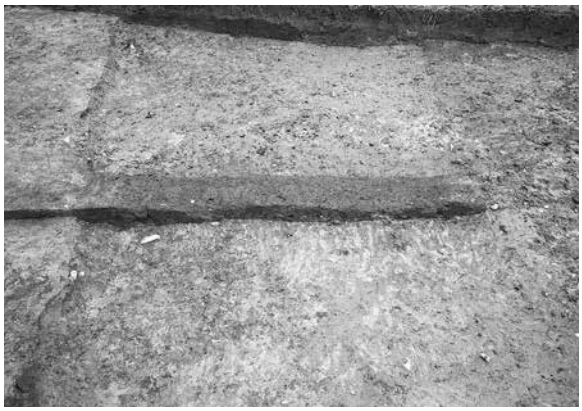
SD02 溝跡完掘全景（北から）

SD02 溝跡 A-A’ 断面（南から）



SD02 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD04 溝跡完掘全景（南から）



SD04 溝跡断面（南から）

SD05・SD06 溝跡完掘全景（南から）

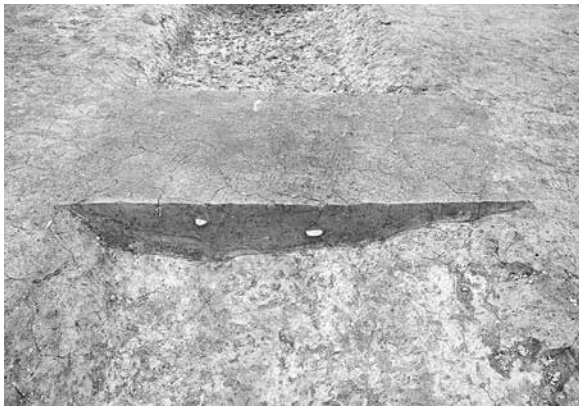
SD05・SD06 溝跡断面（南から）

写真図版 30　SD02・04 ～ 06 溝跡

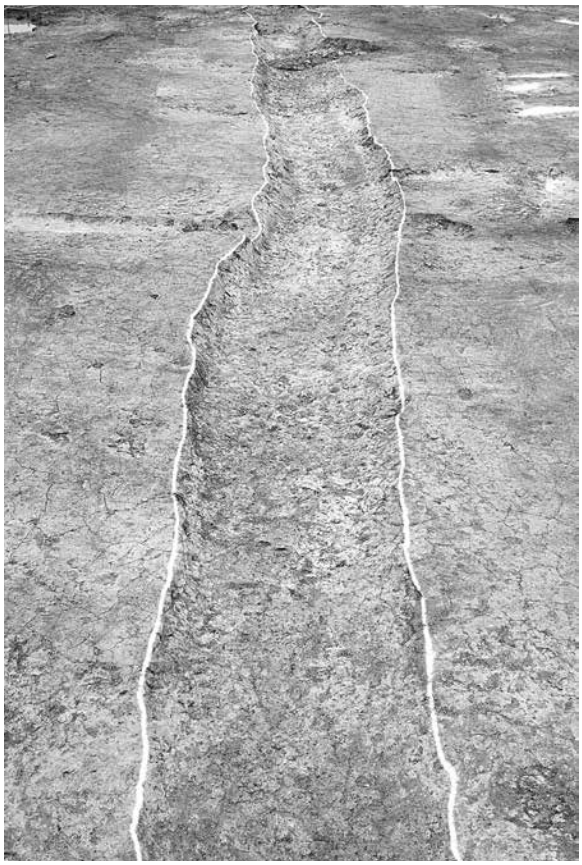
SD07・SD08 溝跡完掘全景（南から）

SD07・SD08 溝跡断面（南から）

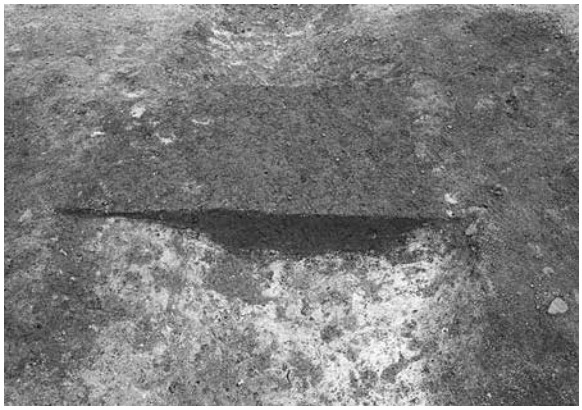
SD09 溝跡完堀全景（北から）



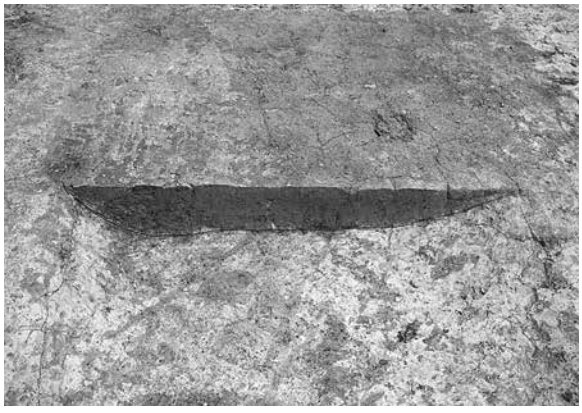
SD09 溝跡 B-B’ 断面（南から）



SD09 溝跡完堀全景（南から）



SD09 溝跡 A-A’ 断面（南から）



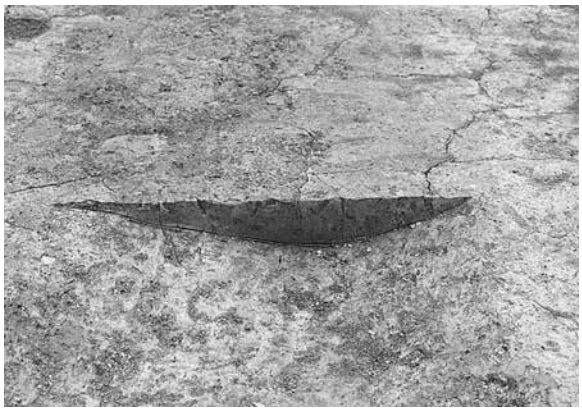
SD09 溝跡 C-C’ 断面（南から）

写真図版 31　SD07 ～ 09 溝跡

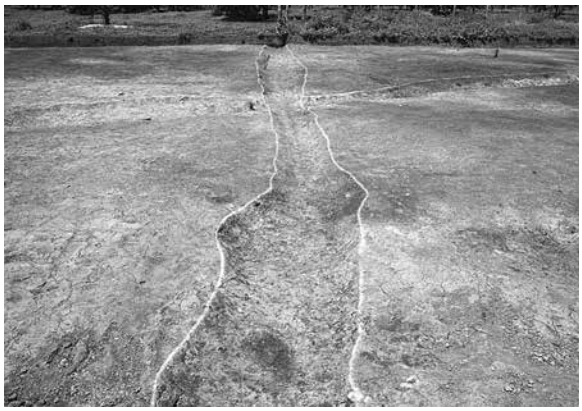
SD10 溝跡完掘全景（南から）

SD10 溝跡断面（南から）

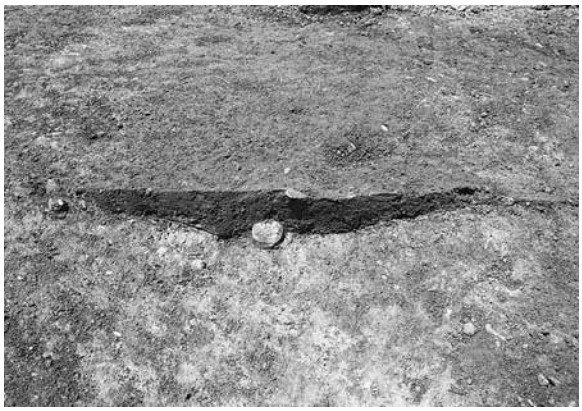
SD11 溝跡完掘全景（西から）



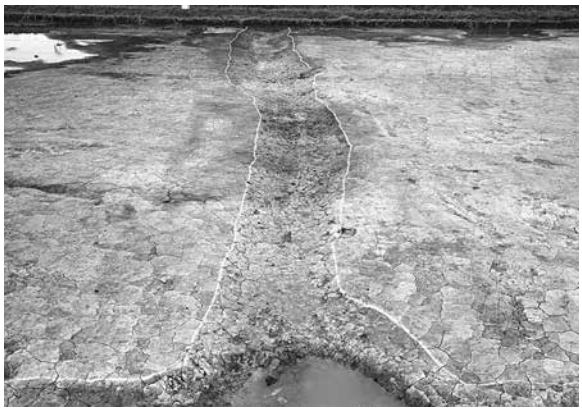
SD11 溝跡断面（西から）



SD12 溝跡完掘全景（東から）



SD12 溝跡断面（東から）



SD13 溝跡完掘全景（西から）

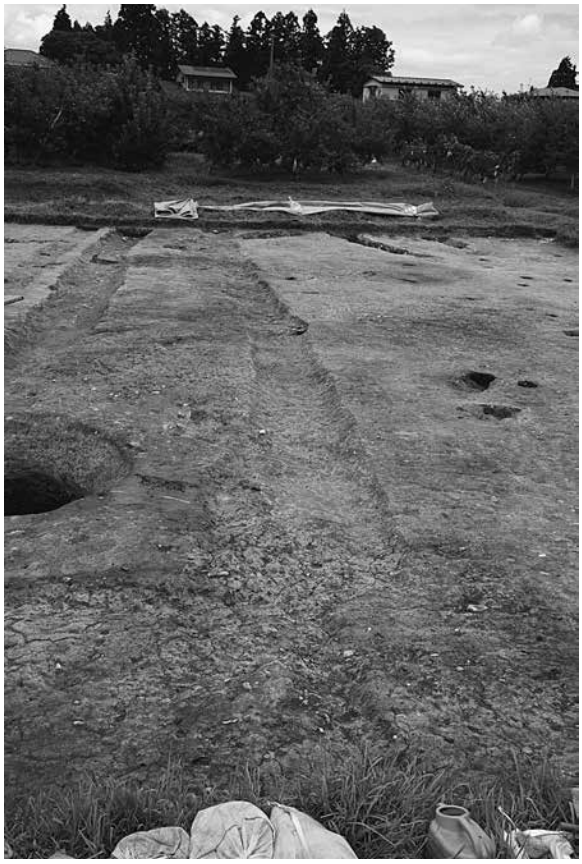
SD13 溝跡断面（西から）

写真図版 32　SD10 ～ 13 溝跡

SD14・15 溝跡完掘全景（北から）

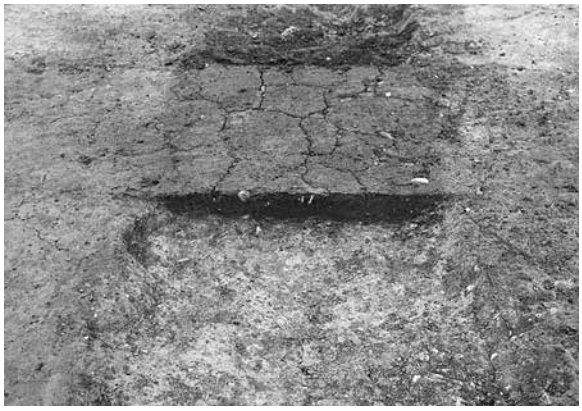
SD14・15 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD14・15 溝跡 B-B’ 断面（南から）



SD16 溝跡完掘全景（南から）

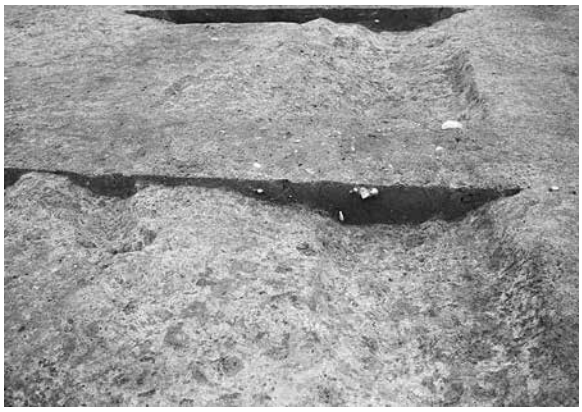
SD16 溝跡 A-A’ 断面（南から）



SD16 溝跡 B-B’ 断面（南から）

写真図版 33　SD14 ～ 16 溝跡

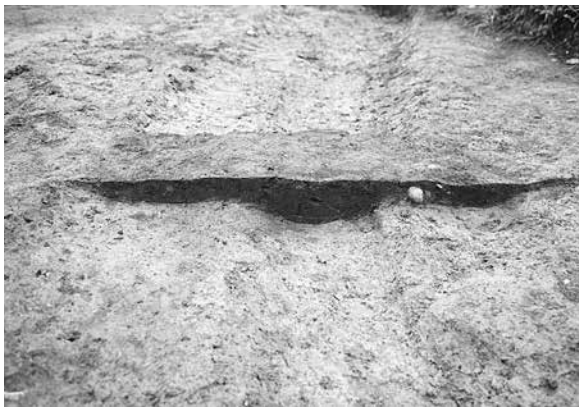
SD17 溝跡完掘全景（南から）



SD17 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD17 溝跡 C-C’ 断面（南から）

SD18・25 溝跡完掘全景（西から）

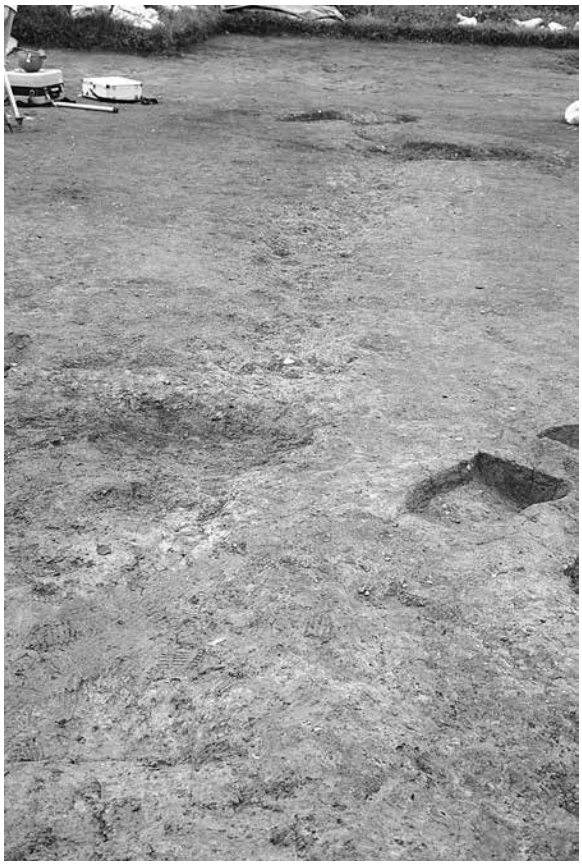


SD18 溝跡 D-D’ 断面（西から）

SD18 溝跡 F-F’ 断面（西から）

SD25 溝跡断面（西から）

写真図版 34　SD17・18・25 溝跡



SD20 溝跡完掘全景（南から）

SD19 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD20 溝跡 A-A’ 断面（西から）

SD23 溝跡完掘全景（東から）

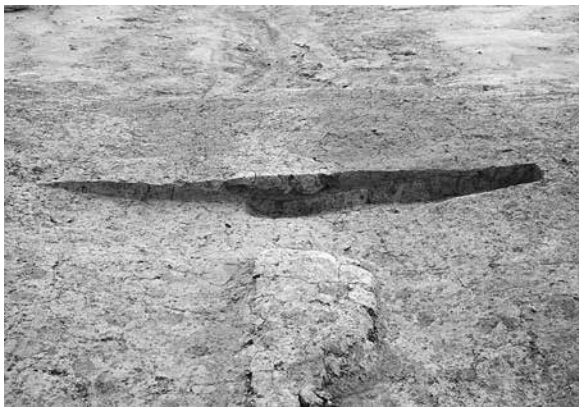
SD23 溝跡断面（西から）

SD24 溝跡完掘全景（南から）

SD24 溝跡断面（東から）

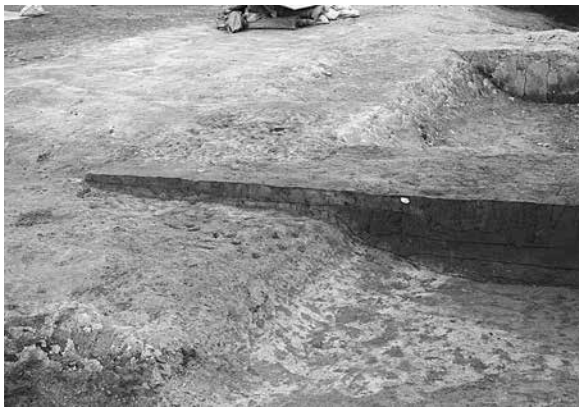
写真図版 35　SD19・20・23・24 溝跡

SD27 溝跡完掘全景（西から）



SD27 溝跡 A-A’ 断面（西から）

SD27 溝跡 B-B’ 断面（西から）



SD27 溝跡断面（南から※ SD26 堀跡との重複部分）

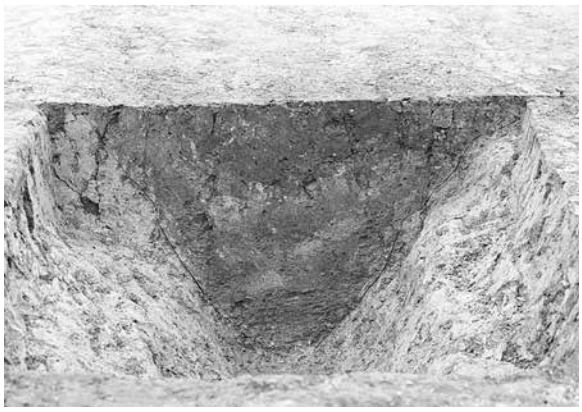
SD28 溝跡完掘全景（南から）

SD28・33 溝跡完掘全景（北から）

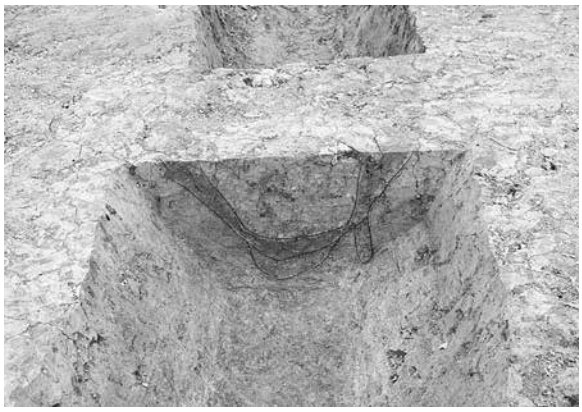
SD28 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD28 溝跡 B-B’ 断面（南から）

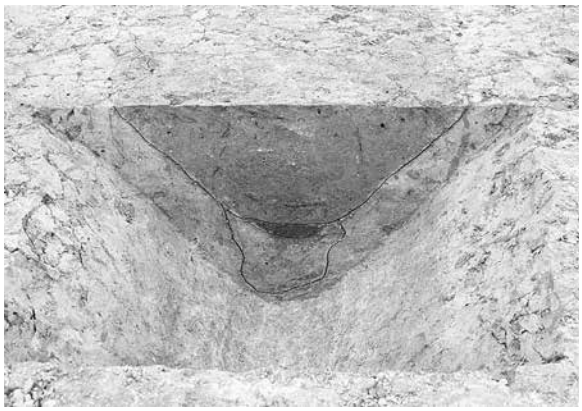
写真図版 36　SD27・28・33 溝跡



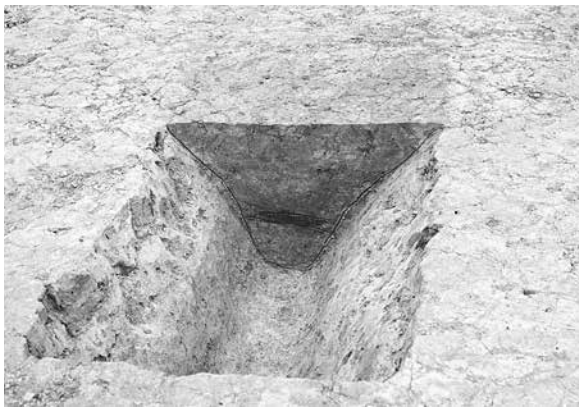
SD28 溝跡 C-C’ 断面（南から）



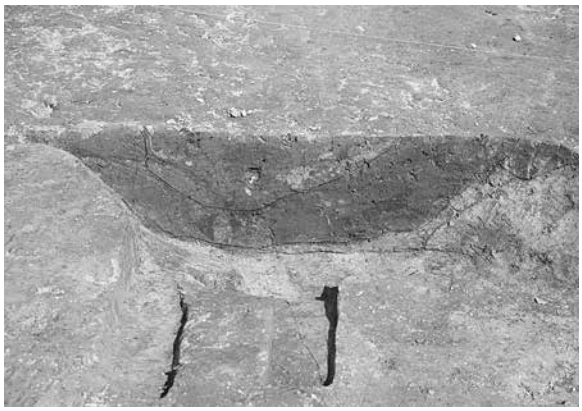
SD28 溝跡 D-D’ 断面（南西から）



SD28 溝跡 E-E’ 断面（西から）



SD28 溝跡 F-F’ 断面（西から）



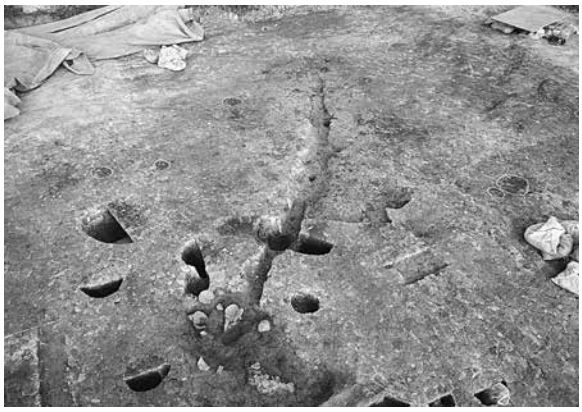
SD28 溝跡 G-G’ 断面（南から）

SD28 溝跡 H-H’ 断面（南西から）

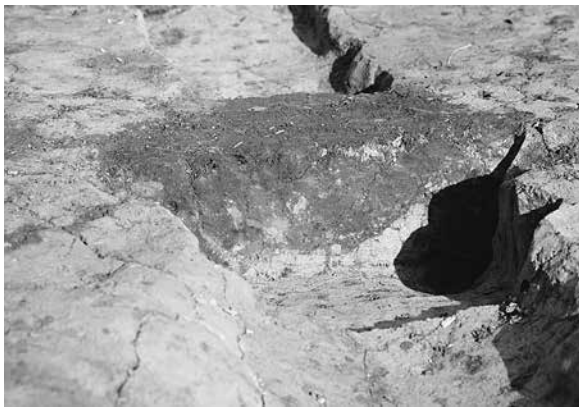
SD33 溝跡 H-H’ 断面（南から）

SD28 溝跡 I-I’ 断面（南から）

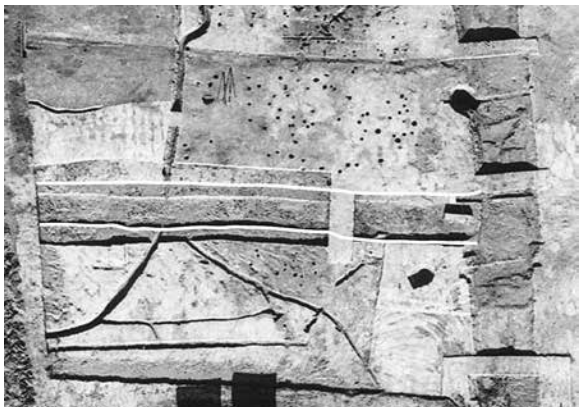
写真図版 37　SD28・33 溝跡



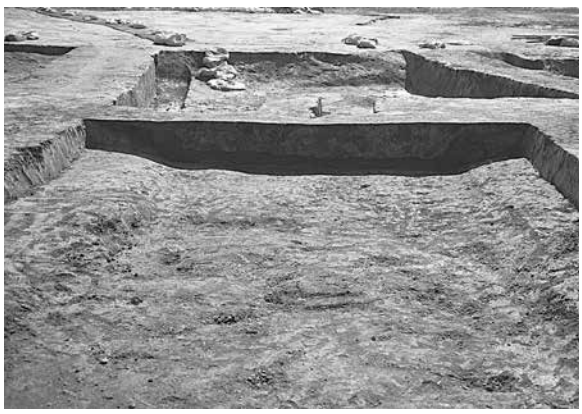
SD29 溝跡完掘全景（南から）



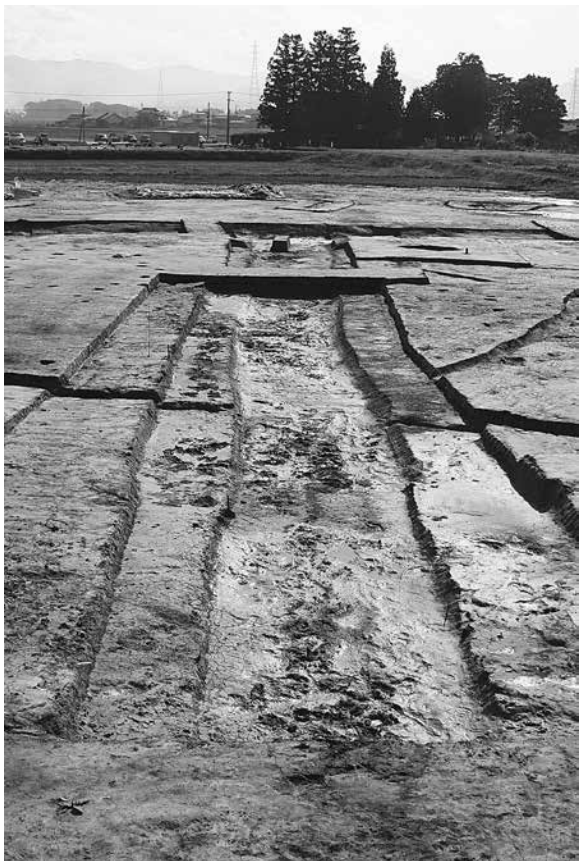
SD29 溝跡断面（南から）



SD30 溝跡完掘全景（上が北）

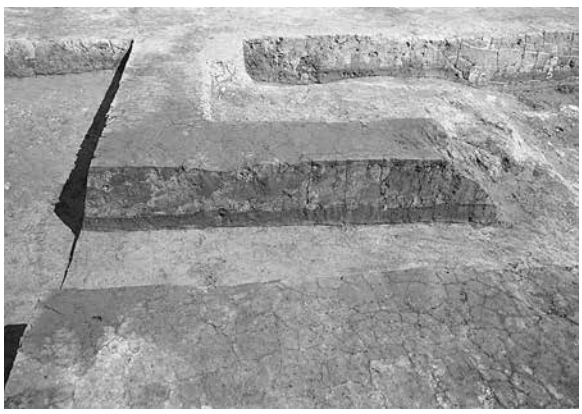


SD30 溝跡 B-B’ 断面（西から）



SD30 溝跡完掘全景（西から）

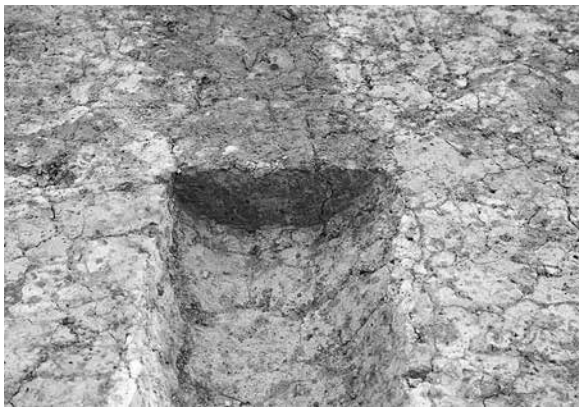
SD30 溝跡 A-A’ 断面（西から）



SD30 溝跡 C-C’ 断面（南から）

写真図版 38　SD29・30 溝跡

SD31 溝跡完掘全景（西から）



SD31 溝跡断面（西から）

SD32 溝跡完掘全景（北西から）

SD32 溝跡 A-A’ 断面（西から）

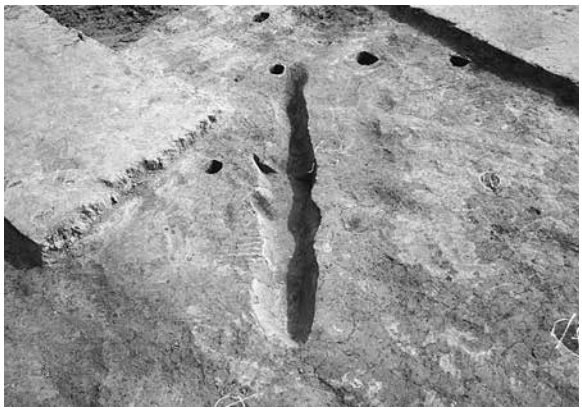
SD32 溝跡 B-B 断面（西から）

SD34・35 溝跡完掘全景（西から）

SD34 溝跡断面（北西から）

SD35 溝跡断面（北西から）

写真図版 39　SD31・32・34・35 溝跡



SD36 溝跡完掘全景（南西から）

SD36 溝跡断面 A-A’ 断面（西から）

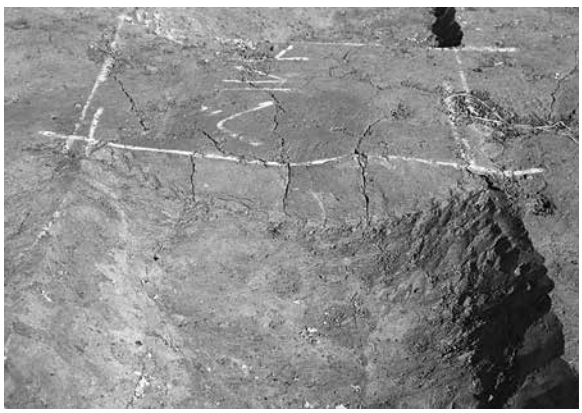
SD37 溝跡完掘全景（南西から）

SD37 溝跡 A-A’ 断面（南西から）

SD38 溝跡完掘全景（西から）

SD38 溝跡断面（西から）

SD39 溝跡完掘全景（西から）



SD39 溝跡 A-A’ 断面（南から）

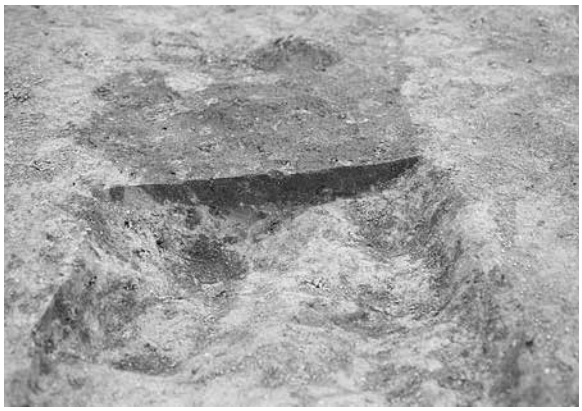
写真図版 40　SD36 ～ 39 溝跡

SD40 溝跡完掘全景（西から）

SD40 溝跡 B–B’ 断面（東から）

SD41 溝跡完掘全景（北から）

SD41 溝跡 A–A’ 断面（南西から）



SD41 溝跡 B–B’ 断面（南西から）

SD42 溝跡 A–A’ 断面（南から）

SD43 溝跡完掘全景（東から）

SD43 溝跡 B–B’ 断面（北西から）

写真図版 41　SD40 ～ 43 溝跡

SD44 溝跡完掘全景（西から）

SD44 溝跡 A–A’ 断面（東から）

SD47 溝跡完掘全景（西から）

SD47 溝跡断面（西から）

SD48 溝跡完掘全景（西から）

SD48 溝跡 A–A’ 断面（西から）

SD48 溝跡 B–B’ 断面（西から）

写真図版 42　SD44・47・48 溝跡

SD49 溝跡完掘全景（南から）

SD49 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD49 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD49 溝跡遺物出土状況（南から）

SD50 溝跡完掘全景（北西から）

SD50 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD50 溝跡 B-B’ 断面（南から）

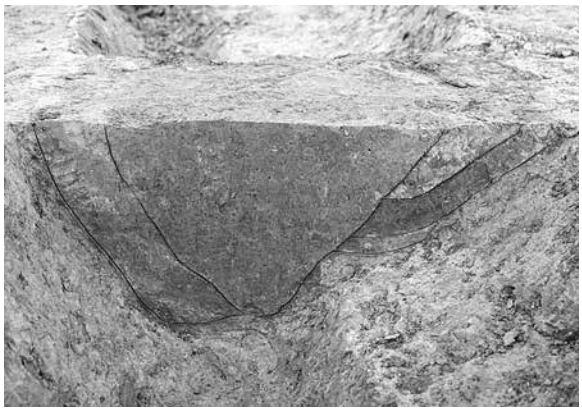
SD50 溝跡 C-C’ 断面（南から）

写真図版 43　SD49 ～ 50 溝跡

SD51 溝跡完掘全景（西から）

SD51 溝跡断面（南東から）

SD52 溝跡完掘全景（南から）

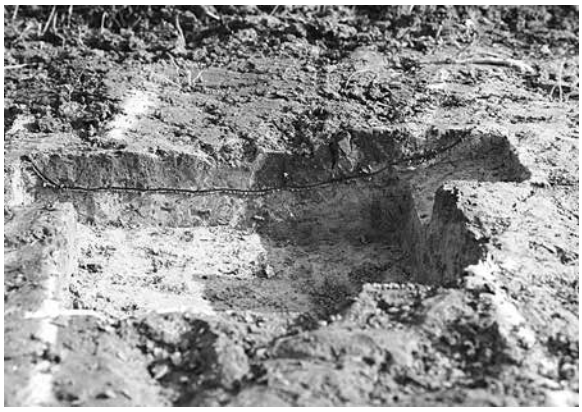


SD52 溝跡断面（南から）

SD53 溝跡完掘全景（北から）

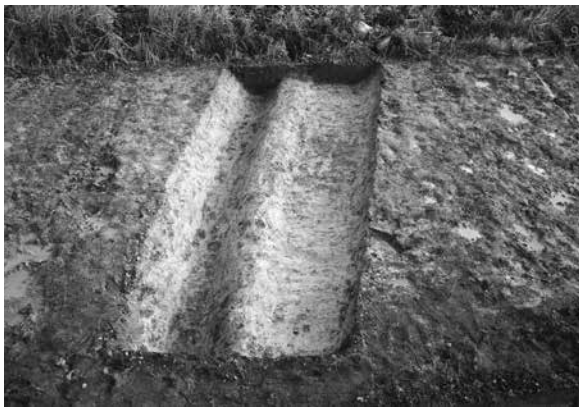
SD53 溝跡断面（南から）

SD54 溝跡完掘全景（西から）



SD54 溝跡断面（西から）

写真図版 44　SD51 ～ 54 溝跡

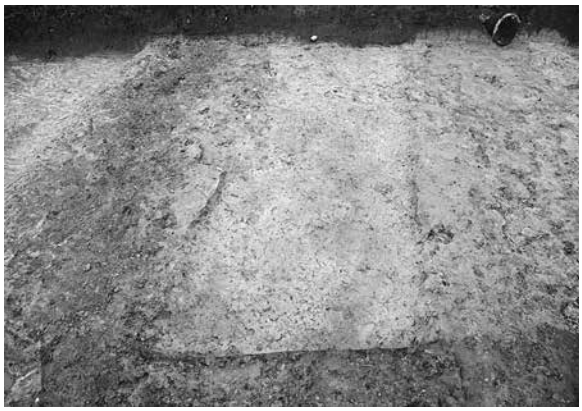


SD55 溝跡完掘全景（西から）

SD55 溝跡断面（西から）

SD56・59・60・89 溝跡完掘全景　（西から）

SD56・59・60・89 溝跡断面（西から）



SD57 溝跡完掘全景（西から）

SD57 溝跡断面（西から）

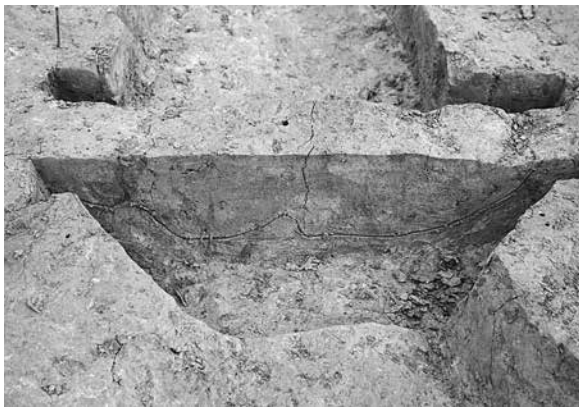
SD58 溝跡断面（西から）

SD65 溝跡断面（西から）

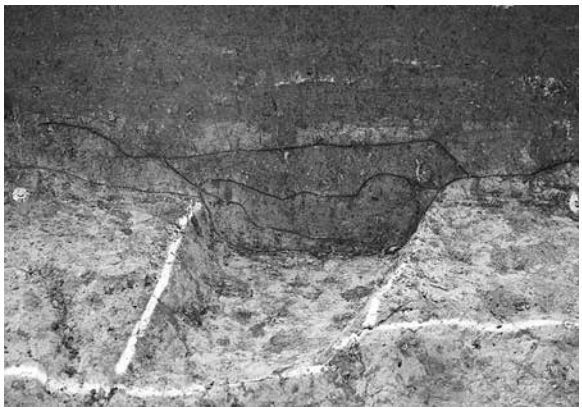
写真図版 45　SD55 ～ 60・65・89 溝跡

SD61 溝跡完掘全景（北東から）

SD61 溝跡断面（北から）



SD62 溝跡 B-B’ 断面（南から）

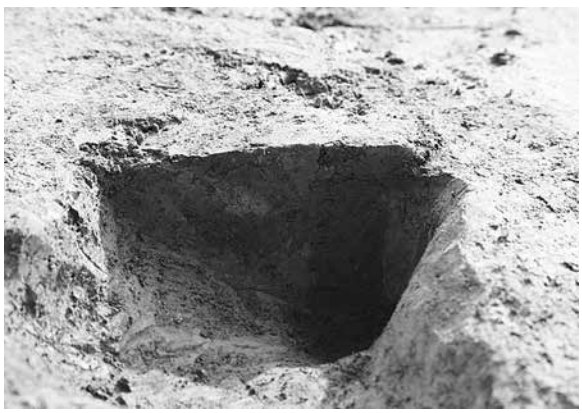


SD63 溝跡断面（北から）

SD66 溝跡完掘全景（西から）

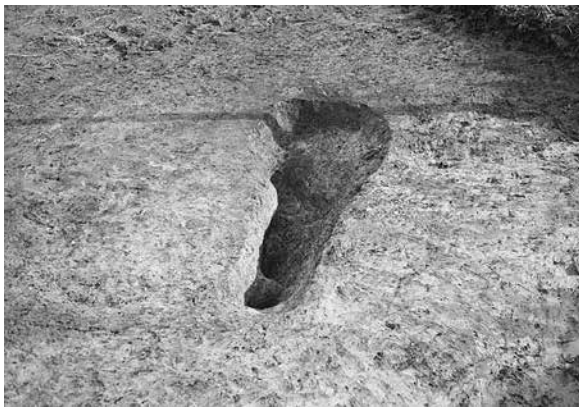
SD66 溝跡断面（南西から）

SD67 溝跡完掘全景（西から）



SD67 溝跡断面（西から）

写真図版 46　SD61 ～ 63・66・67 溝跡



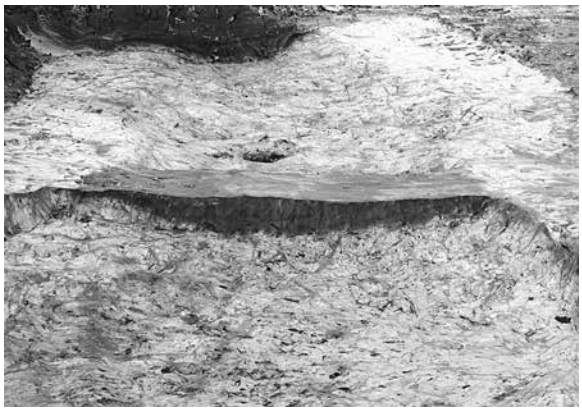
SD68 溝跡完掘全景（北西から）

SD68 溝跡断面（北西から）

SD69 溝跡完掘全景（西から）

SD71 溝跡断面（南から）

SD70 溝跡完掘全景（南から）

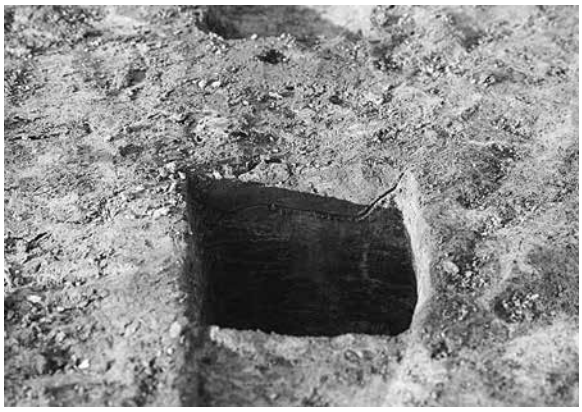


SD70 溝跡断面（南から）

SD72 溝跡完掘全景（西から）

写真図版 47　SD68 ～ 72 溝跡

SD81 溝跡完掘全景（南から）



SD81 溝跡断面（南から）

SD82 溝跡完掘全景（西から）

SD82 溝跡断面（西から）

SD83 溝跡完掘全景（南東東から）

SD83 溝跡断面（西から）

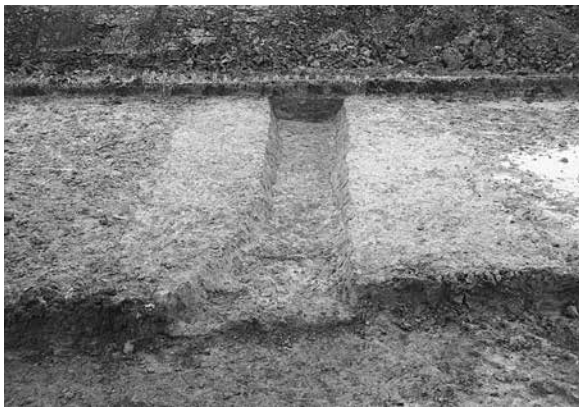
SD84 溝跡完掘全景（南から）

SD84 溝跡断面（南西から）

写真図版 48　SD81 ～ 84 溝跡

SD85 溝跡完掘全景（西から）

SD85 溝跡断面（西から）



SD86 溝跡完掘全景（南から）

SD86 溝跡断面（南から）

SD87 溝跡完掘全景（南から）

SD88 溝跡完掘全景（西から）

SD88 溝跡断面（西から）

SD90 溝跡完掘全景（南から）

写真図版 49　SD85 ～ 88・90 溝跡

SK35 陥し穴完掘全景（北西から）

SK35 陥し穴断面（南西から）

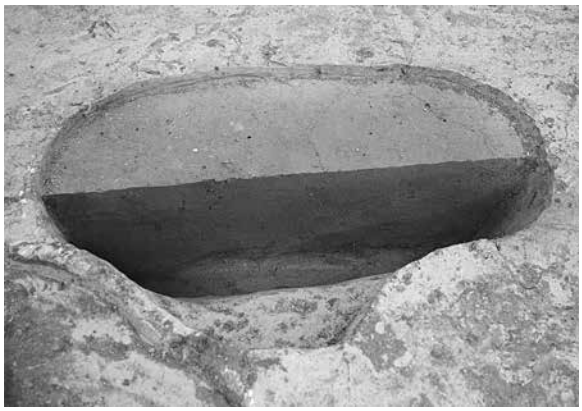
SK36 陥し穴完掘全景（北東から）

SK39 陥し穴完掘全景（北から）

SK40 陥し穴完掘全景（北から）

SK40 陥し穴断面（東から）

SK42 陥し穴完掘全景（南から）



SK42 陥し穴断面（南から）

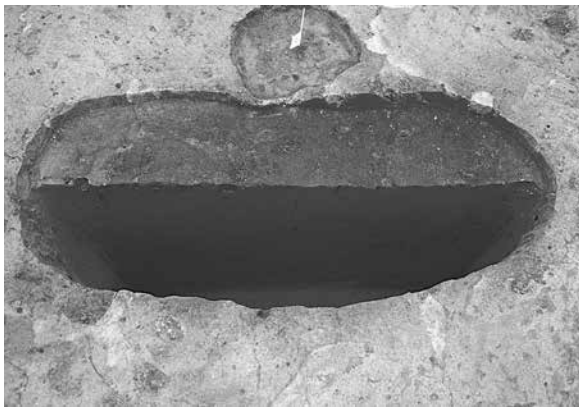
写真図版 50　SK35・36・39・40・42 陥し穴

SK43 陥し穴完掘全景（北から）

SK43 陥し穴断面（西から）

SK44 陥し穴完掘全景（北西から）

SK44 陥し穴断面（南東から）



SK45 陥し穴断面（南から）

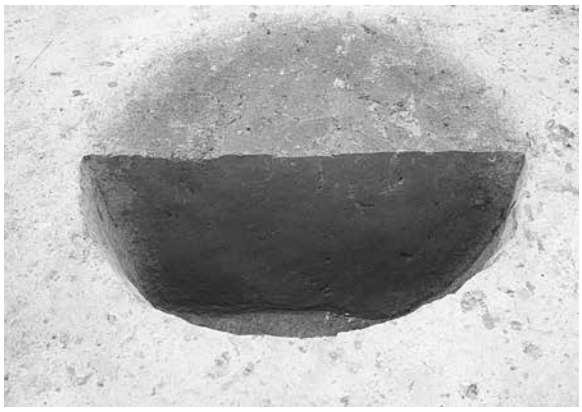
SK46 陥し穴完掘全景（南から）

SK46・47 陥し穴完掘全景（南東から）

SK46・47 陥し穴断面（南から）

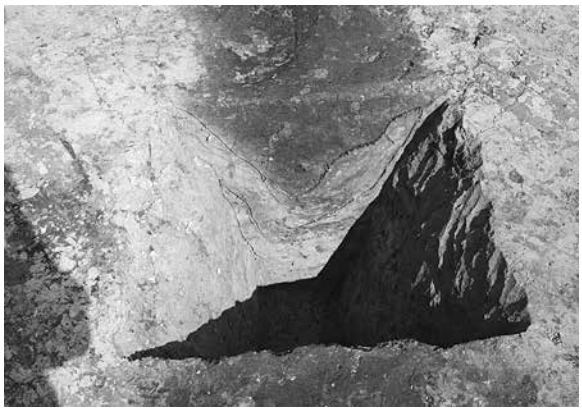
写真図版 51　SK43 ～ 47 陥し穴

SK48 陥し穴完掘全景（北西から）



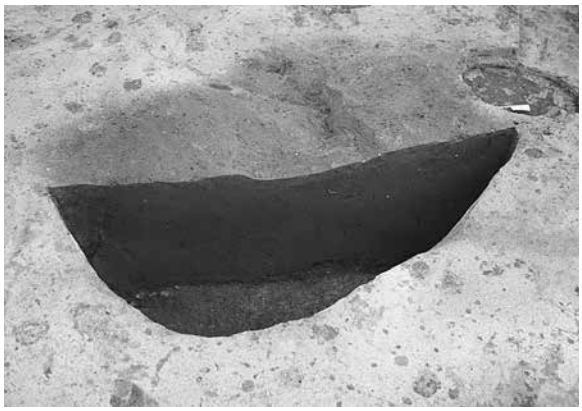
SK48 陥し穴断面（南から）

SK51 陥し穴完掘全景（南から）



SK51 陥し穴断面（南から）

SK61 陥し穴完掘全景（北から）



SK61 陥し穴断面（西から）

SK62 陥し穴完掘全景（北から）

SK62 陥し穴断面（南西から）

写真図版 52　SK48・51・61・62 陥し穴

SK63 陥し穴完掘全景（北から）

SK63 陥し穴断面（南から）

SK66 陥し穴完掘全景（北から）

SK66 陥し穴断面（南から）

SK67 陥し穴完掘全景（北から）

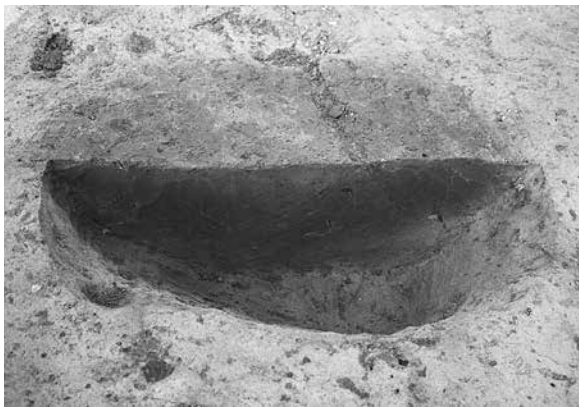
SK67 陥し穴断面（南から）

SK68 陥し穴完掘全景（北から）

SK68 陥し穴断面（南から）

写真図版 53　SK63・66 ～ 68 陥し穴

SK69 陥し穴完掘全景（北西から）



SK69 陥し穴断面（南から）

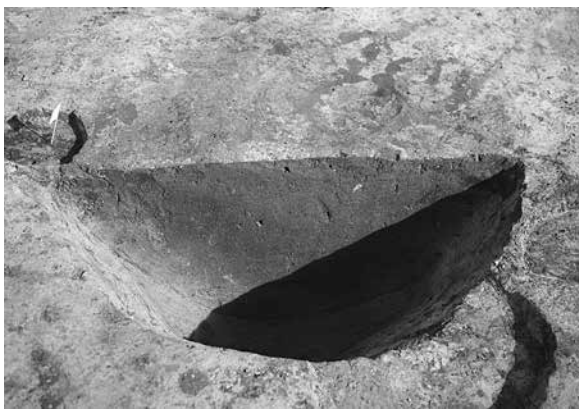
SK71 陥し穴完掘全景（北から）

SK71 陥し穴断面（南西から）

SK72 陥し穴完掘全景（北から）

SK72 陥し穴断面（西から）

SK75 陥し穴完掘全景（南から）



SK75 陥し穴断面（南から）

写真図版 54　SK69・71・72・75 陥し穴

SK76 陥し穴完掘全景（南から）

SK76 陥し穴断面（南から）

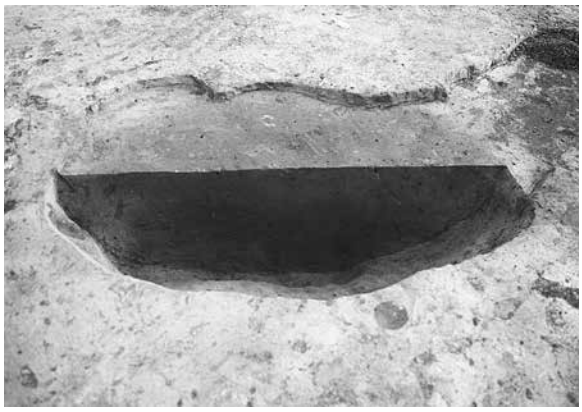
SK79 陥し穴完掘全景（南東から）

SK79 陥し穴 A-A’ 断面（東から）

SK82 陥し穴完掘全景（南東から）

SK82 陥し穴断面（南西から）

SK83 陥し穴完掘全景（南から）

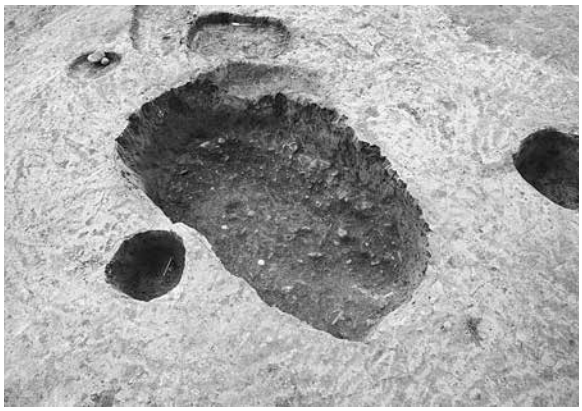


SK83 陥し穴断面（南から）

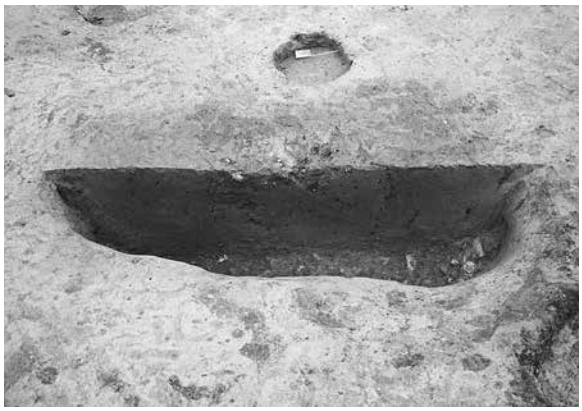
写真図版 55　SK76・79・82・83 陥し穴

SK84 陥し穴完掘全景（東から）

SK84 陥し穴断面（西から）



SK85 陥し穴完掘全景（北西から）

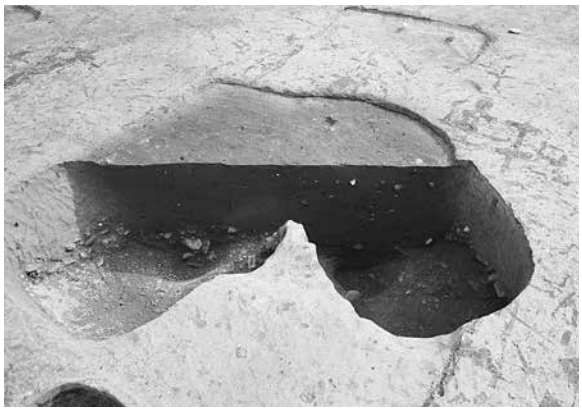


SK85 陥し穴断面（南から）

SK86 陥し穴完掘全景（南東から）

SK86 陥し穴断面（南東から）

SK87・88 陥し穴完掘全景（東から）

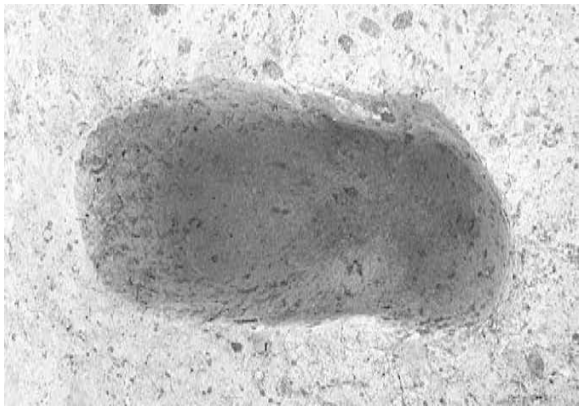


SK87・88 陥し穴断面（西から）

写真図版 56　SK84 ～ 88 陥し穴

SK90 陥し穴完掘全景（南から）

SK90 陥し穴断面（南から）



SK91 陥し穴完掘全景（南東から）

SK91 陥し穴断面（南から）

SK98 陥し穴完掘全景（西から）

SK98 陥し穴断面（北から）

SK100 陥し穴完掘全景（南から）

SK100 陥し穴断面（東から）

写真図版 57　SK90・91・98・100 陥し穴

SKT01 陥し穴完掘全景（南から）

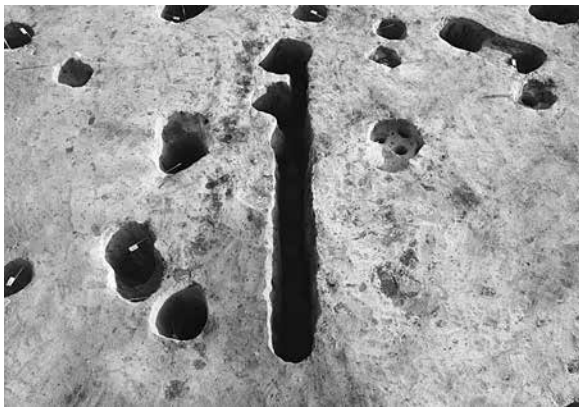
SKT01 陥し穴断面（東から）

SKT02 陥し穴完掘全景（南から）

SKT02 陥し穴断面（西から）

SKT03 陥し穴完掘全景（南から）

SKT03 陥し穴断面（西から）



SKT04 陥し穴完掘全景（北西から）

SKT04 陥し穴断面（西から）

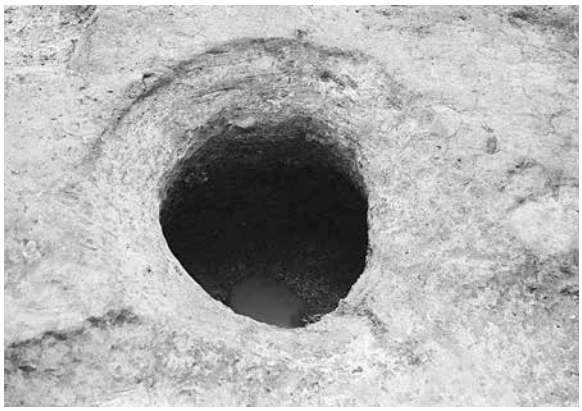
写真図版 58　SKT01 ～ 04 陥し穴

SE01 井戸跡完掘全景（南から）

SE01 井戸跡断面（南から）

SE02 井戸跡完掘全景（南から）

SE02 井戸跡断面（南から）



SE03 井戸跡完掘全景（北西から）

SE03 井戸跡作業風景（西から）

SE03 井戸跡馬骨出土状況（北西から※ 6 － 7 層）

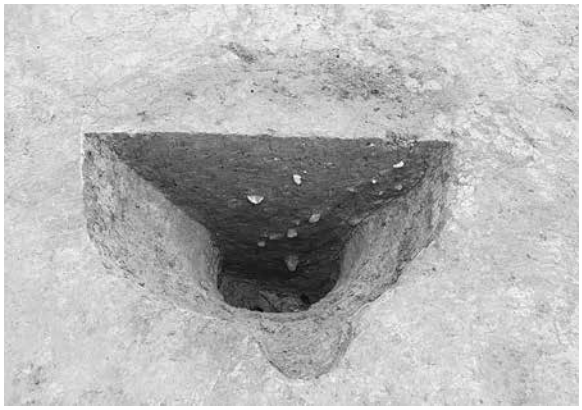
SE03 井戸跡馬骨出土状況（北西から※ 6 － 7 層）

写真図版 59　SE01 ～ 03 井戸跡

SE04 井戸跡完掘全景（南から）

SE04 井戸跡断面（南から）

SE05 井戸跡完掘全景（南から）



SE05 井戸跡断面（南から）

SE06 井戸跡完掘全景（南から）

SE06 井戸跡断面（南から）

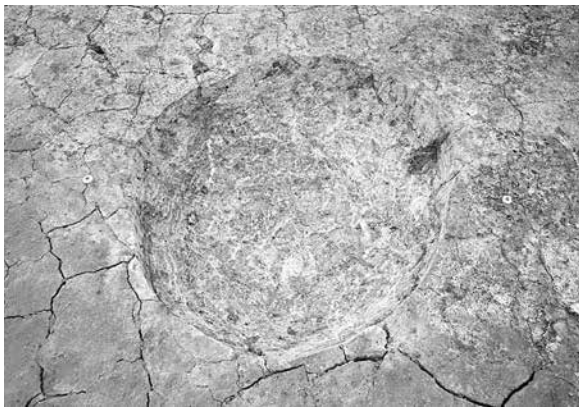
SE07 井戸跡完掘全景（南から）

SE07 井戸跡断面（南から）

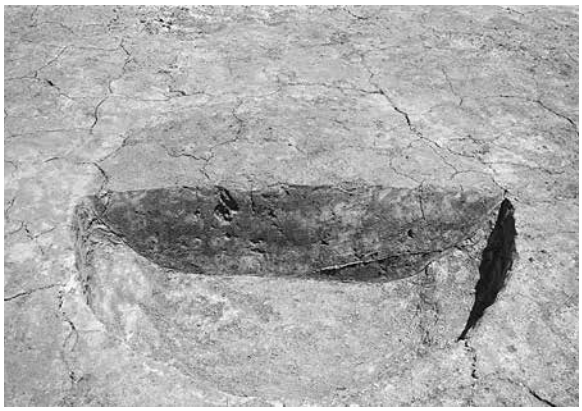
写真図版 60　SE04 ～ 07 井戸跡

SK02 土坑完掘全景（南から）

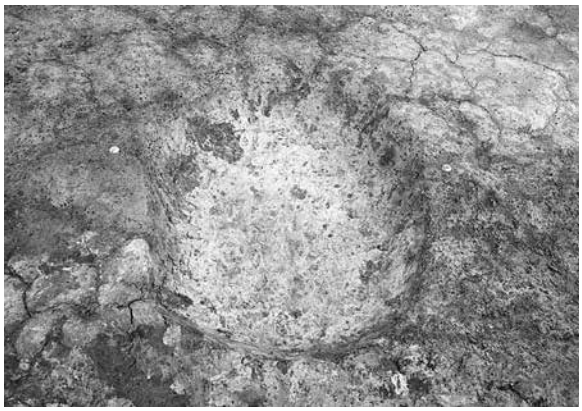
SK02 土坑断面（南から）



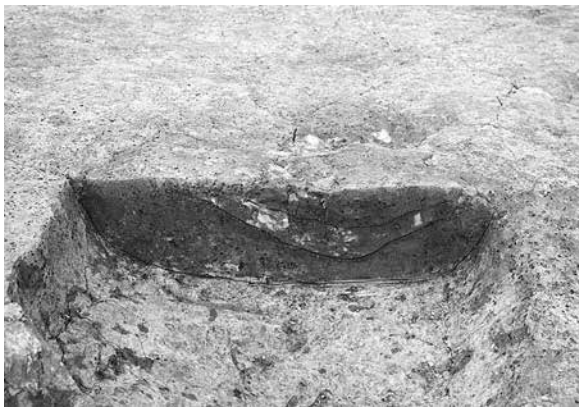
SK03 土坑完掘全景（南から）



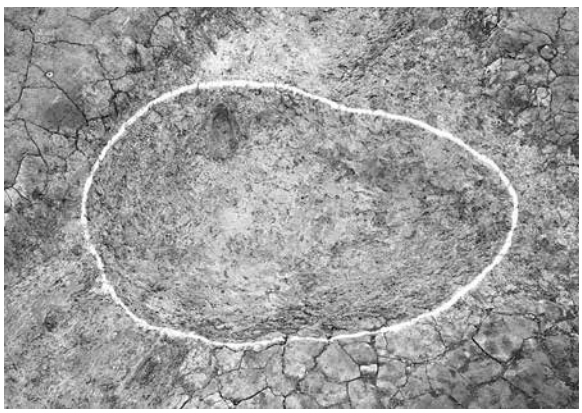
SK03 土坑断面（南から）



SK04 土坑完掘全景（西から）



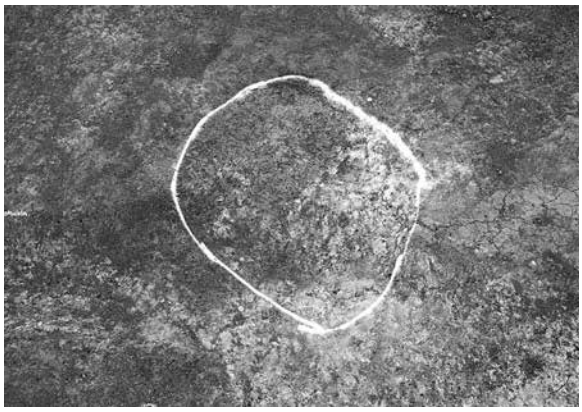
SK04 土坑断面（西から）



SK05 土坑完掘全景（南東から）

SK05 土坑断面（南から）

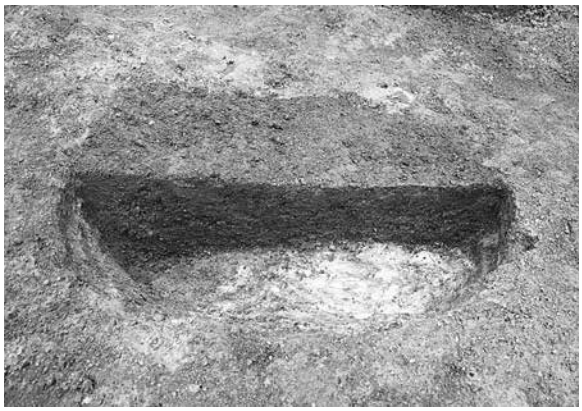
写真図版 61　SK02 ～ 05 土坑



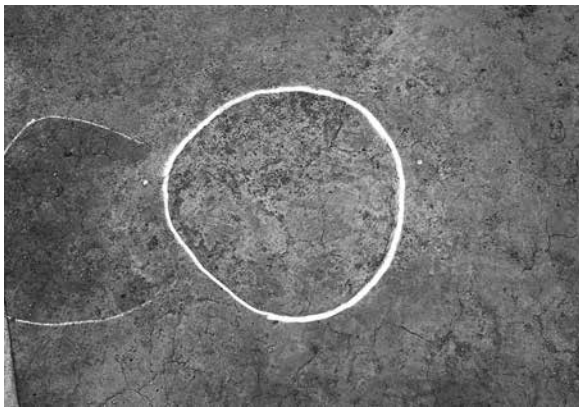
SK06 土坑完掘全景（東から）

SK06 土坑断面（東から）

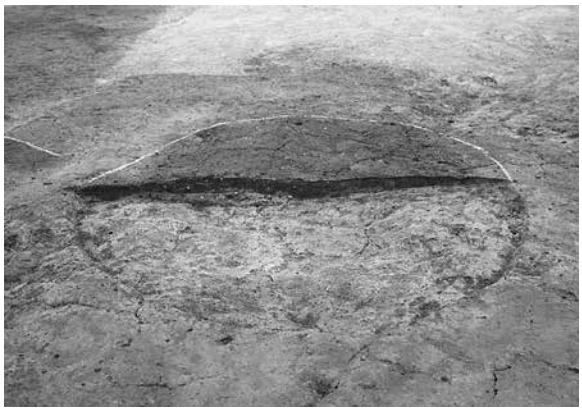
SK07 土坑完掘全景（南から）



SK07 土坑断面（北東から）



SK08 土坑完掘全景（南から）



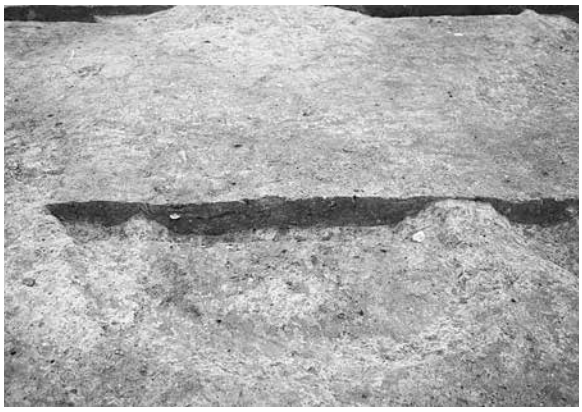
SK08 土坑断面（南から）

SK11 土坑完掘全景（西から）

SK11 土坑 A-A’ 断面（南から）

写真図版 62　SK06 ～ 08・11 土坑

SK12 土坑完掘全景（南から）



SK12 土坑 A-A’ 断面（南から）

SK13 土坑完掘全景（西から）

SK13 土坑断面（西から）

SK14 土坑完掘全景（南から）

SK14 土坑断面（南から）

SK15 土坑完掘全景（南から）

SK15 土坑断面（南から）

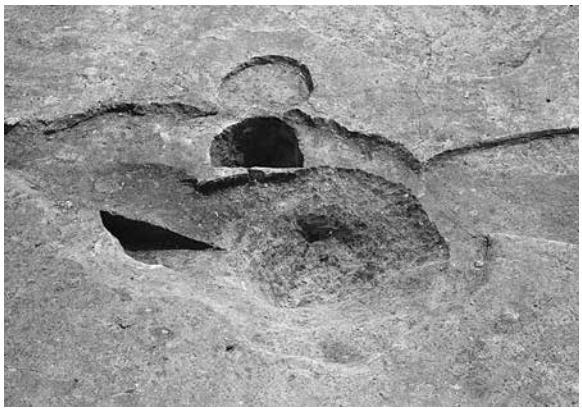
写真図版 63　SK12 ～ 15 土坑

SK17 土坑完掘全景（北から）

SK18 土坑完掘全景（南から）

SK21 土坑完掘全景（北から）

SK21 土坑断面（南から）



SK22 土坑完掘全景（西から）

SK22 土坑断面（西から）

SK23 土坑完掘全景（北から）

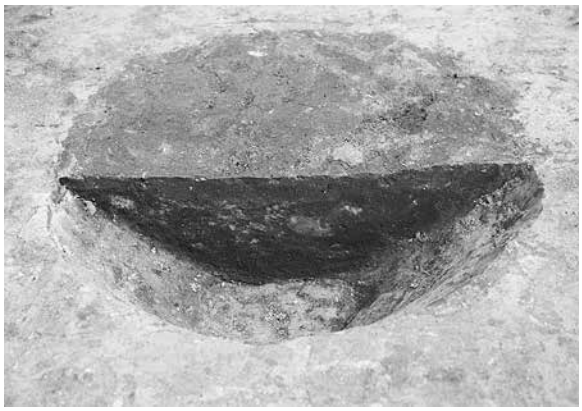
SK23 土坑断面（南から）

写真図版 64　SK17・18・21 ～ 23 土坑

SK24 土坑焼土面（南から）

SK24 土坑断面（南から）

SK25 土坑完掘全景（南から）



SK25 土坑断面（南から）

SK26 土坑完掘全景（北から）

SK27・28 土坑完掘全景（南から）

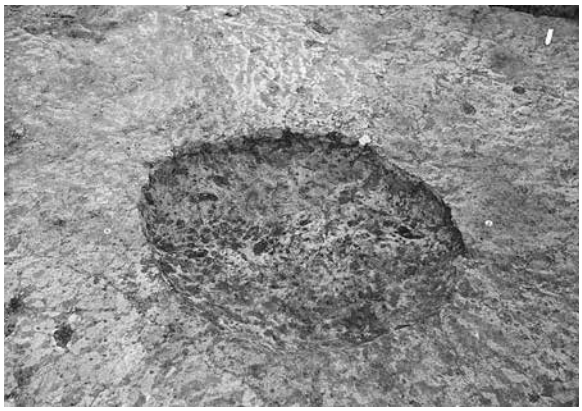
SK27 土坑断面（南から）

SK28 土坑断面（南から）

写真図版 65　SK24 ～ 28 土坑

SK29 土坑完掘全景（西から）

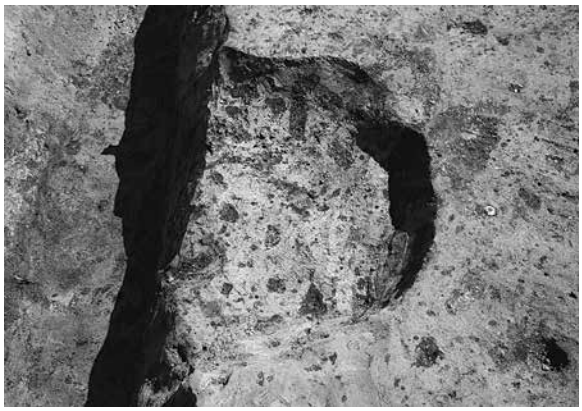
SK29 土坑断面（南東から）



SK30 土坑完掘全景（北から）

SK30 土坑断面（南から）

SK31 土坑完掘全景（南東から）



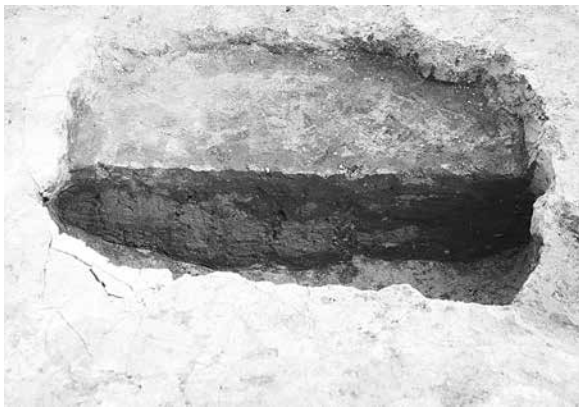
SK33 土坑完掘全景（北西から）

SK34 土坑完掘全景（西から）

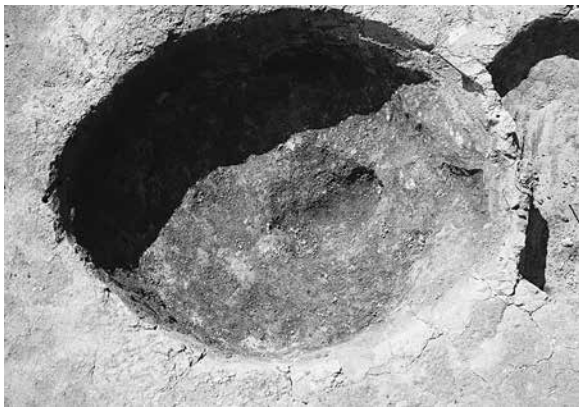
SK34 土坑断面（南西から）

写真図版 66　SK29 ～ 31・33・34 土坑

SK37 土坑完掘全景（西から）



SK37 土坑断面（西から）



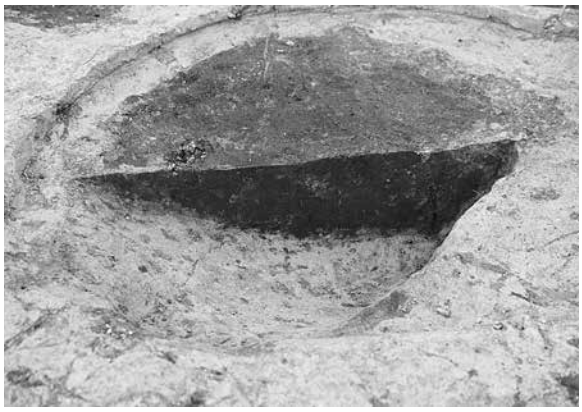
SK38 土坑焼土検出状況（北から）

SK38 土坑完掘全景（南から）

SK38 土坑断面（南から）

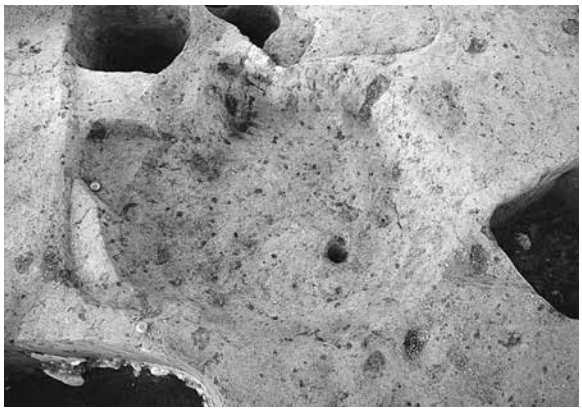
SK41 土坑完掘全景（北から）

SK49 土坑完掘全景（北から）



SK49 土坑断面（南から）

写真図版 67　SK37・38・41・49 土坑



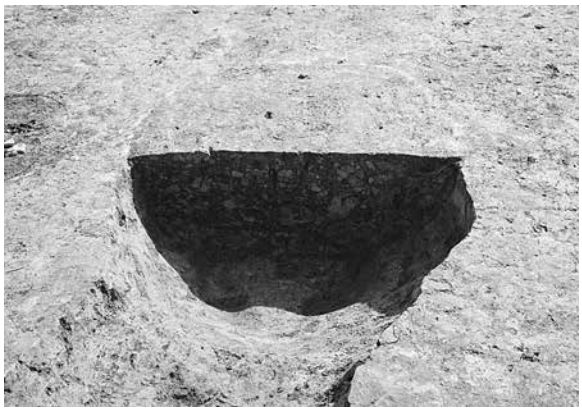
SK50 土坑完掘全景（南東から）

SK50 土坑断面（南東から）

SK52 土坑完掘全景（南から）

SK52 土坑断面（南西から）

SK53 土坑完掘全景（西から）



SK53 土坑断面（西から）

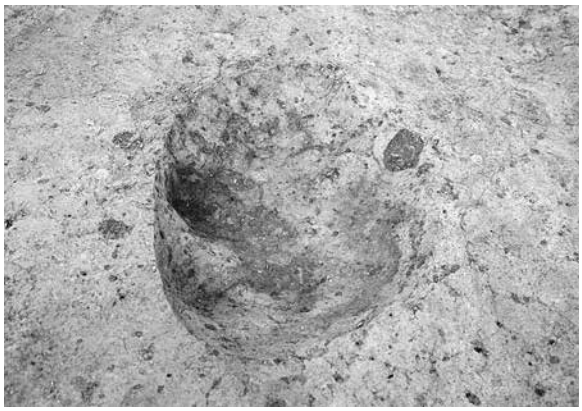
SK54 土坑完掘全景（南から）

SK54 土坑断面（南から）

写真図版 68　SK50・52 ～ 54 土坑

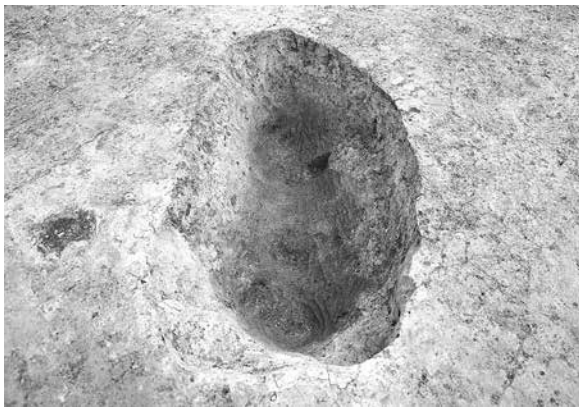
SK56 土坑完掘全景（西から）

SK56 土坑断面（北西から）

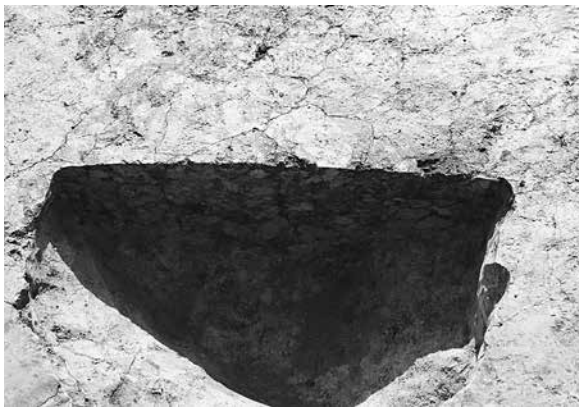


SK57 土坑完掘全景（南から）

SK57 土坑断面（南から）



SK58 土坑完掘全景（北西から）



SK58 土坑断面（北西から）

SK59 土坑完掘全景（南から）

SK59 土坑断面（西から）

写真図版 69　SK56 ～ 59 土坑

SK65 土坑完掘全景（北から）

SK65 土坑断面（南から）

SK70・73・74 土坑完掘全景（北から）

SK70 土坑断面（南から）

SK73 土坑完掘全景（北から）

SK73 土坑断面（南から）

SK74 土坑完掘全景（北から）

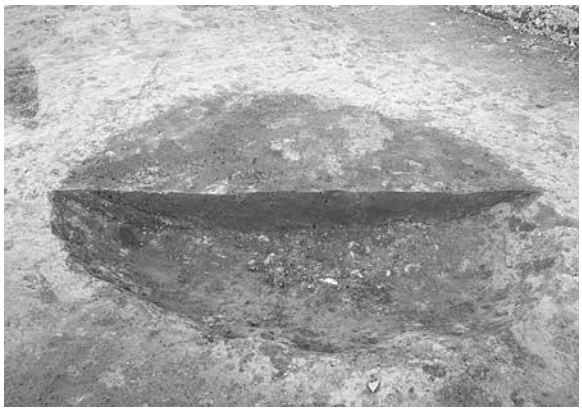
SK74 土坑断面（南から）

写真図版 70　SK65・70・73・74 土坑

SK81 土坑完掘全景（西から）

SK81 土坑断面（南西から）

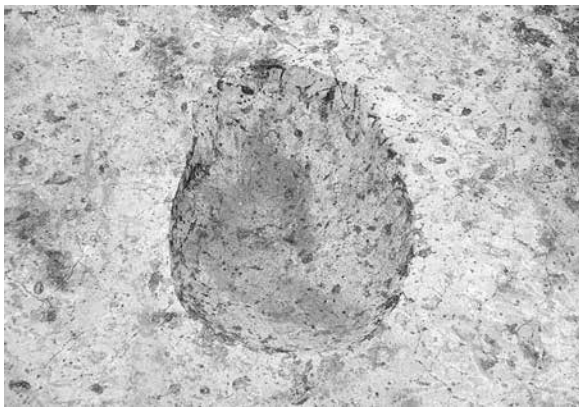
SK93 土坑完掘全景（南東から）



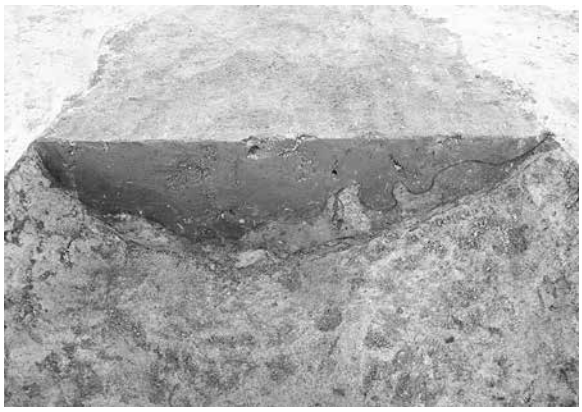
SK93 土坑断面（南から）

SK94・95 土坑完堀全景（南から）

SK94 土坑断面（北東から）

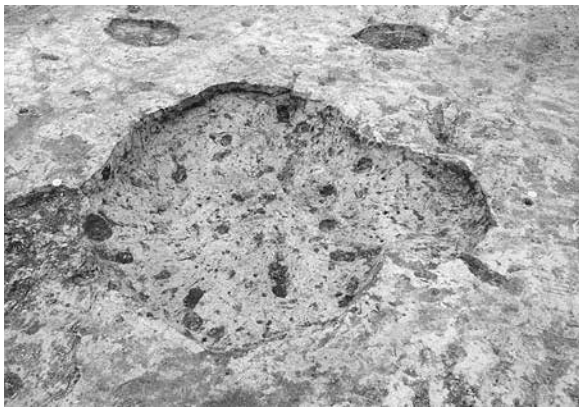


SK96 土坑完堀全景（南から）



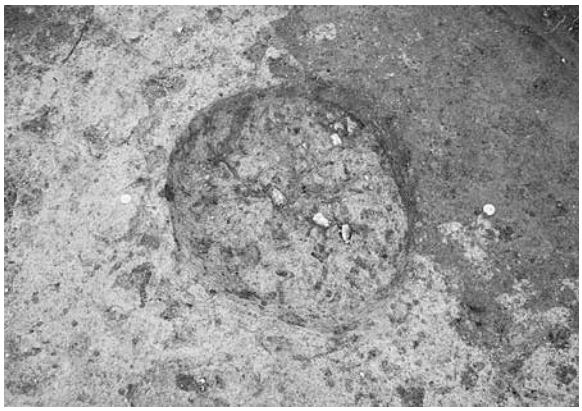
SK96 土坑断面（南から）

写真図版 71　SK81・93 ～ 96 土坑

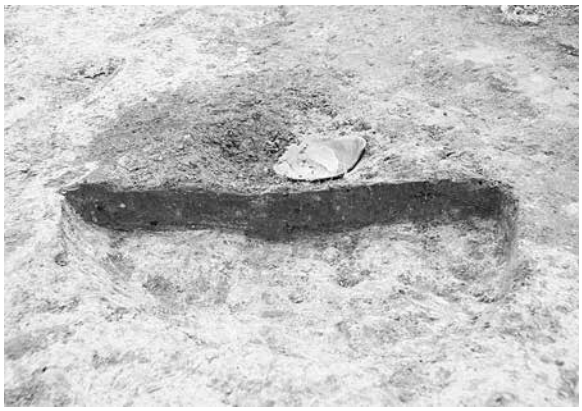


SK97 土坑完堀全景（南西から）

SK97 土坑断面（西から）



SK99 土坑完掘全景（南から）

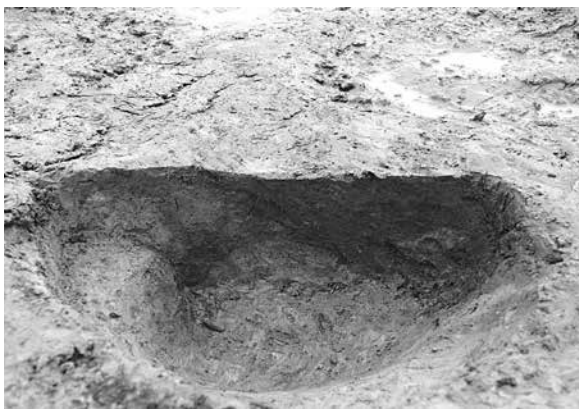


SK99 土坑断面・遺物出土状況（南から）

SK102 土坑完掘全景（南西から）

SK103 土坑完掘全景（西から）

SK104 土坑完掘全景（西から）



SK104 土坑断面（北から）

写真図版 72　SK97・99・102 ～ 104 土坑

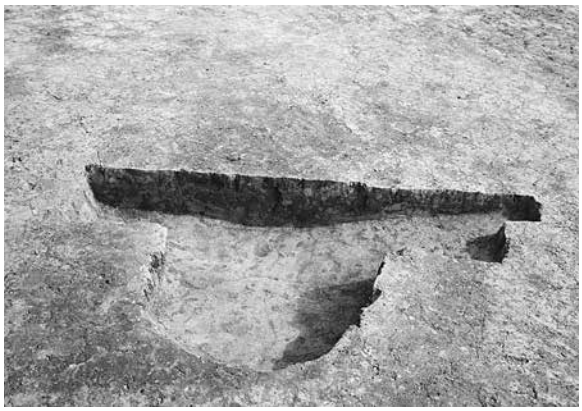
SK105 土坑完掘全景（南から）

SK105 土坑断面（南から）

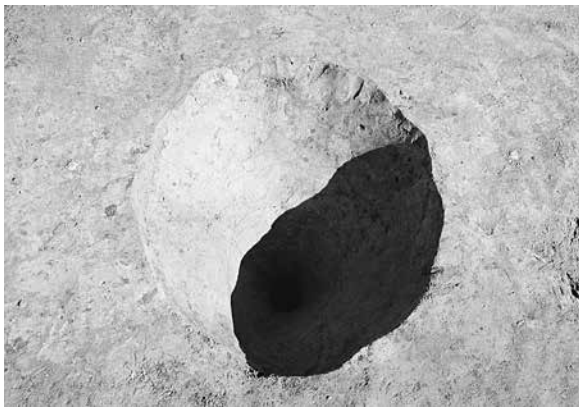
SK106 土坑完掘全景（西から）

SK106 土坑断面（西から）

SK121 土坑・SD31 溝跡完掘全景（西から）



SK121 土坑断面（南西から）

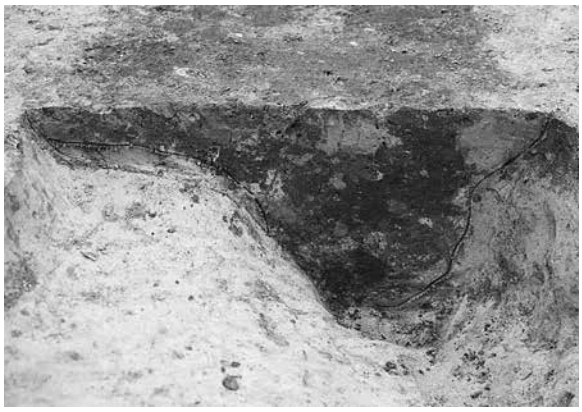


SK122 土坑完掘全景（南から）

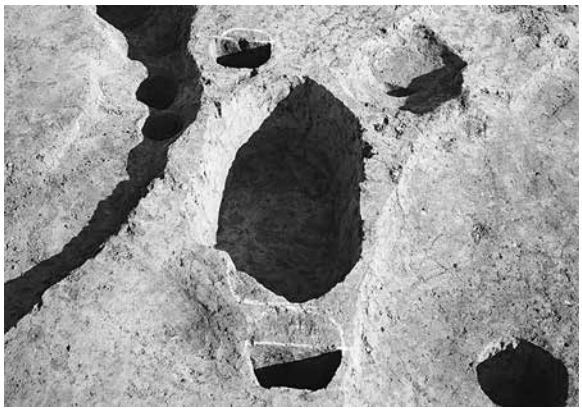
SK122 土坑断面（南から）

写真図版 73　SK105・106・121・122 土坑

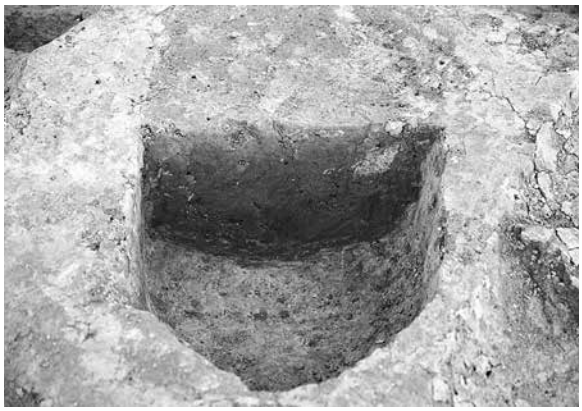
SK123 土坑完掘全景（南から）



SK123 土坑断面（南から）

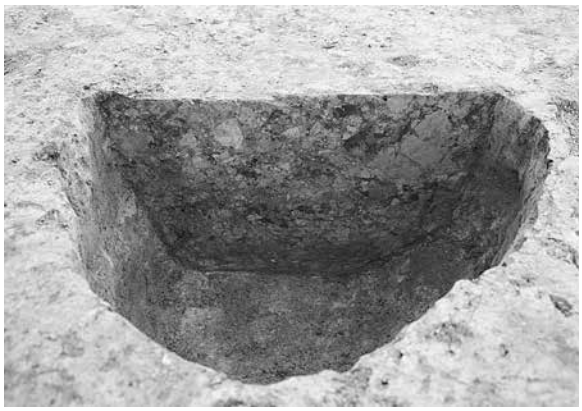


SK124 土坑完掘全景（西から）



SK124 土坑断面（西から）

SK125 土坑完掘全景（西から）



SK125 土坑断面（南から）

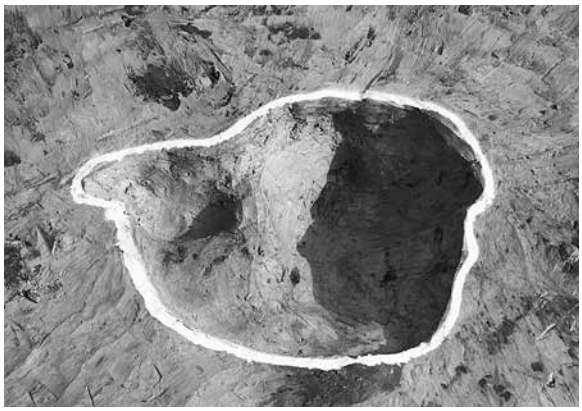
SK126 土坑断面（北から）

SK129 土坑断面（南から）

写真図版 74　SK123 ～ 126・129 土坑

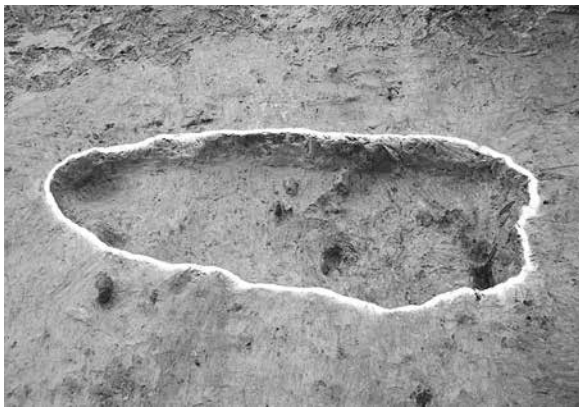
SK129 土坑完掘全景（南から）

SK129 土坑断面（南から）

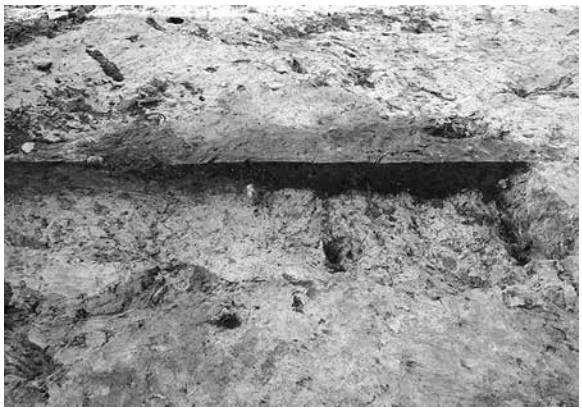


SK130 土坑完掘全景（南西から）

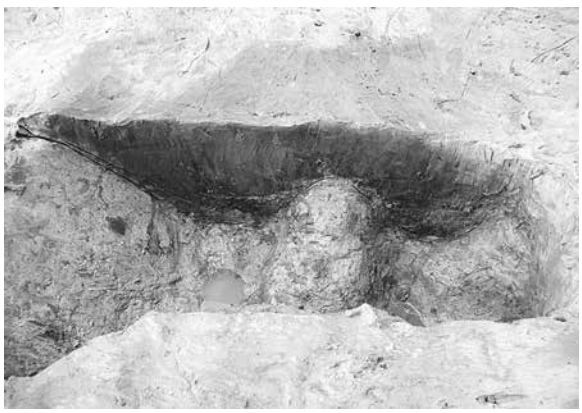
SK130 土坑断面（南西から）



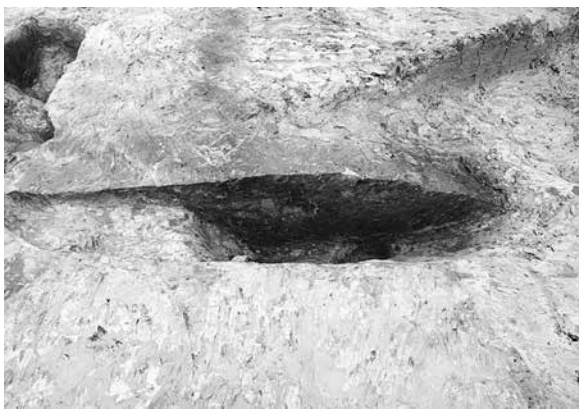
SK131 土坑完掘全景（東から）



SK131 土坑断面（南西から）



SK133 土坑断面（南東から）

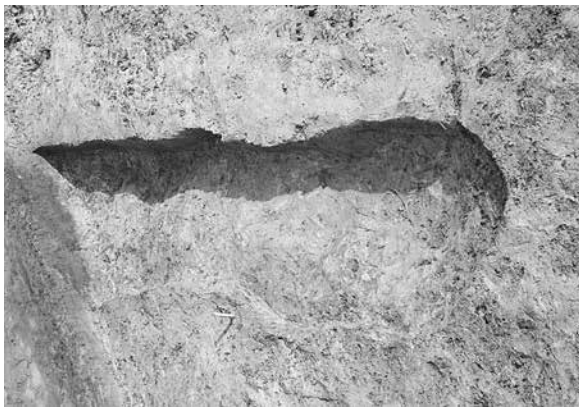


SK134 土坑断面（南西から）

写真図版 75　SK129 ～ 131・133・134 土坑

SK139 土坑完掘全景（北東から）

SK139 土坑断面（北西から）

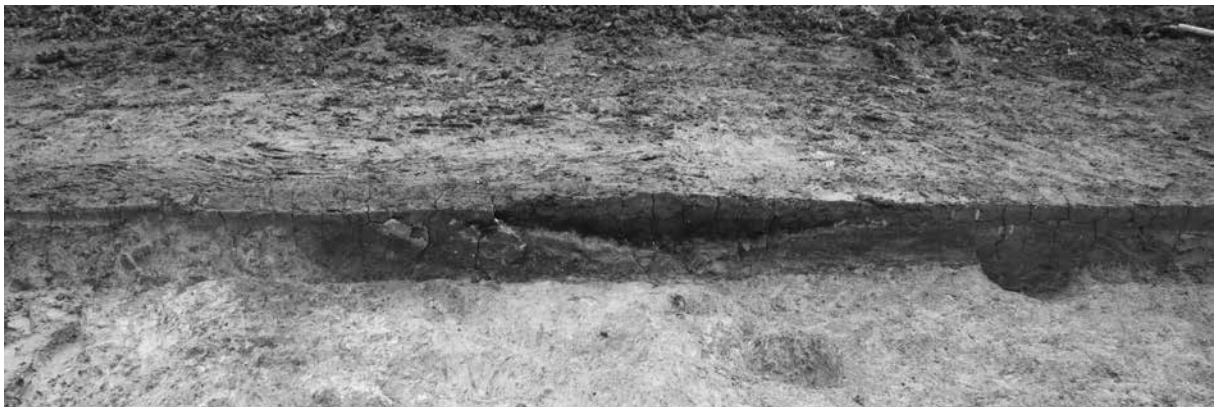


SK144 土坑完掘全景（北西から）

SK145 土坑完掘全景（北から）

SK151 土坑完掘全景（南から）

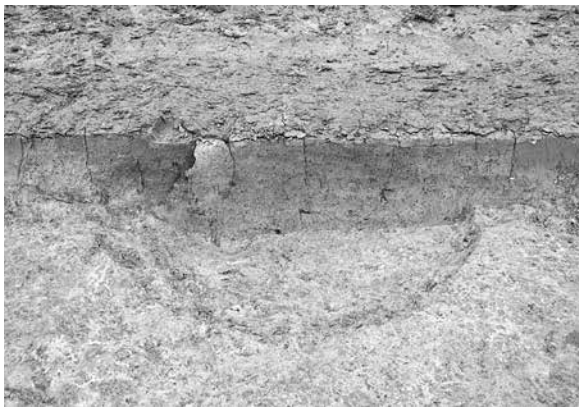
SK153 土坑完掘全景（南から）



SK153 土坑断面（南から）

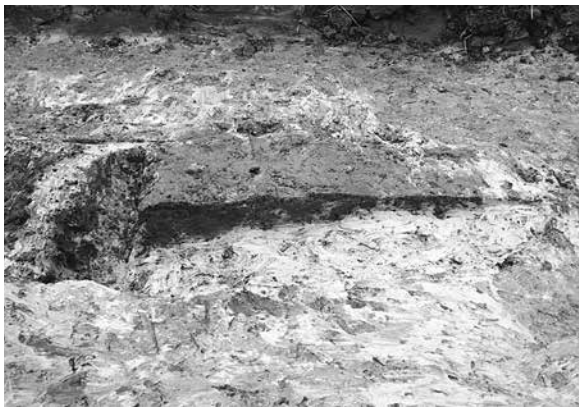
写真図版 76　SK139・144・145・151・153 土坑

SK154 土坑断面（南から）



SK156 土坑断面（南から）

SK155 土坑完掘全景（南から）

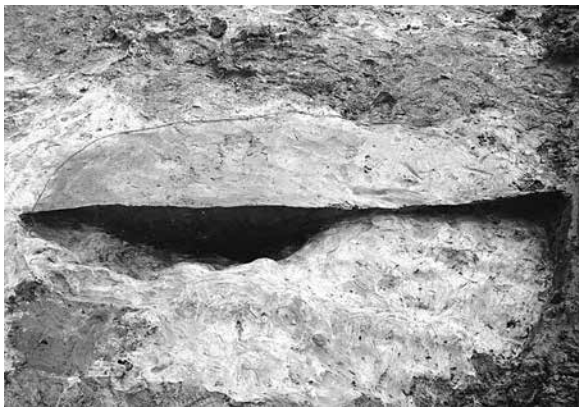


SK155 土坑断面（東から）

SK160 土坑完掘全景（北から）

SK160 土坑断面（南西から）

SK161 土坑完掘全景（西から）



SK161 土坑断面（北から）

写真図版 77　SK154 ～ 156・160・161 土坑

SK77 土取り穴完掘全景（北から）

SK77 土取り穴遺物出土状況（北から）

SK77 土取り穴 A–A’ 断面（南から）

SK77 土取り穴 B–B’ 断面（西から）

SX08 土取り穴完掘全景（西から）

SX08 土取り穴 B–B’ 断面（南から）

SX08 土取り穴 C–C’ 断面（西から）

SX08 土取り穴 D–D’ 断面（南から）

写真図版 78　SK77・SX08 土取り穴

SX09 土取り穴完掘全景（南東から）

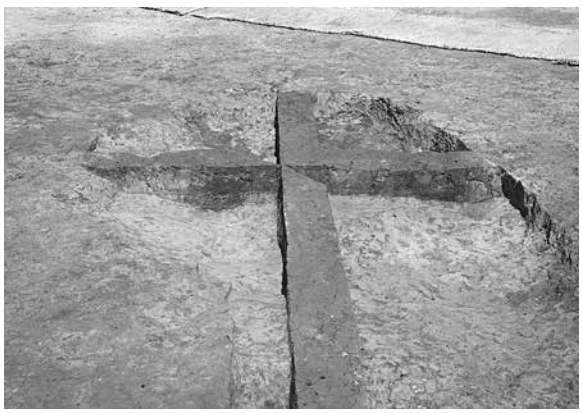
SX09 土取り穴遺物出土状況（東から）

SX09 土取り穴 A–A’ 断面（南東から）

SX09 土取り穴 B–B’ 断面（南西から）

SX09 土取り穴遺物出土状況（北から）

SX11 土取り穴完掘全景（南東から）

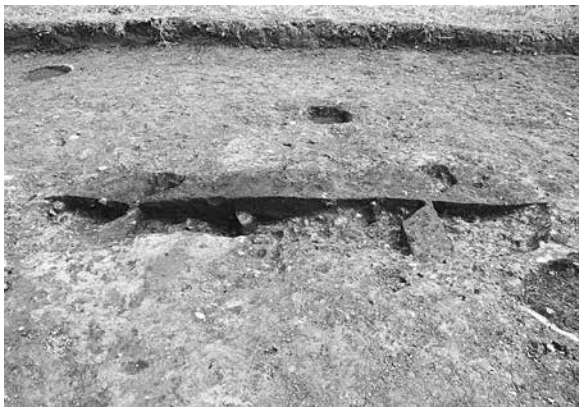


SX11 土取り穴 A–A’ 断面（南から）

SX11 土取り穴 B–B’ 断面（西から）

写真図版 79　SX09・11 土取り穴

SX17 カマド状遺構完掘全景（南から）



SX17 カマド状遺構 A–A’ 断面（西から）

SX17 カマド状遺構 B–B’ 断面（南から）

SX17 カマド状遺構 C–C’ 断面（南から）

SX18 畝間状遺構完掘全景（南から）

SX18 畝間状遺構断面（南から）

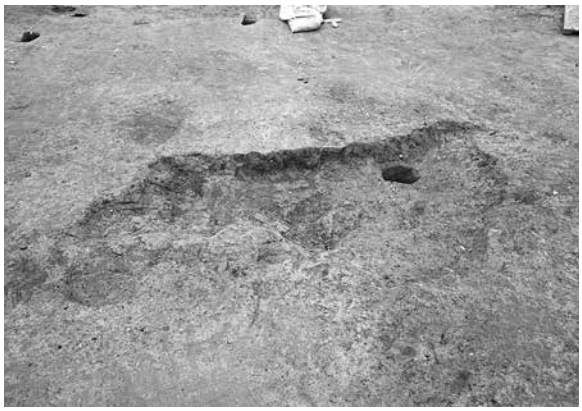
SX22 畝間状遺構完堀全景（北から）

SX22 畝間状遺構断面（北から）

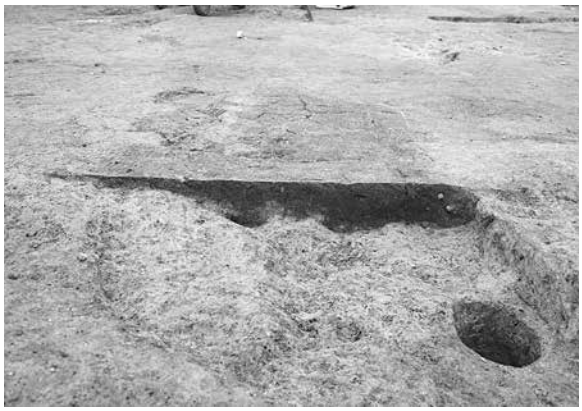
写真図版 80　SX17 カマド状遺構、SX18・22 畝間状遺構

SX03 不明遺構完掘全景（西から）

SX03 不明遺構断面（西から）



SX04 不明遺構完掘全景（西から）



SX04 不明遺構断面（南から）

SX05 不明遺構完掘全景（南から）

SX05 不明遺構断面（南から）

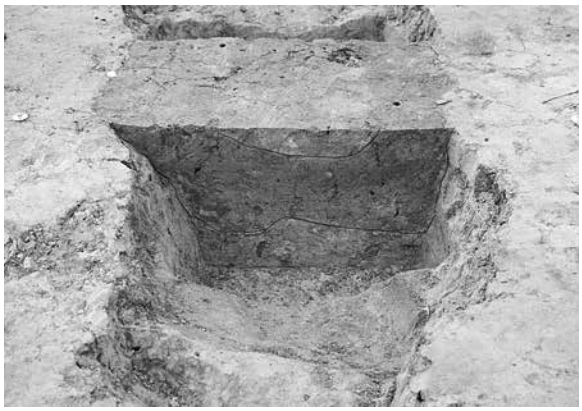
SX07 不明遺構完掘全景（北西から）

SX07 不明遺構 A-A’ 断面（西から）

写真図版 81　SX03 ～ 05・07 不明遺構

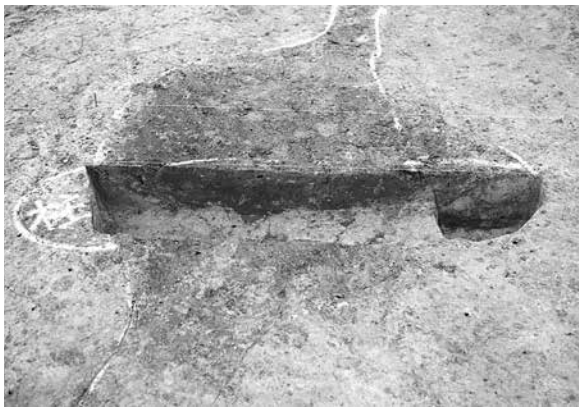
SX12 不明遺構完掘全景（西から）

SX12 不明遺構 A-A’ 断面（西から）



SX12 不明遺構 B-B’ 断面（西から）

SX13 不明遺構完掘全景（南から）



SX13 不明遺構 B-B’ 断面（南から）

SX13 不明遺構 C-C’ 断面（南から）

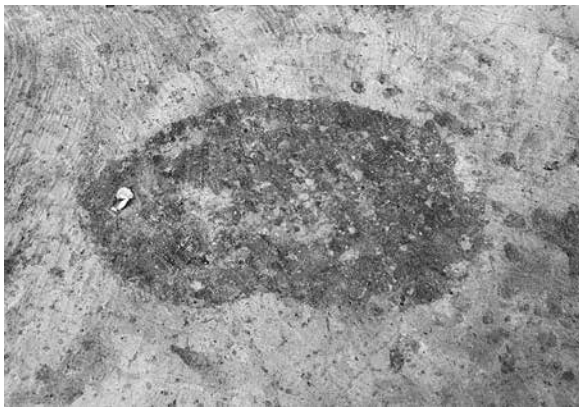
写真図版 82　SX11 ～ 13 不明遺構

SX14 不明遺構完掘全景（西から）

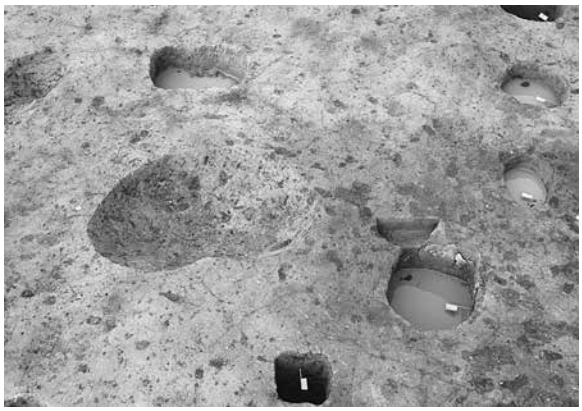
SX14 不明遺構断面（西から）

SX19 不明遺構検出状況（南から）

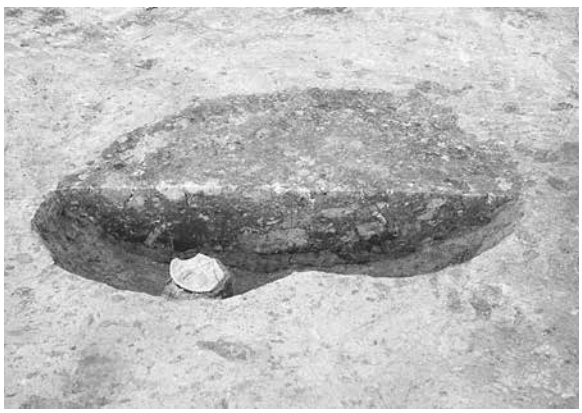
SX19 不明遺構断面（南から）



SX20 不明遺構検出状況（東から）



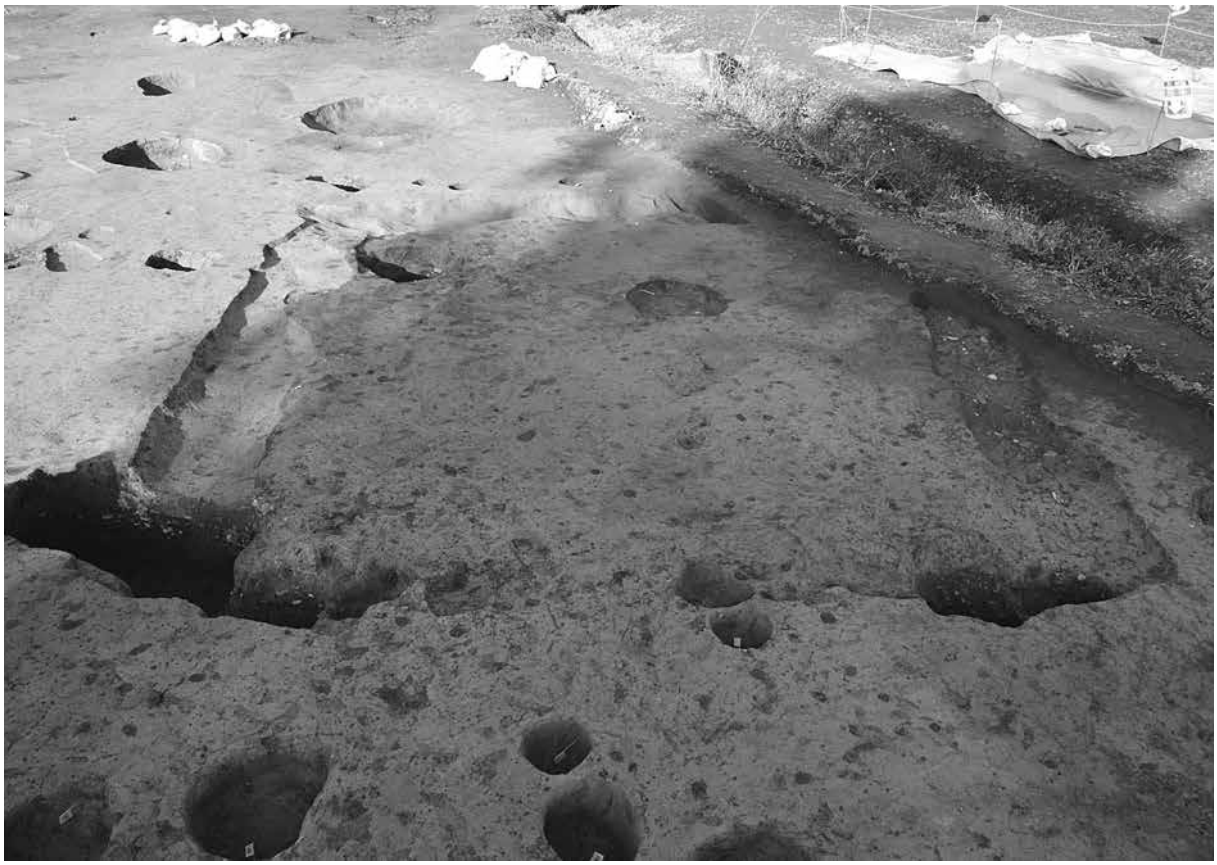
SX20 不明遺構完掘全景（南から）



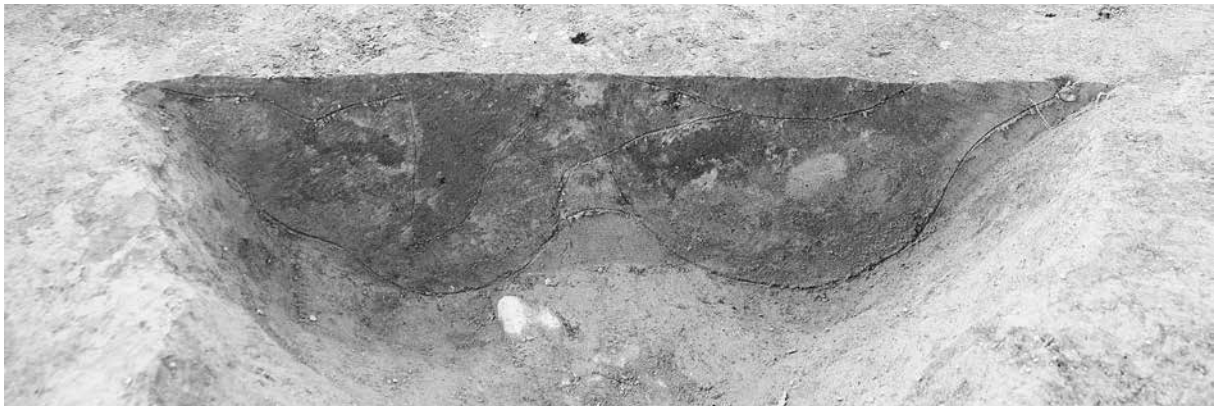
SX20 不明遺構断面（南から）

SX25 不明遺構完掘全景（南から）

写真図版 83　SX14・19・20・25 不明遺構



SX21 不明遺構完掘全景（南から）



SX21 不明遺構断面（東から）

SX21 不明遺構完掘（南から※アップ）

SX21 不明遺構完掘（南から※北側のアップ）

写真図版 84　SX21 不明遺構

①区調査風景

⑦区西側試掘作業

⑦区調査風景

⑨区調査風景

⑨区調査風景（東から）

⑩区遠景（西から）

⑩区調査風景

⑩区調査風景

写真図版 85　作業風景

⑩区調査風景

⑭区調査風景

現地説明会

現地説明会

現地説明会

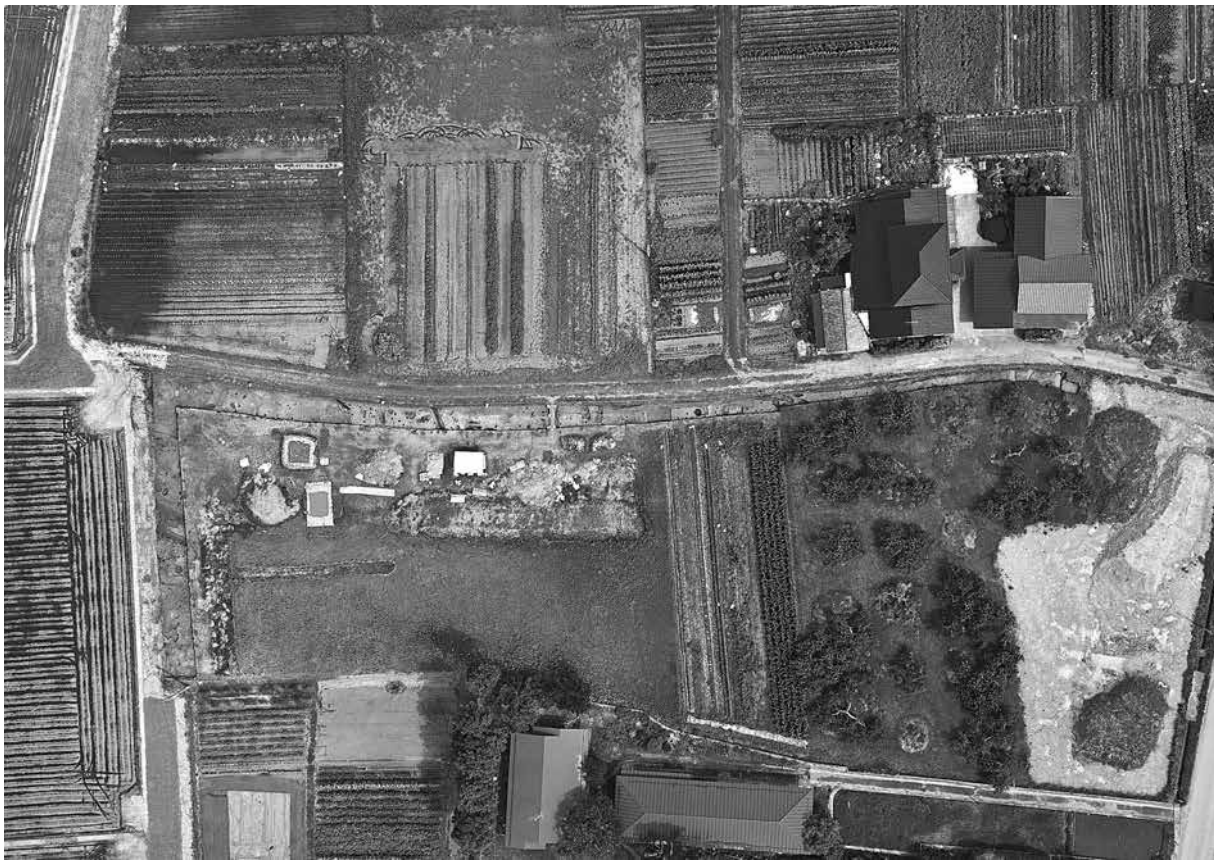
現地説明会

旧林Ⅰ遺跡の中心部（北から）

六日入城遺跡（南から※手前が松ノ木沢川）

写真図版 86　作業風景・普及事業

㉔区全景（上が北）



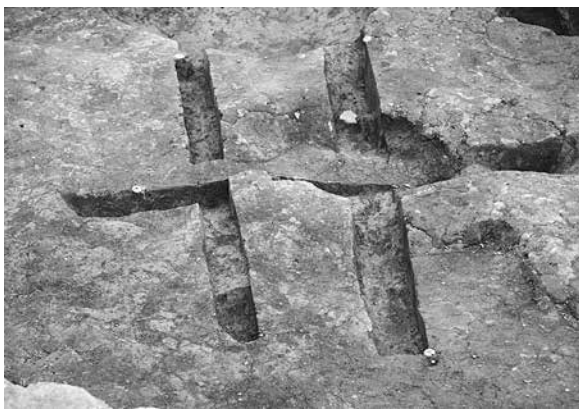
⑧区全景（上が東）

写真図版 87　平成 24 年度空撮

SI04 竪穴住居跡完掘全景（北西から）

SI04 竪穴住居跡 A-A’ 断面（東から）

SI04 竪穴住居跡 B-B’ 断面（南東から）

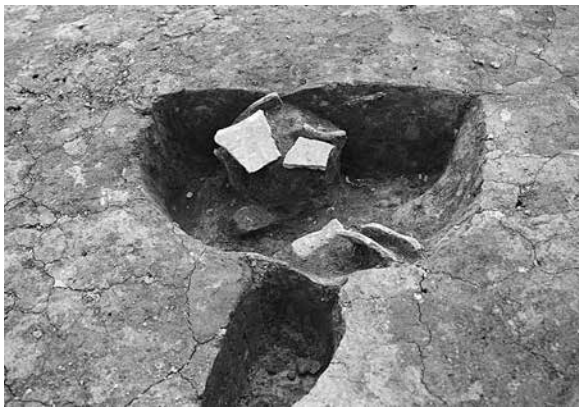


SI04 竪穴住居跡カマド A-A’ 断面（南東から）

SI04 竪穴住居跡カマド B-B’ 断面（北から）

写真図版 88　SI04 竪穴住居跡 (1)

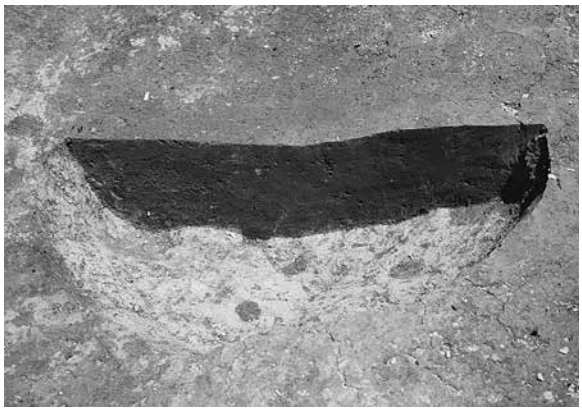
SI04 竪穴住居跡カマド C-C’ 断面（北から）



SI04 竪穴住居跡焼土 1 断面（北から）

SI04 竪穴住居跡焼土 2 断面（南東から）

SI04 竪穴住居跡焼土 3 断面（北から）



SI04 竪穴住居跡住居内土坑断面（南から）

SI04 竪穴住居跡遺物出土状況（北西から）

SI04 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

SI04 竪穴住居跡遺物出土状況（北東から）

写真図版 89　SI04 竪穴住居跡 (2)

SI05 竪穴住居跡完掘全景（北西から）

SI05 竪穴住居跡断面（北から）

SI05 竪穴住居跡カマド断面（北から）

SI05 竪穴住居跡カマド断面接写（北から）

SI05 竪穴住居跡カマド PP1 断面（西から）

写真図版 90　SI05 竪穴住居跡

SI06 竪穴住居跡完掘全景平面（東から）

SI06 竪穴住居跡断面（西から）

SI06 竪穴住居跡 C-C’ 断面（南から）

SI06 竪穴住居跡ベルト除去後（東から）

SI06 竪穴住居跡作業風景

写真図版 91　SI06 竪穴住居跡

SI07 竪穴住居跡完掘全景（東から）

SI07 竪穴住居跡検出状況

SI07 竪穴住居跡断面（東から）

SI07 竪穴住居跡断面（南から）

SI07 竪穴住居跡作業風景

写真図版 92　SI07 竪穴住居跡

SB41 掘立柱建物跡及び周辺全景（東から）

SB41 掘立柱建物跡全景（東から）

掘立柱建物跡全景（北から）

掘立柱建物跡全景（北から）

⑳区調査区全景（南西から）

写真図版 93　②・⑳区検出掘立柱建物跡

⑳区調査区全景（南西から）

⑳区調査区全景（南西から）

⑳区調査区全景（南西から）

⑳区調査区全景（南西から）

⑳区調査区全景（南西から）

写真図版 94　⑳区調査区全景

㉔区調査柱穴群（上が北）

㉔区掘立柱建物跡中央部北側（南から）

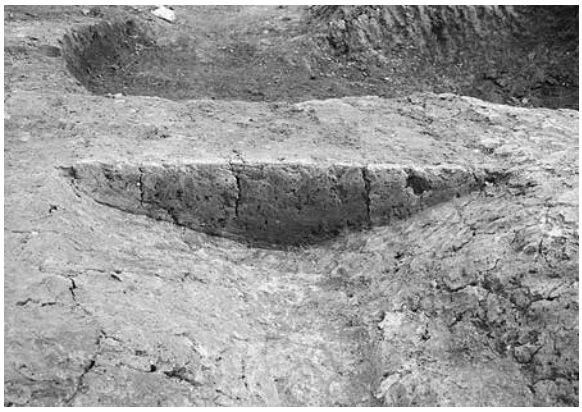
㉔区掘立柱建物跡北部中央より（南から）

㉔区掘立柱建物跡北部東側（南から）

㉔区掘立柱建物跡南部中央より（南から）

写真図版 95　㉔区掘立柱建物跡群

SD91 溝跡完掘全景（南から）



SD91 溝跡断面（南から）

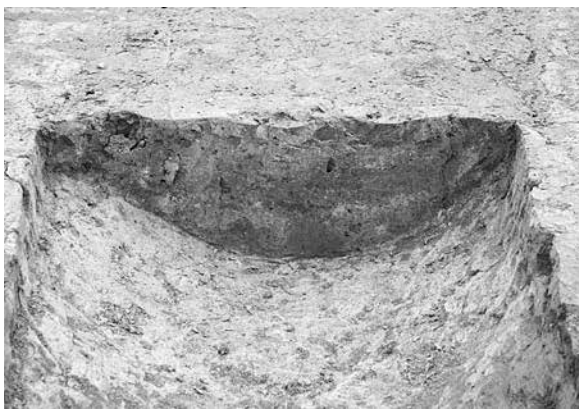
SD91 溝跡断面（北から）

SD92 溝跡完掘全景（南から）

SD92 溝跡断面（南から）

SD93 溝跡完掘全景（東から）

SD93 溝跡断面（西から）



SD93 溝跡断面（西から）

写真図版 96　SD91 ～ 93 溝跡

SD93 溝跡 C-C’ 断面（南から）

SD93・94 溝跡 D-D’ 断面（西から）

SD94 溝跡完掘全景（東から）

SD94 溝跡 A-A’ 断面（西から）

SD94 溝跡 B-B’ 断面（西から）

SD94 溝跡 C-C’ 断面（西から）

SD95 溝跡完掘全景（南から）

SD95 溝跡 A-A’ 断面（南から）

写真図版 97　SD93 ～ 95 溝跡

SD95 溝跡 B-B’ 断面（北から）

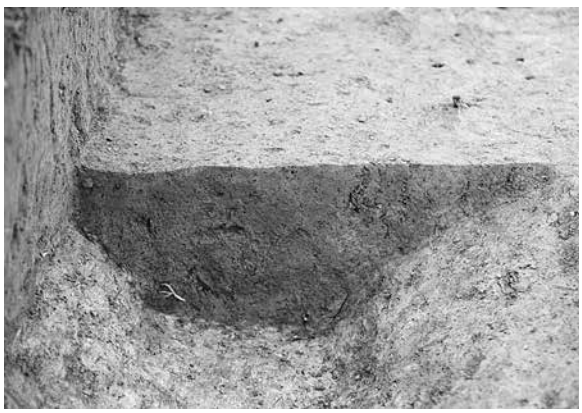
SD96・97 溝跡完掘全景（南から）

SD96 溝跡内木柵列検出状況（南から）

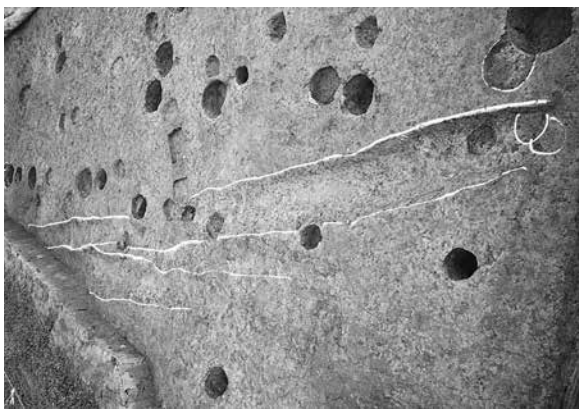
SD96 溝跡断面（南から）

SD97 溝跡断面（南から）

SD98 溝跡完掘全景（南東から）



SD98 溝跡断面（南から）

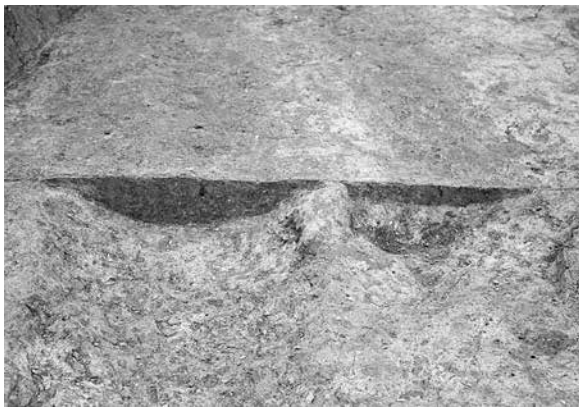


SD100・101 溝跡完掘全景（南西から）

写真図版 98　SD95 ～ 98・100・101 溝跡

SD101 溝跡完掘全景（南西から）

SD100・101 溝跡 A-A’ 断面（北東から）



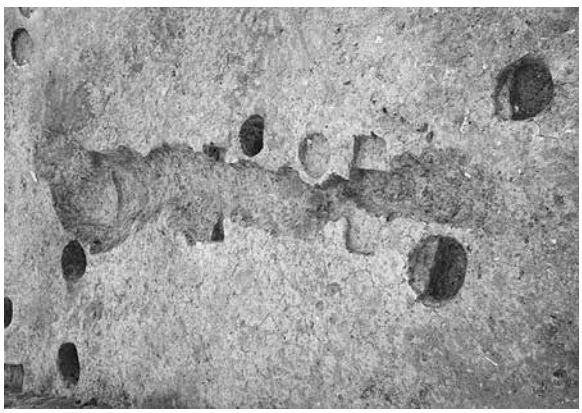
SD100・101 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD102 溝跡完掘全景（南から）

SD102 溝跡 A-A’ 断面（南から）

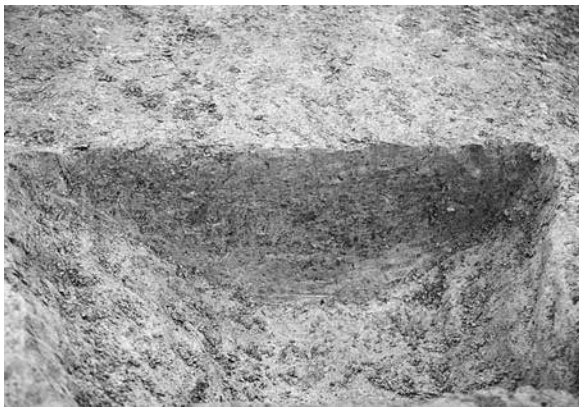
SD102 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD102 溝跡 C-C’ 断面（南から）



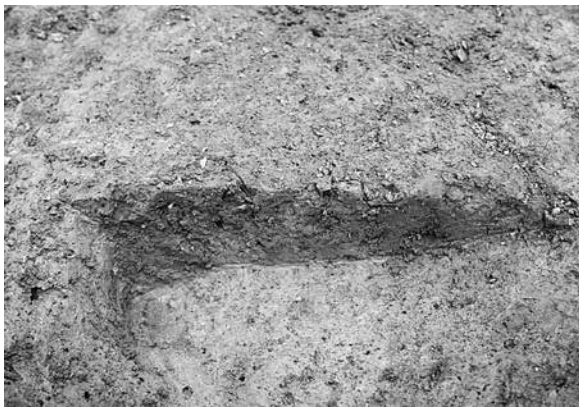
SD103 溝跡完掘全景（北西から）

写真図版 99　SD100 ～ 103 溝跡



SD103 溝跡断面（西から）

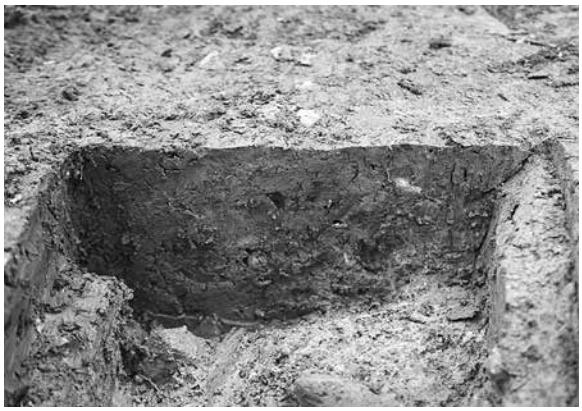
SD104 溝跡完掘全景（南から）



SD104 溝跡断面（南から）

SD105 溝跡断面（東から）

SD106 溝跡完掘全景（北東から）



SD106 溝跡 A-A’ 断面（北東から）

SD106 溝跡 B-B’ 断面（北東から）

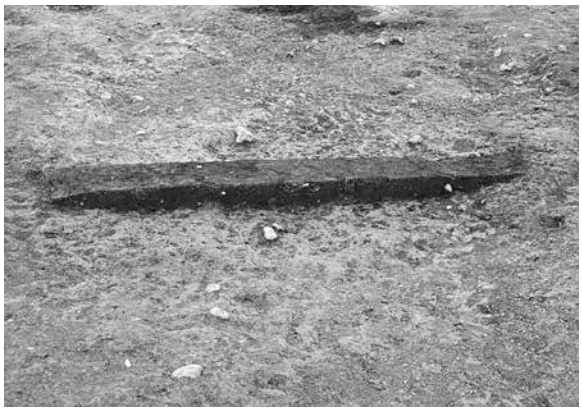
SD107 溝跡断面（西から）

写真図版 100　SD103 ～ 107 溝跡

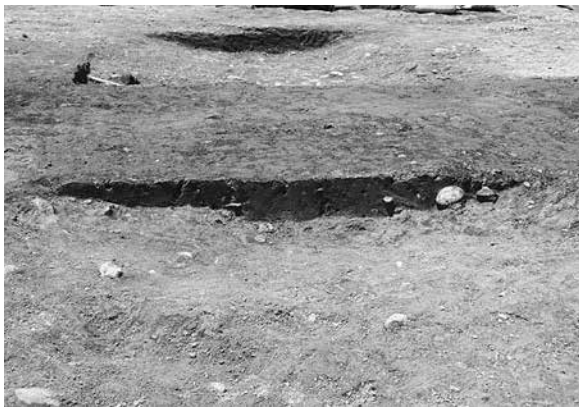
SD108 溝跡完掘全景（南から）

SD108 溝跡断面（南から）

SD109 溝跡完掘全景（西から）



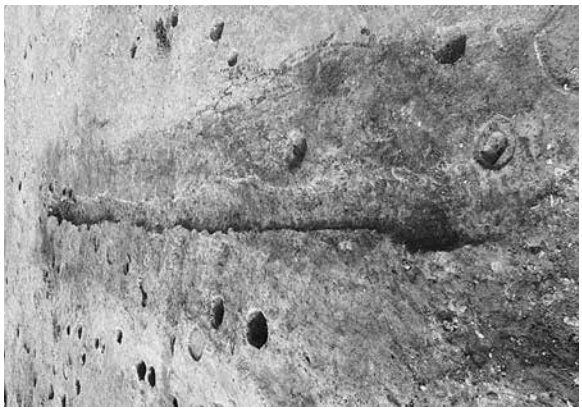
SD109 溝跡 A-A’ 断面（南から）



SD109 溝跡 B-B’ 断面（東から）

SD110 溝跡完掘全景（西から）

SD110 溝跡断面（東から）



SD112 溝跡完掘全景（南から）

写真図版 101　SD108 ～ 112 溝跡

SD112 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD112 溝跡 B-B’ 断面（南から）

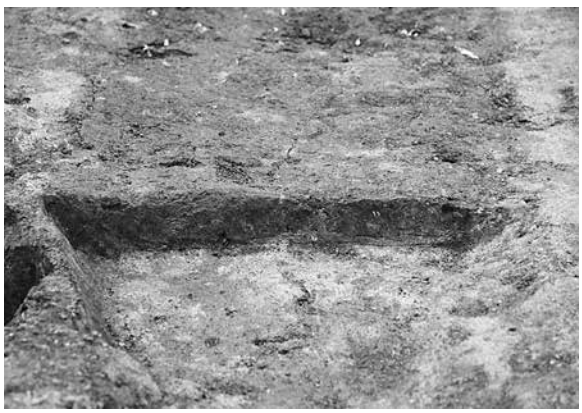
SD113 溝跡完掘全景（南から）

SD113 溝跡 A-A’ 断面（西から）

SD113 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD113 溝跡 C-C’ 断面（北から）

SD114 溝跡完掘全景（西から）

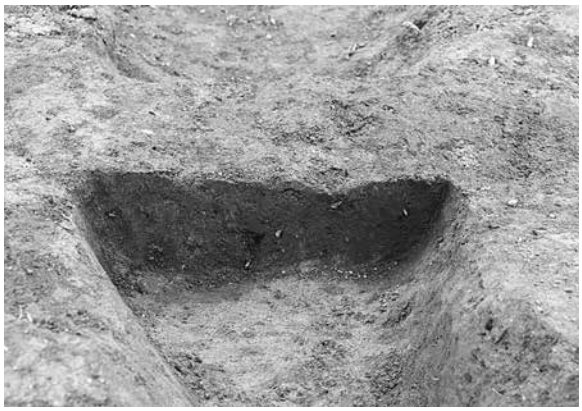


SD114 溝跡 A-A’ 断面（西から）

写真図版 102　SD112 ～ 114 溝跡

SD114 溝跡 B-B’ 断面（西から）

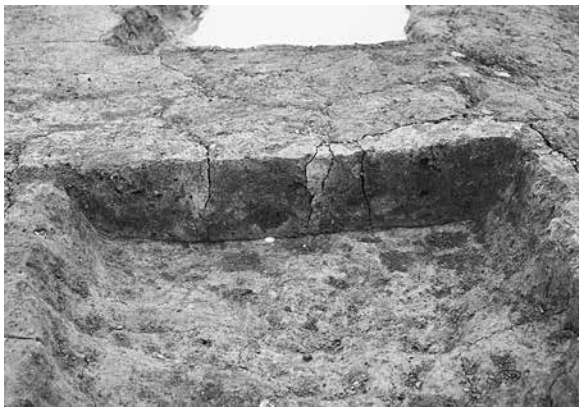
SD114 溝跡 C-C’ 断面（西から）



SD114 溝跡 D-D’ 断面（西から）

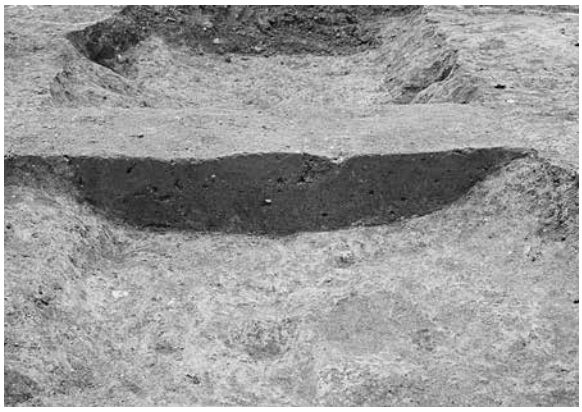
SD115 溝跡完掘全景（南から）

SD115 溝跡 A-A’ 断面（南から）



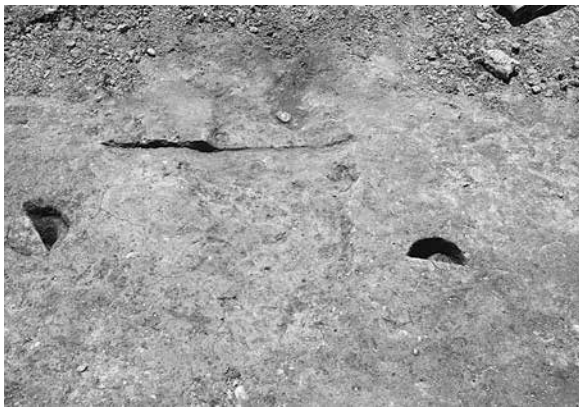
SD115 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD115 溝跡 C-C’ 断面（南から）

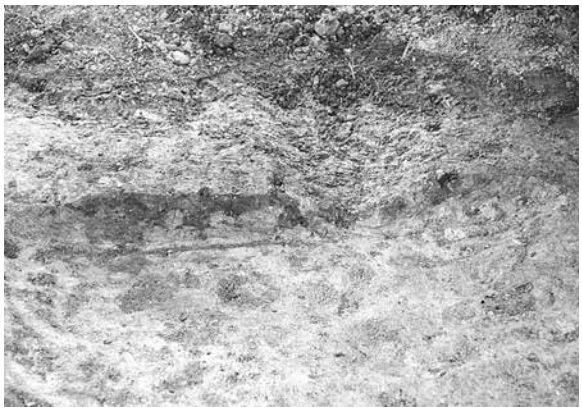


SD116 溝跡完掘全景（東から）

写真図版 103　SD114 ～ 116 溝跡



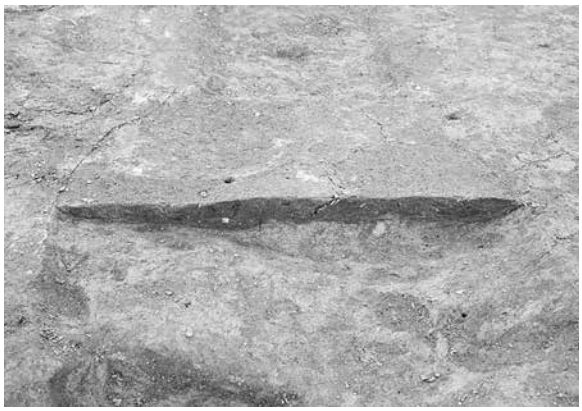
SD117 溝跡完掘全景（北から）



SD117 溝跡断面（北から）

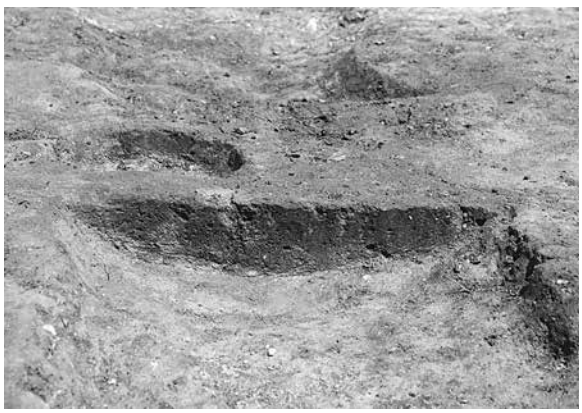
SD118 溝跡完掘全景（南から）

SD118 溝跡断面（南から）



SD119 溝跡断面（南から）

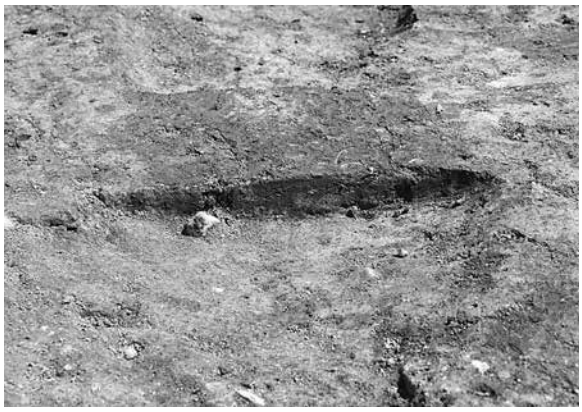
SD120 溝跡完掘全景（西から）



SD120 溝跡断面（西から）

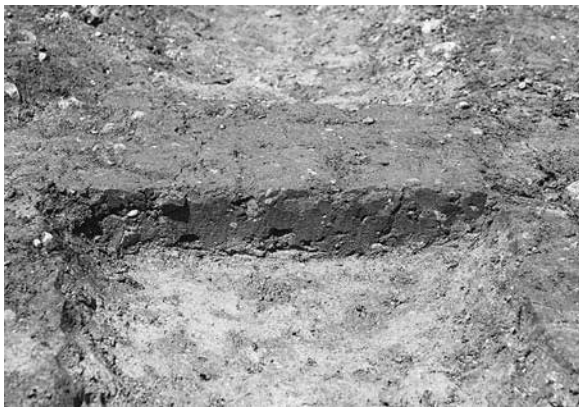
SD120 溝跡完掘全景（南から）

写真図版 104　SD117 ～ 120 溝跡



SD121 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD122 溝跡完掘全景（南から）



SD122 溝跡断面（南から）

SD131・132 溝跡完掘全景（南から）

SD131・132 溝跡断面（南から）

SD133 溝跡断面（西から）

SD134 溝跡完掘全景（南から）

SD134 溝跡断面（南から）

写真図版 105　SD121・122・131 ～ 134 溝跡

SD135 溝跡完掘全景（北から）

SD135 溝跡完掘全景（南から）

SD135 溝跡 A-A’ 断面（南から）

SD135 溝跡 B-B’ 断面（南から）

SD135 溝跡 C-C’ 断面（南から）

SD135・136 溝跡完掘全景（南から）

SD136 溝跡断面（南から）

SD137 溝跡断面（南から）

写真図版 106　SD135 ～ 137 溝跡

SD138 溝跡完掘全景（南から）

SD138 溝跡断面（南から）

SD139 溝跡完掘全景（東から）

SD139 溝跡断面（南東から）

SD140・141 溝跡完掘全景（南東から）

SD140 溝跡断面（東から）

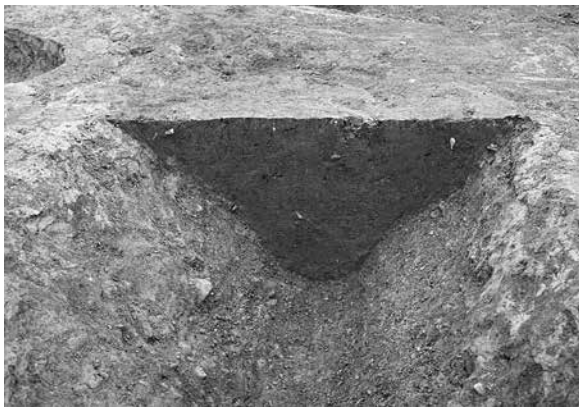
SD141 溝跡断面（南東から）

SD142 溝跡断面（東から）

写真図版 107　SD138 ～ 142 溝跡

SD143 溝跡全景（南東から）

SD144 溝跡完掘全景（西から）



SD144 溝跡断面（南西から）

SD144 溝跡作業員（南から）

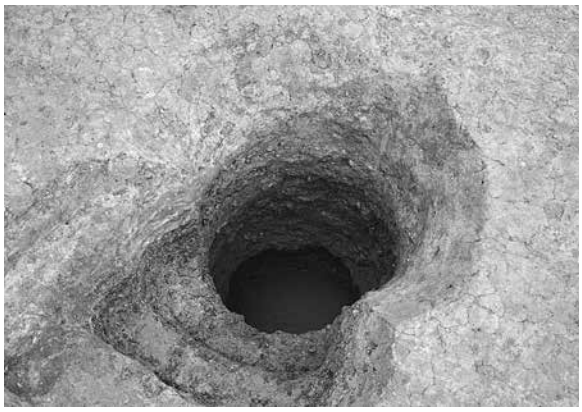
SD145 溝跡完掘全景（北から）

SD145 溝跡断面（北から）

SKT05 陥し穴完掘全景（南西から）

SKT05 陥し穴断面（南西から）

写真図版 108　SD143 ～ 145 溝跡・SKT05 陥し穴



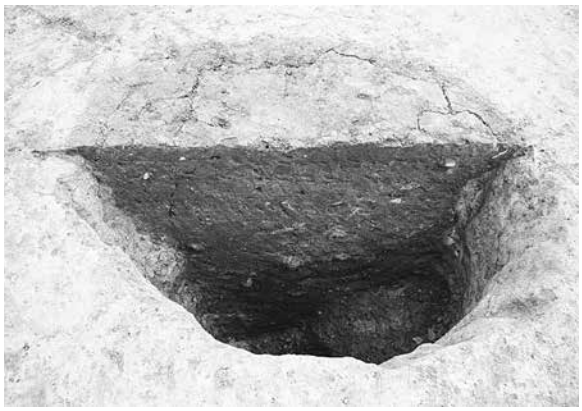
SE08 井戸跡完掘全景（西から）

SE08 井戸跡断面（南西から）

SE09 陥し穴完掘全景（南から）

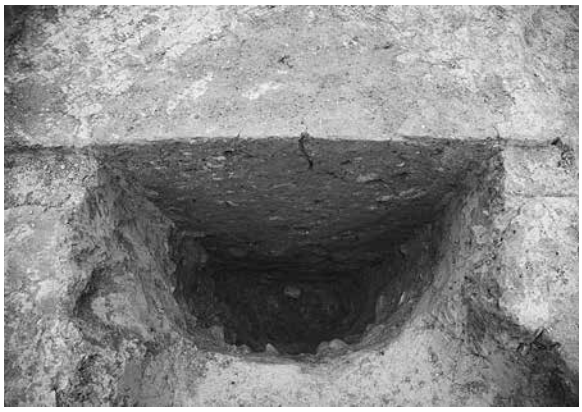
SE09 陥し穴断面（南西から）

SE10 井戸跡完掘全景（南から）



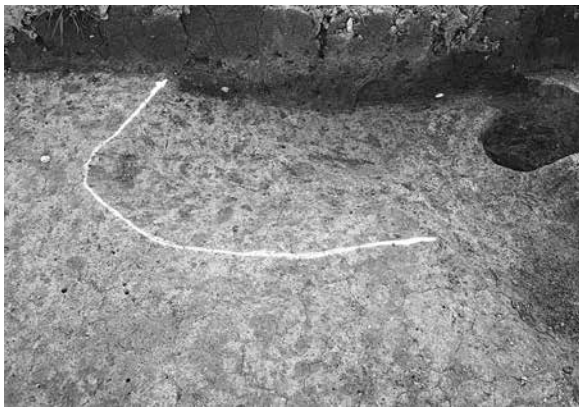
SE10 井戸跡断面（南から）

SE11 陥し穴完掘全景（南から）



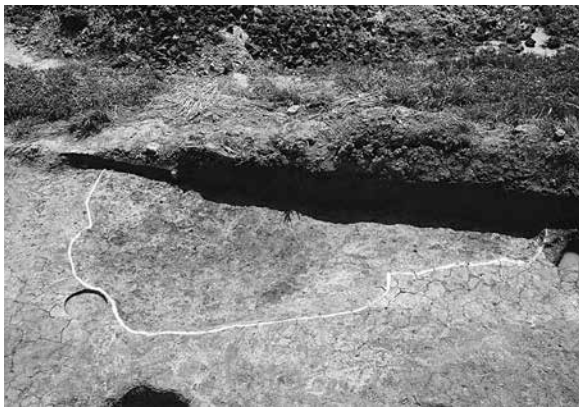
SE11 陥し穴断面（南から）

写真図版 109　SE08 ～ 11 井戸跡

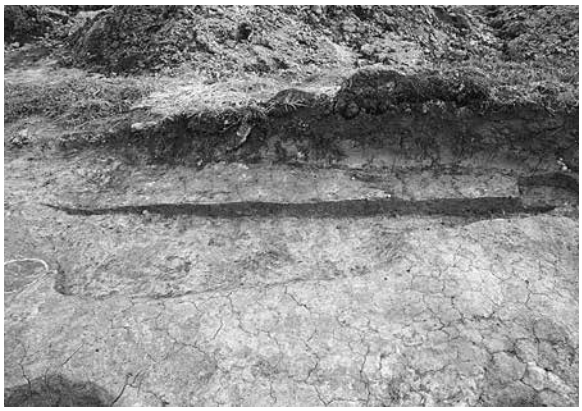


SK162 土坑完掘全景（南から）

SK162 土坑断面（南西から）

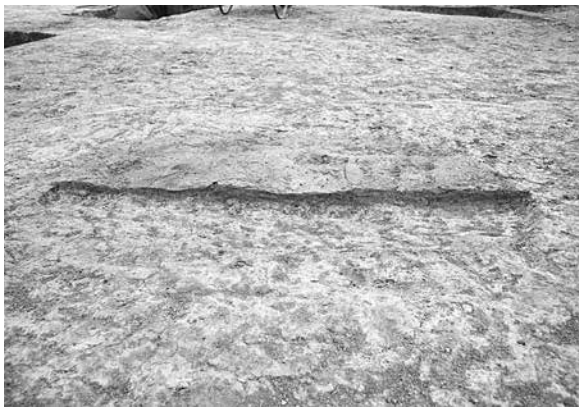


SK163 土坑完掘全景（北から）



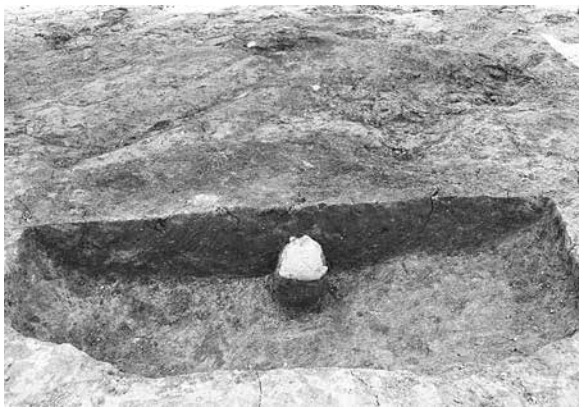
SK163 土坑断面（北から）

SK164 土坑完掘全景（西から）



SK164 土坑断面（西から）

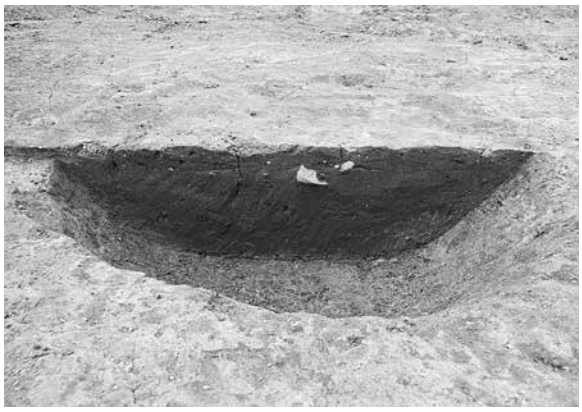
SK165 土坑完掘全景（南から）



SK165 土坑断面（東から）

写真図版 110　SK162 ～ 165 土坑

SK166 土坑完掘全景（南から）

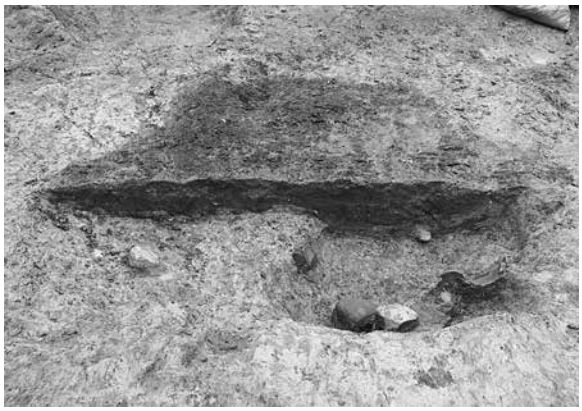


SK166 土坑断面（南から）

SK167 土坑完掘全景（南から）

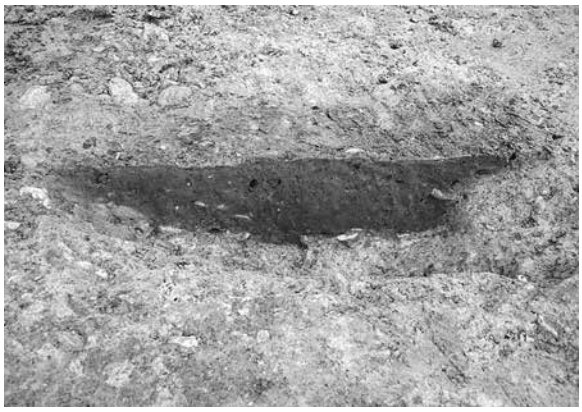
SK167 土坑断面（南から）

SK169 土坑完掘全景（南東から）



SK169 土坑断面（南東から）

SK170 土坑完掘全景（南から）

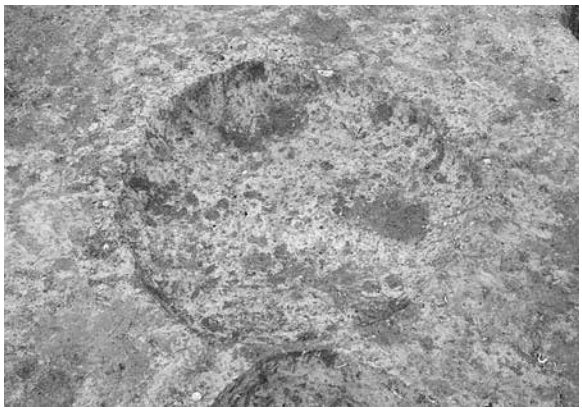


SK170 土坑断面（南東から）

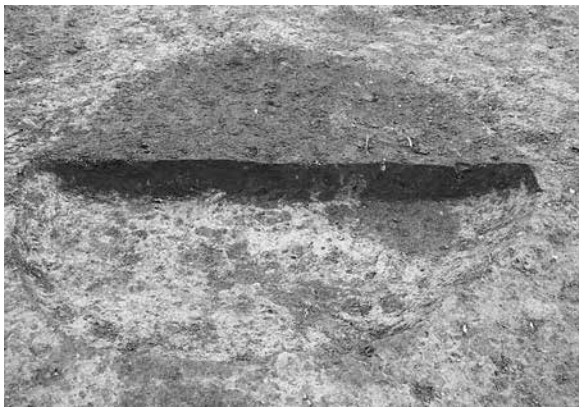
写真図版 111　SK166・167・169・170 土坑

SK171 土坑完掘全景（南から）

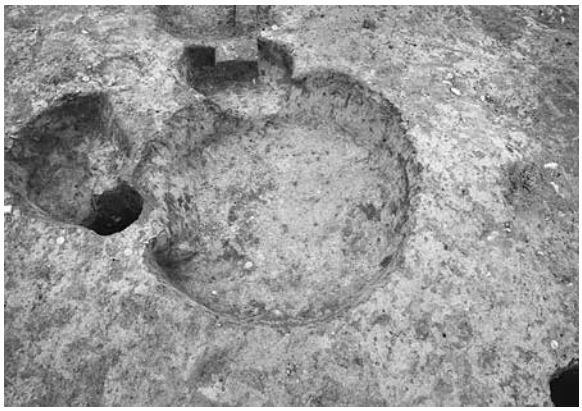
SK171 土坑断面（南から）



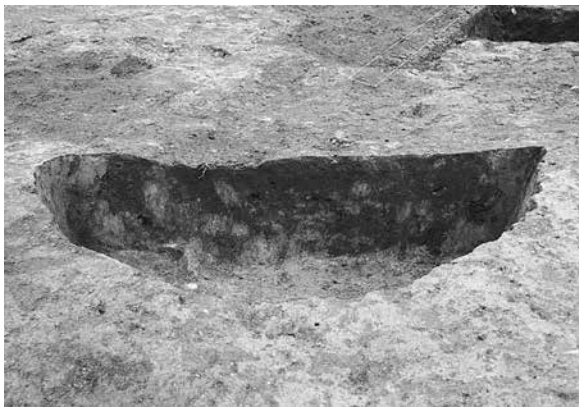
SK172 土坑完掘全景（南から）



SK172 土坑断面（南から）

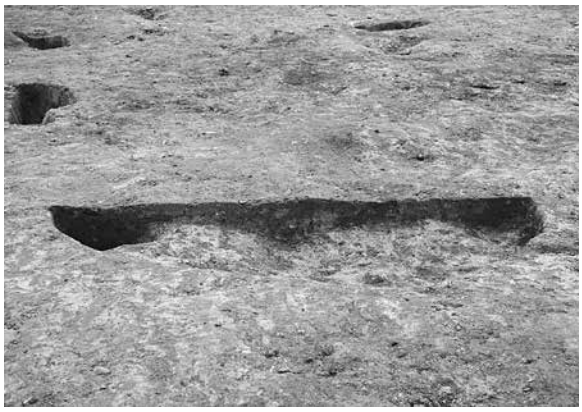


SK173 土坑完掘全景（南から）



SK173 土坑断面（南から）

SK174 土坑完掘全景（西から）



SK174 土坑断面（西から）

写真図版 112　SK171 ～ 174 土坑

SK175 土坑完掘全景（西から）

SK175 土坑断面（西から）

SK176 土坑完掘全景（南から）

SK176 土坑断面（南から）

SK176 土坑礫検出状況（南から）

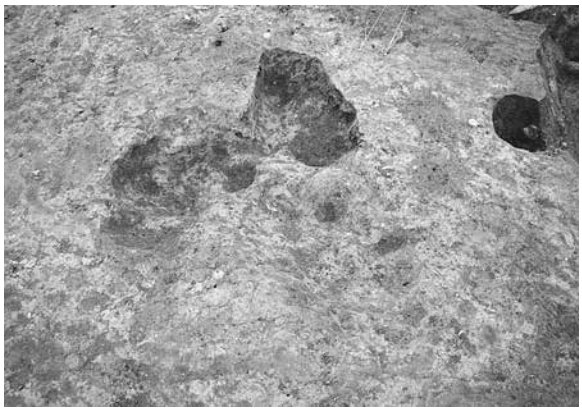
SK177 土坑完掘全景（西から）

SK177 土坑断面（西から）

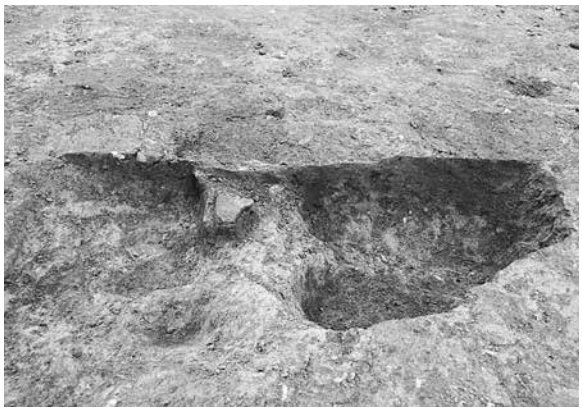
SK178 土坑完掘全景（東から）

写真図版 113　SK175 ～ 178 土坑

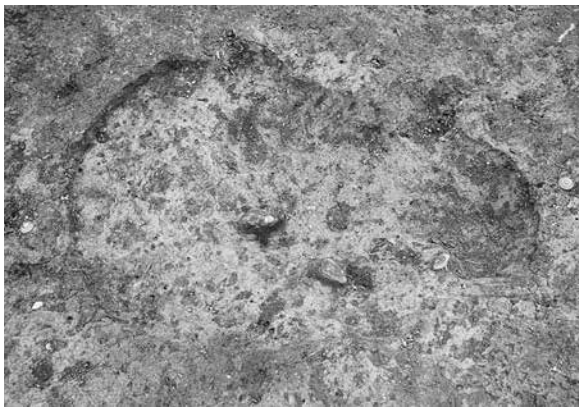
SK178 土坑断面（東から）



SK179 土坑完掘全景（西から）



SK179 土坑断面（南西から）



SK180 土坑完掘全景（西から）

SK180 土坑断面（西から）

SK181 土坑完掘全景（東から）

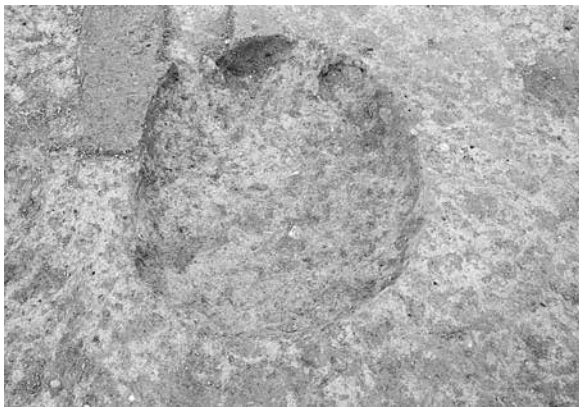
SK181 土坑断面（東から）

SK181 土坑遺物出土状況（東から）

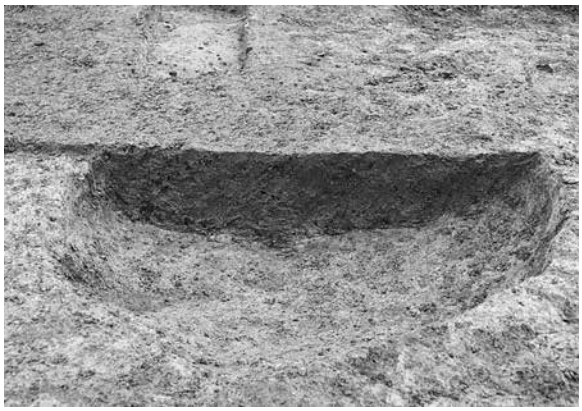
写真図版 114　SK178 ～ 181 土坑

SK182 土坑完掘全景（南から）

SK182 土坑断面（南から）



SK183 土坑完掘全景（南から）



SK183 土坑断面（南から）

SK184 土坑完掘全景（南から）

SK184 土坑断面（南から）

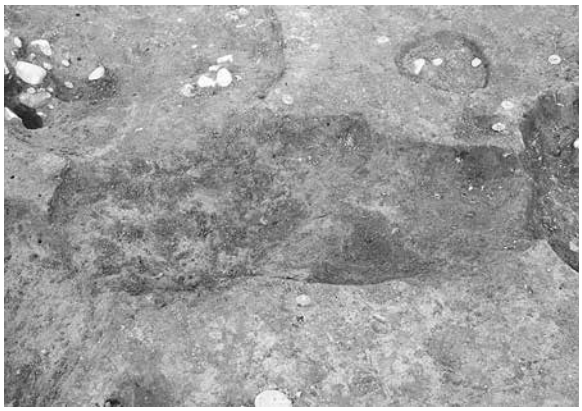
SK185 土坑完掘全景（南から）

SK185 土坑断面（南から）

写真図版 115　SK182 ～ 185 土坑

SK186 土坑完掘全景（南から）

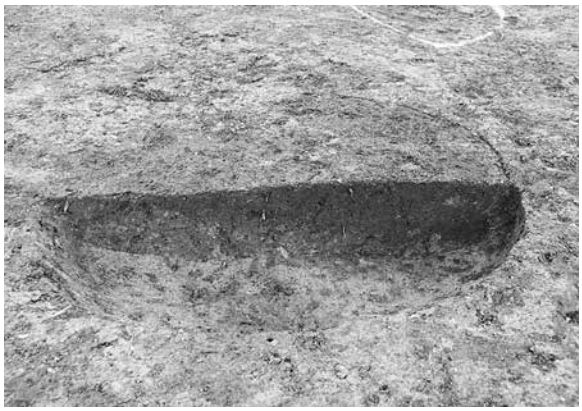
SK186 土坑断面（南から）



SK187 土坑完掘全景（西から）

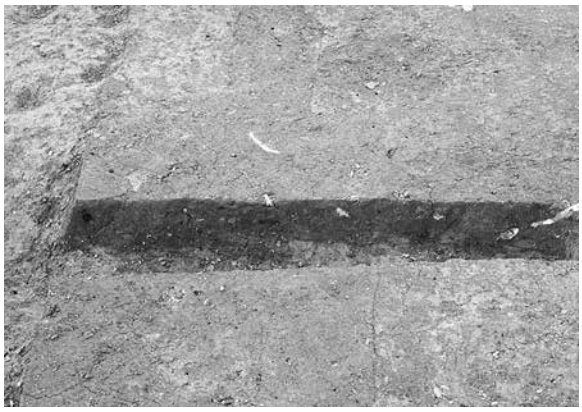
SK187 土坑断面（南から）

SK188 土坑完掘全景（南から）



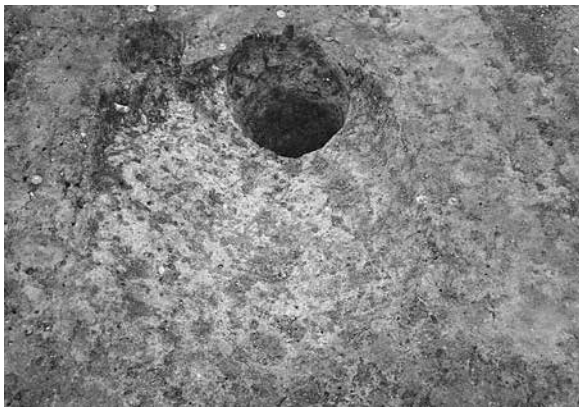
SK188 土坑断面（南から）

SK189 土坑完掘全景（西から）

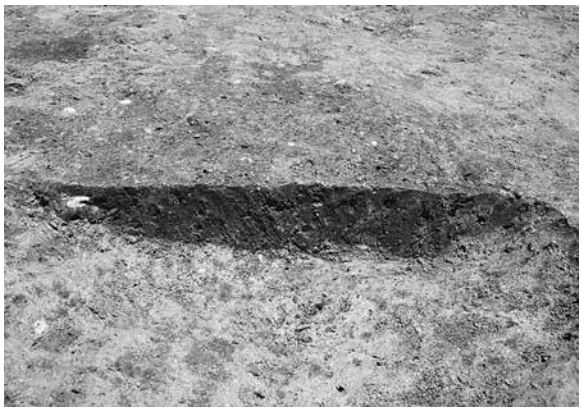


SK189 土坑断面（西から）

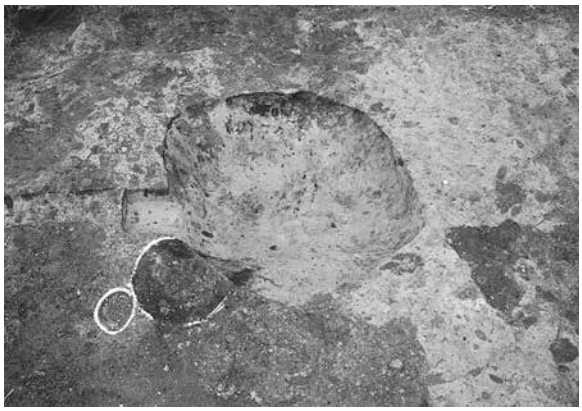
写真図版 116　SK186 ～ 189 土坑



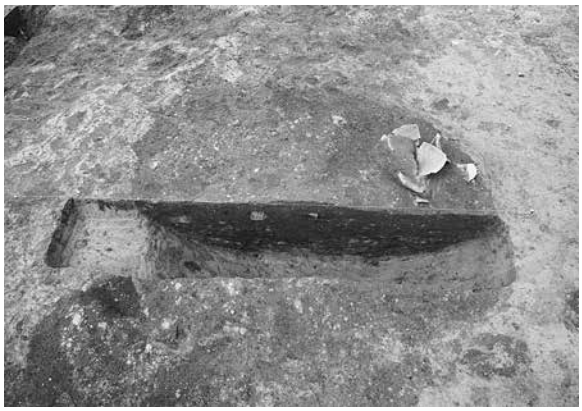
SK190 土坑完掘全景（南から）



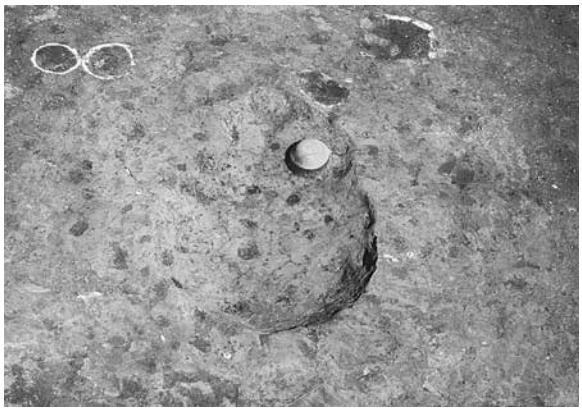
SK190 土坑断面（南から）



SK191 土坑完掘全景（南から）



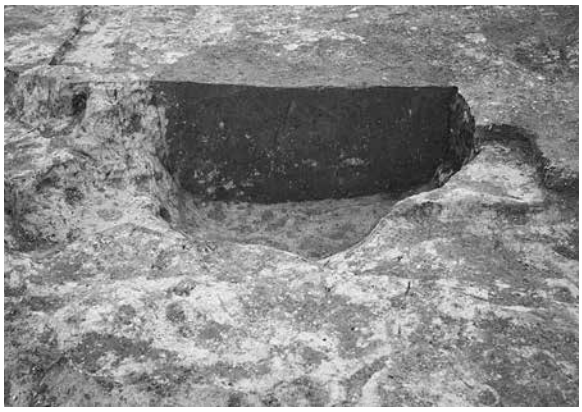
SK191 土坑断面（南から）



SK192 土坑完掘全景（西から）

SK192 土坑断面（西から）

SK193 土坑完掘全景（西から）



SK193 土坑断面（西から）

写真図版 117　SK190 ～ 193 土坑

SK195 土坑完掘全景（東から）

SK195 土坑断面（東から）

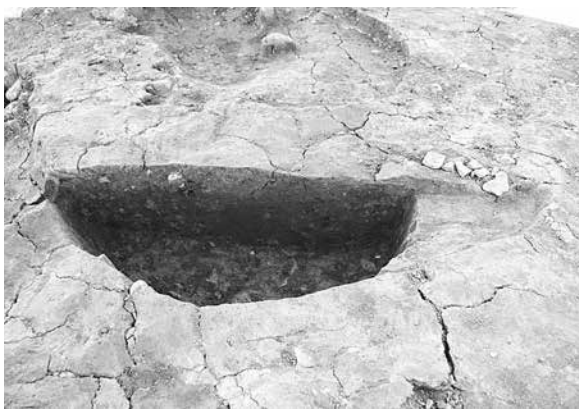
SK196 土坑完掘全景（西から）

SK196 土坑断面（西から）

SK198 土坑完掘全景（南西から）

㉔区調査区境土層（西から）

SK211 土坑完掘全景（南から）



SK211 土坑完掘全景（東から）

写真図版 118　SK195・196・198・211 土坑

㉔区近世～近代墓群全景（西から）

近世～近代墓 1

近世～近代墓 2

近世～近代墓 3

近世～近代墓 4

写真図版 119　㉔区近世～近代墓（1）

近世～近代墓 5

近世～近代墓 6

近世～近代墓 7

近世～近代墓 8

近世～近代墓 9

近世～近代墓 10

近世～近代墓 11

近世～近代墓 12

写真図版 120　㉔区近世～近代墓（2）

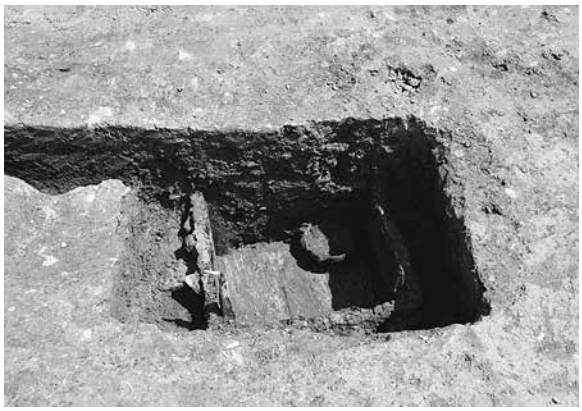
近世～近代墓 13

近世～近代墓 14

近世～近代墓 15

近世～近代墓 16

近世～近代墓 17



近世～近代墓 18

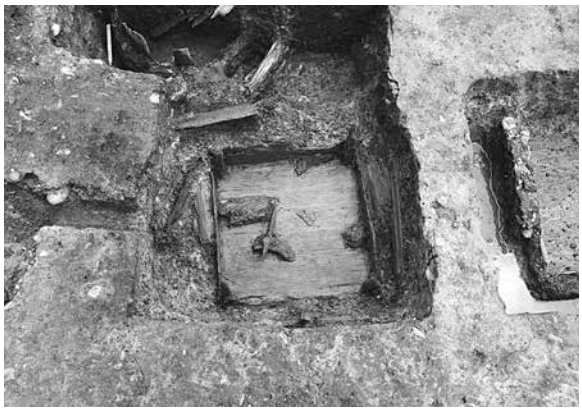
近世～近代墓 19

近世～近代墓 20

写真図版 121　㉔区近世～近代墓（3）

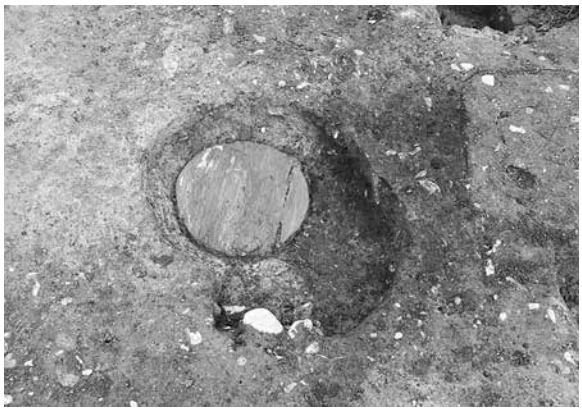
近世～近代墓 21

近世～近代墓 22

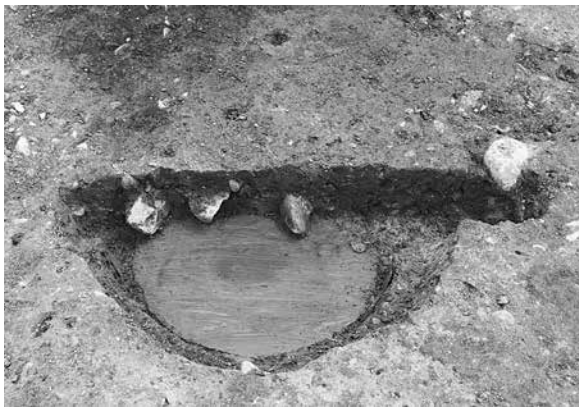


近世～近代墓 23

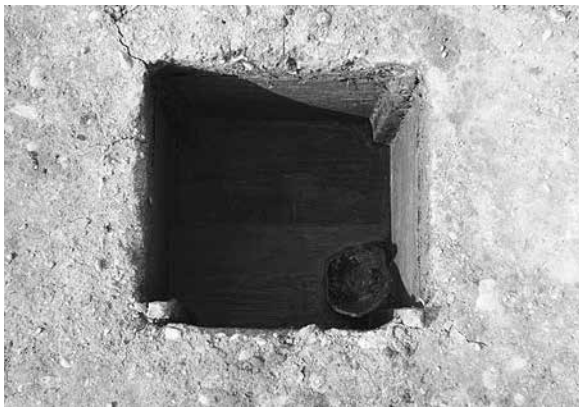
近世～近代墓 24



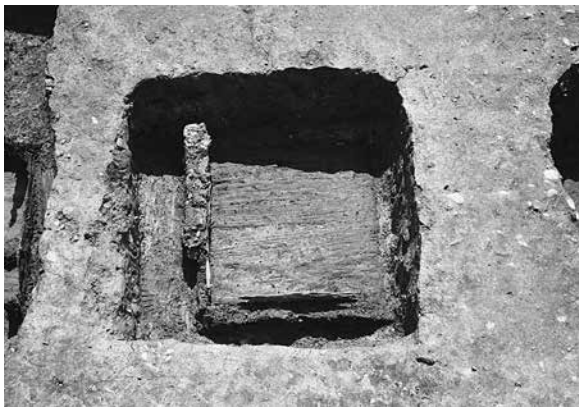
近世～近代墓 25



近世～近代墓 26



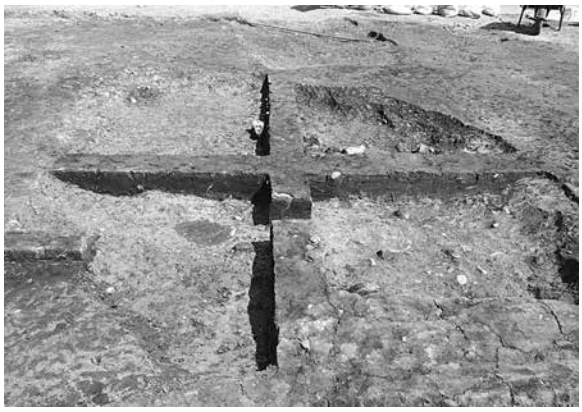
近世～近代墓 27



近世～近代墓 28

写真図版 122　㉔区近世～近代墓（4）

SX24 不明遺構完掘全景（南から）



SX24 不明遺構断面（西から）

SX27 不明遺構完掘全景（東から）

SX27 不明遺構Ａ－Ａ’断面（東から）

SX24 不明遺構Ｂ－Ｂ’断面（南から）

写真図版 123　SX24・27 不明遺構

SX27 不明遺構Ｐ 5 断面（南から）

SX27 不明遺構Ｐ 6 断面（南東から）

SX27 不明遺構Ｐ 7 断面（南東から）

SX27 不明遺構作業風景

SX28 土取り穴完掘全景（西から）

SX28 土取り穴断面（西から）

SX28 土取り穴遺物出土状況（西から）

SX28 土取り穴完掘全景（西から）

写真図版 124　SX27 不明遺構・SX28 土取り穴

SX 29 不明遺構完掘全景（北から）

SX 29 不明遺構埋設土器（北西から）

SX 30 不明遺構完掘全景（南から）

SX 30 不明遺構断面（南から）

SX 30 不明遺構作業風景

SX 31・32 不明遺構平面（西から）

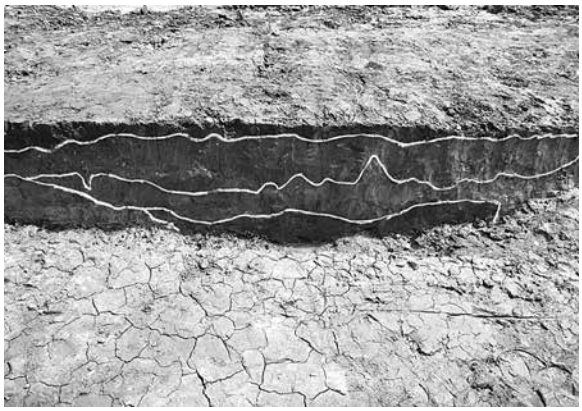
SX 31 不明遺構断面（西から）

SX 32 不明遺構断面（西から）

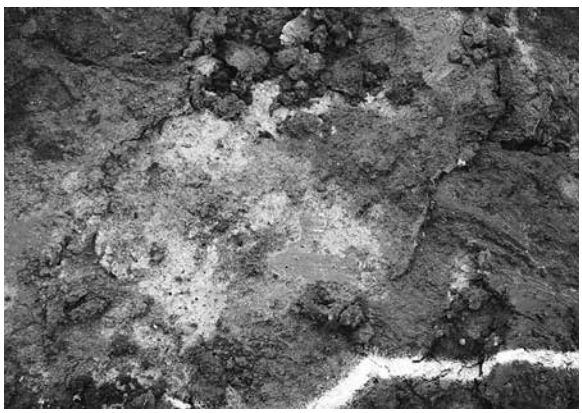
写真図版 125　SX29 ～ 32 不明遺構

⑱区旧河道断面（北から）

⑱区旧河道断面（北東から）



⑱区旧河道断面（北から）



⑱区旧河道上面十和田ａ火山灰検出

⑱区旧河道作業風景

写真図版 126　旧河道

②区作業風景

②区作業風景

⑧区調査風景

⑧区調査風景

㉔区試掘作業

㉔区作業風景

㉔区試掘作業

古城林遺跡推定される中心部

写真図版 127　作業風景

現地説明会

現地説明会

現地説明会

現地説明会

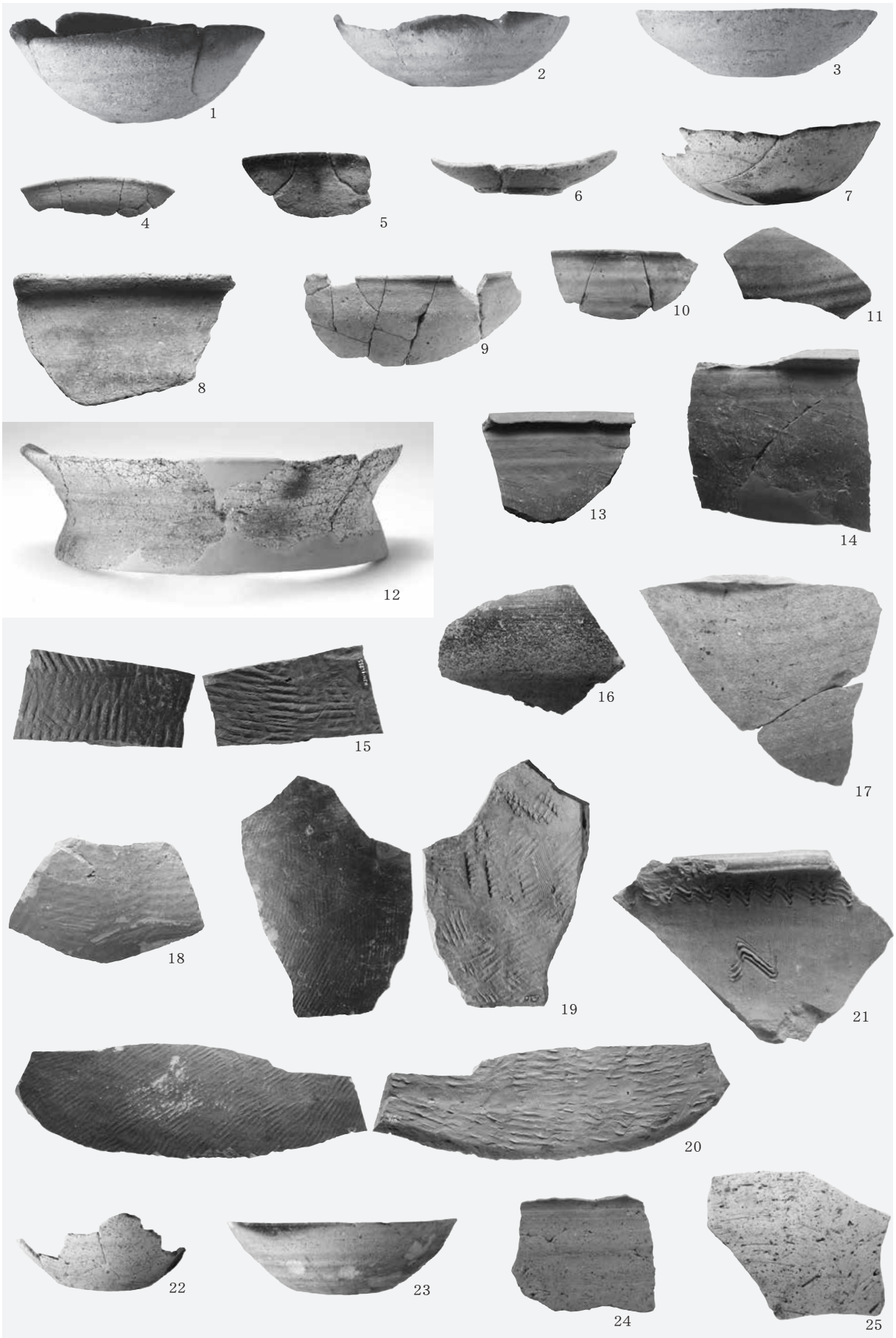
現地説明会

現地説明会

現地説明会

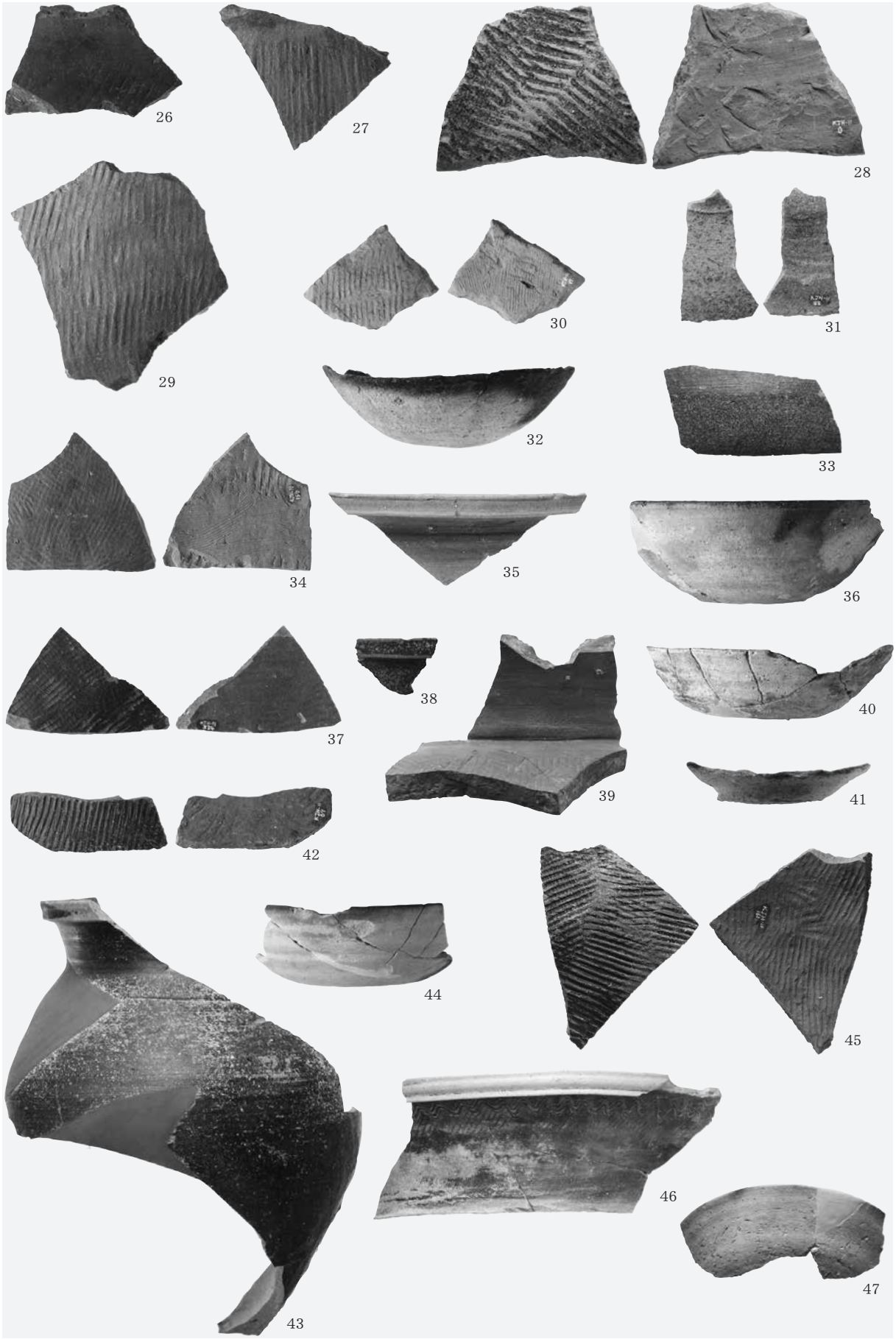
現地説明会

写真図版 128　現地説明会



S≒1/3

写真図版 129　遺物 (1)

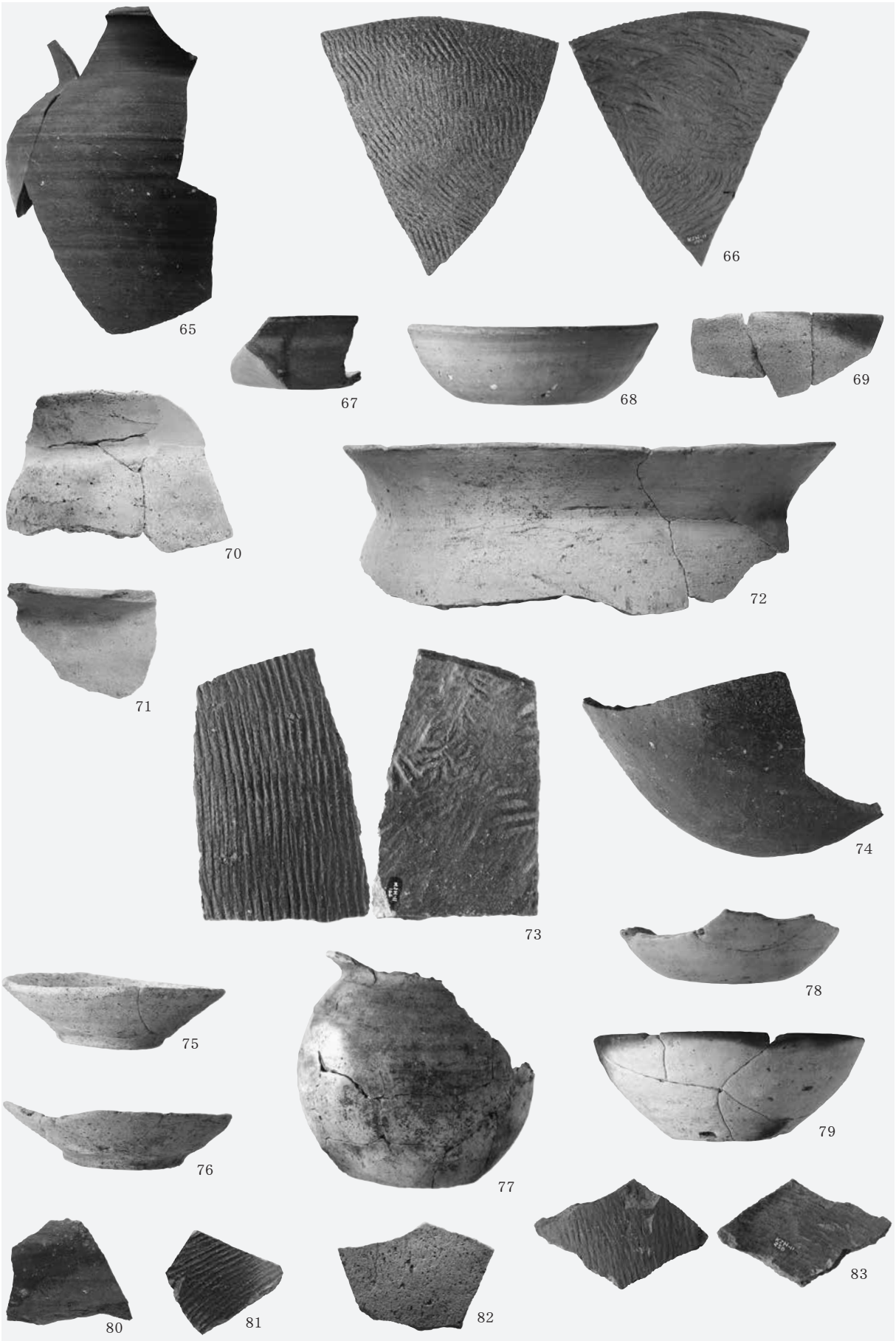


S≒1/3

写真図版 130　遺物 (2)

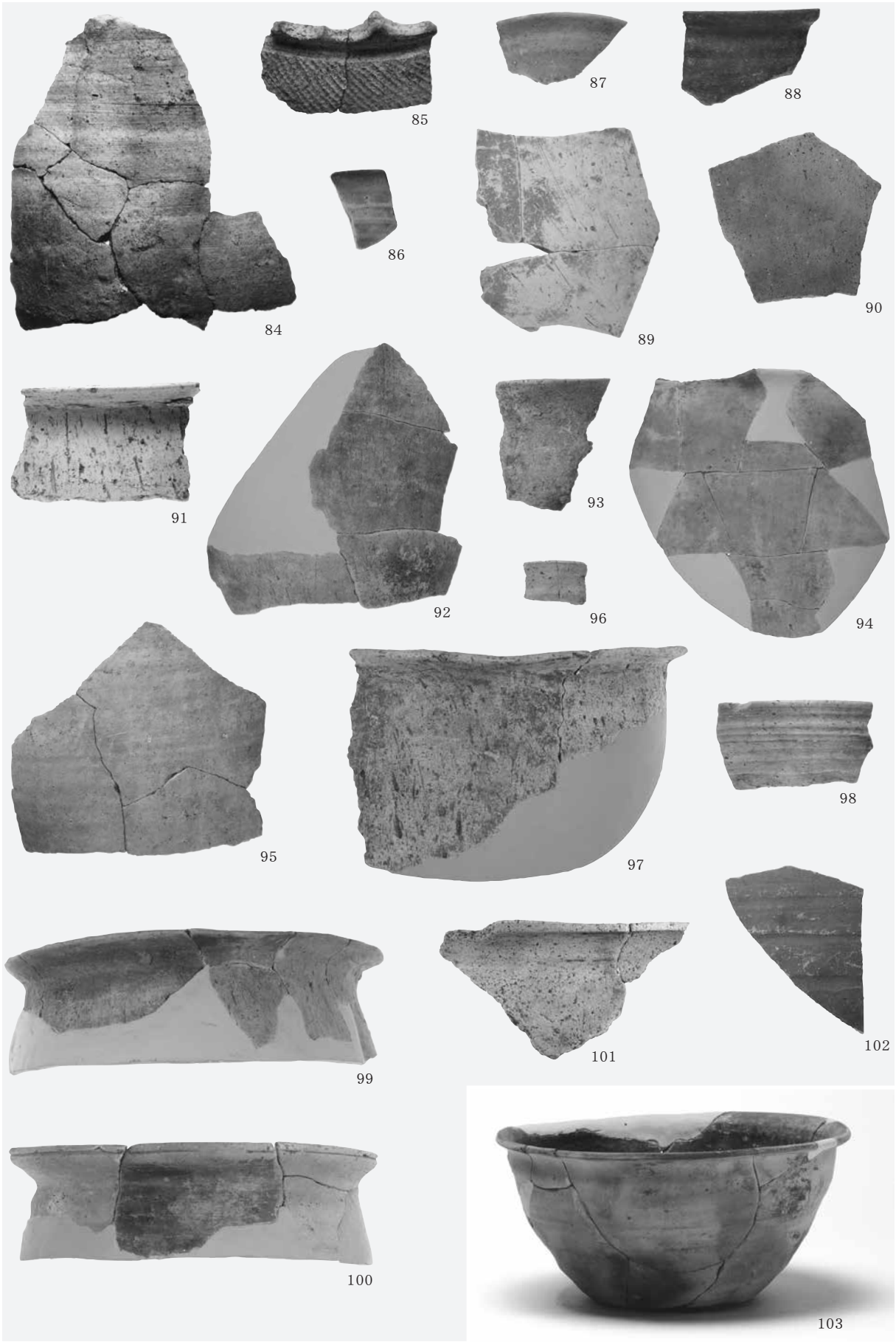
S≒1/3

写真図版 131　遺物 (3)



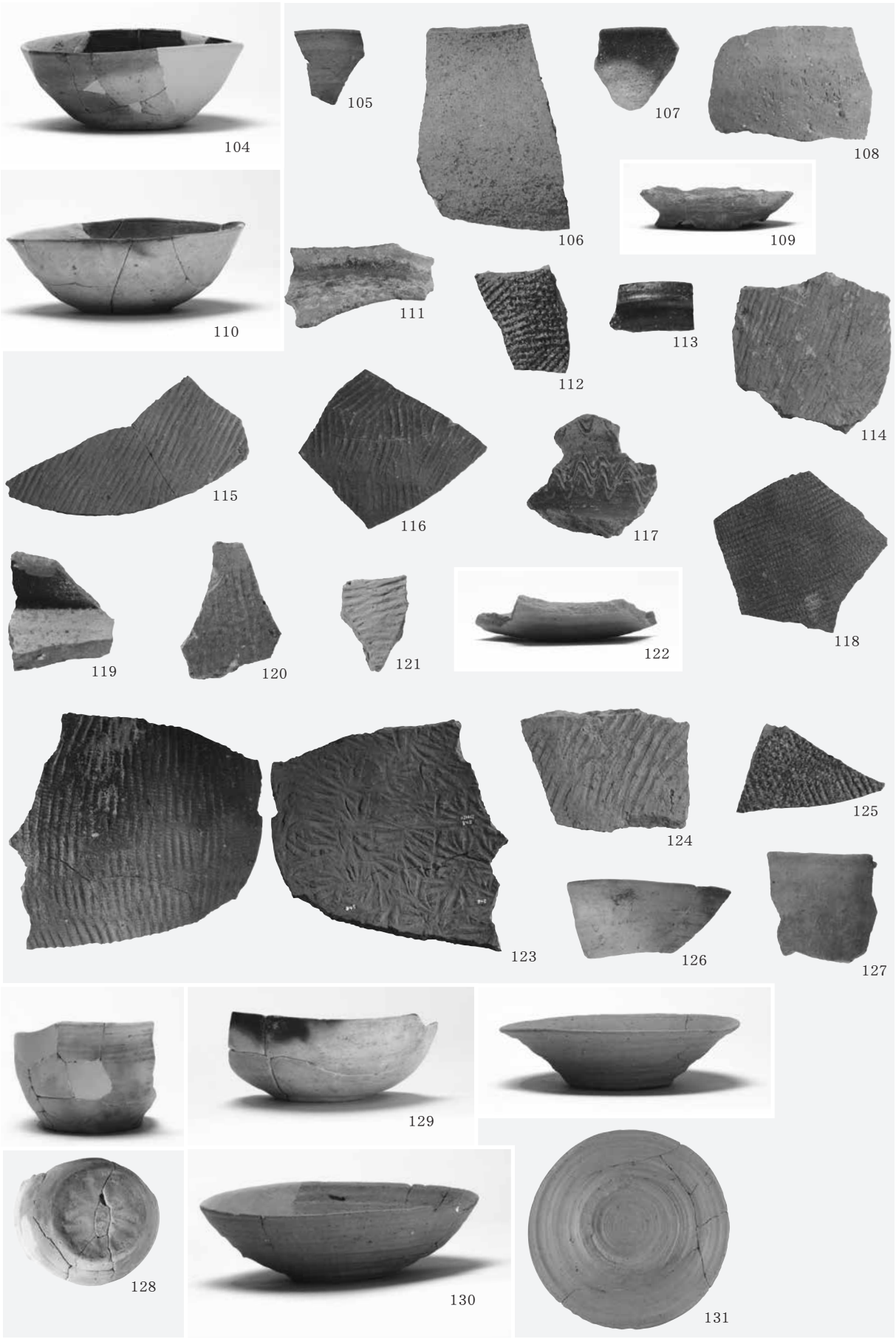
S≒1/3

写真図版 132　遺物 (4)



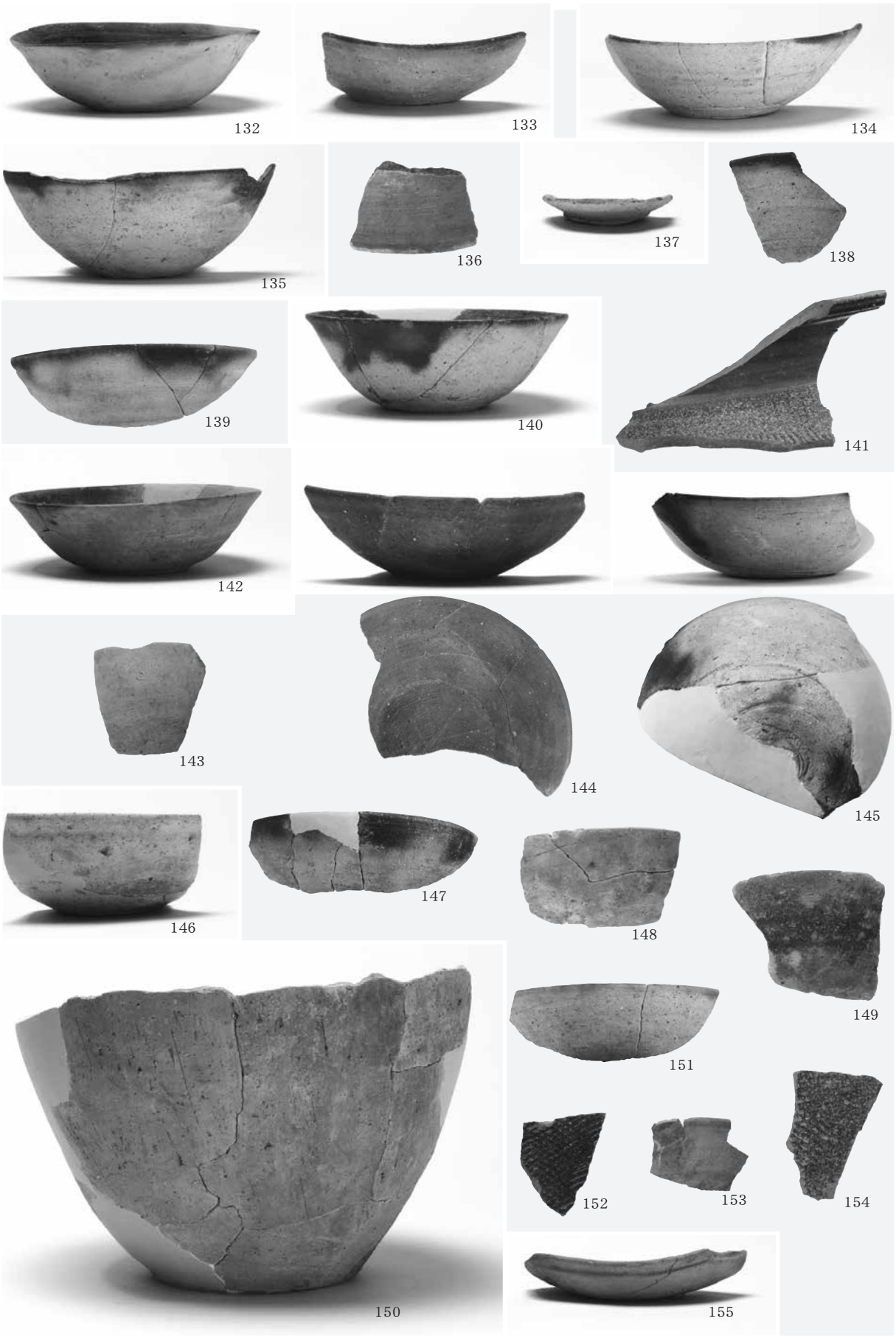
S≒1/3

写真図版 133　遺物 (5)



S≒1/3

写真図版 134　遺物 (6)

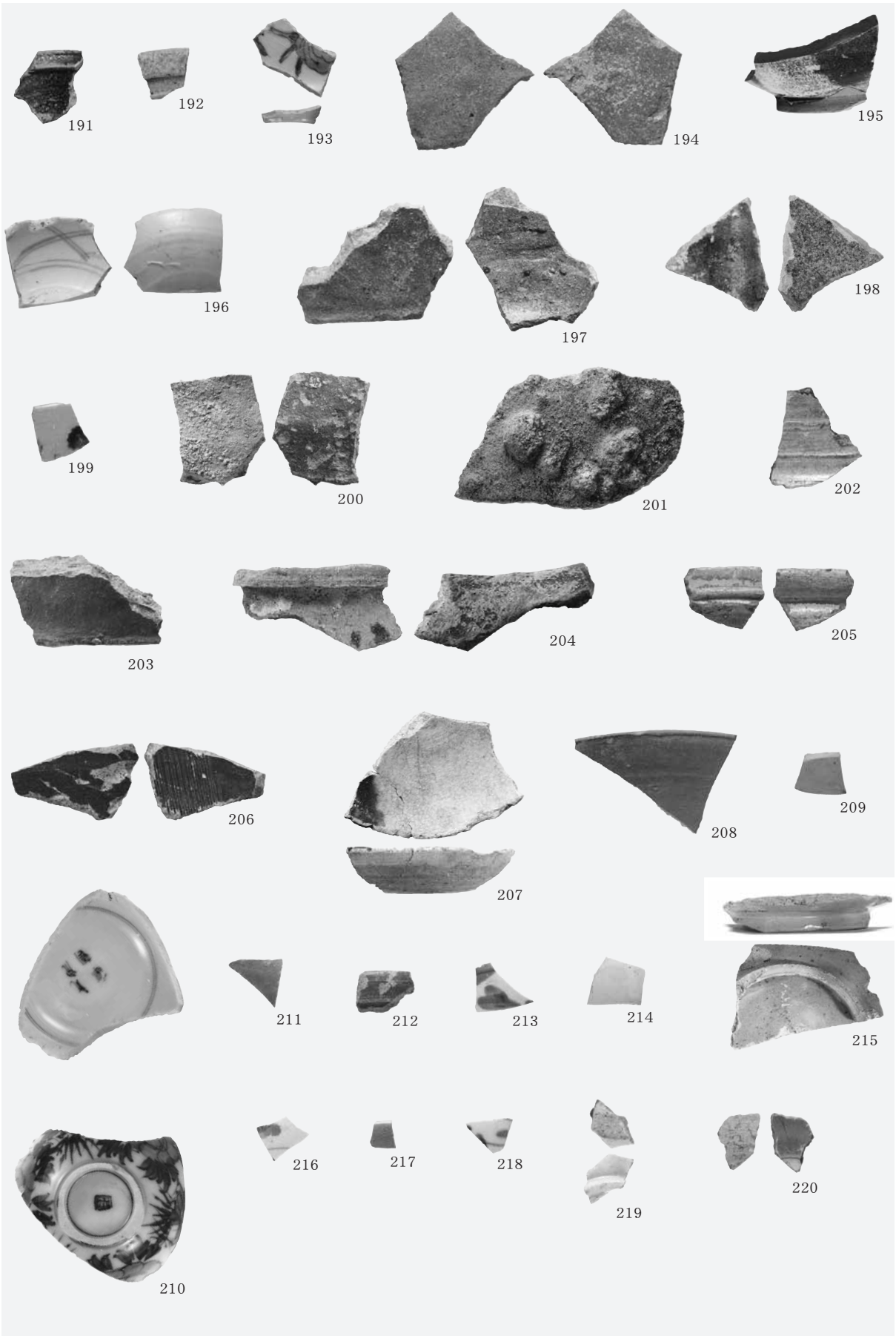


S≒1/3

写真図版 135　遺物 (7)

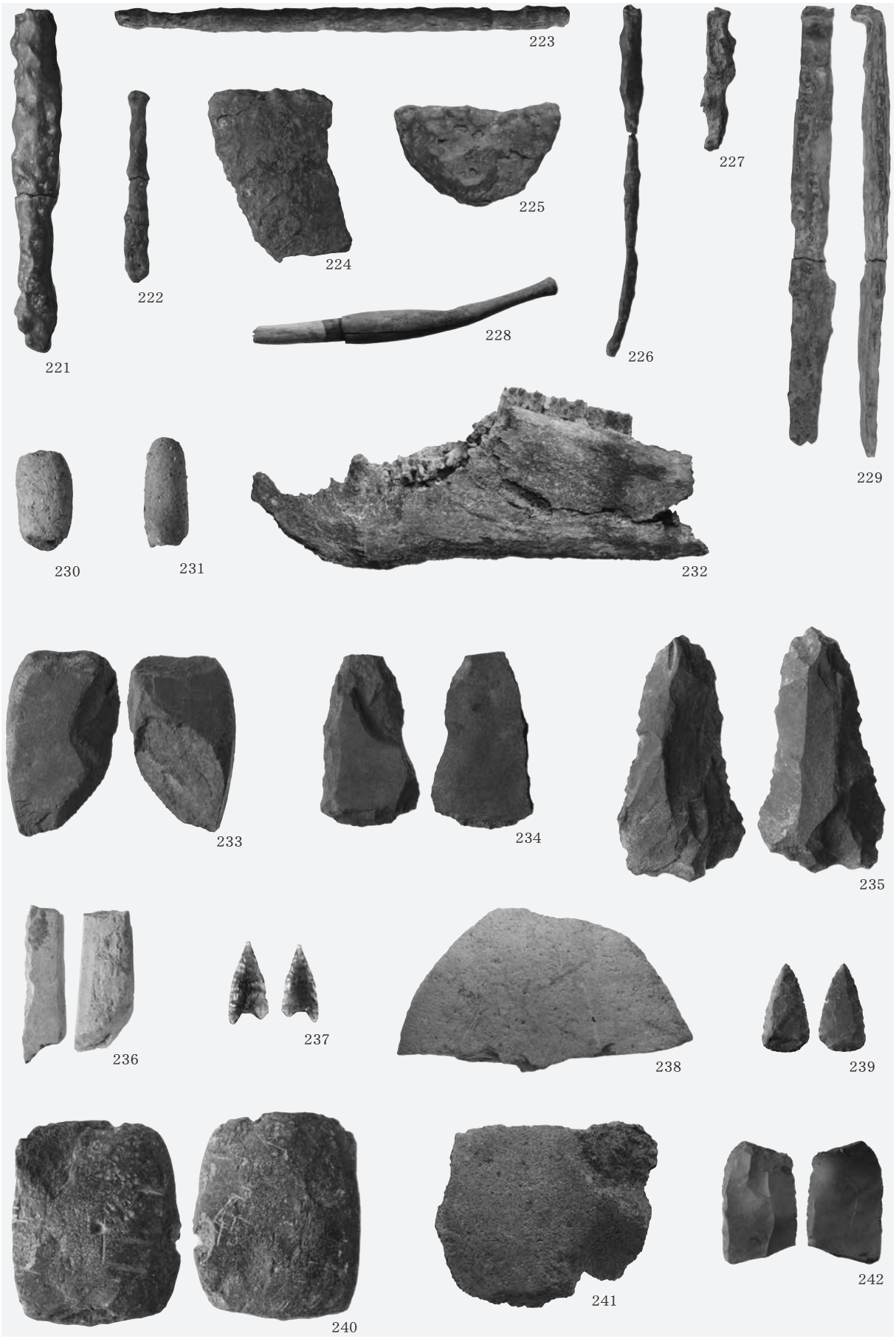
S≒1/3

写真図版 136　遺物 (8)



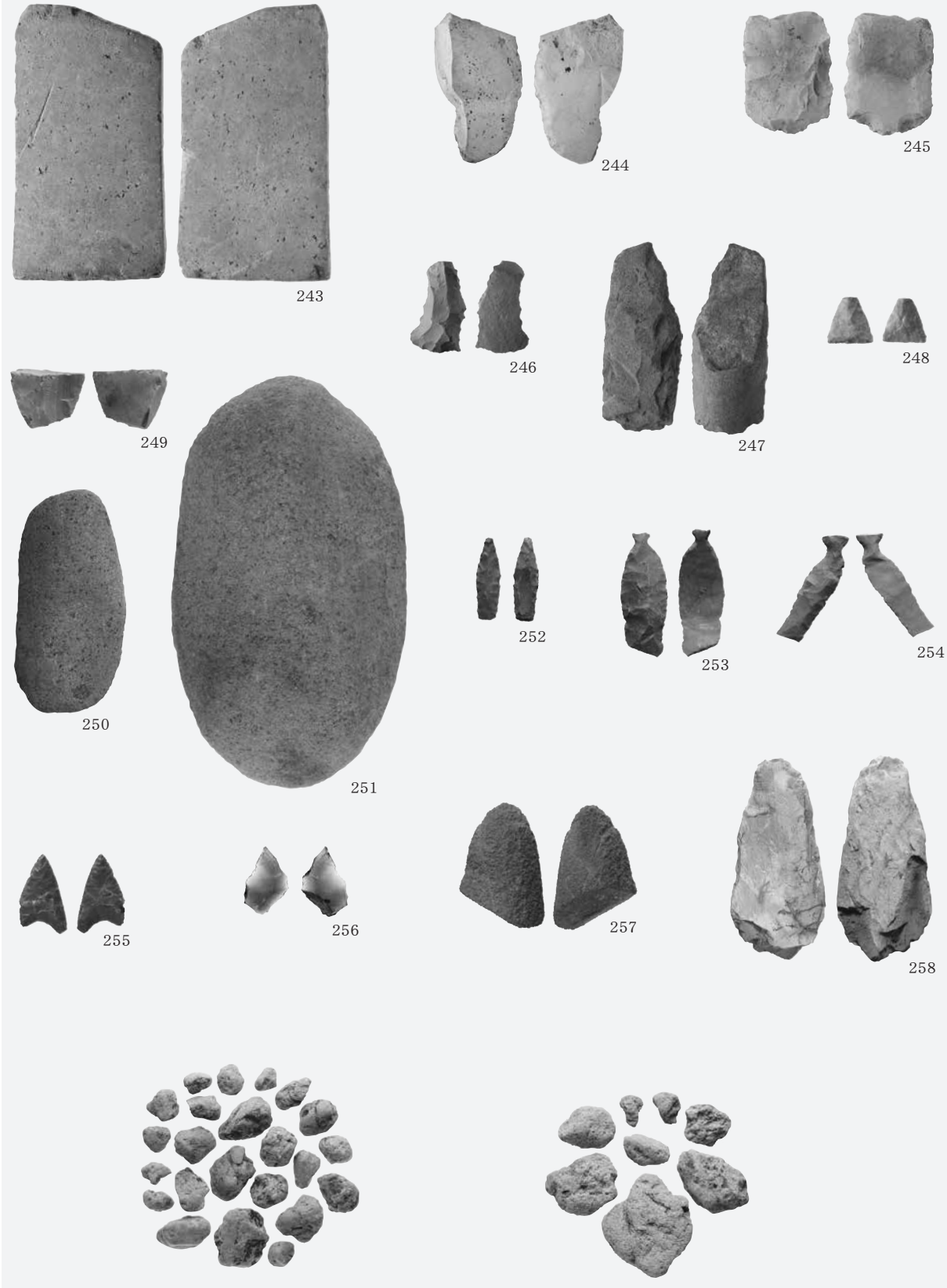
S≒1/3

写真図版 137　遺物 (9)



S≒1/3　写真№221～231：S≒1/4

写真図版 138　遺物 (10)



S≒1/3

写真図版 139　遺物 (11)

報 告 書 抄 録

ふりがな	はったんちょう・こじょうはやしいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	八反町・古城林遺跡発掘調査報告書
副書名	経営体育成基盤整備事業古城２期地区関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第627集
編著者名	星　雅之　杉沢昭太郎　村木　敬　藤本玲子　髙橋麻依子　佐藤奈津季　丸山直美
編集機関	公益財団法人　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　　TEL（019）638-9001
発行年月日	西暦2014年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
はったんちょういせき 八反町遺跡	いわてけんおうしゅうし まえさわくこじょうあざ しんざんまえ 岩手県奥州市 前沢区古城字 新山前150ほか	03215	NE46-0365	39度 08分 00秒	141度 05分 00秒	2011.04.25 ～ 2011.12.02 2012.04.09 ～ 2012.05.18	499㎡ 470㎡	経営体育成基盤整備事業古城２期地区
こじょうはやしいせき 古城林遺跡	いわてけんおうしゅうし まえさわくこじょうあざ はやしうしろ 岩手県奥州市 前沢区古城字 林後126ほか		NE36-2379	39度 08分 00秒	141度 05分 00秒	2011.04.25 ～ 2011.12.02	14,558㎡	
						2012.04.09 ～ 2012.07.31	5,293㎡	

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八反町遺跡	集落跡	古代	掘立柱建物跡２棟、溝跡３条、土坑２基	土師器、須恵器、鉄製品	
		中近世	竪穴状遺構２基		
		近世～現代	溝跡２条		
古城林遺跡	集落跡	縄文	陥し穴43基	縄文土器（晩期）、石器、黒曜石	溝状と円形・楕円形基調の２タイプの陥し穴が検出された。
		古代	竪穴住居跡６棟（古代）、掘立柱建物跡８棟、溝跡48条､井戸跡７基、土坑74基、土取り穴５基、不明遺構９基	土師器、須恵器、土錘、鉄製品	平安時代９世紀前半～11世紀To-aテフラ検出
		12世紀	掘立柱建物跡２棟、溝跡５条、井戸跡３基、土坑１基、不明遺構１基	手づくねかわらけ、常滑、渥美	南北棟の建物跡、馬下顎骨出土の井戸跡。
		中世	竪穴建物跡２棟、竪穴状遺構１基、掘立柱建物跡56棟、墳墓１基、堀跡２条､溝跡41条、土坑21基、カマド状遺構１基、不明遺構５基（古代～中世含む）	瀬戸・美濃、青磁碗	大小の建物跡と墳墓などから成る中世前期頃の地方武士屋敷。

		近世～近代・時期不明	掘立柱建物跡1、柱穴列4基、溝跡21条、井戸跡1基、土坑18基、近代墓29基、畝間状遺構2箇所、不明遺構2基、柱穴状土坑3,563基（概ね古代～近世と推定される）。	肥前産・瀬戸美濃産の陶器、陶磁器	
要約	八反町遺跡と古城林遺跡は、奥州市前沢区古城地区に所在する。古城林遺跡は、旧林Ⅰ遺跡と林Ⅱ遺跡を合体し、さらに周辺地域を含めて新規登録された遺跡である。調査の結果、古代（平安時代）及び中世を中心に、縄文時代や12世紀、近世～近代にいたる多数の遺構が検出された。縄文時代においては、円形・楕円形を基調とする陥し穴が限られた空間に密集し検出された。平安時代は、竪穴住居跡は6棟の検出に留まるが、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡、土取り穴などが検出された。出土土器から、9世紀前半～11世紀まで長期に亘る遺跡と考えられる。12世紀は、遺構・遺物共に断片的な資料であったが、奥州藤原氏と関係することが分かった。中世は、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、墳墓、堀跡などが検出された。今回の調査成果から遺跡全域に広がると推定される。検出された柱穴状土坑は総数で3,563基（古代～近世と推定される）で、その配置関係から、多くの掘立柱建物跡を復元でき、また大規模な墳墓の検出は調査成果として特記事項の一つである。			

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 627 集

八反町・古城林遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業古城 2 期地区関連遺跡発掘調査

印　刷　平成 26 年 3 月 22 日

発　行　平成 26 年 3 月 25 日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話（019）638-9001

発　行　岩手県県南広域振興局農政部農村整備室
〒023-1111　岩手県奥州市江刺区大通り 7 － 13
電話（0197）35-8440
（公財）岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話（019）654-2235

印　刷　永代印刷株式会社
〒020-0857　岩手県盛岡市北飯岡 1 丁目 8 － 30
電話（019）636-0011

© （公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2014